

第3節 2区の遺構と遺物

1 竪穴住居

2区では欠番を除いて96軒の竪穴住居を検出した。古墳時代は36軒で、飛鳥～平安時代が56軒とやや多い。古墳～平安時代ながら時期不詳が4軒であった。分布は調査区全体に及ぶが、17号溝を境にして西側は少なく、17号溝の東側周辺は掘立柱建物が集中するため、竪穴住居はそれを避けて点在している。

1号住居(第379図、P L.143)

位置 86M・N-13 **重複** 7・8号土坑より前出で、2号住居、6・23号土坑、32・33号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 北側が調査区域外となるが、長方形か。

主軸方位 N-60°-W

規模 面積4.92㎡ 長軸3.6m、短軸(2.0)m 残存壁高16cm

埋没土 埋没土にロームブロックが目立つが、重複により観察できた部分が少なく、埋没状況不詳。

カマド 東辺の南東隅近くに設ける。遺存状態が悪い。燃烧部は住居内にあったとみられ、7号土坑の重複により消滅する。煙道部は長さ32cm最大幅30cm、深さ10cmである。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 確認できなかった。完掘状態は掘り方と思われる。

掘り方 床面が確認できなかったため、掘り方の深さは不明。

遺物 埋没土から須恵器椀(1)、土師器甕(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品245g・同小型品55g、須恵器大型品4片が出土している。

時期 出土遺物から10世紀中頃かと考えられる。

2号住居(第379図、P L.143・144)

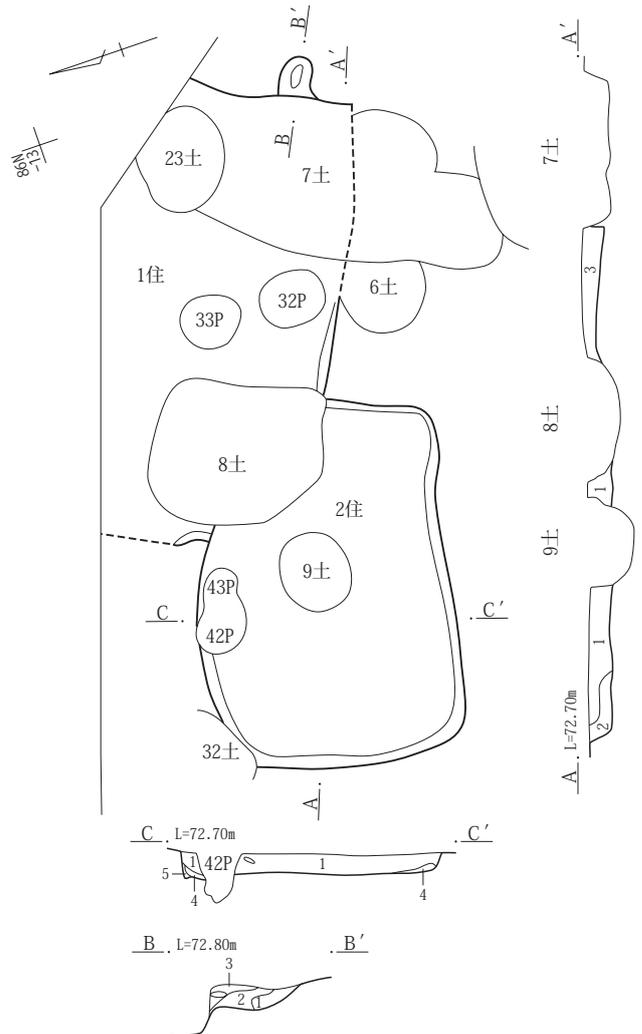
位置 86M・N-13 **重複** 8・9号土坑、42・43号ピットより前出。 **形態** 長方形

主軸方位 N-69°-W

規模 面積4.12㎡ 長軸2.94m、短軸2.05m 残存壁高6～22cm

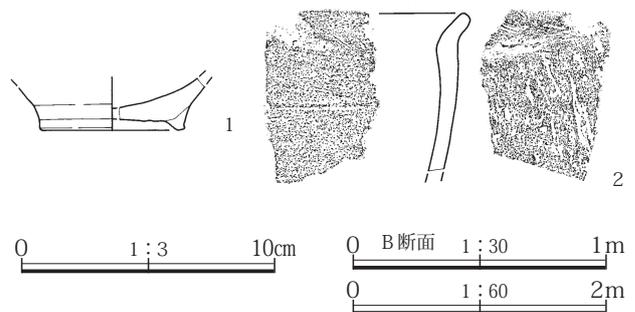
埋没土 埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。



カマド

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム小ブロックやや多量、ローム粒子多量、炭化物微量に含む。 | 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。 |
| 2 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム小ブロックやや多量、ローム粒子多量に含む。 | 2 黒褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム小ブロック少量、炭化物・灰微量に含む。 |
| 3 暗褐色土 やや砂質。しまる。ローム小ブロックやや多量、焼土粒子微量に含む。 | 3 褐色土 しまり粘性なし。焼土大ブロック・炭化物多量に含む。天井崩落土。 |
| 4 黒褐色土 しまり粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。 | |
| 5 黒褐色土 ややしまり粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。 | |



第379図 2区1・2号住居と出土遺物

床 貼り床、硬化面は確認できないが、地山面は平坦で掘り方はほとんど認められない。

遺物 S字甕5片を含む土師器大型品9片・同小型品40gが出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

3号住居(第380図、P L.144)

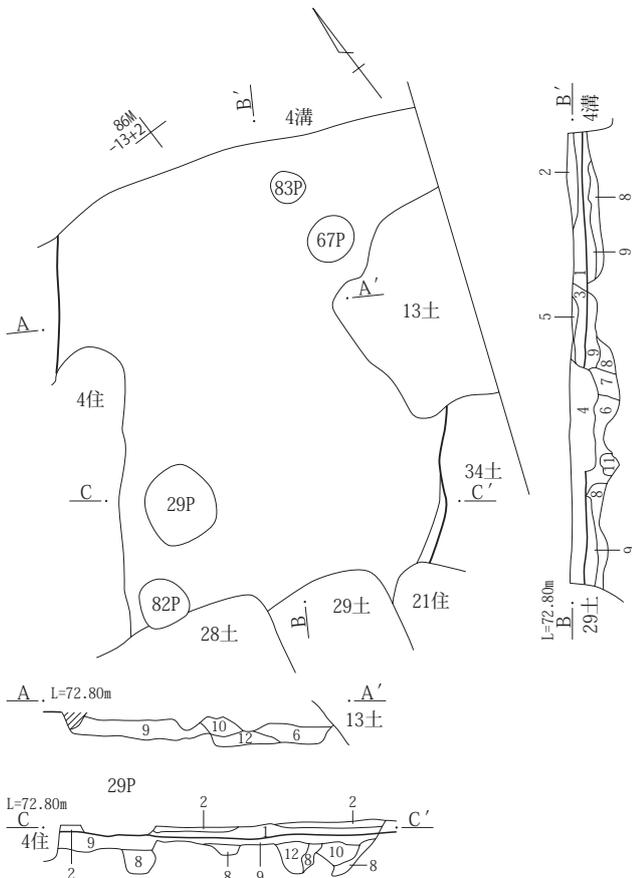
位置 86L-13 重複 4号住居、13・28・29号土坑、29号ピットより前出で、67・82・83号ピットと重複するが新旧関係不明。形態 重複が激しいが正方形に近い。主軸方位 N-44°-E

規模 面積8.72㎡ 長軸(4.1)m、短軸3.11m 残存壁高4~10cm

埋没土 埋没土4・5は浅間A軽石を含み、上層からの掘り込みとみられるが、遺構とは認識されておらず、攪乱に近い。残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 硬化範囲は不明確ながら全体に固くしまる。



- 1 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 2 黄褐色土+暗褐色土 堅くしまり、やや粘性あり。
- 3 暗褐色土 しまり粘性弱い。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。浅間A軽石・ローム粒子微量に含む。

第380図 2区3号住居

掘り方 全体にロームブロックが多く、特に上位に混入が目立つ。中央部が土坑状に25cm程度掘り込まれ、全体も10cm程度を掘り込まれ凸凹する。

遺物 S字甕70gを含む土師器大型品550g・同小型品95g、須恵器大型品5片・同小型品5片が出土している。北東部で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、コムギ種子、イヌビエ属種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

4号住居(第381・382図、P L.144・145・302)

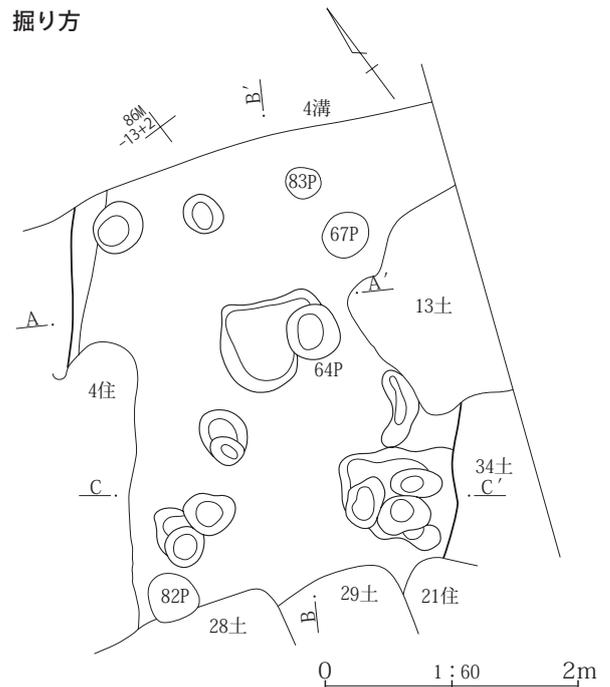
位置 86L・M-13・14 重複 3号住居より後出で、19・28号土坑、724・725号ピットより前出。40・62・63号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 長方形。主軸方位 N-28°-E

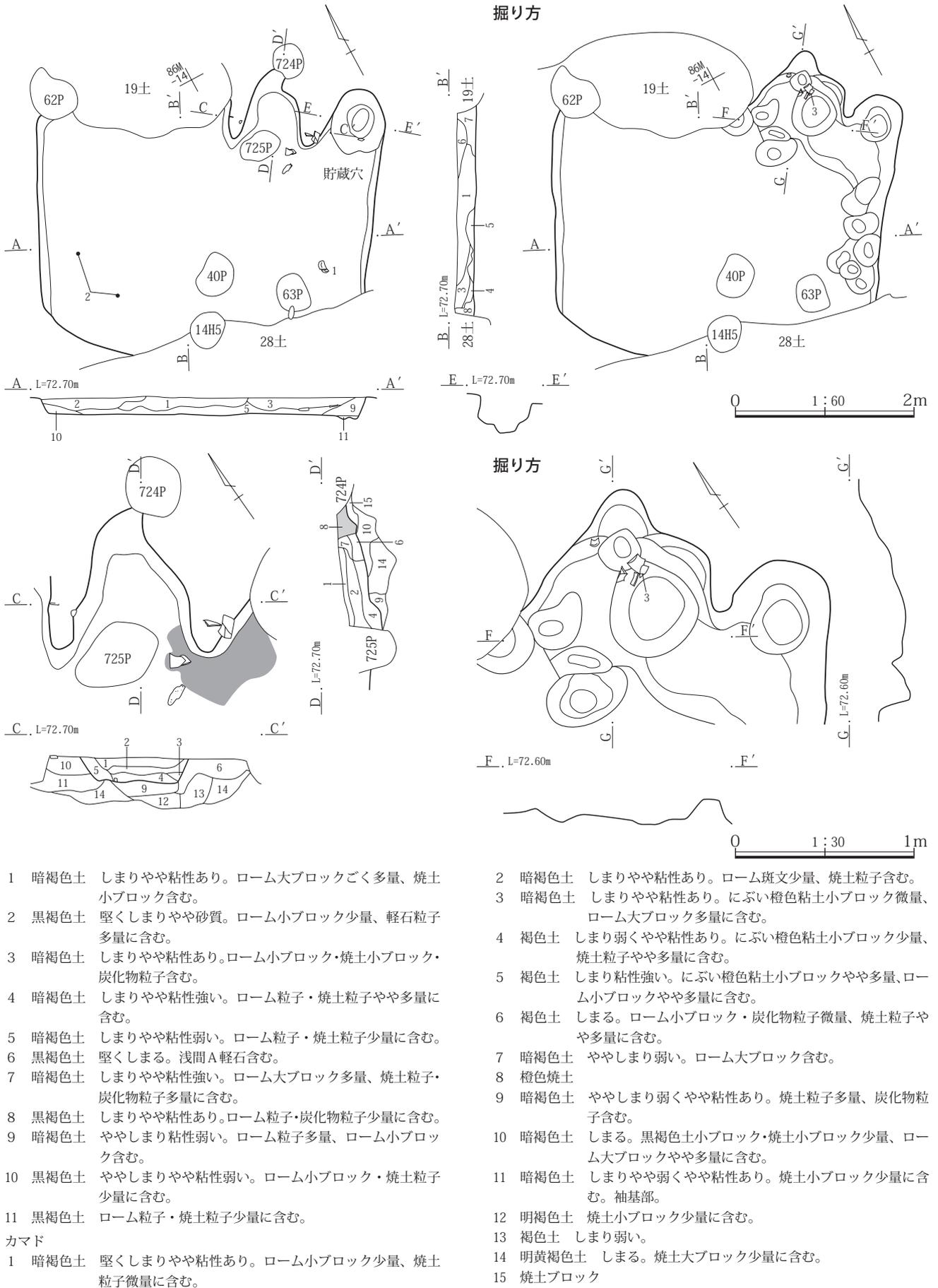
規模 面積8.01㎡ 長軸3.82m、短軸2.95m 残存壁高8~18cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体に自然埋没する。

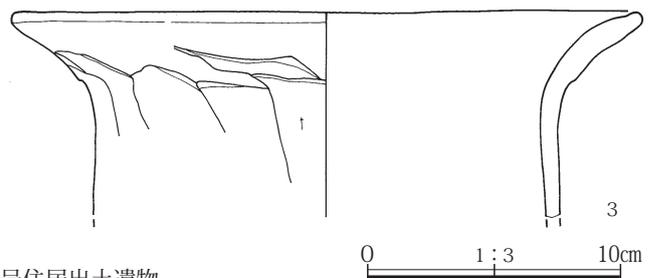
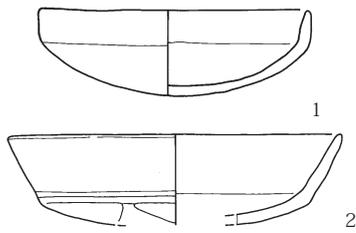
掘り方



- 5 暗褐色土 浅間A軽石多量に含む。
- 6 黒褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
- 7 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック多量に含む。
- 8 にぶい黄褐色土 堅くしまり粘性弱い。黒褐色土含む。
- 9 黒褐色土 堅くしまり粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、焼土粒子少量に含む。
- 11 ローム大ブロック
- 12 暗褐色土 しまりやや弱粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子少量に含む



第381図 2区4号住居



第382図 2区4号住居出土遺物

カマド 北辺の中央東寄りに設け、燃烧部を住居内に持つ。燃烧部奥壁周辺は著しく焼土化する。右袖周辺に炭が広がる。粘土を主体として両袖を構築する。全体規模は長さ92cm幅117cmで、袖焚口幅62cmで、確認面からの深さは14cmである。煙道部の規模は不明確。掘り方は燃烧部で20cm程度と深い。

貯蔵穴 北東隅に設ける。楕円形。規模は長径70cm短径60cm深さ33cmである。

柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できないが、地山面は平坦で、カマド周辺から東壁寄り部分を除き、掘り方はほとんど認められない。

掘り方 カマドから貯蔵穴まで溝状に掘り方がみられ、東壁寄りは浅く凸凹する。

遺物 床面で土師器杯(1・2)、掘り方で土師器甕(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1290g・同小型品330g、須恵器大型品90g・同小型品5片が出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、ダイズ属種子、コムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

重複 20号住居より後出で、30号土坑、2号溝より前出。
形態 重複により多くが消滅するため不明。

主軸方位 N-47°-E

規模 面積6.33㎡ 長軸(3.22)m、短軸(2.98)m 残存壁高32~38cm

埋没土 暗褐色土を主体として、壁際から自然埋没する。

カマド 南東隅近い南辺に設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部はあまり焼土がみられない。煙道部は細長く焼土化が著しい。カマド前面に若干炭が分布する。粘土を主体として両袖を構築する。全体規模は長さ183cm幅95cmで、燃烧部は長さ67cm、袖焚口幅52cmで、確認面からの深さは27cmである。煙道部は長さ116cm最大幅34cmである。掘り方は燃烧部で10cm程度である。

貯蔵穴 未検出。 **柱穴** 南西部で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm) P 1 : 50・37・29

床 貼り床、硬化面は確認できない。

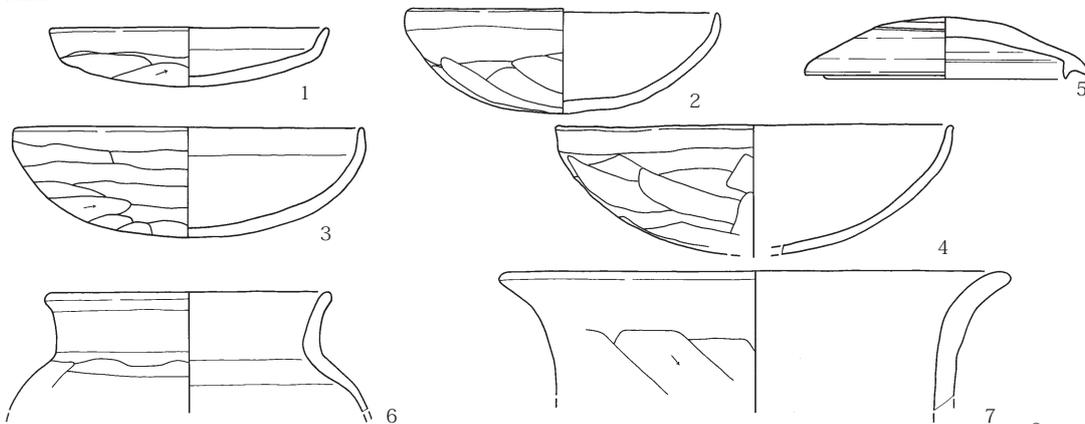
掘り方 中央部から壁際を浅くドーナツ状に掘り込む。

遺物 カマド右袖の脇にやや遺物が集中し、床面近くで土師器杯(1)、敲石(8)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品3565g・同小型品1580g、須恵器大型品3片・同小型品130g、灰釉陶器1片、埴輪2片が出土している。

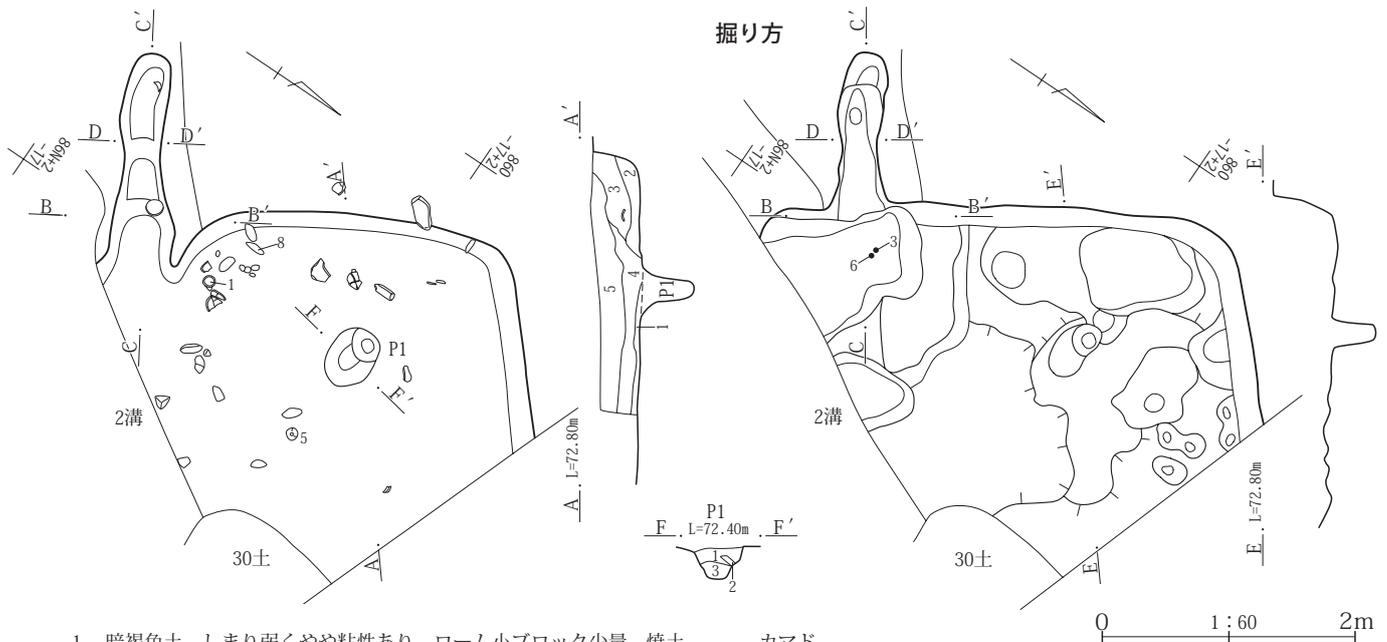
時期 出土遺物から7世紀中頃に比定される。

6号住居(第383・384図、P L.145・146・302)

位置 86N・O-16・17



第383図 2区6号住居出土遺物

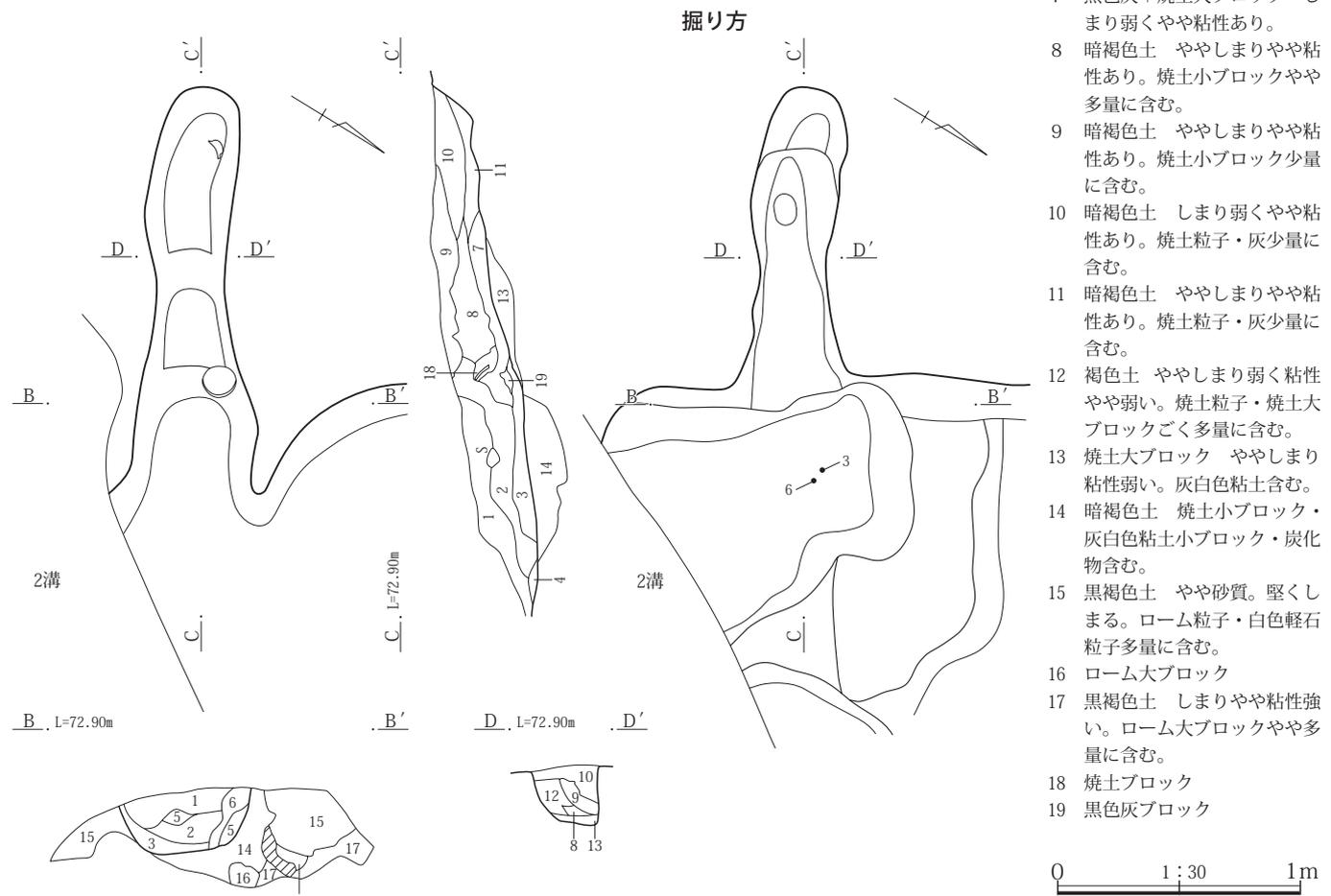


- 1 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック微量、焼土粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロックやや多量、焼土小ブロック・炭化物含む。

カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。軽石粒子・焼土粒子微量、黒色灰多量に含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土粒子・焼土ブロック含む。
- 3 黒褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。黒色灰・焼土ブロック含む。

0 1:60 2m



- 4 黒色灰+黄褐色ローム+焼土粒 縞状構造。堅くしまる。貼り床。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子少量に含む。
- 6 黒褐色土 しまりやや粘性強い。焼土ブロック・ローム粒子・灰小ブロック含む。
- 7 黒色灰+焼土大ブロック しまり弱くやや粘性あり。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロックやや多量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック少量に含む。
- 10 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土粒子・灰少量に含む。
- 11 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・灰少量に含む。
- 12 褐色土 ややしまり弱く粘性やや弱い。焼土粒子・焼土大ブロックごく多量に含む。
- 13 焼土大ブロック ややしまり粘性弱い。灰白色粘土含む。
- 14 暗褐色土 焼土小ブロック・灰白色粘土小ブロック・炭化物含む。
- 15 黒褐色土 やや砂質。堅くしまる。ローム粒子・白色軽石粒子多量に含む。
- 16 ローム大ブロック
- 17 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム大ブロックやや多量に含む。
- 18 焼土ブロック
- 19 黒色灰ブロック

0 1:30 1m

第384図 2区6号住居

7号住居(第385・386図、P L.147)

位置 86M・N-15・16

重複 36号土坑より後出で、14・30号土坑、2号井戸、1・2・4号溝より前出する。ピット多数と重複するが、新旧関係は不明である。

形態 重複により不明な部分もあるが、正方形に近い。

主軸方位 N-37°-E

規模 面積(18.14)㎡ 長軸5.23m、短軸4.70m 残存壁高13cm

埋没土 黒褐色土で埋まるが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 北辺の中央東寄りに設ける。燃烧部は住居の壁外に設ける。燃烧部の西寄りに甕が据えられた状態で出

土する。袖は残存していない。燃烧面は明確でないため、掘り方と不分明である。全体規模は長さ144cm幅111cmで、確認面からの深さは24cmである。

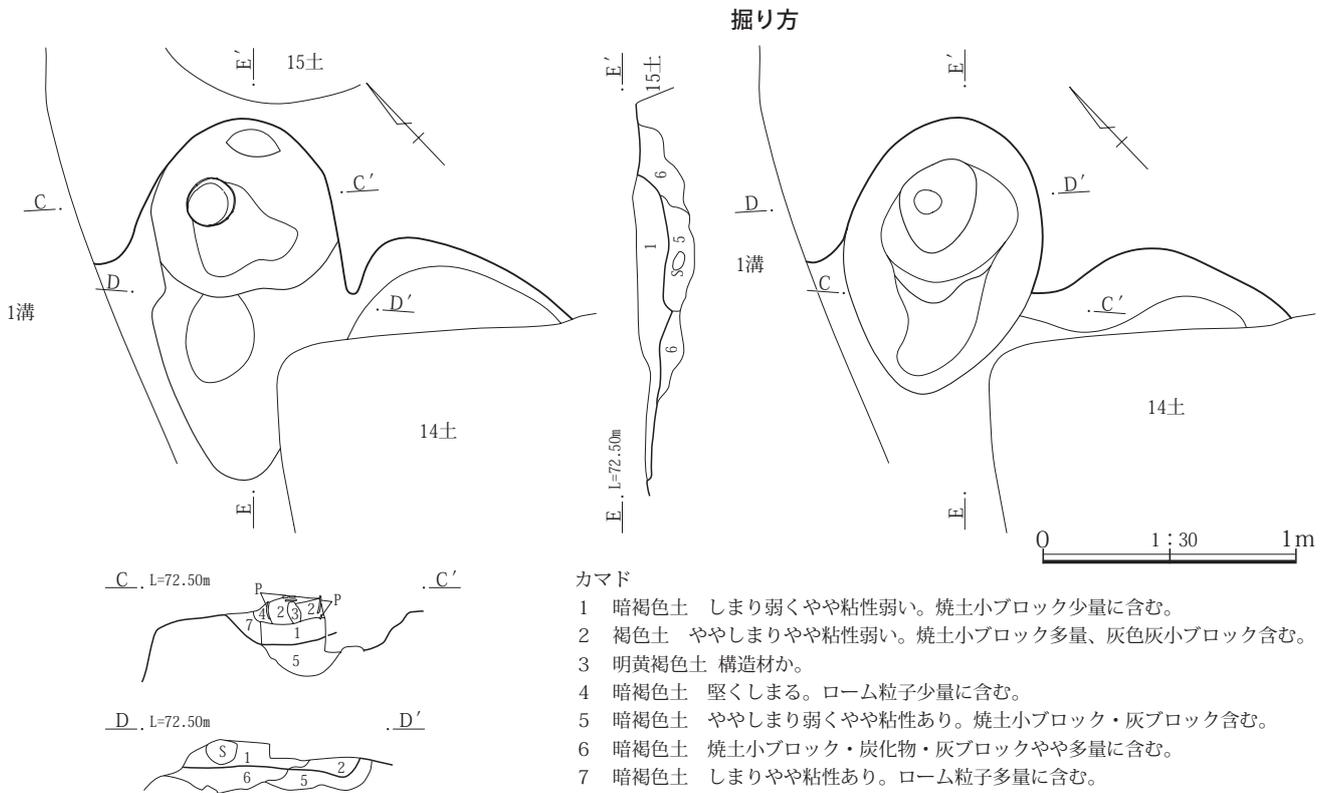
貯蔵穴 未検出。

柱穴 ピット多数が検出されるが、調査段階で住居の柱穴として扱われたものはない。

床 硬化範囲は不明確ながら全体に固くしまる。

掘り方 重複により不明確ながら、20cm程度掘り込まれ、全体に凸凹する。

遺物 掘り方から須恵器蓋(2)、土師器甕(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品2925g・同小型品825g、須恵器大型品140g・同小型品7片、埴輪2片が出土している。



カマド

- 1 暗褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック少量に含む。
- 2 褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土小ブロック多量、灰色灰小ブロック含む。
- 3 明黄褐色土 構造材か。
- 4 暗褐色土 堅くしまる。ローム粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土小ブロック・灰ブロック含む。
- 6 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物・灰ブロックやや多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。

第386図 2区7号住居カマド

時期 出土遺物から7世紀中頃に比定される。

備考 調査段階19号住居を同一住居として合成。

8号住居(第387図、P L.147・148・302)

位置 86O・P-18・19

重複 15号住居、53号土坑より前出で、51・54・429号ピットと重複するが新旧関係不明。

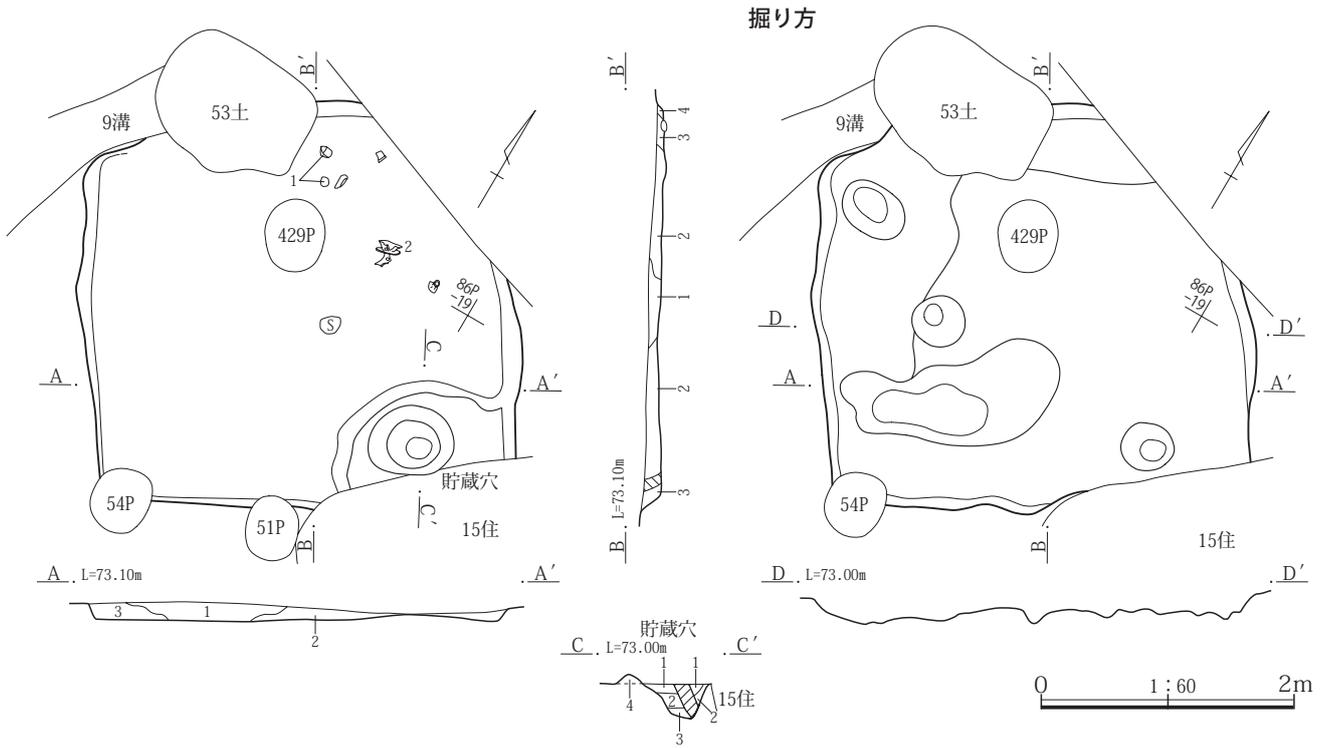
形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-58°-E

規模 面積8.23㎡ 長軸3.46m、短軸3.25m 残存壁高10~15cm

埋没土 ロームブロックが目立つ暗褐色土で、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

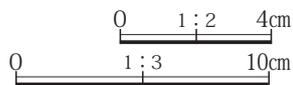
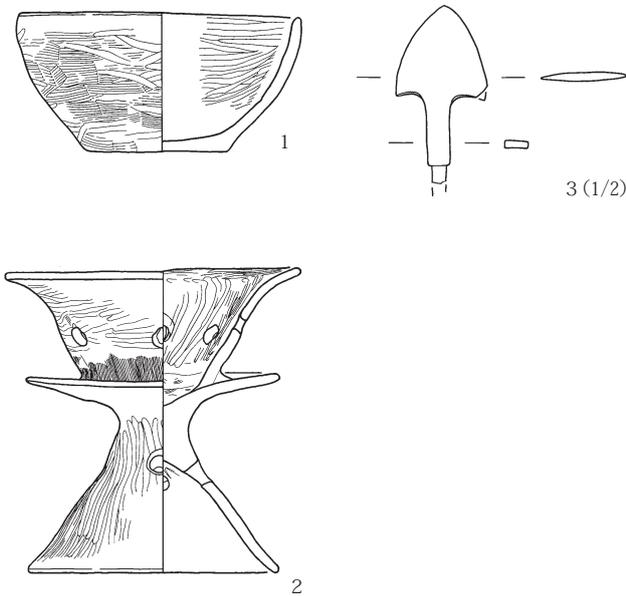
カマド・炉 未検出。

貯蔵穴 東隅付近に設ける。本体部分の平面形は楕円形で、輪郭に沿って額縁状に低い盛り上がりがある。規模は長径67cm短径54cm深さ26cmである。



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 3 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。
- 4 ロームブロック

- 掘り方
- 貯蔵穴
 - 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
 - 2 暗褐色土+ロームブロック ややしまり弱くやや粘性あり。
 - 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
 - 4 黄褐色土



柱穴 未検出。

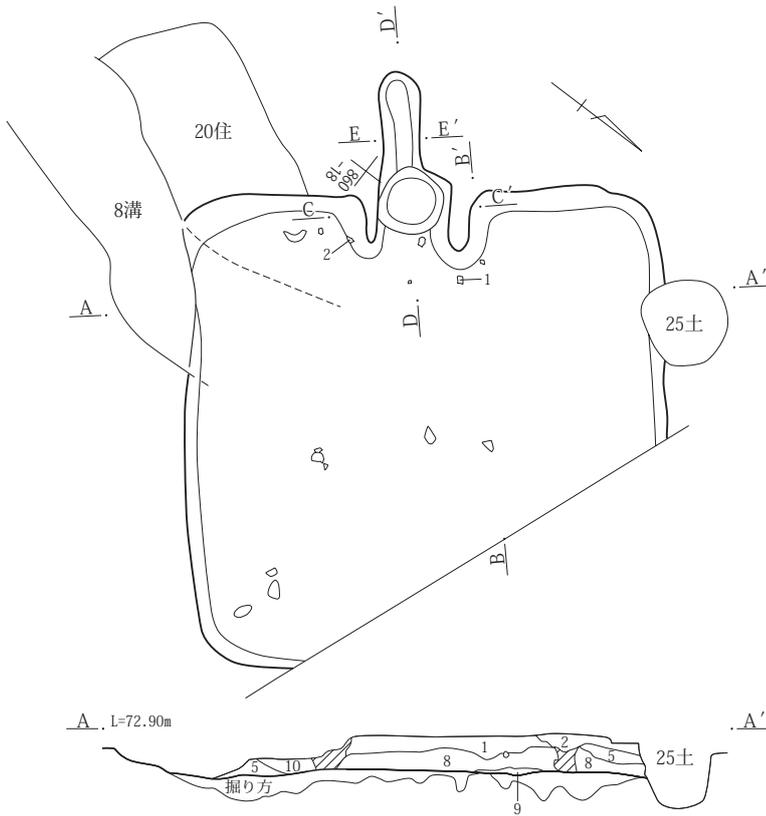
床 範囲は不明確ながら、中央付近に広く硬化面がみられる。

掘り方 壁際を浅くドーナツ状に掘り込み、中央部がわずか台状に残る。

遺物 北東部にやや遺物があり、床面近くで土師器鉢(1)、同器台(2)が出土し、埋没土から鉄鏃(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品680g・同小型品230g、須恵器大型品2片・同小型品140gが出土している。

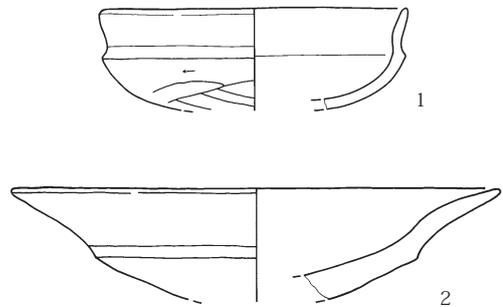
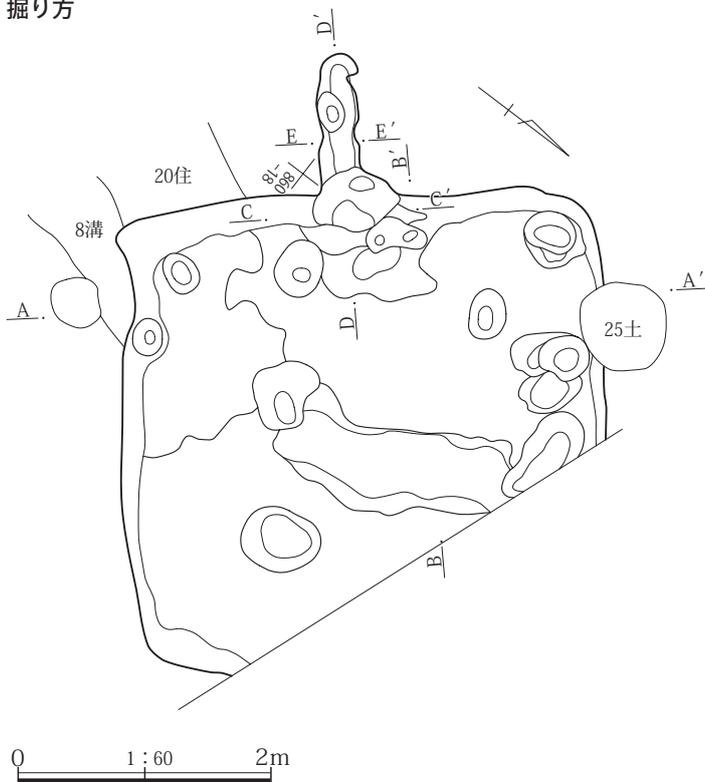
時期 出土遺物から3世紀後半に比定される。

第387図 2区8号住居と出土遺物



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック少量、炭化物粒子少量、焼土ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや砂質。ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックごく多量に含む。
- 4 褐色土 しまり弱く粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 6 黄褐色土
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、黒褐色土ブロック少量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量、焼土小ブロック・炭化物片含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子・灰小ブロック含む。
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ロームブロック多量に含む。

掘り方



0 1:3 10cm

第388図 2区9号住居と出土遺物

9号住居(第388・389図、P L.149)

位置 86N・O-17・18

重複 15・20号住居より後出で、10号住居、25号土坑、8号溝より前出。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-49°-E

規模 面積9.81㎡ 長軸3.80m、短軸3.78m 残存壁高13~22cm

埋没土 中位以下を埋める埋没土8はロームブロックを多量に含み平均に埋まるため、人為埋没と考えられる。上位は暗褐色土により自然埋没する。

カマド 南西辺の中央に位置する。燃烧部を壁面付近に設け、円形に凹む。燃烧部手前に炭がやや多く分布する。粘土を主体として両袖を構築する。全体規模は長さ158

cm幅120cm、燃烧部は長さ53cm、袖焚口幅72cmで、確認面からの深さは32cmである。煙道部は長さ75cm最大幅32cm深さ21cmである。掘り方の深さは燃烧部で15cm程度である。

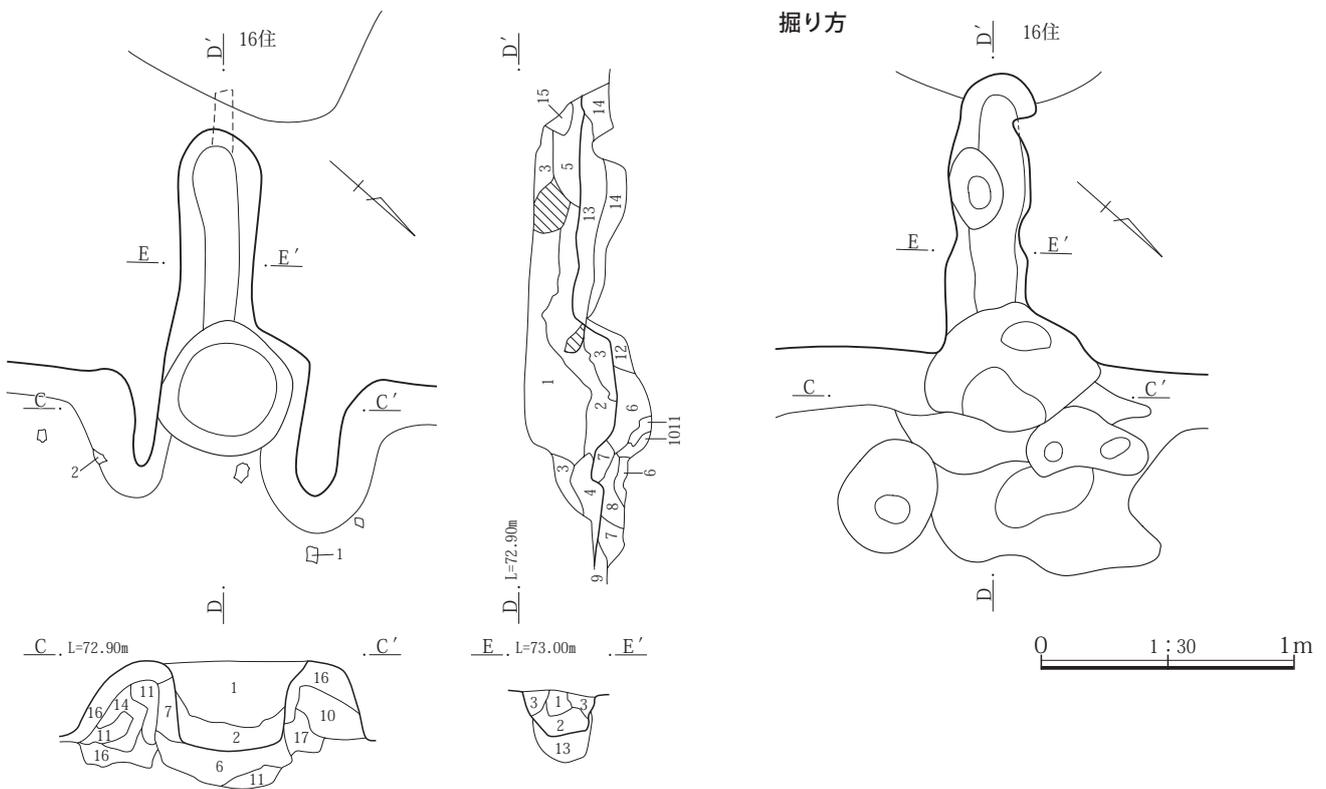
貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に浅く掘り込み、底面は凸凹する。埋没土はロームブロックを多く含む暗褐色土である。

遺物 カマドの両脇で土師器杯(1)・同高杯(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1950g・同小型品955g、須恵器大型品2片・同小型品5片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。



カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土小ブロック微量に含む。
- 3 黒褐色土 ややしり強くやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・黒色灰・ロームブロック含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしりやや粘性弱い。焼土小ブロックやや多量、ローム粒子含む。

- 7 暗褐色土 ややしりやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子含む。
- 8 褐色土+黒色灰 しまりやや粘性あり。
- 9 黒褐色土 堅くしまりやや粘性強い。黒色灰・灰色粘土ブロック・炭化物含む。
- 10 黒褐色土+灰色粘土ブロック+炭化物+焼土
- 11 にぶい黄褐色土
- 12 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 13 黒褐色土 ややしり弱く粘性弱い。黒色灰・焼土ブロック含む。
- 14 褐色土 焼土ブロック少量に含む。
- 15 にぶい黄褐色土 煙道天井。地山。
- 16 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 17 にぶい黄褐色土 黒褐色土ブロック含む。

第389図 2区9号住居カマド

10号住居(第390・392図、P L .149・150・302)

位置 86N・O-17・18

重複 9・15号住居より後出で、16号住居より前出。

形態 方形ながら、重複により不明確。

主軸方位 N-12°-W

規模 面積(10.24)m² 長軸(4.04)m、短軸(3.20)m

残存壁高13～19cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体に自然埋没する。

カマド 北辺の中央東寄りに設ける。燃烧部を壁面付近に持つ。焚き口付近を除き、奥壁まで顕著に焼土化する。

カマド内に遺物がやや多く出土するが、使用状態を残すものはない。袖は暗褐色土を主体とするが、残存は良くない。煙道部は確認できない。全体規模は長さ72cm幅109cm、袖焚口幅68cmで、確認面からの深さは16cmである。掘り方の深さは10cm程度と浅い。

貯蔵穴 未検出。 柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に10～30cm程度平坦に掘り込む。

遺物 南端部中央とカマドに、出土遺物がやや集中する。カマド奥壁ではやや大型の土師器甕(5)が出土している。掲載遺物のほか土師器大型品1540g・同小型品715g、須恵器大型品280g・同小型品720g、埴輪1片が出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子、コムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から9世紀末～10世紀初めに比定される。

11号住居(第391・393図、P L .151・302・303)

位置 86M・N-18・19 重複 12・16号住居より

前出。

形態 ほぼ正方形 主軸方位 N-43°-E

規模 面積7.70m² 長軸3.35m、短軸3.12m 残存壁高13～21cm

埋没土 ローム粒子を含む暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 南辺の東隅よりに設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部の平面形は丸く、壁面・底面の焼土化は弱い。両袖は黒褐色土を主体とし、芯材として未固結凝灰岩と円礫を使用する。煙道部は確認できない。全体規模は長

さ72cm幅143cm、袖焚口幅41cmで、確認面からの深さは16cmである。掘り方の深さは燃烧部で10cm程度である。

貯蔵穴 カマドの東脇で、住居の南東部に設ける。楕円形。規模は長径74cm短径57cm深さ41cmである。

柱穴 未検出。

床 硬化面の範囲は確認できないが、埋没土5は堅くしまり、貼り床状である

掘り方 全体に10cm弱掘り込み、底面は凸凹する。

遺物 カマド内に多量の遺物が見られる。奥壁の土師器甕(9)は使用状態に近く、土師器杯(2)も重なって出土する。カマドの右袖脇では、土師器鉢(6)や同有孔鉢(7)が出土した。住居中央部でもやや遺物が集中している。床面で土師器杯(1・4)が出土している。埋没土から出土した鉄製紡錘車(10)はほぼ完形で、紡軸が一部残っている。掲載遺物のほか土師器大型品2045g・同小型品540g、須恵器大型品1片・同小型品1片が出土している。時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

12号住居(第394・395図、P L .151・152・303)

位置 86M・N-19

重複 11号住居より後出で、13号住居より前出。47・53号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 長方形 主軸方位 N-76°-E

規模 面積6.35m² 長軸(3.23)m、短軸2.40m 残存壁高9～20cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

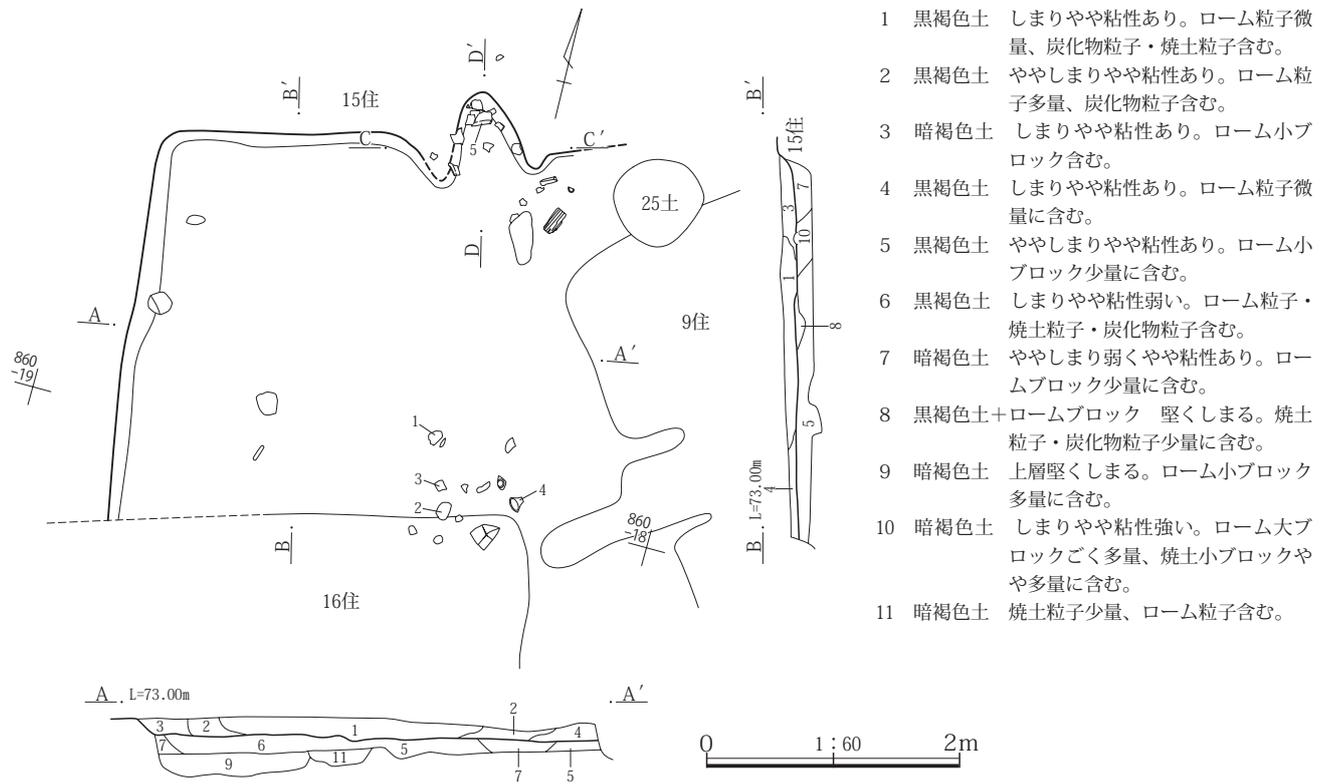
カマド 東辺中央に設ける。燃烧部を住居の壁外に設ける。燃烧部はほとんど焼けていない。出土遺物は埋没時に混入した須恵器甕などである。焚き口前面に広く炭が広がっている。両袖は暗褐色土を主体に構築され、遺存状態は悪い。全体規模は長さ67cm幅115cm、袖焚口幅64cmで、確認面からの深さは6cmである。掘り方の深さは燃烧部で30cm程度と深い。

貯蔵穴 南東隅に設ける。上面形態は不整形で、底面南側は溝状に凹む。南東壁際で偏平な円礫が出土する。規模は長径63cm短径61cm深さ23cmである。

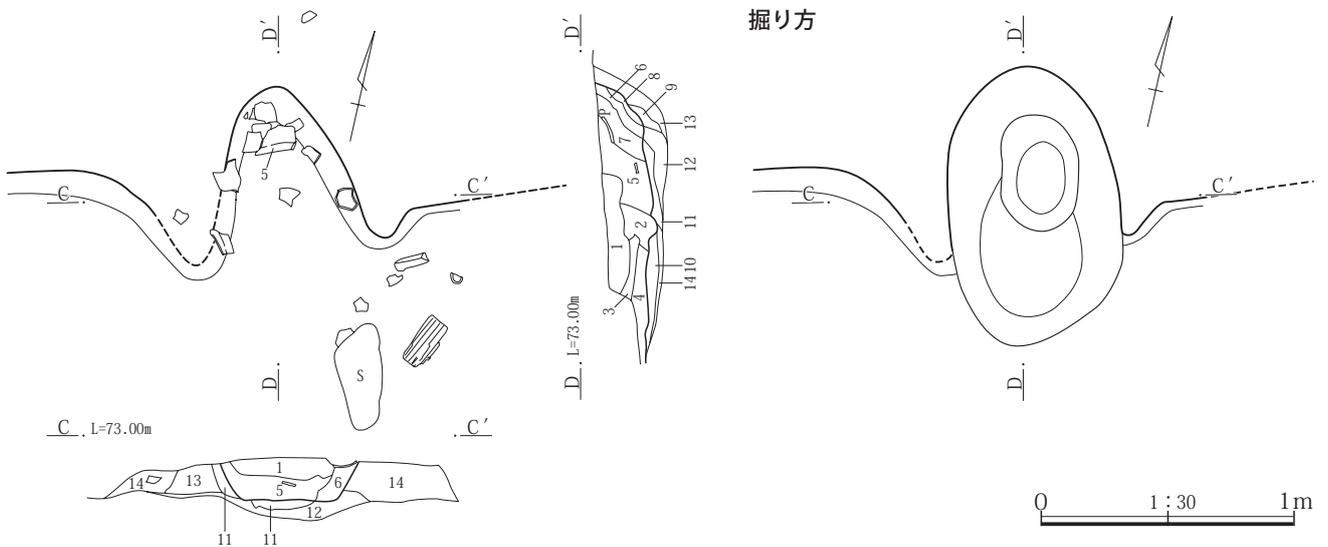
柱穴 未検出。

床 北西隅から南東隅近くにかけて、斜めに硬化面が広がる。埋没土7は堅くしまり、貼り床状である。

掘り方 北西隅から南東隅近くにかけて、5cm程度掘り



- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子微量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子微量に含む。
- 5 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 6 黒褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 8 黒褐色土+ロームブロック 堅くしまる。焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 9 暗褐色土 上層堅くしまる。ローム小ブロック多量に含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム大ブロックごく多量、焼土小ブロックやや多量に含む。
- 11 暗褐色土 焼土粒子少量、ローム粒子含む。

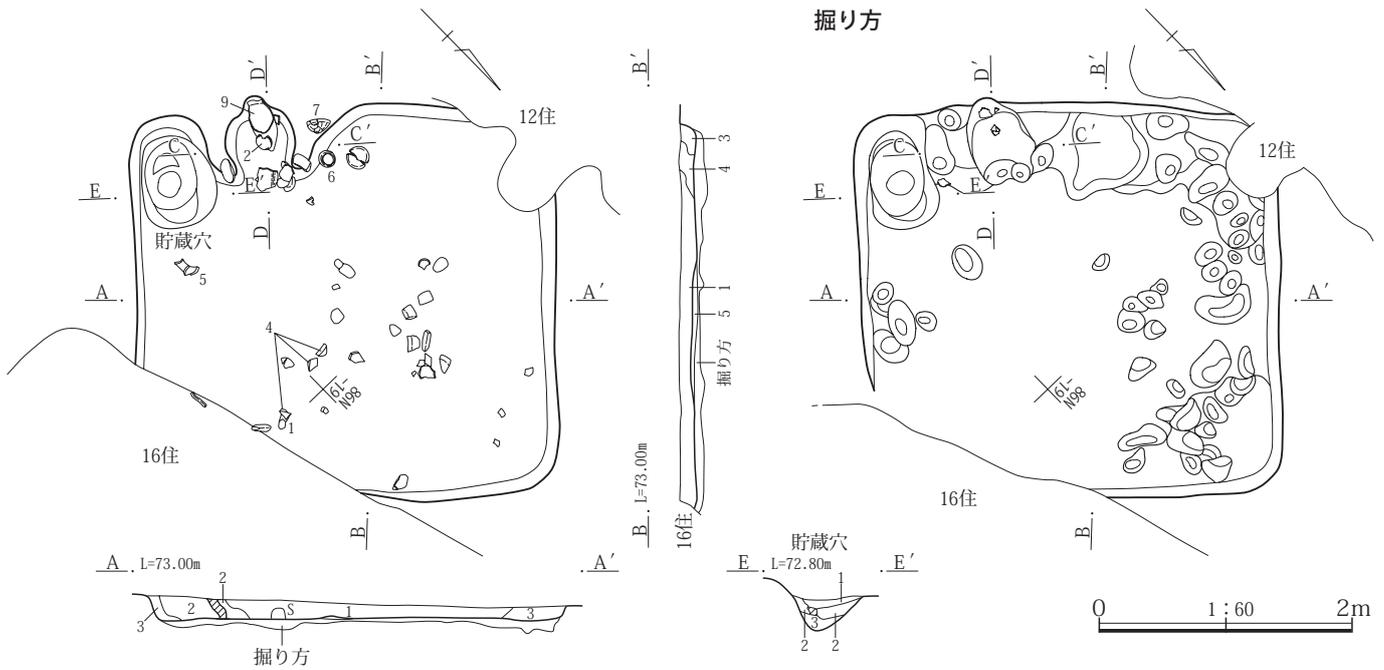


カマド

- 1 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。焼土小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱い。黒～灰色灰ブロック・焼土ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。焼土粒子少量、炭化物粒子微量に含む。
- 4 黒褐色土 炭化物粒子・黒色灰多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック多量、炭化物粒子少量に含む。

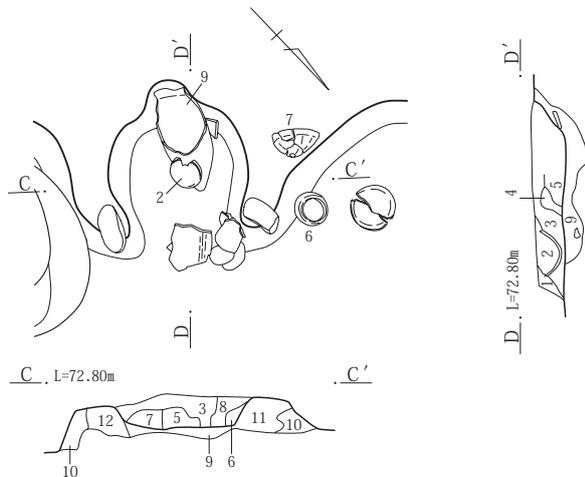
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土粒子多量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。炭化物・焼土微量に含む。
- 8 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰・炭化物・焼土含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。表層に黒色灰層、炭化物含む。
- 10 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子多量、焼土粒子含む。
- 11 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土ブロック多量に含む。
- 12 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 13 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック微量に含む。袖。
- 14 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック含む。

第390図 2区10号住居



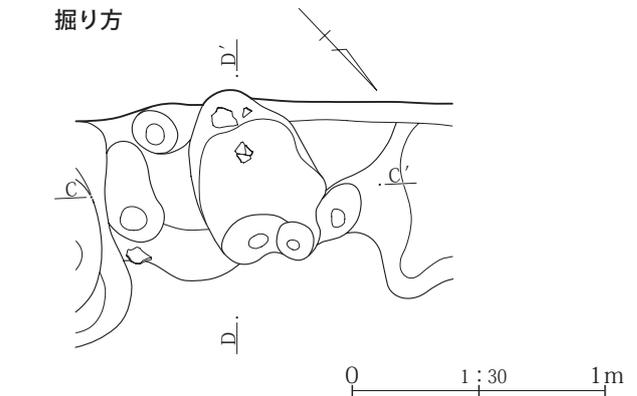
- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、ロームブロックやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、ロームブロック少量に含む。

- 3 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 5 黒褐色土+ローム 堅くしまる。炭化物含む。



カマド

- 1 褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子・白色粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土小ブロック含む。
- 4 褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子少量に含む。
- 5 焼土 天井崩落土。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土ブロック含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土ブロック・炭化物含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土大ブロックごく多量に含む。

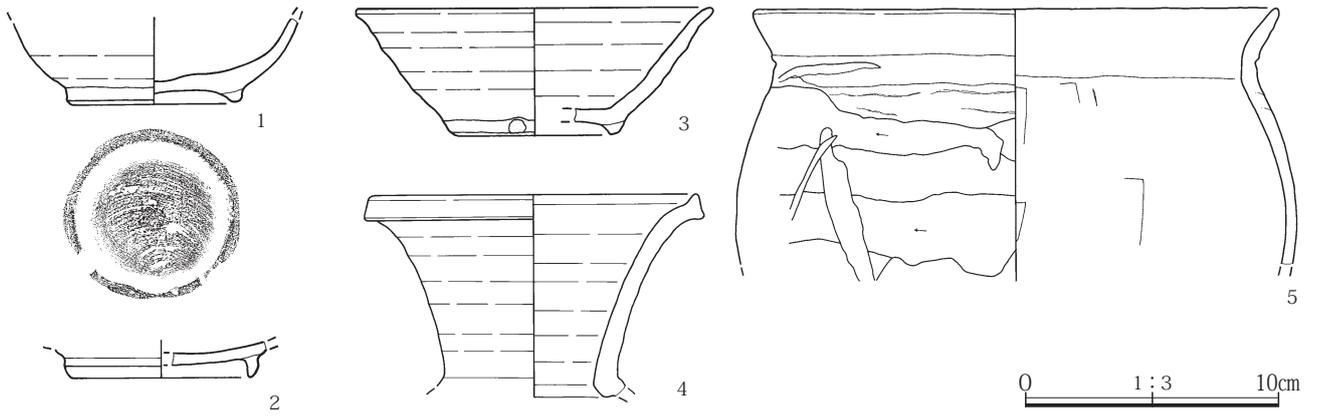


- 9 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰粒子・焼土小ブロック・ローム小ブロック含む。
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子多量、ロームブロック含む。
- 11 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック含む。表層に焼土粒子あり。
- 12 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。

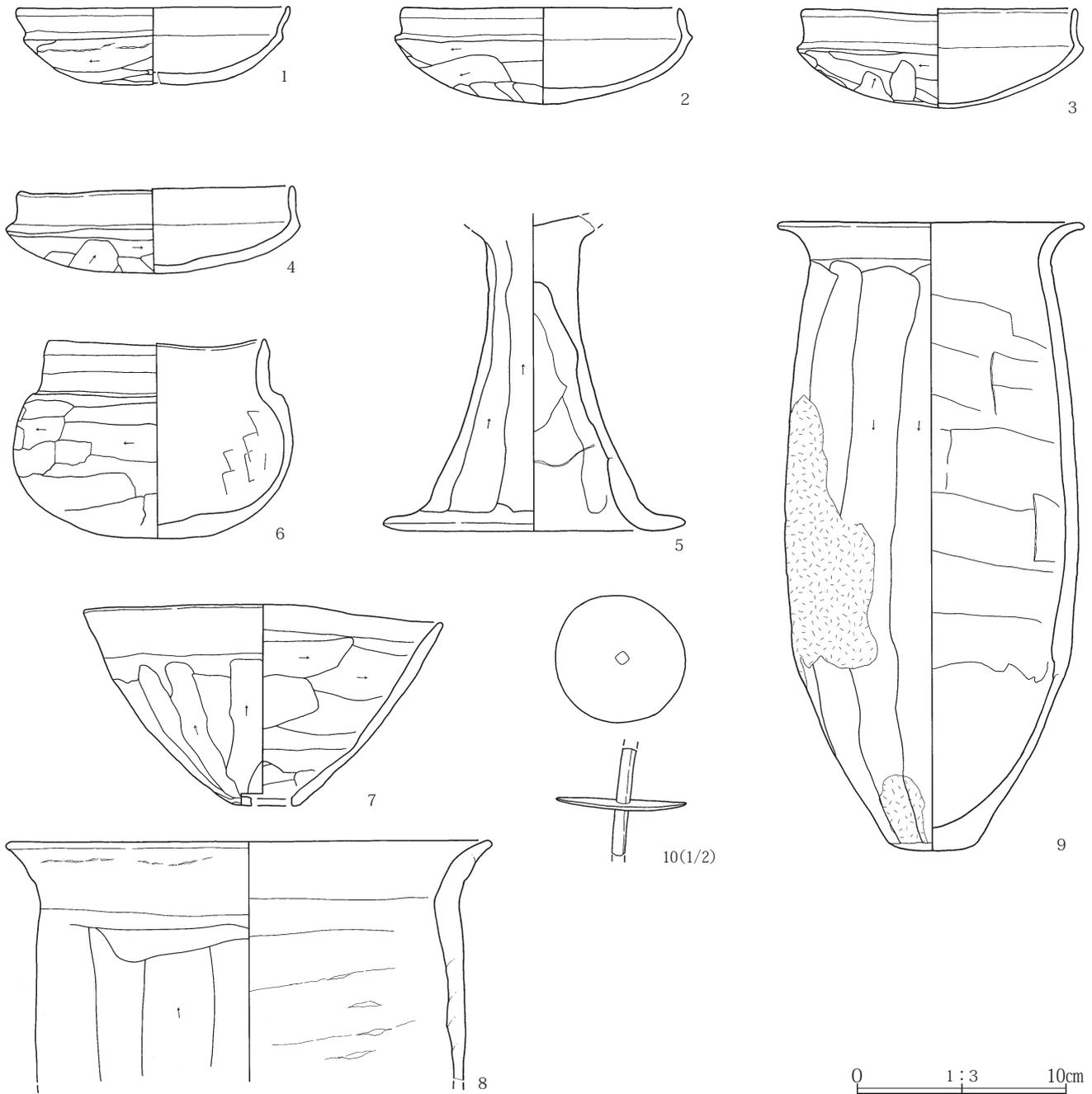
貯蔵穴

- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子少量、ローム粒子やや多量に含む。
- 2 褐色土 しまりやや粘性強い。
- 3 黒褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ロームブロック含む。

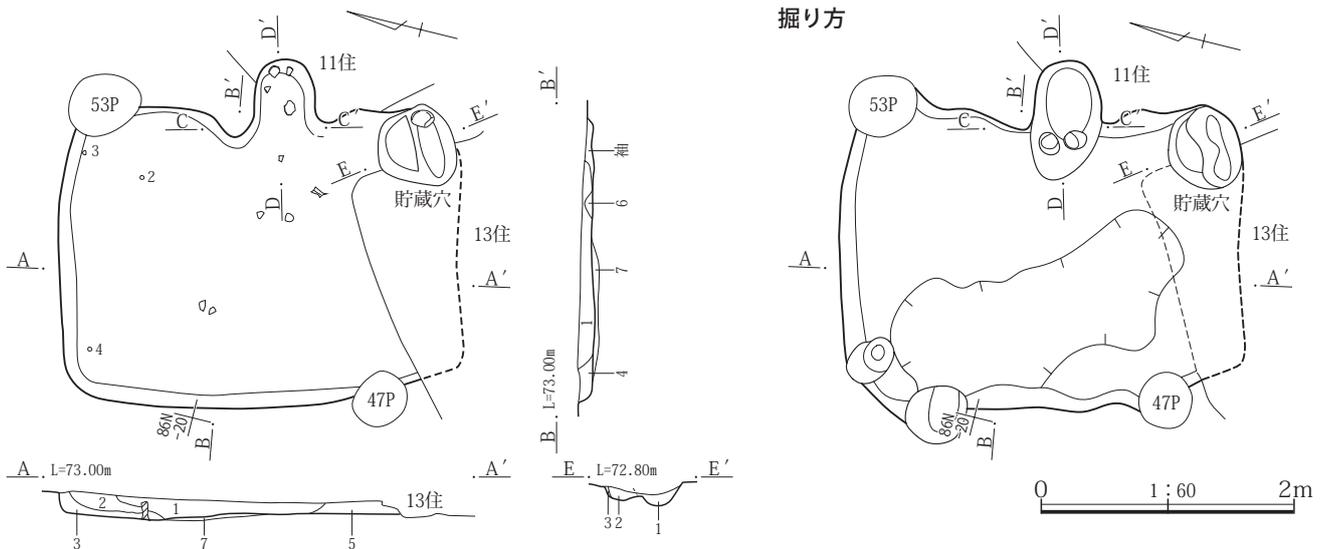
第391図 2区11号住居



第392図 2区10号住居出土遺物



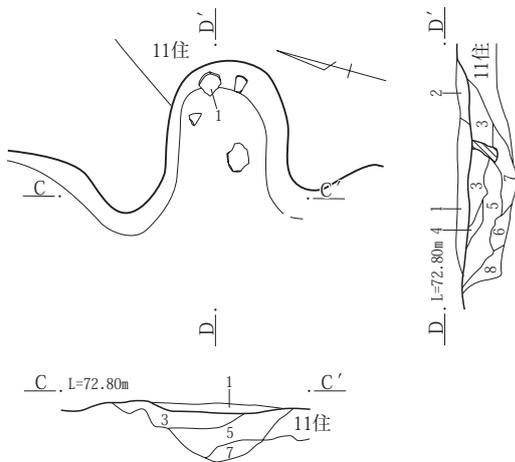
第393図 2区11号住居出土遺物



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・ロームブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ロームブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子やや多量、ローム粒子含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。

掘り方

- 6 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック・炭化物粒子含む。
 - 7 暗褐色土+ローム 堅くしまる。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロックやや多量に含む。
 - 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・ロームブロックごく多量に含む。
 - 3 褐色土+黄褐色土 壁面崩落土。



掘り方

- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。扁平なロームブロック・灰ブロック・炭化物粒子含む。
- 4 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰多量、ローム粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量、ロームブロック含む。
- 6 黄褐色土
- 7 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒子多量、焼土粒子含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ロームブロックごく多量に含む。

カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム・焼土・灰含む。
- 2 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロック・焼土ブロック少量に含む。

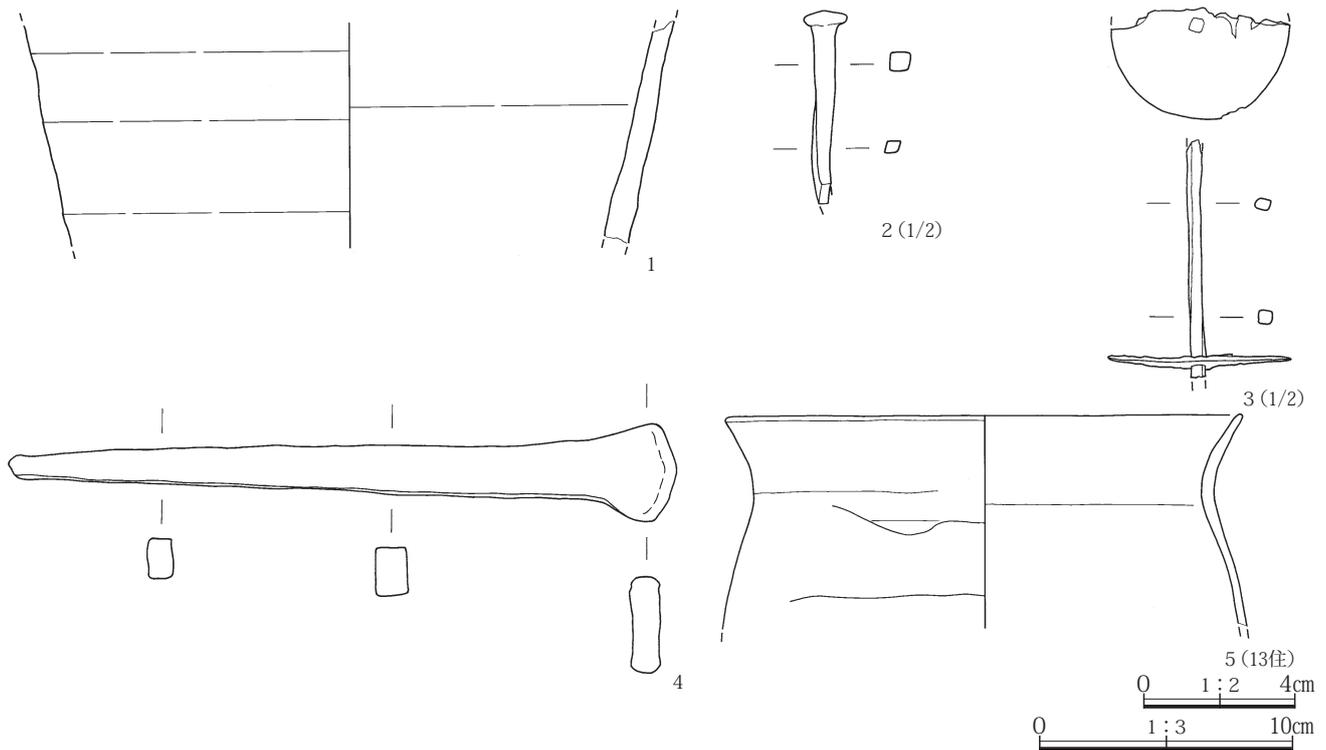
第394 図 2区12号住居

込まれる。

遺物 カマド内では須恵器大型品の胴部が出土するが、器種は不明である。北壁寄りの床面では鉄器がまとまって出土する。鉄製紡錘車(3)は紡軸もよく残っている。棒状の鉄製品(4)は大型で、楔または鑿と考えられる。

掲載遺物のほか土師器大型品560g・同小型品290g、須恵器大型品280g・同小型品160gが出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、タデ属果実、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から10世紀に比定される。



第395図 2区12・13号住居出土遺物

13号住居(第395・396図、P L.152・153)

位置 86M-19・20 **重複** 12号住居より後出。

形態 長方形 **主軸方位** N-49°-E

規模 面積7.51㎡ 長軸3.49m、短軸2.60m 残存壁高13~16cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 北東辺中央南寄りに設ける。燃烧部を壁面付近に持つ。燃烧部はほとんど焼けていない。右袖のみ残っており、黒褐色土を主体として構築する。左袖前面に土師器甕が崩れて出土し、掘り方で円形の落ち込みがみられるため、左袖は甕を芯材としていた可能性が高い。全体規模は長さ76cm幅91cm、袖焚口幅68cmで、確認面からの深さは13cmである。掘り方の深さは燃烧部で20cm弱である。

貯蔵穴 住居の南東隅、カマドの南脇に設ける。平面形

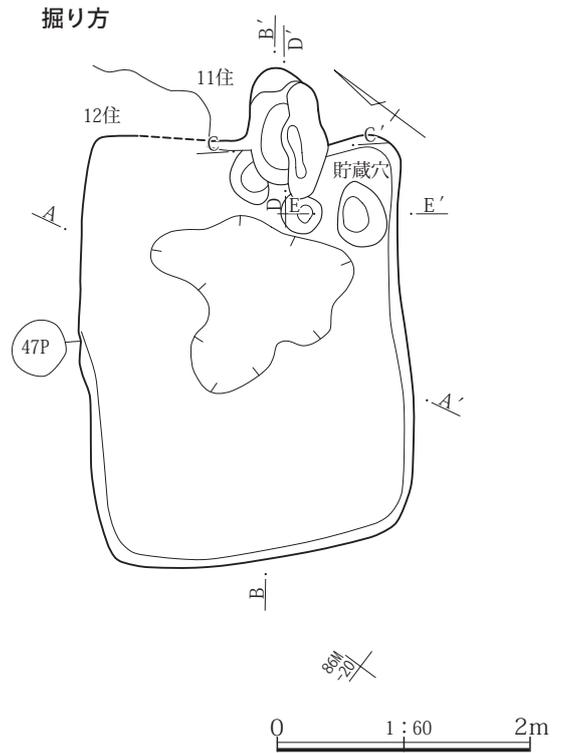
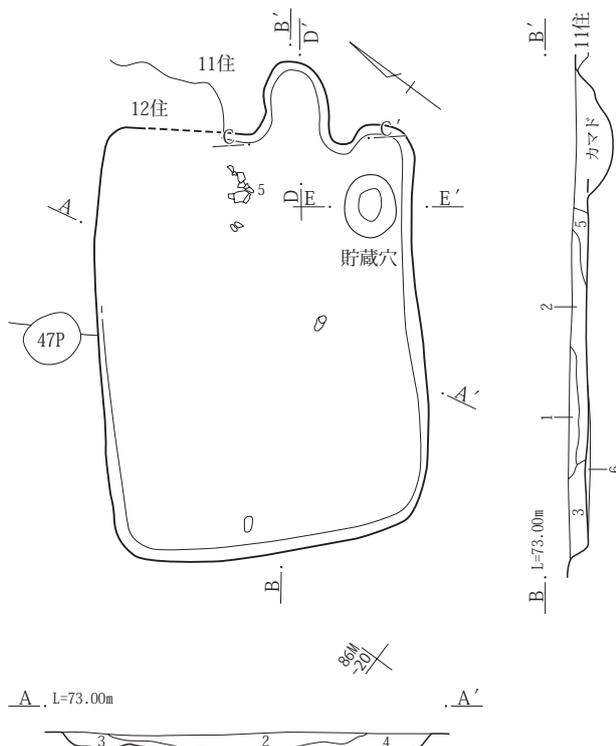
は楕円形。規模は長径50cm短径40cm深さ19cmである。

柱穴 未検出。

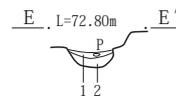
床 カマド前面から住居中央にかけてやや硬化している。この部分が掘り方状に掘り込まれる。

遺物 カマド左袖の前で、土師器甕(5)が出土する。位置からカマド左袖先端の構築材であった可能性もある。掲載遺物のほか土師器大型品645g・同小型品275g、須恵器大型品3片・同小型品120gが出土している。

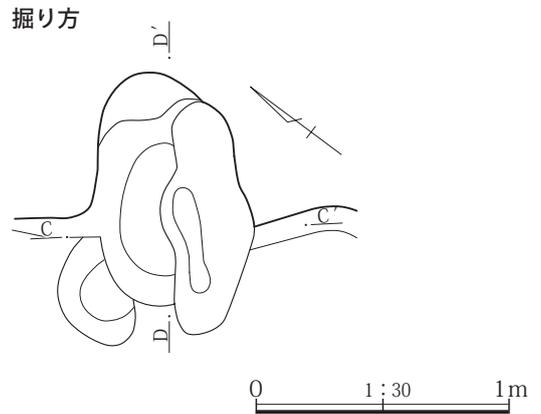
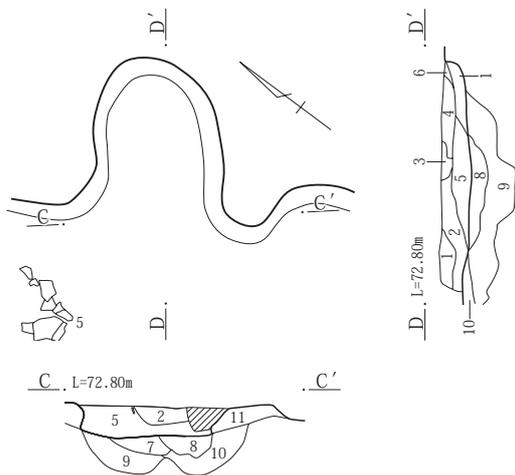
時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。



- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。浅間A軽石含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物少量、ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。ローム粒子多量、ロームブロックやや多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子多量、炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子少量に含む。
- 6 黒褐色土 しまりやや粘性強い。炭化物粒子・ローム粒子含む。



- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 しまり粘性あり。ロームブロック多量に含む。
 - 2 黒褐色土+褐色土ブロック ややしまり粘性弱い。



カマド

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子含む。 2 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物粒子多量に含む。 3 褐色土 焼土大ブロック多量に含む。 4 褐色土 焼土ブロック多量、黒色灰含む。縞状構造。 5 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物粒子・ロームブロック含む。 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子多量に含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物少量に含む。表層に黒色灰薄層あり。 8 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子含む。 9 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック含む。 10 暗褐色土 しまる。焼土ブロック含む。 11 黒褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子含む。袖。 |
|--|---|

第396図 2区13号住居

14号住居(第397図、P L.153)

位置 86M-17

重複 1号地下式土坑、2号溝より前出。

形態 大部分が重複により消滅し不明となる。

主軸方位 不明。

規模 面積0.86㎡ 長軸(1.68)m、短軸(1.23)m 残存壁高42cm

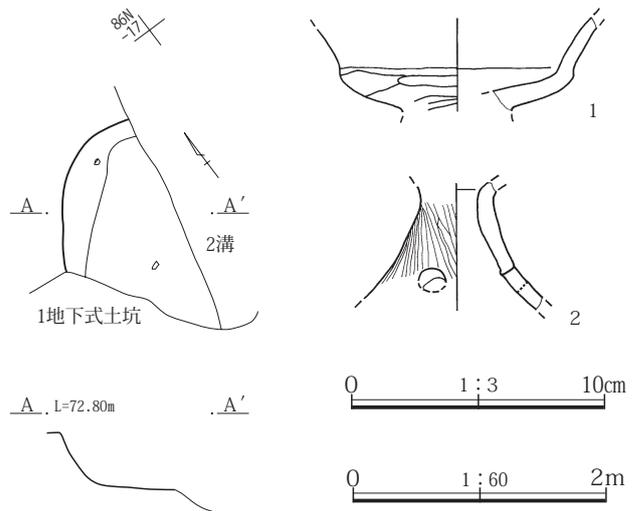
埋没土 残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床・硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

遺物 埋没土から土師器高杯(1)、同器台(2)が出土する。

時期 出土遺物から7世紀に比定される。



第397図 2区14号住居と出土遺物

15号住居(第398図、P L.153・154)

位置 86O-18・19

重複 8号住居より後出で、9・10号住居より前出する。

25号土坑と重複するが新旧関係不明。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-46°-E

規模 面積11.74㎡ 長軸4.12m、短軸3.91m 残存壁高23cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 北辺の中央に設ける。燃烧部を住居の壁外に持つ。大部分が調査区域外となる。焼土化する部分はみられない。左袖のみ残存し、黄褐色土を主体として構築する。全体規模は長さ(93)cm幅(130)cmで、確認面からの深さは48cmである。掘り方は不明。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 中央部から北西隅にかけて方形に、5cm程度掘り込む。

遺物 遺物の出土は少ないが、北東部の床面近くで、1の土師器鉢が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1910g・同小型品845g、須恵器大型品2片・同小型品4片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

16号住居(第399～401図、P L.154・155・303・304)

位置 86M・N-17～19

重複 10・11・17号住居より後出で、状況から3・8号溝より前出と思われる。

形態 長方形 主軸方位 N-77°-E

規模 面積25.88㎡ 長軸6.22m、短軸4.77m 残存壁高6～12cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺のほぼ中央に設ける。燃烧部を壁面周辺に持つ。平面形は楕円形で、前面に炭が広がる。袖は残存しない。燃烧部中央の北壁と南焚き口付近に未固結凝灰岩が1点ずつ、燃烧部中央にも1点出土し、カマド構築材として使用されている。全体規模は長さ130cm、幅109cmで、確認面からの深さは20cmである。掘り方の深さは燃烧部で15cm程度である。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 7基検出され、4基程度で主柱穴となり、1度以上柱を立て替えている。規模(長径・短径・深さcm)。

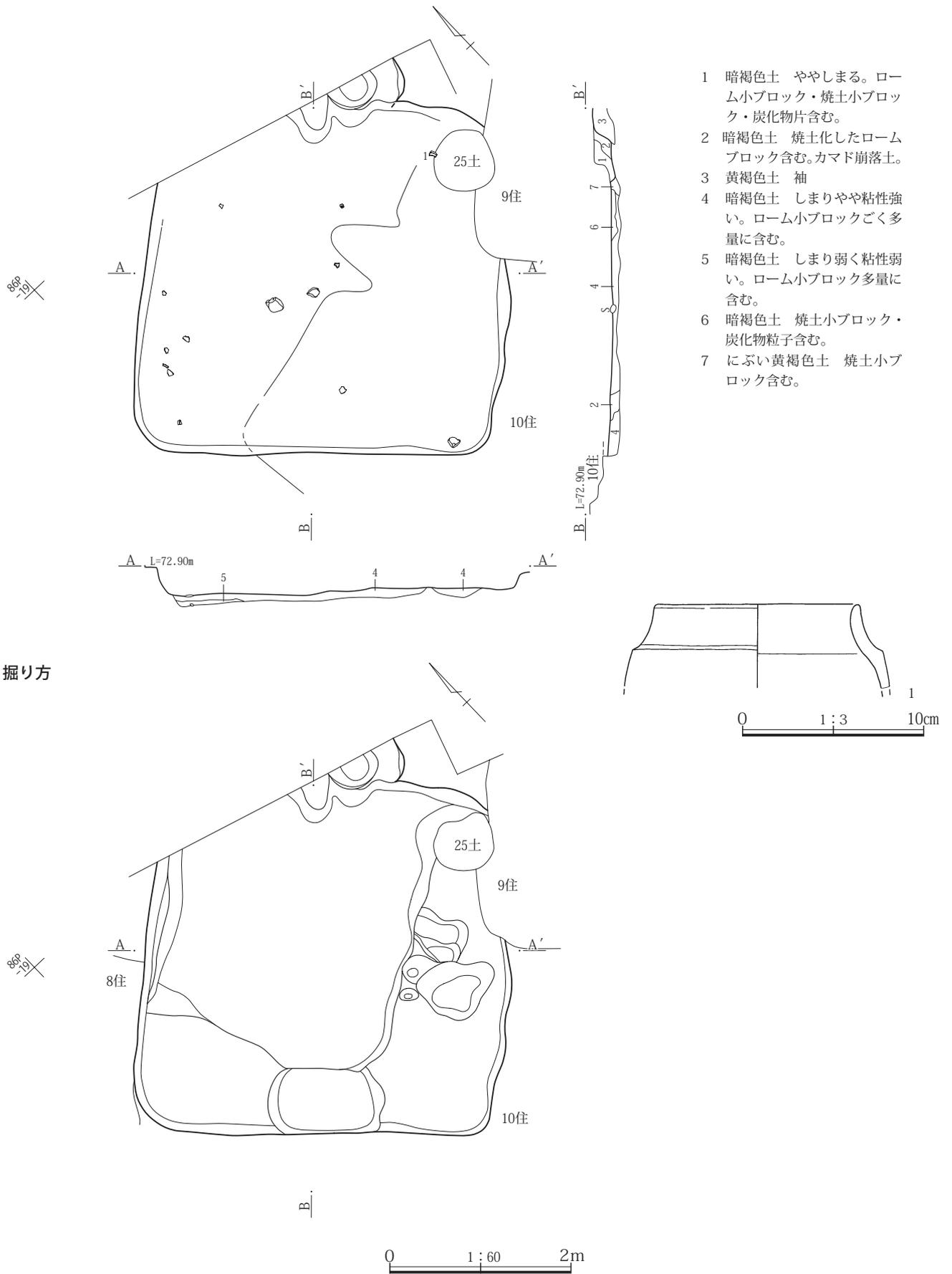
P 1 : 40・39・31、P 2 : 39・31・28、P 3 : 29・24・36、P 4 : 35・34・42、P 5 : 33・31・26、P 6 : 42・30・16、P 7 : 27・26・28

床 硬化面の範囲は確認できないが、埋没土5は堅くしまり貼り床状である。

床下土坑1 中央南寄りにあり、平面形は円形。規模は長径108cm短径99cm深さ20cmである。

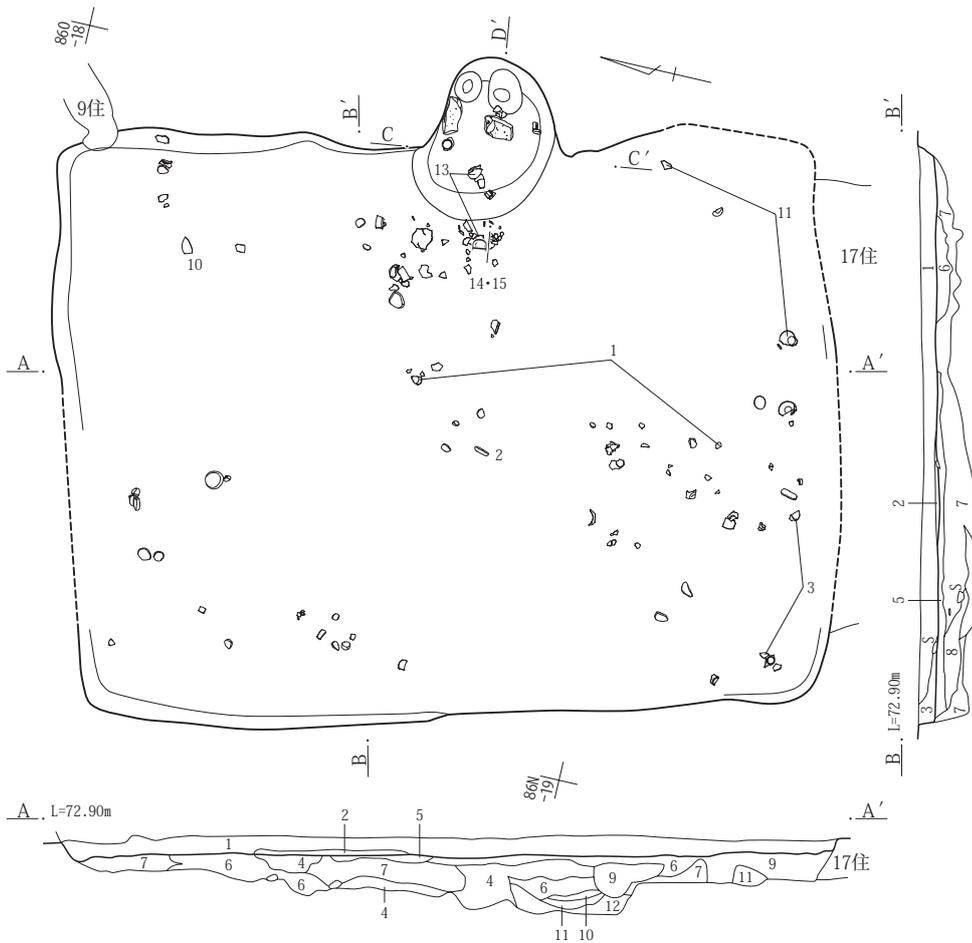
床下土坑2 北辺中央部にあり、平面形は楕円形。規模は長径114cm短径104cm深さ11cmである。

掘り方 中央部を大きく土坑状に掘り込み、壁際を溝状に床下土坑をつなぐ形で掘り込む。その間は带状に掘り



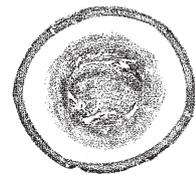
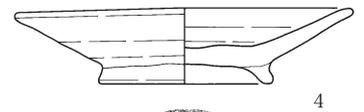
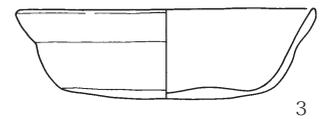
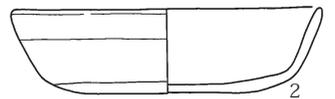
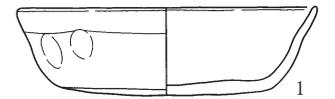
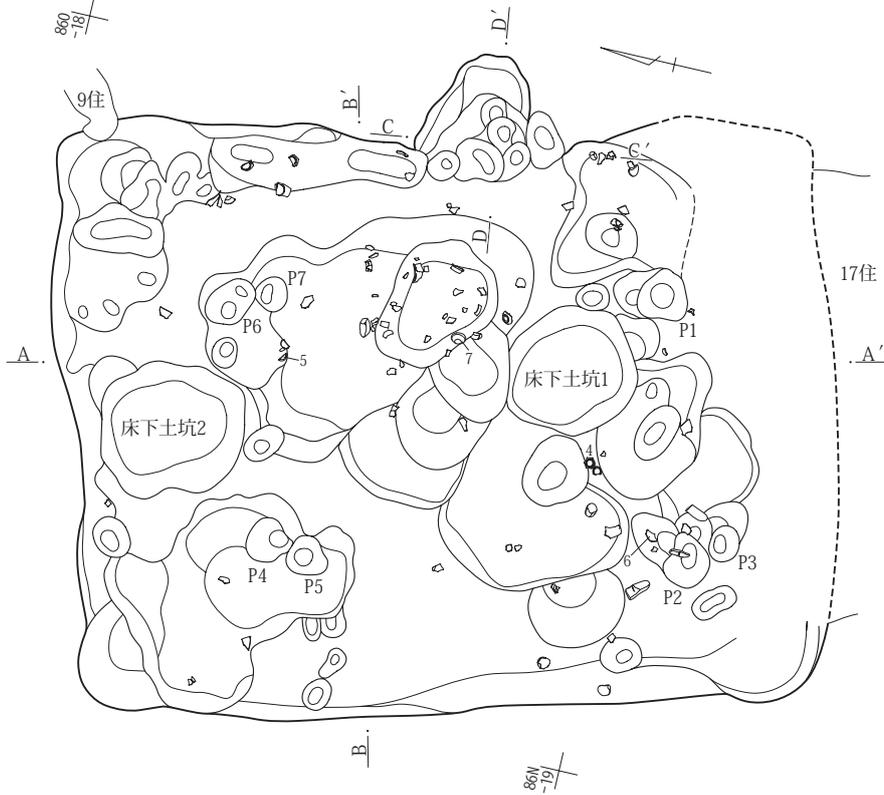
- 1 暗褐色土 ややしまる。ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物片含む。
- 2 暗褐色土 焼土化したロームブロック含む。カマド崩落土。
- 3 黄褐色土 袖
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム小ブロック多量に含む。
- 6 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 7 にぶい黄褐色土 焼土小ブロック含む。

第398図 2区15号住居と出土遺物



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 2 黒色灰層
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子・焼土小ブロック多量、黒色灰小ブロック。炭化物粒子含む。
- 5 黒褐色土 堅くしまる。ローム小ブロック多量に含む。
- 6 黒褐色土 ローム小ブロック多量、炭化物粒子・黒色灰小ブロック含む。
- 7 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 8 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック・焼土粒子・灰ブロック含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子微量に含む。
- 10 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。ローム粒子少量、細砂・黒色灰薄層挟む。
- 11 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 12 黒褐色土 ローム小ブロック少量に含む。

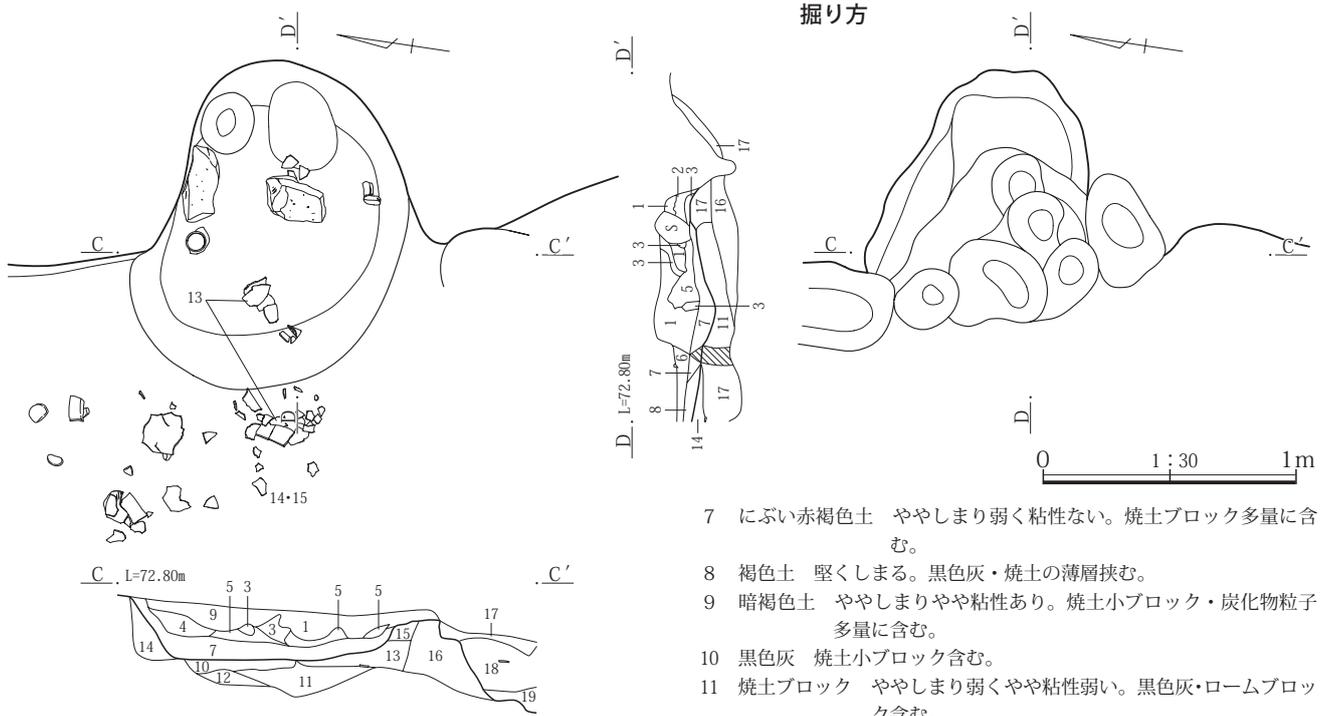
掘り方



0 1:3 10cm

0 1:60 2m

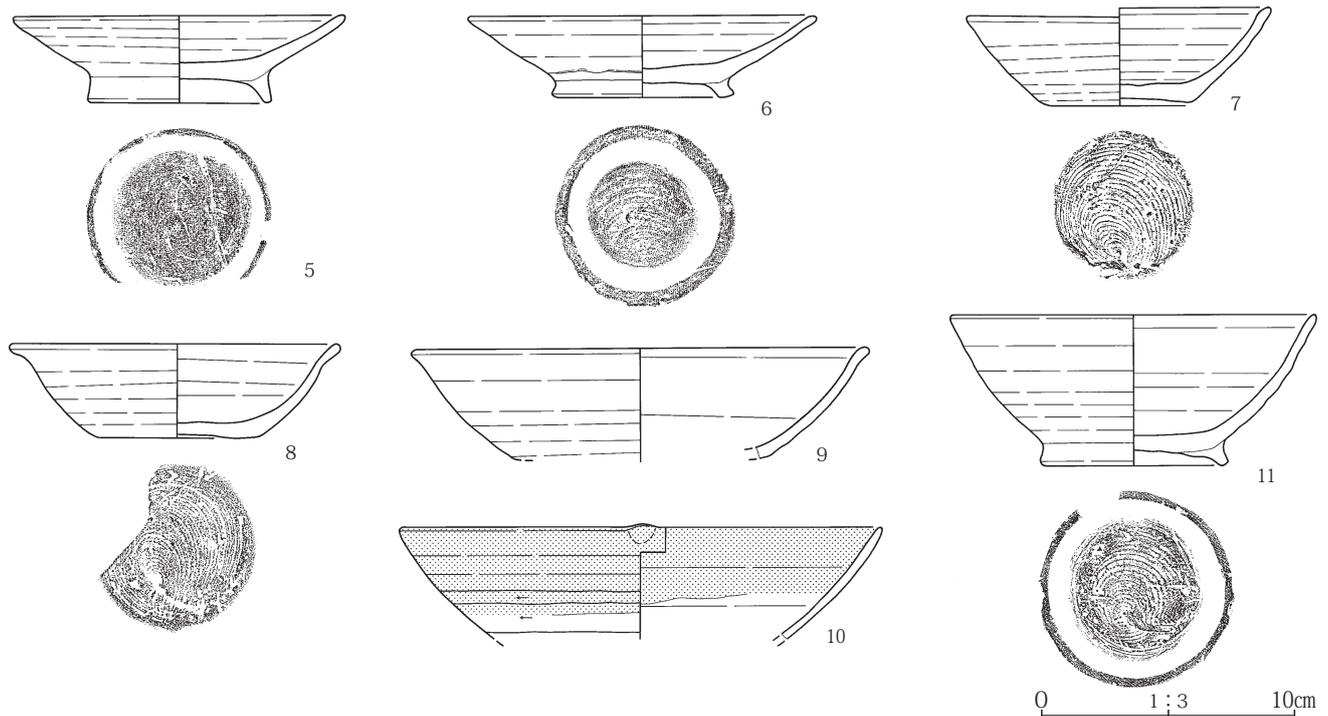
第399図 2区16号住居と出土遺物(1)



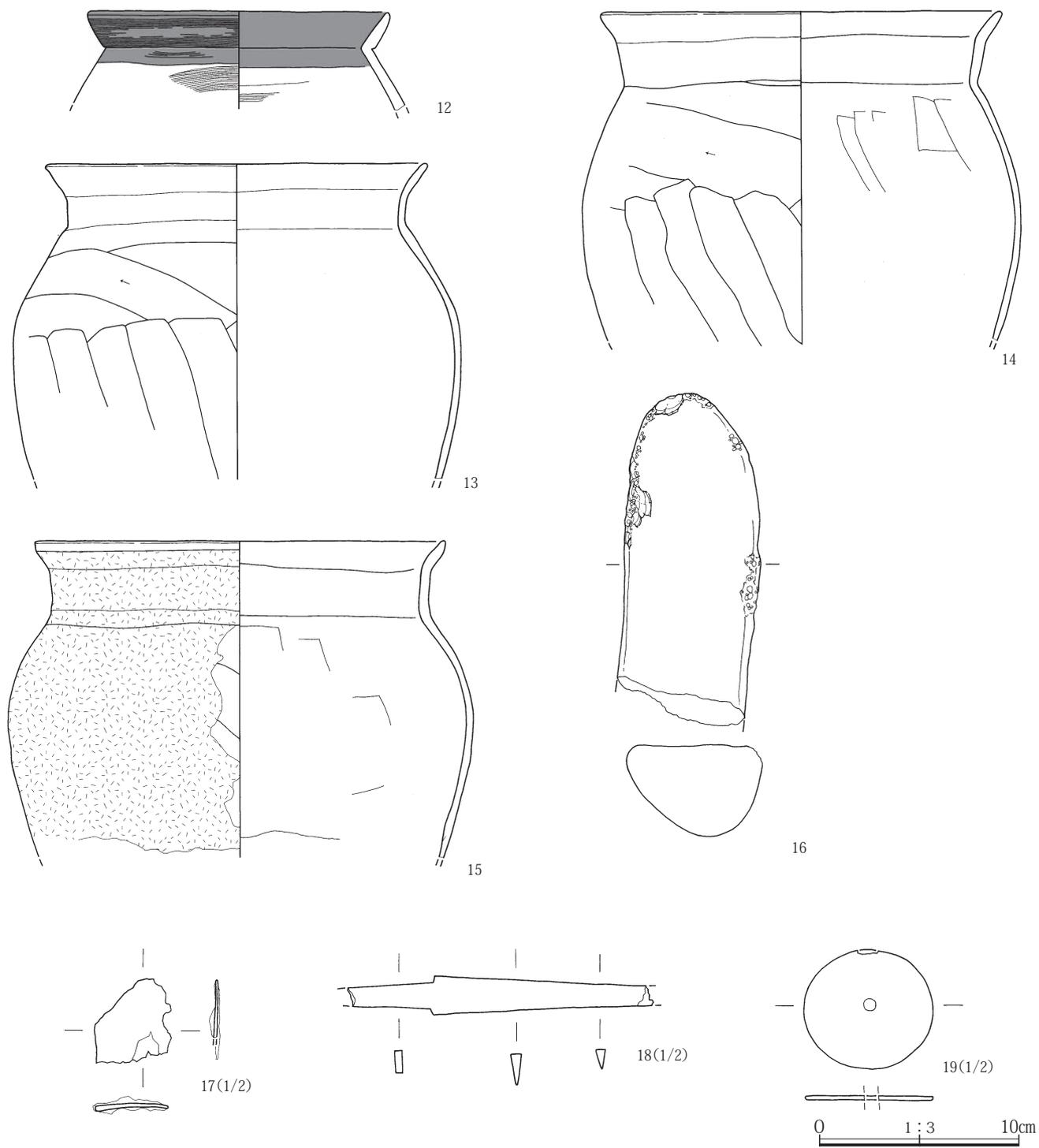
カマド

- 1 褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック微量に含む。
- 3 焼土
- 4 褐色土 ややしまりやや粘性弱い。炭化物少量、焼土小ブロック・ロームブロック含む。
- 5 褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土ブロック・灰色灰ブロック・ローム小ブロック含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子含む。

- 7 にぶい赤褐色土 ややしまり弱く粘性ない。焼土ブロック多量に含む。
- 8 褐色土 堅くしまる。黑色灰・焼土の薄層挟む。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック・炭化物粒子多量に含む。
- 10 黑色灰 焼土小ブロック含む。
- 11 焼土ブロック ややしまり弱くやや粘性弱い。黑色灰・ロームブロック含む。
- 12 焼土小ブロック+黑色灰 しまり弱い。ローム粒子含む。
- 13 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 14 焼土ブロック+ロームブロック しまる。炭化物少量に含む。
- 15 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 16 褐色土 焼土粒子少量、ロームブロック含む。
- 17 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック少量、黑色灰・焼土ブロック含む。
- 18 褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土小ブロック少量、炭化物・黑色灰少量に含む。
- 19 褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土小ブロック多量、炭化物・黑色灰少量に含む。



第400図 2区16号住居カマドと出土遺物(2)



第401図 2区16号住居出土遺物(3)

残る。中央部には遺物がやや多く集中する。

遺物 カマドの燃焼部から前面にかけて、土師器甕(13～15)が集中して出土する。住居の南半部でもやや多く遺物が出土し、土師器杯(1～3)、須恵器杯(8)、同碗(11)が出土する。鉄製品では埋没土から刀子(18)、紡錘車(19)が出土している。掲載遺物のほか土師器大型品13835g・同小型品3075g、須恵器大型品1075g・同小型品3095gが出土している。出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、コムギ種子イネ種子が少量、ブドウ属種子、オオムギ種子、オオムギーコムギ種子、イヌビエ属種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。

17号住居(第402・403図、P L .155・156・304、第5表)

位置 86M・N-17・18

重複 16号住居、8号溝より前出。

形態 ほぼ正方形。 **主軸方位** N-66°-E

規模 面積11.52㎡ 長軸3.71m、短軸3.65m 残存壁高28～33cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体に自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃焼部を住居内に持つ。燃焼部奥壁がやや焼土化し、底面からカマド前面に広く炭が分布する。両袖は褐色土を主体として構築する。全体規模は長さ177cm幅119cm、燃焼部は長さ65cm、袖焚口幅76cmで、確認面からの深さは25cmである。煙道部は長さ112cm最大幅25cm深さ17cmである。掘り方の深さは5cm程度である。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 主柱穴として3基が検出される。規模(長径・短径・深さcm)。P1:30・29・24、P2:26・23・24、P3:28・26・25

床 カマド前面、南東隅から北西隅近くまで広く硬化面が分布する。埋没土11・13は黒褐色土を主体とする貼り床である。

掘り方 カマド前面を台状に掘り残す形で、住居南東隅から北東隅までコの字形に20cm程度掘り込む。

遺物 住居の中央部にやや遺物が集中し、土師器杯(1～3・5・6)が多い。また、南西隅に菟編石20点が集中するのは特筆される(第5表)。掲載遺物のほか土師器大型品4270g・同小型品1475g、須恵器大型品140g・同

小型品260gが出土している。出土した炭化材は樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長13cmのコナラ属クヌギ節の割材と判明した。カマドなどで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子が少量、アカザ属種子、マメ科種子、オオムギーコムギ種子、キビ属種子、アワ種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

18号住居(第404図、P L .156・157)

位置 86K・L-4

重複 21号住居より前出で、1号竪穴状遺構より前出。

形態 重複により北半分が消滅するため平面形不明。

主軸方位 N-66°-W

規模 面積6.19㎡ 長軸(2.66)m、短軸2.63m

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 東辺のほぼ中央に設ける。燃焼部を住居の壁外に持つ。燃焼部の焼土化は弱い。両袖は残存しないが、芯材となる未固結凝灰岩が両側で出土する。燃焼部奥壁近くでも未固結凝灰岩が横倒しに出土するが、使用状態のままではない。全体規模は長さ(60)cm幅64cmで、確認面からの深さは10cmである。掘り方の深さは燃焼部で10cm程度である。

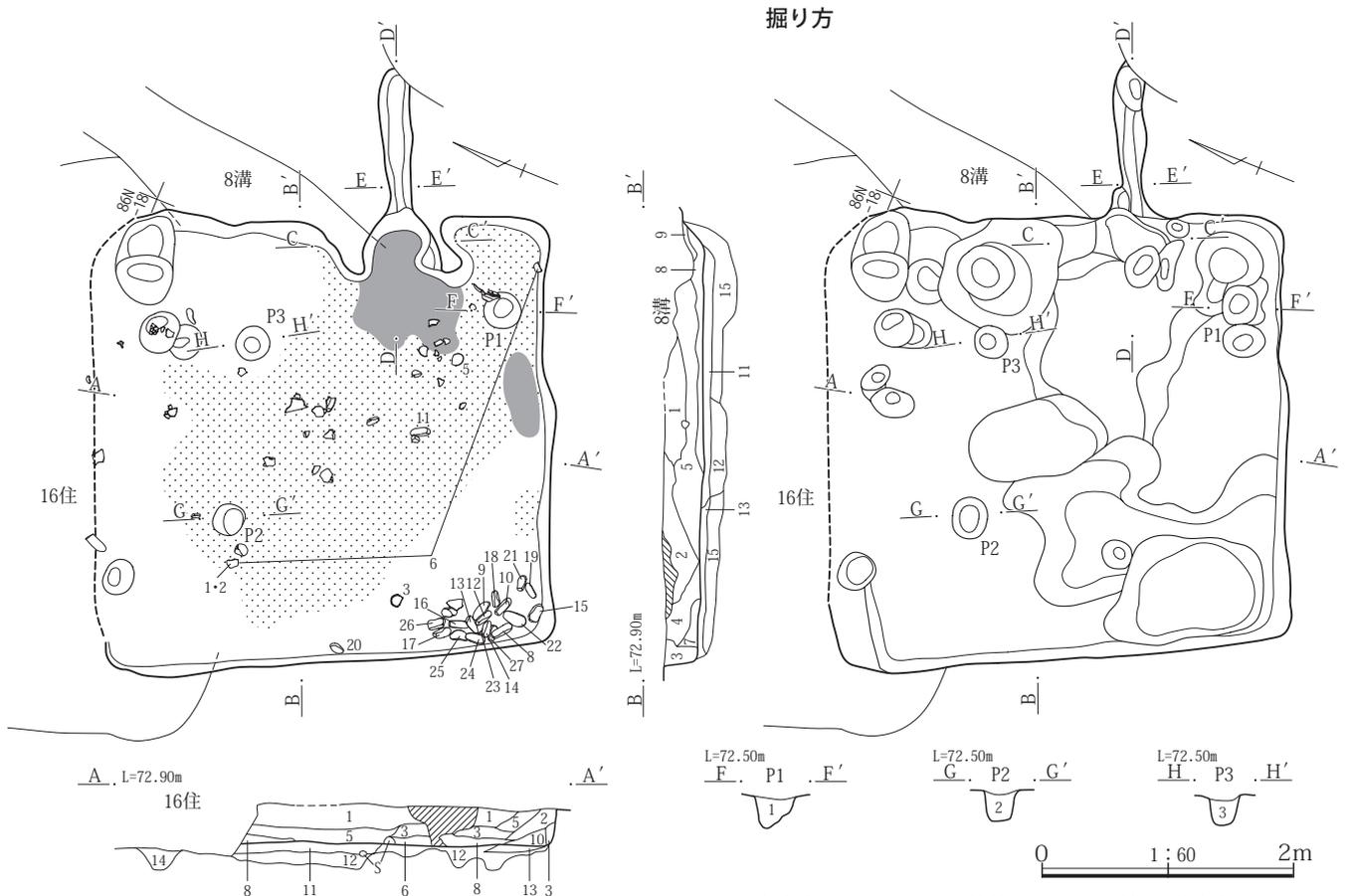
貯蔵穴 未検出。 **柱穴** 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に5cm程度掘り込まれ凸凹する。

遺物 S字甕1片を含む土師器大型品180g・同小型品60gが出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギーコムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。



- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロックごく多量に含む。
- 3 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子多量、焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物片含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量、炭化物大片含む。
- 7 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック・焼土小ブロック・炭化物粒子少量に含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 10 褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子多量に含む。

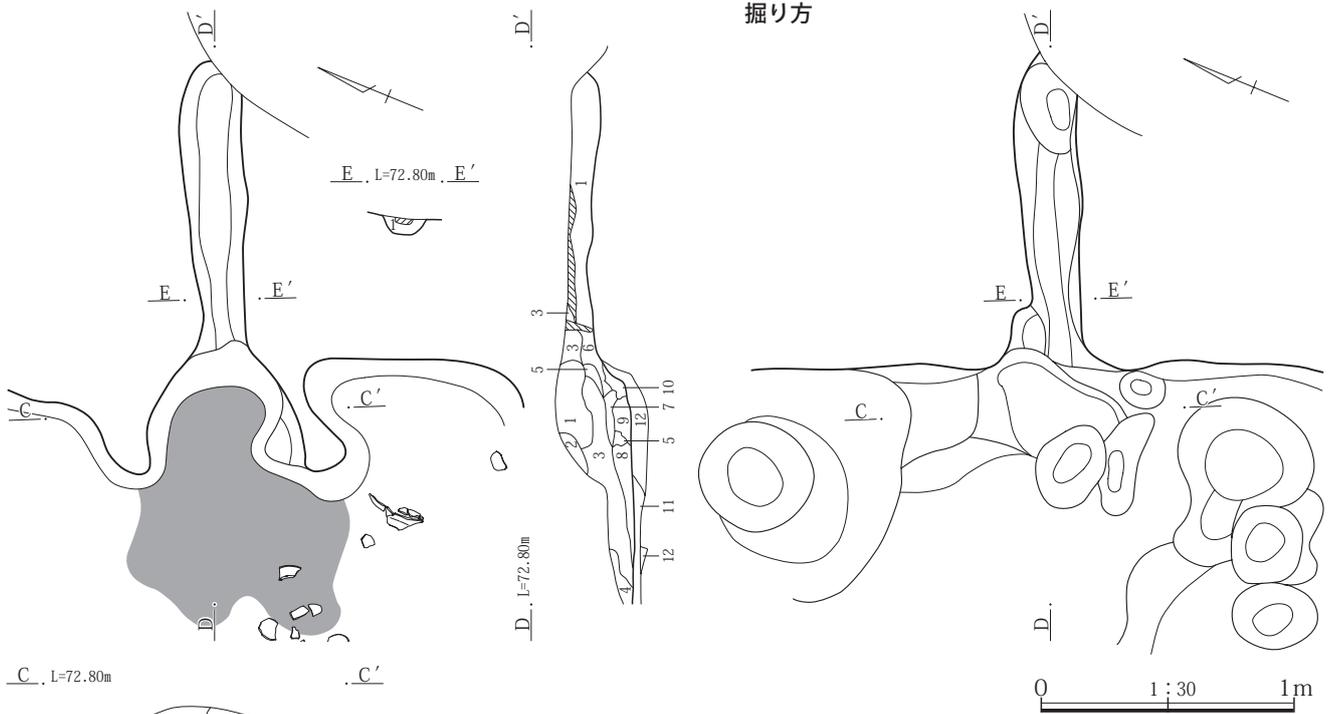
- 11 黒褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
 - 12 暗褐色土 しまり粘性強い。ロームブロックごく多量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
 - 13 黒褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子微量に含む。
 - 14 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子少量、ロームブロック少量、焼土粒子含む。
 - 15 暗褐色土+ロームブロック しまる。焼土小ブロック微量に含む。
- ピット
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
 - 2 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。

第402図 2区17号住居

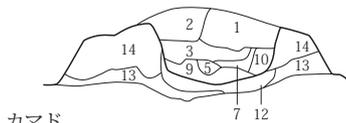
第5表 2区17号住居掘編石計測表

番号	出土位置	石材	幅	長	重量(g)
8	+5cm	粗粒輝石安山岩	5.4	17.2	792.3
9	床直	粗粒輝石安山岩	8.1	18	709.2
10	+3cm	変玄武岩	6.2	16.1	713.5
11	床直	粗粒輝石安山岩	6.7	15.9	716.1
12	+2cm	粗粒輝石安山岩	6.1	15.4	757.8
13	+2cm	変玄武岩	6.5	15.5	862.1
14	+3cm	粗粒輝石安山岩	6.9	14.3	637.7
15	+6cm	雲母石英片岩	6.9	14.2	862.8
16	+2cm	粗粒輝石安山岩	6.0	13.8	528.4
17	床直	石英閃緑岩	7.0	14.0	545.8
18	床直	粗粒輝石安山岩	5.4	13.9	429.4
19	床直	粗粒輝石安山岩	5.0	14.1	412.5
20	+21cm	粗粒輝石安山岩	5.5	10.9	257.7

21	+6cm	粗粒輝石安山岩	6.1	12.1	383.5
22	+5cm	流紋岩	9.7	18.5	1043.8
23	+3cm	粗粒輝石安山岩	8.0	13.9	491.8
24	+8cm	粗粒輝石安山岩	7.5	15.0	505.5
25	+2cm	粗粒輝石安山岩	8.5	15.9	843.5
26	床直	粗粒輝石安山岩	7.0	13.1	646.1
27	+3cm	粗粒輝石安山岩	6.8	12.5	523.5



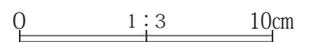
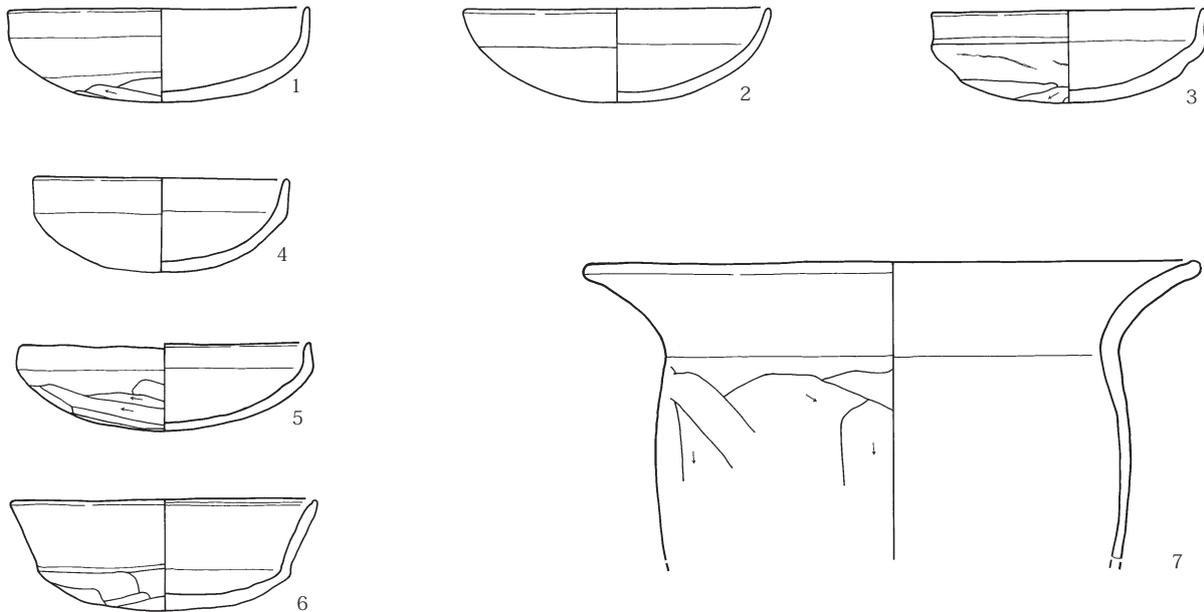
掘り方



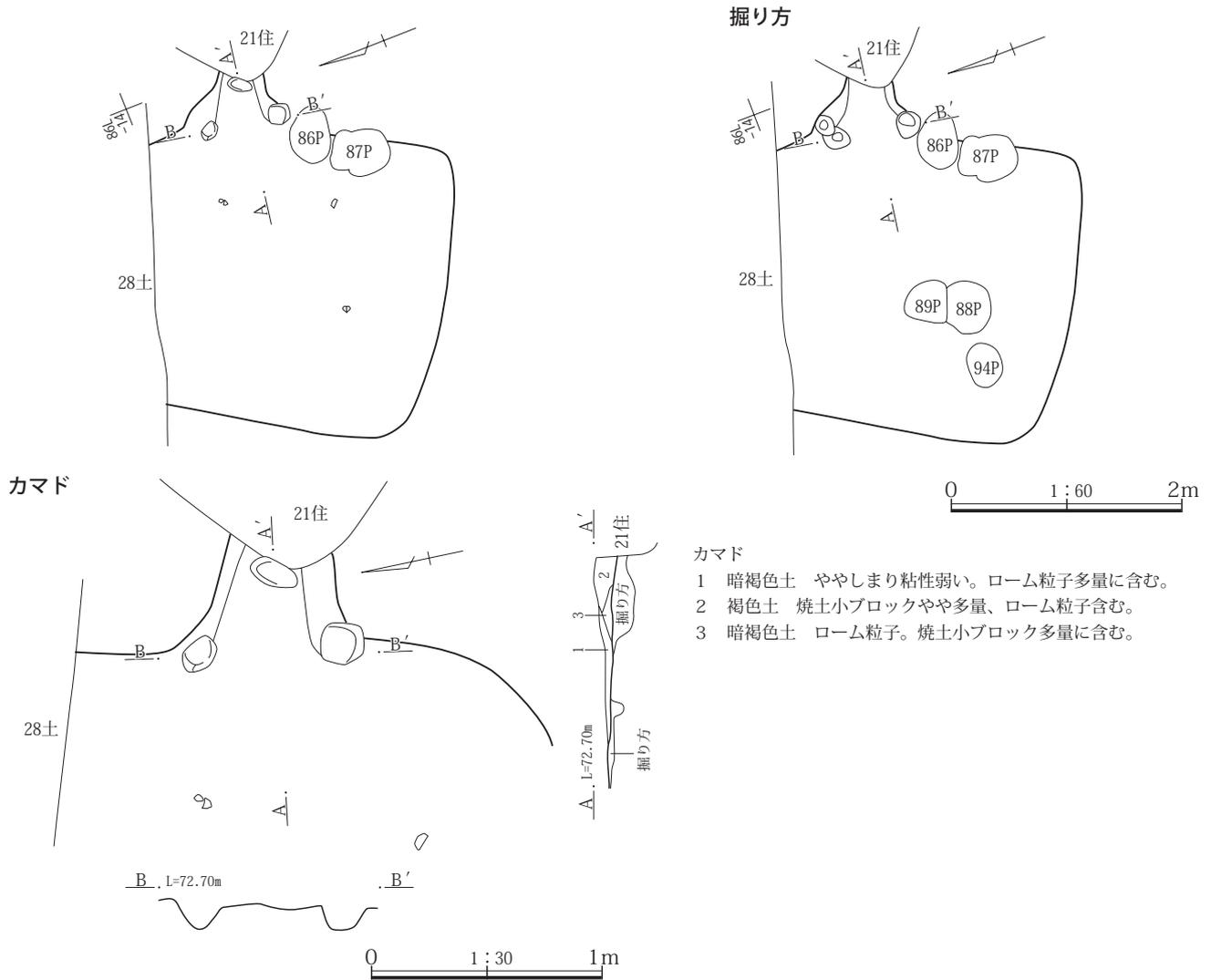
カマド

- 1 褐色土 天井。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・ローム小ブロック含む。
- 3 黄褐色土 下面は焼土化。天井崩落土。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 5 焼土ブロック
- 6 黄褐色土 焼土ブロック多量に含む。

- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。黒色灰・焼土小ブロック多量に含む。
- 8 褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土小ブロック・黒色灰ブロック含む。
- 9 黄褐色シルト 粘性ない。
- 10 黒褐色土 焼土小ブロック・黒色灰多量に含む。
- 11 黒色灰 しまる。
- 12 焼土ブロック+灰
- 13 暗褐色土+褐色土 しまりやや粘性強い。焼土ブロック含む。
- 14 褐色土 しまりやや粘性強い。内側は焼土化。



第403図 2区17号住居カマドと出土遺物



- カマド
- 1 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム粒子多量に含む。
 - 2 褐色土 焼土小ブロックやや多量、ローム粒子含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子。焼土小ブロック多量に含む。

第404図 2区18号住居

20号住居(第405図、P L.157・158・304)

位置 86N・O-18・19

重複 6・9号住居、8号溝より前出。

形態 重複により北側が消滅するため不明。

主軸方位 N-30°-E

規模 面積10.80㎡ 長軸(5.35)m、短軸4.32m 残存壁高3~11cm

埋没土 確認状態で床面が露呈していたため埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴 未検出。

柱穴 北東部で1基を検出する。規模(長径・短径・深さcm)P 1:38・35・27

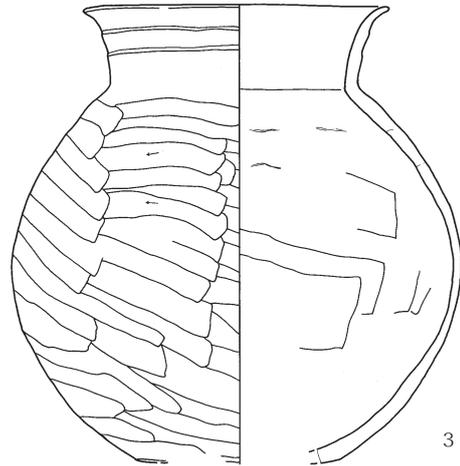
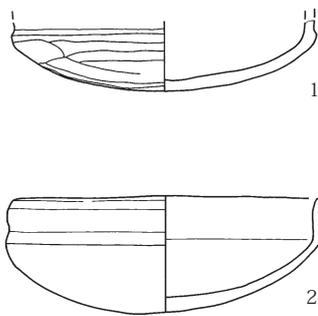
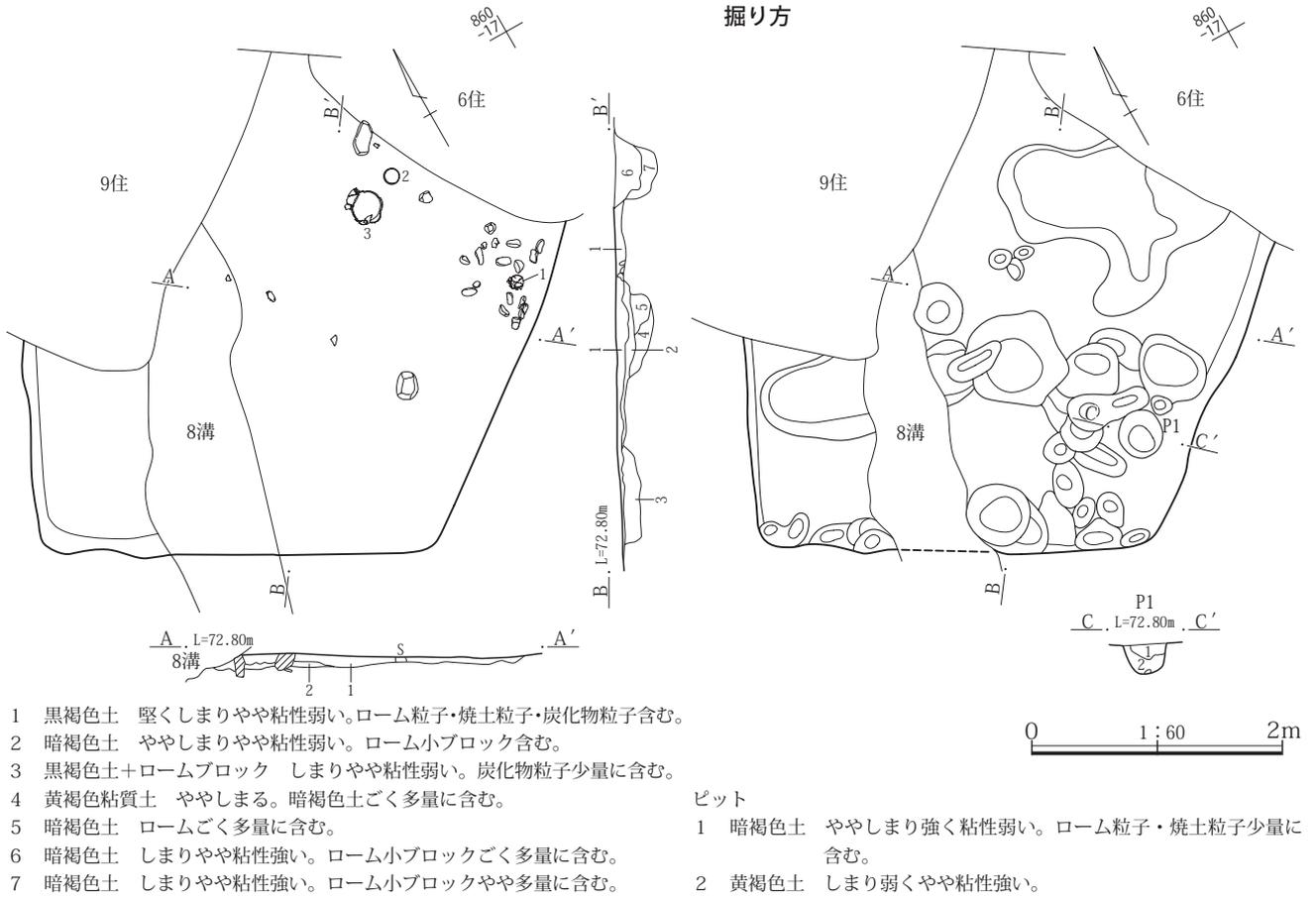
床 貼り床、硬化面は確認できないが、埋没土上位は堅くしまる。

掘り方 中央部および北端は土坑状に深さ30cm程度やや

深く掘り込まれる。周辺は浅く掘り込まれ凸凹する。

遺物 北側中央部の床面で、土師器杯(2)が正位に出土し、土師器甕(3)は横転して出土した。東壁際には10点程度の菰編石が集中し、土師器杯(1)も混じって出土した。掲載遺物のほか土師器大型品470g・同小型品160g、須恵器大型品3片・同小型品2片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。



第405図 2区20号住居と出土遺物

21号住居(第406図、P L.158)

位置 86K・L-13・14

重複 18号住居より後出で、29号土坑より前出。

形態 東半部が調査区域外となるが、ほぼ正方形である。

主軸方位 N-50°-E

規模 面積7.07㎡ 長軸3.66m、短軸3.49m 残存壁高16~26cm

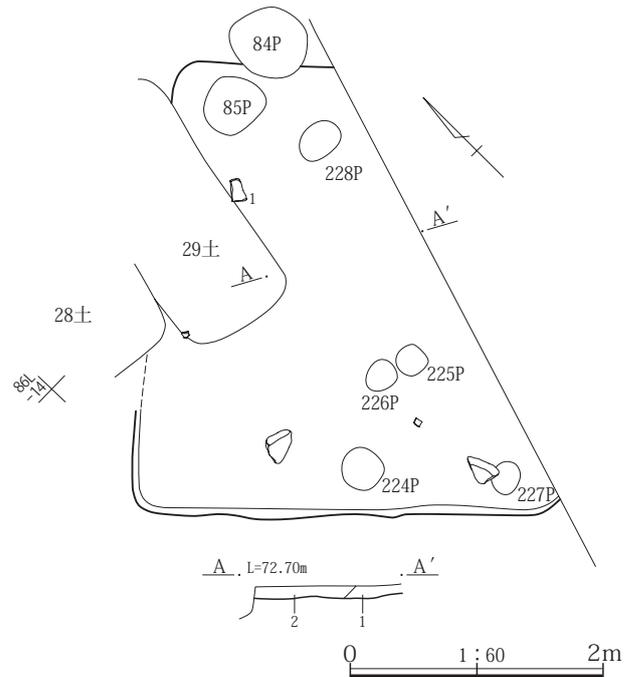
埋没土 残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

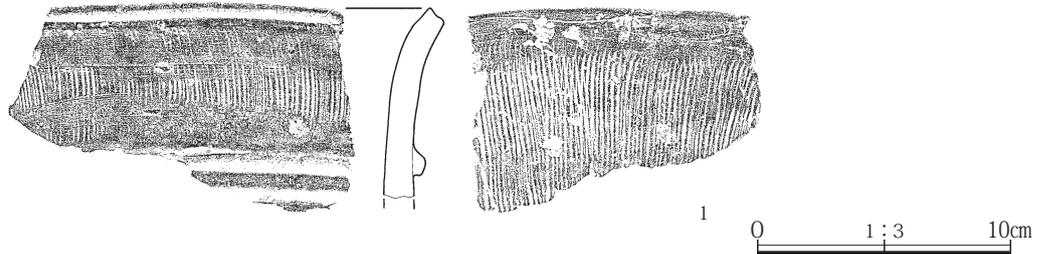
床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

遺物 北西部で埴輪片(1)が出土するが混入であろう。掲載遺物のほか土師器大型品445g・同小型品125gが出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。



- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量含む。浅間A軽石混入。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・ロームブロック含む。



第406図 2区21号住居と出土遺物

22号住居(第407図、P L.159・305)

位置 86J・K-2

重複 なし 形態 やや歪んだ正方形

主軸方位 N-18°-W

規模 面積10.49㎡ 長軸3.95m、短軸3.46m 残存壁高17~24cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

炉 中央部北寄りに設ける。確認状態で炭が広く分布するが、焼土は見られない。規模は長径65cm短径41cmで、掘り方も含めた深さは6cmである。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

内土坑 西壁際中央に設けられる。円形で最上位に炭が重なって広がる。規模は長径77cm短径62cm深さ48cmである。

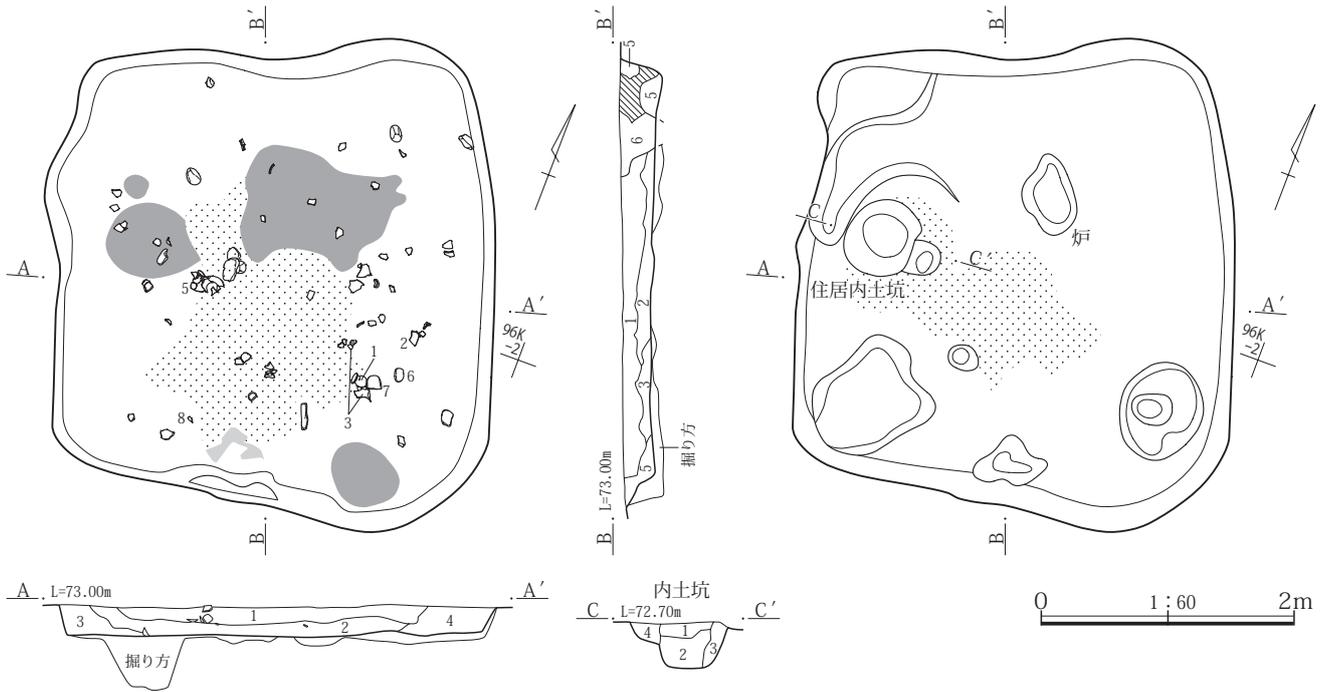
床 中央部から南壁近くに硬化面が確認される。

掘り方 北東部を除く隅付近を土坑状に掘り込み、周辺は浅く掘り込む。

遺物 住居全体に広がって出土する。南東部では土師器小型壺(1)、同壺(2)、同台付甕(3)、偏平礫(6)、礫砥石(7)が出土する。南西部では鉄鏝(8)が出土し、植物痕跡が残っていた。掲載遺物のほか土師器大型品2570g・同小型品320g、須恵器小型品2片が出土している。炉で出土した微量の種人類は、鑑定の結果(第5章第6項)、シソ属の可能性のある果実、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

掘り方

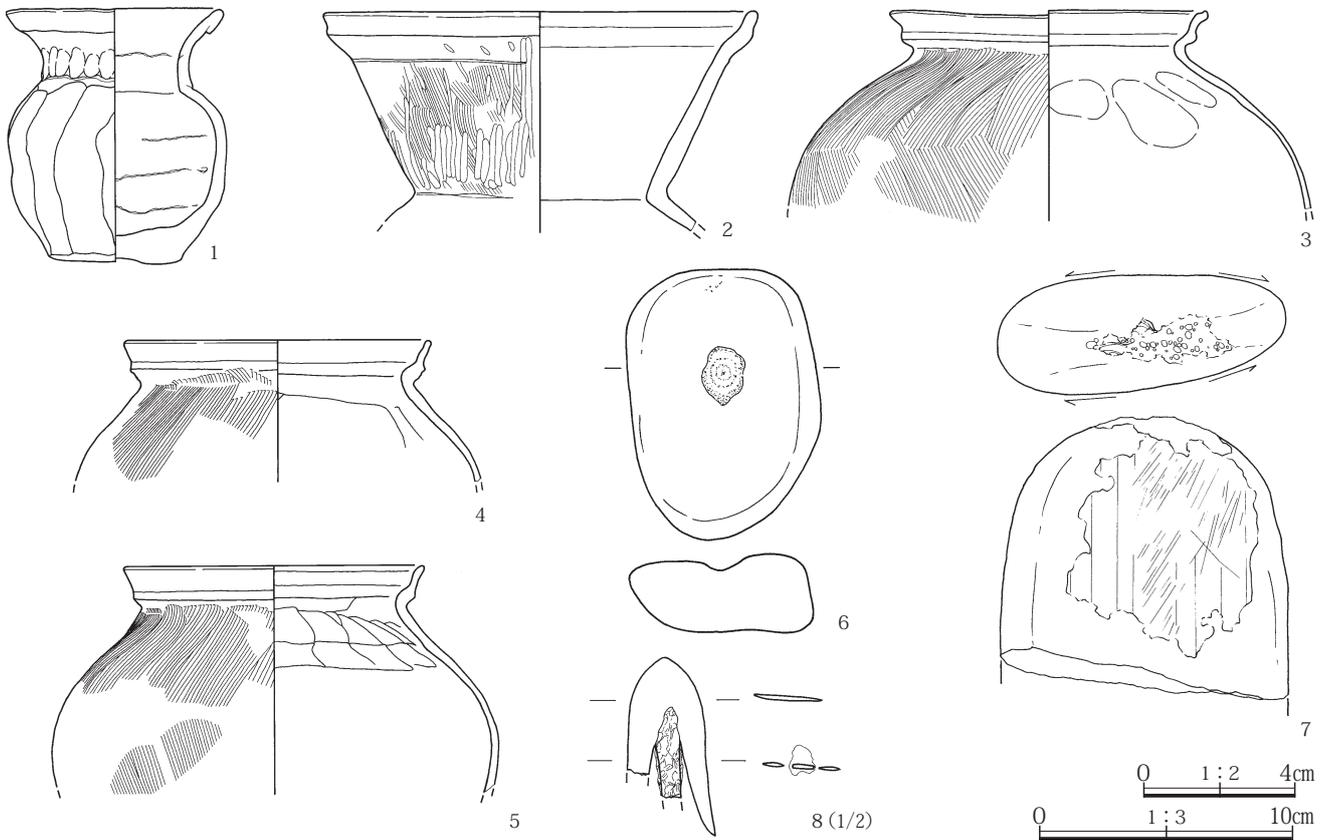


- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック少量、白色軽石やや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・焼土粒子・白色軽石含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子多量、白色軽石粒子・炭化物粒子含む。

- 5 黒褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 6 黒褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子含む。

住居内土坑

- 1 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子多量に含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 4 黒褐色土 堅くしまりやや粘性強い。黒褐色土をモザイク状に含む



第407図 2区22号住居と出土遺物

23号住居(第408図、P L.160)

位置 86J-19 重複 8号溝より前出。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-50°-E

規模 面積7.39㎡ 長軸3.04m、短軸2.90m 残存壁高 7~25cm

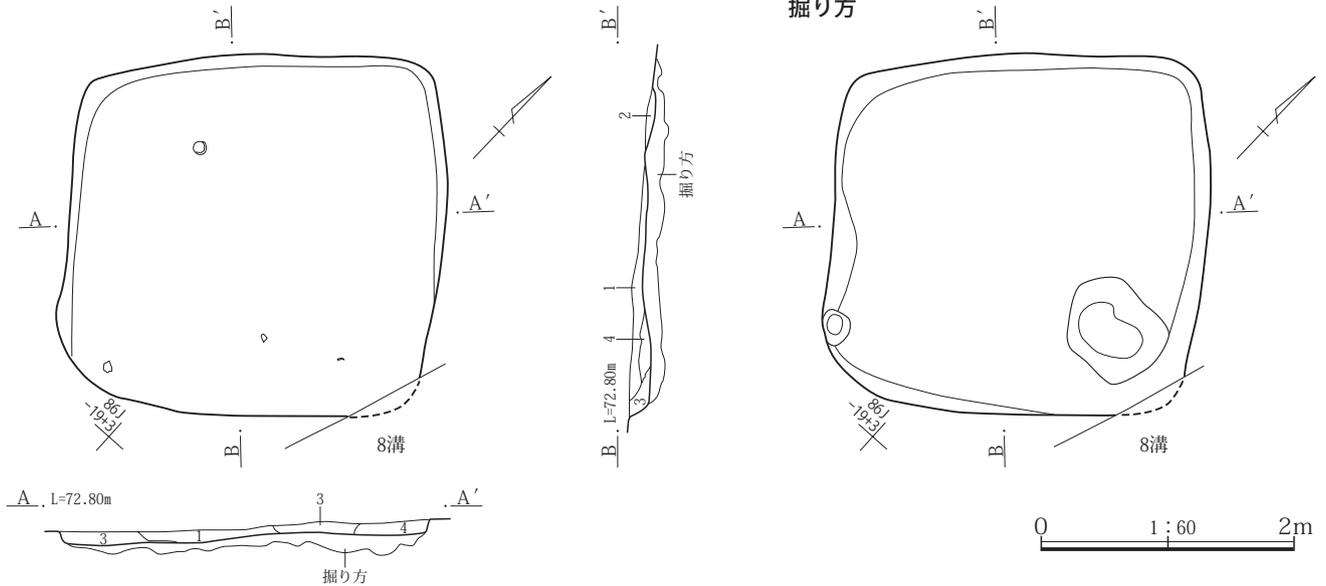
埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅い

ため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

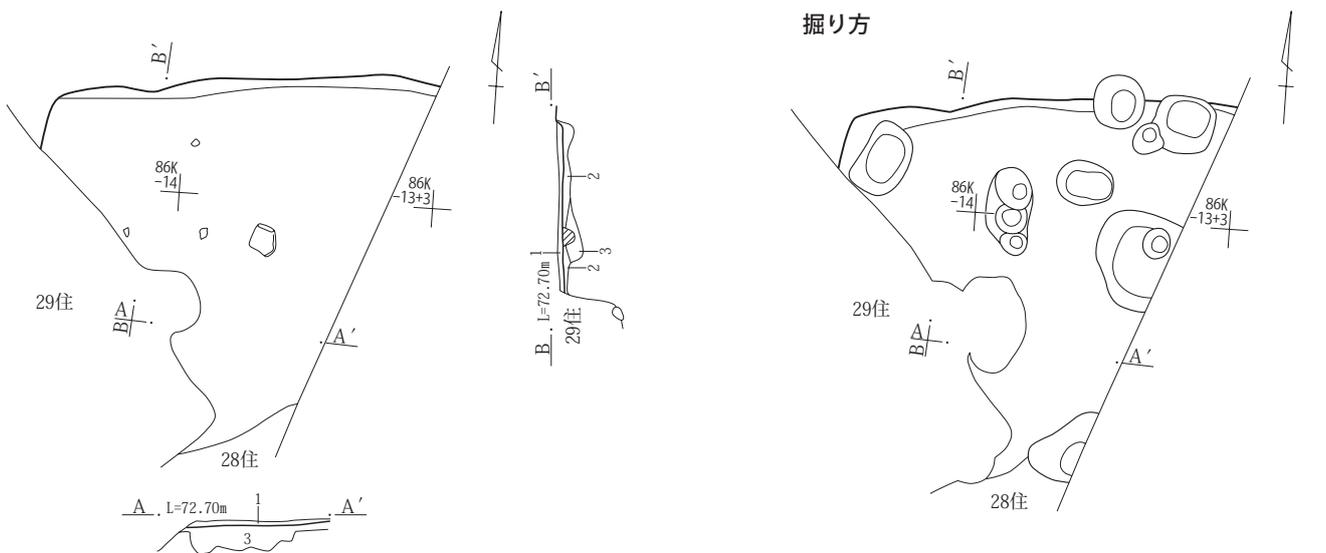
床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 北東隅を土坑状に掘り込み、全体に浅く掘り込み凸凹する。



- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量、焼土粒子少量に含む。</p> <p>2 黄褐色土 しまりやや粘性あり。暗褐色土をモザイク状に含む。</p> | <p>3 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子含む。</p> <p>4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。</p> |
|---|---|

第408図 2区23号住居



- | |
|---|
| <p>1 黒褐色土 ややしまり粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。</p> <p>2 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロックごく多量に含む。</p> <p>3 黄褐色土 しまりやや粘性あり。暗褐色土小ブロック含む。</p> |
|---|

第409図 2区24号住居

遺物 S字甕40gを含む土師器大型品490g・同小型品100gが出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

24号住居(第409図、P L.160・161)

位置 86 J・K-13・14 **重複** 28・29号住居より前出。

形態 重複などにより不明。 **主軸方位** N-86°-E

規模 面積4.90㎡ 長軸(3.15)m、短軸(3.01)m 残存壁高3~8cm

埋没土 黒褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できないが、埋没土2は堅くしまる。

掘り方 土坑状に掘り込むほか、全体に10cm程度掘り込む。北辺に重なるピット状の掘り込みは、後出する可能性も残る。

遺物 S字甕3片を含む土師器大型品262g・同小型品65g、須恵器大型品2片が出土している。ただし、これには25号住居の遺物も混じっている。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

25・28号住居(第410図、P L.161)

25号住居 **位置** 86 I・J-13・14

重複 28号住居より後出で、275号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 **主軸方位** N-8°-E

規模 面積2.17㎡ 長軸2.60m、短軸(1.25)m 残存壁高10~11cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 未検出。 **貯蔵穴** 未検出。 **柱穴** 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

遺物 埋没土から1の須恵器碗が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品295g・同小型品210g、須恵器大型品1片・同小型品42gが出土している。

時期 出土遺物から10世紀前半に比定される。

28号住居跡

位置 86 J-13・14

重複 25・29・30号住居より前出で、61号土坑と重複するが新旧関係不明。

形態 重複により大部分が消滅するため不明。

主軸方位 N-59°-E

規模 面積2.52㎡ 長軸(3.77)m、短軸(1.70)m 残存壁高9~17cm

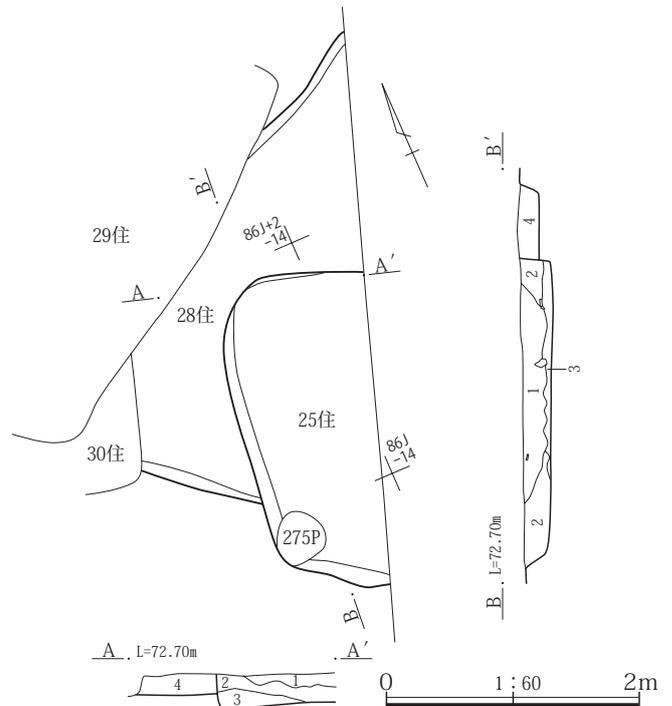
埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

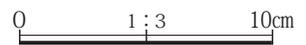
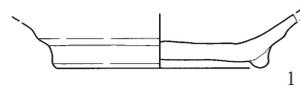
床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

遺物 S字甕1片が出土する。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量を含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック・ローム小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや砂質。ローム粒子・焼土粒子含む。



第410図 2区25・28号住居と25号住居出土遺物

26号住居(第411・413図、P L .162・305)

位置 86 I -14・15

重複 49号住居より後出で、482号ピットより前出。

形態 長方形。 主軸方位 N-51°-E

規模 面積6.24㎡ 長軸3.30m、短軸2.42m 残存壁高5~11cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 北東辺の中央東寄りに設ける。住居の壁面付近に燃焼部を持つ。燃焼部奥壁近くで炭・焼土がやや多く見られる。両袖とも残存が悪く、褐色土を主体に構築される。煙道部は不明確である。全体規模は長さ87cm幅132cm、袖焚口幅77cmで、確認面からの深さは12cmである。掘り方の深さは燃焼部で20cm程度である。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化面は確認できないが、埋没土6は堅くしめる。

掘り方 北東辺の北東隅を土坑状に掘り込み、全体は浅く掘り込む。

遺物 遺物はカマドから住居南西部に散漫に出土し、カマド左袖前で土師器杯(1)、中央から南西部床面で土師器杯(2)、須恵器杯(4)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1140g・同小型品570g、須恵器小型品4片が出土している。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

27号住居(第412・413図、P L .162・163・305)

位置 86 L・M-16・17 重複 154~158号ピットより前出。

形態 ほぼ正方形。 主軸方位 N-68°-E

規模 面積9.94㎡ 長軸3.65m、短軸3.20m 残存壁高6~7cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 東辺の中央に設ける。燃焼部を住居内に持つ。燃焼部の焼土化は弱い。両袖とも残存しない。全体規模は長さ100cm幅55cm、確認面からの深さは9cmである。掘り方の深さは燃焼部で15cm程度である。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 掘り方でピット状の落ち込みが多く見られるが、柱穴として認定されたものはない。後出するものも

含まれると思われる。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土3は堅くしまり水平に堆積する。東壁寄りに炭の分布が確認されるが、顕著ではない。

掘り方 埋没土は全体にロームブロックが目立つ。中央部を土坑状に30cm程度掘り込み、全体は壁際周辺を主体に掘り込まれる。

遺物 カマド左側前面で土師器甕(5)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1855g・同小型品330g、須恵器小型品2片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀に比定される。

29・30号住居(第413~415図、P L .163・164・305)

29号住居 位置 86 J・K-13・14

重複 24・28・30・32号住居より後出。

形態 長方形。 主軸方位 N-51°-E

規模 面積14.52㎡ 長軸4.50m、短軸3.64m 残存壁高9~24cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の南半部中央に設ける。燃焼部を住居の壁面周辺に持つ。燃焼部底面はやや焼土化し、前面にかけて炭が広く広がる。両袖とも残存状態が悪いが、左袖掘り方で土師器甕が倒立して出土するため、左袖の芯材として使用されたと考えられる。全体規模は長さ70cm幅128cm、袖焚口幅85cmで、確認面からの深さは18cmである。掘り方の深さは燃焼部で20cm程度である。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 四隅を結ぶ対角線上にほぼ一致して、柱穴3基を検出した。P1はカマドに近すぎて柱穴として有効ではない。規模(長径・短径・深さcm) P1:52・43・29、P2:44・39・20、P3:51・41・51

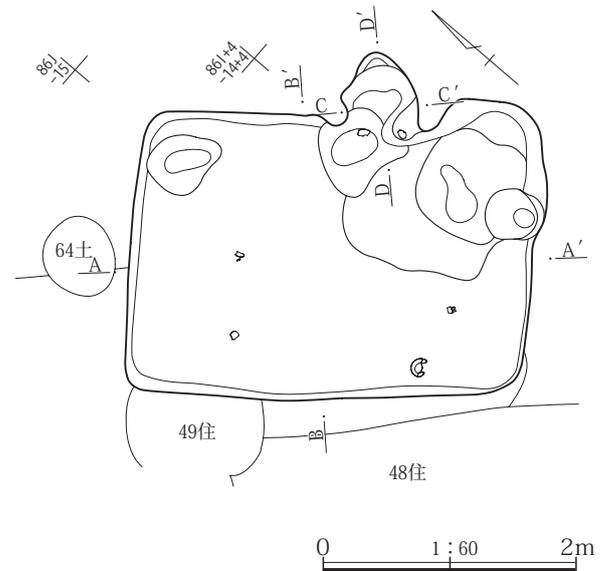
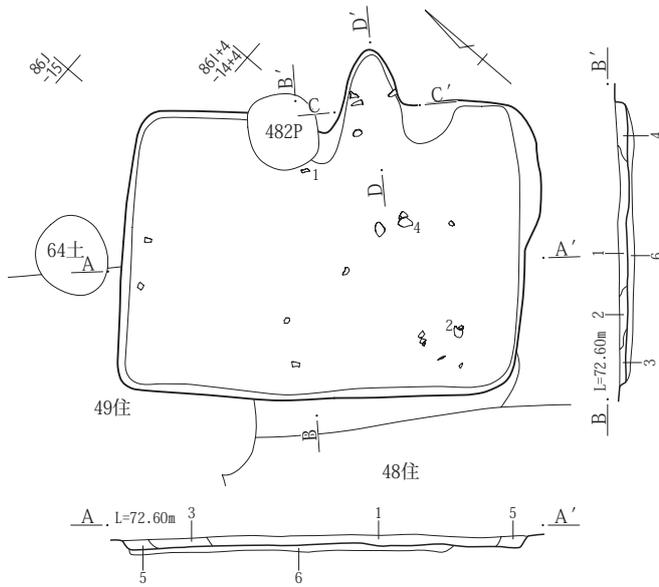
床 硬化面は確認できないが、埋没土8は堅くしめる。

床下土坑 北半部中央に設ける。平面形は円形。規模は長径174cm短径153cm深さ13cmである。

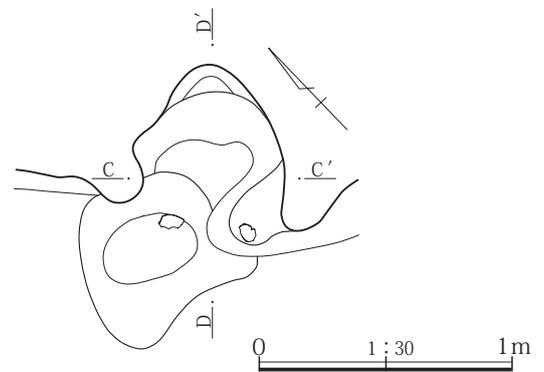
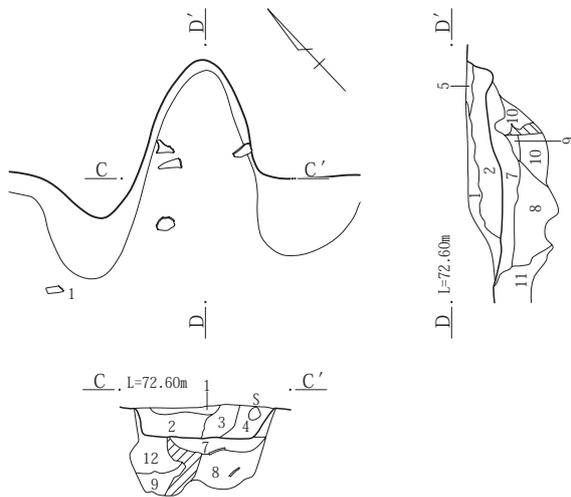
掘り方 中央部は土坑状に、全体に20cm程度掘り込まれる。

遺物 カマドを主として全体に遺物が出土し、土師器杯(7)、須恵器杯(8)が出土する。掘り方では土師器杯(6)、同甕(9)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品7500g・同小型品1670g、須恵器大型品320g・同小型

掘り方



掘り方



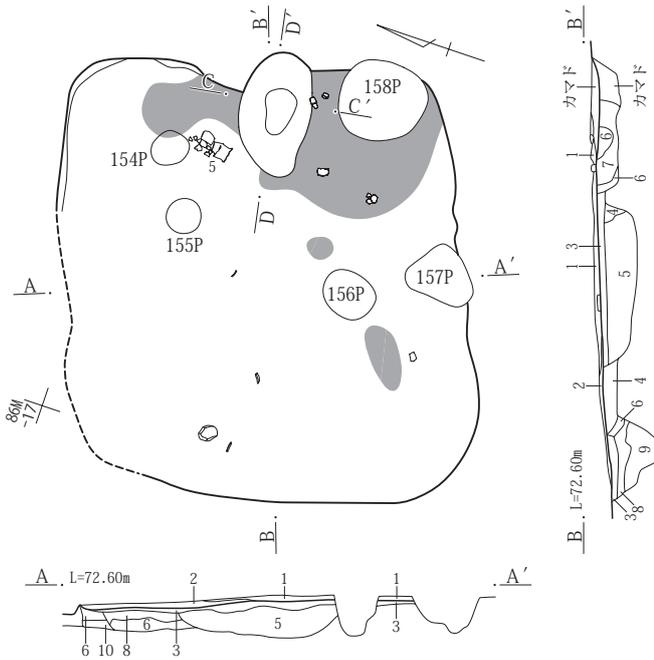
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・焼土粒子・炭化物多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子やや多量に含む。
- 3 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。YP・BPを多量に含む。
- 5 黒褐色土 ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 6 黒褐色土 堅くしまる。焼土ブロック・ロームブロック多量に含む。

カマド

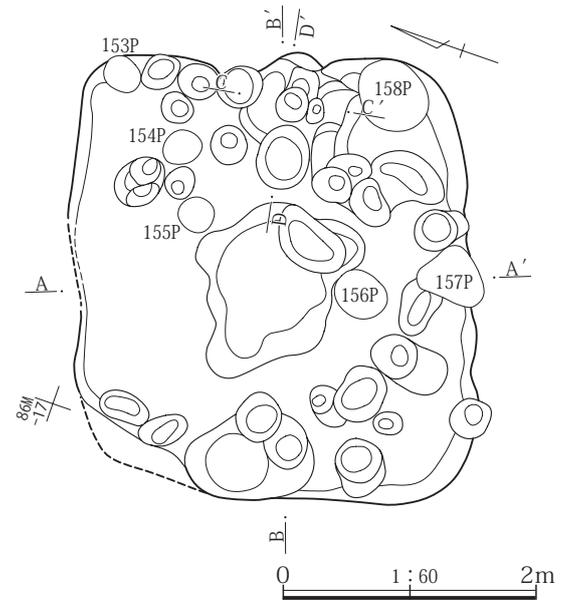
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・炭化物粒子多量、ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり粘性ない。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック多量に含む。
- 5 褐色土 ややしまり弱く粘性ない。焼土化する。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック含む。
- 7 黒褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・ロームブロック互層に、炭化物片含む。
- 8 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土小ブロック微量、炭化物片含む。
- 9 黒褐色土 しまりなくやや粘性あり。炭化物・灰少量、ローム粒子含む。
- 10 ロームブロック+黒褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・炭化物・灰ブロック少量に含む。

第411図 2区26号住居

掘り方

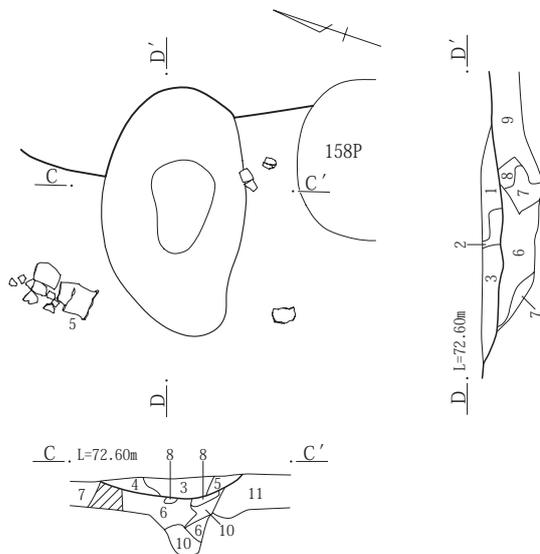


- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまる。ロームブロック・焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・焼土小ブロック含む。



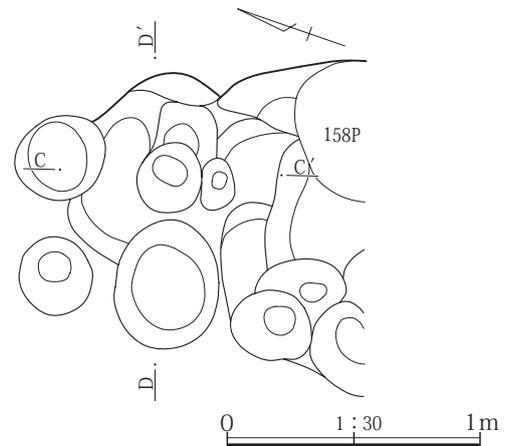
- 5 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ロームブロックやや多量、焼土粒子少量に含む。
- 6 黄褐色土 しまる。焼土小ブロック含む。
- 7 褐色土 しまる。焼土小ブロック少量に含む。
- 8 暗褐色土 しまり粘性強い。扁平なロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 9 暗褐色土 しまり粘性強い。ロームブロックやや多量に含む。
- 10 黒褐色土 しまり弱く粘性あり。ローム粒子少量に含む。

掘り方



カマド

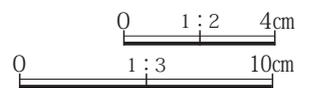
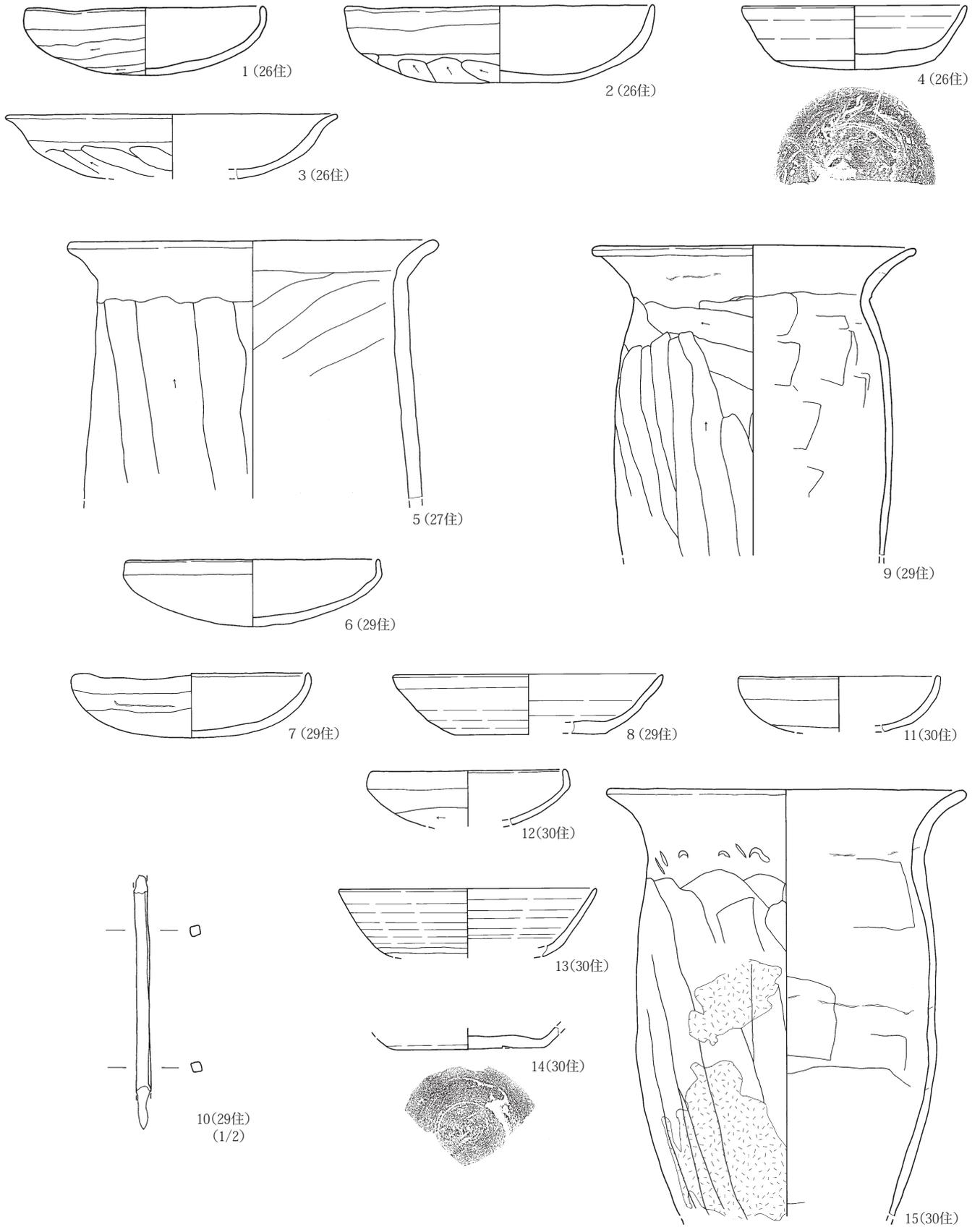
- 1 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 焼土ブロック+ロームブロック やや粘性あり。暗褐色土含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土小ブロック多量、炭化物粒子含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。



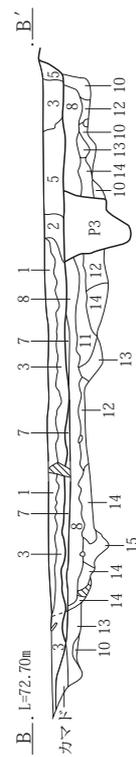
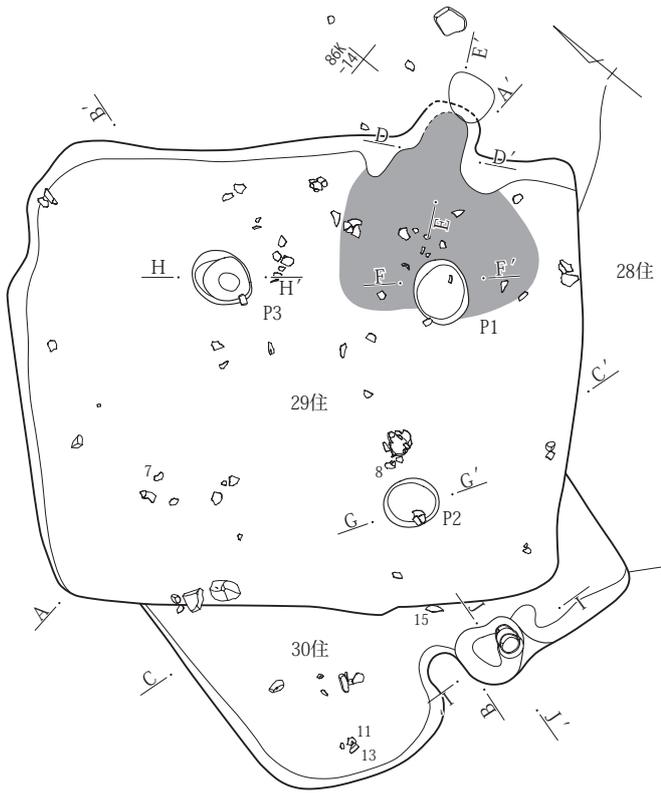
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ロームブロック少量、焼土粒子含む。
- 7 黄褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック少量に含む。
- 8 ロームブロック
- 9 明黄褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土小ブロック微量に含む。
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ロームブロック多量、焼土粒子含む。
- 11 褐色土 しまる。ローム粒子多量、炭化物粒子含む。

第412図 2区27号住居

第3節 2区の遺構と遺物

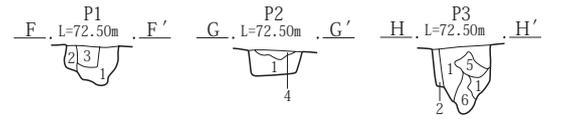
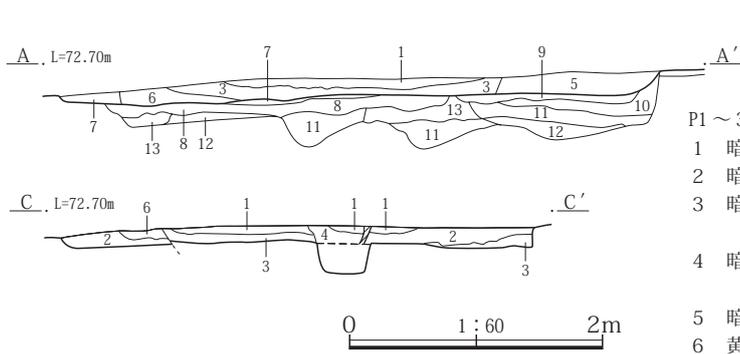


第413図 2区26・27・29・30号住居出土遺物



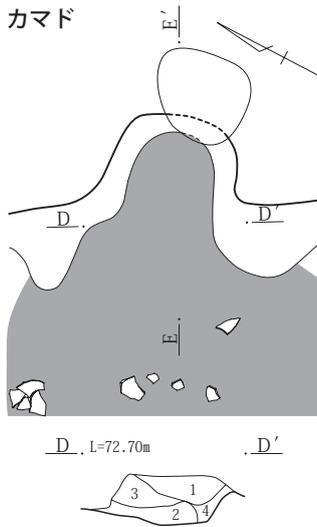
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土粒子少量、ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや砂質。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含む。
- 6 黒褐色土 ややしまり弱粘性弱い。焼土粒子・ローム粒子少量に含む。
- 7 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック含む。
- 8 暗褐色土 強くしまり粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 9 暗褐色土 強くしまり粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 10 暗褐色土+ローム 強くしまる。
- 11 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックやや多量、炭化物・黒色灰含む。縞状構造。
- 12 暗褐色土+ロームブロック 炭化物片・焼土小ブロック含む。
- 13 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 14 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
- 15 黄褐色土 ややしまり弱粘性弱い。

29号住居

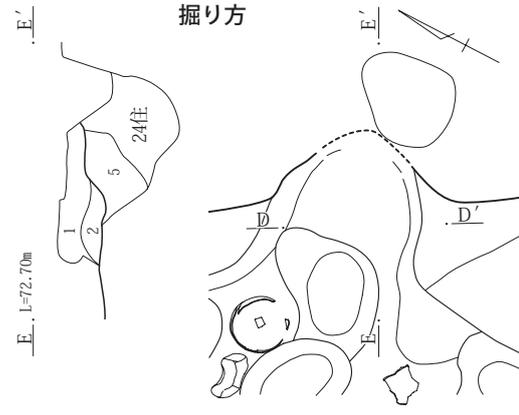


- P1~3
- 1 暗褐色土 ロームブロックやや多量に含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック多量、炭化物粒子含む。
 - 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。ローム粒子少量、浅間A軽石含む。
 - 4 暗褐色土 しまり強く粘性弱い。ロームブロックごく多量、軽石・焼土含む。
 - 5 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子少量、軽石含む。
 - 6 黄褐色土 ややしまり弱粘性非常に強い。ロームブロックごく多量に含む。

29号住居
カマド

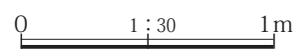


掘り方



カマド

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱粘性弱い。焼土ブロックごく多量、ローム小ブロック微量、黒色灰ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロックごく多量、ローム小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱粘性なし。灰色灰ブロック多量、焼土粒子含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物粒子少量、焼土小ブロック含む。



第414図 2区29・30号住居(1)

品55gが出土している。掘り方、床下土坑で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ果実、コムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

30号住居 位置 86J-14

重複 28号住居、61号土坑より後出で、29号住居より前出。

形態 大部分重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-13°-E

規模 面積2.71㎡ 長軸3.30m、短軸(2.26)m 残存壁高7~15cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体とするが、残存する

深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 南辺の中央に設ける。燃烧部を住居内に持つ。確認状態では焼土がやや見られるが、燃烧面は確認できず、完掘状態は掘り方に近い。両袖の残存状態は悪いが、左袖で土師器甕上部が倒置して出土するため、袖の芯材として使用された可能性が高い。全体規模は長さ56cm幅110cm袖焚口幅82cm、確認面からの深さは15cmである。

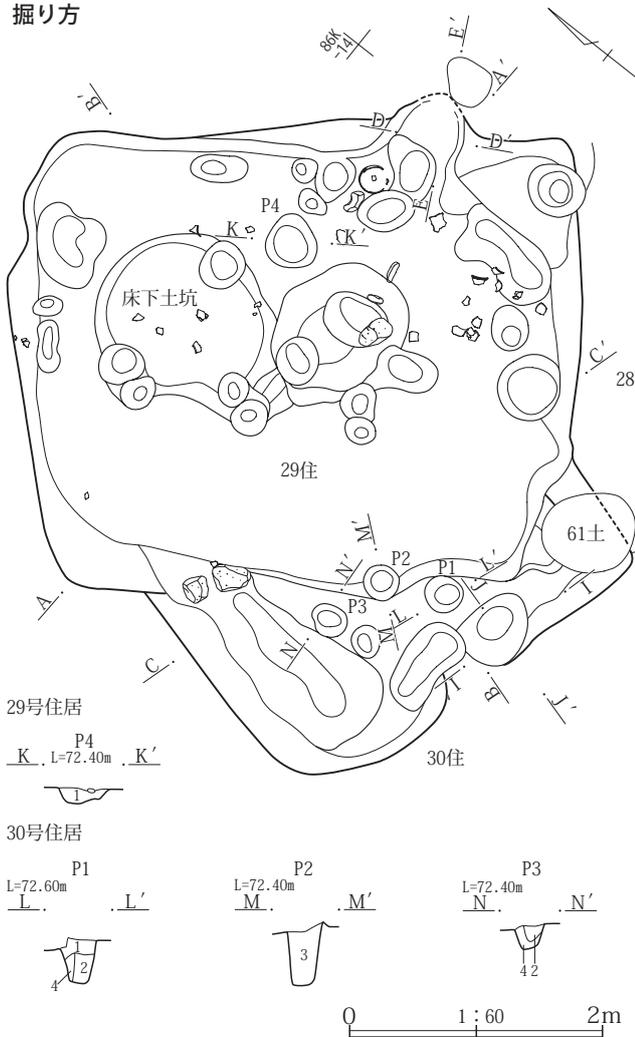
貯蔵穴 未検出。

柱穴 掘り方で柱穴3基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:30・28・33、P2:29・27・46、P3:30・25・22

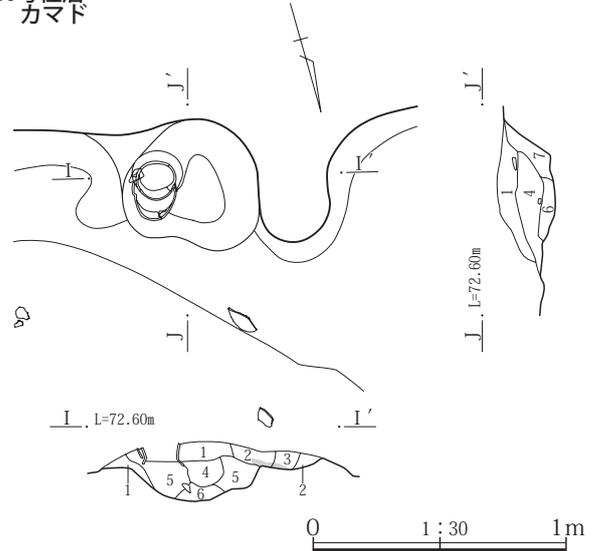
床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に浅く掘り込まれる。

掘り方



30号住居
カマド



カマド

- 1 褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック少量、炭化物粒子やや多量に含む。
- 2 褐色土 焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまる。砂粒やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック少量、炭化物粒子・ローム粒子多量に含む。
- 5 にぶい褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック・焼土粒子・灰色灰ブロック含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ロームブロック・炭化物・焼土粒子含む。
- 7 褐色土+暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。

ピット

- 1 褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 2 褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。
- 4 明黄褐色土 ややしまりやや粘性強い。褐色土ごく多量に含む。

第415図 2区29・30号住居(2)

遺物 カマド前面で土師器甕(14)、南西隅で土師器杯(10)、須恵器杯(12)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品460g・同小型品90g、須恵器小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

31号住居(第416図、P L.165)

位置 86K-14・15

重複 32号住居より後出で、11号掘立柱建物P7・8より前出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-9°-E

規模 面積4.48㎡ 長軸3.11m、短軸2.11m 残存壁高32~40cm

埋没土 暗褐色土の埋没土にローム小ブロックが目立つため、人為埋没の可能性がある。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 埋没土5層上面で、平面的に炭が広がり、埋没土5も非常に堅くしまるため、床面と認定されるが、掘り方底面も非常に平坦で、一時的に使用面であった可能性もある。

掘り方 深さ約30cmで平坦に掘られる。埋没土はロームブロックを多量に含む暗褐色土で、短期間に埋められる。

遺物 埋没土から須恵器杯(1)、土師器甕(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品840g・同小型品200g、須恵器大型品2片・同小型品50gが出土している。

時期 出土遺物から8世紀中頃に比定される。

所見 床面に相当する面が掘り方底面も合わせて2面あり、通例の住居ではなく、竪穴状遺構と思われる。形態から中世段階とも考えたが、中世遺物は含まれない。

32・33号住居(第417図、P L.165・166)

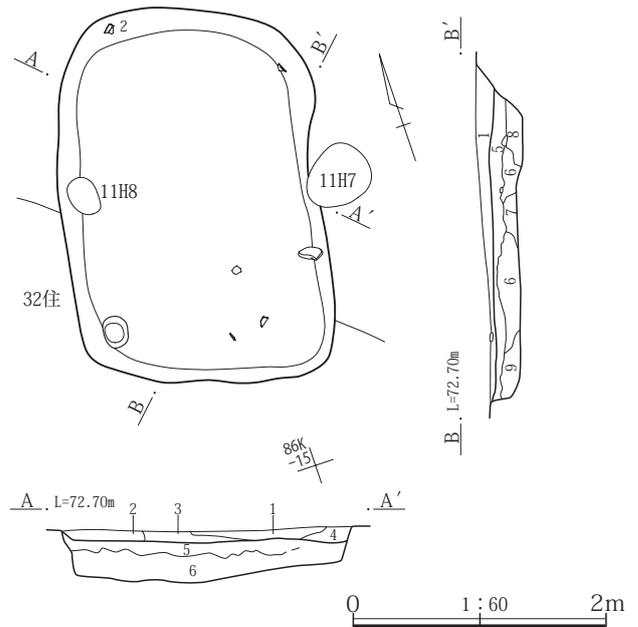
32号住居 **位置** 86J・K-14・15

重複 33号住居より後出で、29・31号住居より前出。多くのピットと重複し、概ね後出のものと考えられる。

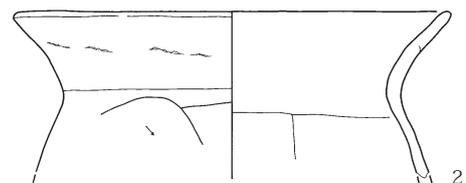
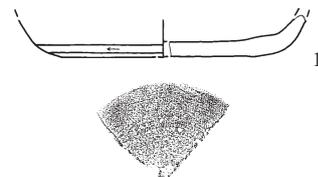
形態 長方形。 **主軸方位** N-45°-W

規模 面積13.56㎡ 長軸4.43m、短軸4.0m 残存壁高3~9cm

埋没土 黒褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

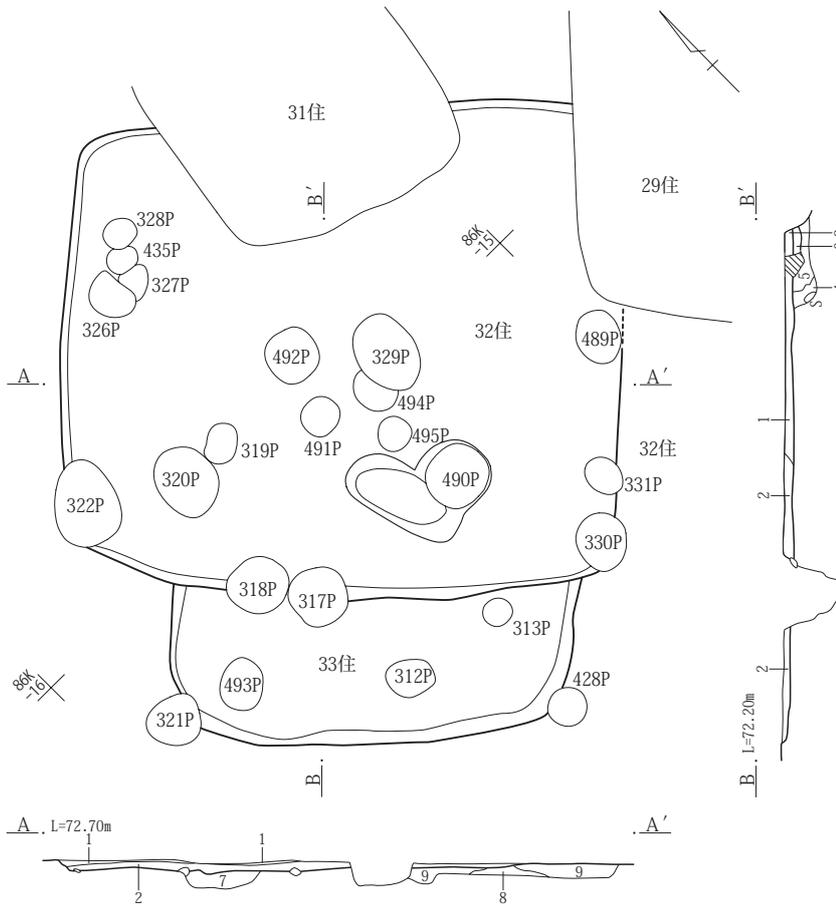


- 1 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、焼土粒少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子多量、小円礫やや多量、焼土粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 非常に堅くしまる。扁平なロームブロック・炭化物・焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土+ローム小ブロック しまりやや粘性あり。黒褐色土ブロック含む。
- 7 黄褐色土 堅くしまり粘性強い。暗褐色土ブロック少量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロックごく多量、黒褐色土ブロック含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム小ブロック多量、焼土小ブロック少量、炭化物大片含む。



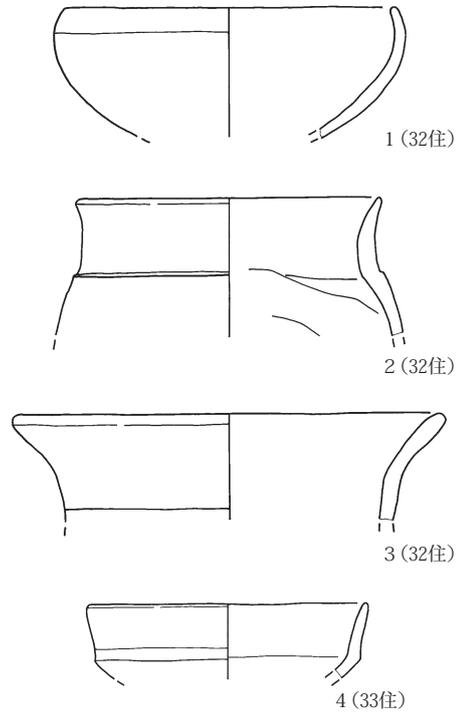
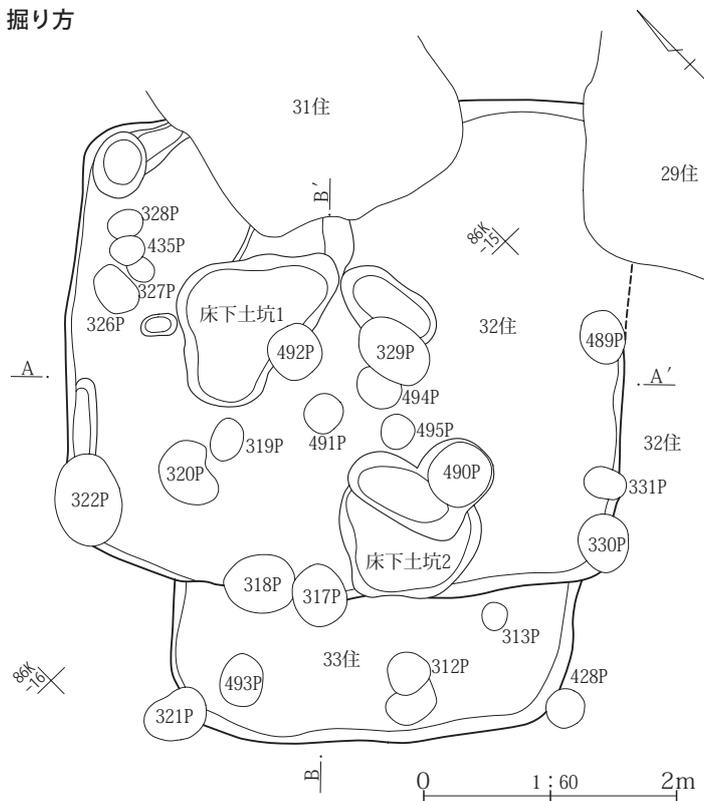
0 1:3 10cm

第416図 2区31号住居と出土遺物



- 1 黒褐色土 堅くしまる。焼土小ブロック少量、炭化物粒子やや多量に含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量、焼土粒子少量に含む。
- 3 明褐色土+ロームブロック 堅くしまる。
- 4 ロームブロック+焼土粒子 堅くしまる。
- 5 明褐色土 焼土ブロック・黒色灰多量、ロームブロック含む。
- 6 明褐色土 焼土ブロック多量、ロームブロック少量に含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ロームブロックごく多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 8 黄褐色土 堅くしまり粘性あり。焼土小ブロック微量に含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック炭化物粒子、焼土小ブロック含む。

掘り方



0 1:3 10cm

第417図 2区32・33号住居と出土遺物

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土にロームブロックが目立ち良くしまる。

床下土坑1 中央西寄りに設ける。平面形は不定形で、ロームブロックを多く含む暗褐色土で埋まる。規模は長軸152cm短軸95cm深さ15cmである。

床下土坑2 南端中央部に設けられる。平面形は方形に近い。規模は長軸114cm短軸108cm深さ33cmである。

掘り方 床下土坑部分を除くと、全体に浅い。

遺物 埋没土から土師器鉢(2)、掘り方から土師器杯(1)、同甕(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品415g・同小型品115gが出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

33号住居 位置 86J-15

重複 32号住居より前出。重複するピットも後出のものとみられる。

形態 大部分重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-45°-W

規模 面積3.10㎡ 長軸3.25m、短軸(1.30)m 残存壁高1~2cm

埋没土 確認状態ですでに床面が露呈しており不明。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。削平されている可能性もある。

遺物 掘り方から土師器杯(4)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品50g・同小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

34号住居(第418・420図、P L .166・167・305)

位置 86H・I-14・15

重複 48号住居より後出で、292号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 東半部が調査区域外となるため不明。

主軸方位 N-54°-E

規模 面積9.43㎡ 長軸5.20m、短軸(3.84)m 残存壁高19~27cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体に自然埋没する。

カマド 未検出。南東部の張り出しは一部ではない。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 主柱穴であるP1・2を含め9基が検出された。規模(長径・短径・深さcm)。P1:49・41・36、P2:55・(17)・36、P3:37・32・20、P4:42・38・23、P5:43・37・38、P6:43・42・26、P7:19・19・28、P8:23・22・26、P9:41・(28)・36

床 貼り床の範囲は確認されていないが、埋没土5の上位に貼り床状の黄褐色土が認められる。

掘り方 全体に10cm程度平らに掘り込まれる。

遺物 遺物は南半部にやや集中する。床面近くで土師器杯(2)、P1から須恵器蓋(3)、P6から須恵器杯(4)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品3505g・同小型品1940g、須恵器大型品3片・同小型品435gが出土している。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

35号住居(第419・420図、P L .167・306)

位置 86L-18・19

重複 36号住居より後出で、43・59号土坑、2・8号溝より前出。273・323号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 削平が著しく不明。主軸方位 N-62°-E

規模 面積9.36㎡ 長軸5.23m、短軸(2.72)m 残存壁高7~12cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 主柱穴2基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:64・58・55、P2:76・70・51

床 確認状態で床面が露呈し、硬化面は確認できない。

掘り方 壁面に沿って浅く溝状に掘り込み、北東隅は広く掘り下げる。

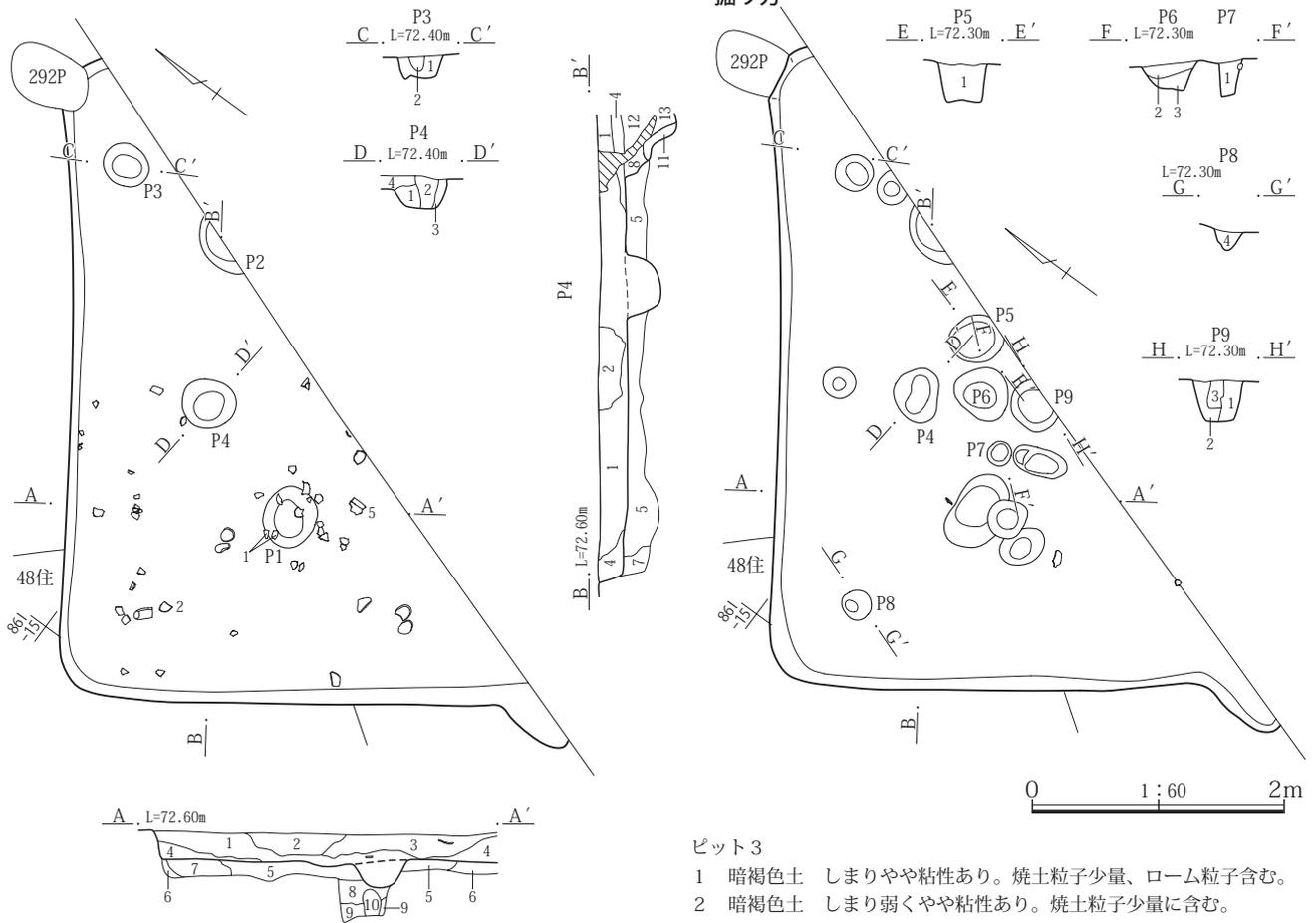
遺物 8号溝と重複する部分で、6の土師器杯が出土する。あるいは混入の可能性もある。掲載遺物のほか土師器大型品880g・同小型品320g、須恵器大型品1片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半以降に比定される。

36号住居(第420・421図、P L .168)

位置 86K・L-18・19

重複 35号住居、43号土坑より前出で、54号土坑、484号ピットと重複するが新旧関係不明。10号掘立柱建物P



- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり粘性あり。焼土粒子・ローム粒子少量に含む。
- 3 黒褐色土 しまり強い。焼土ブロック・ローム粒子多量、炭化物片含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。焼土粒子・ローム粒子含む。
- 5 褐色土 非常に堅くしまり粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物片含む。
- 6 ロームブロック
- 7 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。
- 8 褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックやや多量、炭化物片含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 10 暗褐色土 しまりなし。
- 11 暗褐色土 しまり弱くやや粘性強い。ローム小ブロック・焼土粒子多量に含む。
- 12 褐色土 ロームブロック微量に含む。
- 13 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量、ローム粒子やや多量に含む。

ピット3

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子少量、ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土粒子少量に含む。

ピット4

- 1 褐色土 堅くしまり粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子含む。
- 4 褐色土 非常に堅くしまり粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物片含む。

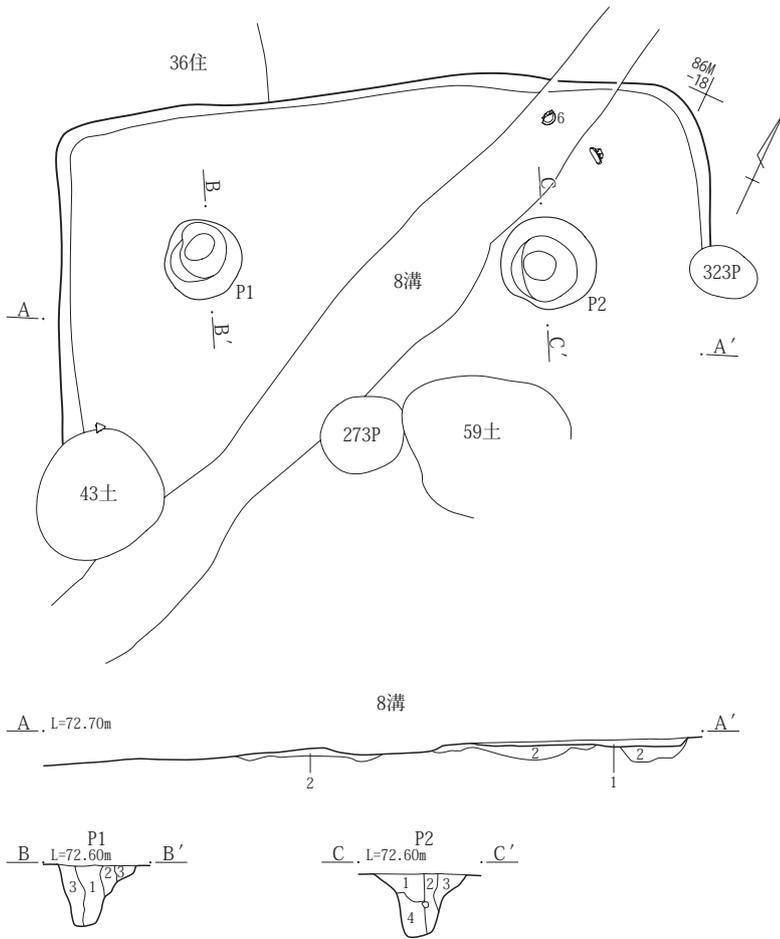
ピット5～8

- 1 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームごく多量、黒褐色土少量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 黄褐色土 ややしまりやや粘性あり。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。

ピット9

- 1 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量、焼土粒子少量に含む。
- 3 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック少量、炭化物含む。

第418図 2区34号住居



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロック多量に含む。

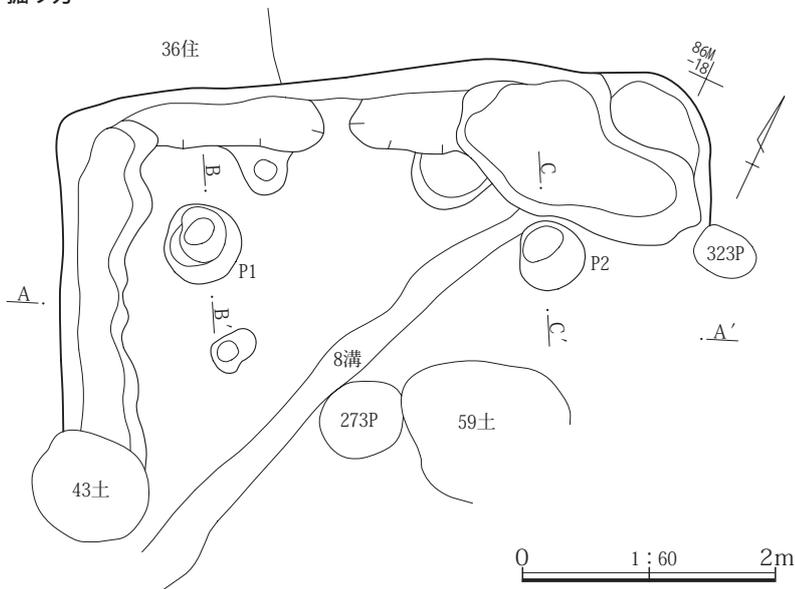
ピット1

- 1 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。ローム小ブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 3 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。

ピット2

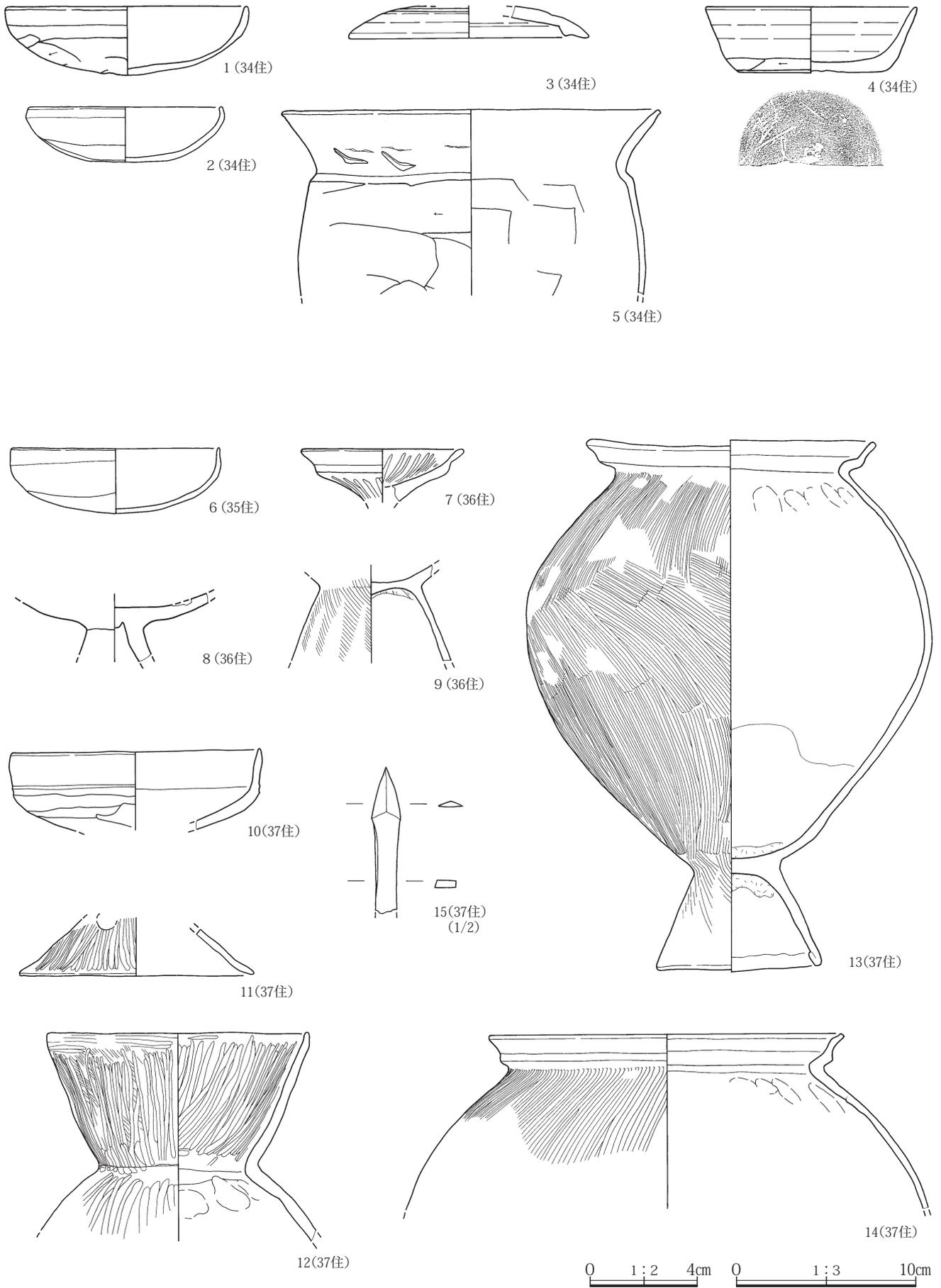
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子・ローム粒子含む。
- 2 ロームブロック しまりやや粘性あり。黒褐色土含む。
- 3 暗褐色土+ロームブロック ややしまりやや粘性あり。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。

掘り方



第419図 2区35号住居

第3節 2区の遺構と遺物



第420図 2区34～37号住居出土遺物

第4章 発掘調査の記録

4・5は掘り方段階で確認されている状況から、本遺構より前出の可能性が高い。

形態 長方形。 **主軸方位** N-65°-E

規模 面積29.06㎡ 長軸6.58m、短軸6.09m 残存壁高3cm

埋没土 確認段階で床面が露呈していたことから、埋没土は不明である。

炉 中央北西寄りに設けられる。平面形は長方形に近く、やや丸みを持つ。底面が弱く焼土化する。規模は長軸170cm短軸105cm深さ18cmである。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 主柱穴として四隅の対角線上に4基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:69・61・84、P2:56・52・40、P3:66・62・69、P4:75・61・85

床 ほぼ削平されるが、炉の周辺に若干硬化したローム混土が見られた。

掘り方 全体に10cm程度掘り込まれる。

遺物 北東部床面で土師器高杯(8)、炉の掘り方で土師器器台か(7)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1450g・同小型品240g、須恵器大型品1片・同小型品2片が出土している

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

備考 調査段階36号住居P5は、10号掘立柱建物P4に名称変更。

37号住居(第420・422図、P L .169・306)

位置 86M・N-1・2 **重複** 11号溝より前出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-65°-E

規模 面積16.21㎡ 長軸4.74m、短軸3.98m 残存壁高11~20cm

埋没土 暗褐色土を主体とし、炭化物の大片が含まれる。残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 四隅の対角線上に重なる主柱穴P1~4を含む7基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:33・25・40、P2:42・36・58、P3:47・35・46、P4:41・36・45、P5:52・31・52、P6:52・36・58、P7:57・55・32

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に20cm程度掘り込まれ、暗褐色土を主体

として埋まる。

遺物 床面の遺物では南壁際で土師器埴(12)、北壁際で土師器台付甕(13)が出土する。床面ではないが西壁際で槍鉋(15)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品2005g・同小型品290g、須恵器大型品180gが出土している。

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

38号住居(第423図、P L .169・170・306)

位置 96Q-2 **重複** なし。

形態 北半部が調査区域外となるため不明。

主軸方位 N-83°-E

規模 面積2.74㎡ 長軸2.5m、短軸(2.04)m 残存壁高18~25cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 未検出。

貯蔵穴 南東隅近くに設ける。平面形は円形。遺物はほとんど出土していない。規模は長径50cm短径45cm深さ16cmである。

柱穴 未検出。

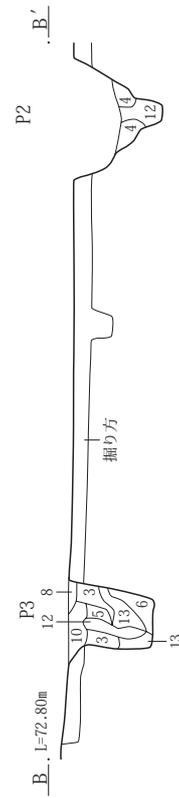
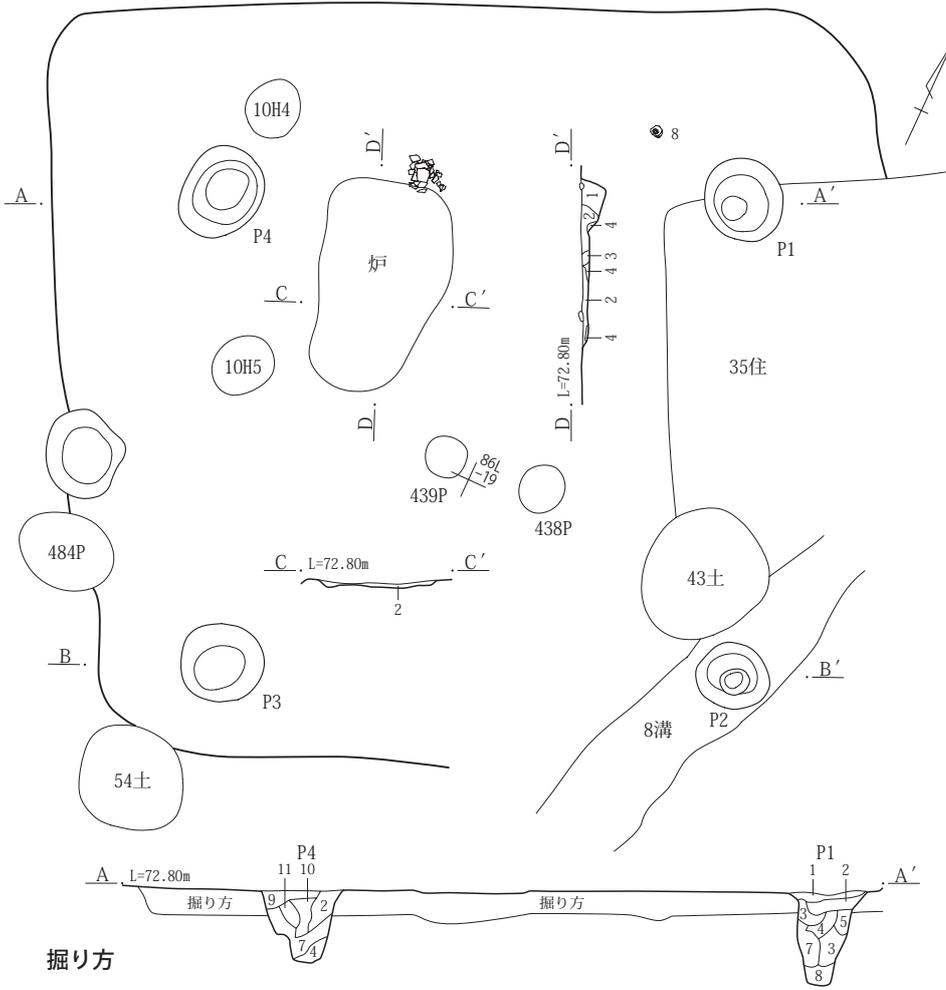
床 中央部から南東隅及び北西隅に向かって硬化面が確認された。

床下土坑 貯蔵穴の北側に隣接して検出された。円形で底面にやや厚く粘土貼りを持つ。規模は長径65cm短径54cm深さ23cmである。

掘り方 明確な掘り方は検出できない。

遺物 貯蔵穴の東側床面で1の須恵器椀が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品830g・同小型品325g、須恵器小型品385gが出土している。出土した炭化材は樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長5cmのコナラ属クヌギ節の割材と判明した。カマドで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子がやや多く、コムギ種子、オオムギーコムギ種子が少量、マメ科種子、イネ種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。



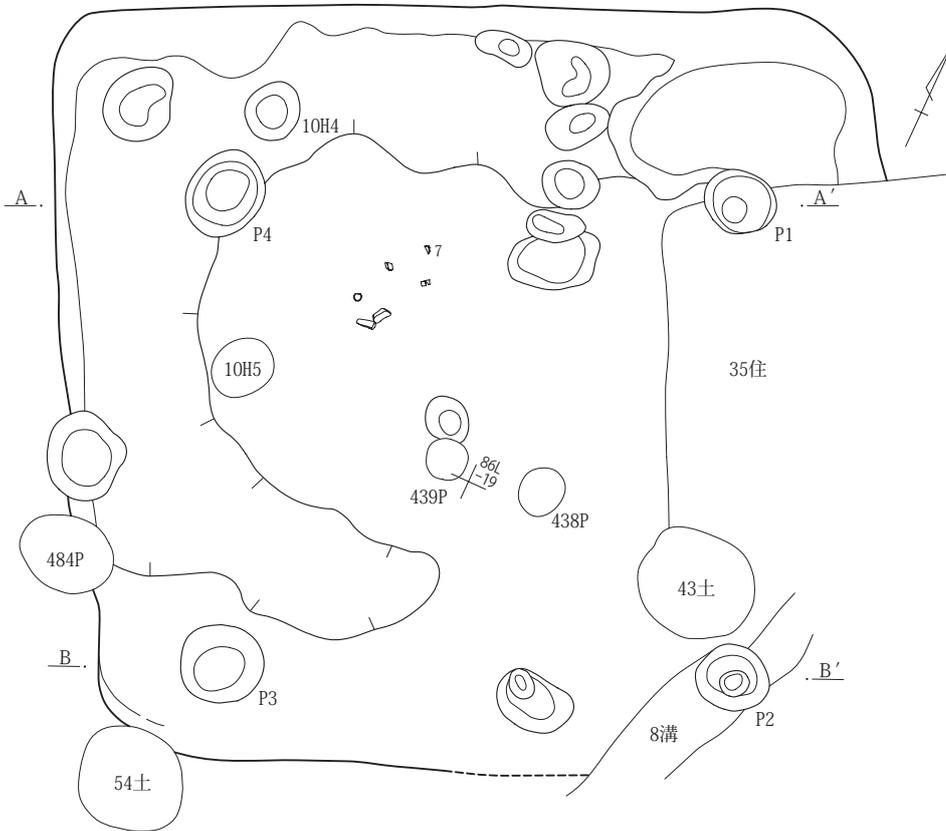
掘り方

炉

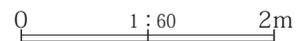
- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 3 ロームブロック
- 4 焼土ブロック

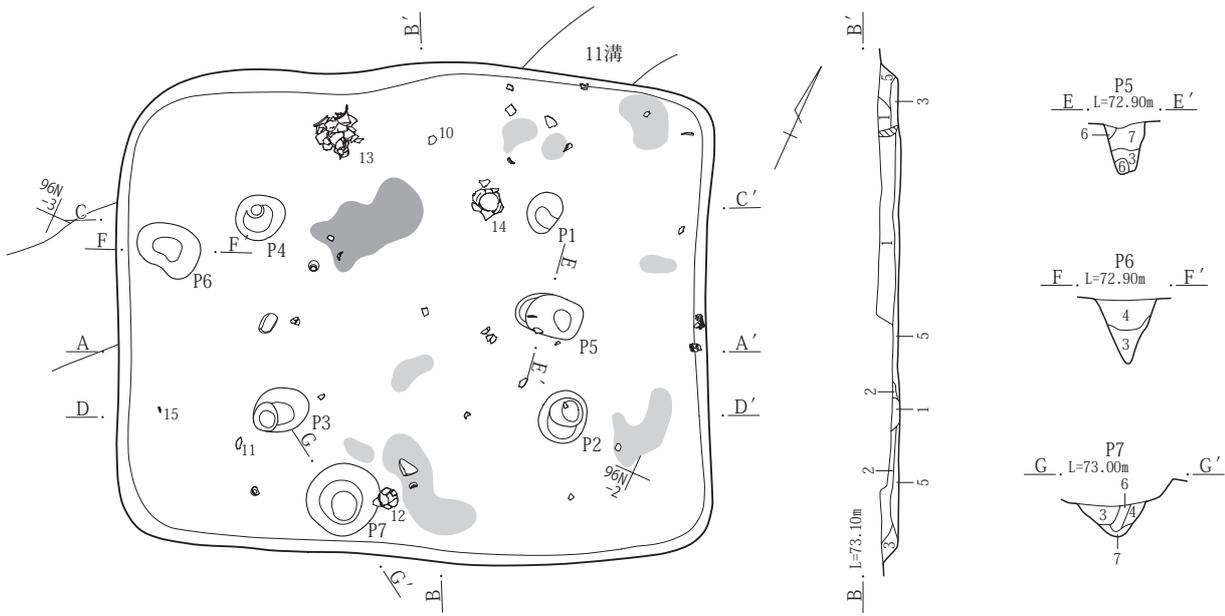
ピット

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 ロームブロックやや多量に含む。
- 3 褐色土+ロームブロック
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 5 褐色土 しまり強い。
- 6 黒褐色土 ロームブロックごく多量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量、黒褐色土ブロック含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。床面構成土。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・白色軽石粒子少量に含む。
- 11 ロームブロック
- 12 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。粘性弱い。ローム小ブロック含む。
- 13 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。



第421図 2区36号住居



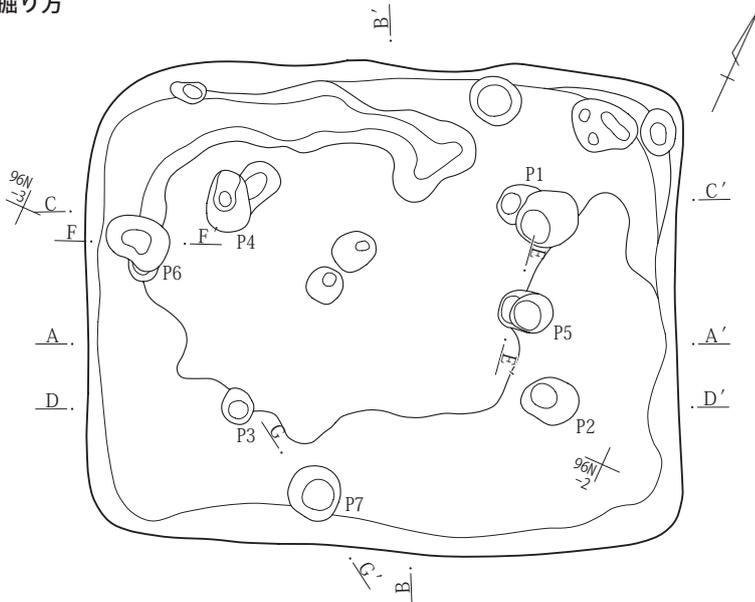


- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 炭化物多量、焼土粒子含む。
- 3 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。
- 4 暗褐色土 炭化物・焼土大ブロック含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。

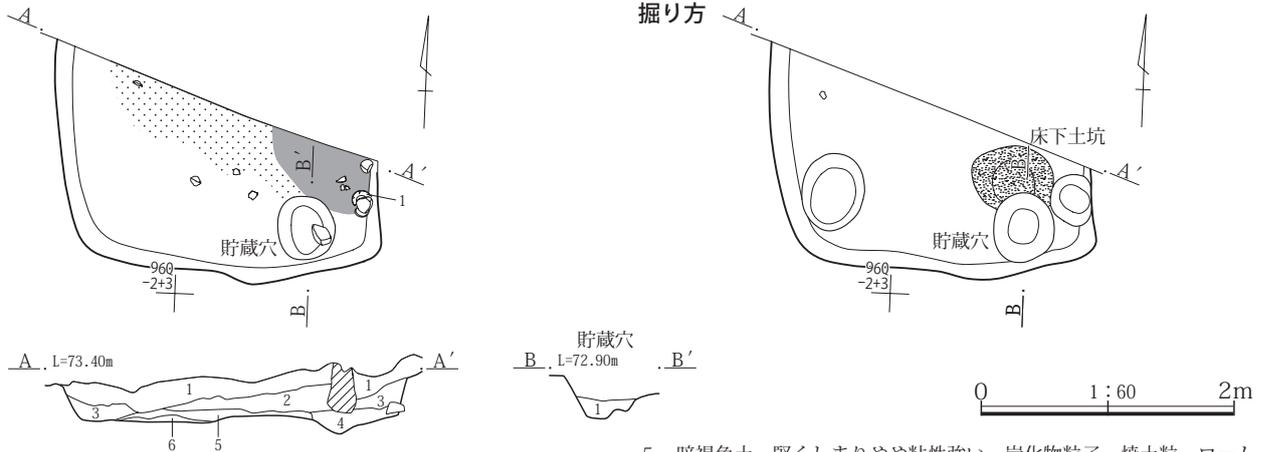
ピット

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・扁平なロームブロック・白色軽石粒子含む。
- 5 褐色土 しまりやや粘性強い。
- 6 黄褐色土 しまりやや粘性あり。
- 7 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。

掘り方



第422図 2区37号住居

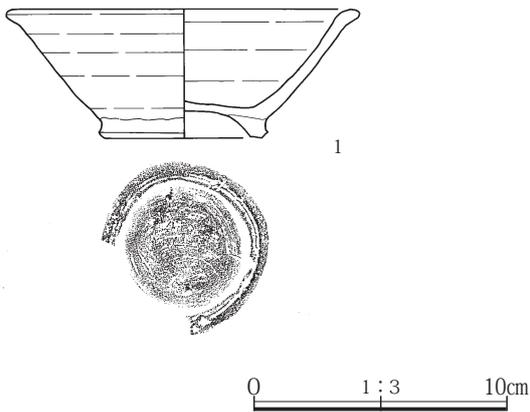


- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子やや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子やや多量、焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 灰・炭化物・焼土含む。縞状構造。炭化したムギ類あり。

- 5 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。炭化物粒子・焼土粒・ローム小ブロック含む。縞状構造。
- 6 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子を層状に多量に含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子多量に含む。炭火材片あり。



第423図 2区38号住居と出土遺物

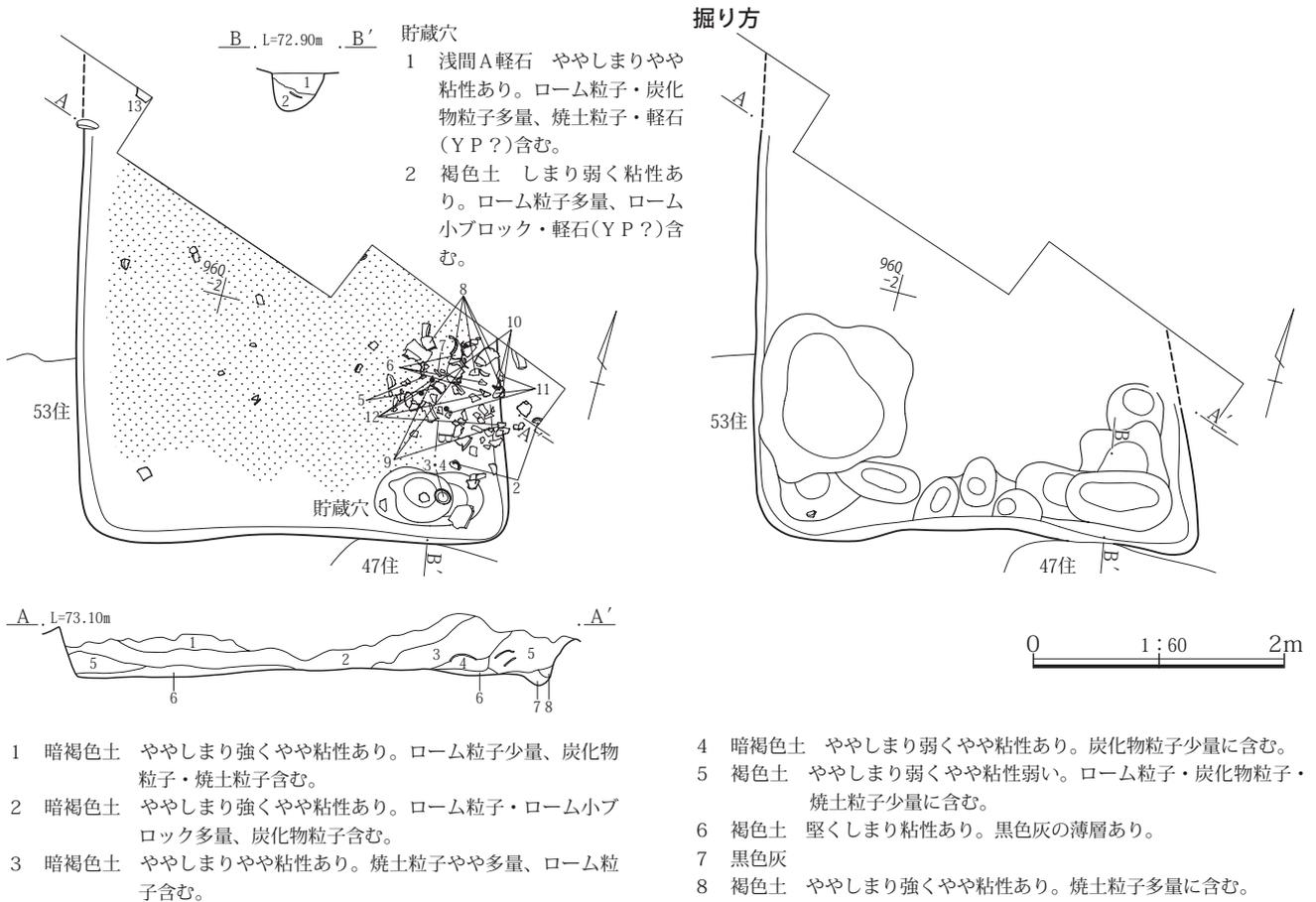
39号住居(第424～426図、P L .170・171・306・307)
位置 96P・Q-1・2 重複 47・53号住より後出。
形態 長方形か。主軸方位 N-15°-W
規模 面積6.82㎡ 長軸(3.93)m、短軸3.41m 残存壁高15～24cm
埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。
カマド 未検出。
貯蔵穴 南東隅近くに設ける。平面形は長楕円形。規模は長径86cm短径45cm深さ33cmである。
柱穴 未検出。
床 壁際を除き広く硬化面を検出した。
掘り方 明確な掘り方は検出できない。
遺物 東壁際で大量の土師器甕(6～12)が出土し、調査区域外の近くにカマドがあったものと推定できる。貯

蔵穴では須恵器杯(3)・同碗(4)が出土する。なお、13の須恵器羽釜は38号住居からの混入であろう。掲載遺物のほか土師器大型品2565g・同小型品330g、須恵器大型品90g・同小型品5片、埴輪1片が出土している。集中する出土地点や量等。カマドで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子が少量、ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子、オオムギ・コムギ種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から9世紀第(3)・4四半期に比定される。

40号住居(第427図、P L .171・172・308)

位置 86O・P-20、96O・P-1
重複 41・42・47号住居より後出で、11号溝と重複するが新旧関係不明。
形態 長方形。主軸方位 N-81°-E
規模 面積6.06㎡ 長軸2.90m、短軸2.55m 残存壁高9～12cm
埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。
カマド 東辺の南東隅近くに設ける。燃烧部を住居の壁面付近に持つ。燃烧部底面にわずかに焼土が認められる。両袖の残存状態は悪い。全体規模は長さ64cm幅77cm、袖焚口幅29cmで、確認面からの深さは14cmである。掘り方の深さは燃烧部で10cm弱である。
貯蔵穴・柱穴 未検出。



第424図 2区39号住居

床 貼り床、硬化面は確認できない。カマドから南東隅周辺に炭が分布するが顕著ではない。

掘り方 カマドの前面付近を3か所程度土坑状に掘り込み、全体に10cm弱掘り込む。

遺物 遺物の出土はやや散漫である。カマドでは土師器有孔鉢(2)、同甕(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1575g・同小型品560g、須恵器大型品180g・同小型品180gが出土している。カマドで出土した少量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から10世紀中頃かと考えられる。

埋没土 暗褐色土を主体に自然埋没か。埋没土1はロームブロックが目立つが、埋没後に攪拌された可能性もある。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 西半部に硬化面が認められた。埋没土10は貼り床である。

掘り方 壁際を主体に20cm程度掘り込み、全体に浅く掘り込む。

遺物 S字甕80gを含む土師器大型品450g・同小型品80gが出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

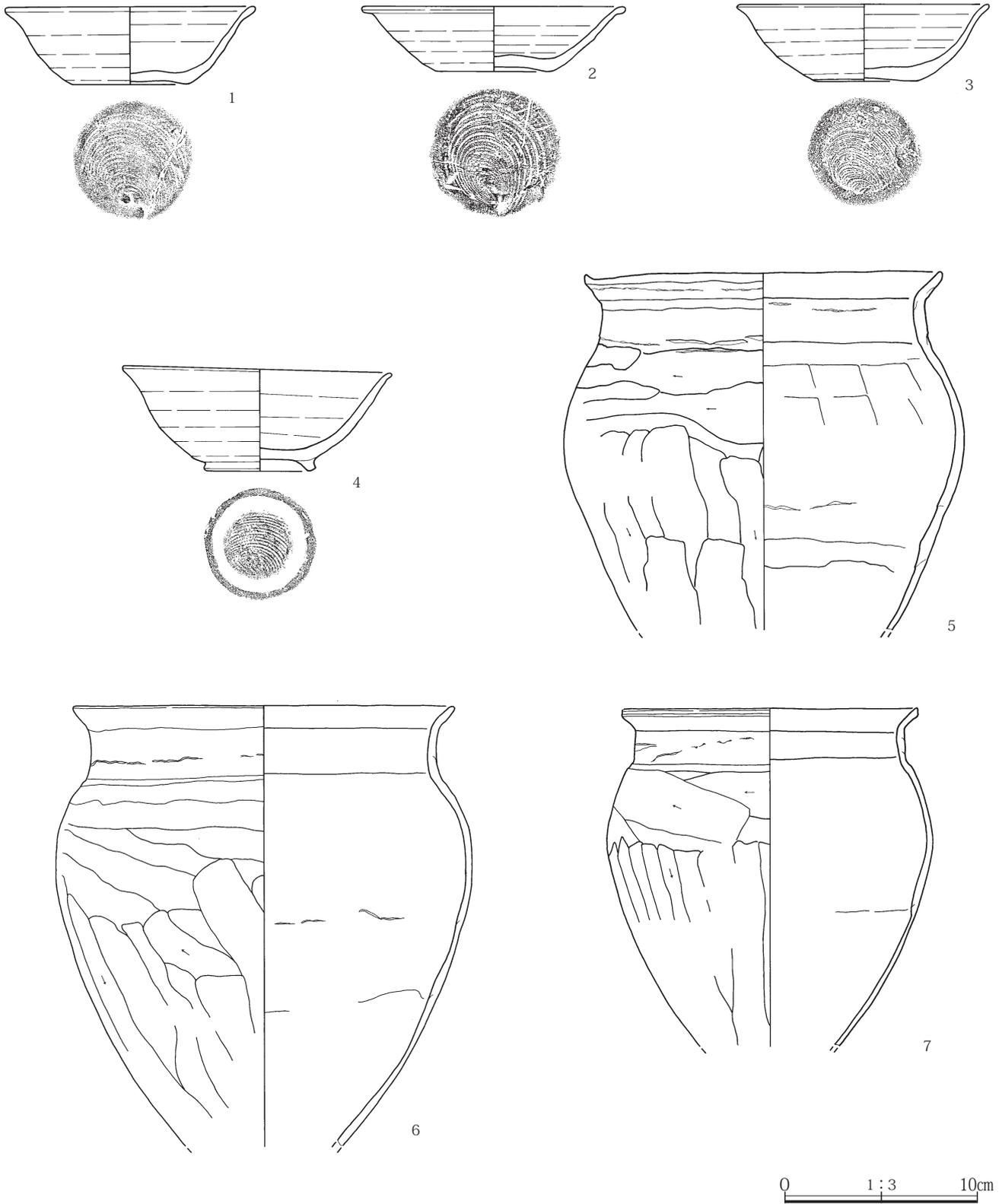
41号住居(第428図、P L.172)

位置 86P-20、96P-1 **重複** 40号住居より前出。

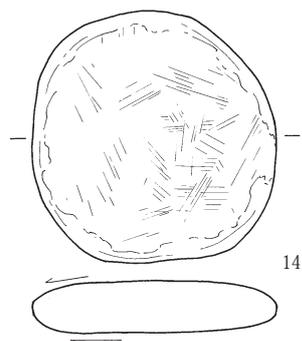
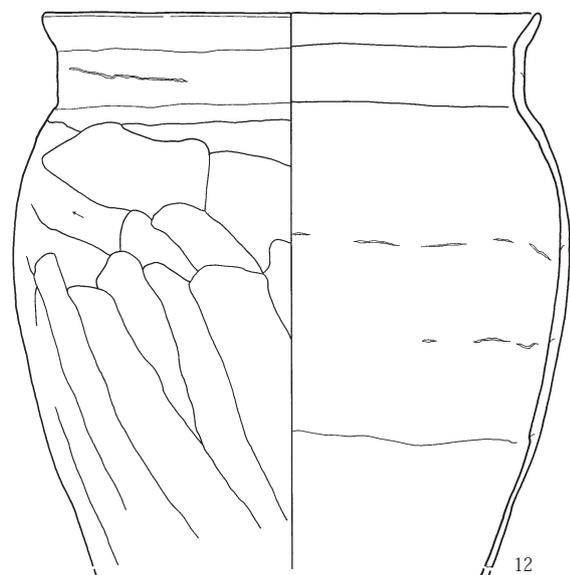
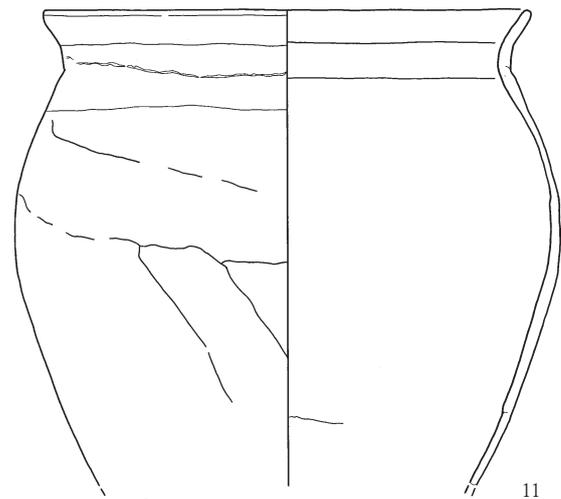
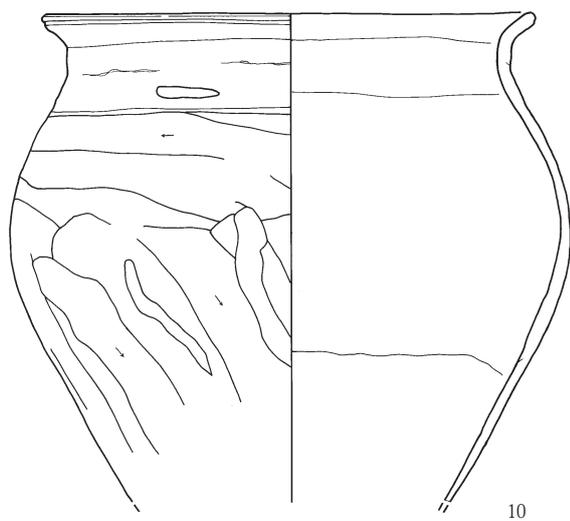
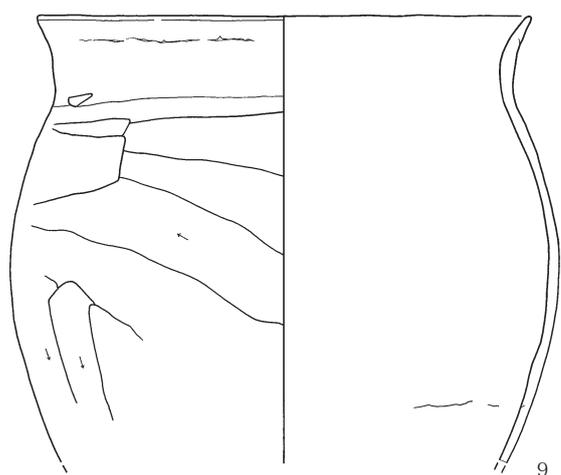
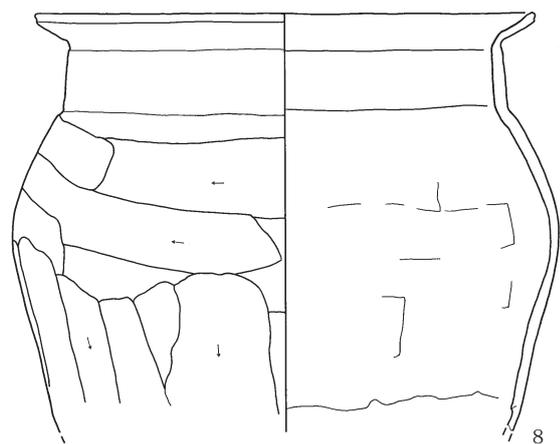
形態 大部分が調査区域外となるため不明。

主軸方位 N-71°-E

規模 面積4.54m² 長軸3.69m、短軸2.85m 残存壁高7~21cm

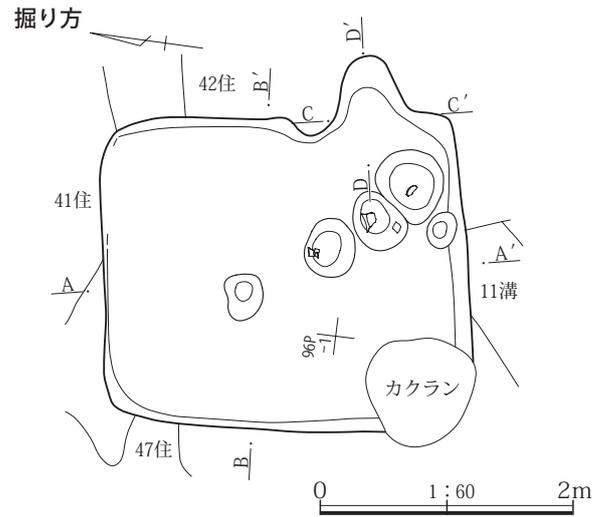
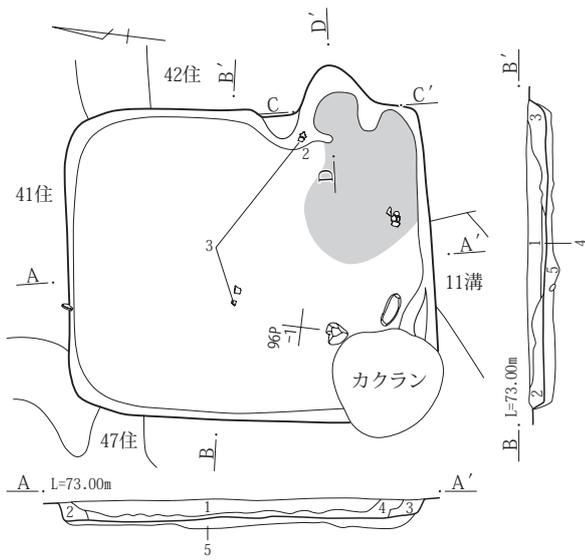


第425図 2区39号住居出土遺物(1)



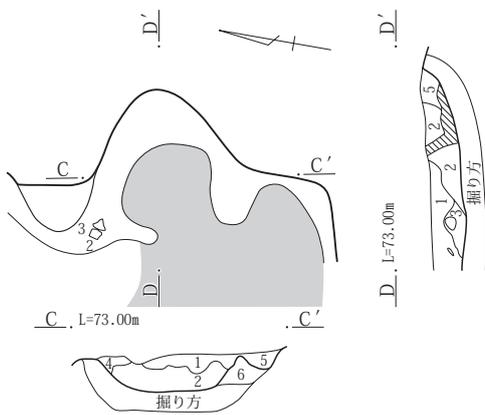
0 1:3 10cm

第426図 2区39号住居出土遺物(2)

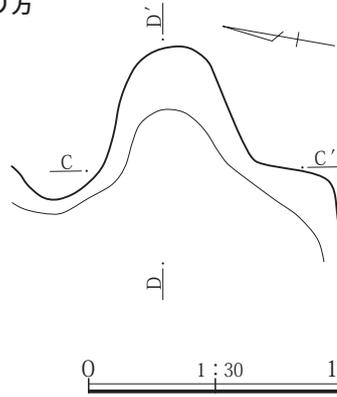


- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。

- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 5 黄褐色土 堅くしまり粘性強い。暗褐色土含む。

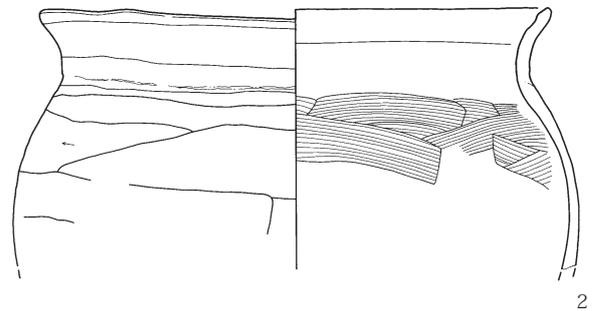
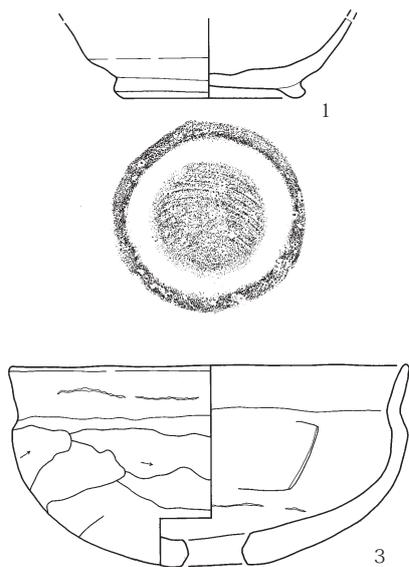


掘り方



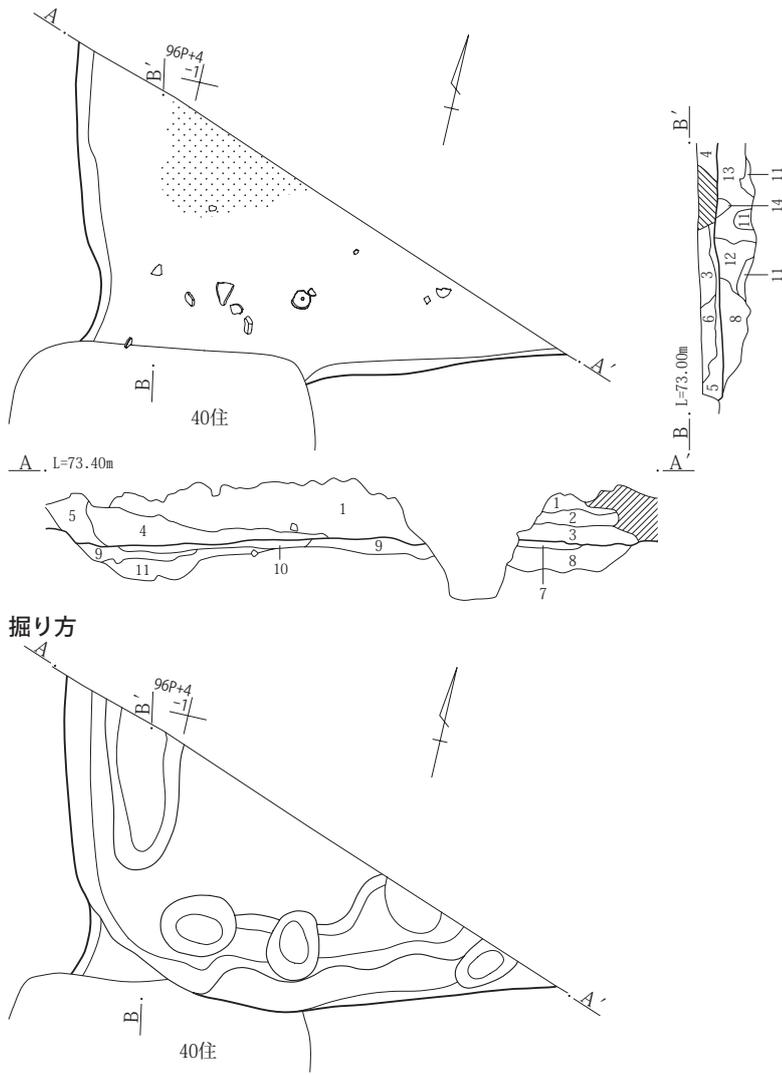
カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック微量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。焼土小ブロック少量、黒色灰小ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土化したロームブロック含む。壁面崩落土。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック含む。



0 1:3 10cm

第427図 2区40号住居と出土遺物

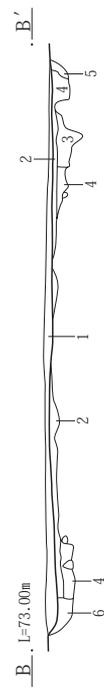
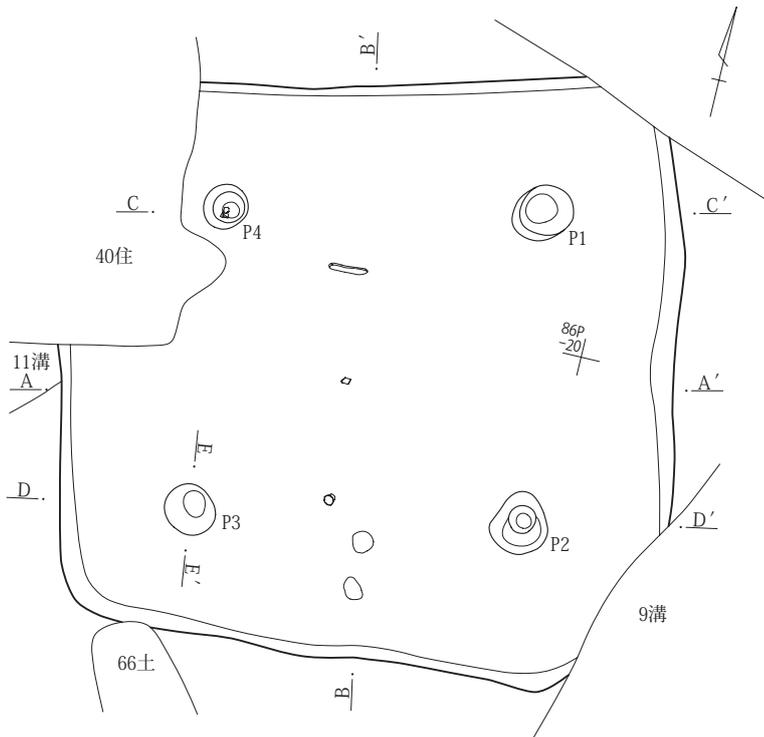


- 1 暗褐色土 ややしまり強くやや砂質。ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物粒子少量を含む。
- 2 暗褐色土 床状にやしまり強くやや粘性あり。ローム小ブロック少量、焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 7 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 8 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子ごく多量を含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。ロームブロック多量、黒褐色土ブロックやや多量、炭化物粒子含む。
- 10 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック多量、黒色灰層状を含む。
- 11 黄褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。
- 12 暗褐色土 扁平なロームブロックごく多量を含む。
- 13 暗褐色土 ロームブロック多量を含む。
- 14 褐色土 しまり粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子少量を含む。

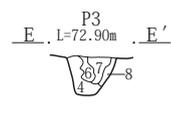
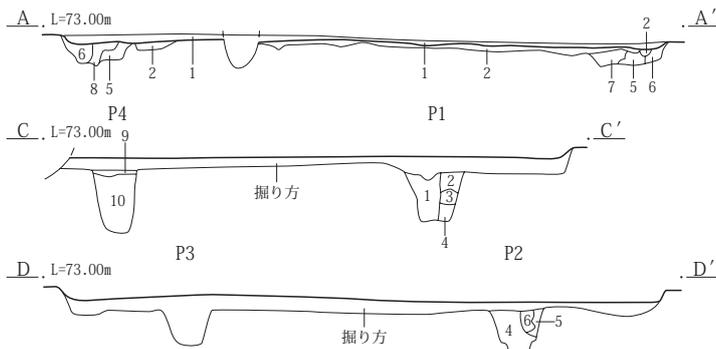
第428図 2区41号住居

42号住居(第429図、P L.173)
位置 86O・P-20
重複 49号住居より前出で、66号土坑、9・11号溝と重複するが新旧関係不明。
形態 正方形に近い。 **主軸方位** N-14°-W
規模 面積18.04㎡ 長軸4.90m、短軸4.87m 残存壁高9~15cm
埋没土 黒褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。
カマド・炉、貯蔵穴 未検出。
柱穴 四隅の対角線上に主柱穴4基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:49・43・39、P2:50・44・43、P3:42・38・42、P4:36・35・47
床 貼り床、硬化面は確認できない。

床下土坑 南西隅に設ける。埋没土中位にやや多く焼土を含む。規模は長径61cm短径57cm深さ42cmである。
掘り方 東辺から西辺にかけて壁際を主体に10cm程度掘り込み、全体は浅く掘り込んで凸凹する。
遺物 掘り方から1の土師器甕が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品625g・同小型品180g、須恵器大型品1片・同小型品2片が出土している。
時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。



- 1 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームをモザイク状に含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。つぶれたロームを層状に、炭化物・焼土含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロックやや多量、焼土ブロック・炭化物片含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。
- 5 ロームブロック
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 7 褐色土+ローム しまりやや粘性強い。
- 8 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。



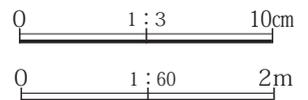
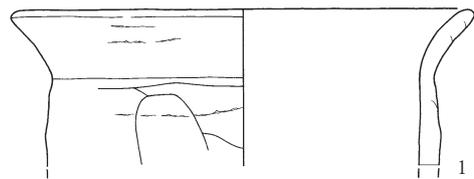
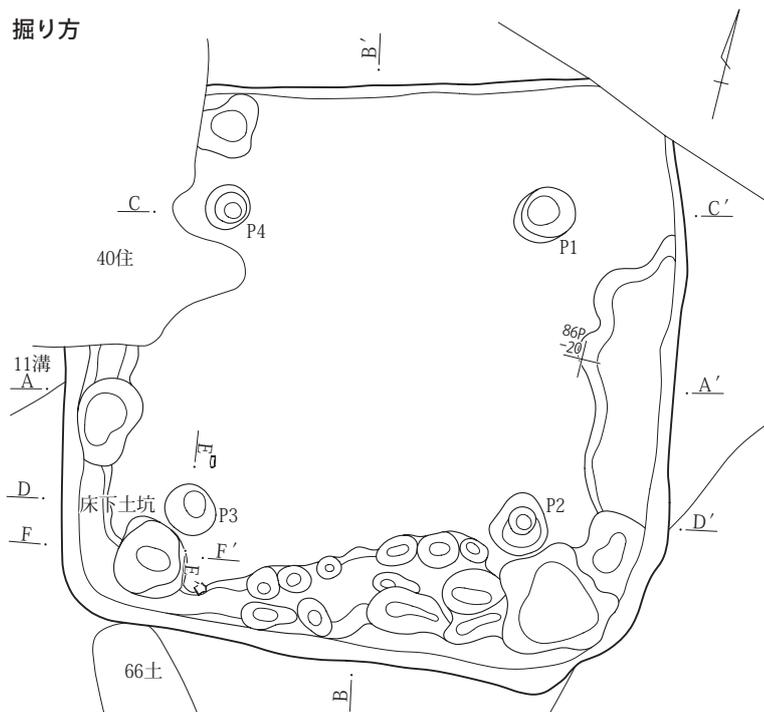
床下土坑

- 1 黒褐色土 しまり粘性やや弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱く粘性あり。ローム粒子ごく多量に含む。

ピット

- 1 褐色土 ロームブロックやや多量に含む。
- 2 褐色土 焼土粒子少量に含む。
- 3 褐色土 黒褐色土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 5 ロームブロック 暗褐色土含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子少量に含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック少量に含む。
- 9 黒褐色土 堅くしまり粘性あり。ローム粒子含む。
- 10 黒褐色土 しまり粘性あり。ロームごく多量に含む。

掘り方



第429図 2区42号住居と出土遺物

43号住居(第430・431図、P L.172・174・308)

位置 96O・P-1・2 重複 53号住居より後出。

形態 長方形。 主軸方位 N-53°-E

規模 面積12.49㎡ 長軸4.34m、短軸3.68m 残存壁高23~37cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃焼部を住居の壁面付近に持つ。カマド全体に弱く焼土化する。両袖とも残存状態は悪く、地山ローム層を掘り残し芯として構築する。全体規模は長さ84cm幅133cm、燃焼部は長さ47cm、袖焚口幅85cmで、確認面からの深さは25cm、煙道部は長

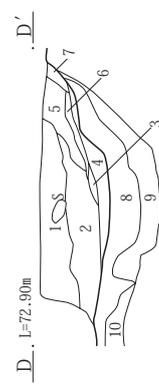
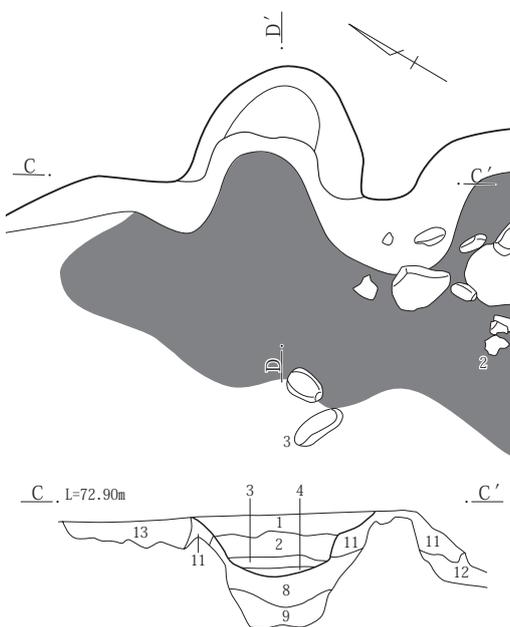
さ28cm、最大幅67cm、深さ9cmである。掘り方の深さは燃焼部で20cm程度である。

貯蔵穴 未検出。 柱穴 未検出。

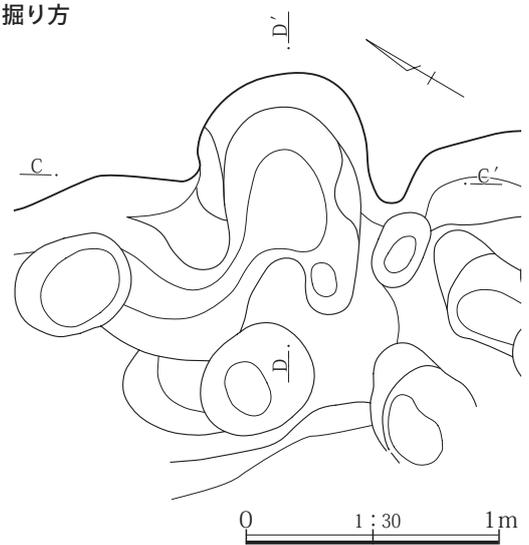
床 北西部で硬化面が検出された。中央部は少し隆起し平らな川原石が置かれる。カマド内から南東隅にかけて広く灰が広がる。

掘り方 四隅を土坑状に30cm程度掘り込み、中央部も全体に10cm程度掘り込む。

遺物 北東隅部に土器と円礫が集中し、中央部にも偏平に近い巨円礫があるが、使用痕跡は認められない。床面の遺物では東壁際の須恵器杯(1)、北東隅の土師器甕(2)、



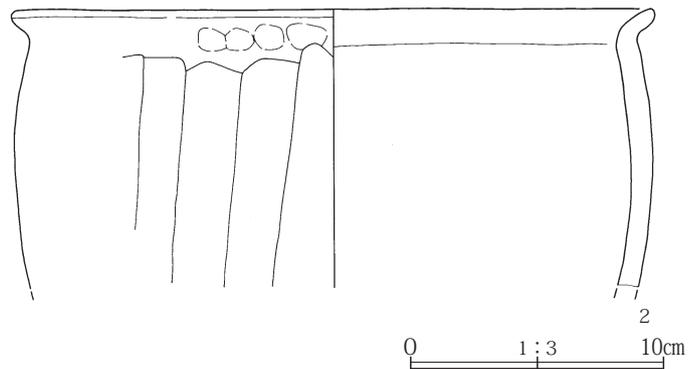
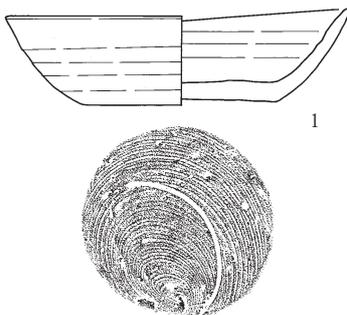
掘り方



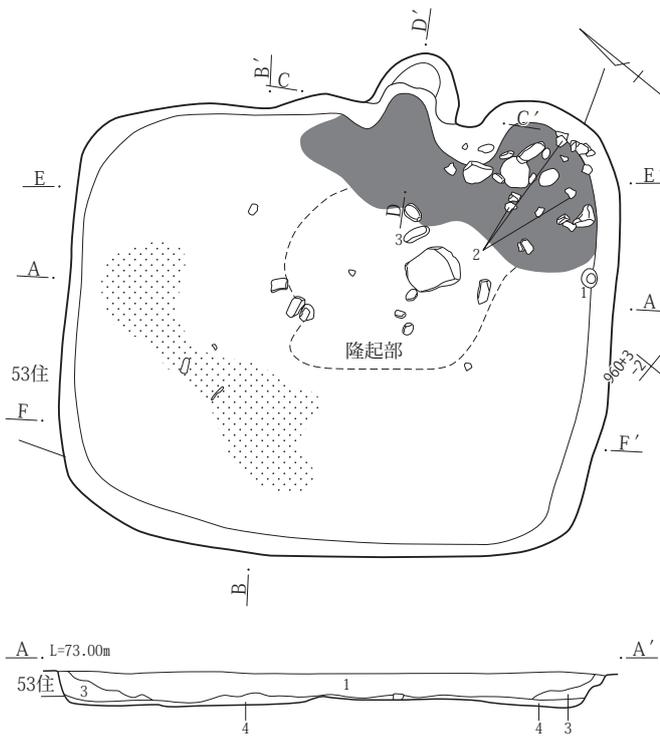
カマド

- 1 黒褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり粘性なし。焼土ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱く粘性ない。焼土粒子多量、炭化物粒子含む。
- 5 褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック多量に含む。
- 6 灰~黒色灰 焼土ブロック含む。

- 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子少量、ローム粒子微量に含む。
- 8 褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 9 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック・焼土粒子微量、炭化物粒子含む。
- 10 ローム+焼土粒子+黒色灰 互層。やや砂質。
- 11 暗褐色土 焼土小ブロックやや多量、ローム粒子含む。
- 12 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子含む。
- 13 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。

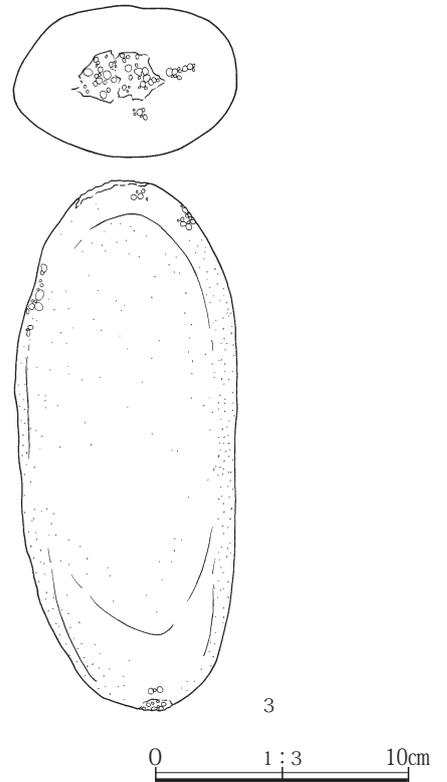
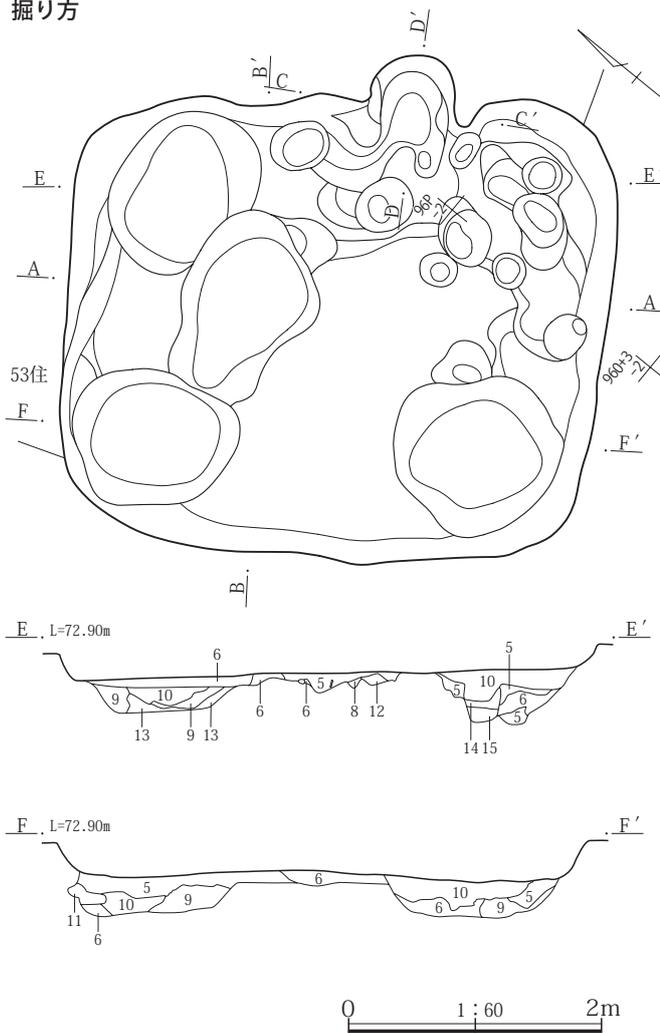


第430図 2区43号住居カマドと出土遺物(1)



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 4 黒褐色土 しまり粘性強い。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックやや多量に含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 7 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、焼土小ブロック・炭化物・黒色灰ブロック多量に含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロック少量に含む。
- 9 褐色土 ロームブロック・ローム粒子多量に含む。
- 10 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量、炭化物片・焼土小ブロック含む。
- 11 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。
- 12 ロームブロック 堅くしまり粘性あり。焼土ブロック含む。
- 13 ローム小ブロック しまりやや砂質。
- 14 焼土 しまり弱く粘性弱い。ロームブロック少量、炭化物粒子含む。
- 15 黒色灰+炭化物

掘り方



第431図 2区43号住居と出土遺物(2)

中央部の敲石(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品3945g・同小型品1320g、須恵器大型品300g・同小型品250gが出土している。カマドなどで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、マメ科種子、オオムギ種子、オオムギーコムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

44・52号住居(第432～434図、P.L.174・175・308・309)

44号住居 位置 96N・O-1

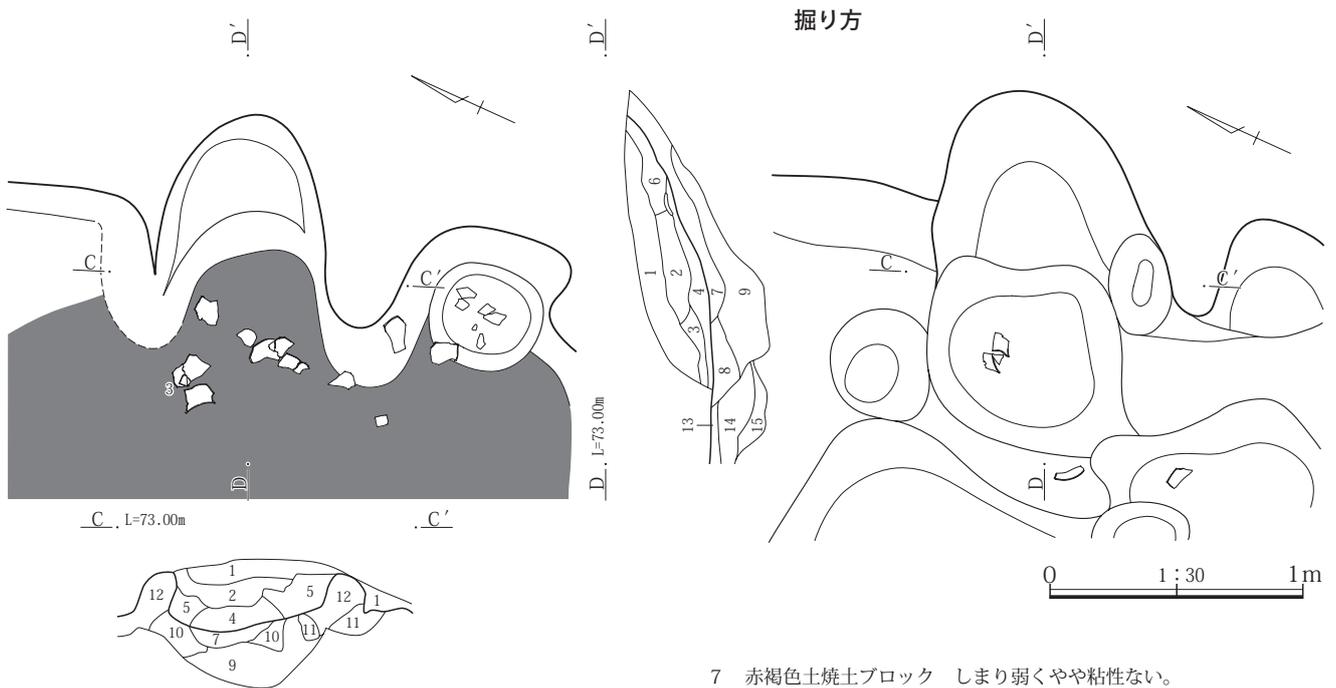
重複 52号住居、11号溝より後出。

形態 長方形。主軸方位 N-68°-E

規模 面積9.49㎡ 長軸4.14m、短軸3.45m 残存壁高24～33cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

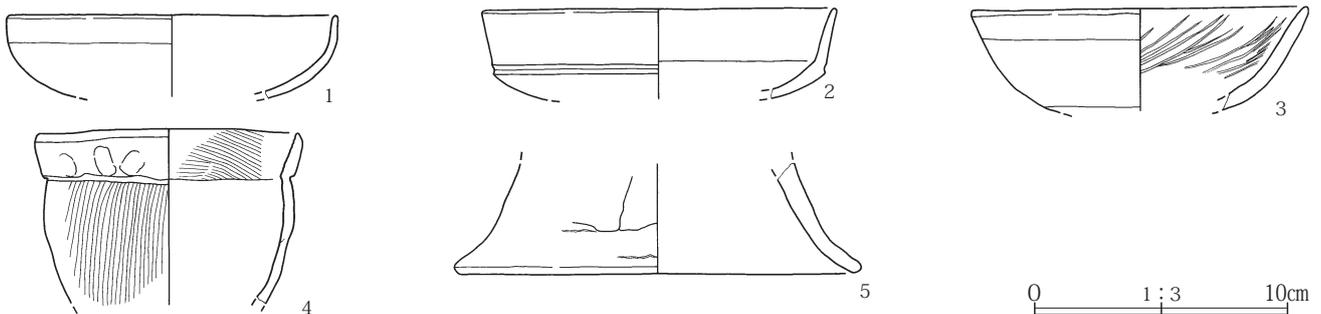
カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部奥壁は焼土化し底面は炭が広く分布する。左袖は非常に残存状態が悪いが、両袖とも暗褐色土を主体として構築される。遺物は土師器甕が多く上位から出



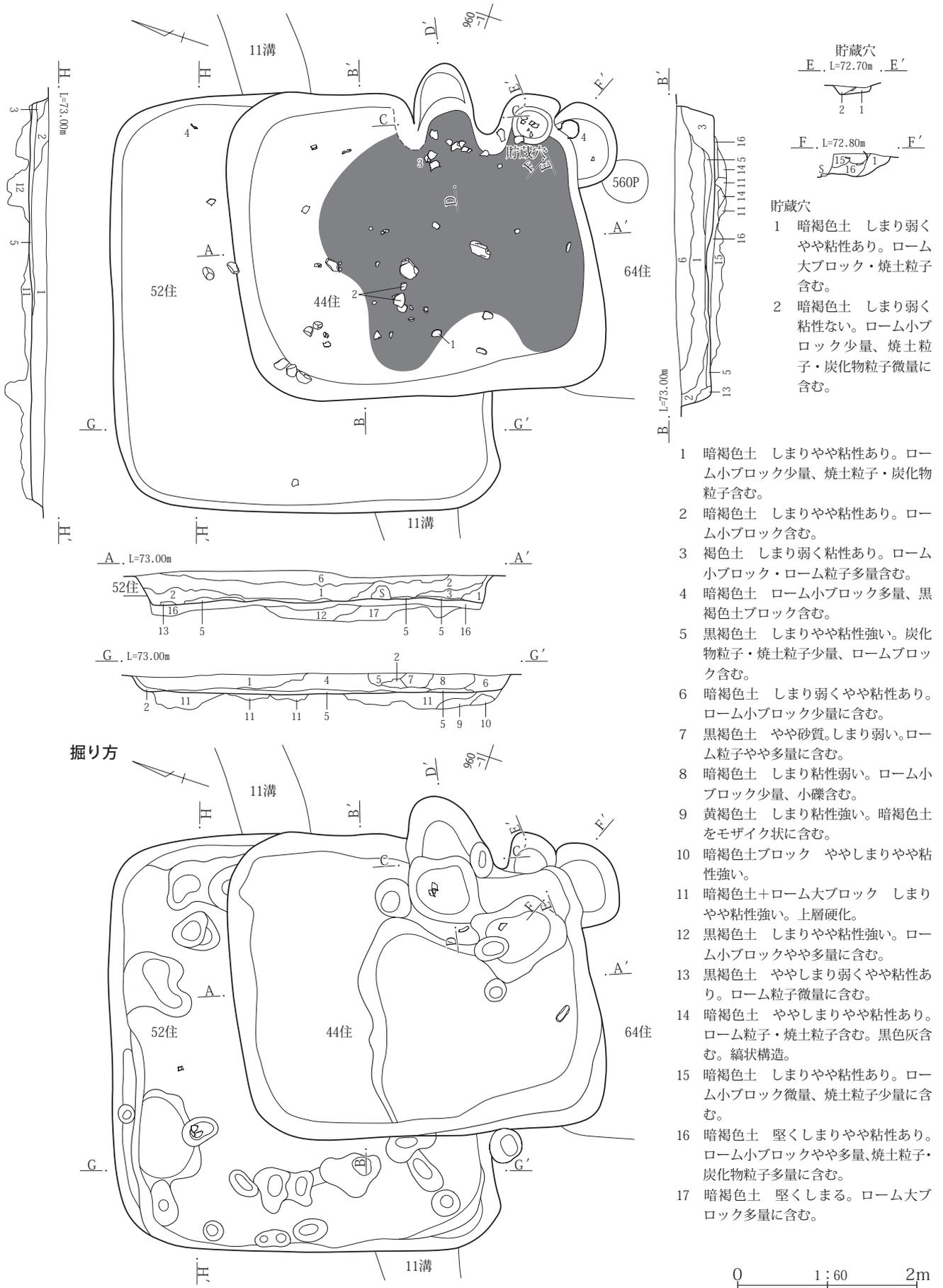
カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量、炭化物粒子含む。
- 3 黒色灰 しまり弱くやや粘性あり。焼土・暗褐色土含む。
- 4 にぶい赤褐色焼土 しまり弱くやや粘性弱い。暗褐色土やや多量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量、黒褐色土ブロック含む。
- 6 褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土ブロック多量、炭化物粒子微量に含む。

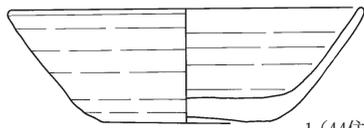
- 7 赤褐色土焼土ブロック しまり弱くやや粘性ない。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土大ブロック多量、焼土小ブロック少量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土大ブロック多量に含む。
- 10 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック・焼土粒子少量に含む。
- 11 ローム大ブロック
- 12 暗褐色土 しまりなく粘性弱い。焼土粒子含む。
- 13 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 15 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。



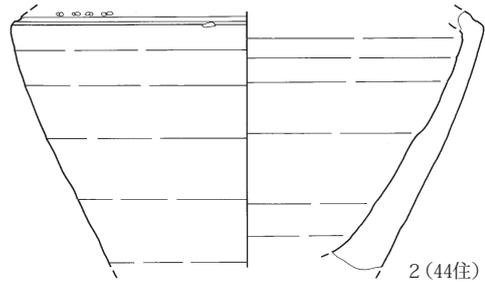
第432図 2区44号住居カマドと52号住居出土遺物



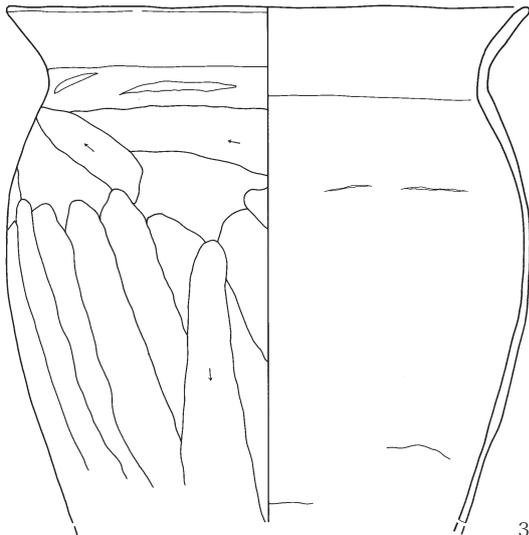
第433図 2区44・52号住居



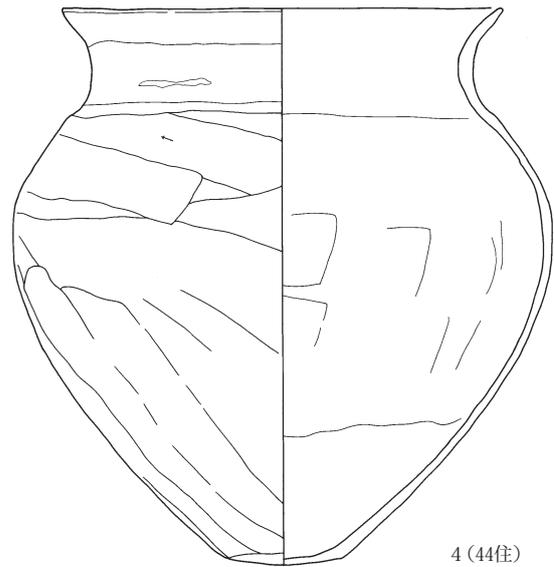
1 (44住)



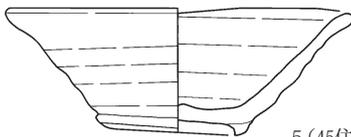
2 (44住)



3 (44住)



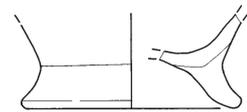
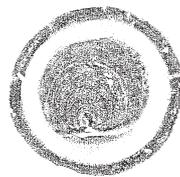
4 (44住)



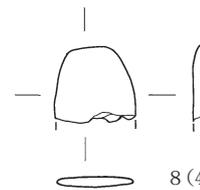
5 (45住)



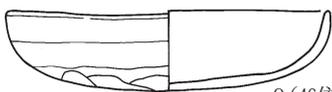
6 (45住)



7 (45住)



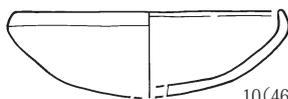
8 (45住)



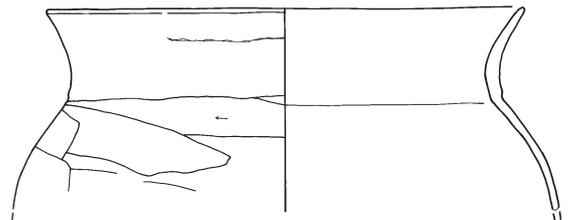
9 (46住)



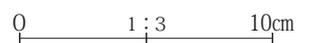
11 (46住)



10 (46住)



12 (46住)



第434図 2区44・45・46号住居出土遺物

土するが、使用状態のまま残るものはない。全体規模は長さ104cm幅135cm、燃焼部は長さ66cm、袖焚口幅82cmで、確認面からの深さは27cm、煙道部の長さは38cm、最大幅61cm、深さ19cmである。掘り方の深さは燃焼部で20cm程度である。

貯蔵穴 南東隅に設ける。平面形は円形。規模は長径45cm短径42cm深さ12cmである。

内部施設 貯蔵穴の南に接して半円形の落ち込みがあり、4の土師器甕が流れ込んでいる。円形の土坑が半分住居と重複したようにも見えるが、調査段階で住居の一部と認定されている。住居の外形からはみ出しており、やや検討の余地を残す。

柱穴 未検出。

床 硬化面の範囲は確認できていないが、埋没土16は堅くしまる。カマドから南辺まで、住居の南半部に広く炭が広がる。

掘り方 住居の南半部を方形に20cm程度掘り込む。全体も10cm弱掘り込まれる。

遺物 カマド・貯蔵穴でやや集中するが、全体に遺物の出土は散漫である。床面では1の須恵器杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品6055g・同小型品2480g、須恵器大型品275g・同小型品480g、灰釉陶器2片が出土している。カマドなどで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、コムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から8世紀第4四半期に比定される。

52号住居 **位置** 96N・O-1

重複 11号溝より後出で、44号住居より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-70°-E

規模 面積8.69㎡ 長軸4.76m、短軸4.32m 残存壁高17~23cm

埋没土 暗褐色土を主体にロームブロックがやや目立つが自然埋没と考えられる。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化面の範囲は確認できていないが、埋没土16は堅くしまる。

掘り方 全体に凸凹に掘り込まれ、深いところで20cm程度である。

遺物 北東隅床面で4の土師器鉢が出土する。掲載遺物

のほか土師器大型品1365g・同小型品240g、須恵器大型品2片・同小型品4片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

45号住居(第434・435図、P L.175・176・308)

位置 86N・O-20

重複 64号住居より後出で、66号土坑、541号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 長方形。 **主軸方位** N-80°-E

規模 面積8.64㎡ 長軸(3.90)m、短軸3.50m 残存壁高6~18cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃焼部を住居内に持つ。燃焼部底面でわずかに焼土化する。両袖とも残存状態が悪く、右袖は地山を芯とする。全体規模は長さ60cm幅86cm、袖焚口幅62cm以上で、確認面からの深さは10cmである。掘り方の深さは燃焼部で5cm程度と浅い。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 中軸線上で2基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:40・30・28、P2:36・34・35

床 硬化面の範囲は確認できないが、埋没土5は堅くしまる。

掘り方 中央付近を土坑状に20cm程度掘り込み、全体は浅い。

遺物 カマド周辺にやや集中する。カマド右袖近くで須恵器碗(5・6)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1075g・同小型品450g、須恵器大型品370g・同小型品620gが出土している。カマドなどで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

46号住居(第434・436図、P L.176・177・308)

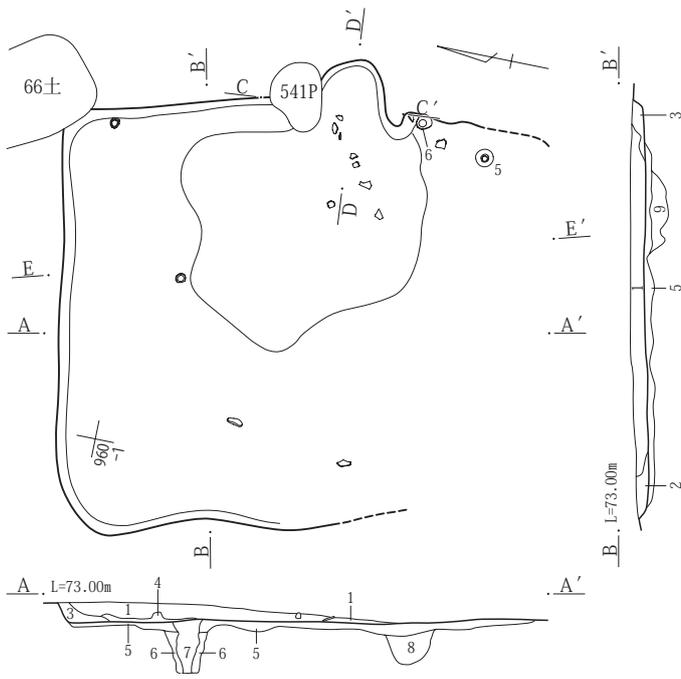
位置 86M-20 **重複** 4号井戸よりも前出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-58°-E

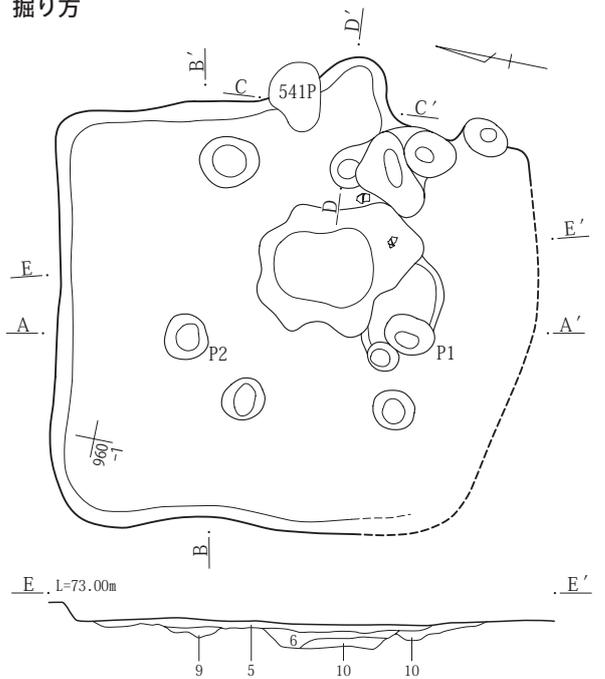
規模 面積6.06㎡ 長軸3.15m、短軸2.70m 残存壁高16~24cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃焼部を住居の壁



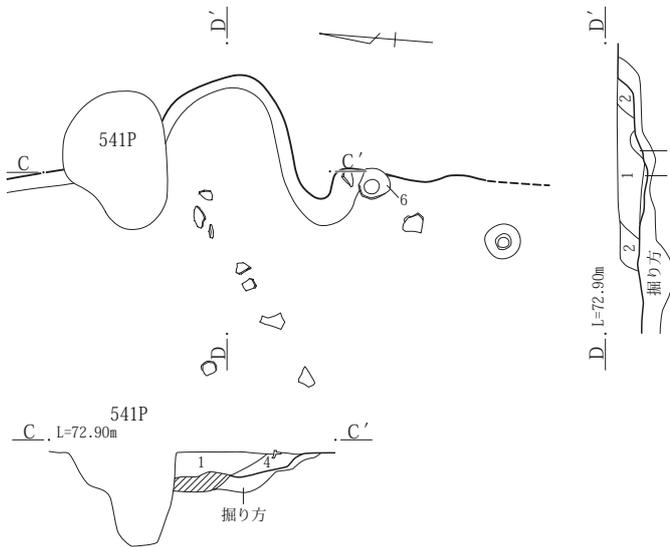
掘り方



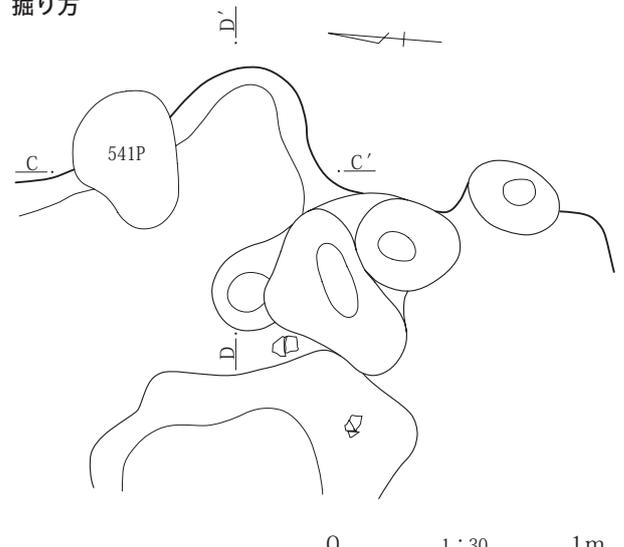
0 1:60 2m

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 2 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。

- 7 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック・白色軽石粒子含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 10 褐色土+ロームブロック しまり粘性強い。



掘り方

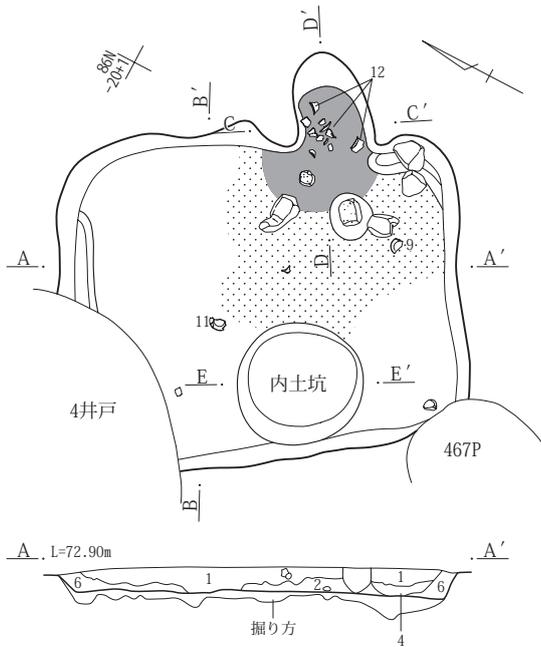


0 1:30 1m

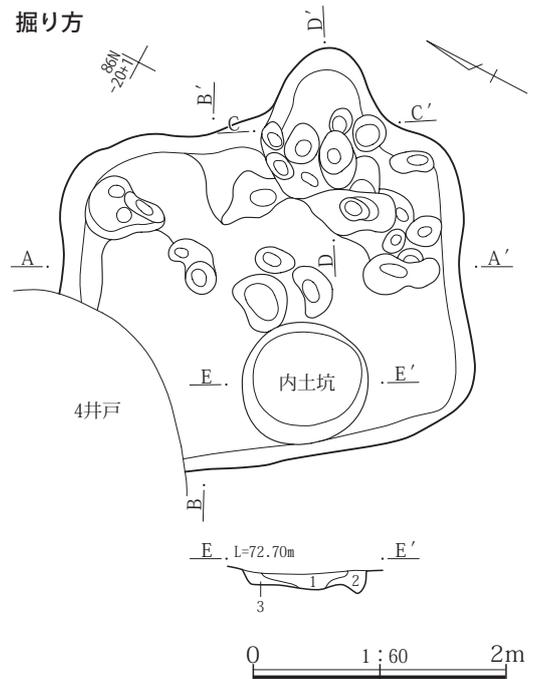
カマド

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量、焼土粒子含む。

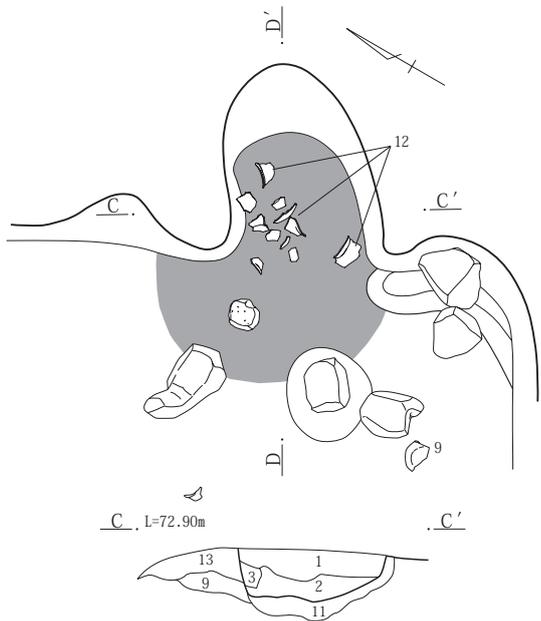
第435図 2区45号住居



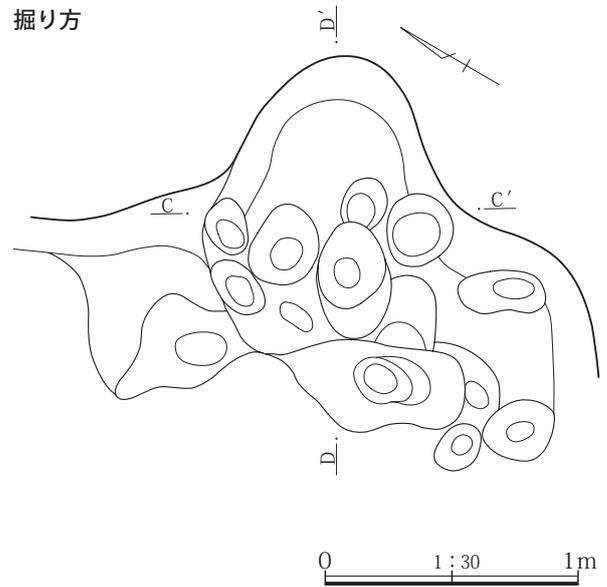
- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子少量、ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 5 黄褐色土 しまり弱くやや粘性強い。
- 6 褐色土 ロームブロック多量に含む。



- 内土坑
- 1 黒褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 2 暗褐色土 しまりやや粘性強い。
 - 3 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子ごく多量に含む。



- カマド
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック多量に含む。
 - 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック少量、炭化物・黒色灰少量、ローム粒子含む。
 - 3 暗褐色土+ロームブロック しまり弱くやや粘性あり。焼土粒子少量、炭化物含む。
 - 4 黄褐色土 堅くしまる。天井崩落土。
 - 5 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
 - 6 褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量に含む。



- 7 暗褐色土 しまり弱く粘性ない。ロームごく多量、焼土粒子・黒色灰少量に含む。
- 8 暗褐色土 しまり弱く粘性ない。焼土小ブロックごく多量、灰～黒色灰やや多量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。表層は黒色灰で覆われる。
- 10 暗褐色土+ロームブロック ややしまりやや粘性強い。焼土小ブロック少量に含む。表層は黒色灰・炭化物で覆われる。
- 11 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子含む。
- 12 褐色土 堅くしまり粘性強い。床。ローム小ブロック少量に含む。

第436図 2区46号住居

面付近に持つ。燃焼部の焼土化は弱く、全体に炭が広がる。両袖の残存状態は悪いが、左袖の先端部分に未固結凝灰岩が立っており、袖の構築材とみられる。全体規模は長さ85cm幅117cm、袖焚き口幅63cmで、確認面からの深さは20cmである。掘り方の深さは燃焼部で10cm程度と浅い。

貯蔵穴 未検出。 柱穴 未検出。

内土坑 西端中央に設ける。平面形は円形。底面は平坦。規模は長径100cm短径97cm深さ18cmである。

床 カマド前面から中央部にかけて、硬化面が広がる。

掘り方 全体に浅く凸凹する。

遺物 遺物はカマド周辺が主で、全体は散漫である。カマドで12の土師器甕が出土する。カマド前面に構築材とみられる未固結凝灰岩が点在する。掲載遺物のほか土師器大型品560g・同小型品380g、須恵器大型品1片・同小型品120gが出土している。

時期 出土遺物から8世紀第4四半期に比定される。

47号住居(第437図、P L .177・178・308)

位置 96O・P-1

重複 53号住居より後出で、40号住居より前出。

形態 長方形。 主軸方位 N-87°-E

規模 面積8.24m² 長軸3.94m、短軸2.75m 残存壁高10~19cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃焼部を住居内に持つ。燃焼部底面でやや焼土化が見られ、全体に炭が広がる。両袖とも残存状態が悪い。カマド前面で未固結凝灰岩が6点程度乱雑に出土しており、カマド構築材として多用されていたと考えられる。全体規模は長さ(53)cm幅167cm、袖焚き口幅75cm、確認面からの深さは12cmである。掘り方の深さは燃焼部で5cm程度と浅い。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 中央部から南東部にかけて広く硬化した貼り床が確認できた。

掘り方 全体に20cm程度掘り込まれ凸凹する。

遺物 遺物はカマド周辺を主に出土する。カマド右袖近くで土師器杯(1)、須恵器杯(2)、土師器甕(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1470g・同小型品680g、須恵器大型品4片・同小型品50gが出土している。

出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、ササゲ属アズキ亜科アズキ型種子と判明した。

時期 出土遺物から9世紀前半に比定される。

48号住居(第438・439図、P L .178・179・308)

位置 86H・I-14~16

重複 49号住居より後出で、34号住居より前出。

形態 ほぼ正方形。 主軸方位 N-50°-E

規模 面積24.41m² 長軸5.65m、短軸5.30m 残存壁高25cm

埋没土 暗褐色土を主体にロームブロックの混入が目立つが自然埋没と考えられる。

カマド・貯蔵穴 未検出。

柱穴 床面で16基、掘り方で6基が検出された。位置及び形態から、P18・19が支柱穴の可能性があるが、調査における床面との関係から掘り方となる。規模(長径・短径・深さcm)。P1:31・31・19、P2:29・25・26、P3:32・31・19、P4:62・50・36、P5:32・30・34、P6:33・32・21、P7:27・25・31、P8:37・35・17、P9:35・26・40、P10:27・21・47、P11:34・26・44、P12:40・29・39、P13:30・27・35、P14:30・28・39、P15:33・25・20、P16:31・28・20、P17:31・30・30、P18:60・50・15、P19:37・36・20、P20:30・22・23、P21:34・34・29、P22:37・(35)・20、P23:32・30・13

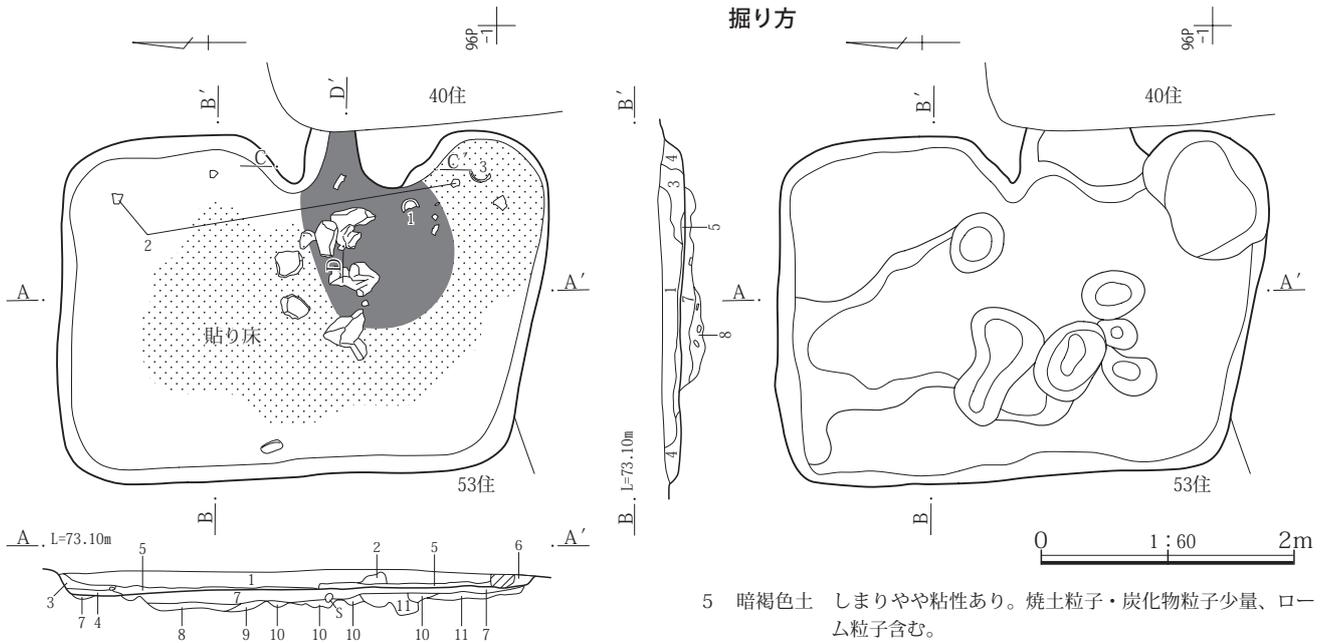
床 硬化範囲は確認できないが、埋没土7は堅くしまる。

周溝 南辺中央から西辺中央にかけて設ける。規模は長さ3.82m幅40cm深さ3cmである。

掘り方 中央部を皿形の方形に30cm程度掘り込み、全体は20cm程度掘り込んで凸凹する。

遺物 遺物は全体に分散する。床面では西壁際で須恵器杯(5)、完形の石製紡錘車(7)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品3714g・同小型品2005g、須恵器小型品100gが出土している。

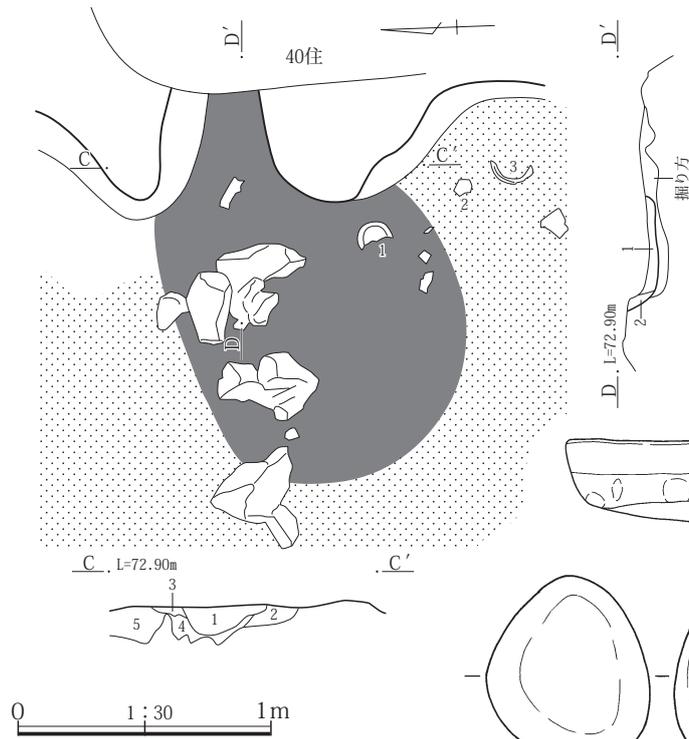
時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子やや多量に含む。
- 2 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。

- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子含む。
- 6 褐色土 しまり弱く粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 7 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 8 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 9 にぶい黄褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。焼土粒子含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。

カマド

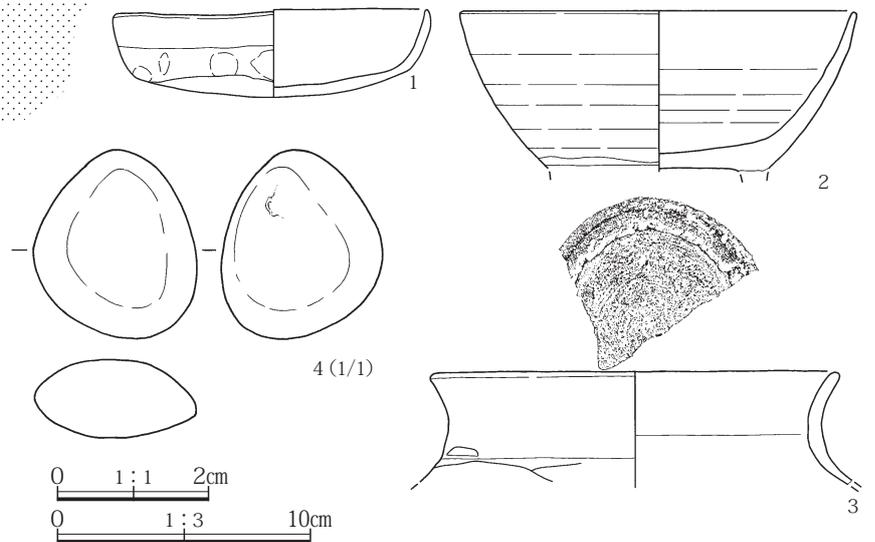


カマド

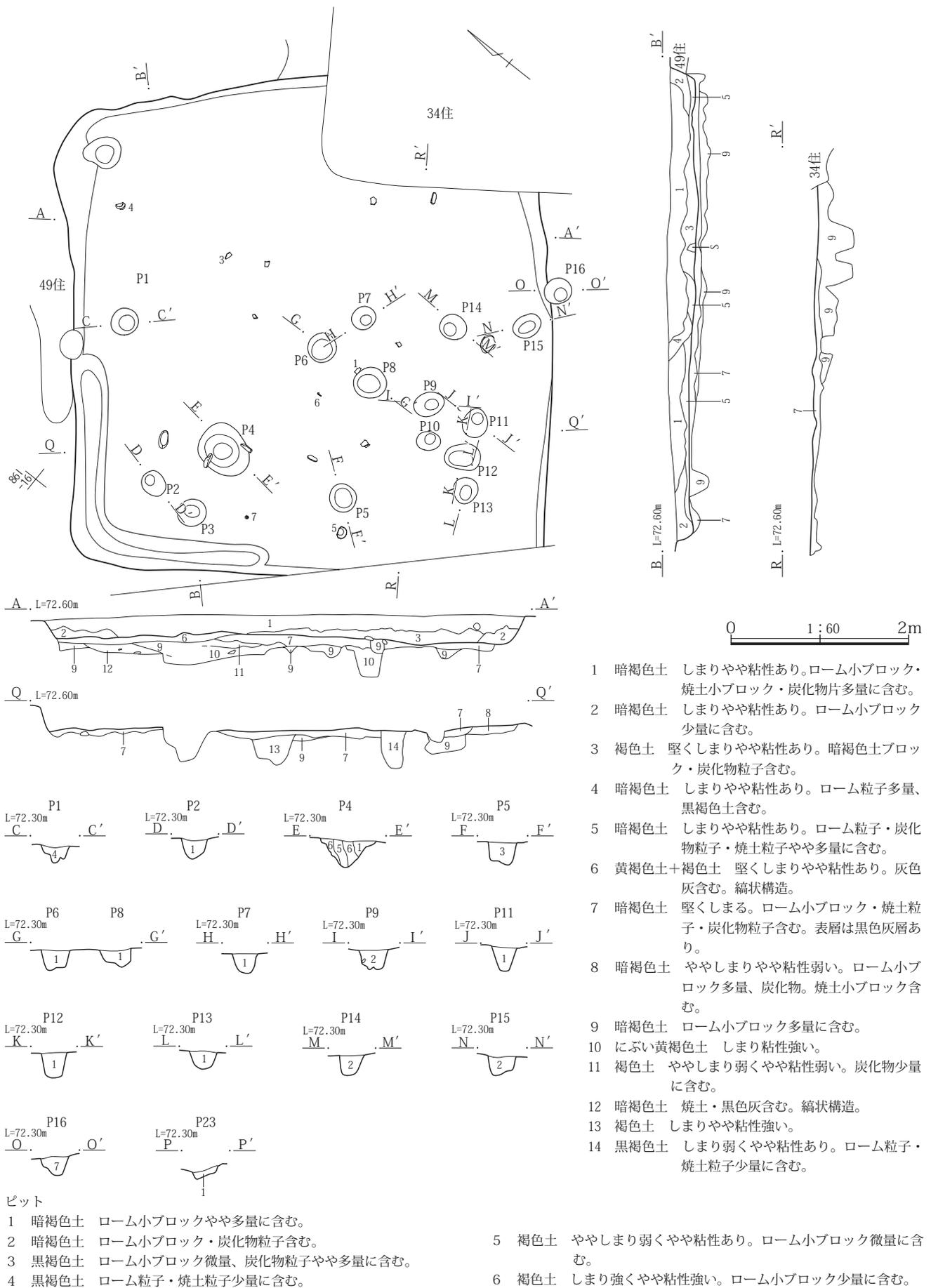
- 1 焼土化したローム しまり弱く粘性ない。黒色灰含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。

カマド掘り方

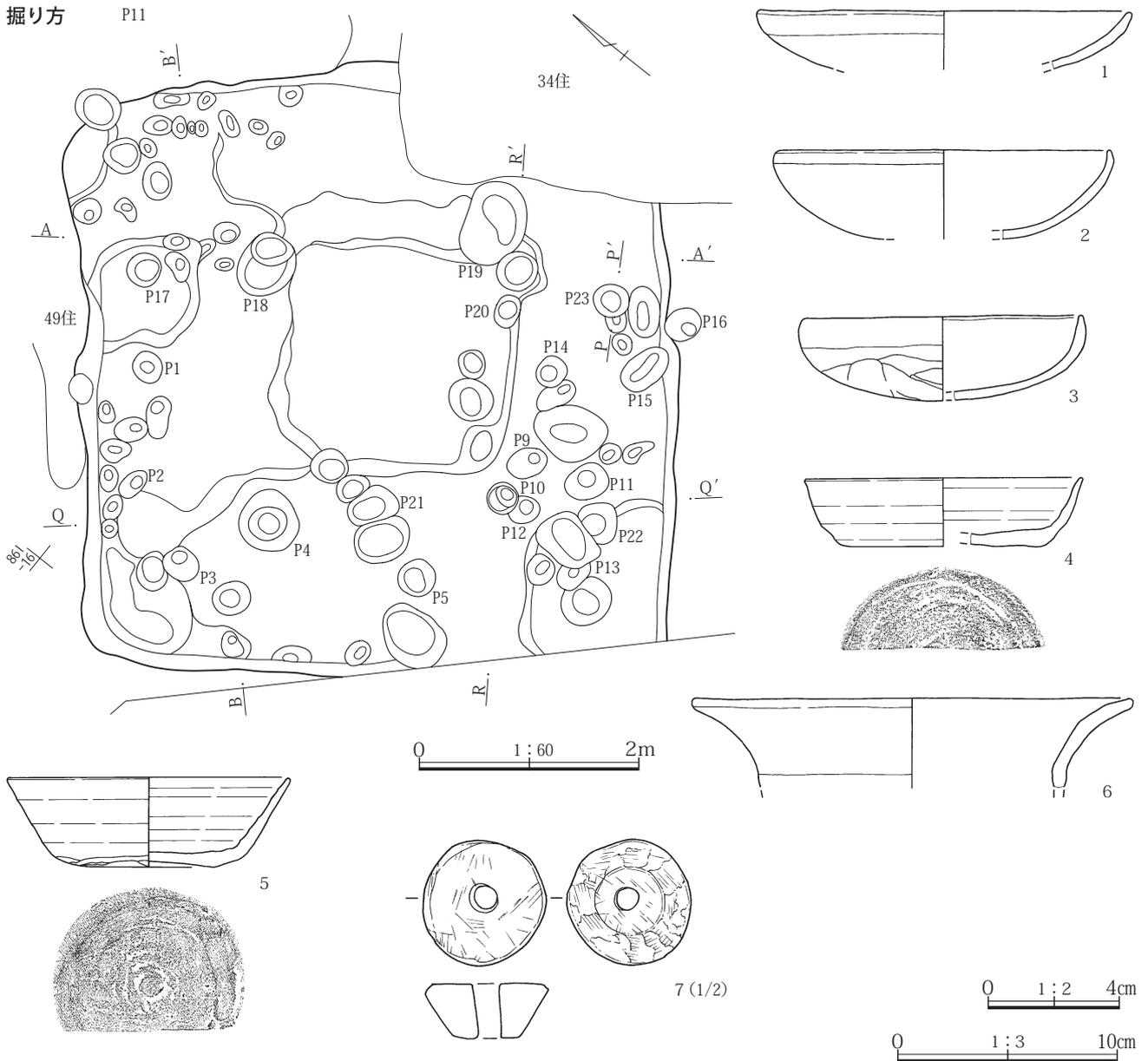
- 1 黒色灰 しまりなく粘性ない。炭化物片・焼土小ブロック含む。
- 2 焼土化したローム しまり弱く粘性ない。黒色灰含む。
- 3 黒褐色土 ややしまりやや粘性ない。黒色灰多量に含む。
- 4 焼土+ローム粒子 しまりなく粘性ない。黒色灰含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物片少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック含む。



第437図 2区47号住居と出土遺物



第438図 2区48号住居



第439図 2区48号住居掘り方と出土遺物

49号住居(第440・441図、P L .179・180・308)

位置 861-14・15 重複 26・48号住居より前出で、554～557号ピットも状況から前出であろう。

形態 長方形。主軸方位 N-46°-E

規模 面積9.26㎡ 長軸4.81m、短軸3.62m 残存壁高13～23cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

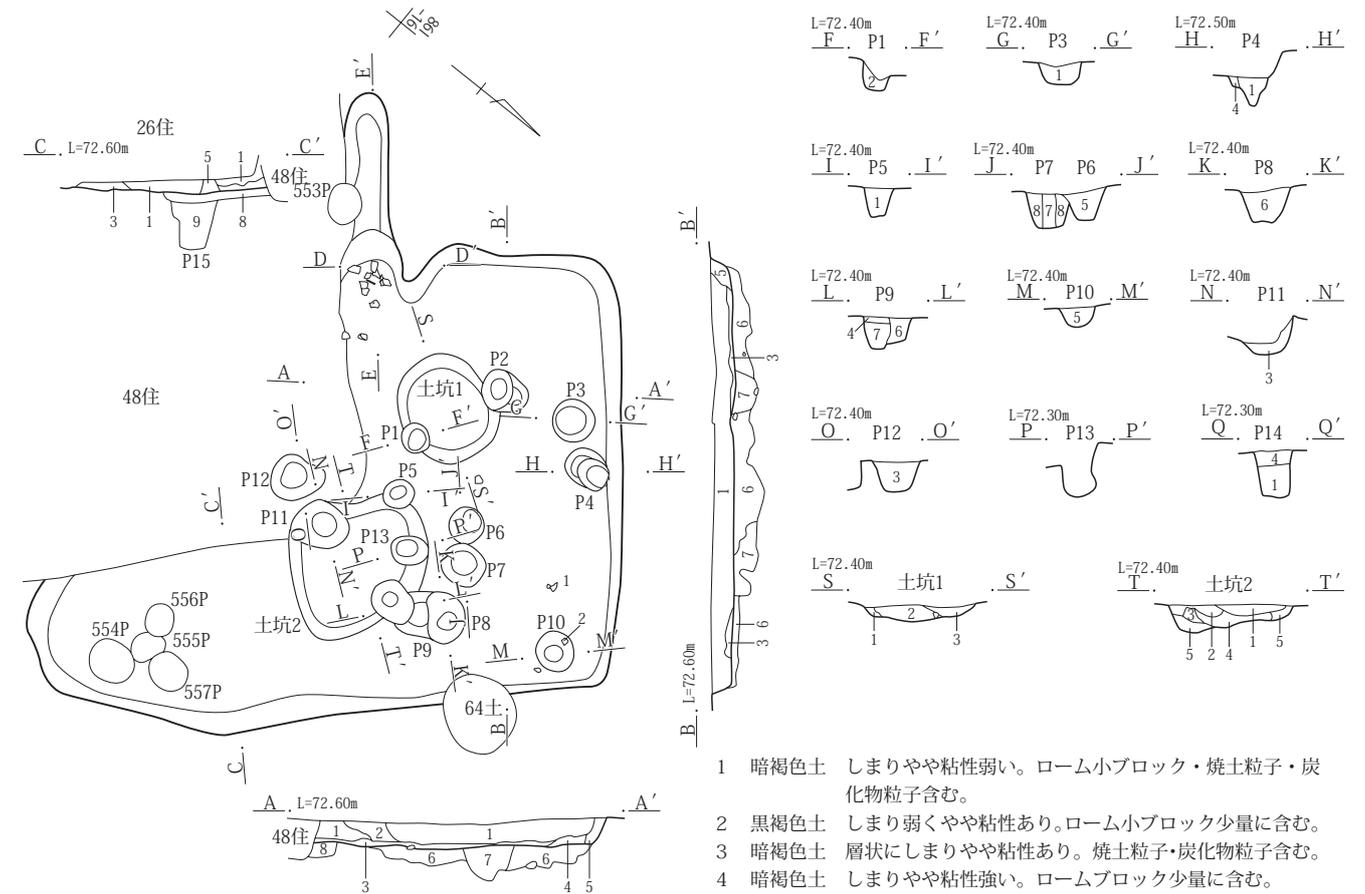
カマド 南辺中央に設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部底面が弱く焼土化し炭がやや広がる。右袖のみ残存し地山を削り残して芯として構築する。全体規模は長さ167cm幅(88)cm、燃烧部は長さ58cm、袖焚口幅(56)cmで、確認面からの深さは17cmである。煙道部は長さ118cm幅

35cm深さ11cmである。掘り方の深さは燃烧部で5cm程度と浅い。

土坑1 カマド右袖前面に設ける。平面形は円形で皿状。規模は長径86cm短径70cm深さ15cmである。

土坑2 中央北寄りに設ける。平面形は不整形円で底面は平坦。規模は長径110cm短径105cm深さ15cmである。

柱穴 北西部にやや多く、15基のピットを検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 24・21・27、P 2 : 38・32・23、P 3 : 34・34・17、P 4 : 36・30・25、P 5 : 25・23・23、P 6 : 29・27・31、P 7 : 35・33・39、P 8 : 40・30・32、P 9 : (48)・35・39、P 10 : 32・30・21、P 11 : 42・36・30、P 12 : 43・35・24、P 13 : 30・



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 層状にしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック少量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子多量に含む。
- 6 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロックごく多量、焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 7 暗褐色土 上層は層状に堅くしまる。ロームブロックごく多量に含む。
- 8 にぶい黄褐色土 堅くしまる。
- 9 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。

ピット

- 1 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 3 褐色土 ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム小ブロック・炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量、ローム大ブロック少量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子含む。
- 7 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 8 暗褐色土+ロームブロック しまり強く粘性強い。

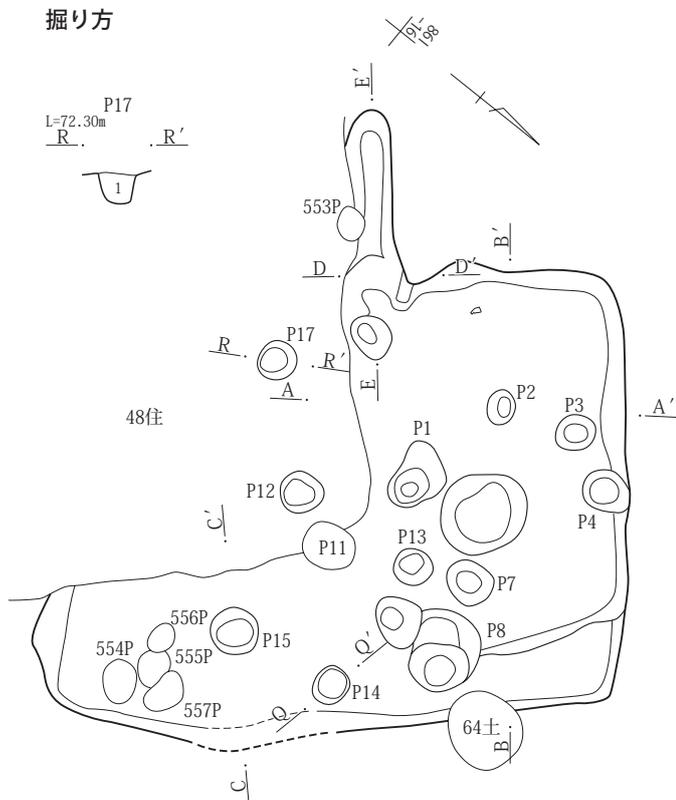
土坑1

- 1 褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 2 褐色土+にぶい黄褐色土 しまり強くやや粘性あり。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子含む。

土坑2

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土小ブロック含む。
- 3 褐色土 層状にしまる。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 4 褐色土 しまり弱く粘性あり。焼土小ブロック・黒色灰ブロック含む。
- 5 にぶい黄褐色土 しまり粘性強い。

掘り方



第440 図 2区49号住居

23・40、P14：31・26・36、P15：38・38・42

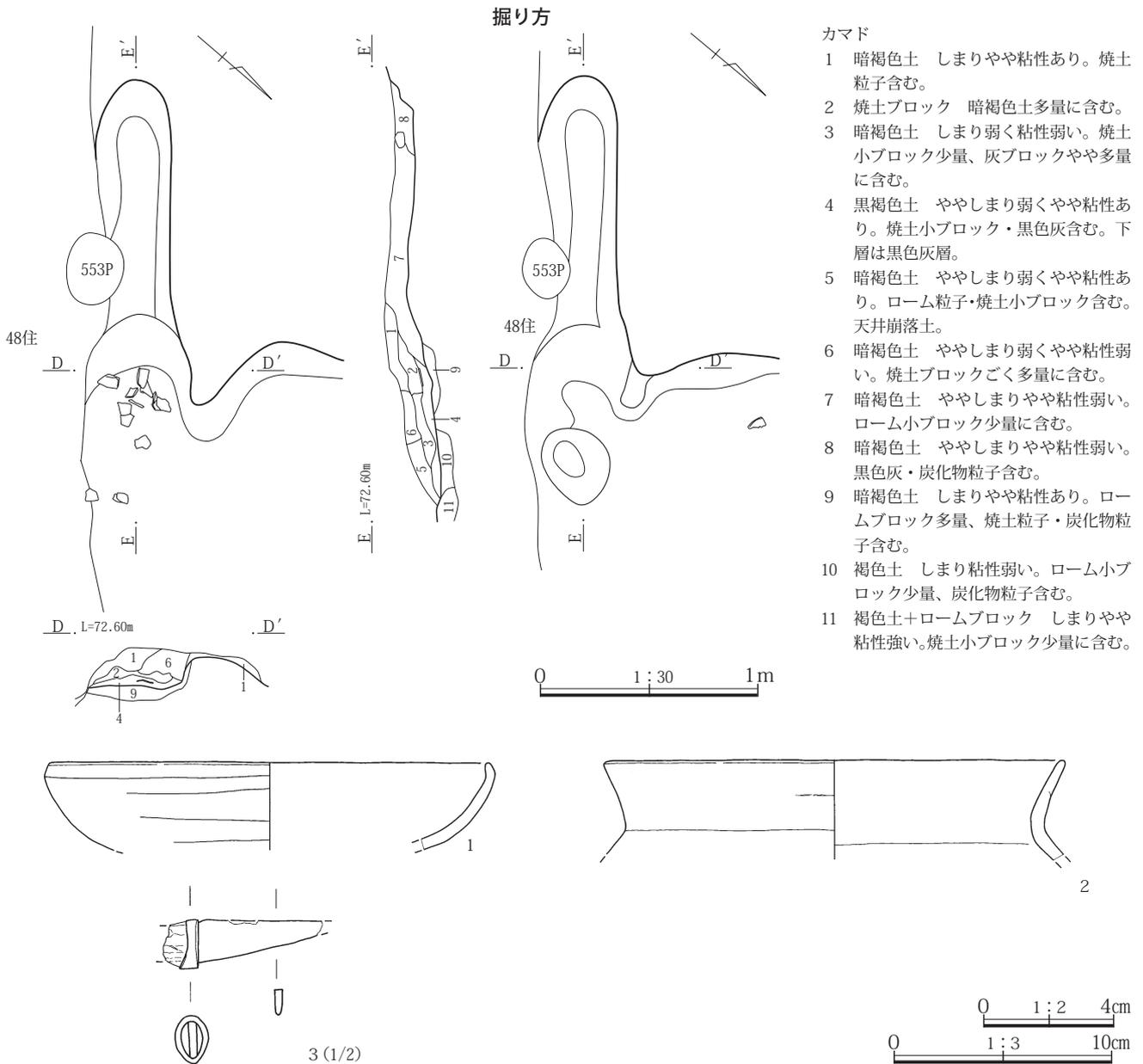
床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に20cm程度掘り込まれ凸凹する。

遺物 カマドに遺物の集中がみられる。北東隅の床面で2の土師器甕が出土する。掘り方から刀子(3)が出土

し、木質部も残存していた。掲載遺物のほか土師器大型品1710g・同小型品730g、須恵器大型品1片・同小型品85gが出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。



第441図 2区49号住居カマドと出土遺物

50号住居(第442図、P L .180・309)

位置 86H・I-16・17

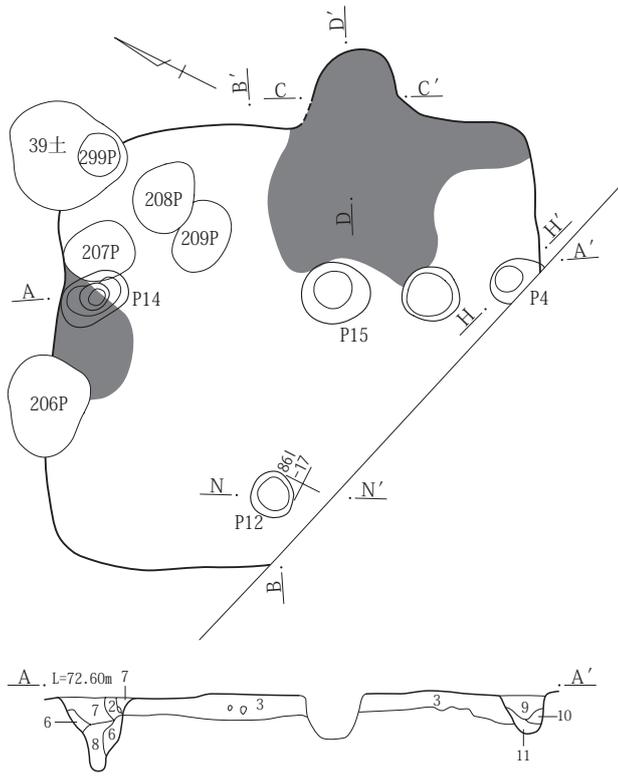
重複 状況から39号土坑、206～209・299号ピットより前出と思われる。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-62°-E

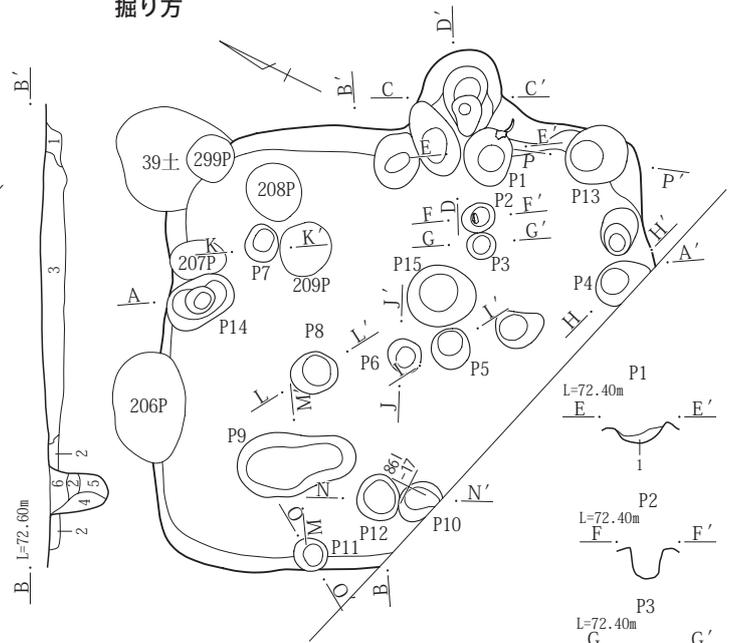
規模 面積10.46㎡ 長軸3.95m、短軸3.54m

埋没土 確認段階で床面が露呈しており、埋没状況不詳。

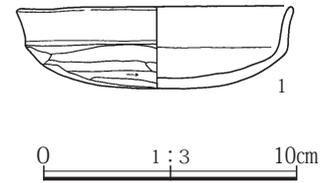
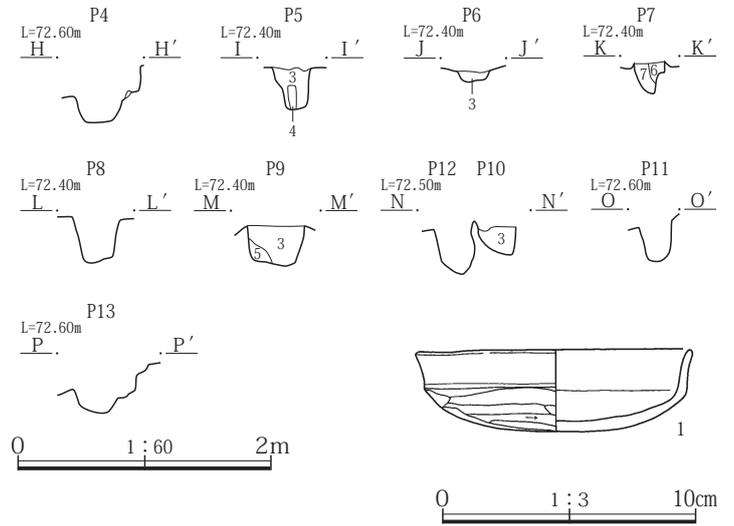
カマド 東辺中央南寄りに設ける。燃焼部を住居外に持つ。全体に焼土化は弱いが、前面にかけて広く炭が広がる。両袖は残存していないが、右袖で土師器甕が立てられており芯としたと考えられる。全体規模は長さ63cm幅107cmである。掘り方の深さは燃焼部で30cmと深い。



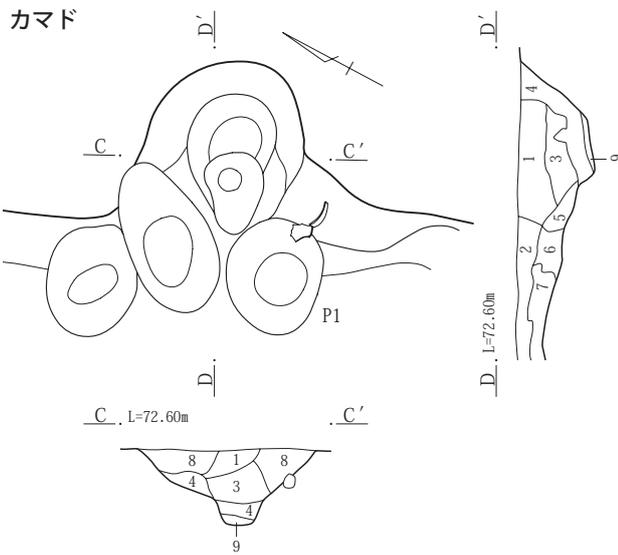
掘り方



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 2 ローム大ブロック+灰褐色土
- 3 褐色土 堅くしまる。ローム小ブロック多量、黒褐色土小ブロック少量、焼土小ブロック、炭化物微量に含む。
- 4 褐色土 しまり粘性強い。ローム粒子含む。
- 5 褐色土 ややしまり粘性強い。ローム大ブロック多量に含む。
- 6 褐色土 堅くしまる。ローム粒子多量、炭化物粒子含む。
- 7 褐色土 堅くしまる。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子やや多量に含む。
- 8 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子少量に含む。空隙多い。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック・炭化物粒子やや多量に含む。
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム大ブロック少量に含む。
- 11 暗褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。ローム大ブロック含む。



カマド

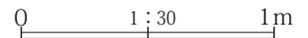


ピット

- 1 極暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土ブロック・灰色灰やや多量に含む。
- 2 黒褐色土 堅くしまりやや粘性弱い。焼土粒子・白色軽石粒子含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。空隙多い。ローム粒子含む。
- 5 褐色土 しまり強く粘性強い。ローム粒子少量に含む。
- 6 暗褐色土
- 7 黄褐色土 しまり強くやや粘性あり。暗褐色土ブロックやや多量に含む。

カマド

- 1 褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 3 焼土ブロック+暗褐色土ブロック しまり弱くやや粘性弱い。
- 4 黄褐色土 しまりやや粘性強い。暗褐色土・焼土含む。
- 5 黄褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。
- 6 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ローム大ブロック多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量、焼土粒子やや多量、炭化物粒子含む。
- 9 黄褐色土 しまりやや粘性強い。灰含む。



第442図 2区50号住居と出土遺物

貯蔵穴 未検出。

柱穴 床面で4基、掘り方で11基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:46・37・12、P2:27・23・22、P3:23・22・12、P4:46・35・45、P5:32・30・35、P6:28・26・12、P7:29・26・25、P8:37・33・33、P9:94・51・22、P10:(34)・31・20、P11:27・26・11、P12:37・33・45、P13:50・44・16、P14:56・35・59、P15:55・49・35

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土3は堅くしまる。北辺中央に炭が広がる。

掘り方 全体に20cm程度掘り込まれ凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。P2から1の土師器杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品670g・同小型品225g、須恵器小型品2片が出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、コムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

51号住居(第443図、P.L.181・309)

位置 86G・H-14・15 重複 なし

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-38°-W

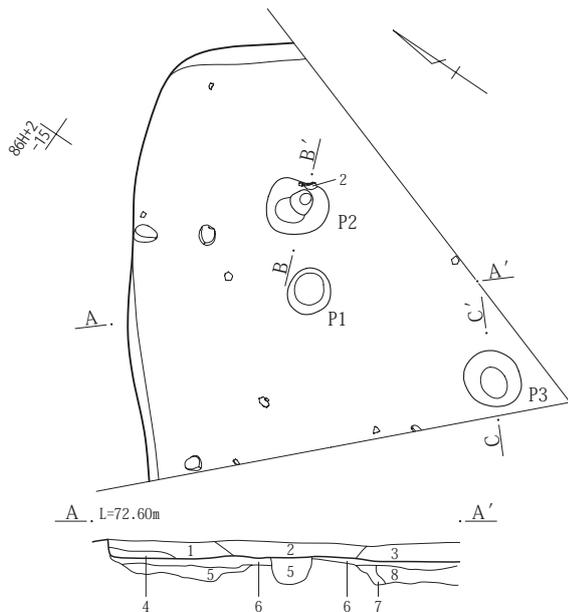
規模 面積7.38㎡ 長軸(3.43)m、短軸(3.42)m 残存壁高10~15cm

埋没土 壁際の埋没土4は自然埋没と思われるが、埋没土の主体は褐色土でロームブロックの混入も目立ち、人為埋没の可能性が高い。

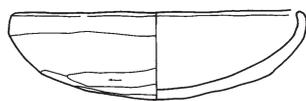
カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 中央周辺で3基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:38・34・21、P2:48・41・47、P3:49・42・35

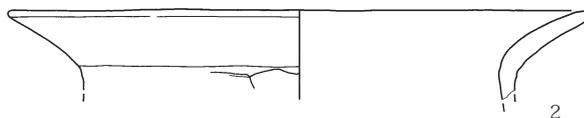
床 硬化範囲は確認できていないが、埋没土6は硬化層



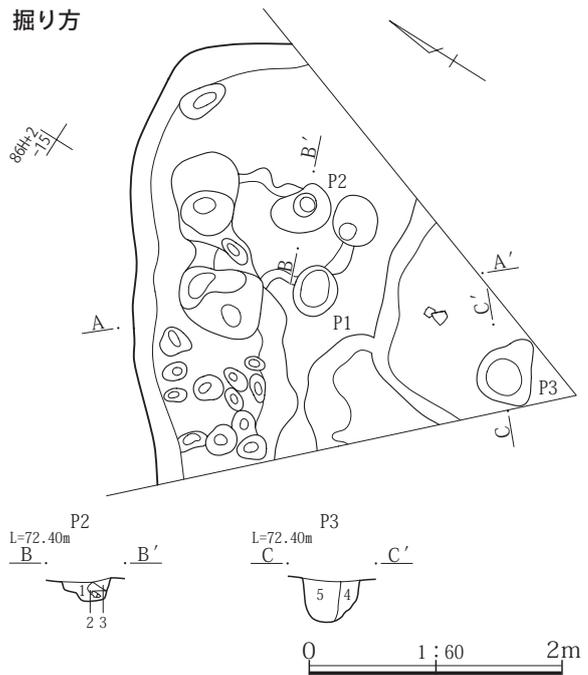
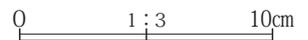
- 1 褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 3 褐色土 堅くしまり粘性強い。焼土粒子多量、ローム大ブロック含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 6 暗褐色土 硬化面。灰・焼土を層状含む。
- 7 褐色土 ややしまり粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 8 褐色土+黄褐色土 焼土粒子少量に含む。



1



2



ピット

- 1 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。黒色灰ブロック小ブロック、焼土粒子少量に含む。
- 2 黄褐色ロームブロック
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。黒色灰ブロック少量に含む。
- 4 明黄褐色土 しまり弱くやや粘性強い。
- 5 黄褐色土 ややしまりやや粘性強い。

第443図 2区51号住居と出土遺物

として認識できた。

掘り方 中央部を15cm程度掘り込むほか、全体に浅く掘り込み凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。P 2 近い床面で2の土師器甕が出土し、掘り方で1の土師器杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品700g・同小型品125g、須恵器大型品1片・同小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

53号住居(第444図、P L .181)

位置 96O・P-1・2

重複 39・43・47号住居、65号土坑より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-70°-E

規模 面積9.57㎡ 長軸(5.43)m、短軸5.17m 残存壁高6~13cm

埋没土 確認段階で床面が露呈していたことから、埋没土は不明である。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 中央周辺で硬化範囲が確認できた。

掘り方 中央部は20cm程度方形気味に掘り込み、全体は浅く掘り込んで凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。東半部で1の土師器壺が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品2片が出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

54・56号住居(第445・446図、P L .182・184)

54号住居 **位置** 96K・L-2・3

重複 55・56号住居より後出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-87°-W

規模 面積5.63㎡ 長軸3.20m、短軸2.18m 残存壁高10~12cm

埋没土 黒褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の南半部に設ける。燃焼部を住居の壁面付近に持つ。燃焼部底面は弱く焼土化し、炭が広がるが顕著ではない。両袖とも残存しない。全体規模は長さ55cm幅81cm、確認面からの深さは15cmである。掘り方の深さは燃焼部で5cm弱と浅い。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 中央からカマド周辺で3基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 58・32・11、P 2 : 65・50・24、P 3 : 35・30・26

床 中央から南東部にかけて硬化範囲を確認できた。

掘り方 中央部で方形の土坑状に15cm程度掘り込むが、全体はほとんど確認できない。

遺物 遺物の出土は少ない。埋没土から1の土師器杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品430g・同小型品140g、須恵器大型品135g・同小型品95gが出土している。カマドなどで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、ダイズ属種子、マメ科種子、イネ種子が少量、オオムギ種子、コムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀に比定される。

56号住居 **位置** 96K・L-2・3

重複 54・55号住居より前出。南側に並走する13号溝に関連する可能性がある。

形態 長方形。 **主軸方位** N-60°-E

規模 面積12.43㎡ 長軸5.10m、短軸4.10m 残存壁高7~8cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

炉 中央部北寄りの床面に炭が分布し、一部掘り方面で焼土が確認できたことから、炉であった可能性が高い。

貯蔵穴 未検出。

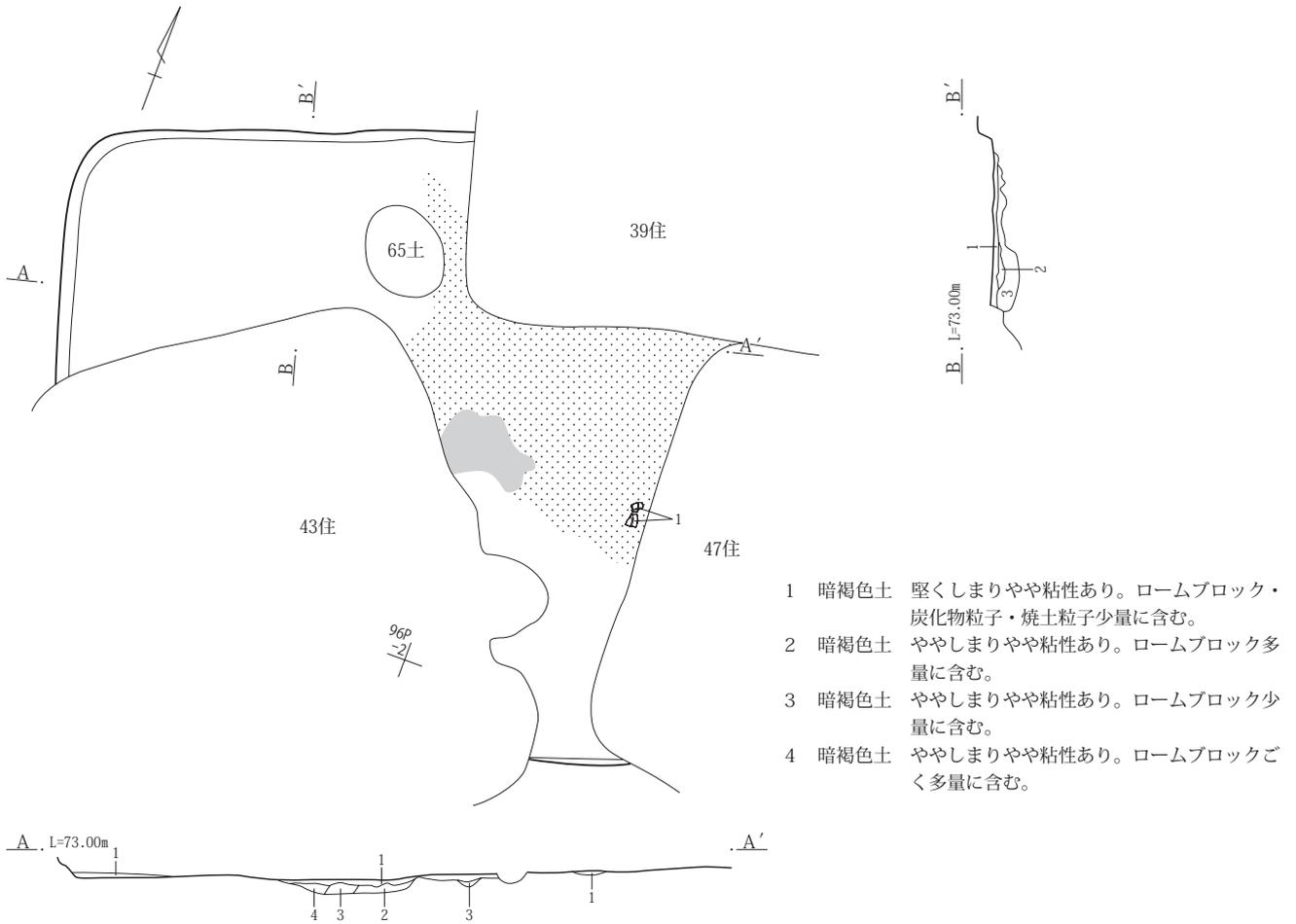
柱穴 四隅の対角線上で主柱穴4基、掘り方で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 46・31・46、P 2 : 46・34・23、P 3 : 43・38・48、P 4 : (33)・30・13、P 5 : 35・31・51

床 主柱穴に囲まれた中央部の広い範囲から南西隅で硬化範囲を確認した。

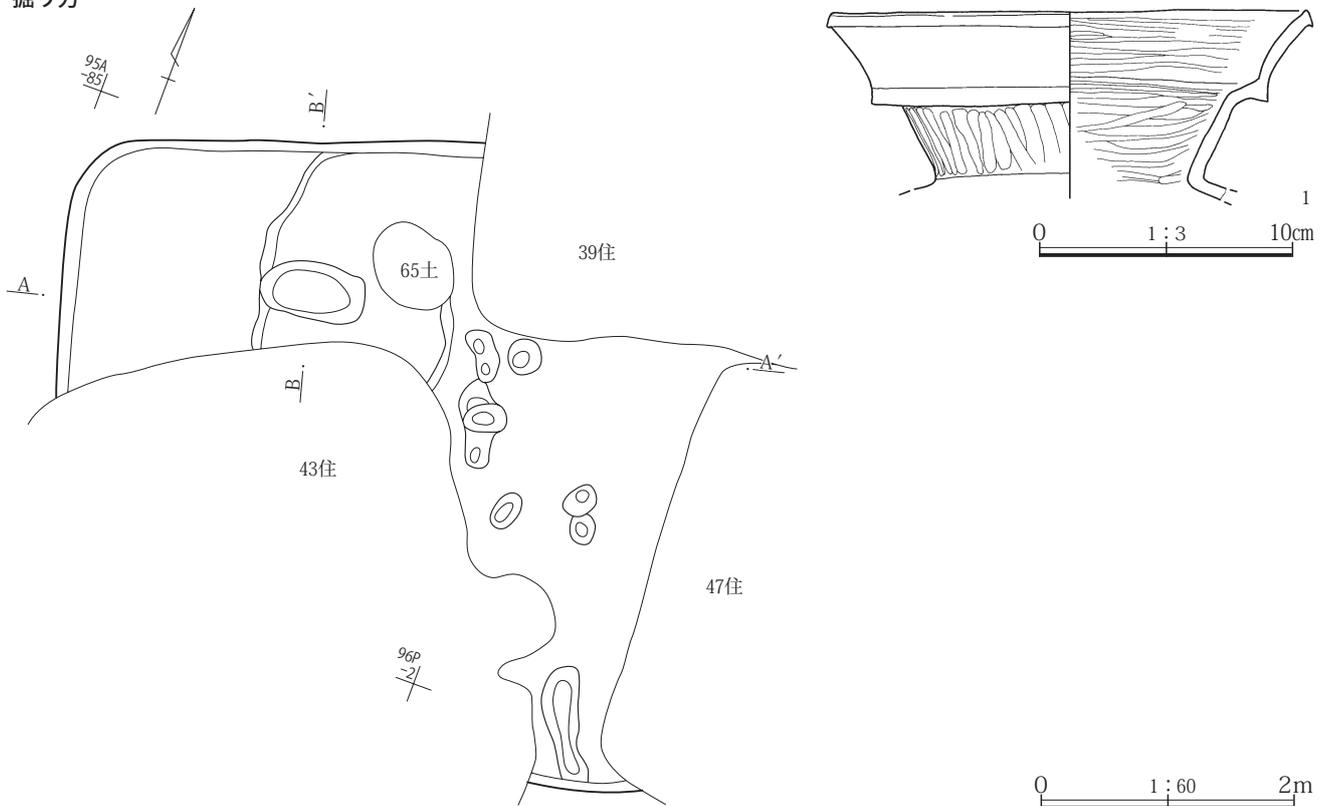
掘り方 全体に浅く掘り込み凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。埋没土から土師器甕(2)、同小型台付甕(3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品390g・同小型品110gが出土している。

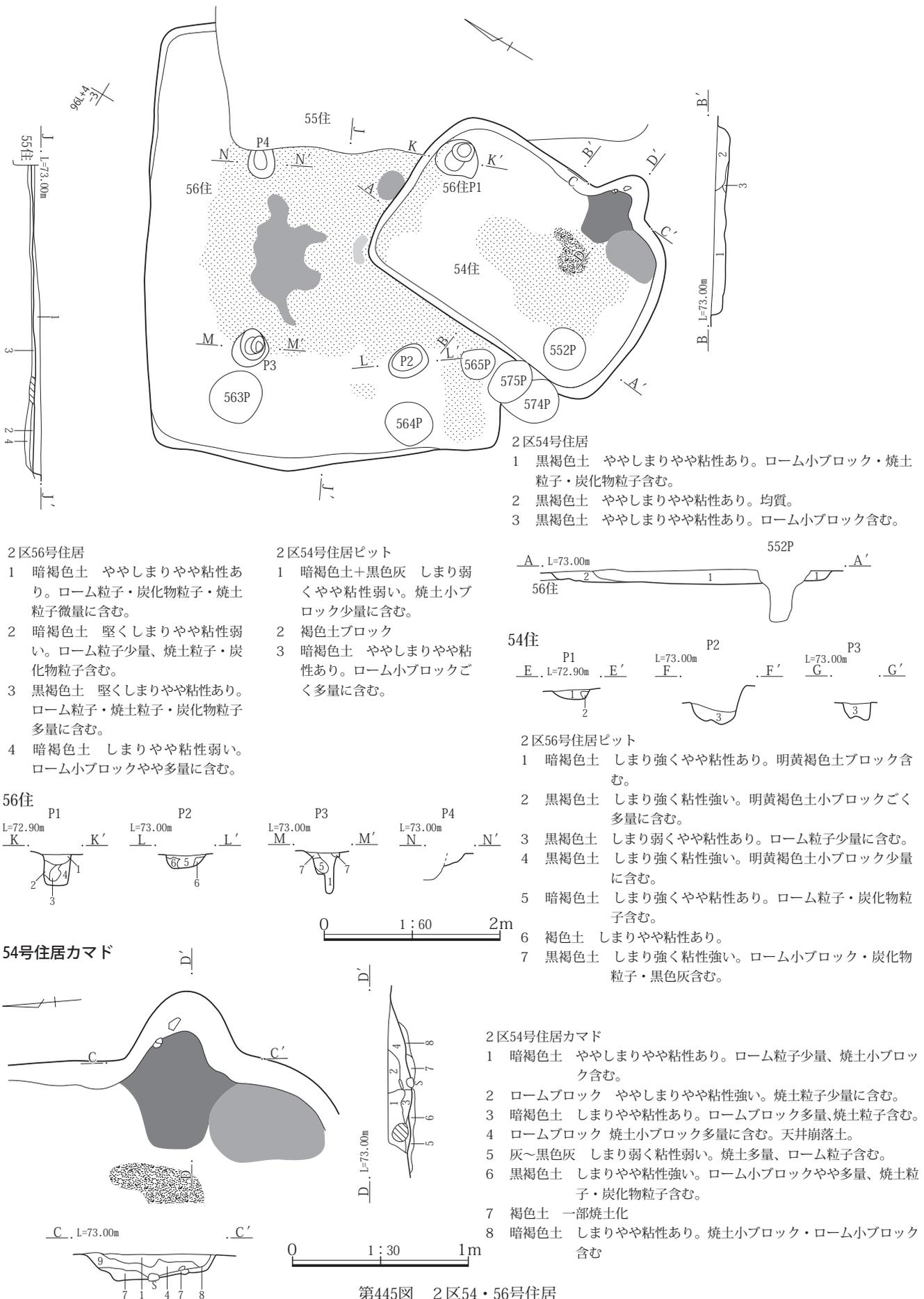
時期 出土遺物から4世紀代に比定される。



掘り方

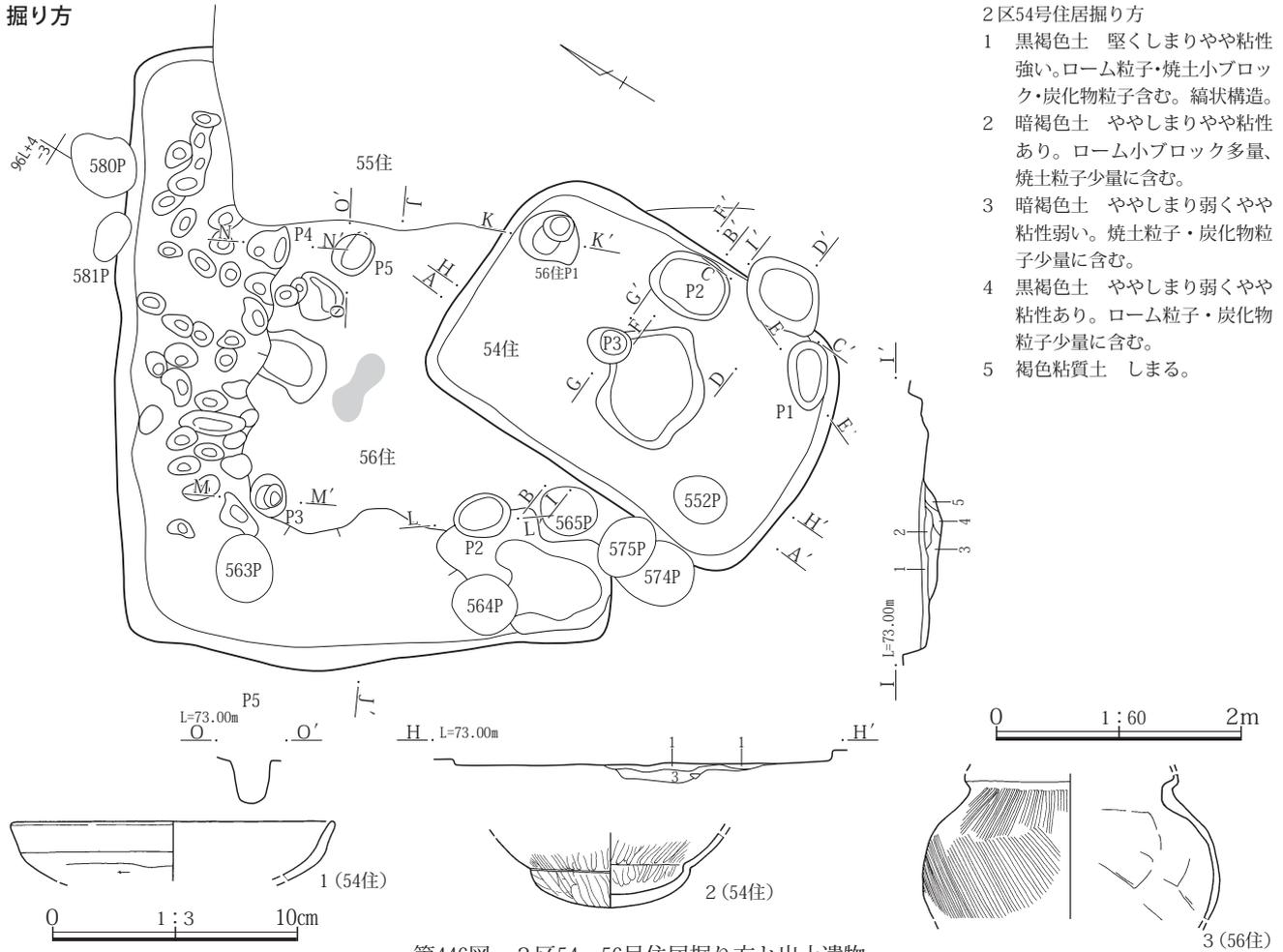


第444図 2区53号住居と出土遺物



第445図 2区54・56号住居

掘り方



第446図 2区54・56号住居掘り方と出土遺物

55号住居(第447～450図、P L .183・309・310、第6表)

位置 96K・L-1・2

重複 56号住居より後出で、54号住居、6号井戸より前出。

形態 正方形。主軸方位 N-31°-W

規模 面積18.63㎡ 長軸5.0m、短軸4.73m 残存壁高22～40cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 北西辺のほぼ中央に設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部の中央北寄りに支脚として棒状円礫が立てられる。燃烧部底面は炭が顕著で、奥壁から煙道部に焼土化が見られる。両袖に土師器甕が芯として使用され、右袖はほぼ完形で倒置されていた。全体規模は長さ157cm幅157cm、燃烧部は長さ67cm、袖焚口幅68cmで、確認面からの深さは21cmである。煙道部は長さ90cm最大幅35cm深さ12cmである。掘り方の深さは燃烧部で5cm程度と浅い。

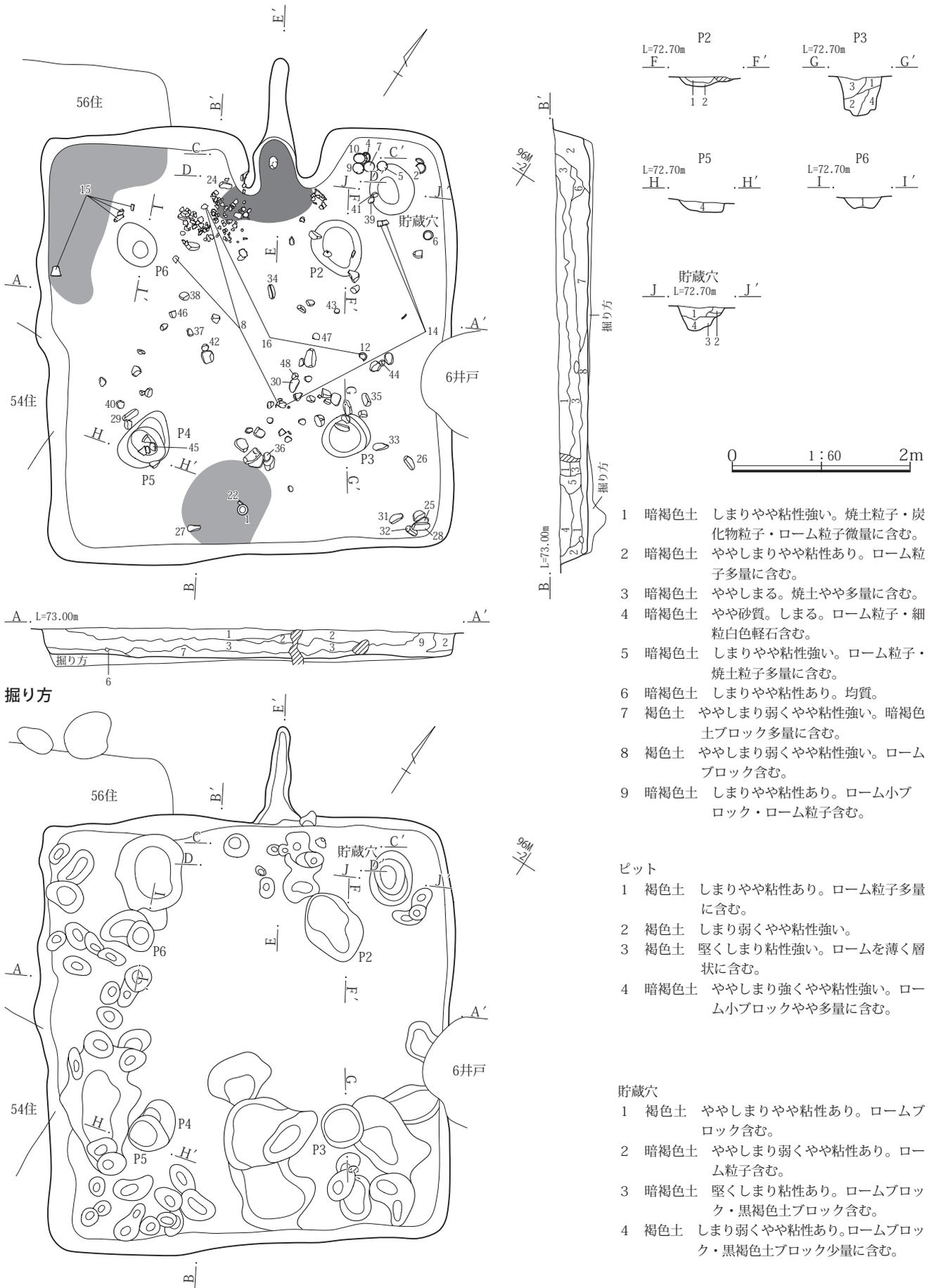
貯蔵穴 北東隅近くに設ける。平面形は楕円形。規模は

長径57cm短径50cm深さ31cmである。

柱穴 四隅の対角線上に並ぶ4基の支柱穴を含む5基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P2:66・54・

第6表 2区55号住居菰編石計測表

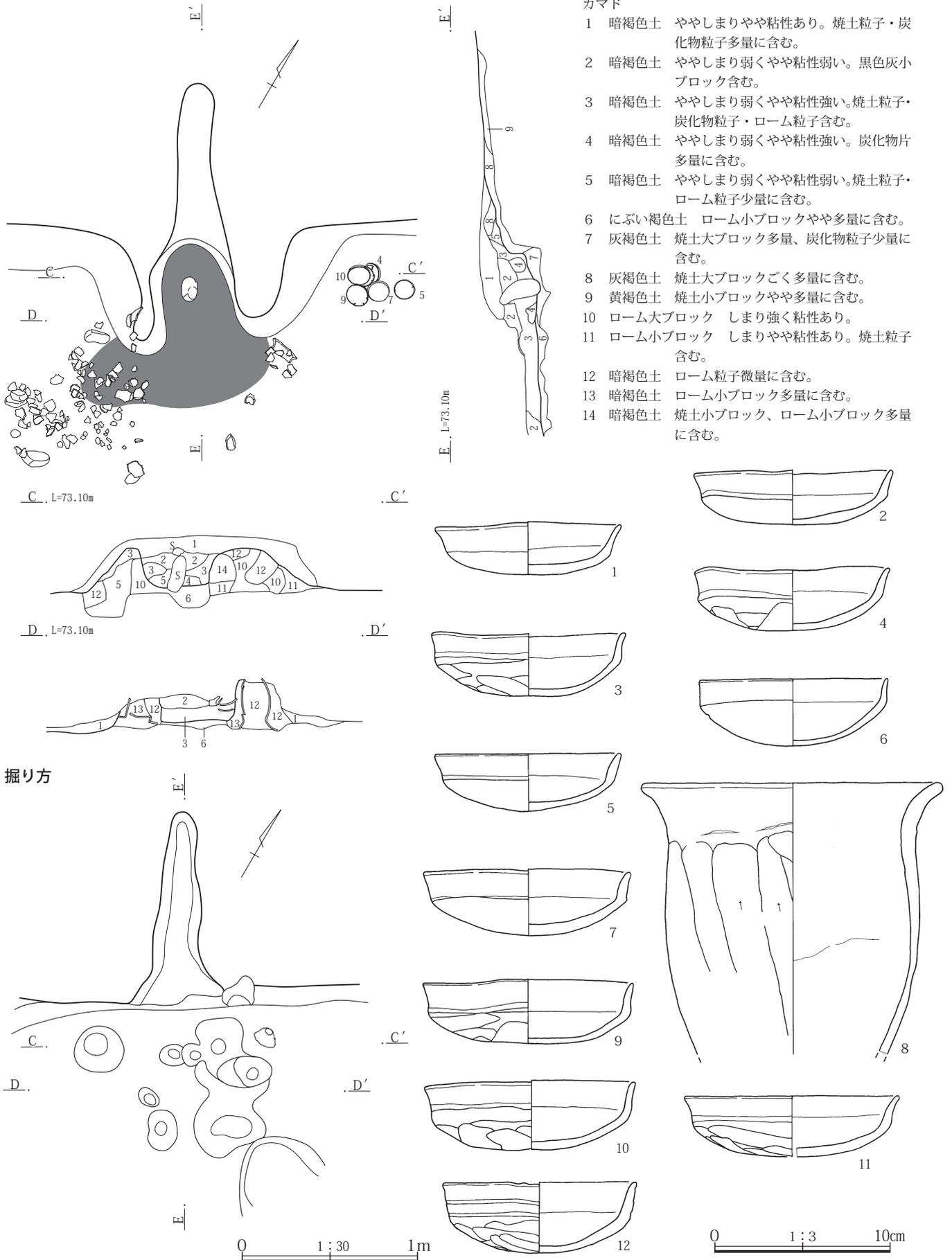
番号	出土位置	石材	幅	長	重量(g)
23	ピット2内	石英閃緑岩	6.3	8.0	488.9
24	+8cm	ひん岩	8.1	15.2	753.3
25	+10cm	粗粒輝石安山岩	8.0	19.3	924.6
26	+4cm	変質安山岩	7.5	16.6	815.2
27	+5cm	灰色安山岩	6.5	13.8	727.4
28	+12cm	ひん岩	7.5	18.4	1085.3
29	+10cm	溶結凝灰岩	7.2	17.9	1006.9
-		溶結凝灰岩	6.7	13.8	785.6
30	+8cm	粗粒輝石安山岩	8.9	17.2	962.3
31	+8cm	アブライト	7.9	16.7	1113.4
32	+10cm	細粒輝石安山岩	6.5	14.0	567.2
33	+4cm	変質安山岩	7.4	17.4	989.0
34	+7cm	粗粒輝石安山岩	5.9	15.0	725.9
35	+21cm	粗粒輝石安山岩	6.0	12.0	509.3
36	+10cm	粗粒輝石安山岩	7.2	9.6	375.4
37	+9cm	粗粒輝石安山岩	5.4	9.0	241.1
38	+5cm	粗粒輝石安山岩	8.9	10.7	807.8
39	+6cm	粗粒輝石安山岩	5.8	8.0	213.7
40	+22cm	粗粒輝石安山岩	7.4	7.3	230.9
41	ピット2内	粗粒輝石安山岩	5.2	7.1	197.9
42	+8cm	粗粒輝石安山岩	6.6	7.2	308.5
43	+2cm	粗粒輝石安山岩	7.7	7.2	258.6
44	+22cm	粗粒輝石安山岩	6.7	7.0	331.9
45	ピット4内	粗粒輝石安山岩	6.3	8.5	290.8
46	+10cm	粗粒輝石安山岩	6.7	(6.5)	209.2
47	+7cm	粗粒輝石安山岩	7.2	(6.0)	227.8
48	+10cm	粗粒輝石安山岩	6.6	6.0	237.9



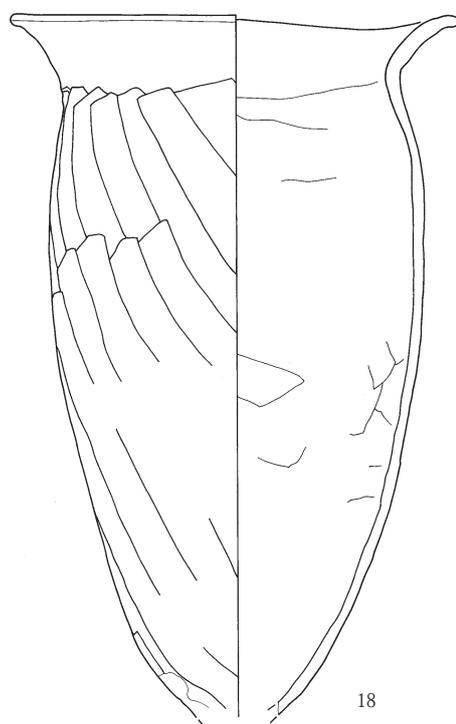
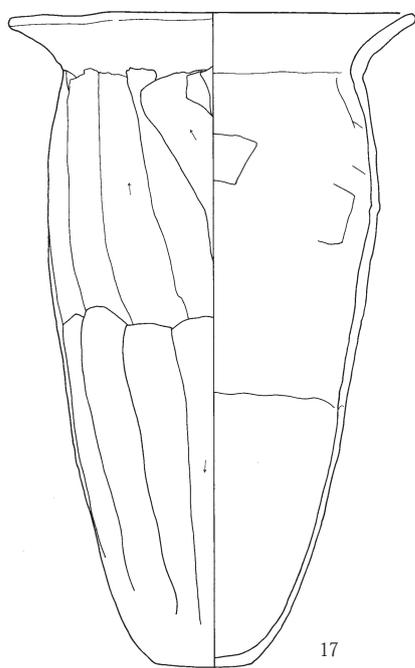
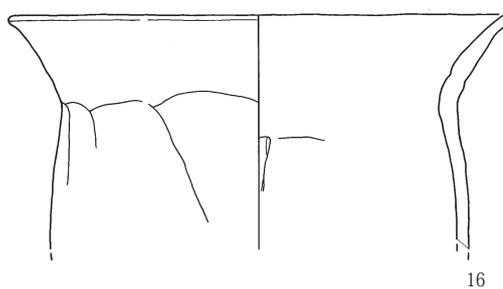
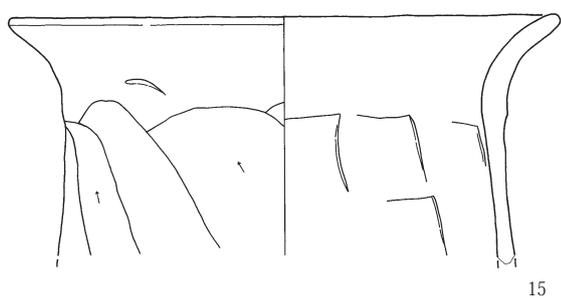
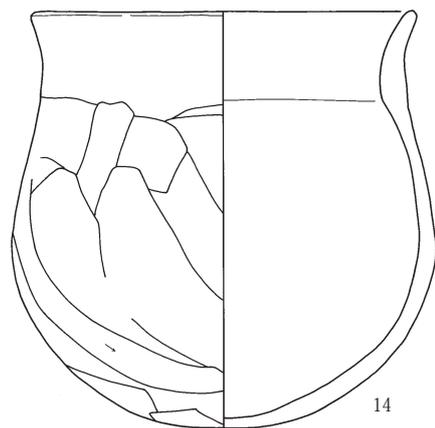
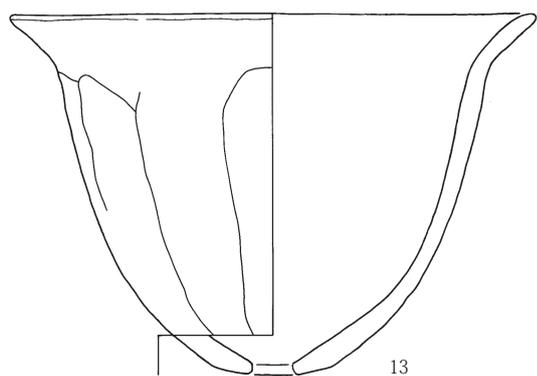
第447図 2区55号住居

カマド

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。黒色灰小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。炭化物粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土粒子・ローム粒子少量に含む。
- 6 にぶい褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 7 灰褐色土 焼土大ブロック多量、炭化物粒子少量に含む。
- 8 灰褐色土 焼土大ブロックごく多量に含む。
- 9 黄褐色土 焼土小ブロックやや多量に含む。
- 10 ローム大ブロック しまり強く粘性あり。
- 11 ローム小ブロック しまりやや粘性あり。焼土粒子含む。
- 12 暗褐色土 ローム粒子微量に含む。
- 13 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 14 暗褐色土 焼土小ブロック、ローム小ブロック多量に含む。



第448図 2区55号住居カマドと出土遺物(1)



0 1:3 10cm

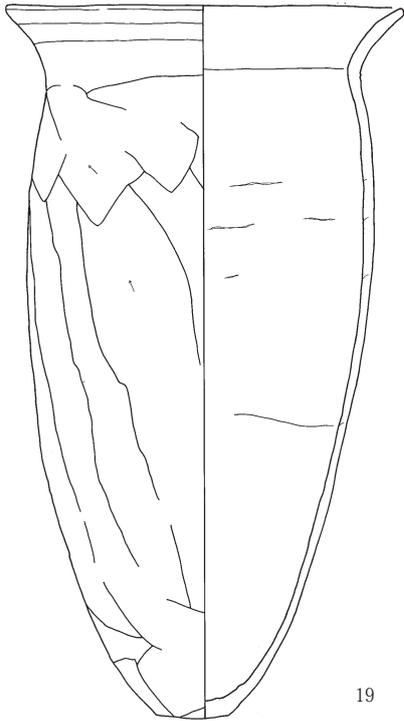
第449図 2区55号住居出土遺物(2)

20、P 3 : 54・46・46、P 4 : 一、P 5 : 70・51・10、
P 6 : 54・41・20

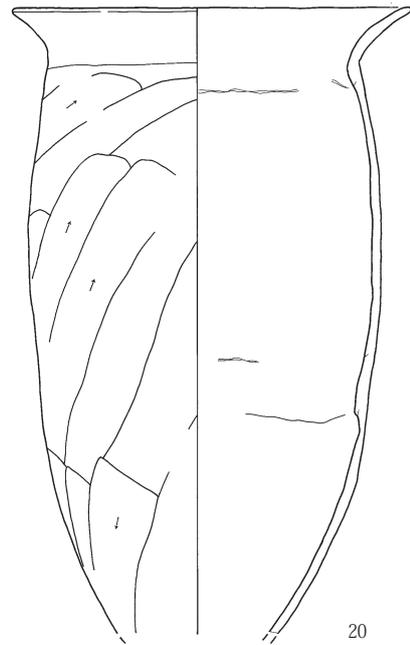
床 貼り床、硬化面は確認できない。北西隅、南端中央
に灰の集中が見られる。

遺物 カマドの左前面と貯蔵穴の左奥に出土遺物が集

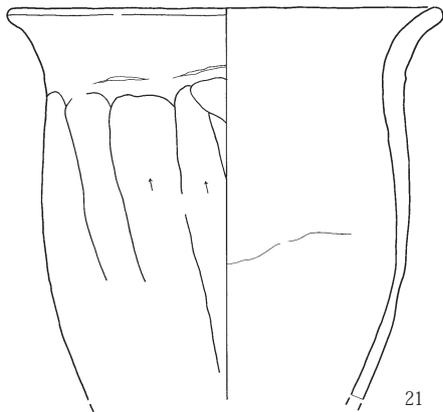
中する。貯蔵穴の左奥では、完形の土師器杯(4・5・
7・9・10)が積み重なって出土し、置かれていた状態に
近かった。また、中央部から南東隅にかけて菰編石27点
が集中するのは特筆される(第6表)。掲載遺物のほか土
師器大型品2790g・同小型品1110g、須恵器大型品1片・



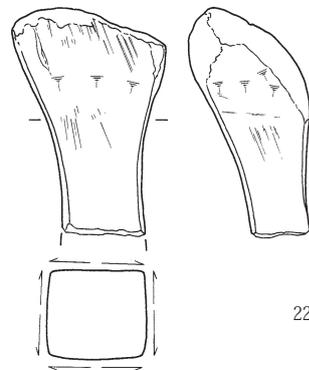
19



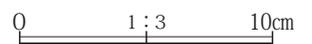
20



21



22



第450図 2区55号住居出土遺物(3)

同小型品1片が出土している。カマドなどで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、モモ核、コムギ種子、オオムギ・コムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

57・58号住居(第451図、P L.184・185)

57号住居 位置 96J・K-3・4

重複 58号住居より後出で、68号土坑より前出。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-71°-E

規模 面積10.60㎡ 長軸5.35m、短軸4.13m 残存壁高7~11cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 中央北西寄りで1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:35・(20)・14

床 中央部で硬化面を確認した。北壁付近は炭がやや多く分布する。

床下土坑 北東部に設ける。平面形は不整楕円形。規模は長径90cm短径72cm深さ40cmである。

掘り方 壁周辺は壁面と並行方向に掘り込み、全体に10cm程度掘り込む。

遺物 遺物の出土は少ない。北壁際の床面で1の土師器台付甕が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品525g・同小型品120gが出土している。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

58号住居 位置 96J-3

重複 57号住居、69号土坑より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 不明。

規模 面積0.54㎡ 長軸(1.50)m、短軸0.88m

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する部分が少ないため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 10cm程度掘り込む。

遺物 遺物の出土は少ない。埋没土から2の土師器甕が

出土する。掲載遺物のほか土師器大型品40gが出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

59号住居(第452~454図、P L.185・186・311)

位置 96L・M-4・5

重複 63・69号住居より後出で、60号住居より前出。12号溝と重複するが新旧関係不明。

形態 長方形。 **主軸方位** N-25°-W

規模 面積24.20㎡ 長軸6.0m、短軸5.2m 残存壁高27~49cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部底面から奥壁にかけて強く焼土化し、底面からカマド前面に炭が顕著に広がる。両袖は褐色土を主体に構築される。全体規模は長さ97cm幅185cm、袖焚口幅100cmで、確認面からの深さは37cmである。掘り方の深さは燃烧部で25cm程度である。

貯蔵穴 カマド右脇、住居の南東隅に設ける。平面形は不整楕円形。規模は長径155cm短径85cm深さ50cmである。

埋没土 中位で10の土師器甕が出土する。

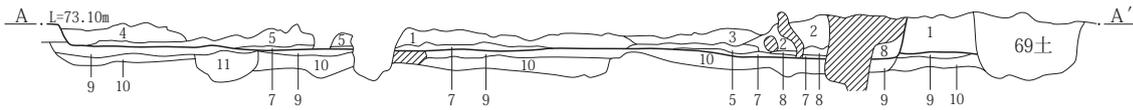
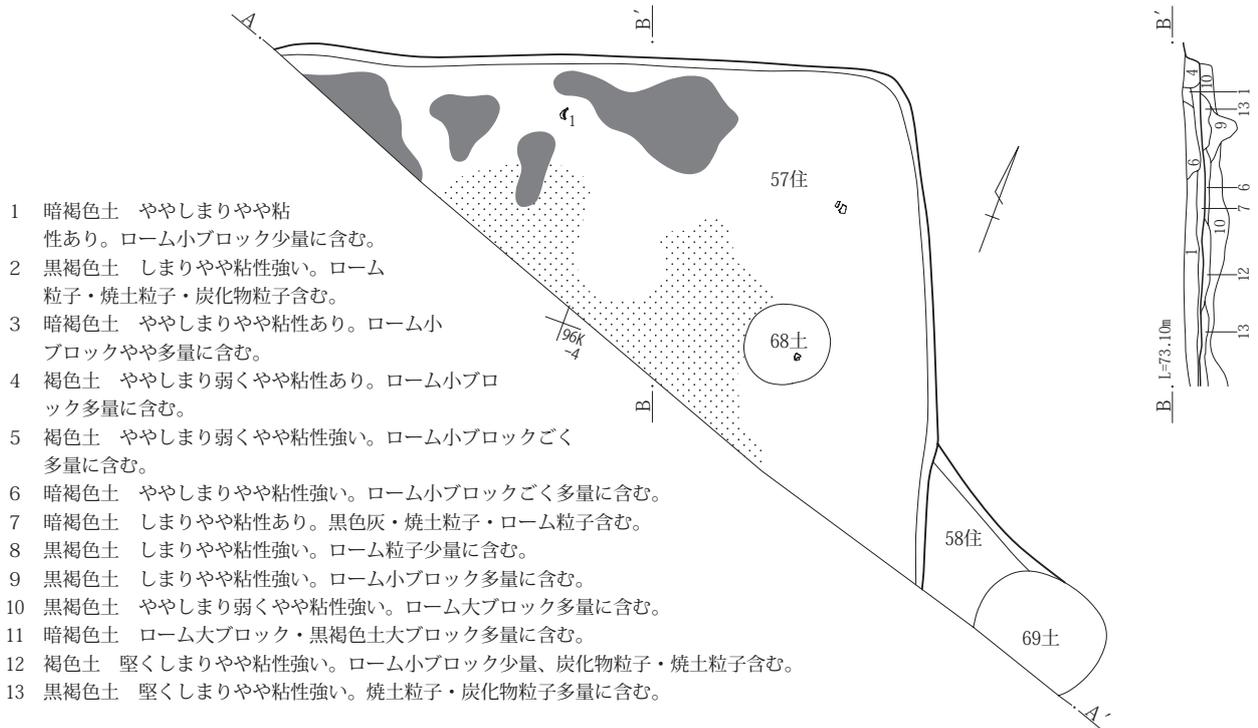
柱穴 主柱穴4基が検出され、全体としてに南に寄り、P1:2間が狭い。規模(長径・短径・深さcm)。P1:42・41・19、P2:45・39・20、P3:55・48・24、P4:50・47・23

床 硬化範囲は中央部南西寄りと、北辺周辺で確認できた。南半部で炭が顕著に広がる。

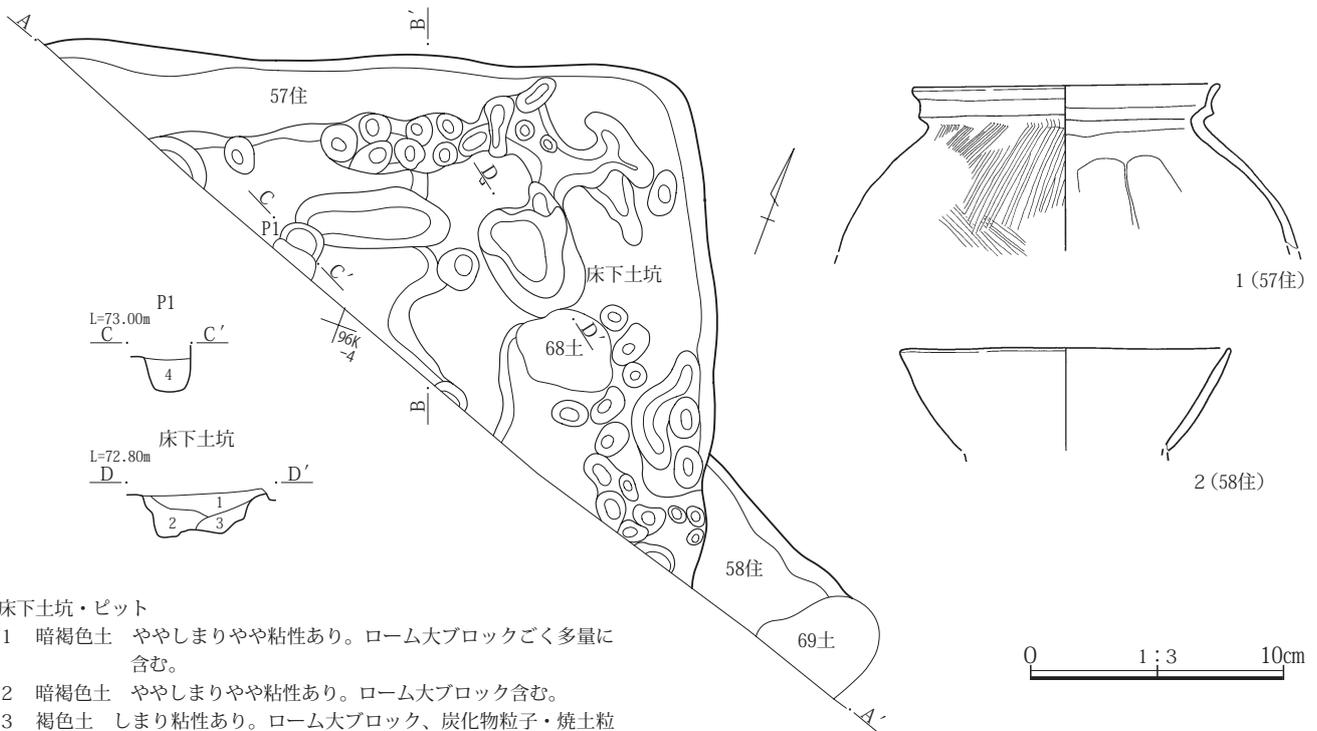
掘り方 中央部と北端中央を土坑状に40cm程度掘り込むほか、壁際を主体に20cm程度掘り込む。

遺物 遺物は全体に広がるが床面のものは少なく、西壁際で出土した2の土師器杯程度である。掲載遺物のほか土師器大型品9160g・同小型品3430g、須恵器大型品280g・同小型品375gが出土している。カマド右袖およびカマドで出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、クリと判明した。カマドなどで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子が少量、オオムギ種子、コムギ種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から8世紀第3四半期に比定される。

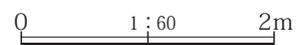
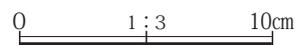


掘り方

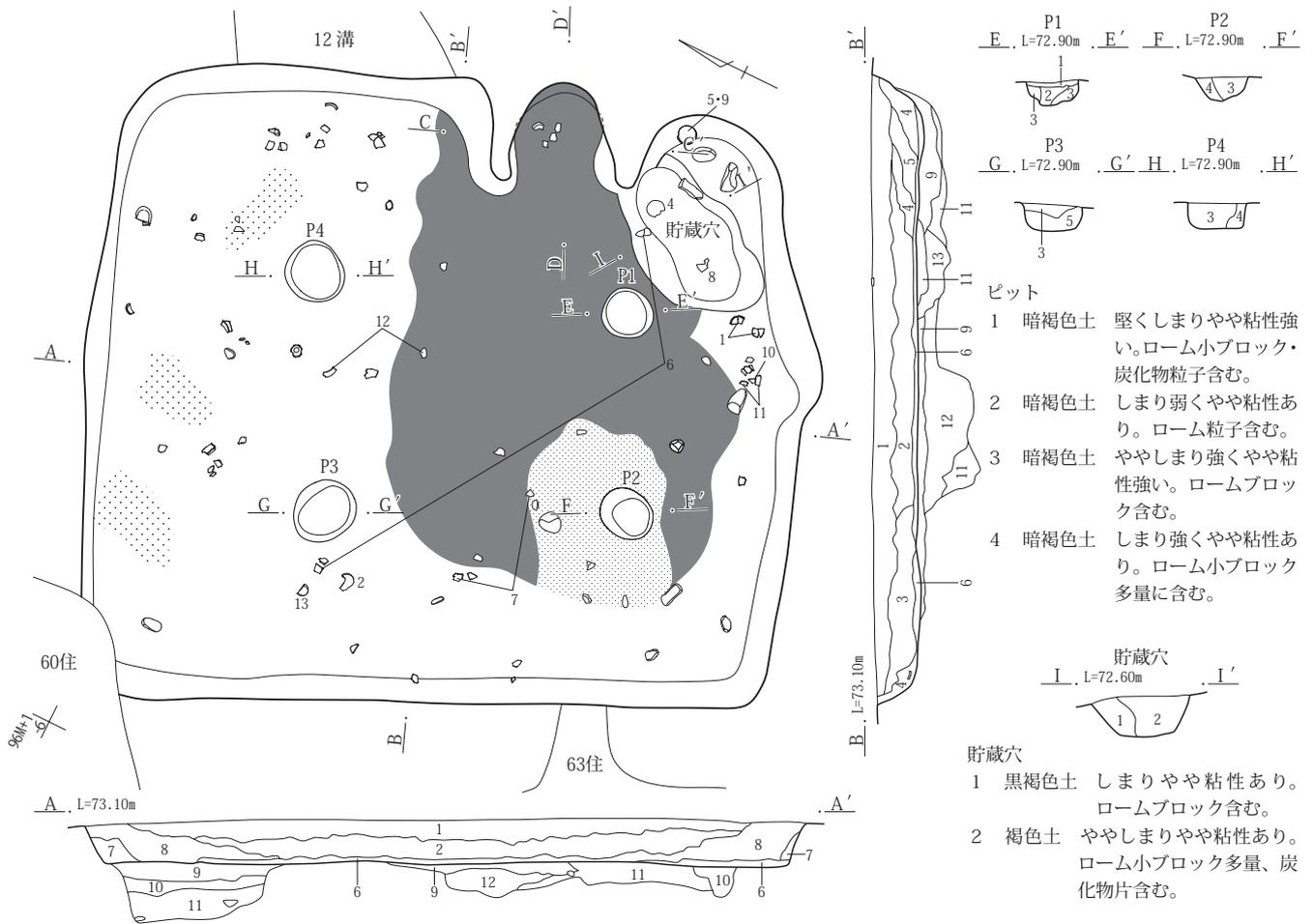


床下土坑・ピット

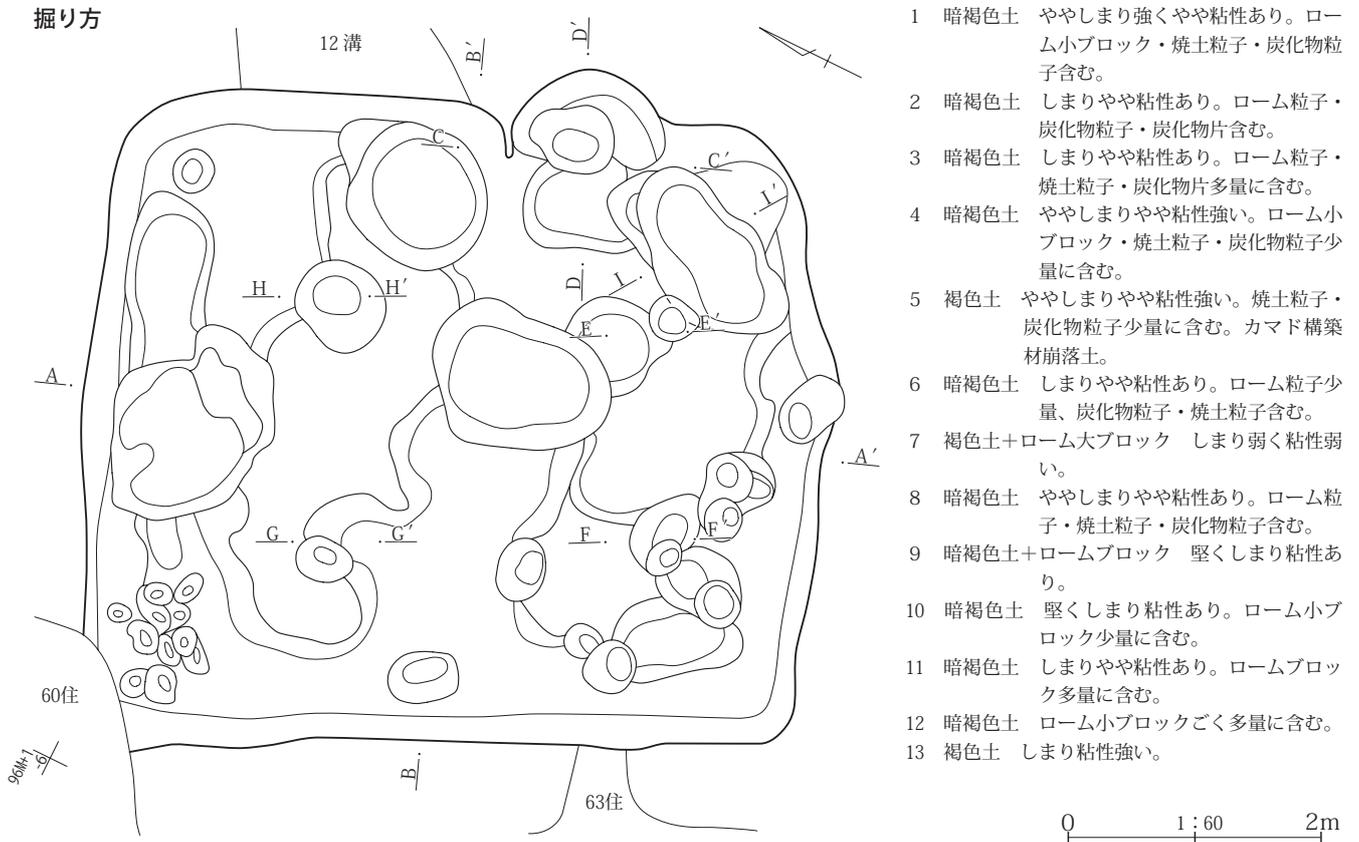
- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム大ブロックごく多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム大ブロック含む。
- 3 褐色土 しまり粘性あり。ローム大ブロック、炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。



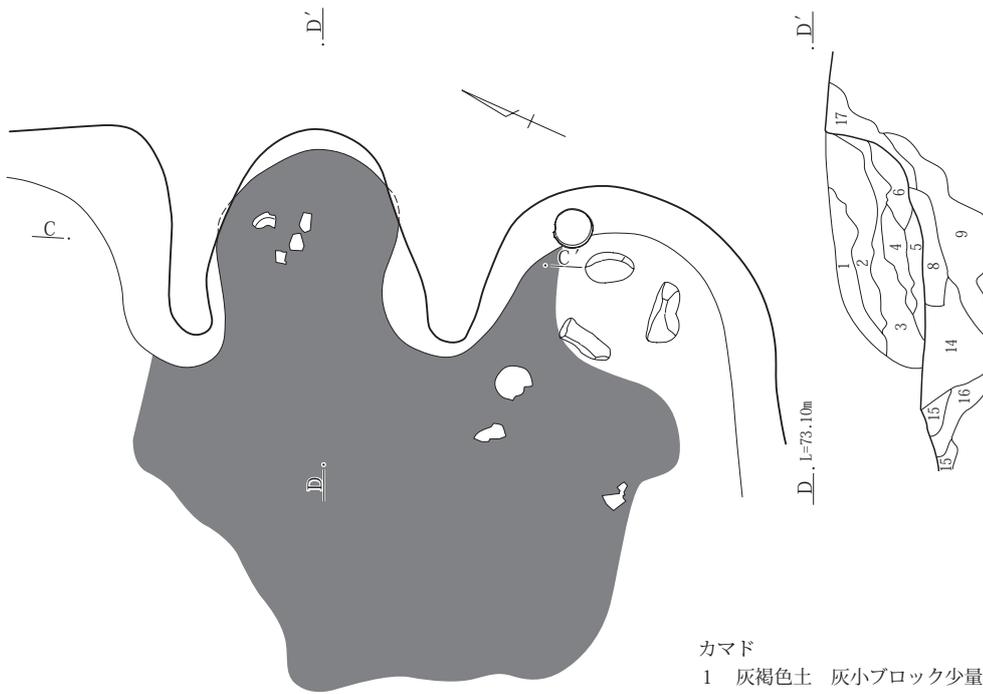
第451図 2区57・58号住居と出土遺物



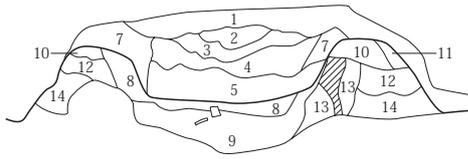
掘り方



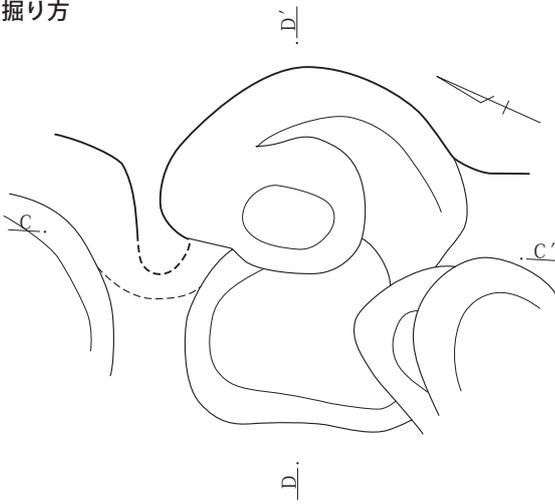
第452図 2区59号住居



C. L=73.10m



掘り方

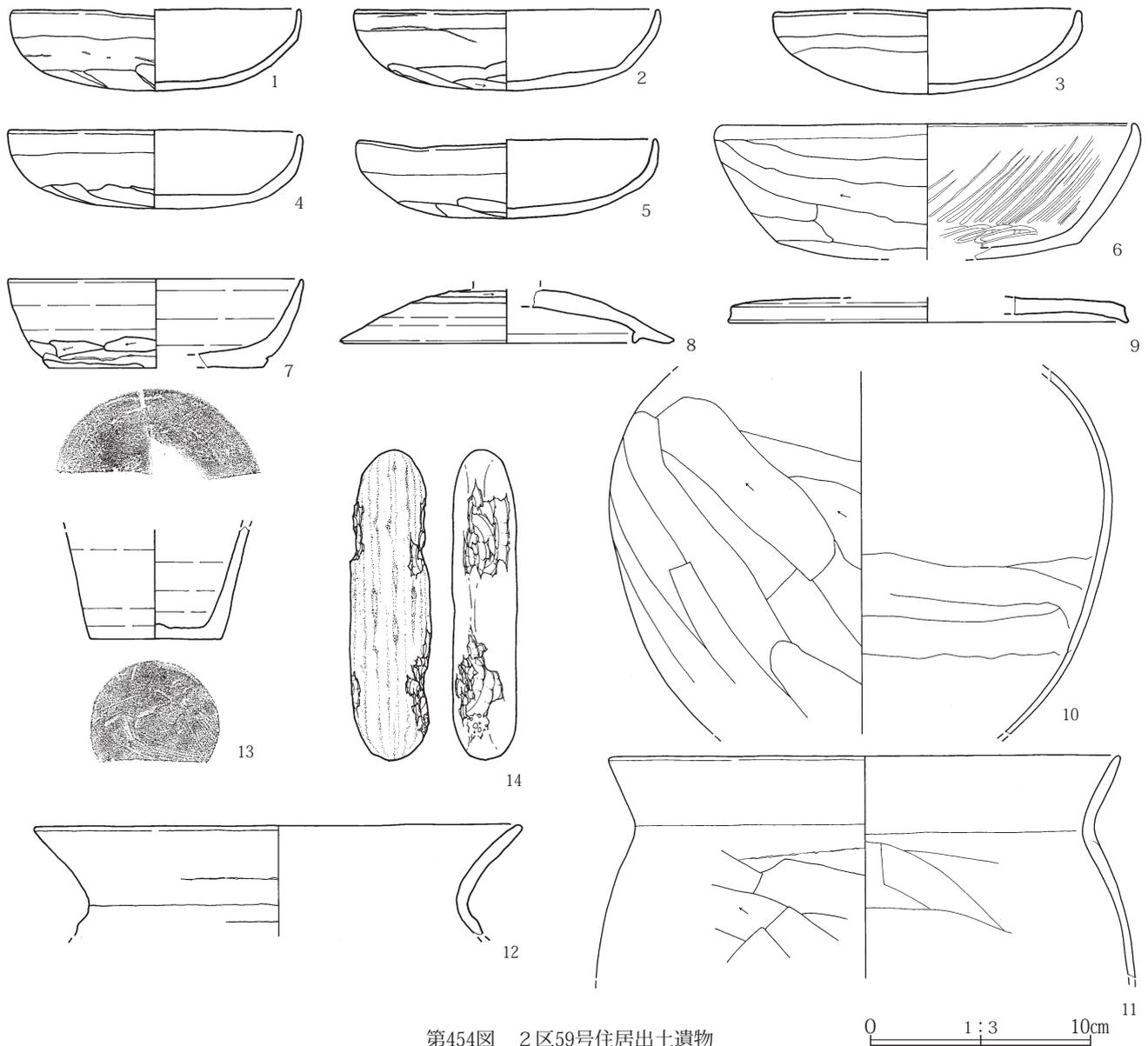


カマド

- 1 灰褐色土 灰小ブロック少量に含む。
- 2 灰褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック微量に含む。
- 3 灰褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロックやや多量に含む。
- 4 灰褐色土+灰 焼土小ブロックやや多量に含む。
- 5 灰褐色土+焼土小ブロック 灰多量に含む。
- 6 橙色焼土 よく焼ける。
- 7 褐色土 焼土小ブロック少量に含む。
- 8 褐色土ブロック ややしまり弱くやや粘性あり。焼土小ブロック含む。
- 9 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土小ブロック多量に含む。
- 10 褐色土 ロームブロックやや多量に含む。
- 11 ローム大ブロック
- 12 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 13 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・焼土粒子やや多量に含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・炭化物片含む。
- 15 褐色土 堅くしまる。ロームブロック・焼土小ブロック含む。床。
- 16 ロームブロック しまりやや粘性弱い。暗褐色土多量、焼土小ブロック・炭化物粒子少量に含む。
- 17 褐色土+焼土粒子 ややしまり弱く粘性弱い。

0 1:30 1m

第453図 2区59号住居カマド



第454図 2区59号住居出土遺物

60号住居(第455～457図、P.L.186・187・311、第7表)

位置 96L～N-5・6

重複 59・69号住居より後出で、63号住居より前出。

形態 長方形。主軸方位 N-58°-E

規模 面積16.69㎡ 長軸5.78m、短軸4.13m 残存壁高43～51cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部底面から奥壁はやや焼土化し、底面からカマド前面に炭が顕著に広がる。両袖ともやや残存する。両袖とも未固結凝灰岩を芯として、特に左袖は角柱状の石材を立てる。全体規模は長さ136cm幅194cm、袖焚口幅96cmで、確認面からの深さは37cmである。掘り方の深さ

は燃烧部で30cm程度と深い。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土10は堅くしまる。

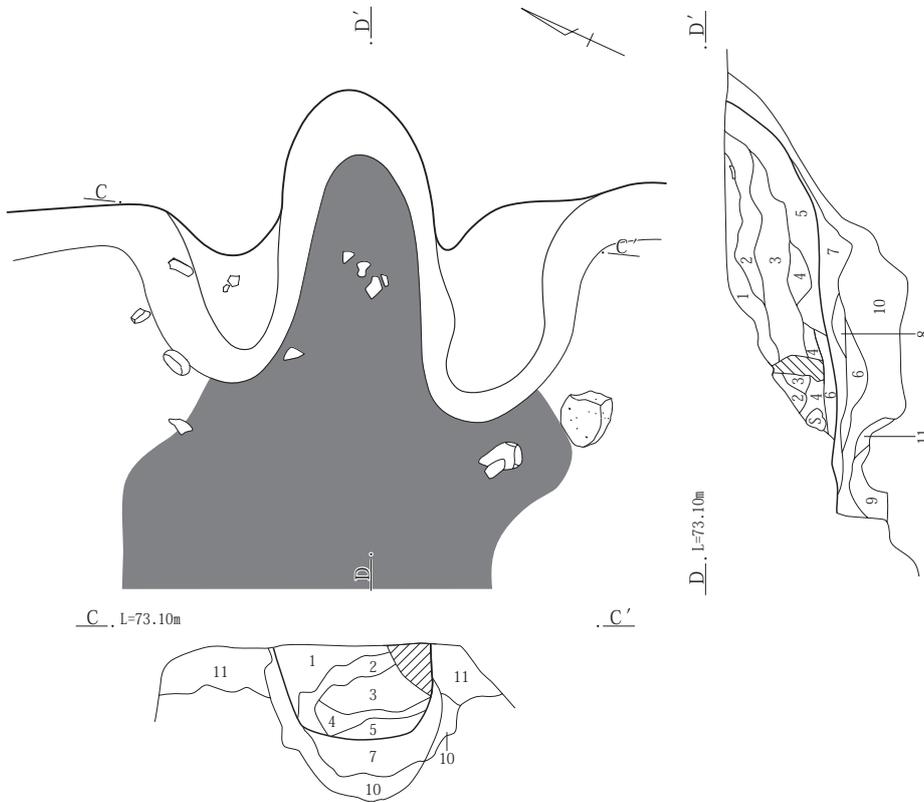
掘り方 中央部は方形に深さ30cm程度、壁際は壁面と並行方向に溝状に掘り込む。

遺物 遺物はカマドにやや集中し、全体としては散漫である。南東隅の床面では4の土師器杯、中央部では9の土師器鉢が出土する。南西隅に菰編石19点が集中するのは特筆される(第7表)。掲載遺物のほか土師器大型品3080g・同小型品1240g、須恵器大型品230g・同小型品220gが出土している。カマド前面で出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長4cmのクワ属の割材と判明した。カマドとその周辺ほかで出土した種実

類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子がやや多く、イタヤカエデ種子、ブドウ属種子、マメ科種子、オオム

ギ果実・種子、イネ果実が微量と判明した。

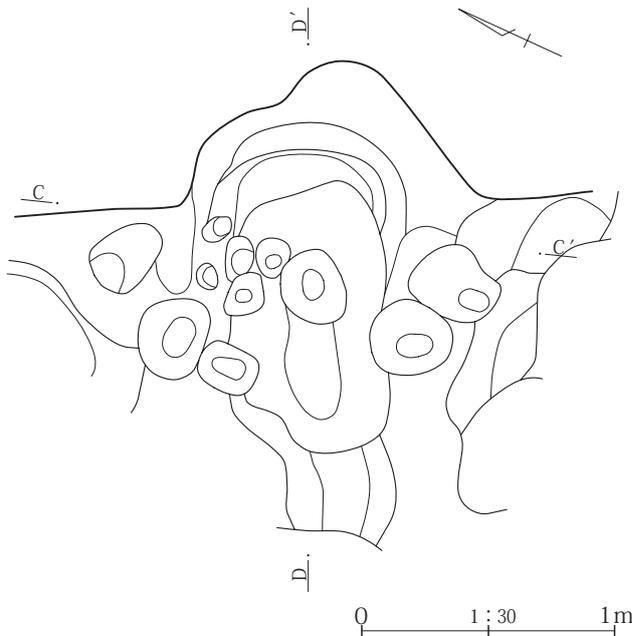
時期 出土遺物から8世紀第3四半期に比定される。



カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック・焼土小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰含む。縞状構造。
- 5 焼土ブロック
- 6 黒色灰
- 7 褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 8 焼土小ブロック+炭化物 ややしまる。
- 9 ロームブロック+黒色灰+軽石 しまり粘性あり。
- 10 にぶい褐色土 しまり粘性強い。焼土ブロック少量、黒～灰色灰含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。

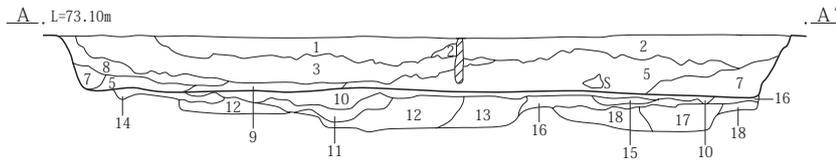
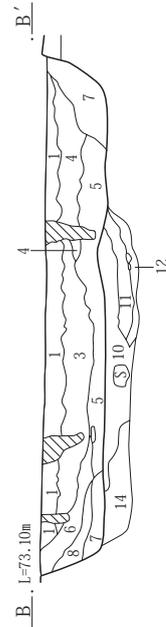
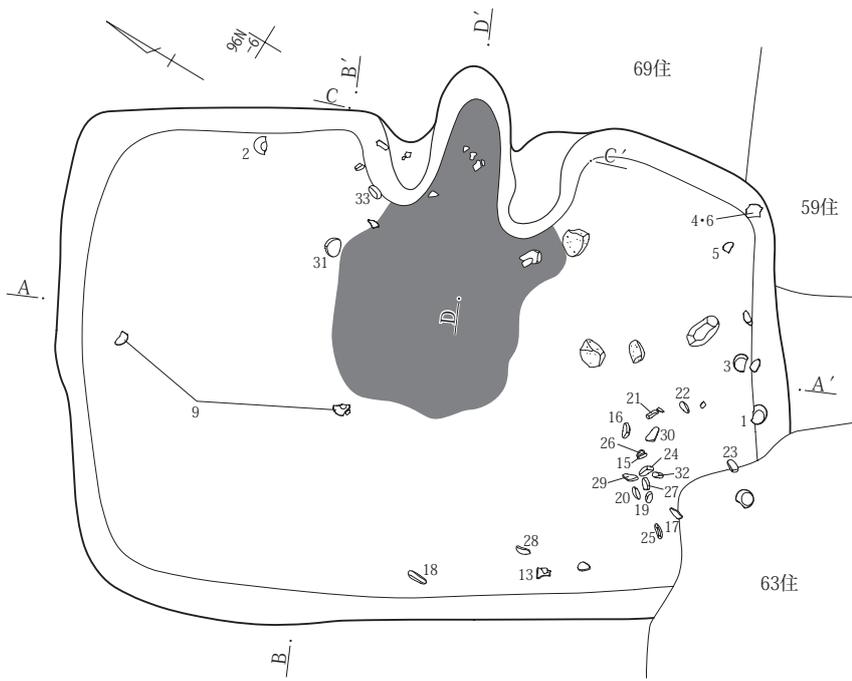
掘り方



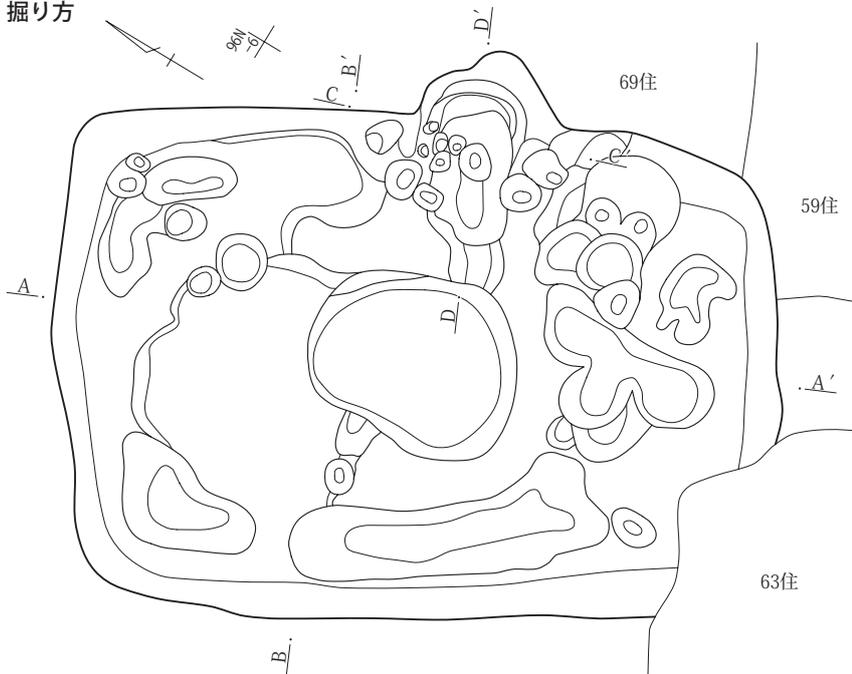
第7表 2区60号住居菰編石計測表

番号	出土位置	石材	幅	長	重量(g)
15	+10cm	粗粒輝石安山岩	5.5	12.2	325.3
16	+9cm	粗粒輝石安山岩	5.5	12.3	315.2
17	床直	黒色頁岩	5.7	13.5	400.2
18	+3cm	粗粒輝石安山岩	6.0	16.0	698.7
19	+5cm	粗粒輝石安山岩	6.0	12.2	261.2
20	+8cm	粗粒輝石安山岩	4.5	11.0	154.3
21	+10cm	粗粒輝石安山岩	4.5	10.4	210.3
22	+6cm	粗粒輝石安山岩	5.4	12.5	244.7
23	+7cm	粗粒輝石安山岩	5.5	11.3	244.8
24	+17cm	溶結凝灰岩	5.4	11.4	301.2
25	床直	変質玄武岩	3.8	13.0	201.2
26	+10cm	粗粒輝石安山岩	4.1	10.0	157.5
27	+11cm	粗粒輝石安山岩	5.0	11.0	300.0
28	床直	溶結凝灰岩	4.8	11.3	299.3
29	+11cm	粗粒輝石安山岩	5.4	11.9	301.1
30	+14cm	珪質頁岩	6.7	13.7	349.2
31	床直	粗粒輝石安山岩	6.3	11.7	350.3
32	+10cm	黒色頁岩	4.8	10.3	249.5
33	+4cm	黒色片岩	4.6	(7.5)	101.1

第455図 2区60号住居カマド



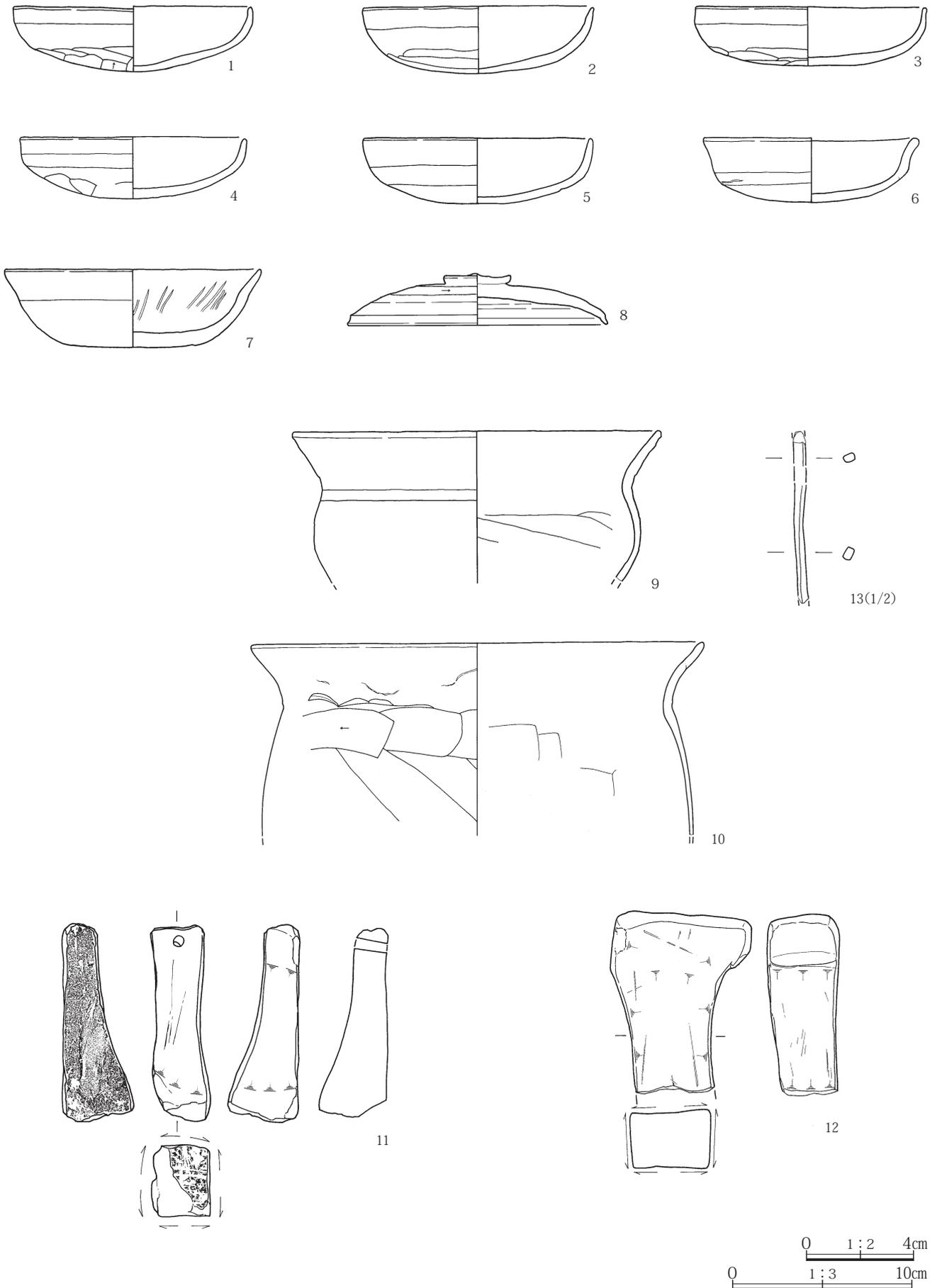
掘り方



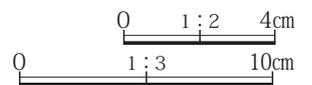
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子多量に含む。白色細粒軽石(F P?)含む。
- 3 黒褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性強い。炭化物・灰・焼土粒子含む。
- 6 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。褐色土ブロック・焼土粒子やや多量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。褐色土ブロックごく多量に含む。
- 8 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量、ローム粒子含む。
- 9 褐色土 ややしまりやや粘性強い。炭化物・灰・焼土粒子含む。
- 10 暗褐色土 堅くしまり粘性ある。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 11 にぶい黄褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量、焼土粒子含む。
- 12 褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 13 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロックごく多量、焼土粒子少量に含む。
- 15 焼土+炭化物片+ローム しまり粘性あり。
- 16 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロックを層状にごく多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 17 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 18 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子少量に含む。



第456図 2区60号住居



第457図 2区60号住居出土遺物



61号住居(第458・459図、P L .187・188・311)

位置 86K・L-20、96K・L-1 重複 なし。

形態 長方形。 主軸方位 N-77°-E

規模 面積8.79㎡ 長軸3.77m、短軸3.0m 残存壁高
6~15cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃烧部を住居の壁
面付近に持つ。燃烧部の焼土化は弱い。両袖とも残存状
態は悪く、地山ロームを芯として構築する。焚き口付近
で須恵器碗(3)が出土し、周辺に置かれていたものが流
れ込んだと考えられる。全体規模は長さ90cm幅(125)cm、
袖焚口幅55cmで、確認面からの深さは6cmである。掘り
方の深さは燃烧部で10cm程度である。

貯蔵穴 南東隅に設ける。平面形は楕円形。須恵器碗が
3点(1・2・4)出土する。規模は長径59cm短径45cm深

さ30cmである。

柱穴 未検出。

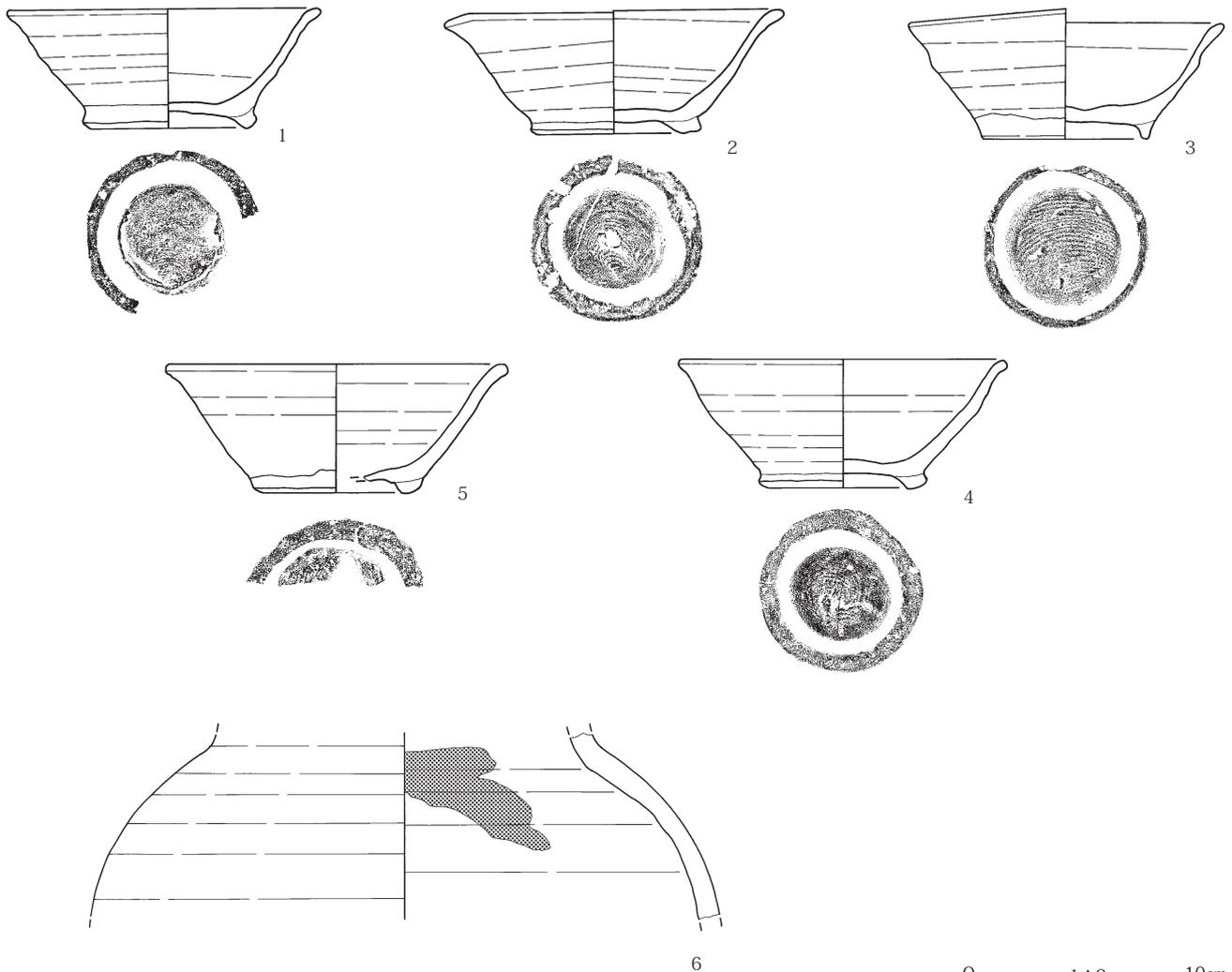
床 カマド前面、中央西側で硬化面を確認した。

床下土坑 北東隅に設ける。規模は長径92cm短径50cm深
さ27cmである。

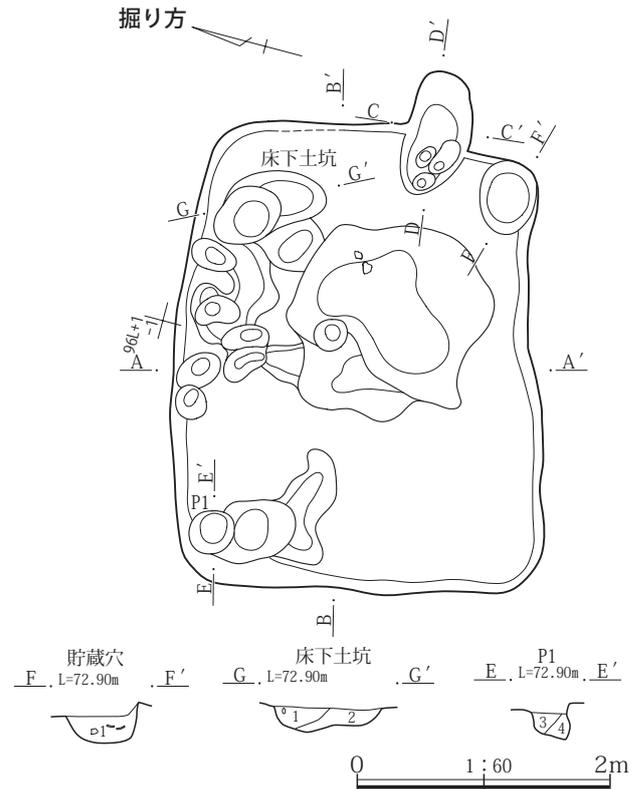
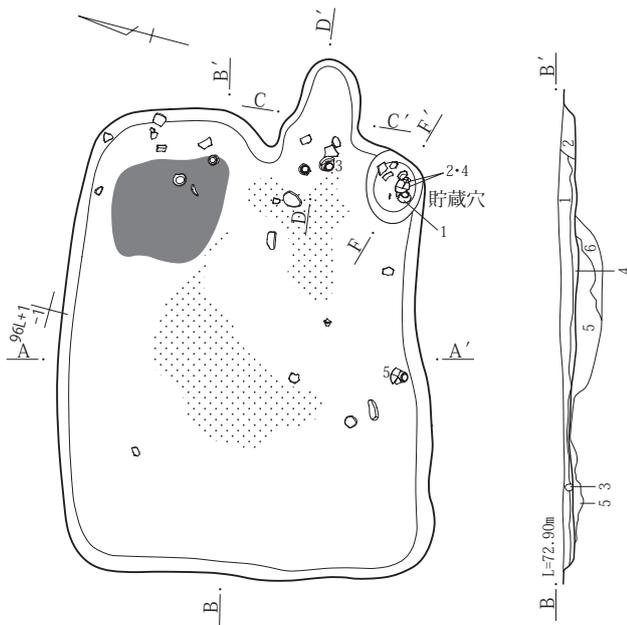
掘り方 中央部を20cm程度大きく掘り込み、全体は浅く
掘り込んで凸凹する。

遺物 遺物の出土は少なく、カマドと貯蔵穴にやや集中
する。カマドでは3の須恵器碗、貯蔵穴でも須恵器碗(1・
2・4)が出土する。掘り方で6の須恵器甕が出土する。
掲載遺物のほか土師器大型品350g・同小型品160g、須
恵器大型品1070g・同小型品940g、灰釉陶器2片が出土
している。

時期 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

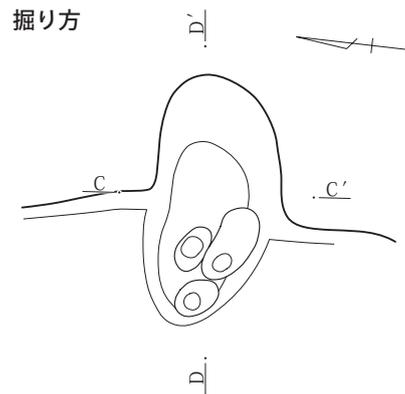
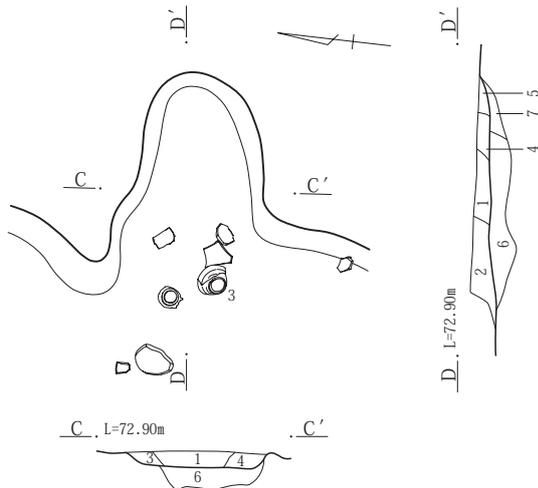


第458図 2区61号住居出土遺物



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 2 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 3 黄褐色土
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック少量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子多量に含む。
- 8 ロームブロック ややしまり弱く粘性強い。
- 9 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ロームブロック・炭化物粒子・黒色灰含む。

- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。
- ピット・床下土坑
- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。
 - 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土粒子・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック少量に含む。
 - 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子少量に含む。
 - 4 黄褐色土 しまり粘性強い。



- カマド
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック含む。
 - 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック含む。

- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土小ブロック・焼土粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム粒子多量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック・焼土粒子多量に含む。

第459図 2区61号住居

62号住居(第460～462図、P L.188・312)

位置 96L・M-2・3

重複 1号墓、11号溝、722号ピットより前出で、70号土坑、580号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-9°-W

規模 面積28.4㎡ 長軸5.73m、短軸5.36m 残存壁高 5～15cm

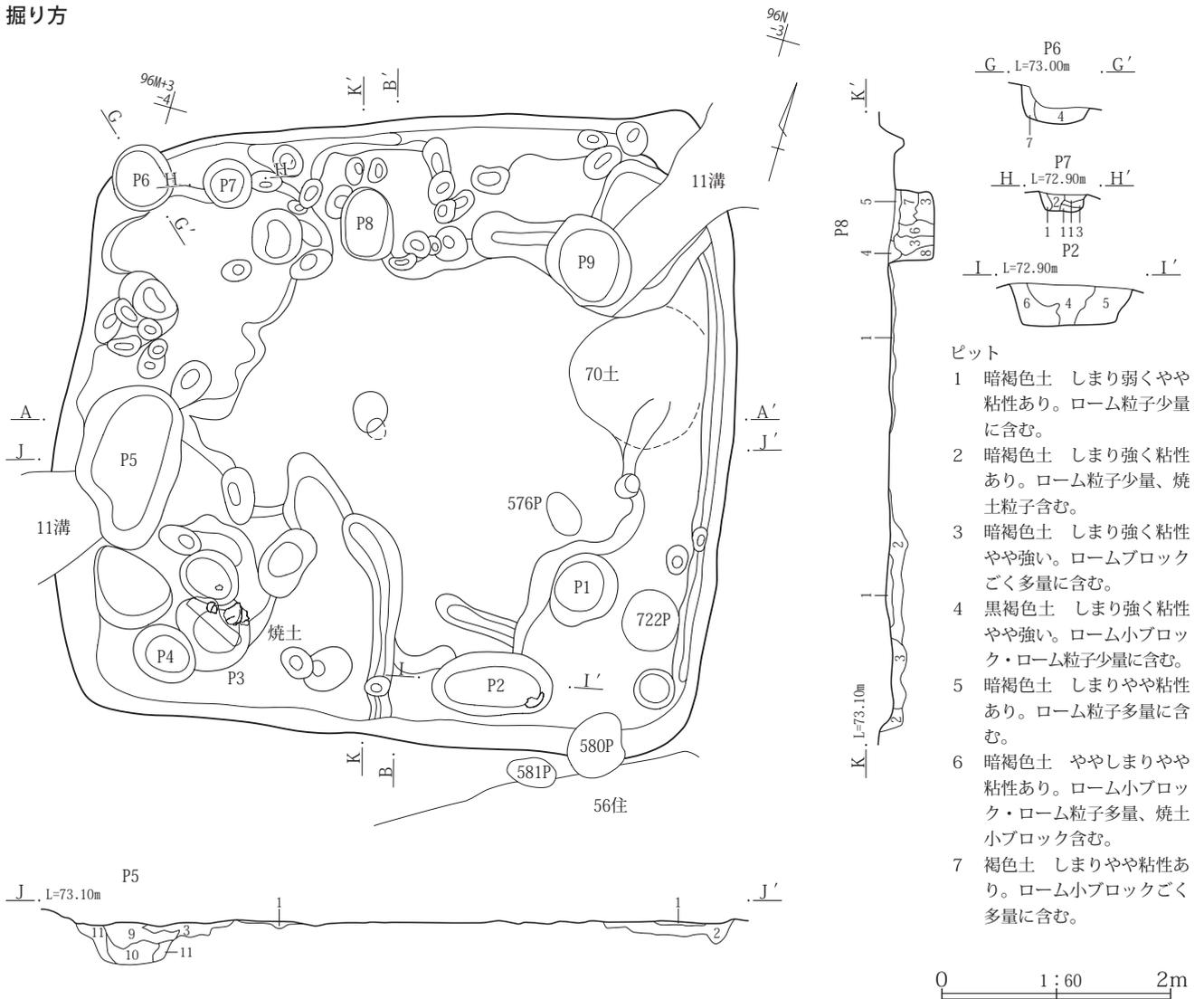
埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

炉 未検出だが、P3の埋没土中に焼土が皿状に堆積し、流れ込みではない。住居の南西端に偏在するが、炉であった可能性が高いだろう。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 床面で5基、掘り方面で4基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:68・56・55、P2:105・57・40、P3:72・(68)・41、P4:58・49・42、P5:143・89・21、P6:57・53・22、P7:43・42・22、P8:

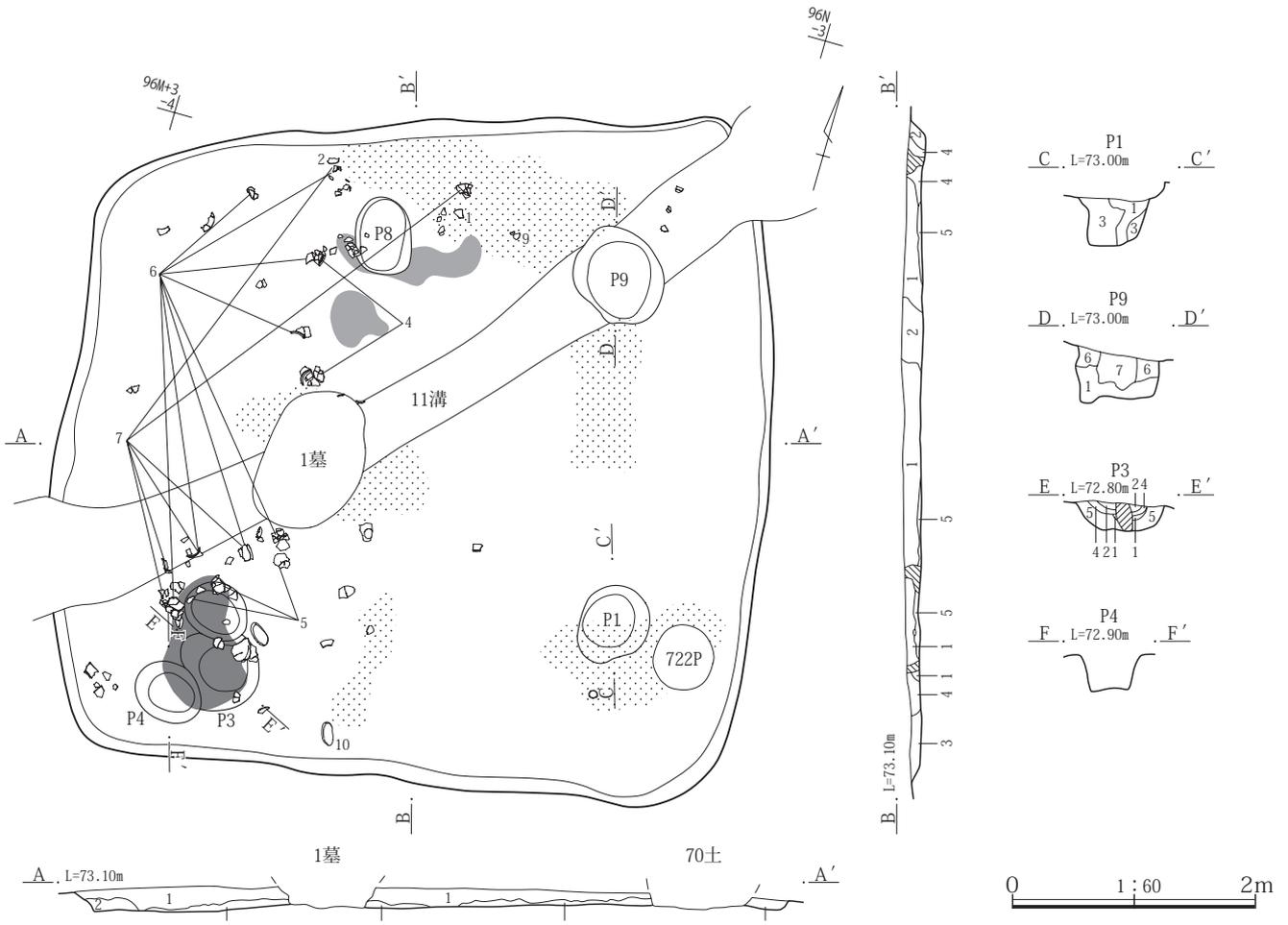
掘り方



掘り方

- | | |
|---|---|
| <p>1 黒褐色土+黒褐色土 堅くしまる。</p> <p>2 褐色土 堅くしまり粘性あり。</p> <p>3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量、ローム粒子多量に含む。</p> <p>4 黒色灰</p> <p>5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子少量、ローム粒子・焼土粒子含む。</p> | <p>6 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。</p> <p>7 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・粗粒軽石多量、黒褐色土小ブロック含む。</p> <p>8 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子少量に含む。</p> <p>9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。</p> <p>10 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子少量、小角礫含む。</p> <p>11 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子多量に含む。</p> |
|---|---|

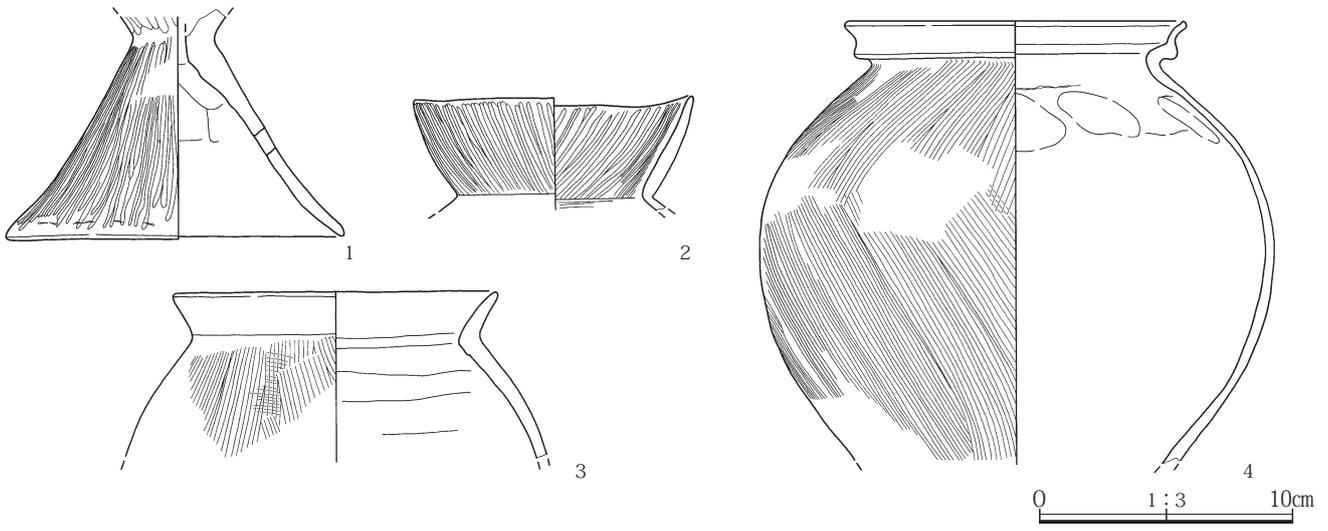
第460図 2区62号住居掘り方



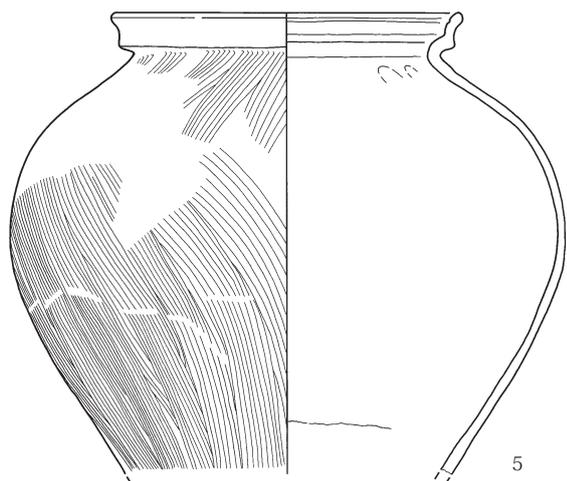
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム小ブロック・ローム粒子多量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。

ピット

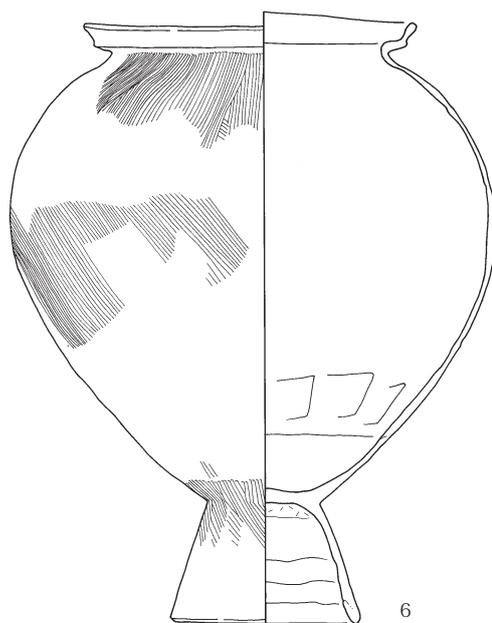
- 1 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・黒色灰ブロック含む。
- 3 暗褐色土 しまり強く粘性やや強い。ロームブロックごく多量に含む。
- 4 焼土
- 5 褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。炭化物粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 6 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 7 褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロックごく多量、暗褐色土ブロックやや多量に含む。



第461図 2区62号住居と出土遺物(1)



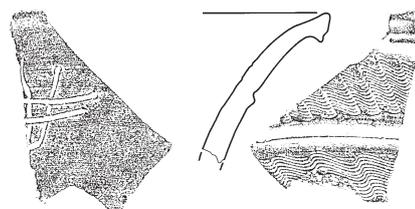
5



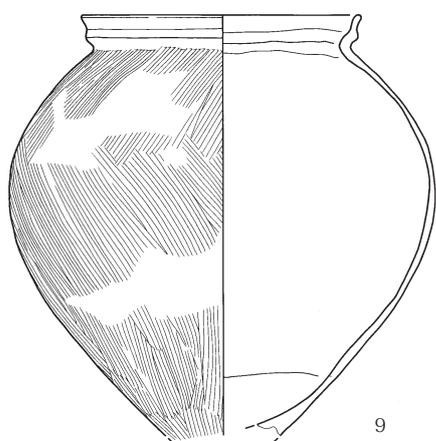
6



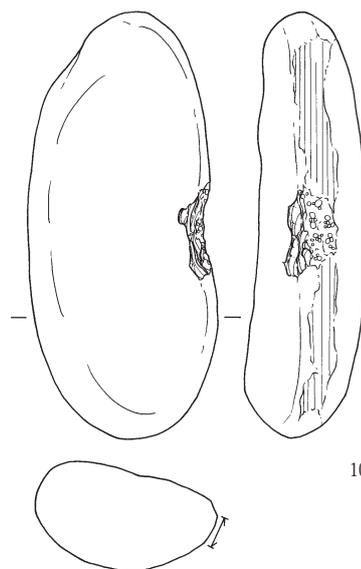
7



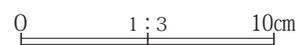
8



9



10



第462図 2区62号住居出土遺物(2)

64・45・41、P 9：85・70・56

床 中央部と北端のP 8付近からP 9をへて東端のP 1付近にかけて、断続的に硬化面を確認した。

掘り方 中央部を台状に掘り残しながら、壁際を15cm程度掘り込む。

遺物 出土遺物は西半部にやや集中する。床面では土師器器台(1)、同埴(2)、同台付甕(4～7)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品3600g・同小型品1000g、須恵器大型品1片・同小型品25gが出土している。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から4世紀前半に比定される。

63号住居(第463～466図、P L .188・189・313)

位置 96K・L-5～7

重複 60号住居より後出で、59号住居より前出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-57°-E

規模 面積26.98㎡ 長軸6.88m、短軸6.30m 残存壁高45～57cm

埋没土 中央部分は埋没土中位まで黄褐色土で埋められ、凹みとして使用されたと見られ、炭・灰層が堆積する。平面的には確認できていない。その後の埋没土にも乱れがあり、人為埋没の可能性がある。

カマド 東辺の南半部に設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部底面から煙道部にかけて焼土化は強く、カマド前面にかけて炭も顕著に広がる。燃烧部中央北寄りに未固結凝灰岩が支脚として立置されていた。焚き口周辺に土師器甕が散乱しており、カマド内からの崩落と考えられる。両袖の残存はやや良く、先端部には芯材として未固結凝灰岩の角礫が埋め込まれていた。全体規模は長さ(154)cm幅104cm、燃烧部は長さ95cm、袖焚口幅80cmで、確認面からの深さは38cmである。煙道部は長さ(59)cm最大幅52cm深さ22cmである。掘り方の深さは燃烧部で40cm程度と深い。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 カマド前面から中央部の広い範囲で、断続的に硬化面が確認できた。

掘り方 壁際と中央部がやや深いが、全体として20cm程度掘り込まれる。

遺物 出土遺物は全体に分布するが床面のものは少な

く、カマドにやや集中する。カマドの左袖前面では14の土師器甕が出土し、袖の構築材とも考えられる。北東隅床面では土師器杯(1・4)、須恵器甕(18)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品3065g・同小型品3480g、須恵器大型品1060g・同小型品460gが出土している。カマドで出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長6cmのクリの割材と判明した。カマドなどで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子が少量、モモ核、サンショウ近似種子、マメ科種子、オオムギ種子、コムギ種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

64号住居(第467図、P L .189)

位置 96M・N-1

重複 44号住居、4号井戸より前出で、560・566号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-14°-W

規模 面積—㎡ 長軸(4.55)m、短軸(2.2)m 残存壁高8～11cm

埋没土 確認段階で床面も消滅していたことから、埋没土は不明である。

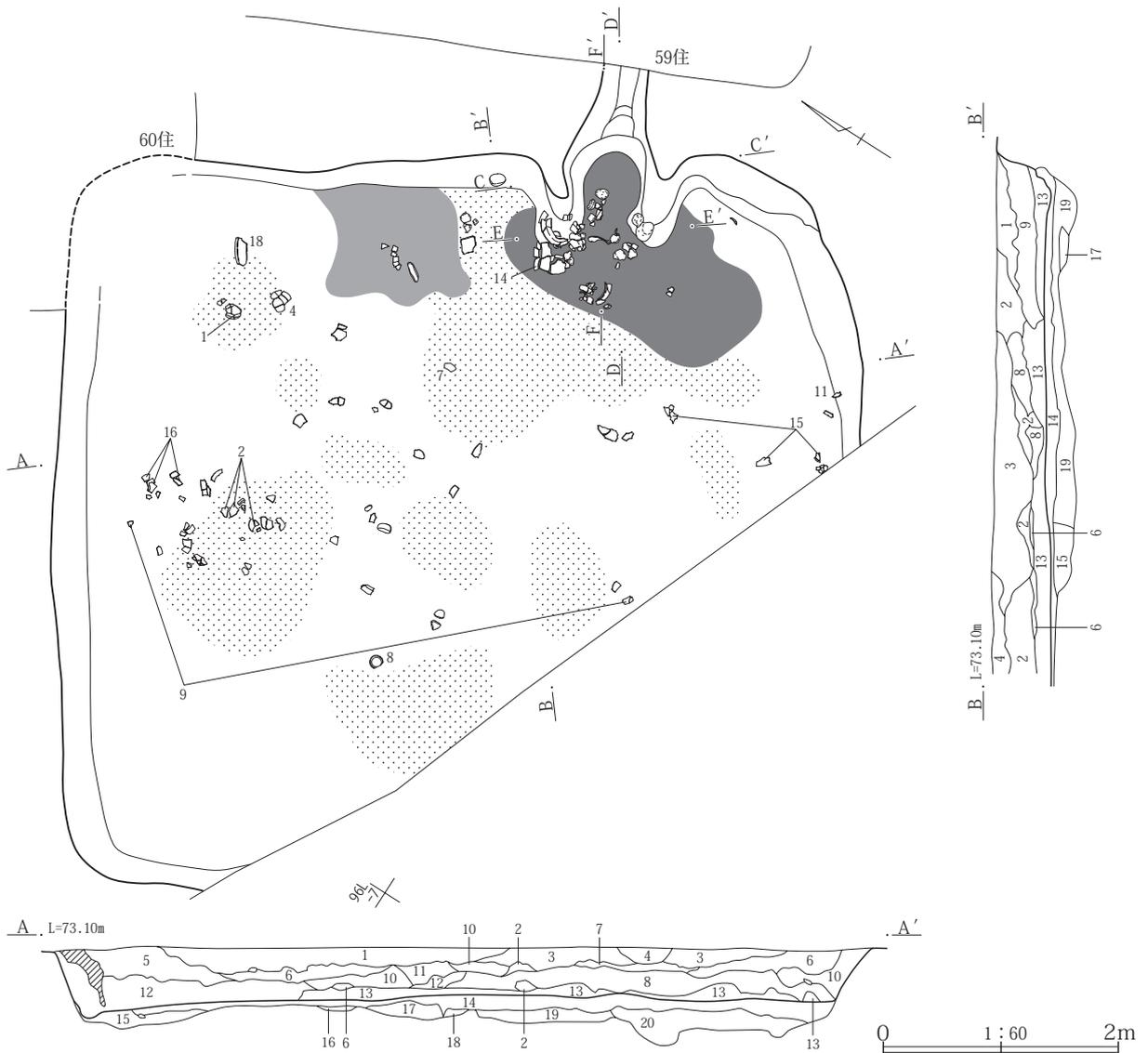
カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

掘り方 中央部はやや残し気味で、全体に掘り方は浅い。

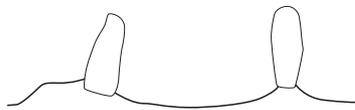
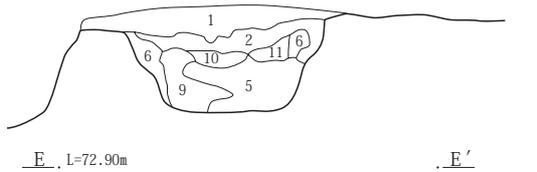
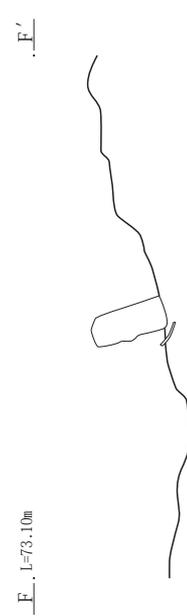
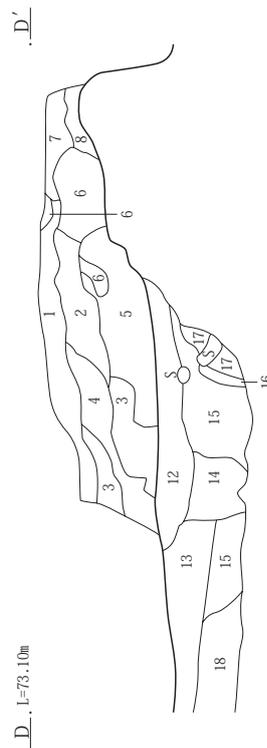
遺物 遺物の出土は少ない。S字甕190gを含む土師器大型品260g・同小型品90gが出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

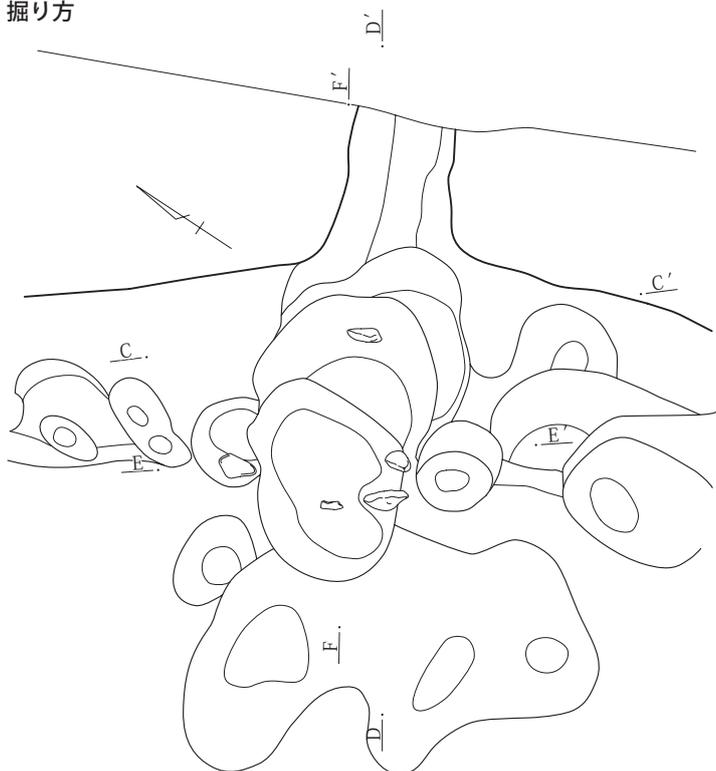


- | | |
|--|---|
| <p>1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。</p> <p>2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子やや多量に含む。</p> <p>3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。黒色灰多量、ローム粒子少量に含む。</p> <p>4 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子含む。</p> <p>5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子含む。</p> <p>6 黒色灰 しまり弱く粘性弱い。焼土ブロック含む。</p> <p>7 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰多量、ローム大ブロックやや多量に含む。</p> <p>8 黄褐色土 しまり粘性強い。</p> <p>9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、焼土小ブロック・炭化物片含む。</p> <p>10 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム・黒色灰含む。</p> <p>11 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土粒子・焼土小ブロック含む。</p> <p>12 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。</p> | <p>13 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量、黒色灰多量、焼土粒子含む。</p> <p>14 褐色土 堅くしまりやや粘性強い。焼土ブロック・ローム小ブロック・黒色灰含む。</p> <p>15 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子ごく多量に含む。</p> <p>16 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。</p> <p>17 暗褐色土 しまりやや弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。</p> <p>18 褐色土 しまり強く粘性強い。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。</p> <p>19 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ローム小ブロック・黒色灰多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。</p> <p>20 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性強い。暗褐色土ブロック多量、焼土粒子含む。</p> |
|--|---|

第463図 2区63号住居



掘り方

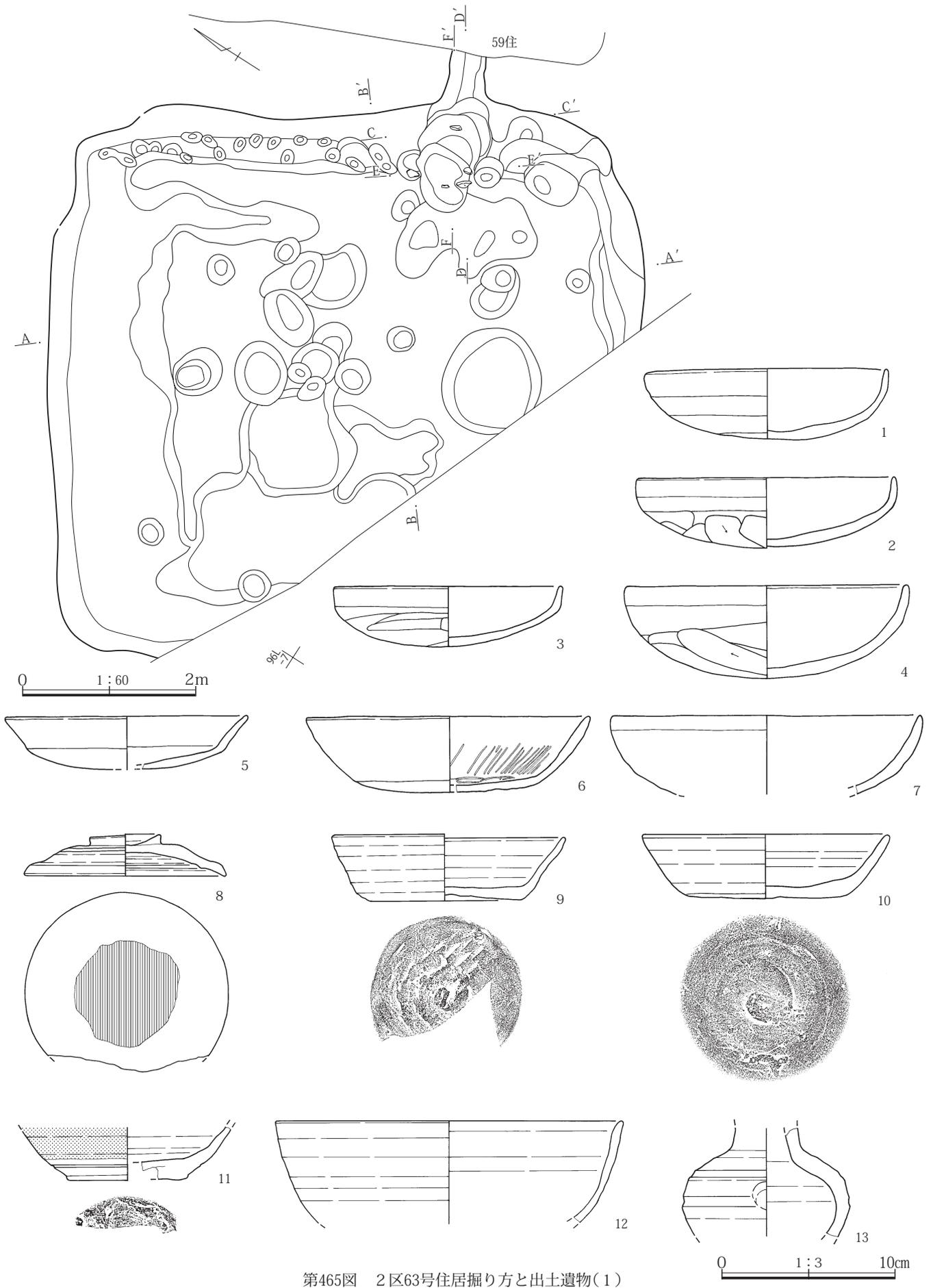


カマド

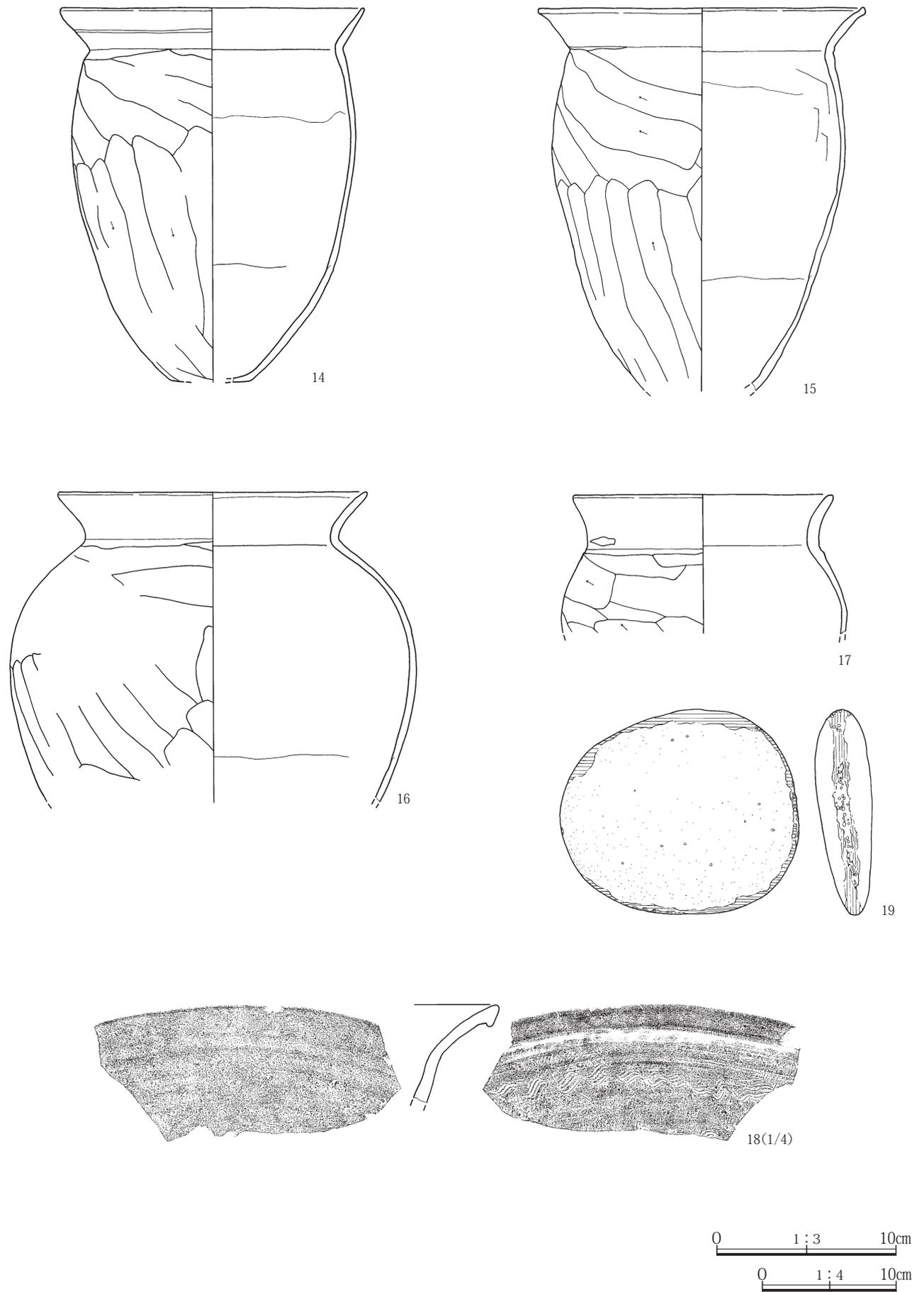
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。焼土粒子・焼土小ブロック多量、灰ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。褐色土ブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性弱い。ローム大ブロック、焼土粒子、炭化物粒子少量に含む。
- 5 焼土ブロック しまり弱くやや粘性弱い。灰やや多量に含む。
- 6 焼土ブロック ややしまり粘性なし。ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや強くやや粘性弱い。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 8 褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ロームブロック・焼土粒子含む。
- 9 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土小ブロック・焼土粒子多量に含む。
- 10 極暗褐色土 しまり強い。炭化物粒子・焼土粒子微量に含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・焼土小ブロック含む。
- 12 黒色灰
- 13 暗褐色土 堅くしまる。灰、焼土小ブロック含む。縞状構造。
- 14 黒色灰 しまり弱く粘性弱い。焼土ブロック含む。
- 15 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。黒色灰・焼土・ローム小ブロック含む。
- 16 黄褐色ロームブロック
- 17 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック含む。
- 18 黄褐色土 しまり粘性あり。暗褐色土・黒褐色土含む。



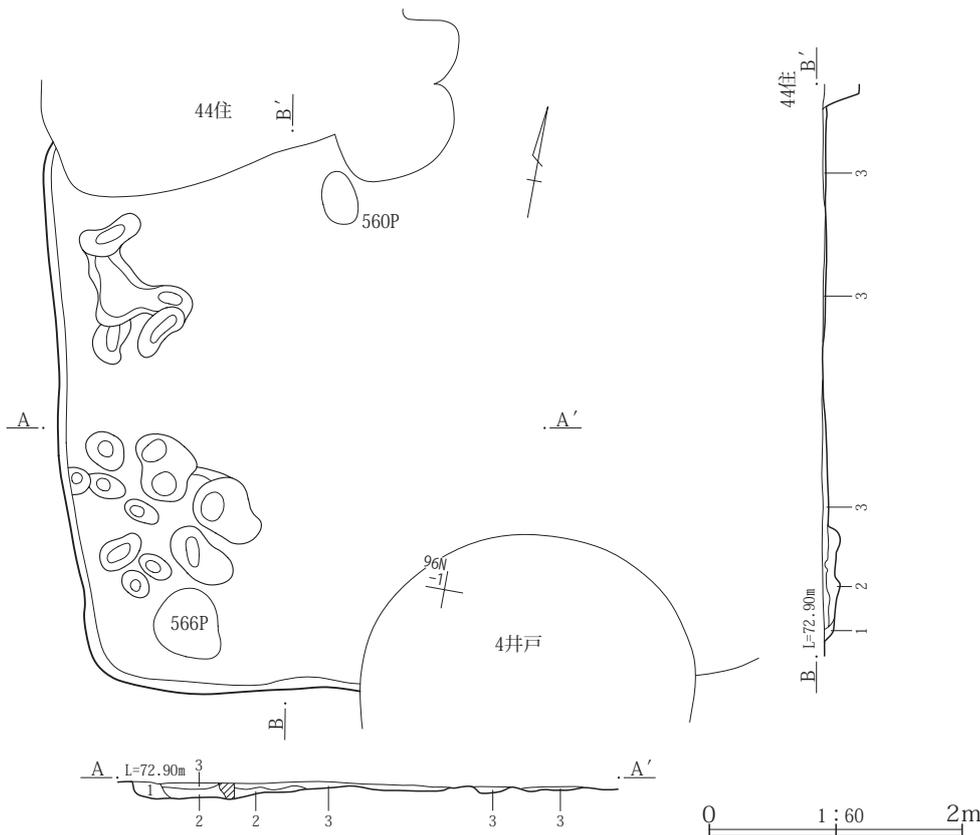
第464図 2区63号住居カマド



第465図 2区63号住居掘り方と出土遺物(1)



第466図 2区63号住居出土遺物(2)



- 1 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量に含む。

第467図 2区64号住居

65号住居(第468図、P L.190)

位置 96Q-3 重複なし。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-77°-E

規模 面積(1.19)m² 長軸(2.22)m、短軸(1.41)m 残存壁高2~3cm

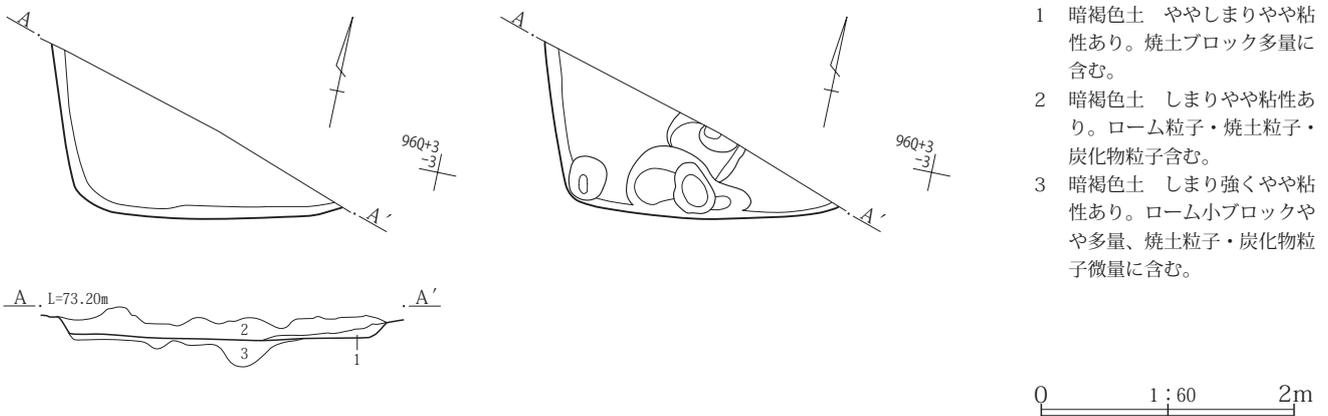
埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土3は堅くしまる。掘り方 部分的に20cm程度掘り込む部分もあるが、全体に浅く凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。土師器大型品1片・同小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から平安時代以降に比定される。



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土ブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。

第468図 2区65号住居

66・67・83号住居(第469・470図、P L.190・191・314)

66号住居 位置 96P・Q-4

重複 67・83号住居より後出。

形態 長方形。 主軸方位 N-3°-W

規模 面積6.47㎡ 長軸3.07m、短軸2.90m 残存壁高
16~25cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。 焼土部を住居の壁
面付近に持つ。 焼土部は弱く焼土化する。 左袖のみやや
残存し、出土した棒状礫は芯として利用された可能性が
ある。 全体規模は長さ100cm幅(120)cmで、確認面からの

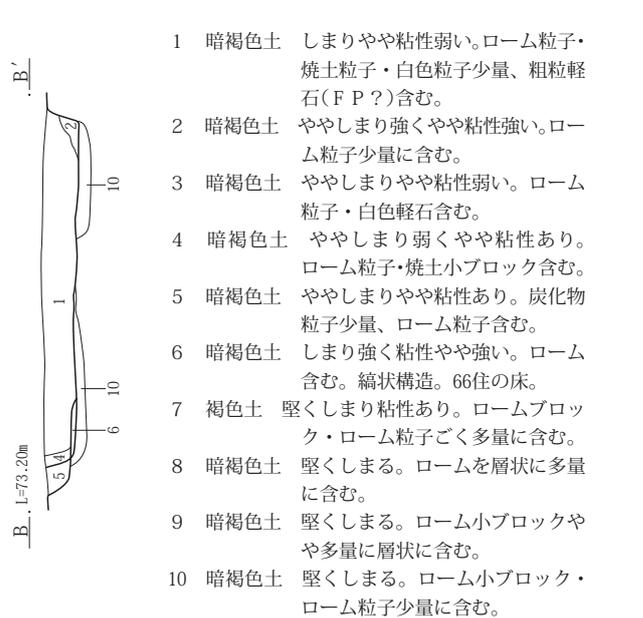
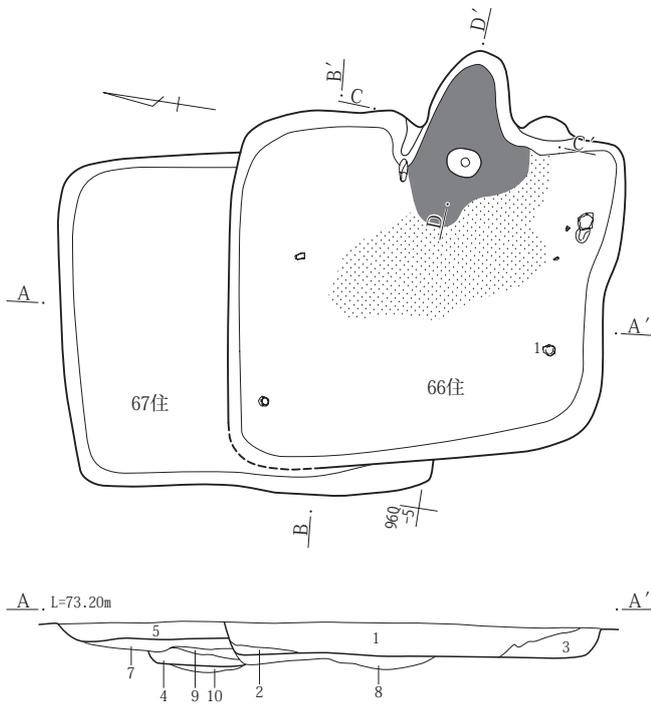
深さは20cmである。 掘り方の深さは焼土部で10cm程度で
ある。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

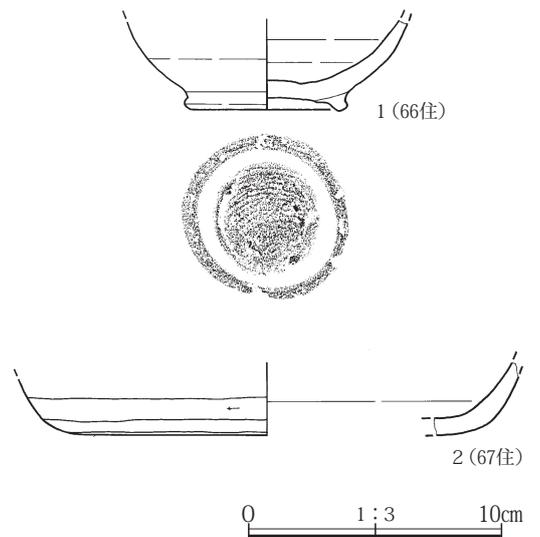
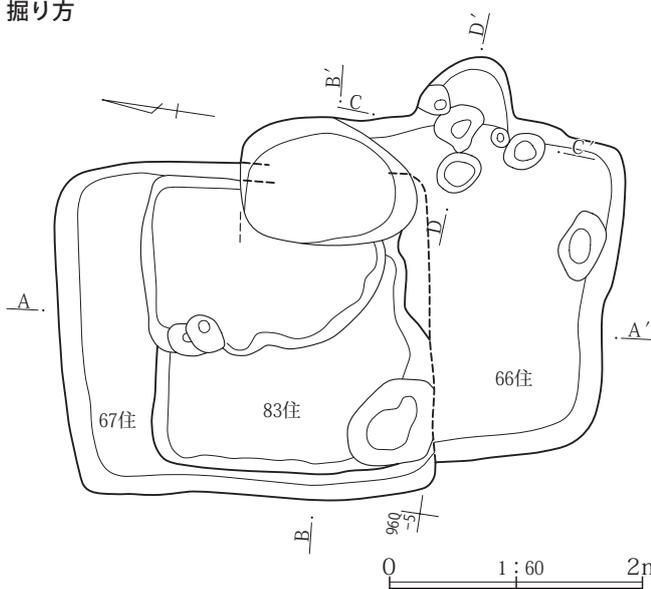
床 中央部からカマドにかけて硬化面を確認した。

掘り方 北東部を楕円形に10cm程度掘り込むが、83号住
居の影響も含まれる。 全体に浅く、中央部をやや掘り残
す。

遺物 床面で出土した遺物は少ない。 南壁際で1の須恵
器碗が出土する。 掲載遺物のほか土師器大型品688g・同
小型品540g、須恵器大型品340g・同小型品205gが出土
している。 カマドで出土した炭化材は、樹種同定の結果



掘り方



第469図 2区66・67・83号住居と出土遺物

(第5章第5項)、残存長8cmのコナラ属クヌギ節の割材と判明した。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、マメ科種子、オナモミ総苞、オオムギーコムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から10世紀前半に比定される。

67号住居 位置 96Q-4・5

重複 66号住居より前出で、83号住居と重複するが新旧関係不明。

形態 長方形。 主軸方位 N-78°-E

規模 面積2.97㎡ 長軸2.86m、短軸2.78m 残存壁高16~19cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土7は堅くしまる。

掘り方 全体に10cm程度平坦に掘り込む。

遺物 遺物の出土は少ない。掘り方から2の須恵器盤が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品70g・同小型品58g、須恵器小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から8世紀前半に比定される。

83号住居 位置 96Q-4

重複 66号住居より前出で、67号住居と重複するが新旧関係不明。

形態 長方形。 主軸方位 N-12°-W

規模 面積(4.32)㎡ 長軸2.45m、短軸2.21m 残存壁高13~16cm

埋没土 残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

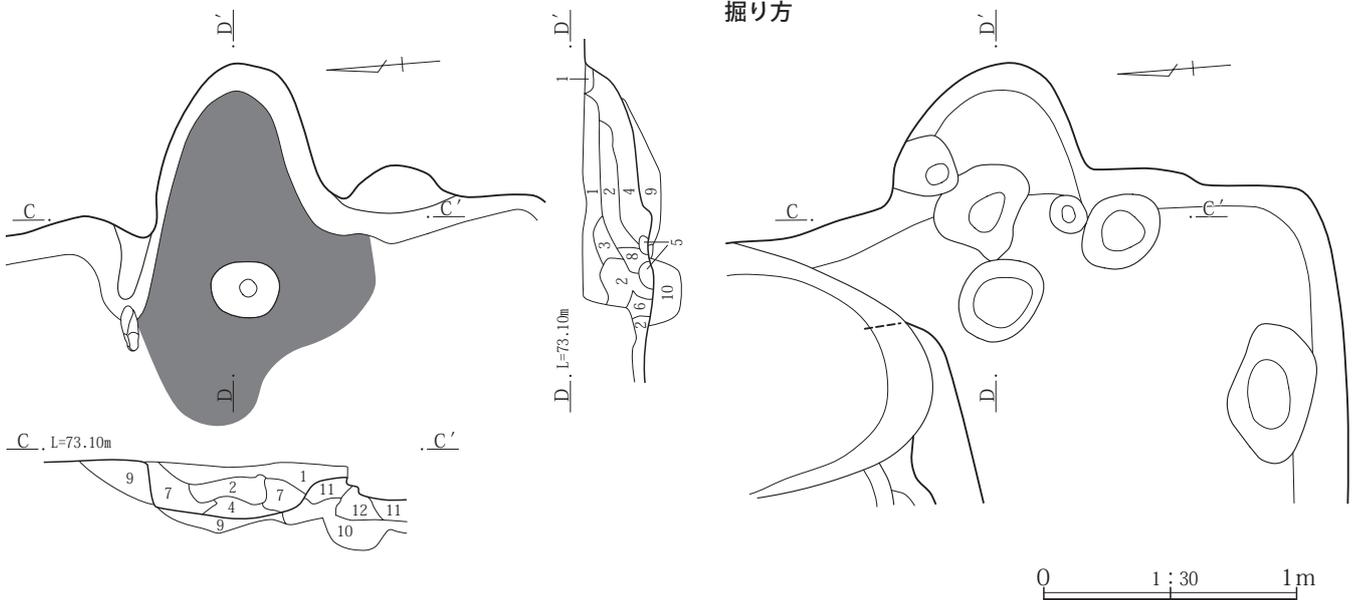
カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土10は堅くしまる。

掘り方 東半部をやや掘り込む。が、全体に浅く凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。S字甕4片を含む土師器大型品235g・同小型品40gが出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 重複関係から7世紀以前に比定される。

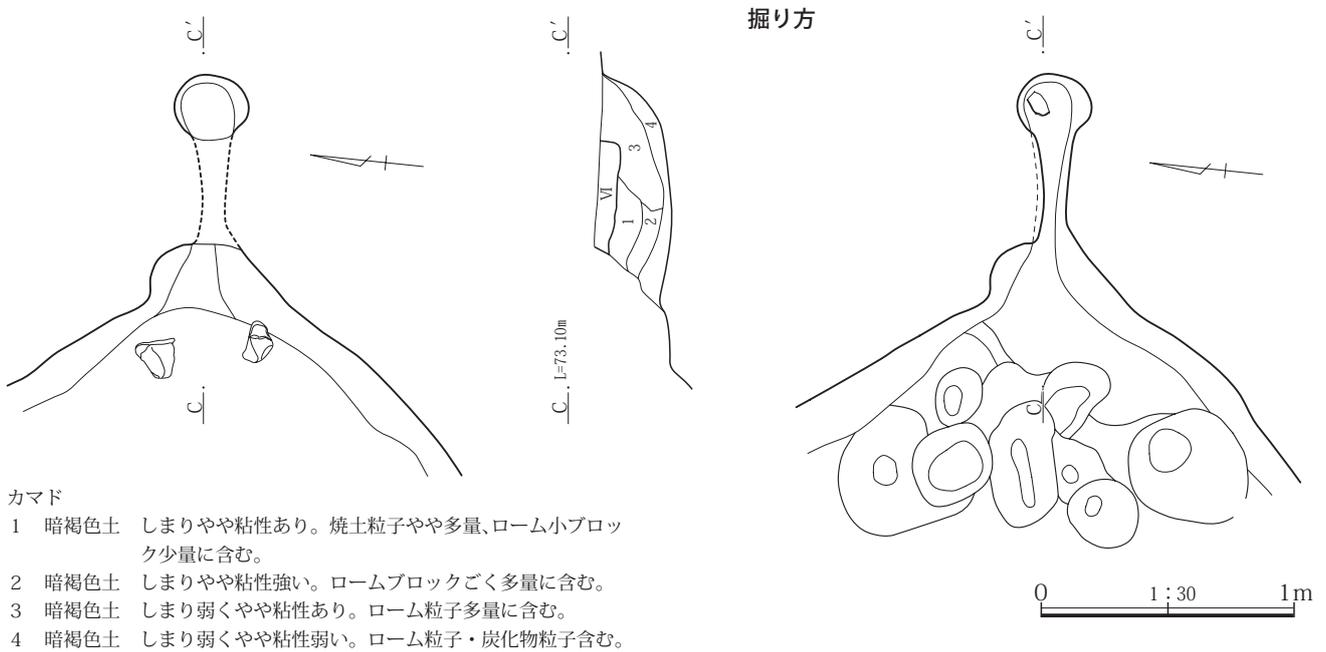
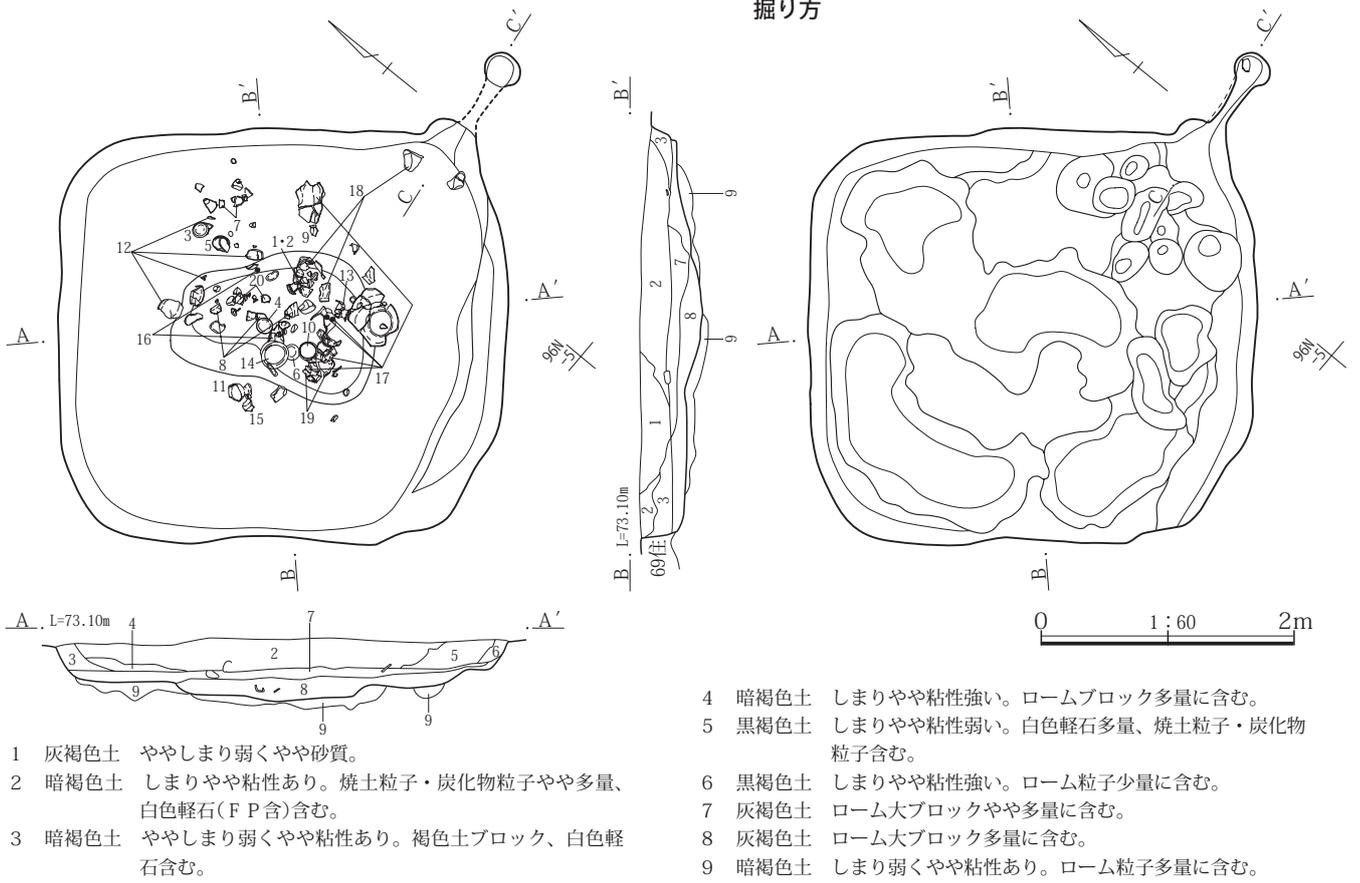


カマド

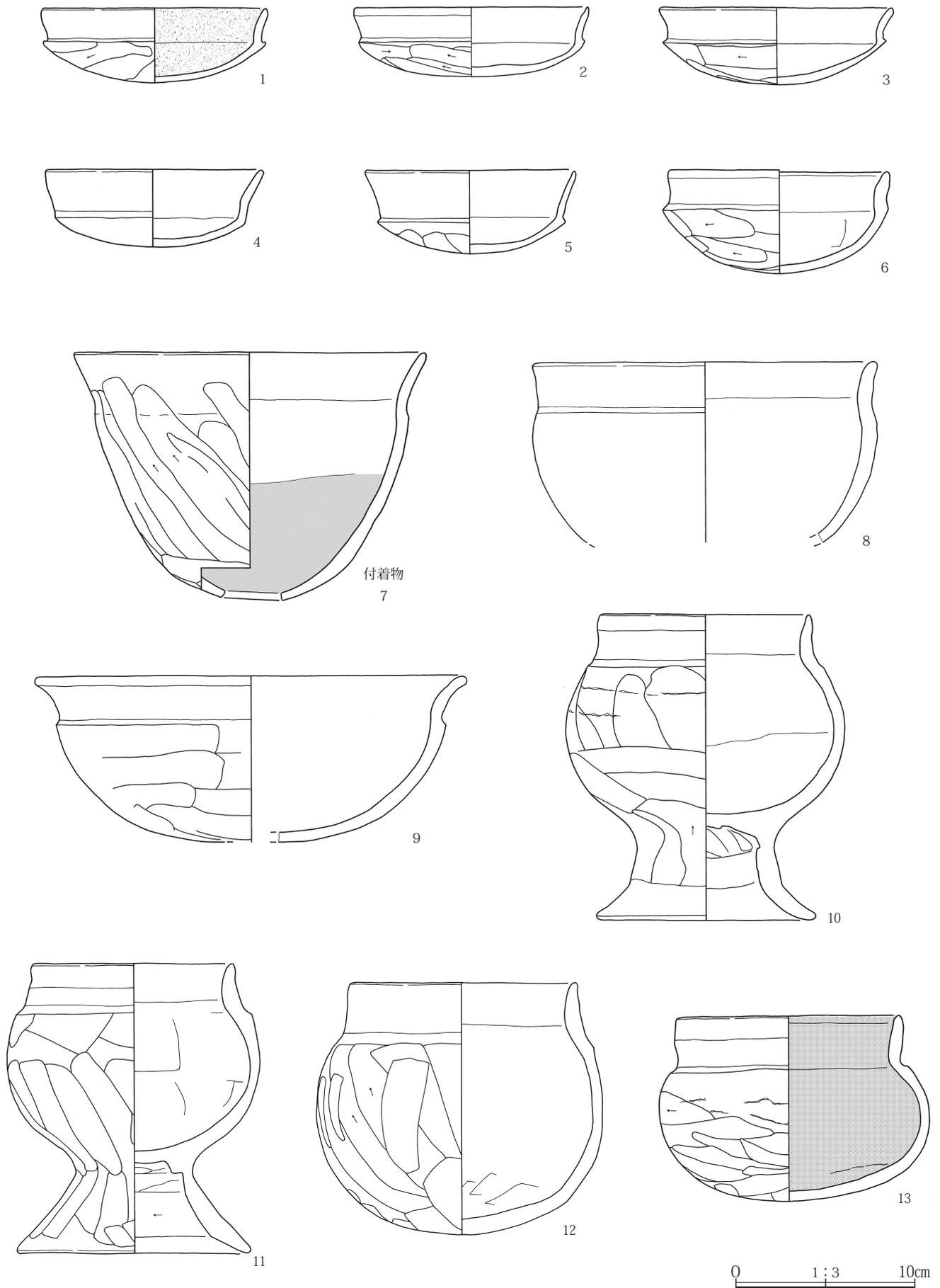
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子やや多量、ロームブロック含む。
- 2 ロームブロック 構築材崩落土。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 4 褐色土 焼土小ブロック多量、ロームブロック多量に含む。
- 5 黒色灰+焼土小ブロック
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・白色軽石含む。

- 7 褐色土 焼土小ブロック少量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 9 暗褐色土 焼土小ブロック多量、ローム小ブロック含む。
- 10 暗褐色土+焼土小ブロック ややしまり弱い。縞状構造。
- 11 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 12 ロームブロック 袖。

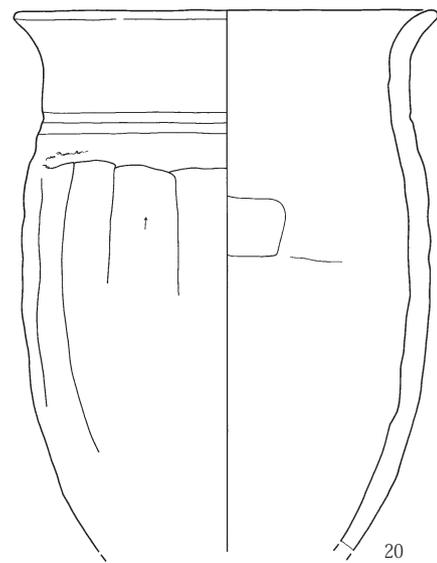
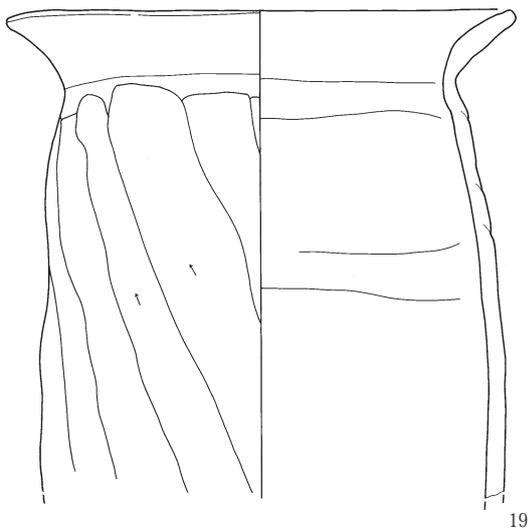
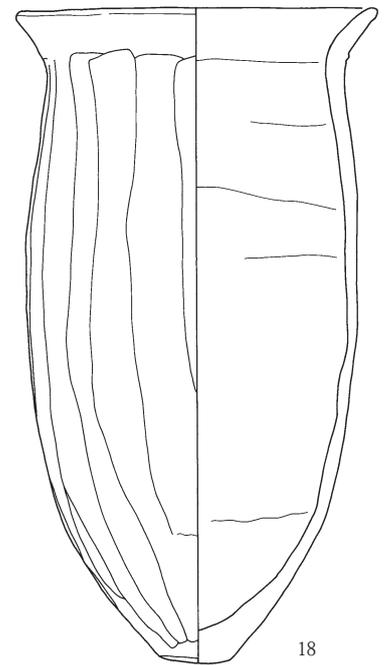
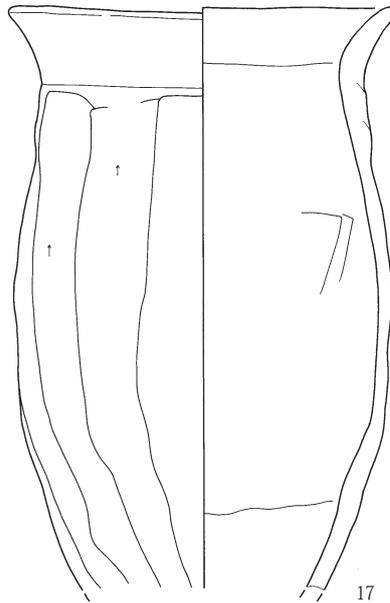
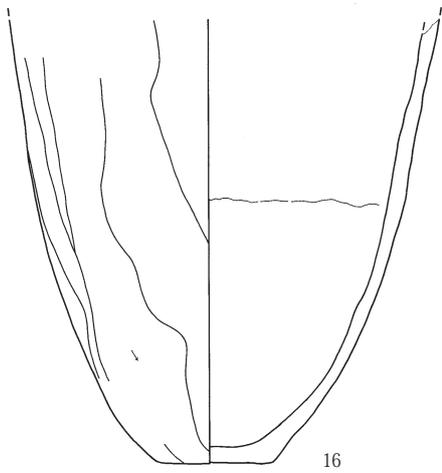
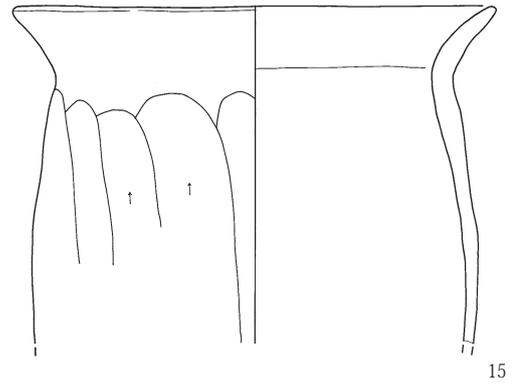
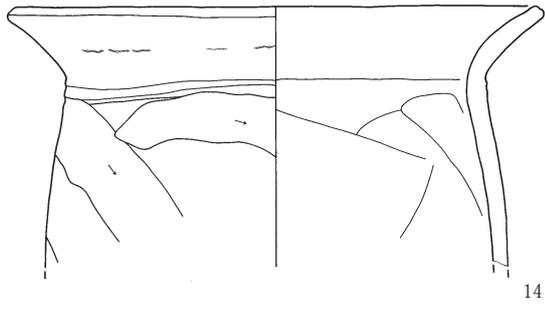
第470図 2区66号住居カマド



第471図 2区68号住居

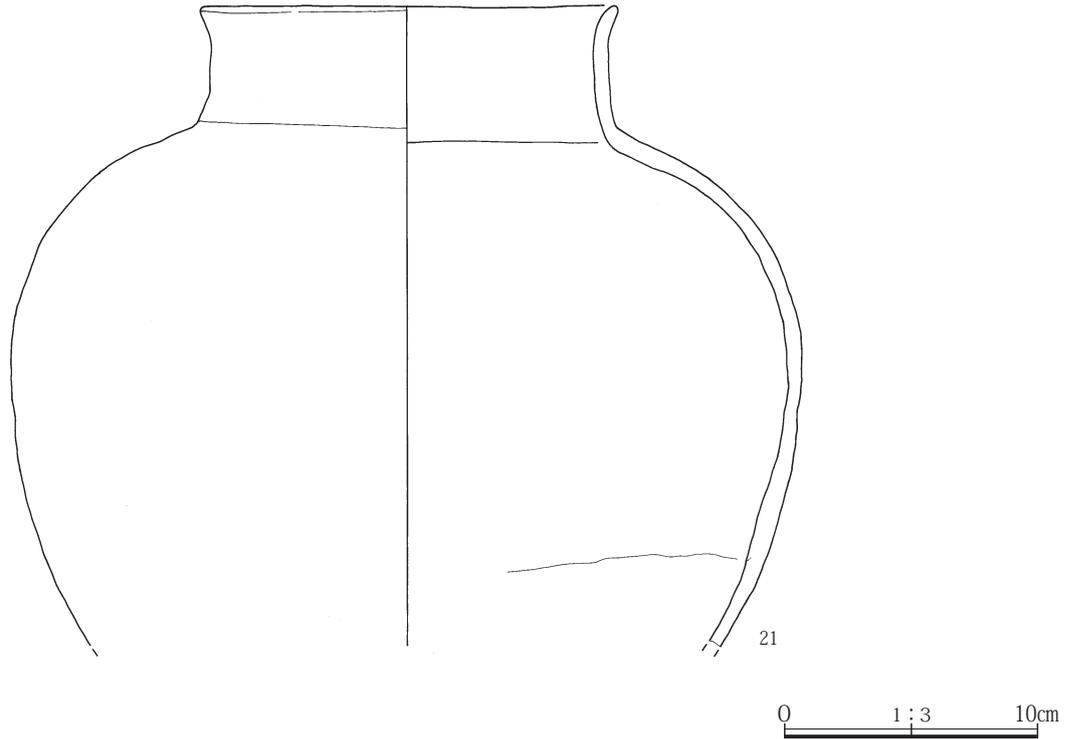


第472図 2区68号住居出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第473図 2区68号住居出土遺物(2)



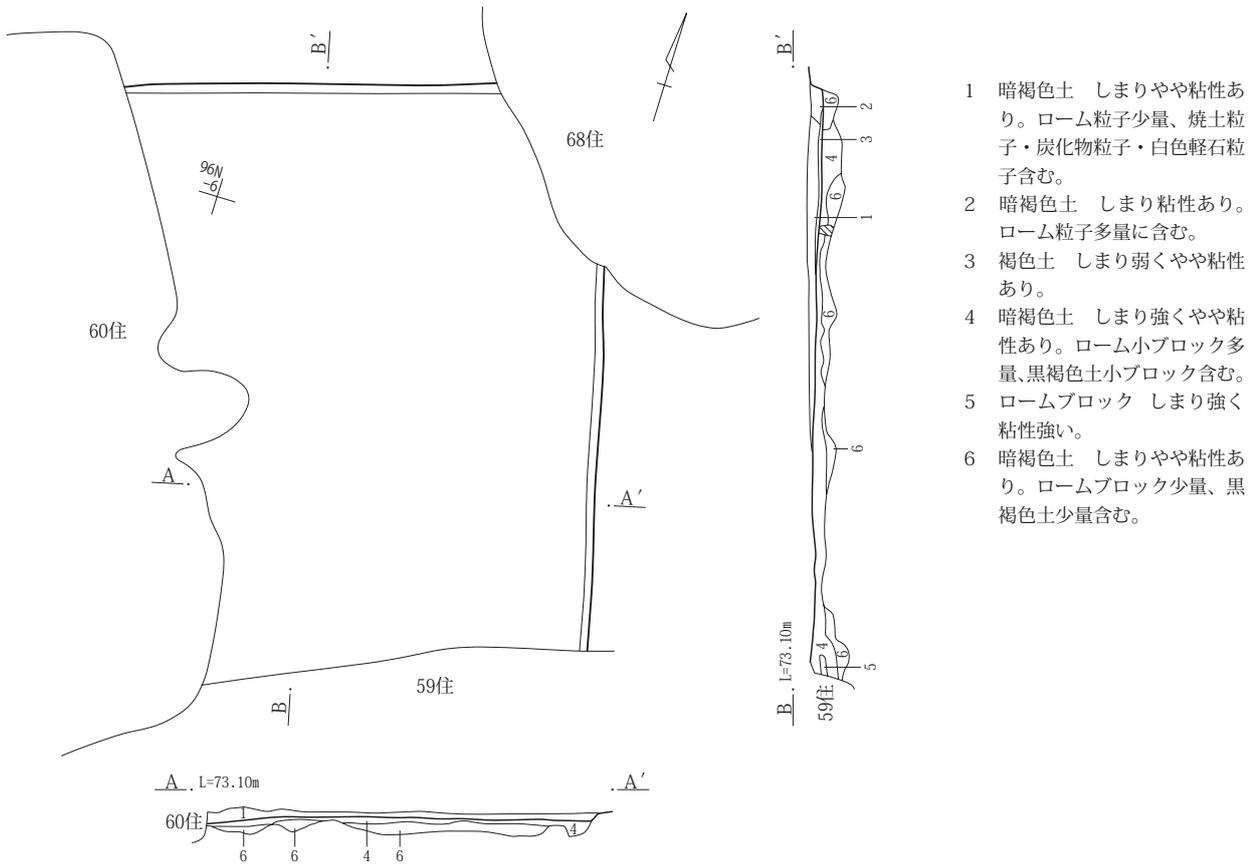
第474図 2区68号住居出土遺物(3)

68号住居(第471～473図、P L .191・192・314・315)
位置 96N-4・5 **重複** 69号住居より後出。
形態 ほぼ正方形。 **主軸方位** N-50°-E
規模 面積8.66㎡ 長軸3.50m、短軸3.28m 残存壁高24～40cm
埋没土 埋没土7・8はロームブロックを多量に含み人為埋没で、上位は自然埋没とみられる。
カマド 南東隅に設ける。燃焼部を住居の壁面付近に持つ。燃焼部はわずかに焼土化する。両袖は残存しないが、右袖に芯となる棒状円礫が立てられていた。左袖の円礫は上位過ぎるか。煙道部は天井部を残しトンネル状をなす。全体規模は長さ121cm幅(54)cm、燃焼部は長さ55cm、確認面からの深さは29cmである。煙道部は長さ67cm最大幅30cm深さ8cmである。掘り方は確認できない。
貯蔵穴・柱穴 未検出。
床 貼り床、硬化面は確認できないが、中央部が皿状に凹み、遺物がやや多く出土した。一部埋められた状態で、土坑状に使用されていたことも考えられる。
掘り方 全体に浅く凸凹する。
遺物 中央部に出土遺物は集中し、特に中央部の皿状の凹みで著しい。皿状の凹みでは土師器杯(1・2・4・6)、

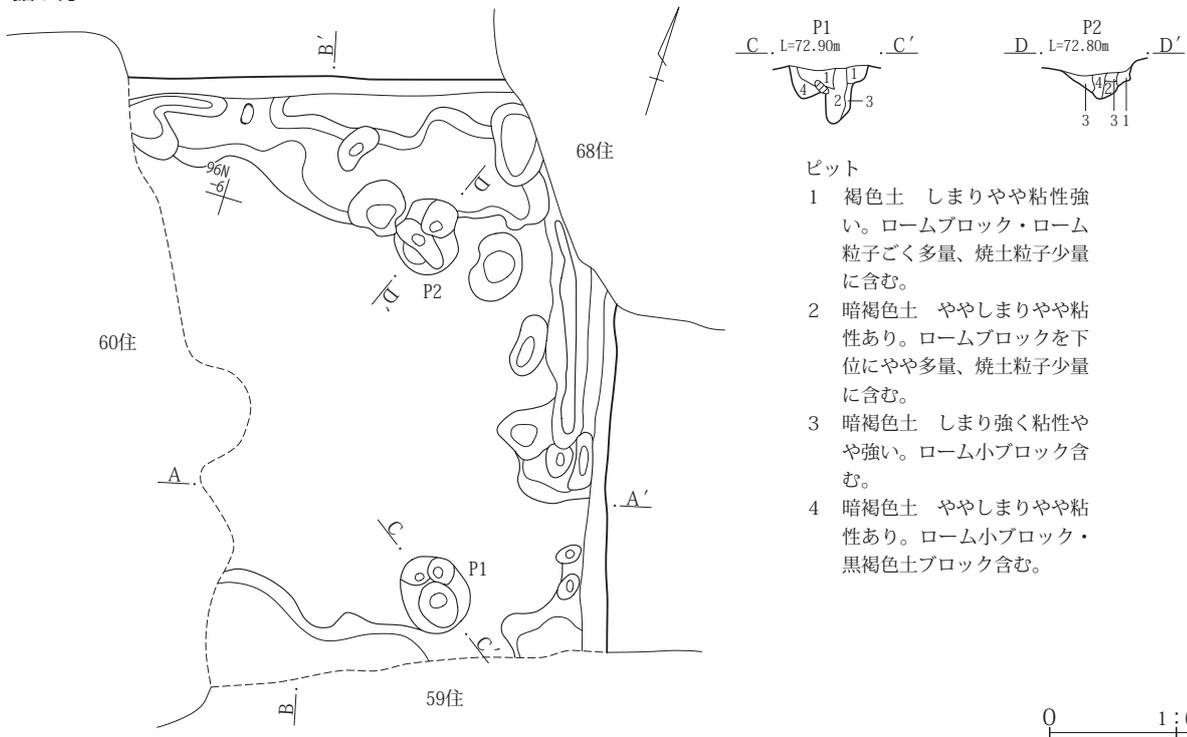
同鉢(8)、同台付鉢(10)、同鉢(13)、同甕(14・16・18・20)が底面で出土する。凹みの西側床面では11の土師器台付鉢が出土し、住居東側底面では土師器鉢(9)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1065g・同小型品360g、須恵器小型品1片が出土している。
時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

69号住居(第475図、P L .192)

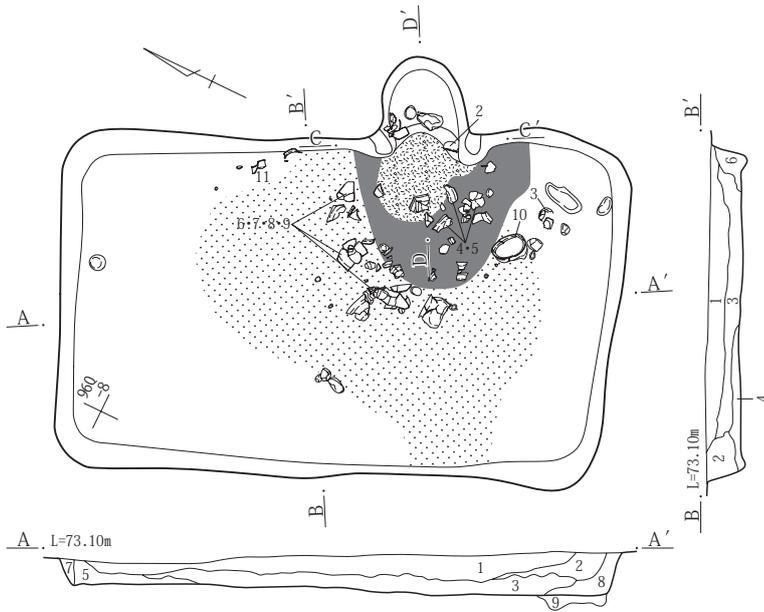
位置 96M・N-5・6
重複 59・60・68号住居より前出。
形態 大部分が重複により消滅するため不明。
主軸方位 N-16°-W
規模 面積13.96㎡ 長軸(4.48)m、短軸(3.82)m 残存壁高11～13cm
埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。
カマド・炉、貯蔵穴 未検出。
柱穴 東半部で主柱穴2基を検出したが、西半部は60号住居と重複して消滅したと考えられる。規模(長径・短径・深さcm)。P1:63・52・43、P2:60・51・36
床 硬化範囲は確認できないが、埋没土4は堅くしまる。



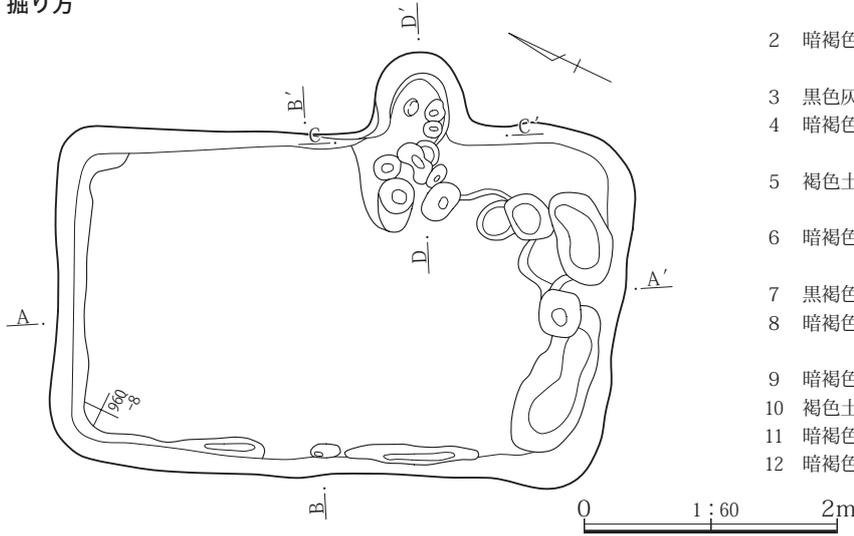
掘り方



第475図 2区69号住居



掘り方

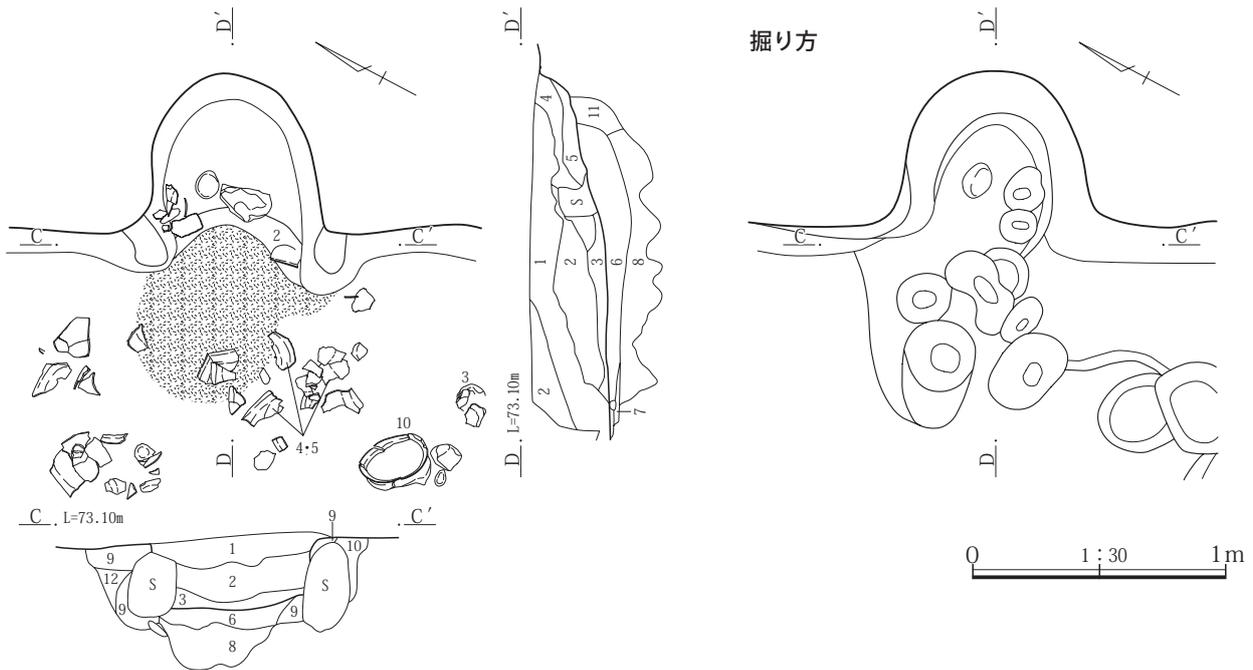


- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・白色軽石含む。
- 3 黒褐色土 しまり粘性強い。白色軽石やや多量、ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック・焼土ブロック含む。縞状構造。
- 5 褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。焼土小ブロック少量、ローム小ブロック含む。
- 7 褐色土 空隙多くしまりなし。やや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子ごく多量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。白色軽石少量に含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。

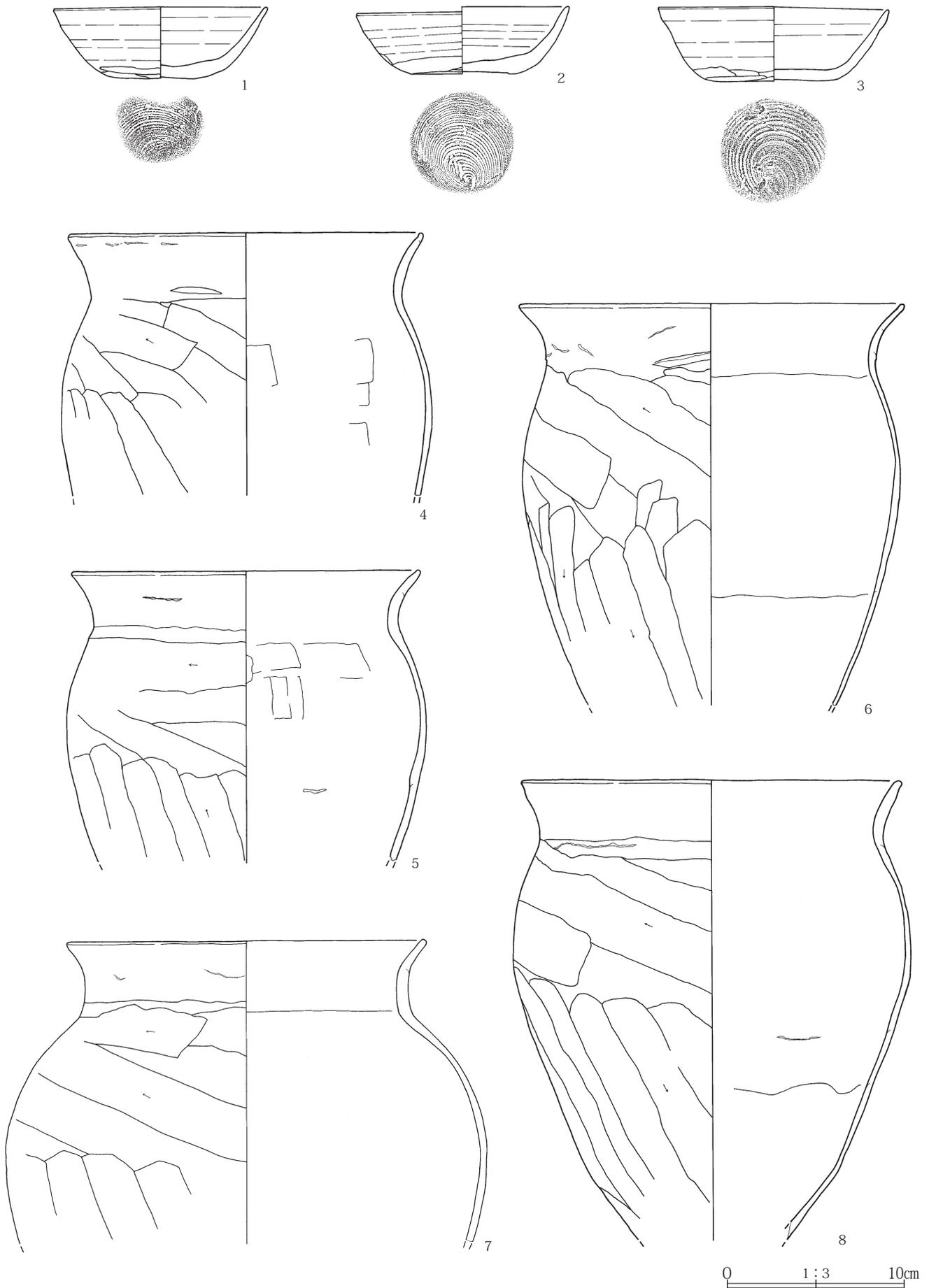
カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物片・凝灰質砂岩片含む。
- 3 黒色灰+焼土
- 4 暗褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック・焼土粒子やや多量、炭化物粒子少量、白色軽石含む。
- 5 褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロックやや多量、灰ブロック・ロームブロック少量に含む。
- 6 暗褐色土 しまり粘性強い。ロームブロックごく多量、焼土小ブロック含む。
- 7 黒褐色土 堅くしまる。灰~黒色灰含む。縞状構造。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。黄色軽石含む。
- 10 褐色土 ややしまりやや粘性あり。
- 11 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土粒子含む。
- 12 暗褐色土 堅くしまる。黄色軽石ごく多量に含む。

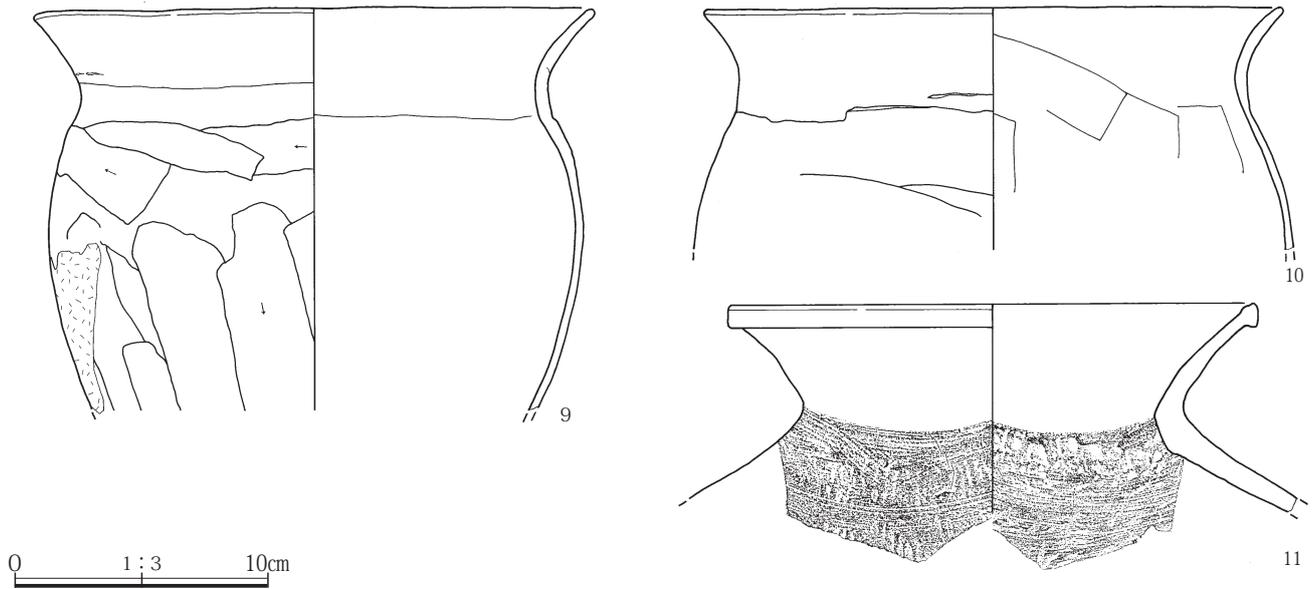
掘り方



第476図 2区70号住居



第477図 2区70号住居出土遺物(1)



第478図 2区70号住居出土遺物(2)

掘り方 壁際は壁面と並行して溝状に掘られ、全体に10cm掘り込まれて凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。S字甕55gを含む土師器大型品105g・同小型品1片、須恵器大型品1片が出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

70号住居(第476～478図、P.L.192・193・315・316)

位置 96P・Q-7・8 重複 なし

形態 長方形。 主軸方位 N-66°-E

規模 面積10.07㎡ 長軸4.50m、短軸2.88m 残存壁高19～38cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体に自然埋没する。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部はやや焼土化し、前面にかけて炭が顕著に広がる。両袖の残存状態は悪いが、壁付近両側に未固結凝灰岩が埋め込まれる。焚き口付近には別個体凝灰岩や土師器甕が散乱することから、住居を廃棄する際カマドを内部方向へ向かって崩したことが想定できる。全体規模は長さ90cm幅107cm、燃烧部長は35cm、袖焚口幅65cmで、確認面からの深さは29cmである。煙道部の長さは55cm、最大幅65cm、深さ20cmで、掘り方の深さは燃烧部で20cm程度である。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 中央部から西辺南側にかけて硬化面が確認できた。

西辺の状況は出入り口を示すと考えられる。

掘り方 壁面に沿って浅く掘り込まれる程度で、北辺から西辺にかけて浅く周溝状にめぐる。

遺物 カマド前面から住居中央部にかけて、遺物が顕著に集中して出土する。土師器甕(4～10)が多くを占めるが、床面での出土は少ない。掲載遺物のほか土師器大型品2510g・同小型品600g、須恵器大型品160g・同小型品68gが出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、マメ科種子、オオムギ・コムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

71号住居(第479・480図、P.L.193・194・317)

位置 96N・O-10～12 重複 91号土坑より前出。

形態 正方形。 主軸方位 N-55°-E

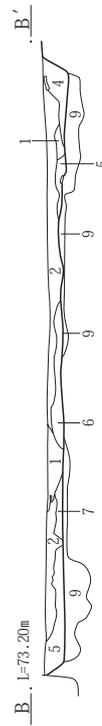
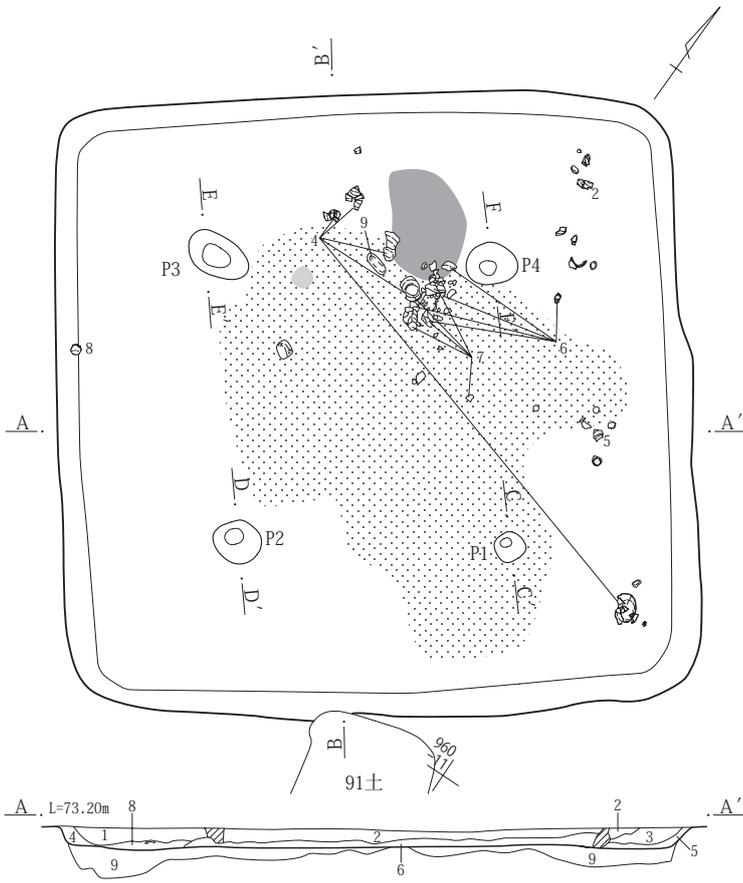
規模 面積20.87㎡ 長軸5.0m、短軸4.98m 残存壁高15～22cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

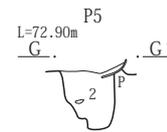
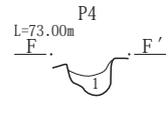
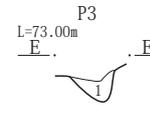
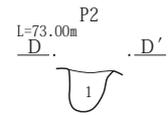
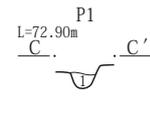
炉 未検出だが、北西部の床面に炭が集中し、隣接して遺物も集中することから、炉が周辺にあったものと考えられる。

貯蔵穴 未検出。

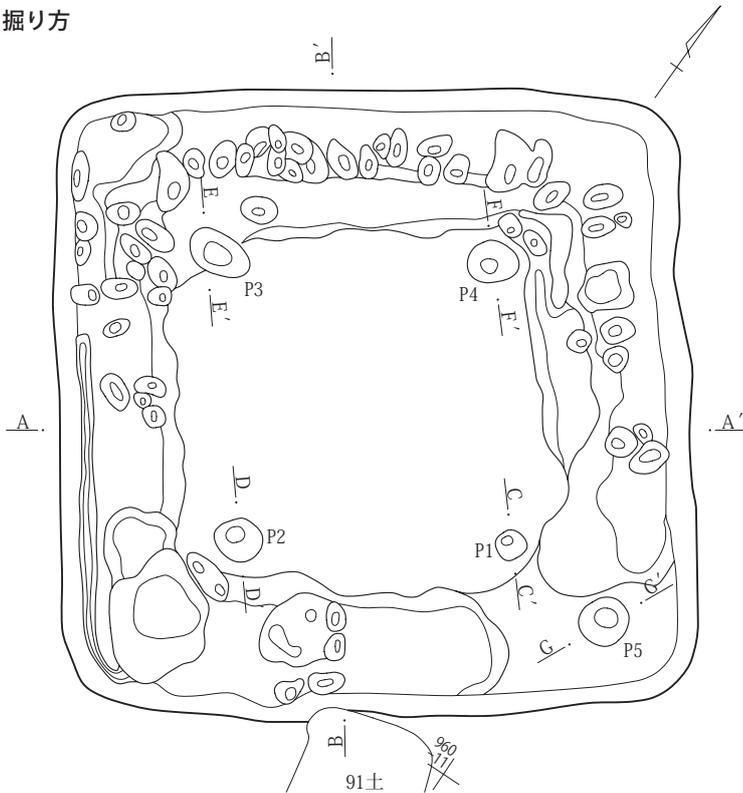
柱穴 四隅の対角線上で主柱穴4基と、掘り方で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 22・22・33、P 2 : 36・33・42、P 3 : 53・32・30、P 4 : 41・



- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子やや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・白色細粒軽石少量に含む。
- 4 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ロームブロック・焼土小ブロック含む。
- 7 褐色土 しまりやや粘性あり。
- 8 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子微量に含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。表層堅くしまる。黄褐色土多量に含む。

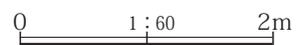


掘り方

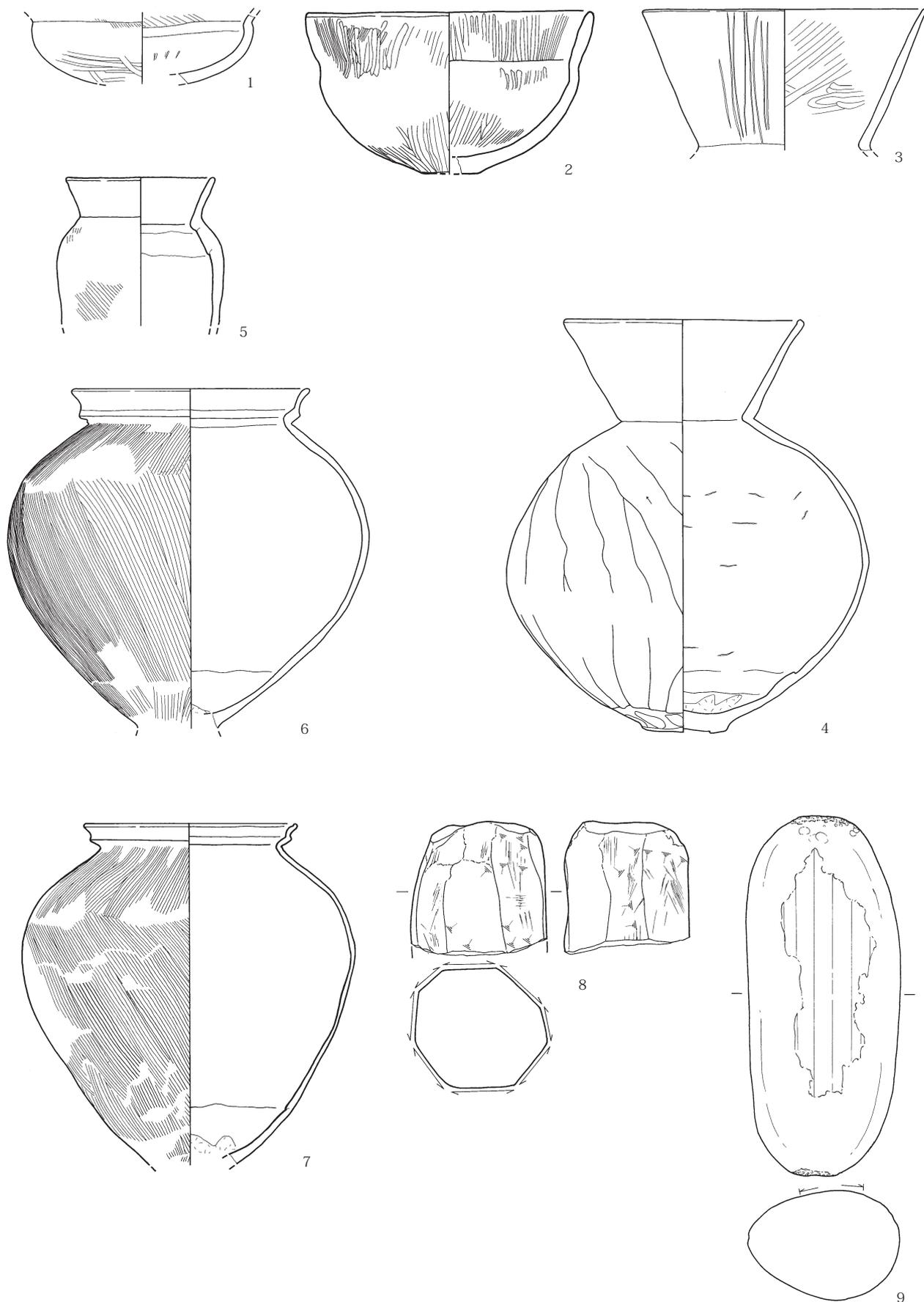


ピット

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。ローム小ブロック少量に含む。

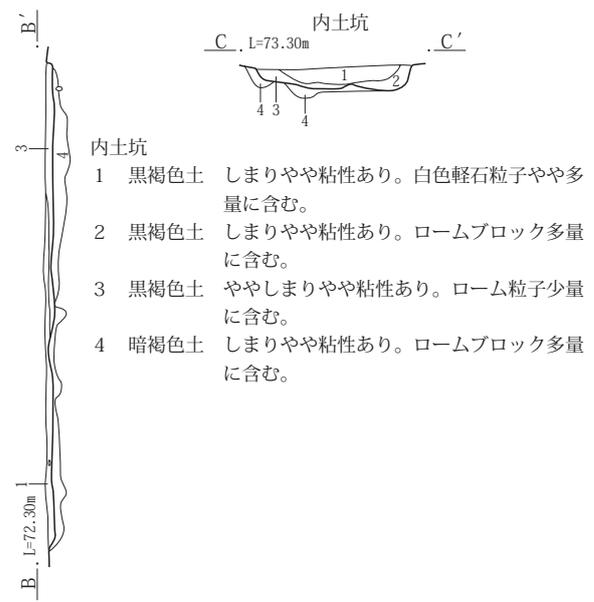
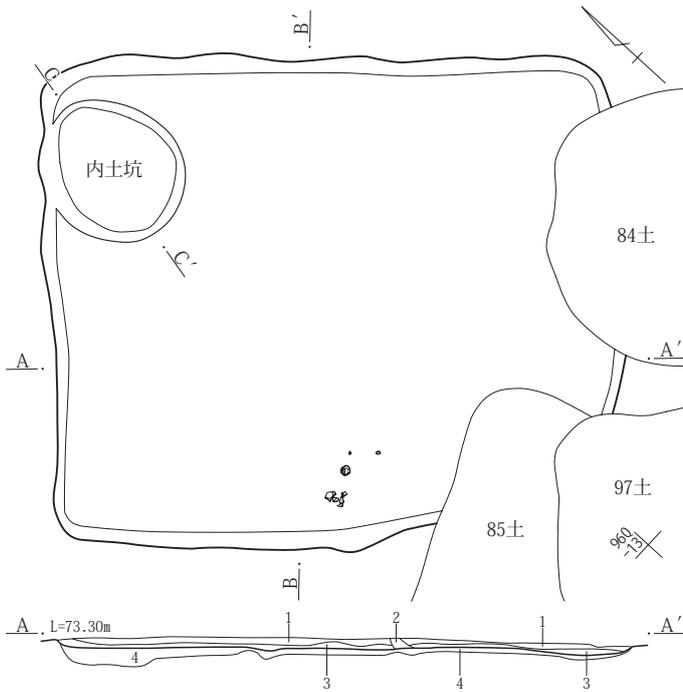


第479図 2区71号住居



0 1:3 10cm

第480図 2区71号住居出土遺物



33・28、P 5 : 40・36・47

床 中央部の支柱穴に囲まれた範囲および、北東辺と南東辺へ向かう一部で、硬化面を確認した。

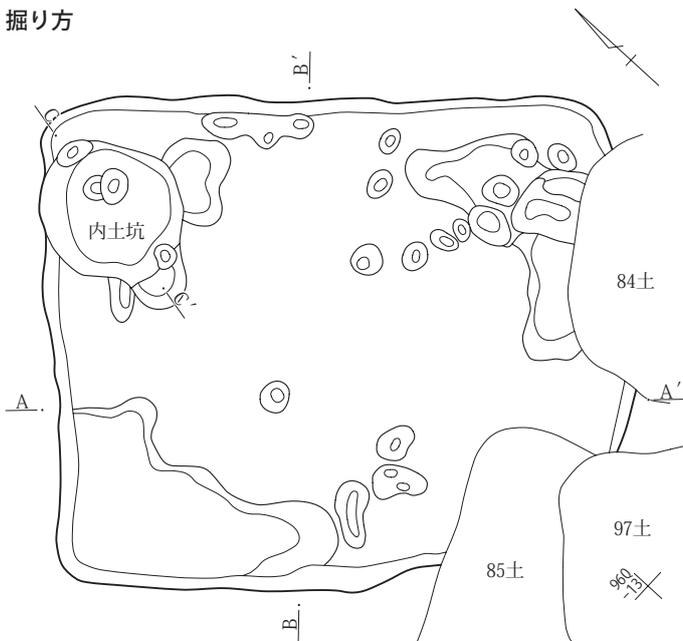
掘り方 中央部を方形に掘り残す状態で、壁面に沿って20cm程度掘り込む。

遺物 中央部北寄りの床面に集中する。土師器壺(4)・同台付甕(6・7)が出土する。また、北東隅の床面では2の土師器鉢が出土した。掲載遺物のほか土師器大型品1820g・同小型品390gが出土している。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、白色軽石粒子含む。
- 2 ロームブロック
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。表層堅くしまる。ロームブロック多量に含む。

掘り方



72号住居(第481図、P L.194)

位置 96Q・R-12・13 重複 84・85・97号土坑より前出。

形態 長方形。主軸方位 N-42°-W

規模 面積13.69㎡ 長軸4.68m、短軸3.95m 残存壁高2~5cm

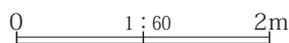
埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

内土坑 北東隅に設ける。平面形は円形。規模は長径122cm短径105cm深さ19cmである。

柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土4の表層は硬化している。



第481図 2区72号住居

掘り方 全体に浅く、壁面がやや深く凸凹する。

遺物 南壁近くにわずかに出土する程度で、概して少ない。S字甕110gを含む土師器大型品300g・同小型品3片が出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

73・74号住居(第482・483図、P L.195・316)

73号住居 位置 96S・T-12・13

重複 74号住居、103号土坑より後出で、73号土坑、670号ピットより前出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-85°-E

規模 面積7.92㎡ 長軸3.63m、短軸2.8m 残存壁高19~24cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺の南東隅近くに設ける。燃燒部を住居の壁面付近に持つ。全体にやや焼土化する。燃燒部底面の中央やや左寄りに、支脚として棒状円礫が立置されていた。右袖は73号土坑に壊される。左袖も残存状態は悪いが、芯として棒状礫が埋め込まれていた。全体規模は長さ(95)cm幅(55)cm、燃燒部は長さ(39)cmで、確認面からの深さは22cmである。煙道部は長さ56cm最大幅47cm深さ12cmである。掘り方はほとんど認められない。

貯蔵穴 未検出。 **柱穴** 未検出。

床 カマド前面から住居の南半部で硬化面を確認できた。床面の高さは74号住居と変わらないため、不分明である。掘り方もわずかである。

周溝 四辺すべてにわたり、断続的に周溝がめぐる。規模は(長さm・幅cm・深さcm)。南辺:1.37・16・5、西辺:1.85・14・2、北辺:0.65・18・3、東辺:1.61・19・3である。

遺物 南半部を主体に少量出土する。床面での出土は少なく、カマド左脇で1の土師器甕が出土する。カマド燃燒部で出土した支脚は砥石の転用である。掲載遺物のほか土師器大型品620g・同小型品220g、須恵器大型品875g・同小型品170gが出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

74号住居 位置 96S-12・13

重複 104号土坑より後出で、73号住居、73号土坑より

前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-87°-E

規模 面積2.38㎡ 長軸3.10m、短軸(1.25)m 残存壁高19~20cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 東辺に設ける。73号土坑に壊され、煙道部の一部のみ残存する。やや焼土化する。煙道部は長さ(54)cm最大幅28cm深さ11cmである。

貯蔵穴 未検出。 **柱穴** 未検出。

床 残存する部分全体で硬化面が確認できた。掘り方はわずかである。

遺物 遺物の出土は少ない。S字甕2片、土師器小型品35g、須恵器小型品2片が出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。

75号住居(第484図、P L.196)

位置 96T-13 調査所見により住居とする。

重複 なし。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-68°-E

規模 面積0.35㎡ 長軸(1.08)m、短軸(1.05)m 残存壁高24~27cm

埋没土 褐色土を主体としロームブロックが目立つが、露呈部分が狭いため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 20cm程度掘り込まれる。

遺物・時期 遺物は出土せず、時期不明。

76号住居(第485・486図、P L.196・197・316)

位置 96T~97A-14・15 **重複** 96号住居より後出。

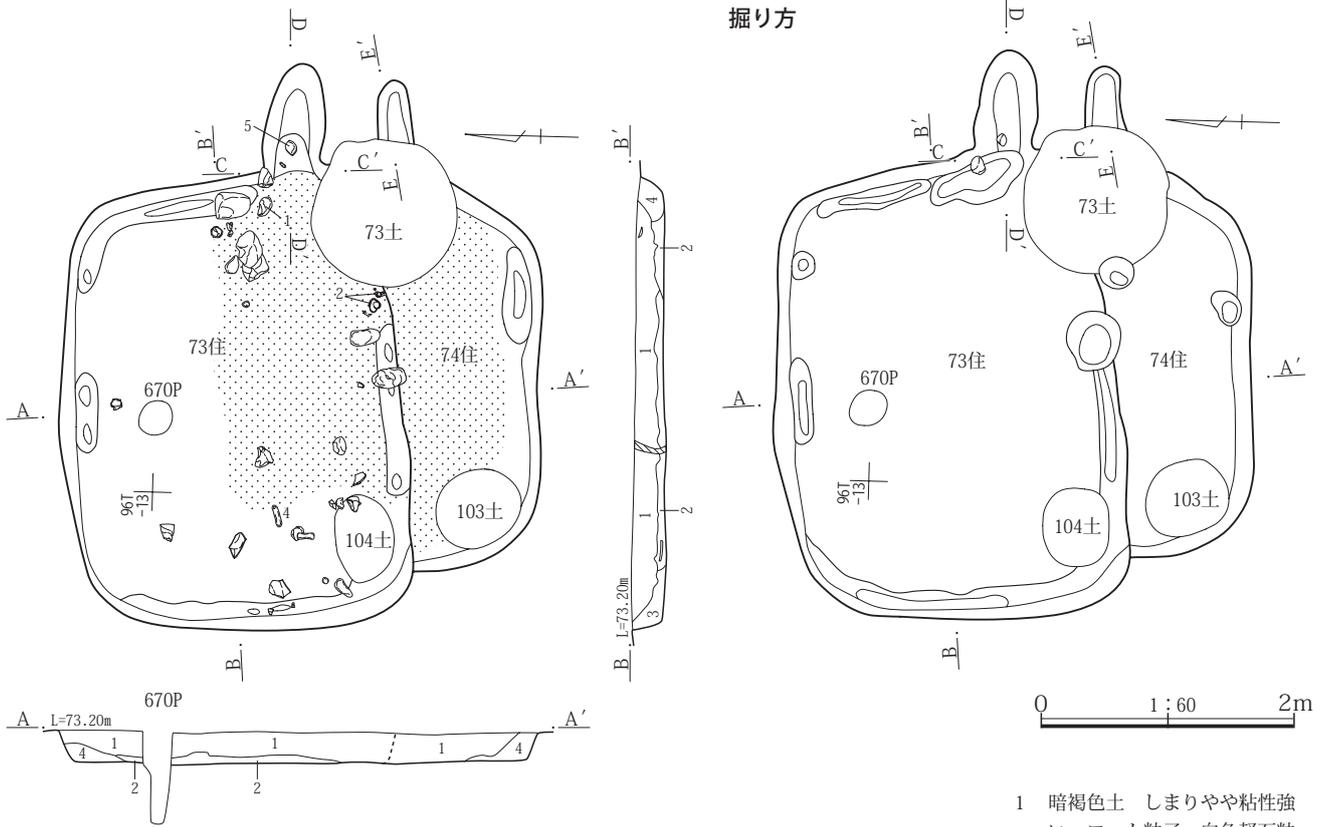
形態 長方形。 **主軸方位** N-68°-E

規模 面積8.94㎡ 長軸4.03m、短軸2.82m 残存壁高15~19cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

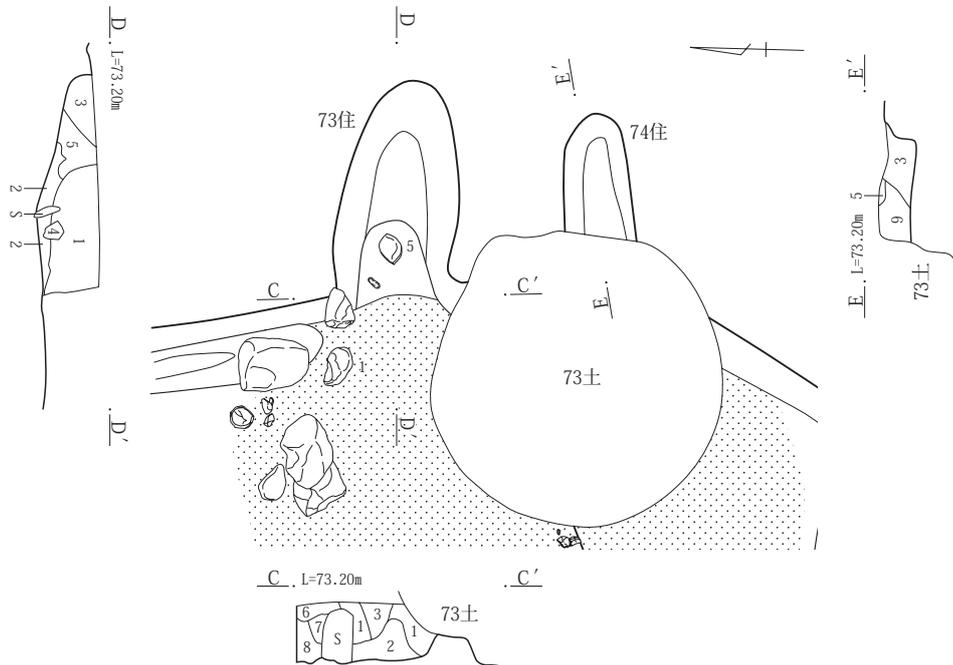
カマド 東辺のほぼ中央に設ける。燃燒部を住居の壁面付近に持つ。壁面は顕著に焼土化するが、底面は弱い。両袖ともわずかに残存し、褐色土を主体として構築する。全体規模は長さ61cm幅115cm、袖焚口幅72cm、確認面か

掘り方



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・白色軽石粒子(FP含む)、焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 2 黒褐色土 しまり粘性強い。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・白色軽石含む。

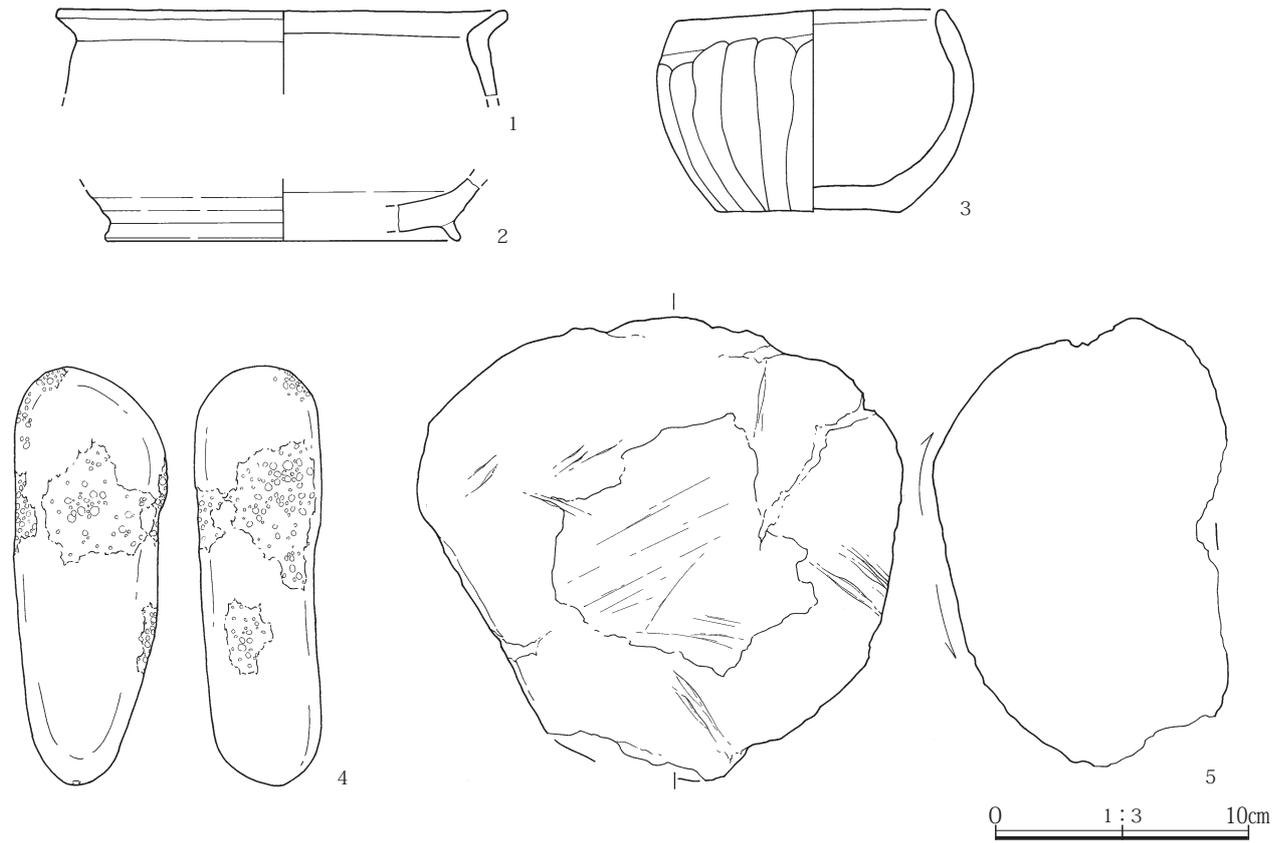
カマド



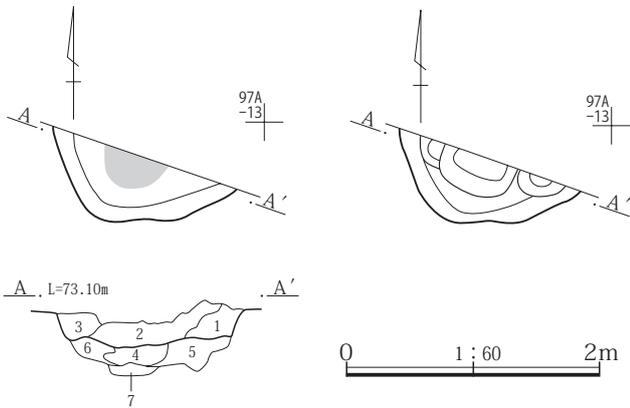
カマド

- 1 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子・白色軽石粒子やや多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。黒色灰ブロック多量、焼土ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量に含む。
- 4 ロームブロック
- 5 焼土ブロック
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック・焼土小ブロック含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック・焼土粒子多量に含む。

第482図 2区73・74号住居

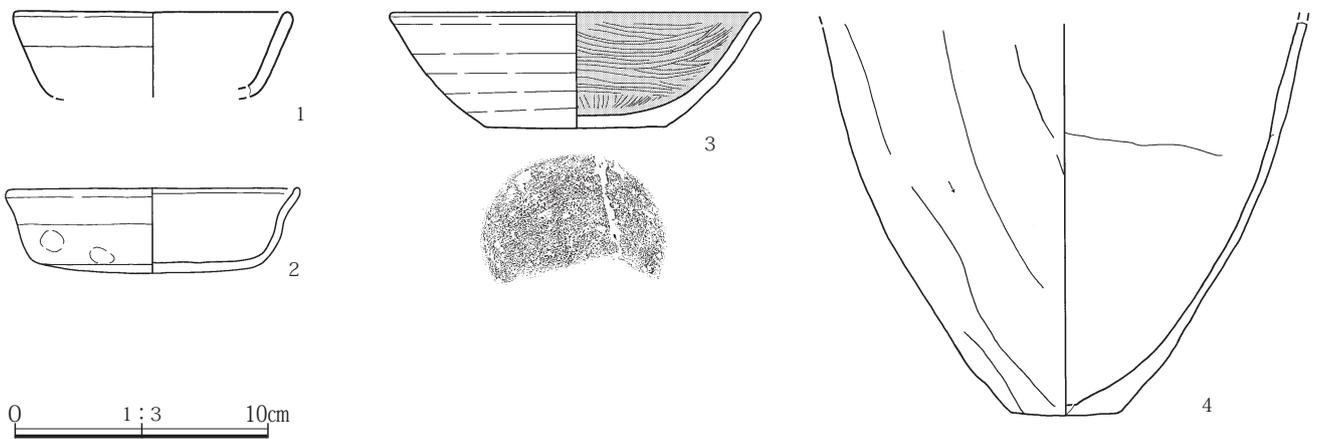


第483図 2区73号住居出土遺物

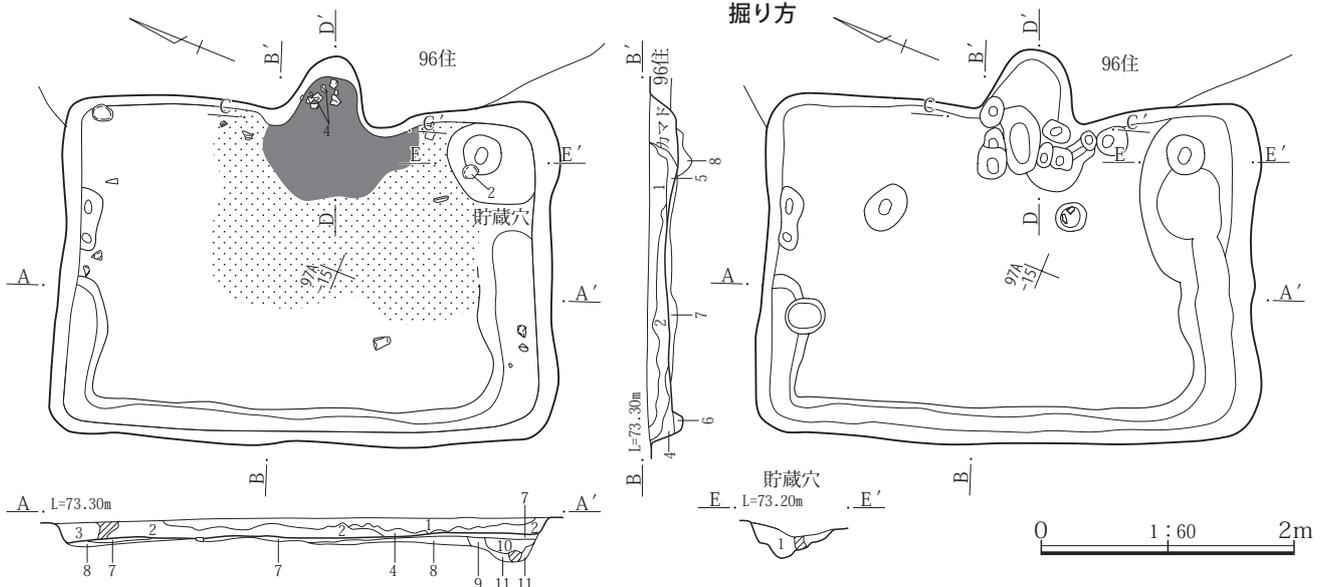


- 1 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物やや多量に含む。
- 3 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、焼土粒子微量に含む。
- 4 褐色土 ややしまりやや粘性強い。焼土小ブロック少量、灰色灰小ブロック含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量、焼土粒子・炭化物粒子やや多量に含む。
- 6 黄褐色土
- 7 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。

第484図 2区75号住居



第485図 2区76号住居出土遺物

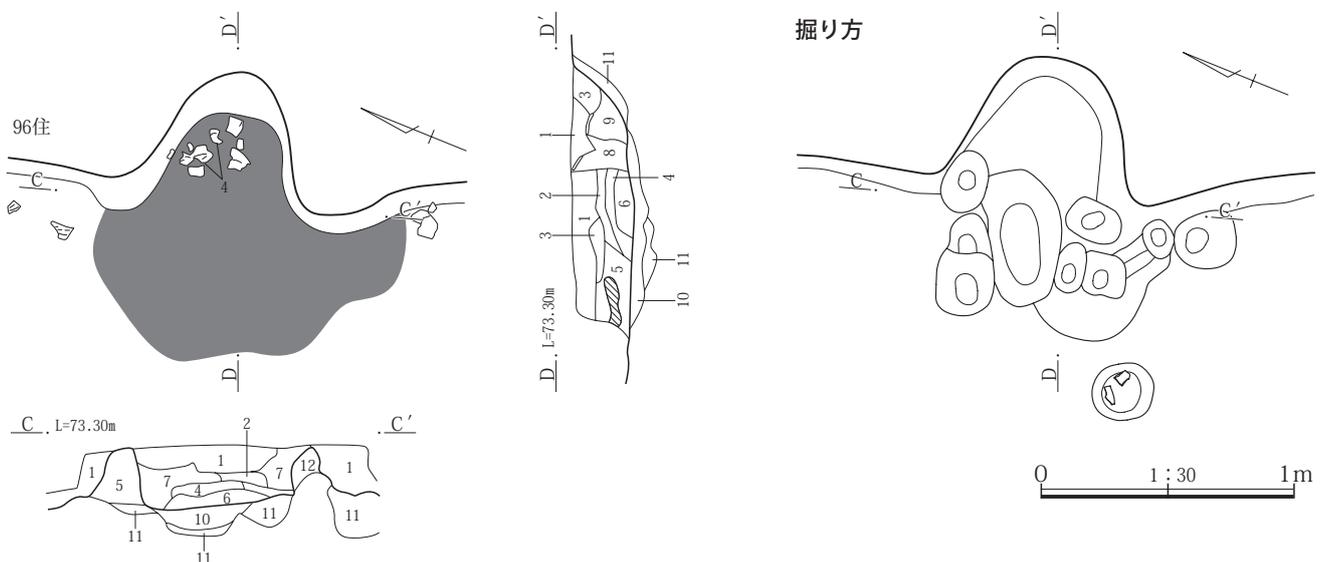


- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量、白色軽石粒子(FP含む)含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・白色軽石粒子(FP含む)少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量、炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・ローム小ブロック含む。

- 7 暗褐色土 扁平なロームブロック含む。綺状構造。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性やや強い。ロームブロックごく多量に含む。
- 9 黒褐色土 しまる。ロームブロックごく多量に含む。
- 10 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量に含む。
- 11 ロームブロック しまりやや粘性強い。暗褐色土多量に含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ロームブロック・ローム粒子含む。



カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック少量、白色軽石やや多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり粘性弱い。焼土小ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土ブロック含む。
- 4 黒色灰+焼土小ブロック
- 5 褐色土 しまりやや粘性強い。白色軽石含む。
- 6 褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒子多量、焼土粒子含む。

- 8 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土粒子多量、黒～灰色灰多量に含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土小ブロック・灰色灰小ブロック含む。
- 10 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・灰小ブロック含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロックごく多量に含む。
- 12 黄褐色土

第486図 2区76号住居

らの深さは25cmである。掘り方の深さは燃烧部で10cm程度である。

貯蔵穴 南東隅に設ける。平面形は不整形円形。規模は長径79cm短径63cm深さ34cmである。

柱穴 未検出。

床 中央部からカマド・南西隅に向かって硬化面が広がる。

周溝 南辺から西辺、北辺にかけてコの字形に周溝が廻る。規模は長さ6.0m幅25～58cm深さ15cmである。

掘り方 壁際を主体に浅く掘り込まれる。

遺物 カマドに遺物はやや集中するが、概して少ない。貯蔵穴で2の土師器杯、カマドでは4の土師器甕が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品890g・同小型品260g、須恵器大型品3片・同小型品4片が出土している。カマドで出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第6項)、残存長4cmのクリの割材と判明した。カマドで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子が少量、ササゲ属アズキ亜科アズキ型種子、マメ科種子、オオムギ種子が微量と判明した。

時期 出土遺物から9世紀後半に比定される。

77号住居(第487図、P L .197)

位置 97A・B-15・16 重複 なし。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-42°-W

規模 面積4.12㎡ 長軸(2.67)m、短軸2.65m 残存壁高12～14cm

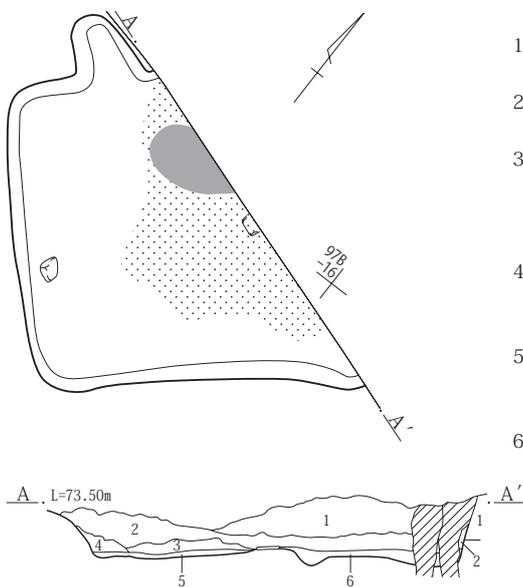
埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。ただし、住居北西部に突出部がある。焼土はなく、カマドではない。重複する土坑の可能性もある。規模(62・55・16cm)。

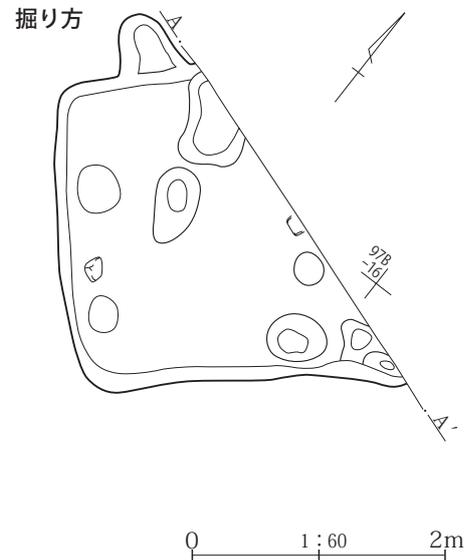
床・掘り方 中央部で硬化面を確認できたが、掘り方はわずかである。

遺物 遺物の出土は少ない。S字甕90gを含む土師器大型品210g・同小型品90gが出土している。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子と判明した。

時期 出土遺物から古墳時代以降に比定される。



- 1 暗褐色砂質土 しまる。白色軽石(F P含む)含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子やや多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム粒子・黒褐色土ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 5 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ロームブロック・黒色灰ブロックを層状に多量に含む。
- 6 暗褐色土 堅くしまる。ロームブロック含む。



第487図 2区77号住居

78号住居(第488・489図、P L .197・198・316)

位置 96S・T-14・15 重複 97号住居より後出。

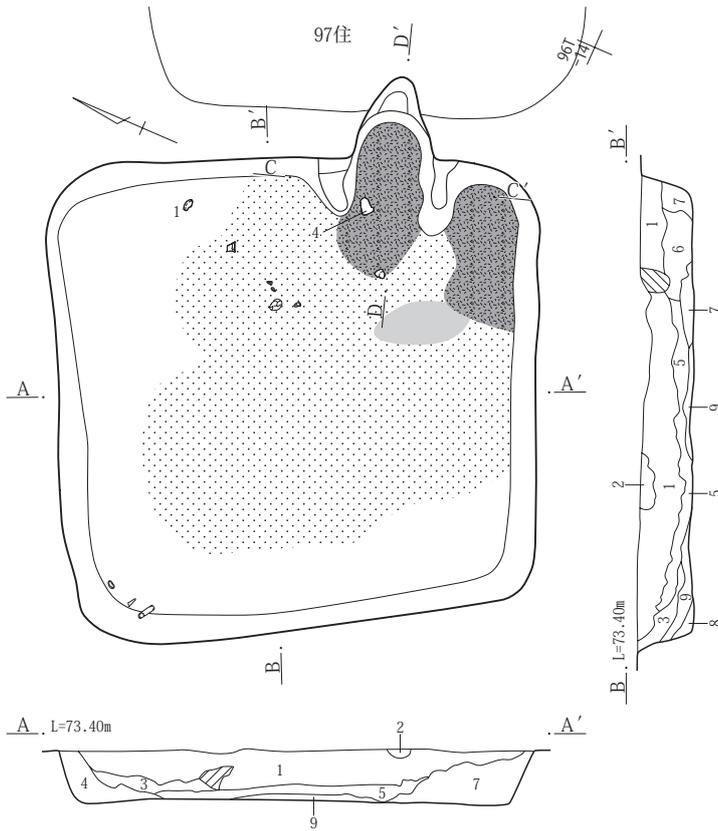
形態 正方形。 **主軸方位** N-66°-E

規模 面積10.98㎡ 長軸3.90m、短軸3.83m 残存壁

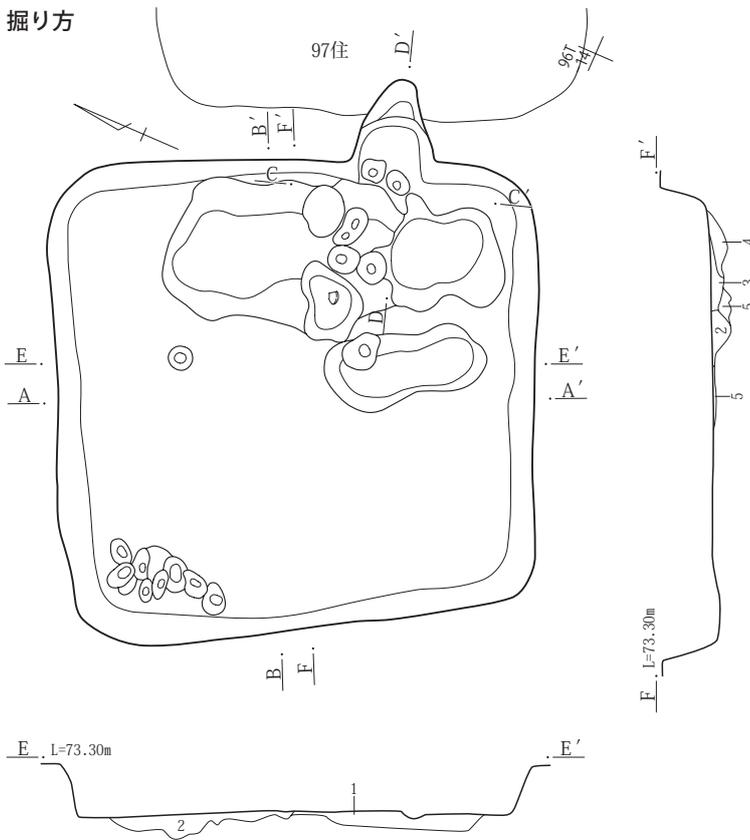
高39～45cm

埋没土 黒褐色土・暗褐色土を主体に自然埋没する。

カマド 東辺の南半部に設ける。燃烧部を住居の壁面付近に持つ。焼土化はほとんど無く、燃烧部底面に炭が顕



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。白色軽石粒子(F P含む)やや多量、ローム小ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。白色軽石粒子(F P含む)やや多量、ローム粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 5 黒褐色土 しまり粘性強い。ロームブロック少量に含む。
- 6 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。白色軽石粒子(F P含む)やや多量、ロームブロック多量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック少量に含む。
- 8 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 9 黒褐色土 しまり強く粘性強い。黄褐色土ブロック少量に含む。

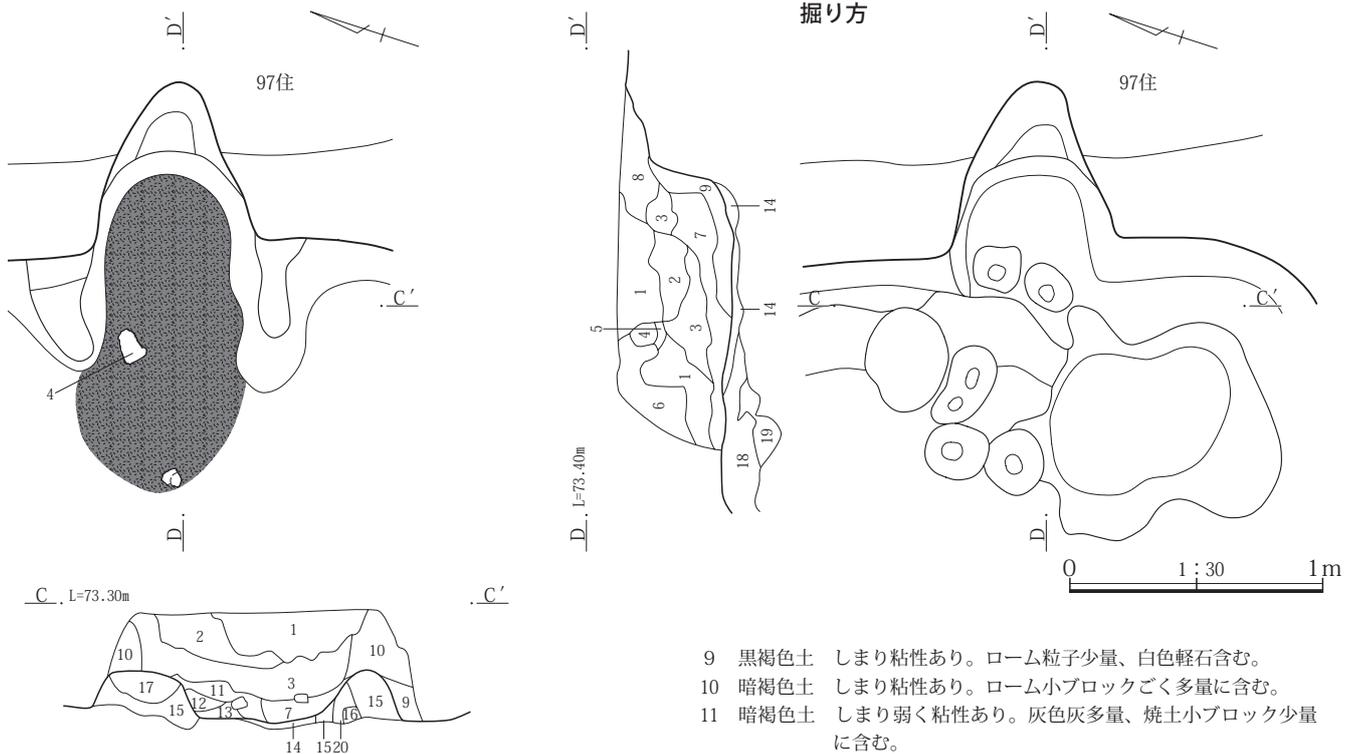


掘り方

- 1 暗褐色土+ローム ごく堅くしまる。縞状構造。
- 2 暗褐色土 ごく堅くしまり粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 3 褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック微量に含む。



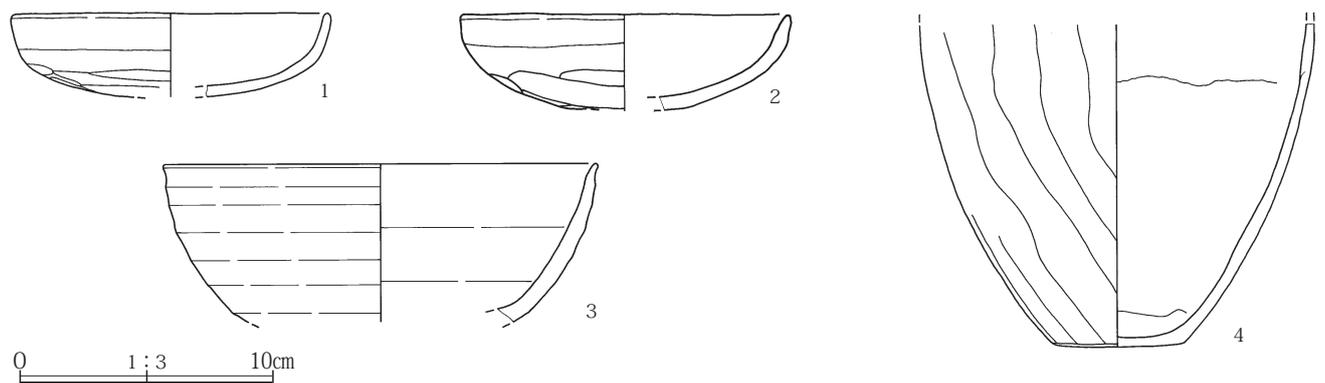
第488図 2区78号住居



カマド

- 1 褐色土 ややしりやや粘性強い。ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 しり強い。灰色粘土含む。
- 3 暗褐色土 しりやや粘性弱い。灰色粘土ブロック少量、ロームブロック多量に含む。
- 4 黄褐色土ブロック ややしり弱い。
- 5 黒褐色土 堅くしる。ローム小ブロック少量に含む。
- 6 暗褐色土 しりやや粘性弱い。ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土 しる。灰色粘土ブロック・ローム小ブロック含む。
- 8 暗褐色土 しりやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子多量に含む。

- 9 黒褐色土 しり粘性あり。ローム粒子少量、白色軽石含む。
- 10 暗褐色土 しり粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 11 暗褐色土 しり弱粘性あり。灰色灰多量、焼土小ブロック少量に含む。
- 12 暗褐色土 焼土ブロック・凝灰岩片含む。
- 13 灰色粘土+焼土ブロック+黒色灰
- 14 黒色灰 ローム小ブロック・焼土小ブロック含む。
- 15 暗褐色土 しりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。
- 16 凝灰岩ブロック
- 17 黒色灰 しり強くやや粘性あり。ロームブロックごく多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 18 黒色灰+暗褐色土+ローム 堅くしる。縞状構造。
- 19 黒色灰 ややしり弱くやや粘性弱い。黒色灰・炭化物片・焼土小ブロック含む。
- 20 灰褐色粘質土 堅くしる。



第489図 2区78号住居カマドと出土遺物

著に広がる。両袖ともやや残り、右袖は未固結凝灰岩を芯として構築される。全体規模は長さ125cm幅137cm、燃烧部は長さ97cm、袖焚口幅70cmで、確認面からの深さは44cmである。煙道部は長さ28cm最大幅40cm深さ12cmである。掘り方の深さは燃烧部で20cm程度である。

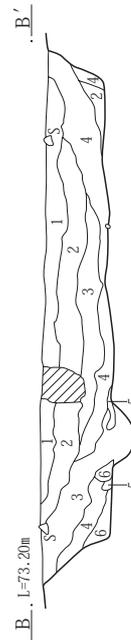
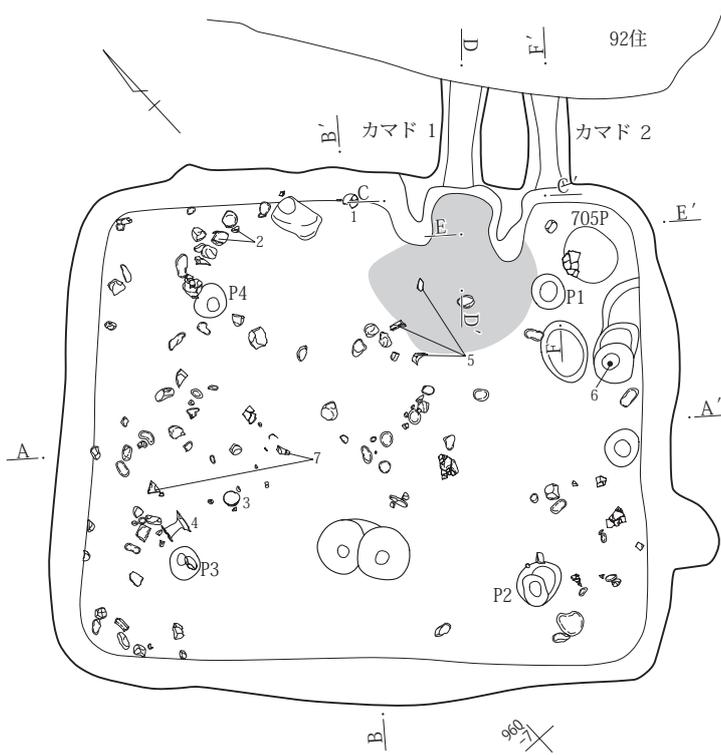
貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 中央部からカマド・南西隅へ向かって硬化面の範囲

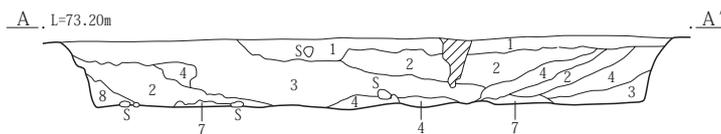
が確認できた。

掘り方 カマド周辺を含む南東部で10cm程度掘り込むほか、全体は浅くわずかである。

遺物 カマドおよび周辺で少量出土する。カマド燃烧面で4の土師器甕が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品985g・同小型品740g、須恵器大型品1片・同小型品4片が出土している。カマドで出土した微量の種実類は、



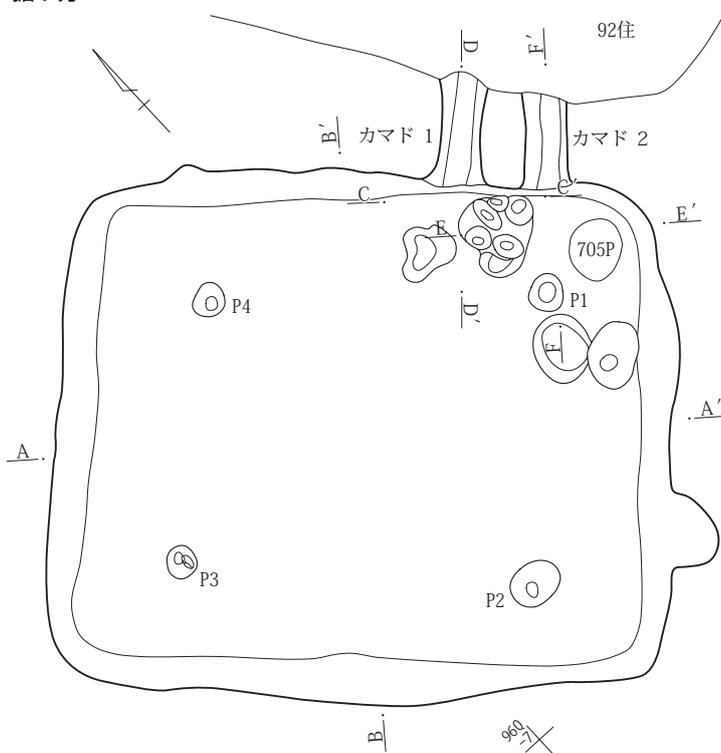
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。白色軽石(F P含む)やや多量、焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子やや多量、白色軽石(F P含む)含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロック多量、白色軽石(F P含む)含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック少量、白色軽石(F P含む)含む。
- 5 黒褐色土 白色軽石少量に含む。
- 6 褐色土
- 7 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子微量、白色軽石(F P含む)含む。
- 8 褐色土+ローム小ブロック しまり強くやや粘性あり。



鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から8世紀前半に比定される。

掘り方



79号住居(第490～492図、P L.198・199・316)

位置 96P～R-6・7

重複 92号住居より前出で、705号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 長方形。 主軸方位 N-43°-E

規模 面積15.34㎡ 長軸4.95m、短軸4.28m

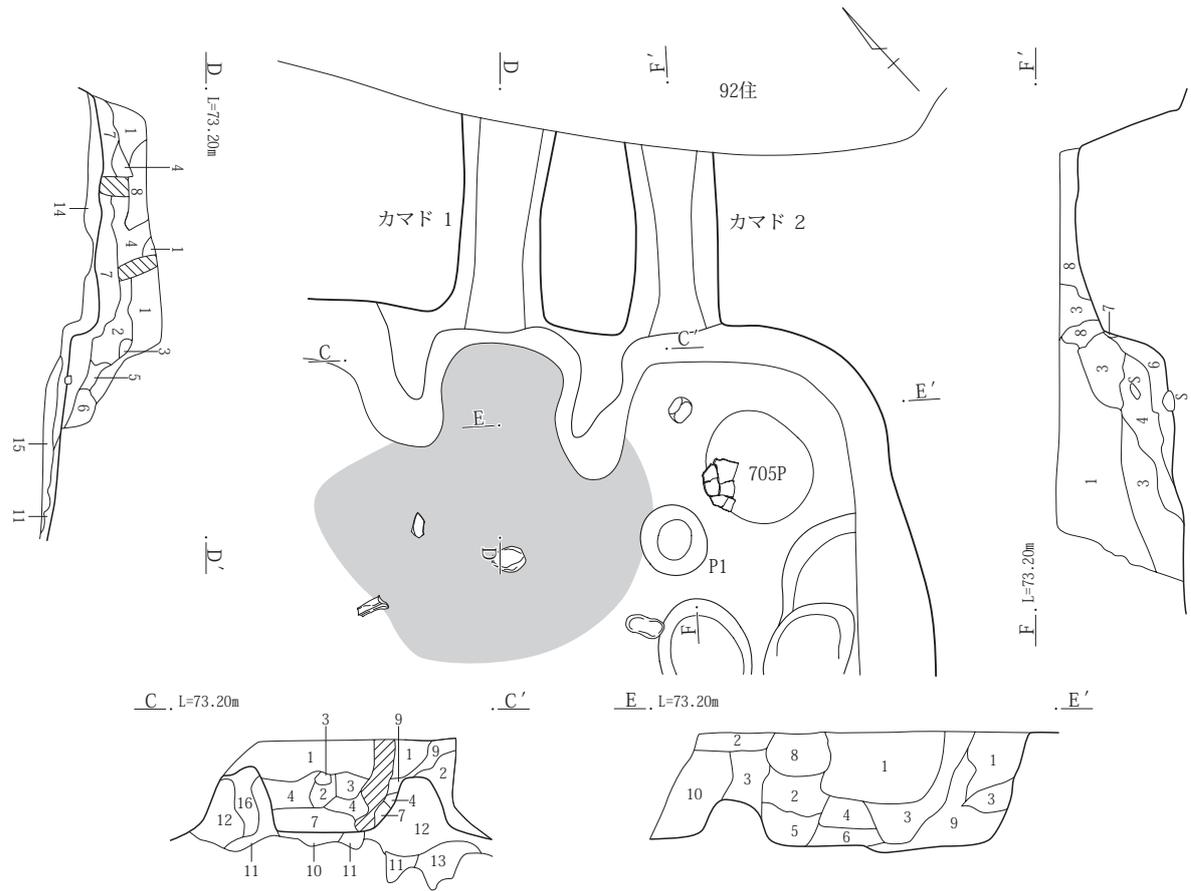
残存壁高44～51cm

埋没土 黒褐色土と暗褐色土が交互に埋まり、ロームブロックも目立つことから、人為的に埋められた可能性が高い。

カマド1 北辺の南半部に2基が並び、西側のカマド1が新しい。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部から煙道部まで顕著に焼土化する。両袖ともやや残り、黄褐色土を主体として構築する。全体規模は長さ(142)cm幅125cm、燃烧部は長さ55cm、袖焚口幅70cmで、確認面からの深さは36cmである。煙道部は長さ(85)cm最大幅37cm深さ24cmである。掘り方の深さは燃烧部で5cm程度である。

カマド2 燃烧部は壊され、煙道部しか残存しない。やや焼土化する。煙道部は長さ75cm最大幅34

第490図 2区79号住居



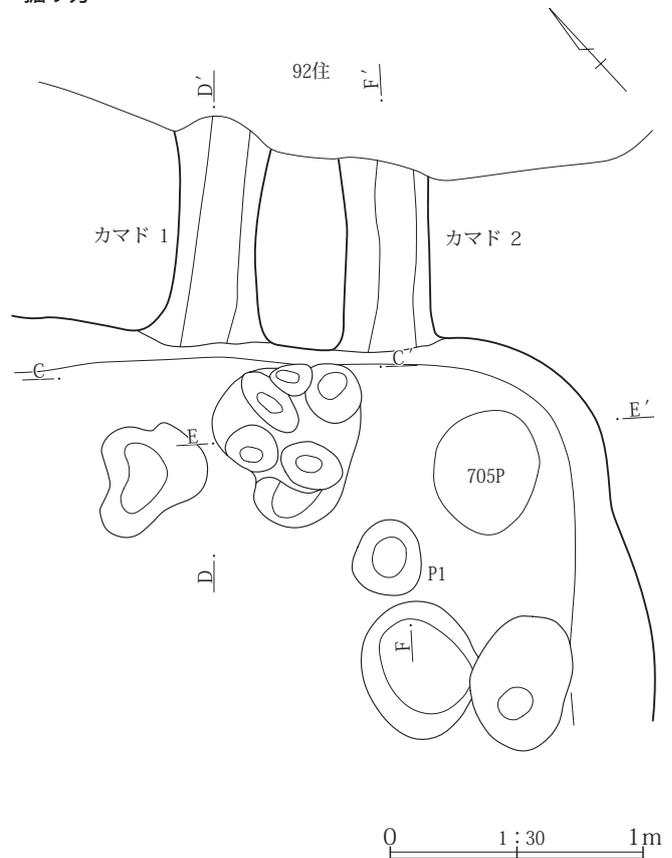
カマド 1

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 しまり弱く粘性あり。焼土ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 ロームブロック
- 4 焼土化したロームブロック
- 5 ロームブロック 焼土小ブロック・暗褐色土ブロック含む。天井崩落土。
- 6 ロームブロック 天井崩落土。
- 7 焼土化したロームブロック 灰色灰ブロック含む。天井崩落土。
- 8 暗褐色土 焼土小ブロック多量に含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム小ブロック多量に含む。
- 10 灰色灰 しまり弱い。焼土小ブロック少量に含む。
- 11 焼土ブロック 灰色灰多量に含む。
- 12 黄褐色土
- 13 黄褐色土 しまりやや粘性強い。暗褐色土ごく多量に含む。
- 14 焼土
- 15 黄褐色土+焼土ブロック 堅くしまりやや粘性弱い。縞状構造。
- 16 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。

カマド 2

- 1 褐色土 しまりやや粘性強い。暗褐色土ごく多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 5 褐色土+暗褐色土 しまりやや粘性あり。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性強い。黒色灰小ブロック少量に含む。
- 7 焼土
- 8 褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土ブロック多量に含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。一部焼土化したロームブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。

掘り方



第491図 2区79号住居カマド

cm深さ9cmである。

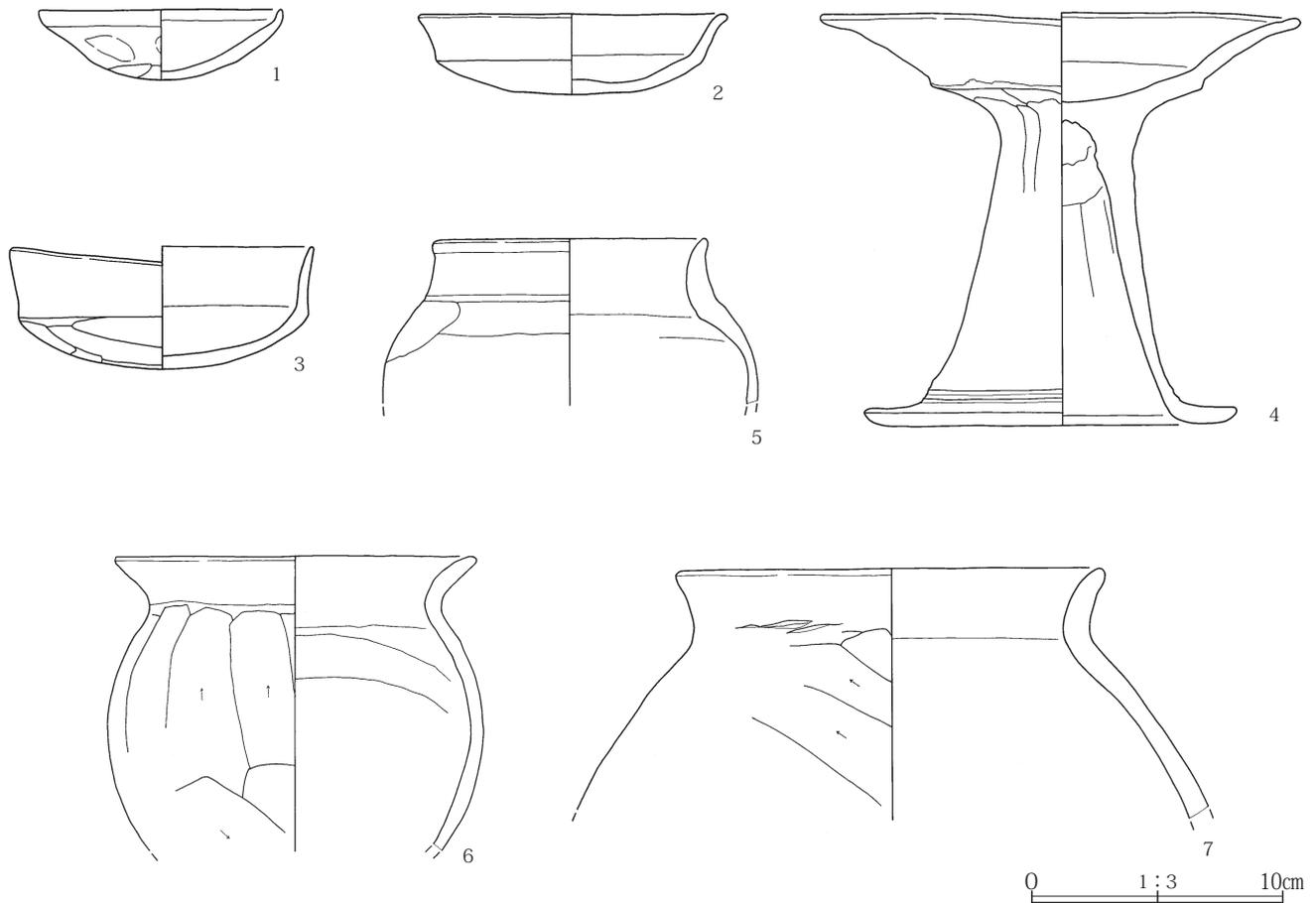
貯蔵穴 未検出。

柱穴 四隅の対角線上に支柱穴4基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:29・25・17、P2:37・32・19、P3:25・22・18、P4:28・25・23

床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

遺物 全体に菟編石とみられる円礫が多く出土する。床面ではカマド左脇から北西隅で土師器杯(1・2)、南西部で4の土師器高杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1550g・同小型品610gが出土している。カマド掘り方で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、ブドウ属種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。



第492図 2区79号住居出土遺物

80～82・85号住居(第493・494図、P.L.200・201・317)

80号住居 位置 96S-9・10

重複 81・82号住居より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-39°-W

規模 面積1.58㎡ 長軸2.40m、短軸(1.27)m 残存壁高7～11cm

埋没土 残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床・掘り方 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認

められない。

遺物 遺物は出土していない。

時期 重複関係から古墳時代以前に比定される。

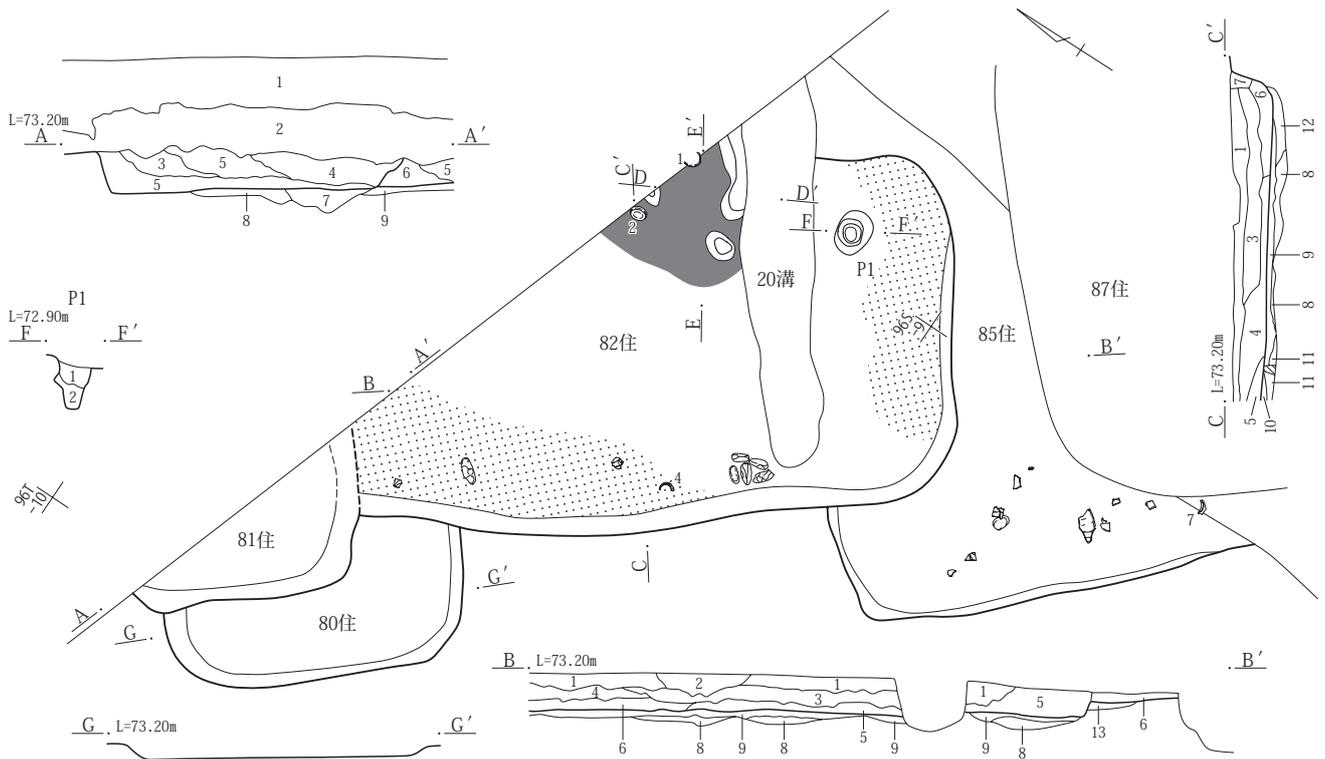
81号住居 位置 96S-9・10

重複 80・82号住居より後出。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-41°-W

規模 面積0.82㎡ 長軸(1.87)m、短軸(1.30)m 残存壁高30cm

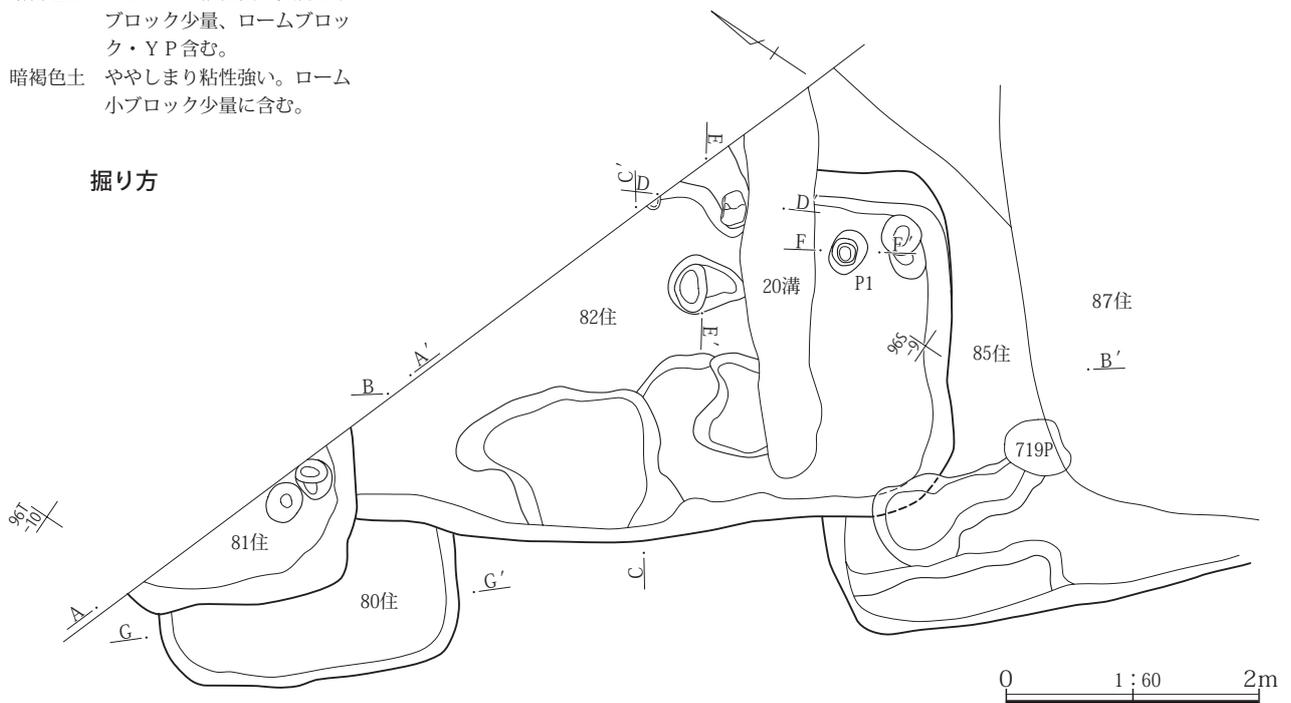


- | | |
|--|---|
| <p>1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子含む。</p> <p>2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック含む。</p> <p>3 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック微量、焼土粒子・炭化物粒子含む。</p> <p>4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、炭化物粒子少量、焼土粒子含む。</p> <p>5 暗褐色土 しまり粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。</p> | <p>6 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。</p> <p>7 ロームブロック</p> <p>8 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。</p> <p>9 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック多量、焼土小ブロック・炭化物片含む。</p> <p>10 暗褐色土 層状に堅くしまる。炭化物粒子やや多量、焼土粒子含む。</p> <p>11 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック少量に含む。</p> <p>12 暗褐色土 しまりやや粘性強い。炭化物粒子やや多量、焼土粒子含む。</p> <p>13 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。</p> |
|--|---|

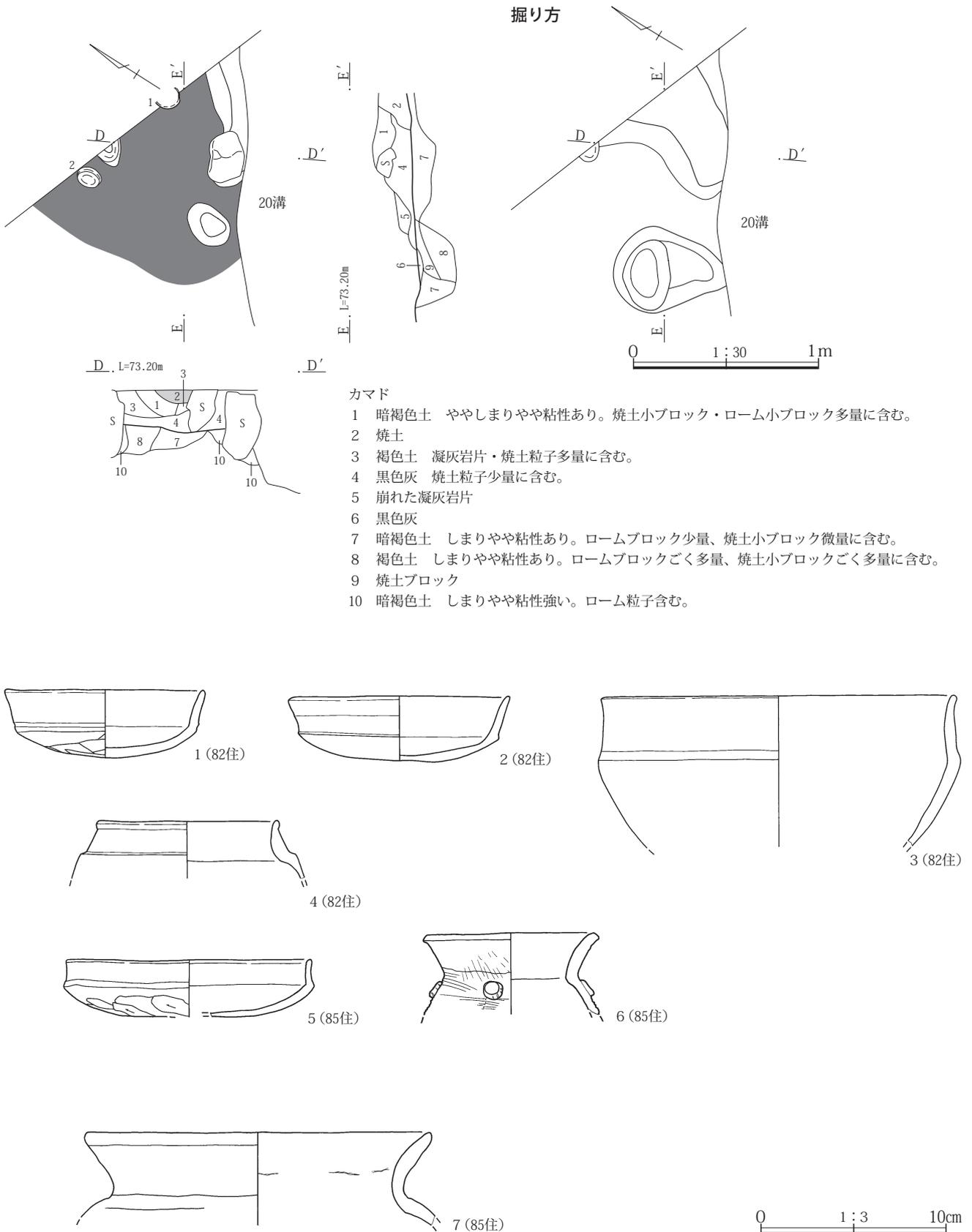
82住ピット1

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック少量、ロームブロック・YP含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。

掘り方



第493図 2区80～82・85号住居



第494図 2区80～82・85号住居カマドと出土遺物

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

掘り方 浅く掘り込み凸凹する。

遺物 遺物の出土は少ない。S字甕1片を含む土師器大型品2片が出土している。

時期 出土遺物と重複関係から古墳時代に比定される。

82号住居 位置 96R・S-8・9

重複 80・85号住居より後出で、81号住居、20号溝より前出。

形態 長方形。 主軸方位 N-34°-W

規模 面積9.23㎡ 長軸(4.70)m、短軸2.97m 残存壁高29～35cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 北辺に設ける。燃焼部を住居内に持つ。奥壁は顕著に焼ける。左袖は大部分が調査区域外となる。右袖はやや残り、未固結凝灰岩を芯として構築する。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 南東隅近くで1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1:35・26・49

床 南壁際、北西壁近くで硬化面を確認した。

掘り方 全体に10cm程度掘り込み凸凹する。

遺物 カマドにやや集中するが概して少ない。カマドでは土師器杯(1・2)、西壁際床面で4の土師器鉢、菰編石が5点程度集中して出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1950g・同小型品780g、須恵器小型品3片が出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、マメ科種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から6世紀末～7世紀前半に比定される。

85号住居 位置 96R・S-8・9

重複 82・84号住居より前出で、719号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-45°-E

規模 面積4.45㎡ 長軸(4.95)m、短軸(3.30)m 残存壁高4～19cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土9は堅くしまる。

掘り方 南西部をやや深く掘り込む。

遺物 南壁近くに集中し、床面で7の土師器甕が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1035g・同小型品155gが出土している。

時期 出土遺物から6世紀末から7世紀前半に比定される。

86号住居(第495図、P.L.201)

位置 96Q・R-7・8 **重複** 87号住居、109号土坑より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-45°-E

規模 面積3.32㎡ 長軸2.60m、短軸(1.84)m 残存壁高9～15cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 中央部から南東部にかけて硬化面を確認した。

掘り方 全体に10cm程度掘り下げ凸凹する。

遺物 床面で出土した遺物はない。埋没土から土師器杯(1・2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1220g・同小型品340g、須恵器小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀代に比定される。

87・88号住居(第496～499図、P.L.202・203・318)

87号住居 位置 96Q～S-7～9

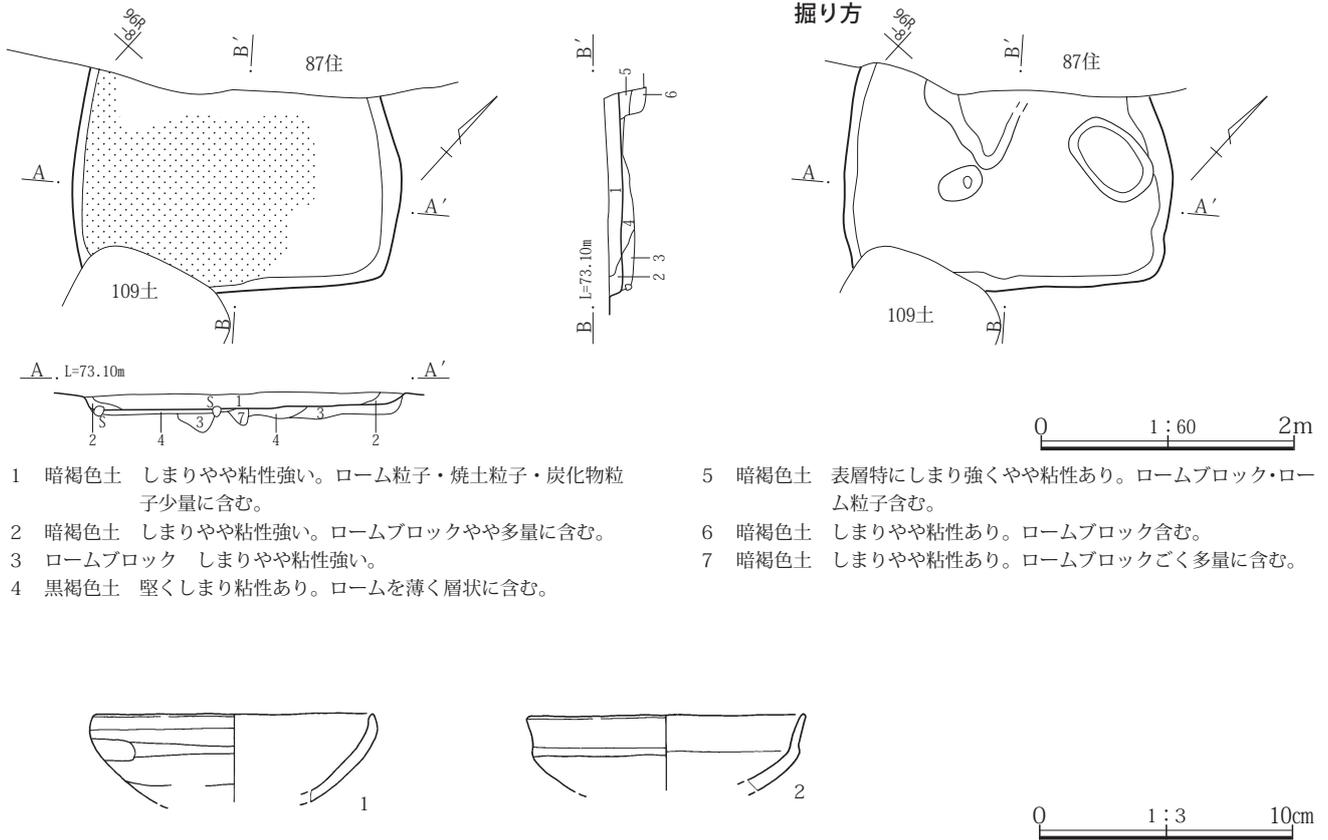
重複 85・86号住居より後出で、88号住居跡、15号溝より前出。

形態 長方形。 主軸方位 N-54°-E

規模 面積37.15㎡ 長軸6.95m、短軸6.59m 残存壁高18～28cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 北東辺の中央に設ける。燃焼部を住居の壁面付近に持つ。両袖は暗褐色土を主体に構築し、右袖焚き口は土師器甕を倒置する。全体規模は長さ95cm幅156cm、袖焚口幅64cmで、確認面からの深さは32cmである。掘り方の深さは燃焼部で20cm程度である。



- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロックやや多量を含む。
- 3 ロームブロック しまりやや粘性強い。
- 4 黒褐色土 堅くしまり粘性あり。ロームを薄く層状に含む。
- 5 暗褐色土 表層特にしまり強くやや粘性あり。ロームブロック・ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量を含む。

第495図 2区86号住居と出土遺物

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土15は堅くしまる。

掘り方 南東隅を楕円形に、そこから溝状に西壁方向に掘り込む。全体として20cm程度掘り込み凸凹する。

遺物 カマドとその前面に集中する。床面ではカマド前面で7の土師器甕、右側で須恵器蓋(3・4)、南壁際で1の土師器杯が出土する。また、埋没土から鉄製の鉸具が出土したのは特筆される。掲載遺物のほか土師器大型品4290g・同小型品1405g、須恵器大型品4片・同小型品3片が出土している。カマド掘り方で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

備考 調査段階の84号住居と合成して1軒とした。

88号住居 位置 96Q・R-7・8

重複 87号住居より後出で、15号溝より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

主軸方位 N-88°-E

規模 面積1.14㎡ 長軸(3.20)m、短軸(1.43)m 残存壁高18cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

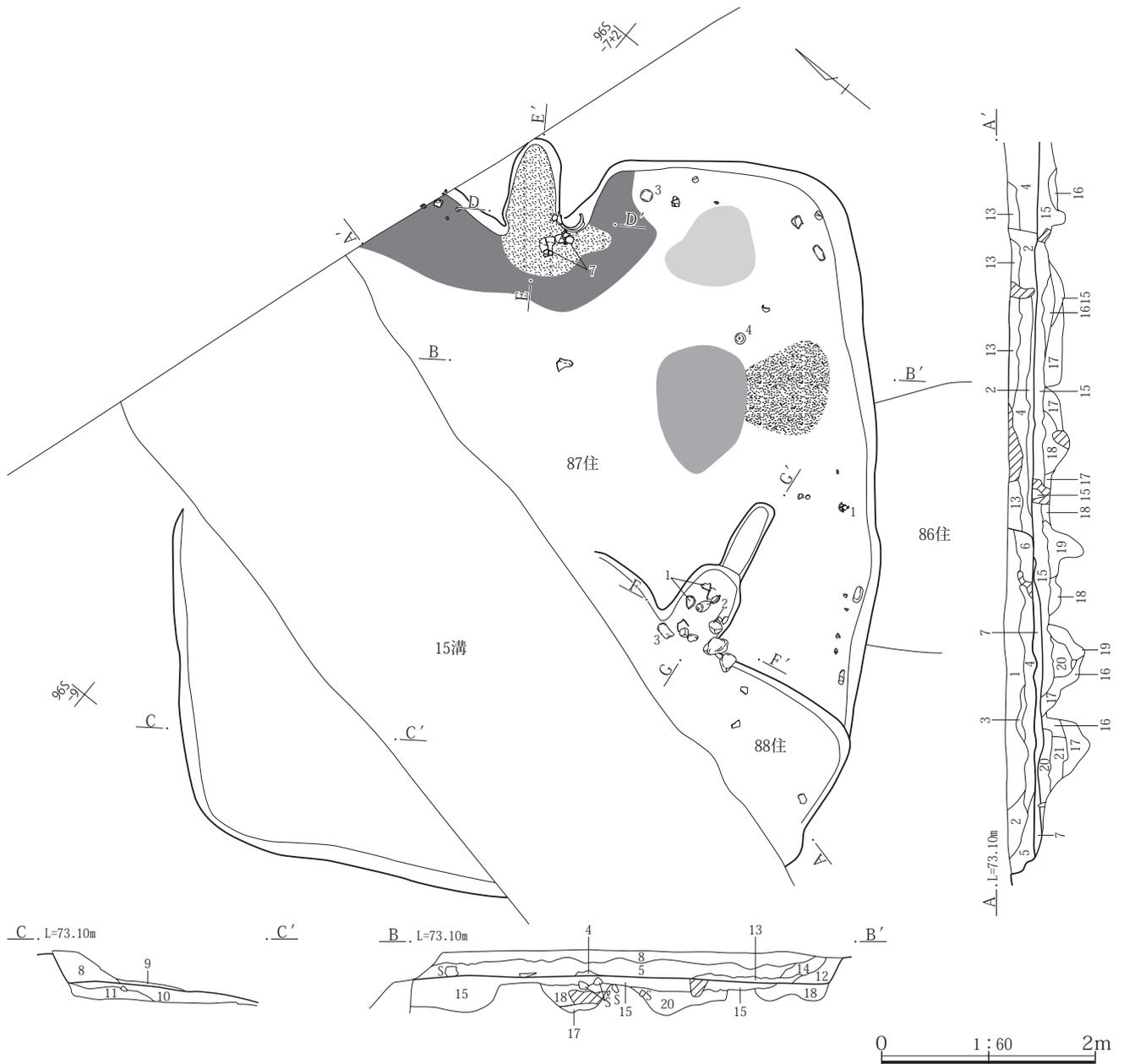
カマド 東辺に設ける。燃烧部を住居外に持つ。燃烧部底面はやや焼土化し、中央左寄りに支脚として棒状円礫が倒置される。壁面は強く焼土化する。左袖には未固結凝灰岩、右袖には棒状円礫が埋め込まれる。全体規模は長さ150cm幅86cm、燃烧部は長さ80cm、袖焚口幅55cmで、確認面からの深さは18cmである。煙道部は長さ70cm最大幅27cm深さ10cmである。掘り方の深さは燃烧部で5cm程度である。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

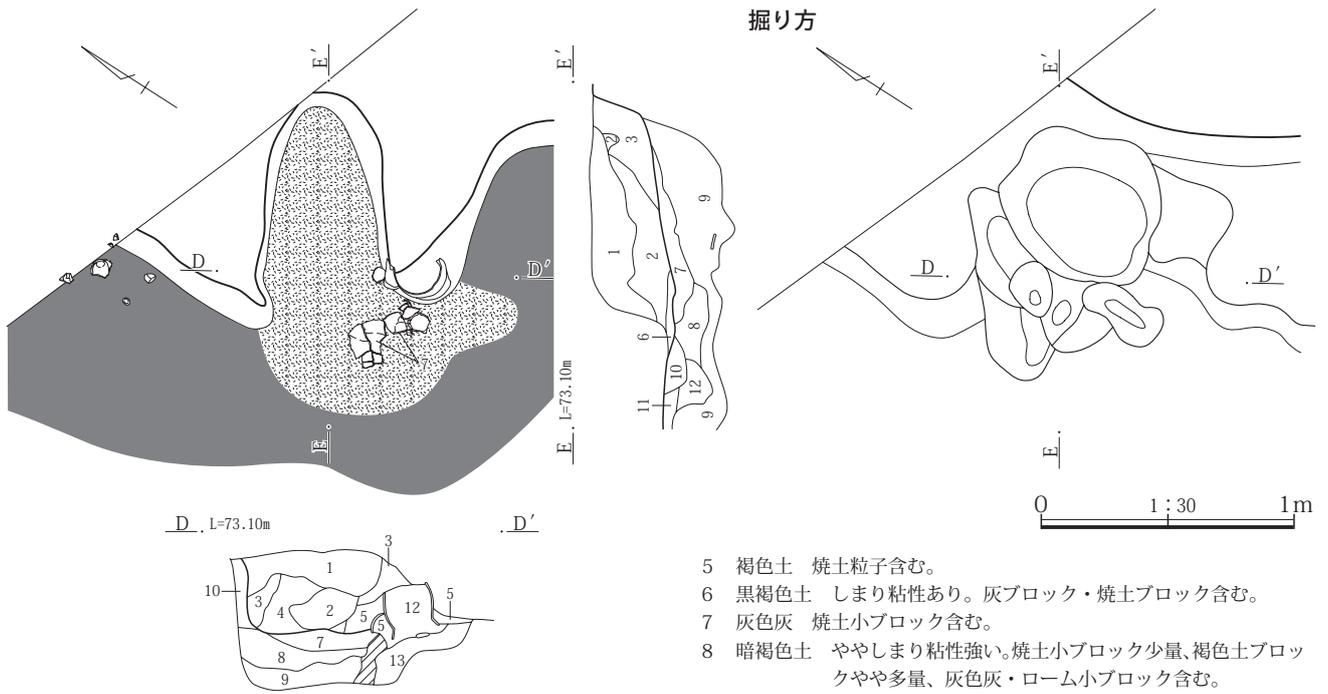
掘り方 南西隅近くで土坑状に20cm程度掘り込み、全体に凸凹する。

遺物 カマドに遺物は集中する。燃烧面で土師器鉢か



- | | |
|---|--|
| <p>1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子・白色軽石粒子(F P含む)やや多量に含む。</p> <p>2 暗褐色土 白色軽石粒子(F P含む)少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。</p> <p>3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。黑色灰・炭化物を帯状に含む。</p> <p>4 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子やや多量、白色軽石粒子(F P含む)含む。</p> <p>5 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子やや多量に含む。</p> <p>6 褐色土 しまりやや粘性強い。白色軽石粒子少量、ローム粒子・焼土粒子少量に含む。</p> <p>7 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子・ローム小ブロック含む。</p> <p>8 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子含む。</p> <p>9 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。</p> | <p>10 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土小ブロック少量に含む。</p> <p>11 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量、焼土小ブロック少量、炭化物粒子含む。</p> <p>12 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。</p> <p>13 暗褐色土 焼土粒子微量に含む。</p> <p>14 暗褐色土 ローム粒子・白色軽石粒子(F P含む)含む。</p> <p>15 褐色土 堅くしまり粘性強い。ロームブロック多量に含む。</p> <p>16 黄褐色土ブロック</p> <p>17 褐色土 ロームブロック多量、焼土小ブロック含む。</p> <p>18 暗褐色土 ロームブロックやや多量に含む。</p> <p>19 暗褐色土 ロームブロックやや多量、焼土小ブロック含む。</p> <p>20 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量、黑色灰ブロック・焼土粒子含む。</p> <p>21 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、焼土粒子、灰~黑色灰含む。縞状構造。</p> |
|---|--|

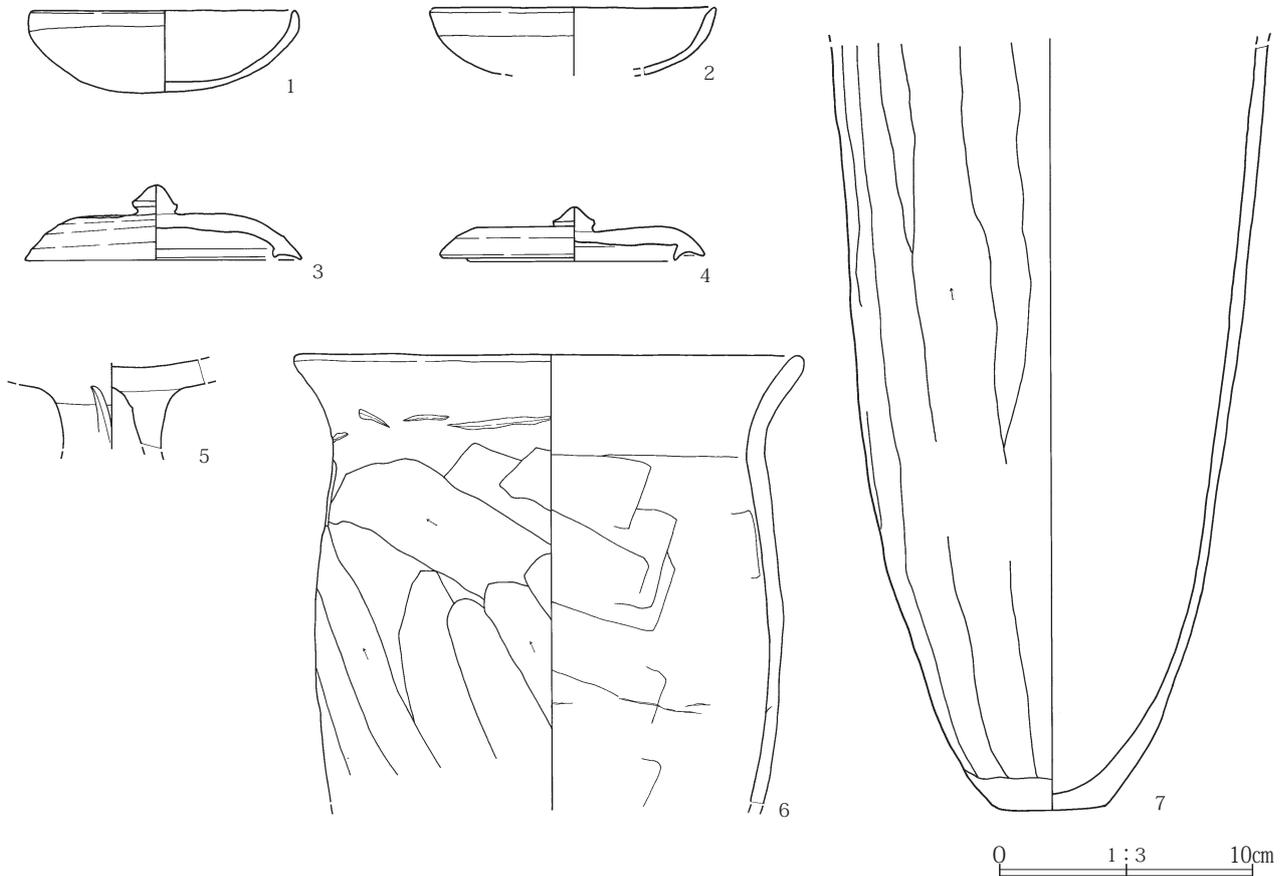
第496図 2区87・88号住居



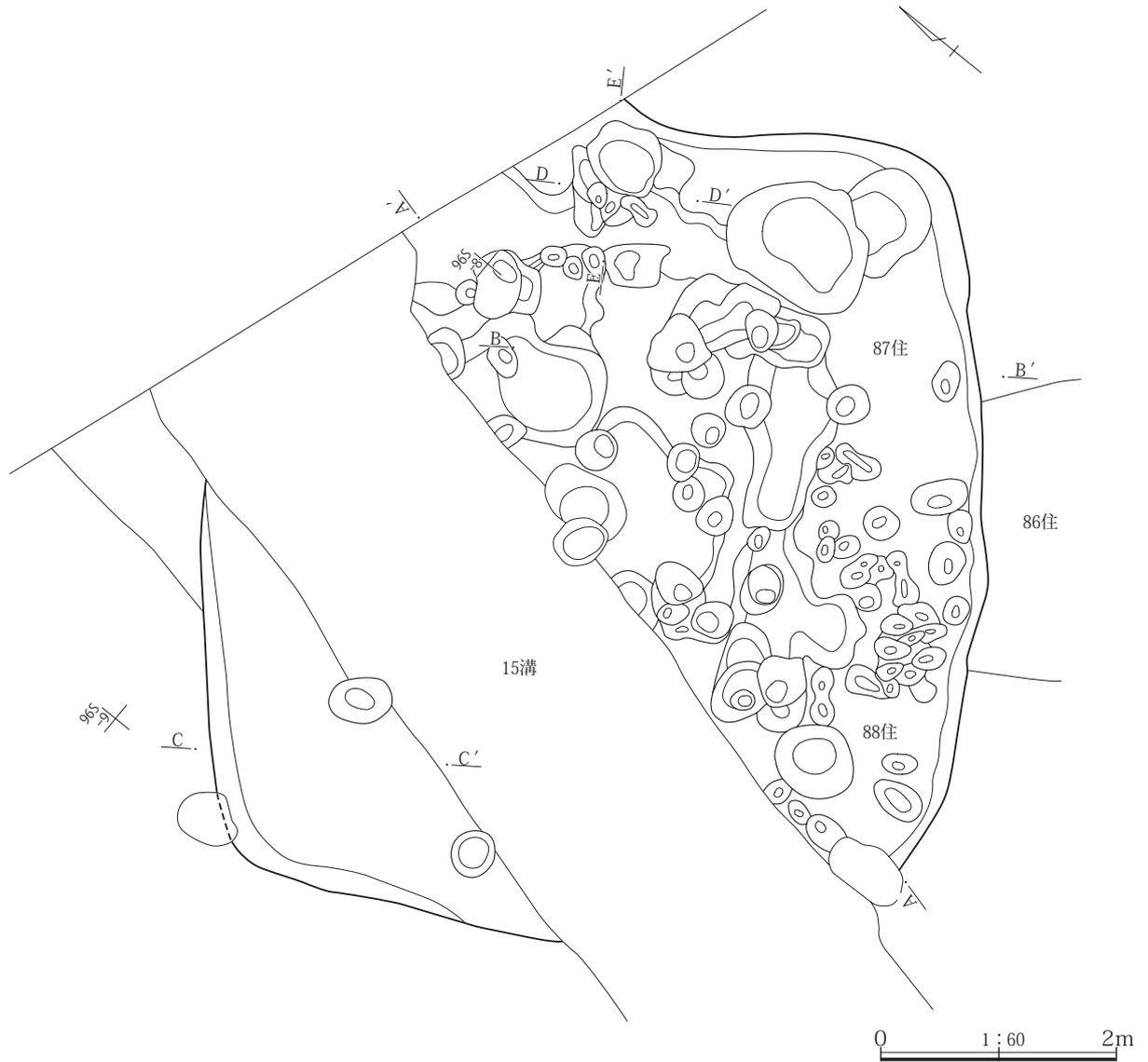
カマド

- 1 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 3 褐色土 堅くしまる。焼土粒子やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子・ローム粒子やや多量に含む。

- 5 褐色土 焼土粒子含む。
- 6 黒褐色土 しまり粘性あり。灰ブロック・焼土ブロック含む。
- 7 灰色灰 焼土小ブロック含む。
- 8 暗褐色土 ややしまり粘性強い。焼土小ブロック少量、褐色土ブロックやや多量、灰色灰・ローム小ブロック含む。
- 9 褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。焼土小ブロック・焼土粒子・灰色灰ブロック多量に含む。
- 10 黒褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子含む。
- 11 焼土ブロック
- 12 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック含む。
- 13 黄褐色土ブロック 焼土粒子・炭化物粒子含む。



第497図 2区87号住居カマドと出土遺物(1)



(1)、同広口壺(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1220g・同小型品440g、須恵器大型品2片・同小型品2片が出土している。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子と判明した。

時期 出土遺物は類例が少なく、流動的ながら10世紀後半から11世紀前半に比定される。

89号住居(第500・501図、P L.203・204・318・319)

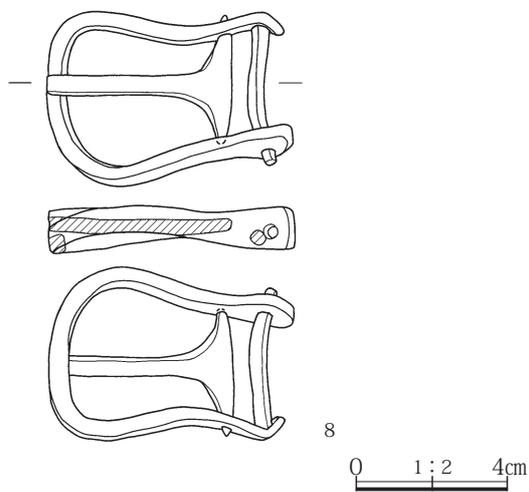
位置 96Q・R-8 重複 16号溝より前出。

形態 長方形。主軸方位 N-70°-E

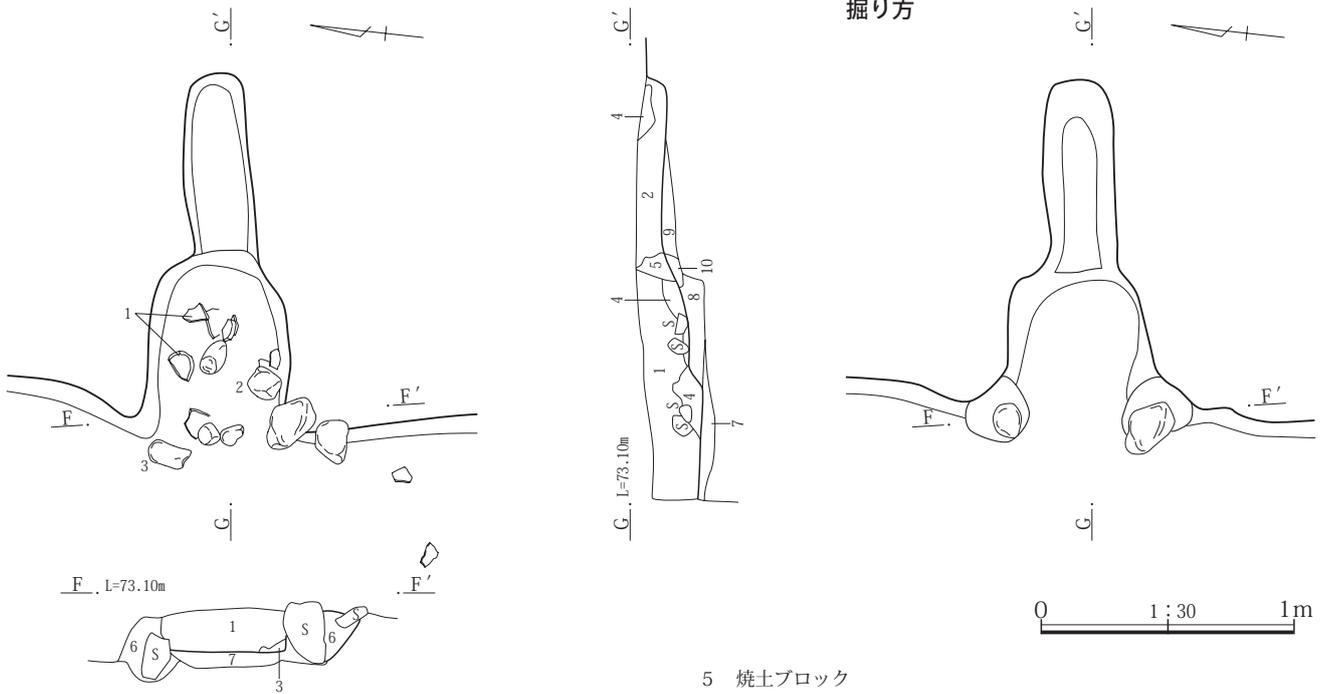
規模 面積6.31㎡ 長軸4.10m、短軸2.75m 残存壁高20~37cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 南西隅近くに設ける。燃焼部を住居の壁面付近



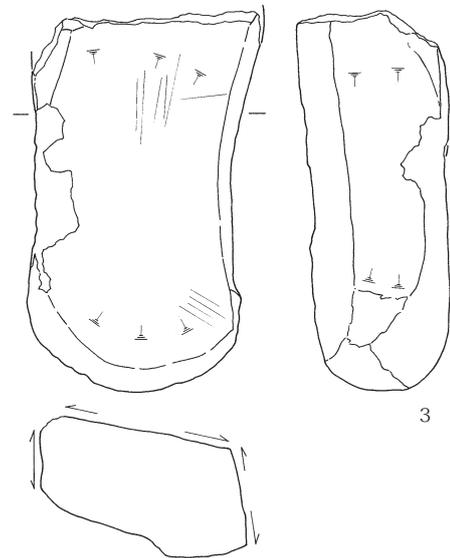
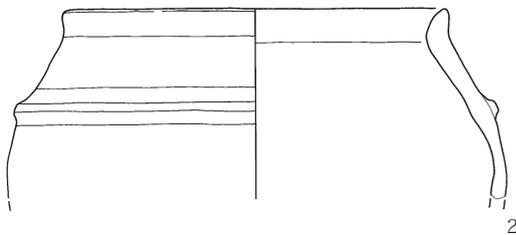
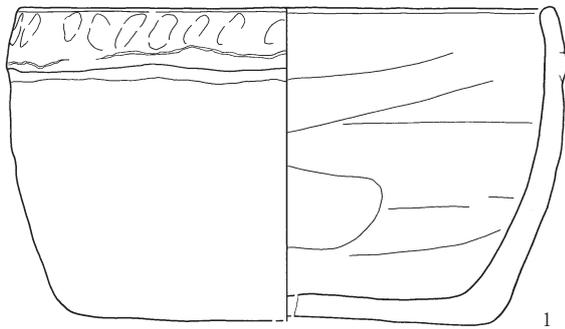
第498図 2区87号住居と出土遺物(2)



カマド

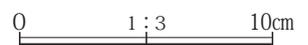
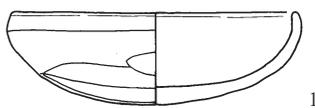
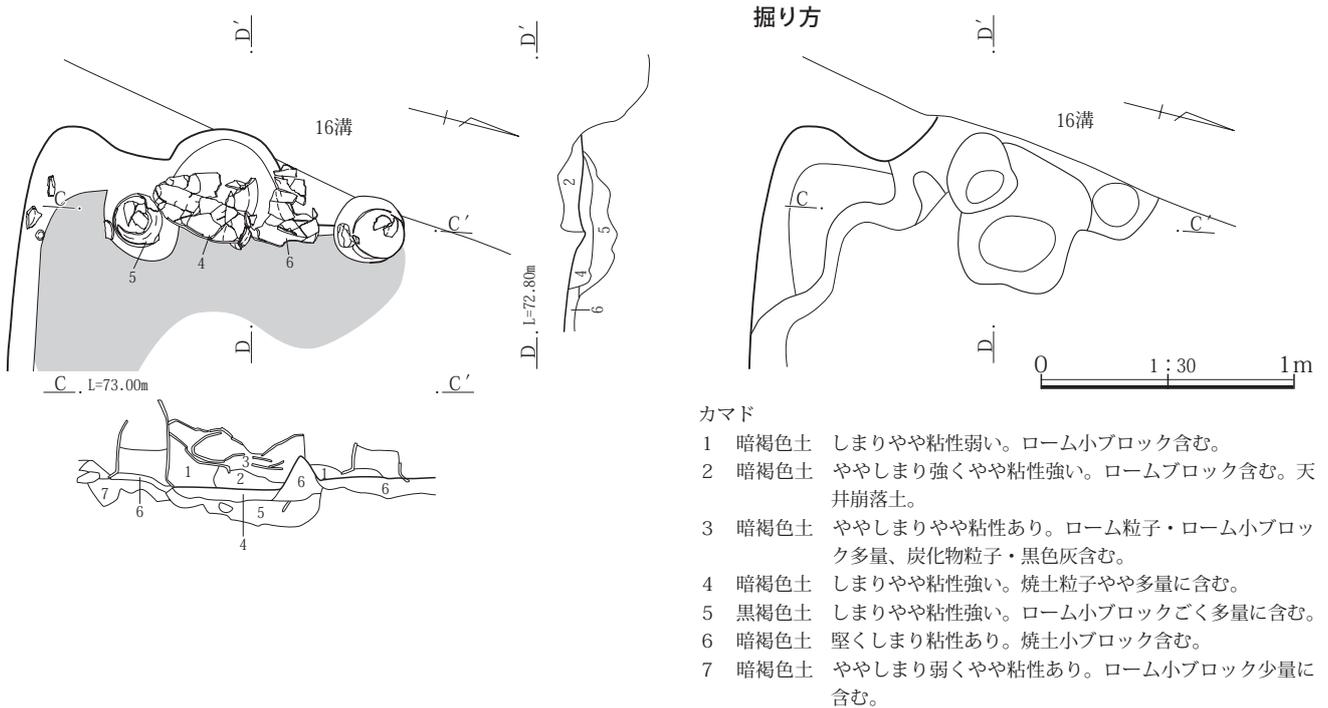
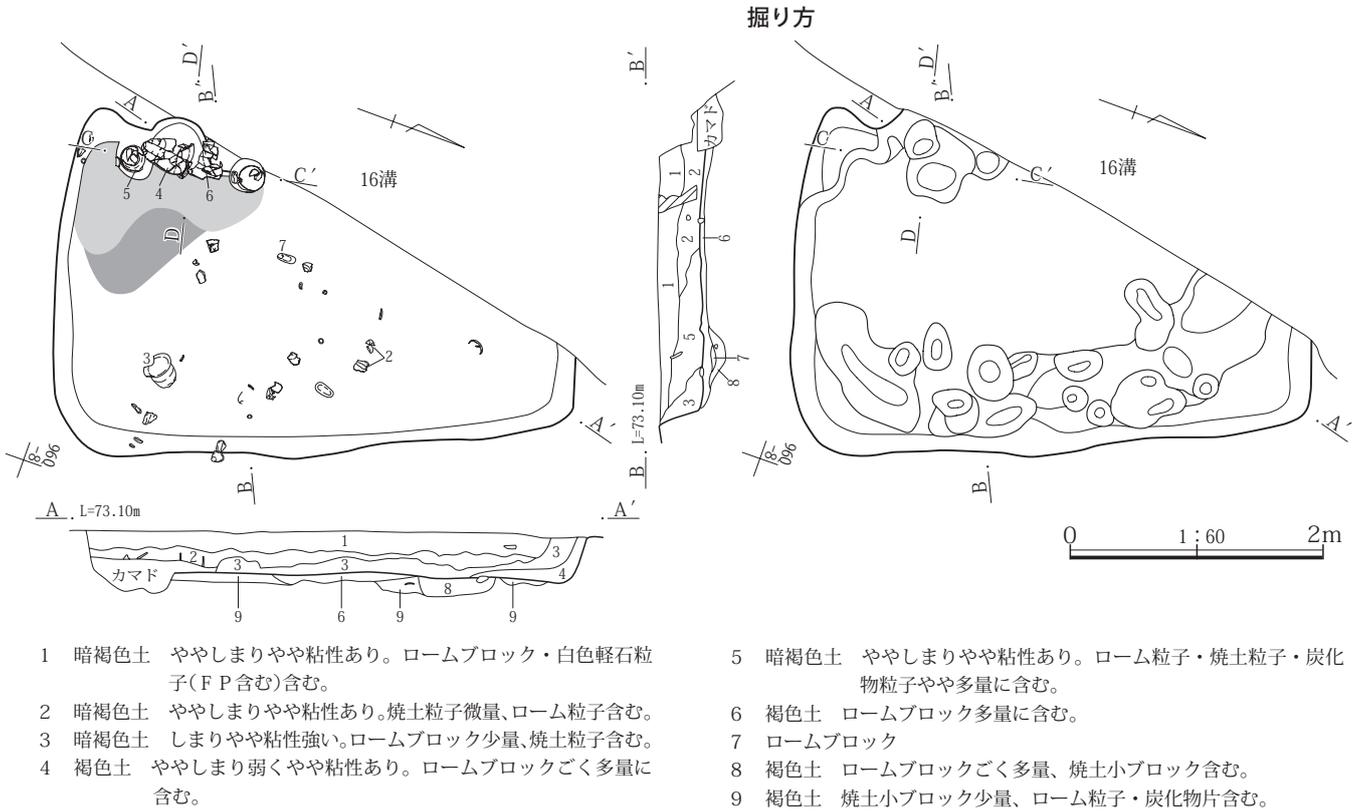
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱く粘性あり。焼土ブロック多量に含む。

- 5 焼土ブロック
- 6 暗褐色土
- 7 暗褐色土 しまる。焼土小ブロック含む。
- 8 暗褐色土 しまる。焼土小ブロック多量、焼土粒子やや多量に含む。
- 9 暗褐色土 しまる。焼土小ブロックやや多量に含む。
- 10 焼土ブロック

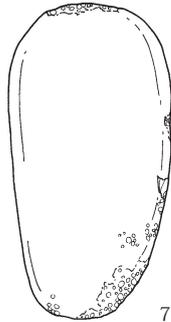
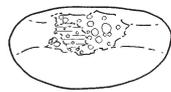
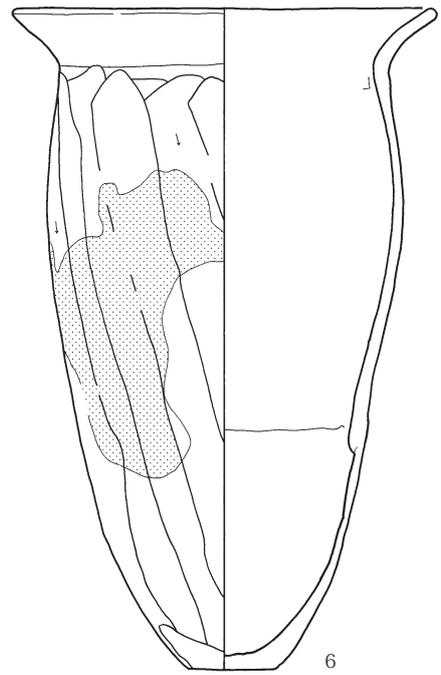
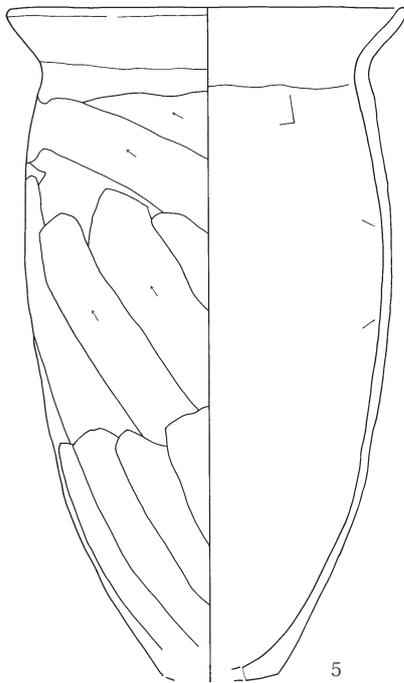
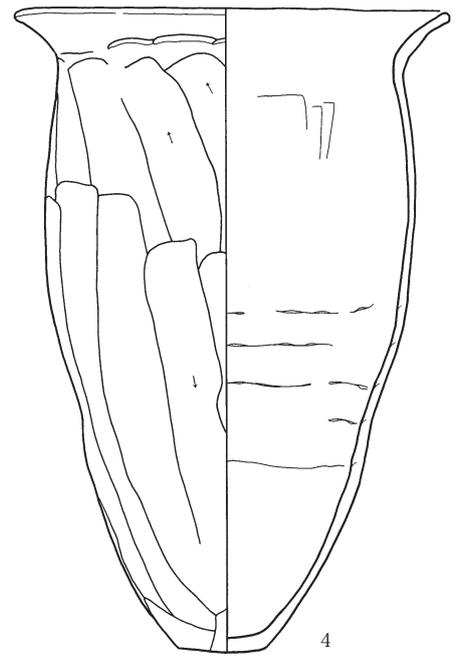
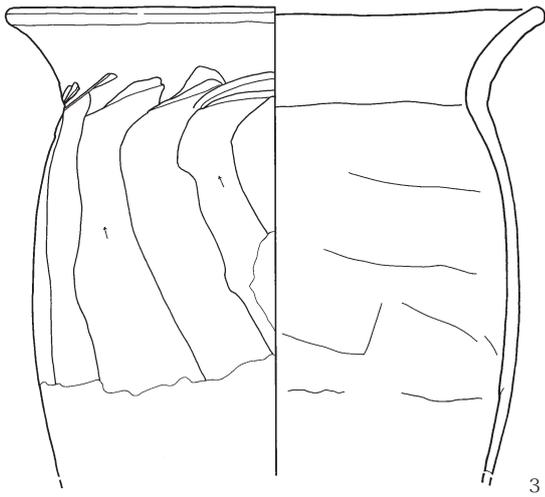


0 1:3 10cm

第499図 2区88号住居カマドと出土遺物



第500図 2区89号住居と出土遺物(1)



0 1:3 10cm

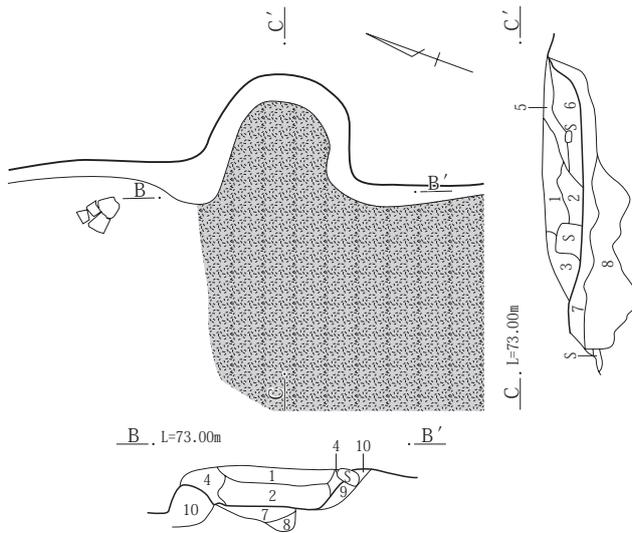
第501図 2区89号住居出土遺物(2)

に持つ。やや焼土化する。焚き口の両側に土師器甕が倒置され、その上に土師器甕2個体が渡されていたとみられる。全体規模は長さは55cm幅120cm、袖焚口幅61cmで、確認面からの深さは22cmである。掘り方の深さは燃焼部で10cm程度である。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

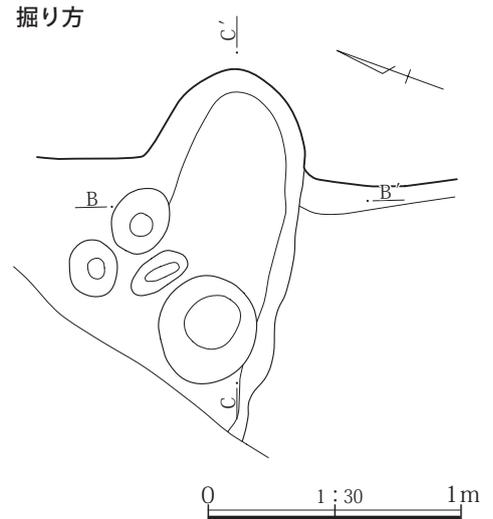
床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 中央部を方形に掘り残し気味に、壁寄りを10cm程度掘り込む。



遺物 カマドの構築材も含めて、土師器甕(4~6)がまとまって出土する。床面では南東部で3の土師器甕も出土している。掲載遺物のほか土師器大型品3440g・同小型品1260g、須恵器大型品230g・同小型品110gが出土している。土師器甕(3・6)内で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀末~8世紀初めに比定される。

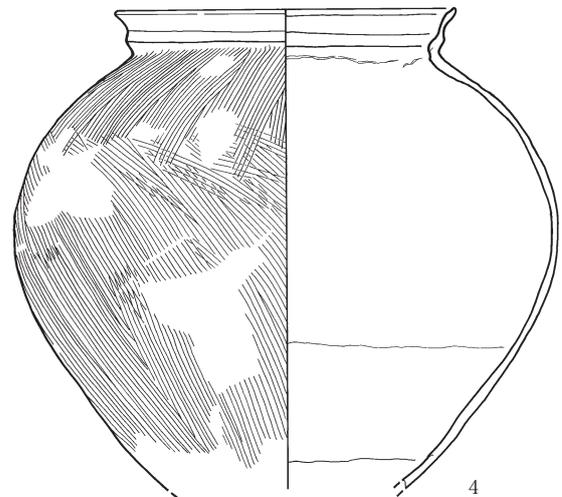
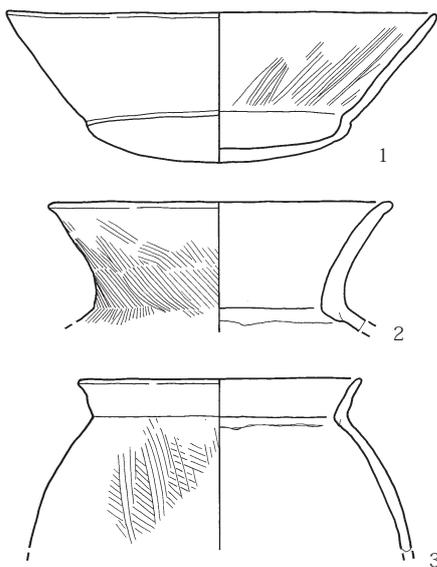


90住カマド

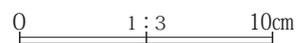
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土ブロック・ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。焼土粒子少量、黒色灰ブロック含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック・凝灰岩粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 5 焼土
- 6 褐色土 しまりやや粘性強い。焼土ブロック・炭化物粒子少量に含む。

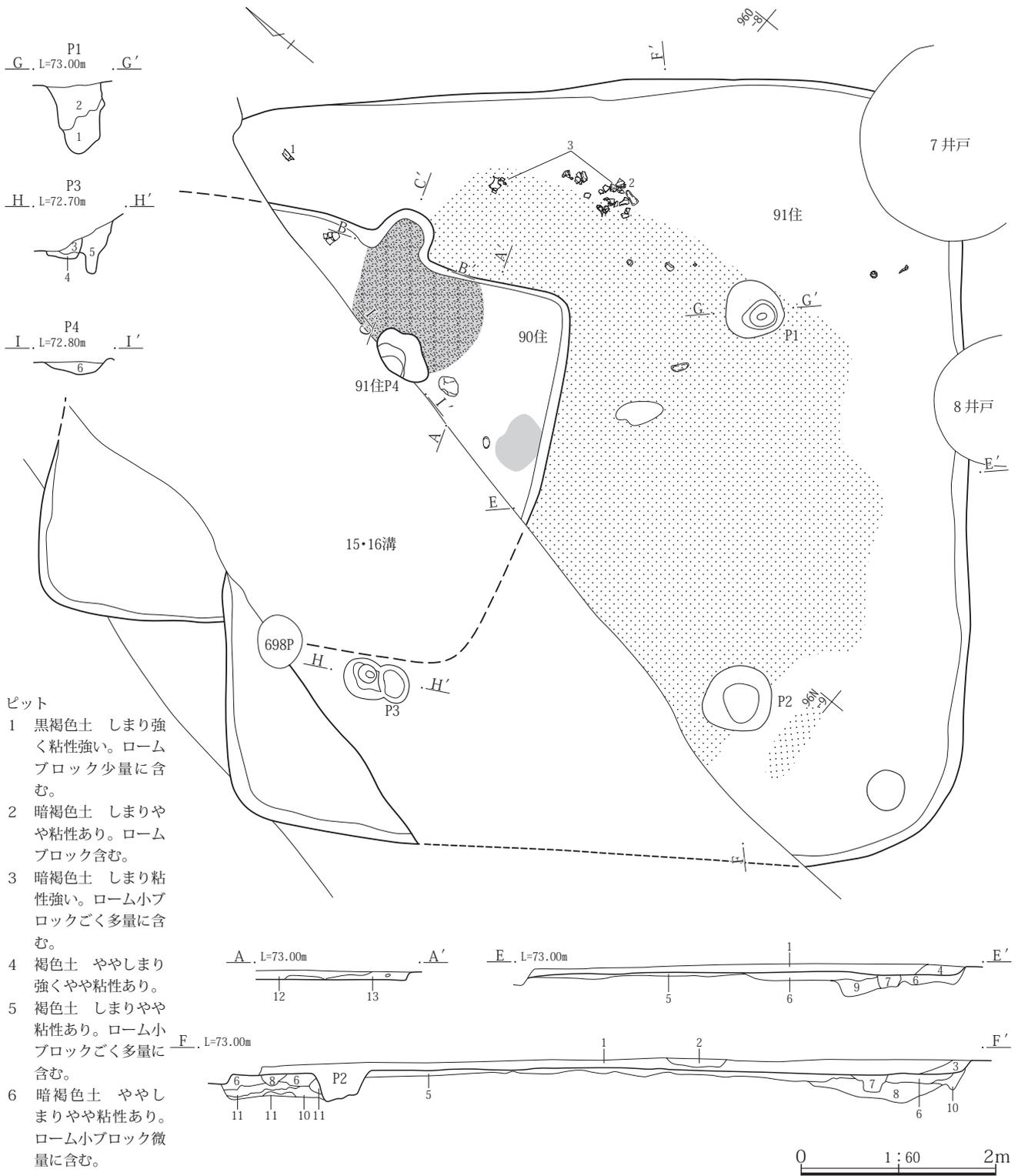
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土ブロック・焼土粒子やや多量、ロームブロック含む。表層に黒色灰あり。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土小ブロック・炭化物粒子やや多量に含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック微量に含む。

第502図 2区90号住居カマド



第503図 2区91号住居出土遺物



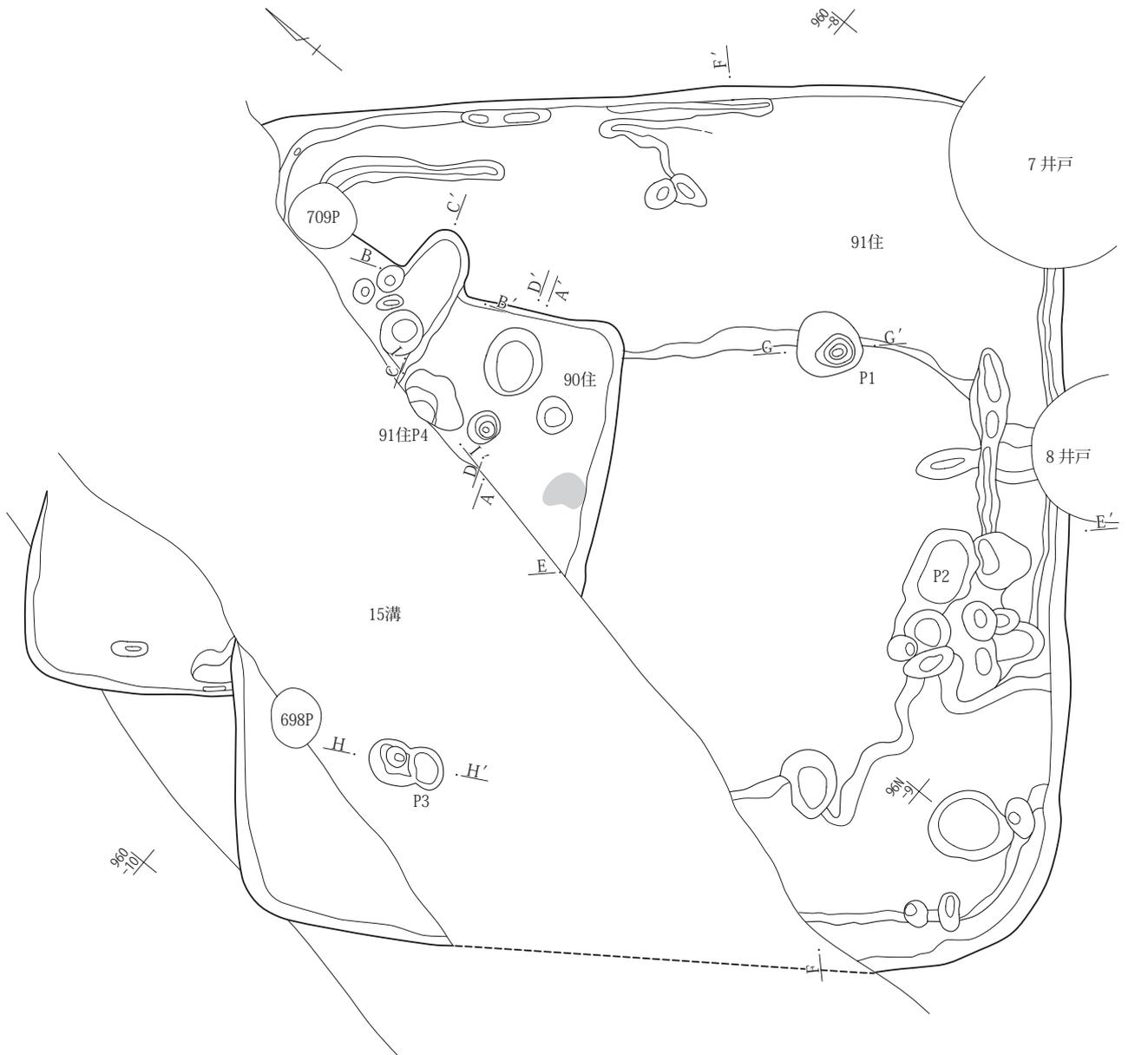


ピット

- 1 黒褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 しまり粘性強い。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 4 褐色土 ややしり強くやや粘性あり。
- 5 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしりやや粘性あり。ローム小ブロック微量に含む。
- 1 暗褐色土 ややしりやや粘性弱い。白色軽石粒子やや多量、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、焼土粒子含む。
- 3 黒褐色土 ややしりやや粘性あり。白色軽石粒子含む。
- 4 褐色土 ややしり強くやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。
- 5 黒褐色土 層状に堅くしまる。白色軽石粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
- 6 黒褐色土 しまる。白色軽石粒子・炭化物粒子・ローム小ブロック含む。
- 7 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子含む。

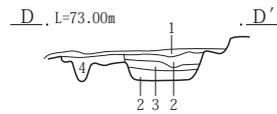
- 8 黒褐色土 ややしり強く粘性強い。白色軽石粒子多量、ロームブロック含む。
- 9 褐色土
- 10 暗褐色土 ややしり弱くやや粘性あり。ロームブロック・黒褐色土ブロックやや多量に含む。
- 11 ロームブロック
- 12 暗褐色土 ややしりやや粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子微量、凝灰岩片含む。
- 13 暗褐色土 ややしり弱くやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。

第504図 2区90・91号住居

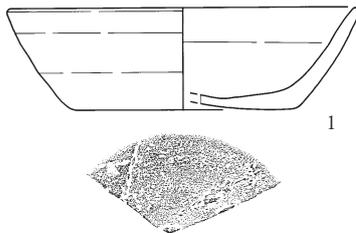


掘り方

- 1 暗褐色土 堅くしまる。床。ローム小ブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子やや多量、炭化物粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。炭化物多量、ローム小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子多量に含む。



0 1:60 2m



1

0 1:3 10cm

第505図 2区90・91号住居掘り方と90号住居出土遺物

90・91号住居(第502～505図、P L .204・319)

90号住居 位置 96N・O-8・9

重複 91号住居より後出で、15・16号溝より前出。709号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 長方形か。主軸方位 N-64°-E

規模 面積(18.88)m² 長軸4.95m、短軸4.54m 残存壁高8～12cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド 東辺の中央南寄りに設ける。燃烧部を住居の壁面付近に持つ。やや焼土化する。両袖ともほとんど残存しないが、前面に未固結凝灰岩が出土し、カマド構築材として使用されていたとみられる。全体規模は長さ53cm幅90cm、確認面からの深さは12cmである。掘り方の深さは燃烧部で20cm程度である。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できず、掘り方も認められない。

遺物 遺物はカマド周辺のみ残存する。掘り方から1の須恵器杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品235g・同小型品50gが出土している。貯蔵穴で出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長6cmのクリの割材と判明した。カマド・貯蔵穴で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から9世紀前半に比定される。

91号住居 位置 96M～O-8・9

重複 90号住居、7・8号井戸、15・16号溝より前出。

形態 ほぼ正方形。主軸方位 N-50°-E

規模 面積42.38m² 長軸8.10m、短軸7.68m 残存壁高4～13cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 四隅の延長線上で主柱穴4基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1:60・55・80、P 2:74・70・35、P 3:68・40・55、P 4:65・43・35

床 中央部から一部東辺に向かって、硬化面を確認した。

掘り方 中央部を方形に掘り残し気味で、壁際を主体に

20cm程度掘り込む。

遺物 北壁際でややまとまって出土するが、床面での出土は北東隅の土師器甕(3)に限られる。掲載遺物のほか土師器大型品600g・同小型品170g、須恵器大型品1片が出土している。

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

92号住居(第506・507図、P L .205・320、第8表)

位置 96Q・R-5・6 重複 79・93～95号住居より後出。

形態 ほぼ正方形か。主軸方位 N-34°-W

規模 面積17.59m² 長軸6.0m、短軸(5.54)m 残存壁高26～38cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土11は強くしまる。

掘り方 中央部および壁際に沿って20cm程度掘り込む。

遺物 南壁際に集中する。床面では須恵器蓋(5)、同杯(7)、同甕(8)、菰編石8点(第8表)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品4910g・同小型品2450g、須恵器大型品270g・同小型品110gが出土している。出土した炭化材は樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長8cmのクワ属の割材と判明した。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子と判明した。

時期 出土遺物から7世紀第4四半期に比定される。

93号住居(第508・509図、P L .205・206)

位置 96Q・R-4・5 重複 92号住居より前出。

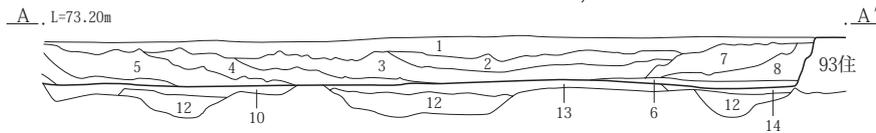
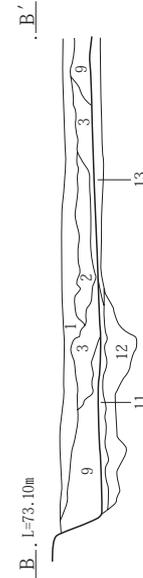
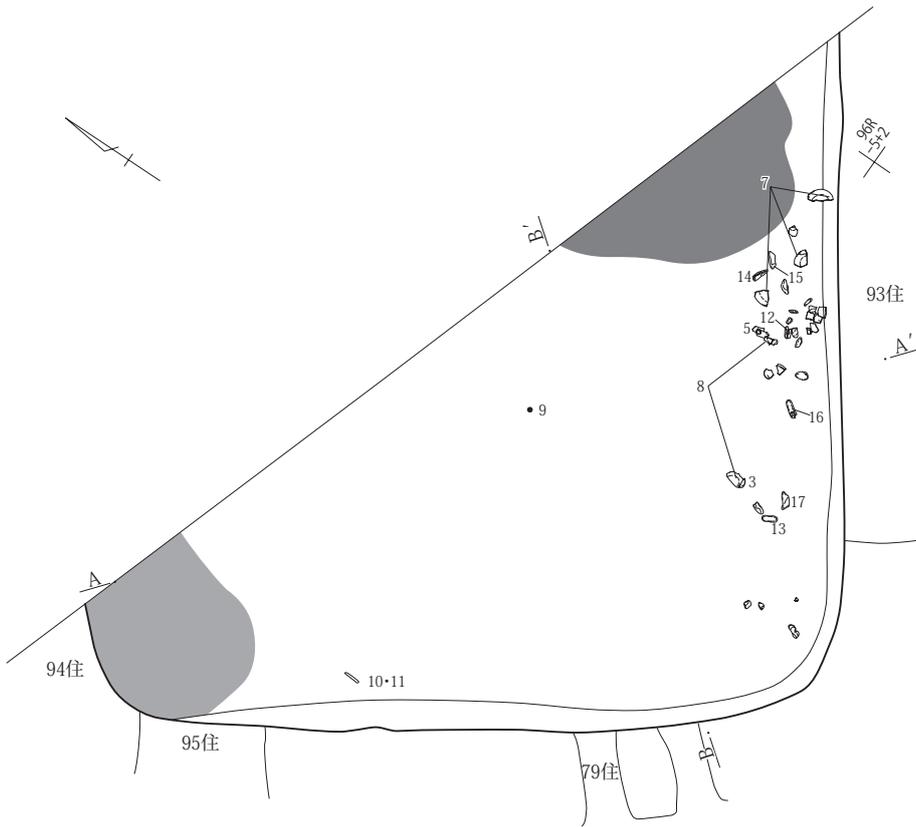
形態 正方形か。主軸方位 N-45°-E

規模 面積12.12m² 長軸4.45m、短軸(3.80)m 残存壁高28～39cm

埋没土 ロームブロックが目立ち、人為埋没の可能性はある。

カマド 東辺に設ける。燃烧部を住居内に持つ。燃烧部から煙道部にかけて焼土化がやや強い。両袖ともやや残存し、右袖は暗褐色土に円礫を混ぜ込んで構築する。全体規模は長さ125cm幅120cm、袖焚口幅65cmで、確認面からの深さは36cmである。掘り方の深さは燃烧部で25cm程度である。

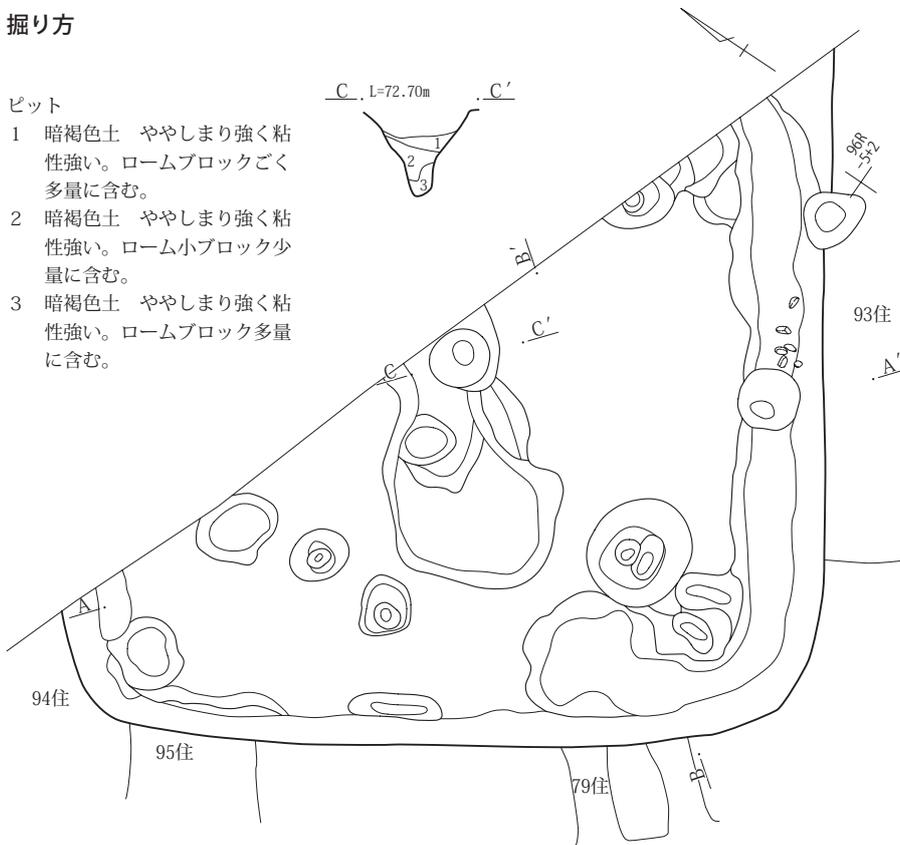
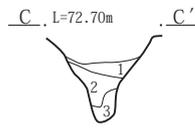
貯蔵穴 カマドの右脇に設ける。平面形は不整形円形。規



掘り方

ピット

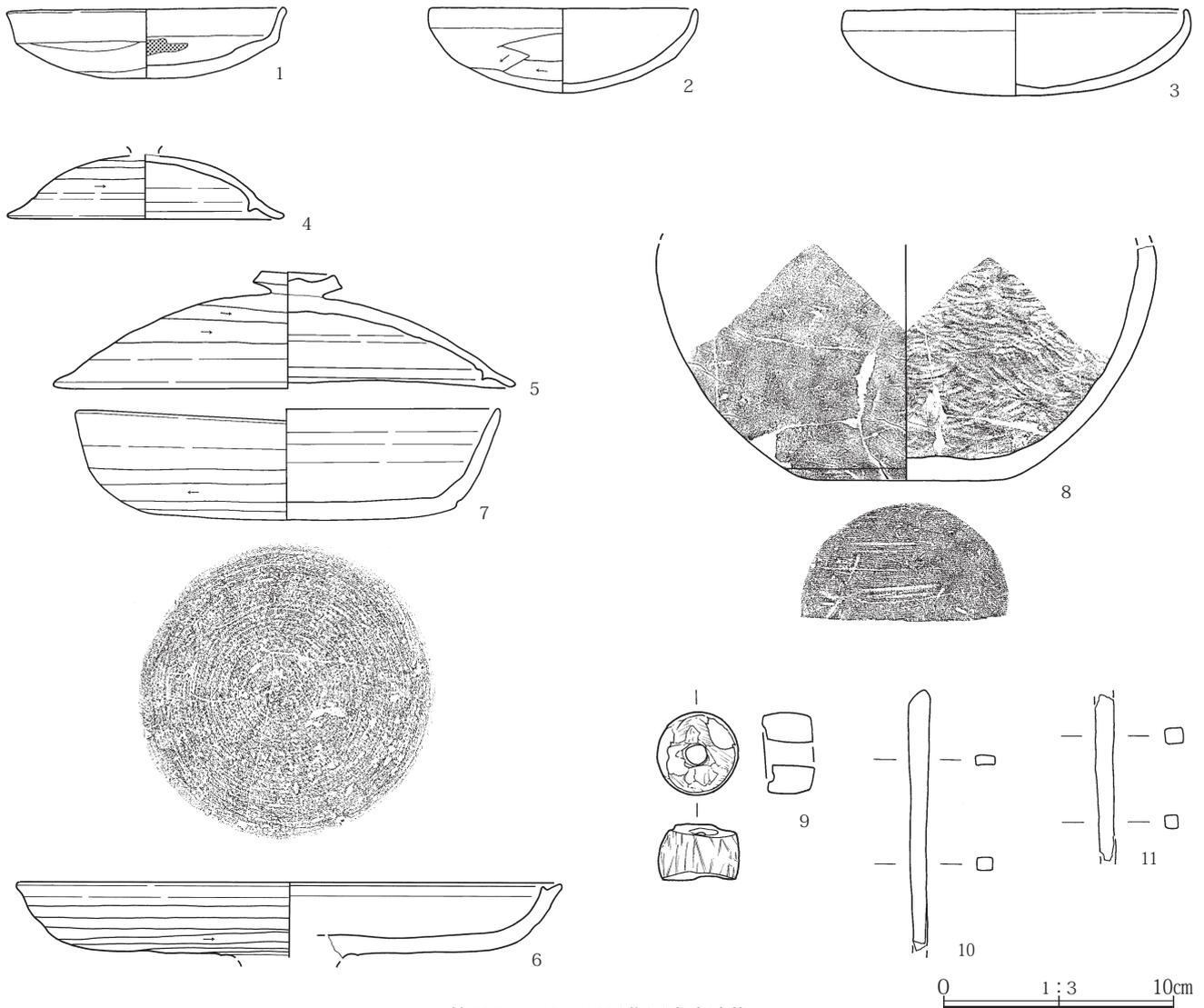
- 1 暗褐色土 ややしまり強く粘性強い。ロームブロックごく多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり強く粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり強く粘性強い。ロームブロック多量に含む。



- 4 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土粒子やや多量、炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子・小礫含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。灰～黒色灰層状に、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・白色軽石含む。
- 9 暗褐色土 ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子やや多量に含む。
- 10 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 11 暗褐色粘質土 堅くしまる。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 12 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、YP・焼土粒子含む。
- 13 暗褐色土 ローム少量、焼土小ブロック含む。



第506図 2区92号住居



第507図 2区92号住居出土遺物

第8表 2区92号住居菰編石計測表

番号	出土位置	石材	幅	長	重量(g)
12	床直	溶結凝灰岩	3.4	9.6	150.1
13	床直	粗粒輝石安山岩	5.1	12.3	340.5
—		文象斑岩	4.8	13.1	210.4
14	床直	雲母石英片岩	5.2	14.3	312.1
—		変質安山岩	5.1	14.4	321.4
15	床直	黒色片岩	5.8	(18.3)	350.2
16	床直	変質玄武岩	(6.4)	(14.8)	454.3
17	床直	変質安山岩	5.2	(11.6)	240.2

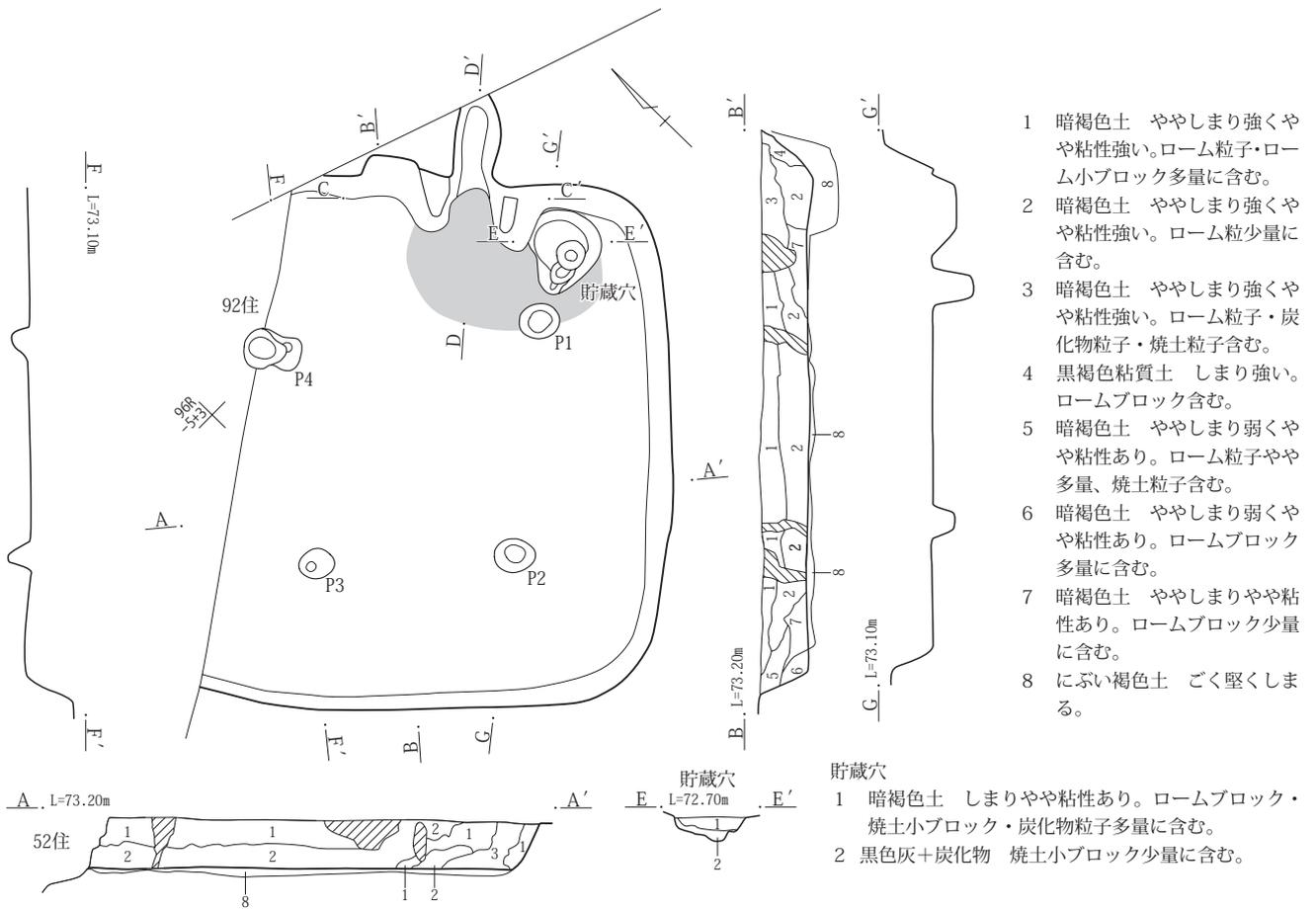
模は長径69cm短径59cm深さ31cmである。

柱穴 中央部で四角く、4基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 32・28・29、P 2 : 33・27・20、P 3 : 30・24・20、P 4 : 46・33・27

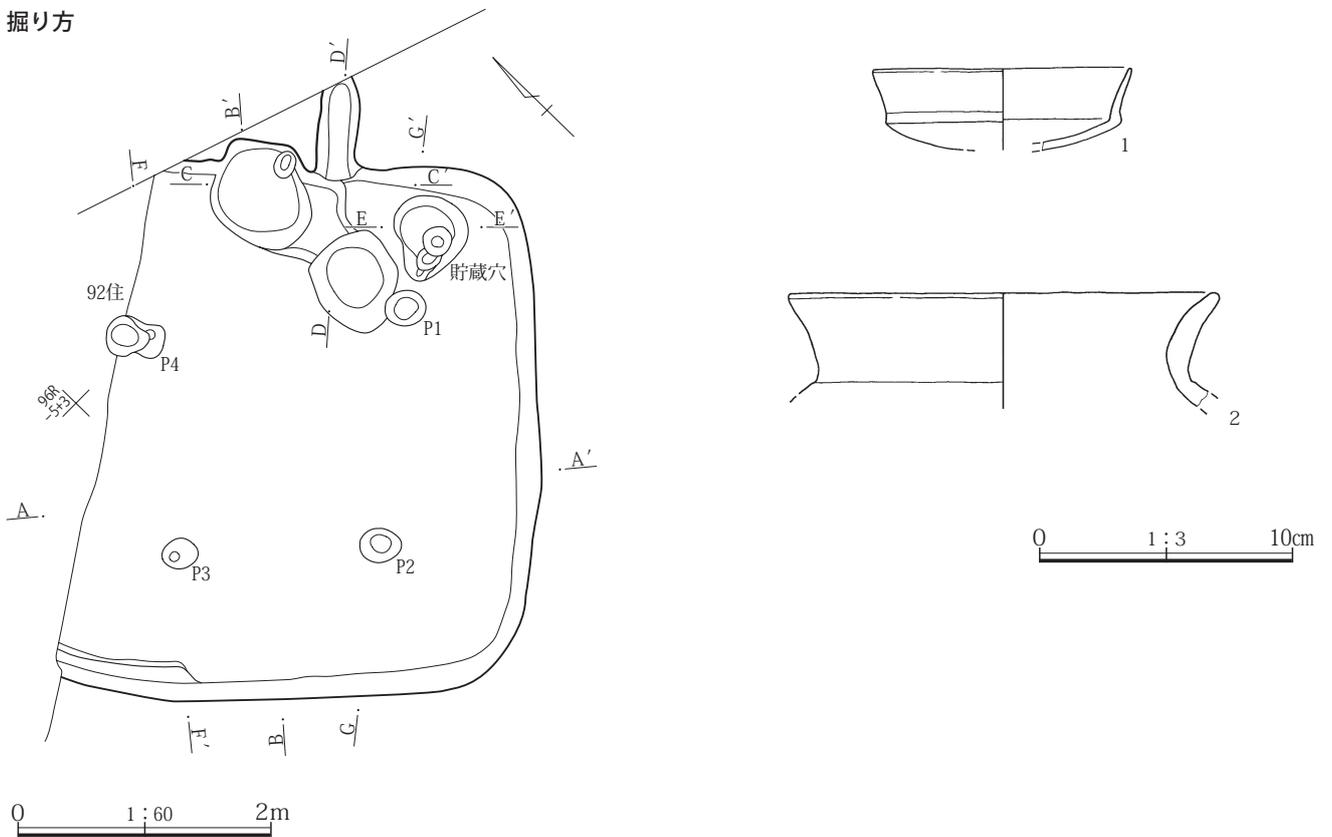
床 硬化範囲は確認できないが、埋没土8は堅くしまる。
掘り方 カマド周辺が土坑状に掘り込まれるが、全体に掘り込みは浅い。

遺物 床面で出土した遺物はない。埋没土から土師器杯(1)、同甕(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1250g・同小型品350g、須恵器大型品3片・同小型品1片が出土している。貯蔵穴で出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、ササゲ属アズキ亜科アズキ型種子、マメ科種子、イネ種子かと判明した。

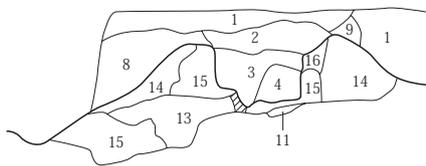
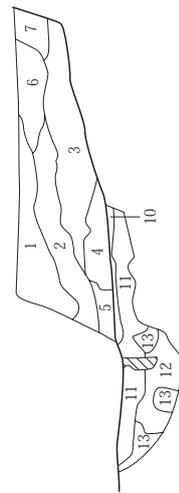
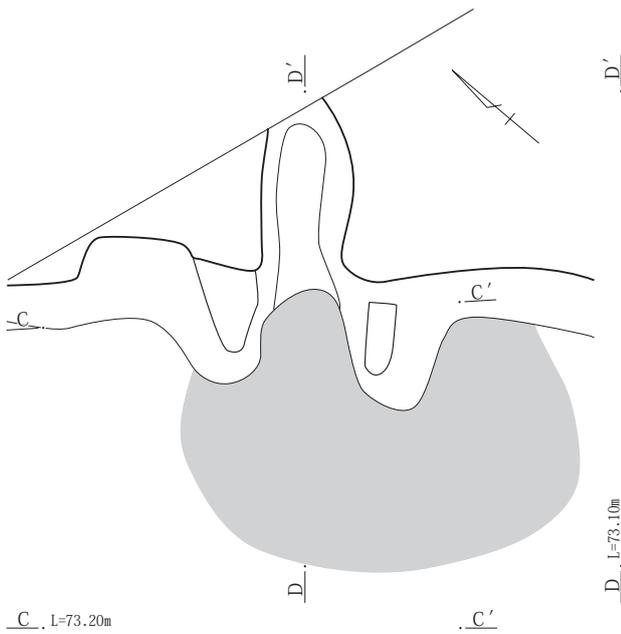
時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。



掘り方



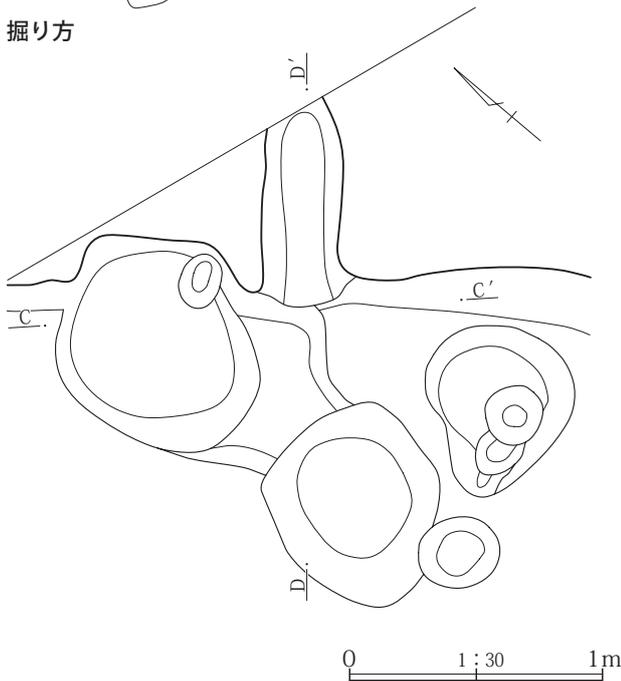
第508図 2区93号住居と出土遺物



カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。褐色土ブロック・焼土小ブロック含む。
- 3 黄褐色土 カマド構築材崩落土。
- 4 焼土ブロック ややしまりやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 5 褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子少量、焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土ブロック多量、灰～黒色灰ブロック含む。崩落土。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子多量、焼土粒子・灰～黒色灰含む。煙道部。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・白色軽石粒子少量に含む。
- 9 黄褐色土 袖の崩落土。
- 10 暗褐色土 焼土小ブロックやや多量、ロームブロック含む。上層に黒色灰あり。
- 11 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 12 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム小ブロック含む。
- 13 ロームブロック 袖。
- 14 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 15 ロームブロック
- 16 焼土ブロック

掘り方



壁高32～35cm

埋没土 暗褐色土を主体として自然埋没する。

カマド 南辺に設ける。煙道部のみ検出した。住居内で燃焼部が確認できておらず、カマドとするにはやや疑問も残る。全体規模(煙道部)は長さ81cm最大幅60cm深さ12cmである。

貯蔵穴・柱穴 未検出。

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土7は堅くしまる。

掘り方 全体に10cm程度掘り込んで凸凹する。

遺物 床面で出土した遺物はない。埋没土から1の土師器杯、掘り方で2の土師器壺が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1600g・同小型品510gが出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

第509図 2区93号住居カマド

94・95号住居(第510・511図、P L.206・207・320)

94号住居 位置 96R-6・7

重複 95号住居より後出で、92号住居より前出。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-59°-E

規模 面積2.77㎡ 長軸(3.22)m、短軸(2.03)m 残存

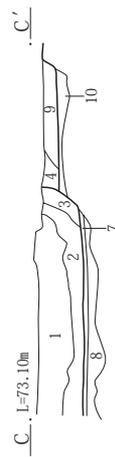
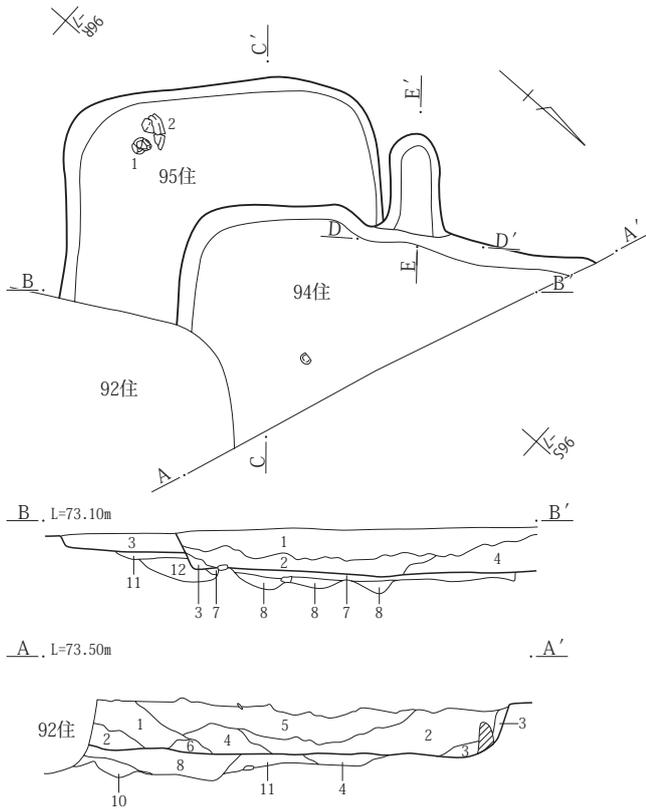
95号住居 位置 96R-6・7

重複 92・94号住居より前出。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

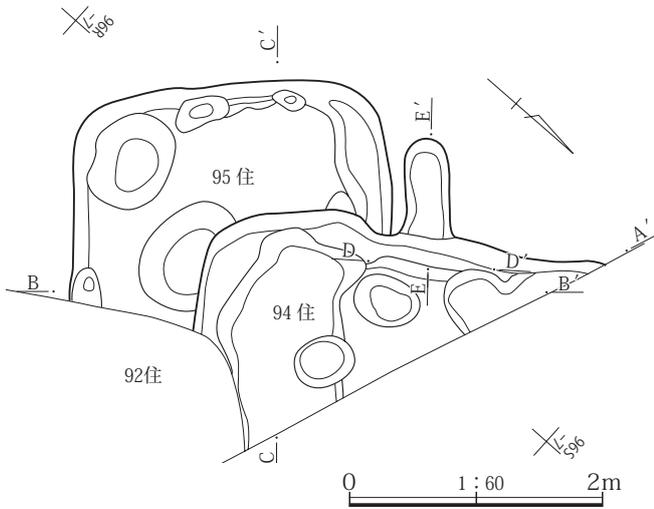
主軸方位 N-40°-W

規模 面積2.64㎡ 長軸2.54m、短軸(2.0)m 残存壁高8～17cm

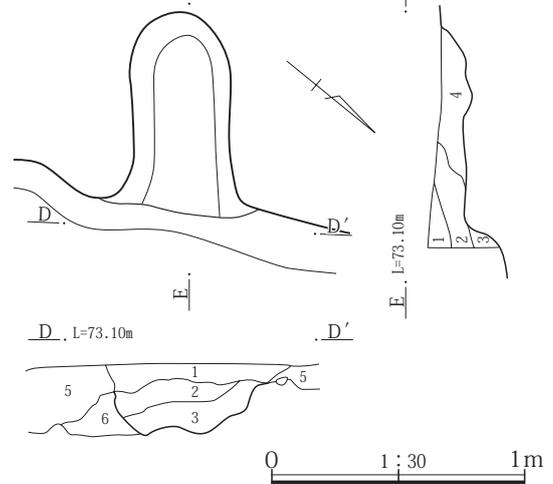


- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子・白色軽石粒子(F P含む)やや多量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量、ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。黒褐色土小ブロック少量、ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性あり。灰～黒色灰ブロック・ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物片やや多量に含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 10 黄褐色土 しまりやや粘性強い。暗褐色土ブロック含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 12 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック含む。

掘り方

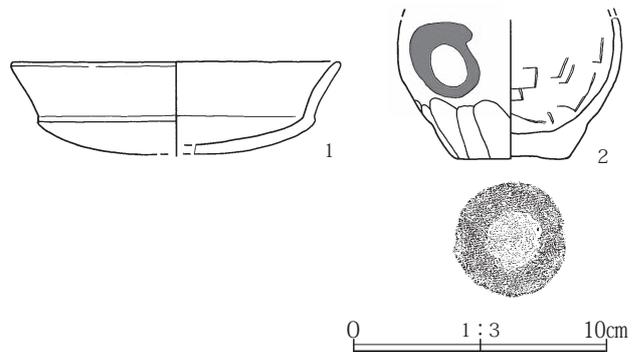


カマド

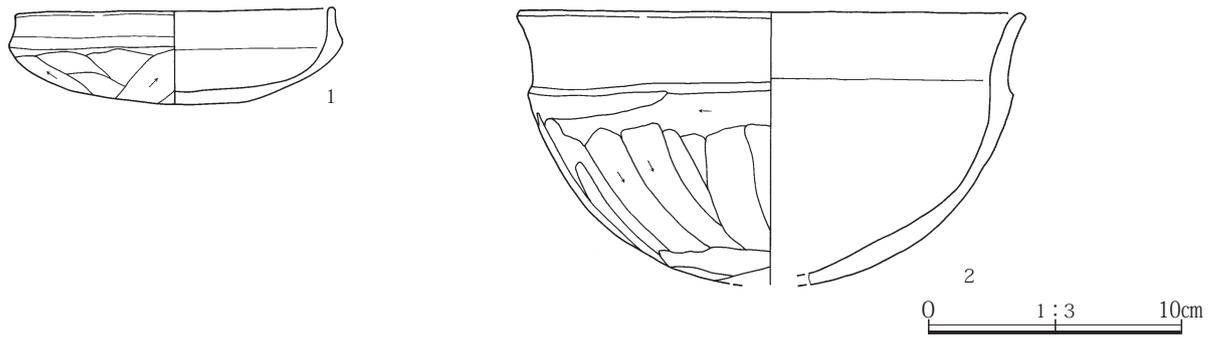


カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子やや多量、ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック・ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土小ブロックやや多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック・ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子少量に含む。



第510図 2区94・95号住居と94号住居出土遺物



第511図 2区95号住居出土遺物

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴、柱穴 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 中央部南東寄りや南東隅を土坑状に20cm程度掘り込み、西辺壁際は溝状で、中央部は台状に掘り残る。

遺物 出土した遺物は少ない。南壁際床面で土師器杯(1)、同鉢(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品215g・同小型品90gが出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

96号住居(第512・513図、P L.207・208・320)

位置 96T～97A-14・15 重複 76号住居より前出。

形態 大部分が調査区域外のため不明。

主軸方位 N-45°-W

規模 面積8.50㎡ 長軸4.53m、短軸(3.60)m 残存壁高19～22cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

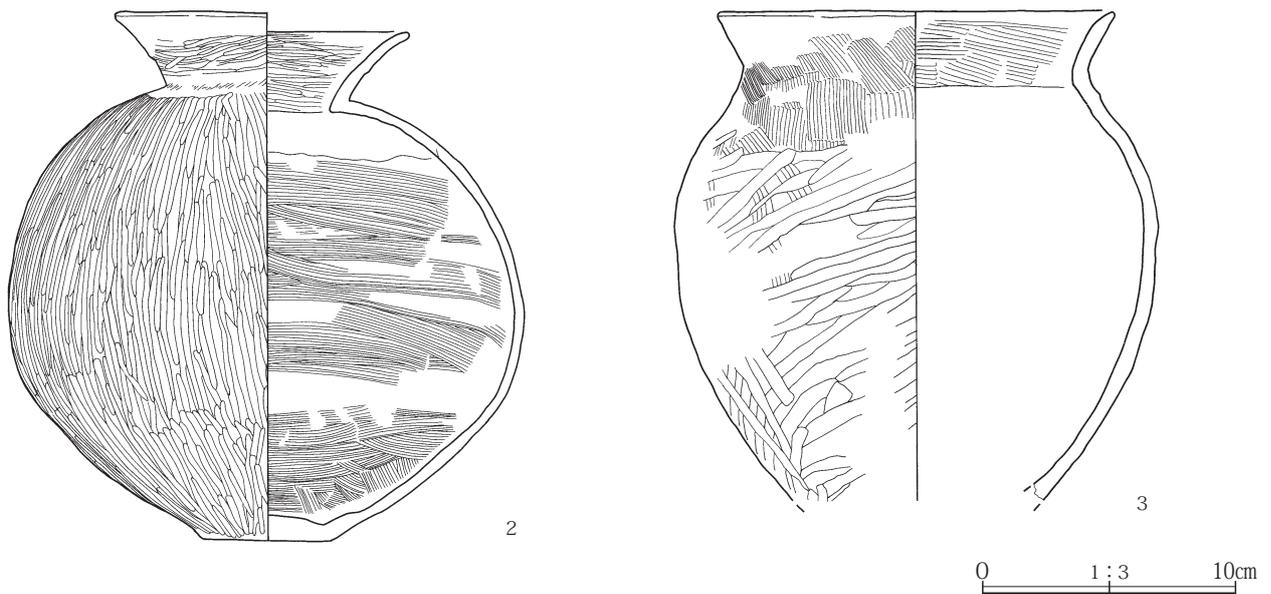
カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 南東部で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1:41・40・40

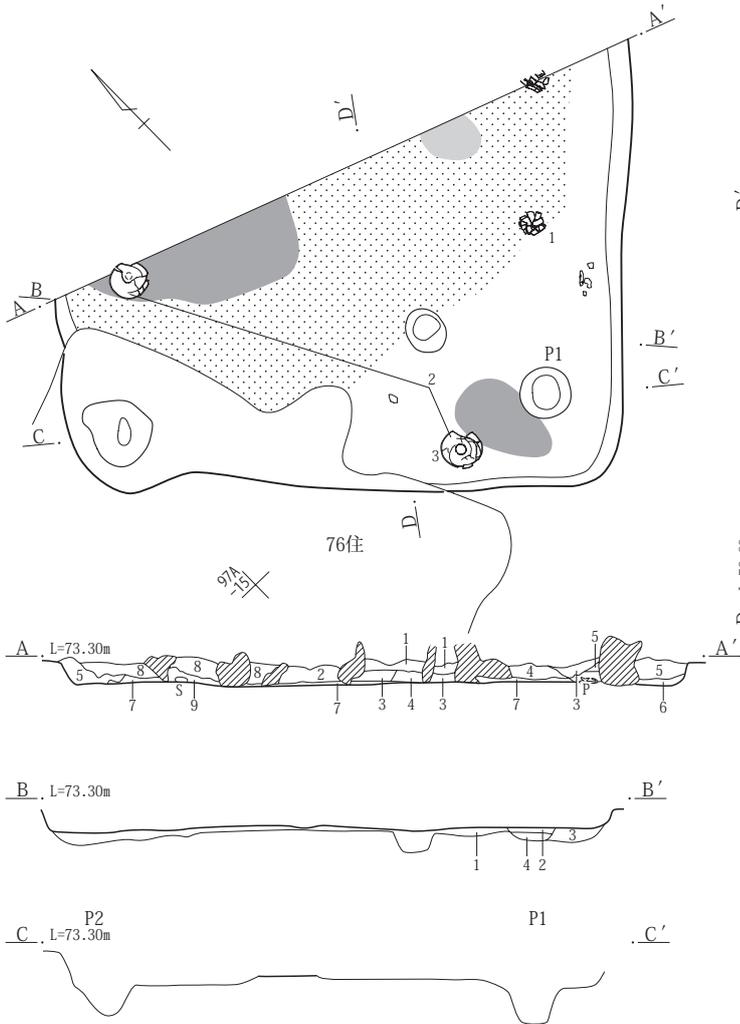
床 北西隅から西壁際を除いて硬化面を確認できた。

掘り方 壁際を主体に10cm程度掘り込む。

遺物 壁際に点在する程度である。南壁際で1の土師器埴、北壁と西壁際で土師器壺(2)同甕(3)が出土する。



第512図 2区96号住居出土遺物(1)

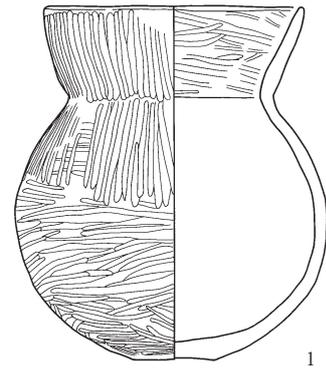
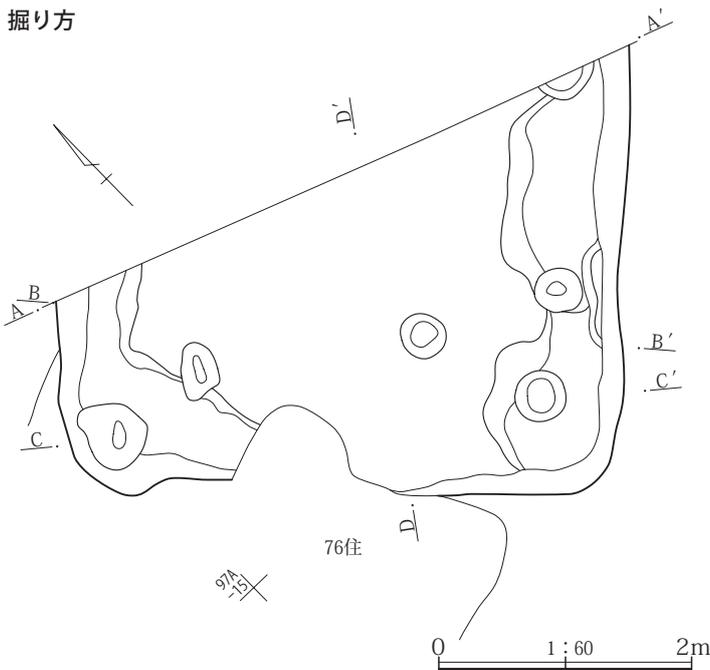


- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・ローム粒子少量、白色軽石（F P含む）含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子微量、ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム大ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子微量、ローム粒子・炭化物片含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 6 褐色土
- 7 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰ブロック含む。
- 8 褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子含む。
- 9 褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土小ブロック・黒色灰ブロック含む。

掘り方

- 1 黒褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。表層に灰層あり。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。炭化物粒子・焼土小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・YP・焼土小ブロック含む。
- 4 黄褐色土

掘り方



0 1:3 10cm

第513図 2区96号住居と出土遺物(2)

掲載遺物のほか土師器大型品660g・同小型品190g、須恵器小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から3世紀後半に比定される。

97号住居(第514・515図、P L .208・209・320)

位置 96T-13・14 **重複** 78号住居より前出。

形態 歪んだ正方形。 **主軸方位** N-58°-E

規模 面積9.13㎡ 長軸3.84m、短軸3.42m 残存壁高33～45cm

埋没土 下位に黒褐色土、中位の水平方向に黄褐色土が堆積することから、南西方向から人為的に埋められている。埋没土の層順から、周辺で住居などを掘削しながら表土からローム層へと排土された状況が復元できる。

カマド 北東辺の中央東寄りに設ける。燃焼部を住居内に持つ。燃焼部底面から壁面は焼土化する。両袖ともやや残存し、右袖の先端に大角礫が埋め込まれる。全体規模は長さ110cm幅167cm、袖焚口幅100cmで、確認面からの深さは40cmである。煙道部は長さ15cm最大幅30cm深さ10cmである。掘り方の深さは燃焼部で20cm前後である。

貯蔵穴 未検出。

柱穴 南西部で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 34・30・-

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土11は貼り床で堅くしまる。

床下土坑 中央部西寄りに設ける。埋没土の上位に貼り床が被覆する。規模は長径94cm短径89cm深さ29cmである。

掘り方 壁際周辺を主体に15cm程度掘り込み、中央部は円形に掘り残し気味である。

遺物 遺物はカマド周辺に集中する。南壁寄りの床面で、土師器皿(1)、同鉢(4)、須恵器甕(6)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品2230g・同小型品1000g、須恵器大型品5片が出土している。カマドで出土した炭化材は樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長5cmのクリの割材と判明した。カマドで出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子、イネ種子と判明した。また、カマドから獣骨が出土したが、鑑定の結果、種までは特定できなかった(第5章第2項)。

時期 出土遺物から8世紀前半かと考えられる。

98号住居(第516・517図、P L .209・210・320)

位置 96P・Q-15・16

重複 106号土坑より後出で、17・18号溝より前出。

形態 重複により東側が消滅するため詳細不明。

主軸方位 N-42°-W

規模 面積19.77㎡ 長軸5.45m、短軸(4.54)m 残存壁高2～6cm

埋没土 黒褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

カマド・炉、貯蔵穴 未検出。

柱穴 四隅の対角線上と思われる位置に支柱穴4基、掘り方で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P 1 : 50・33・46、P 2 : 37・36・42、P 3 : 23・20・33、P 4 : 47・35・45、P 5 : 33・32・24

床 中央部に硬化面を確認したが、西側は重複により不明である。

掘り方 壁際に沿って溝状に掘り込むのと合わせて、全体に10cm程度掘り込む。

遺物 北壁近くにやや集中し、床面で土師器台付甕(2・3)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品320g・同小型品95gが出土している。

時期 出土遺物から4世紀後半に比定される。

99号住居(第518・519図、P L .210・211)

位置 96O・P-16・17 **重複** なし。

形態 台形。 **主軸方位** N-89°-W

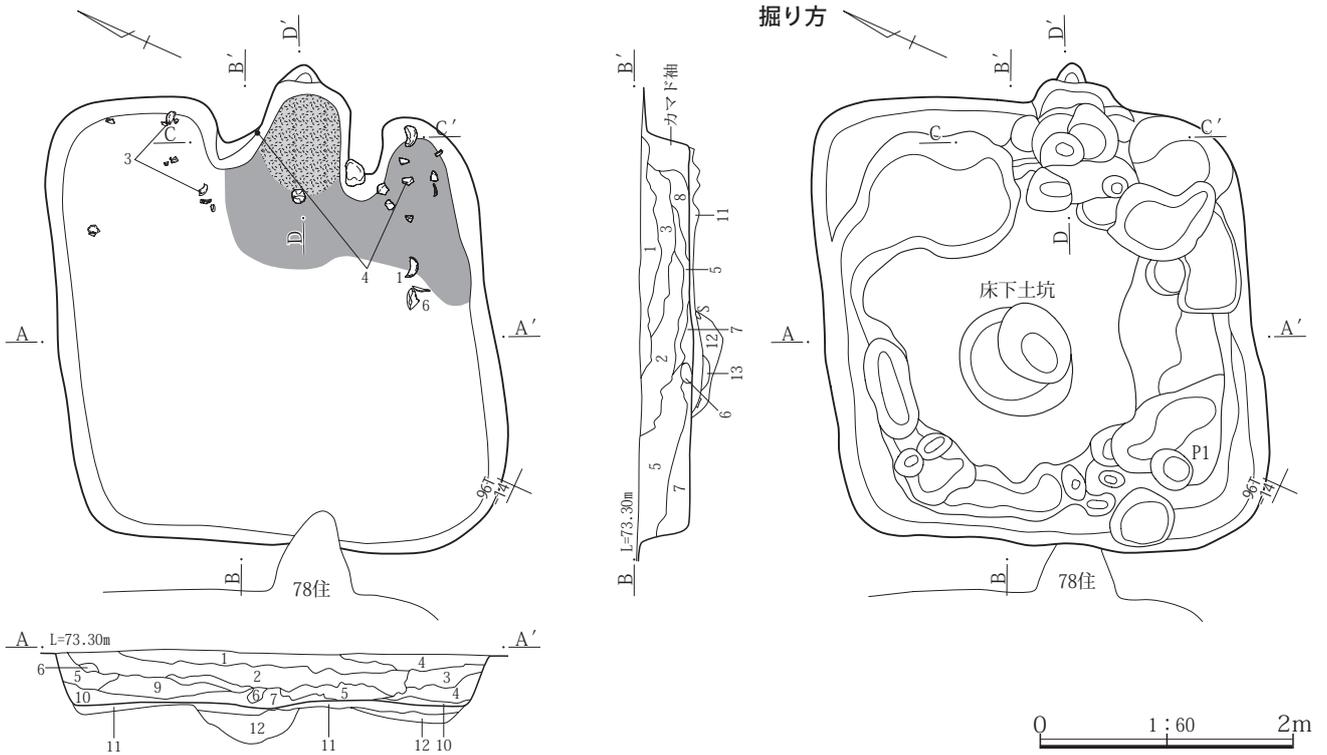
規模 面積4.11㎡ 長軸2.98m、短軸2.19m 残存壁高19～28cm

埋没土 下位は暗褐色土を主体として自然埋没するが、中位は褐色土で埋まり、その後は人為的に埋められたとみられる。

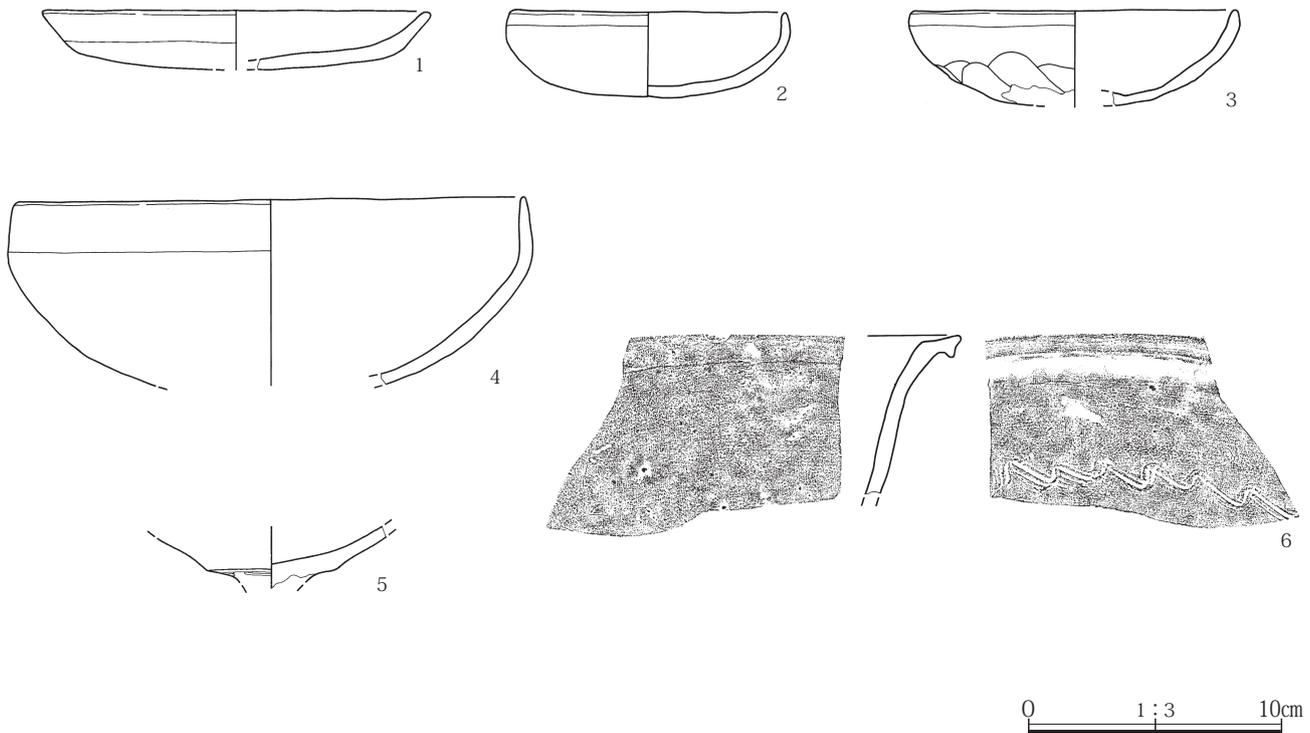
カマド 東辺の南半部に設ける。燃焼部を住居内に持つ。全体にやや焼土化する。両袖はやや残存し、地山ロームを芯として構築される。全体規模は長さ124cm幅128cm、燃焼部は長さ68cm、袖焚口幅75cmで、確認面からの深さは24cmである。煙道部は長さ56cm最大幅44cm深さ14cmである。掘り方の深さは燃焼部で10cm程度である。

貯蔵穴 未検出で、南東隅が円形に凹むが、貯蔵穴と判断できる規模ではない。

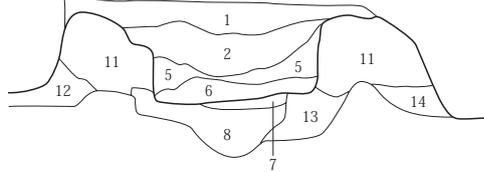
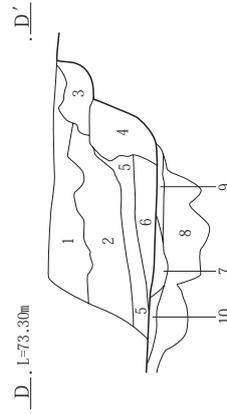
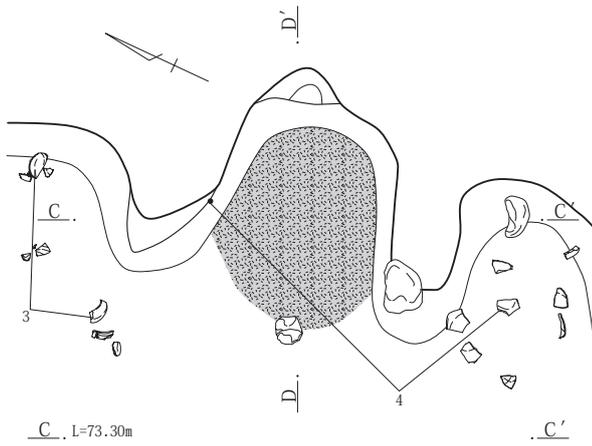
柱穴 未検出。



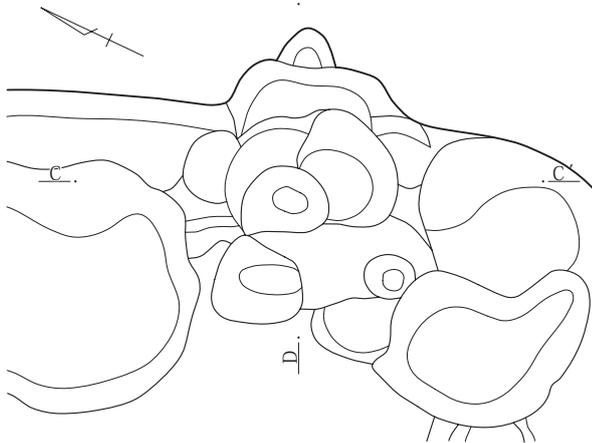
- | | |
|---|---|
| <p>1 褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子含む。</p> <p>2 褐色土+黄褐色土</p> <p>3 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む。</p> <p>4 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物粒子やや多量に含む。</p> <p>5 暗褐色土 ローム小ブロック・ローム粒子含む。</p> <p>6 ロームブロック</p> | <p>7 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。</p> <p>8 暗褐色土</p> <p>9 黒褐色土+暗褐色土+褐色土</p> <p>10 暗褐色土 ローム粒子含む。</p> <p>11 暗褐色土+ローム 層状に堅くしまる。焼土粒子・炭化物粒子含む。</p> <p>12 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。</p> <p>13 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。</p> |
|---|---|



第514図 2区97号住居と出土遺物



掘り方

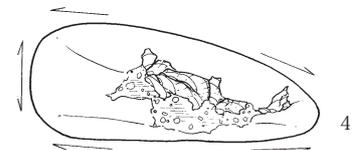
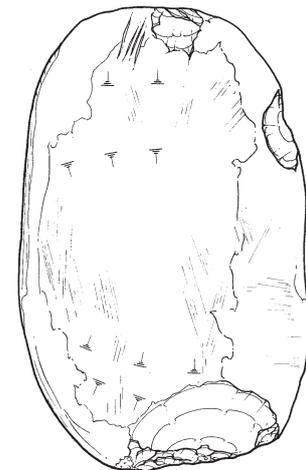
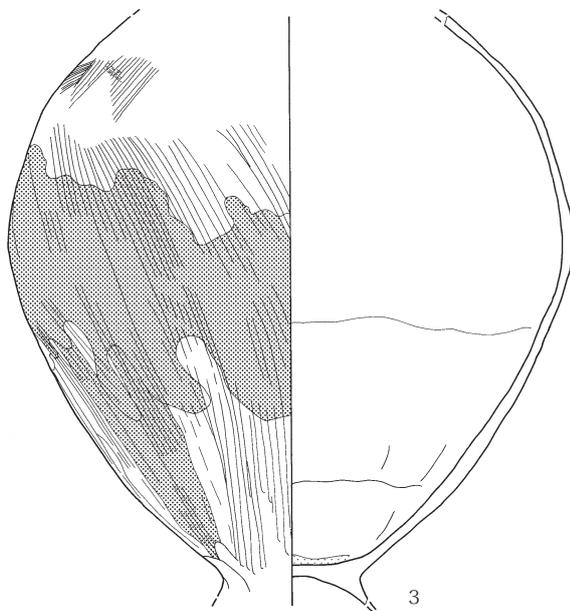


カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックやや多量、黒色灰ブロック・焼土ブロック含む。
- 3 焼土ブロック 奥壁崩落土。
- 4 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土ブロック少量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土粒子・ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック・炭化物片多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱い。灰～黒色灰・炭化物・焼土ブロック含む。
- 8 ローム小ブロック+焼土ブロック+灰色灰ブロック しまり弱い。
- 9 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 10 暗褐色土 層状に堅くしめる。焼土・灰・ロームブロック含む。
- 11 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含む。
- 12 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子多量に含む。
- 13 黄褐色土 しまり粘性あり。焼土ブロック含む。
- 14 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。焼土小ブロックやや多量に含む。

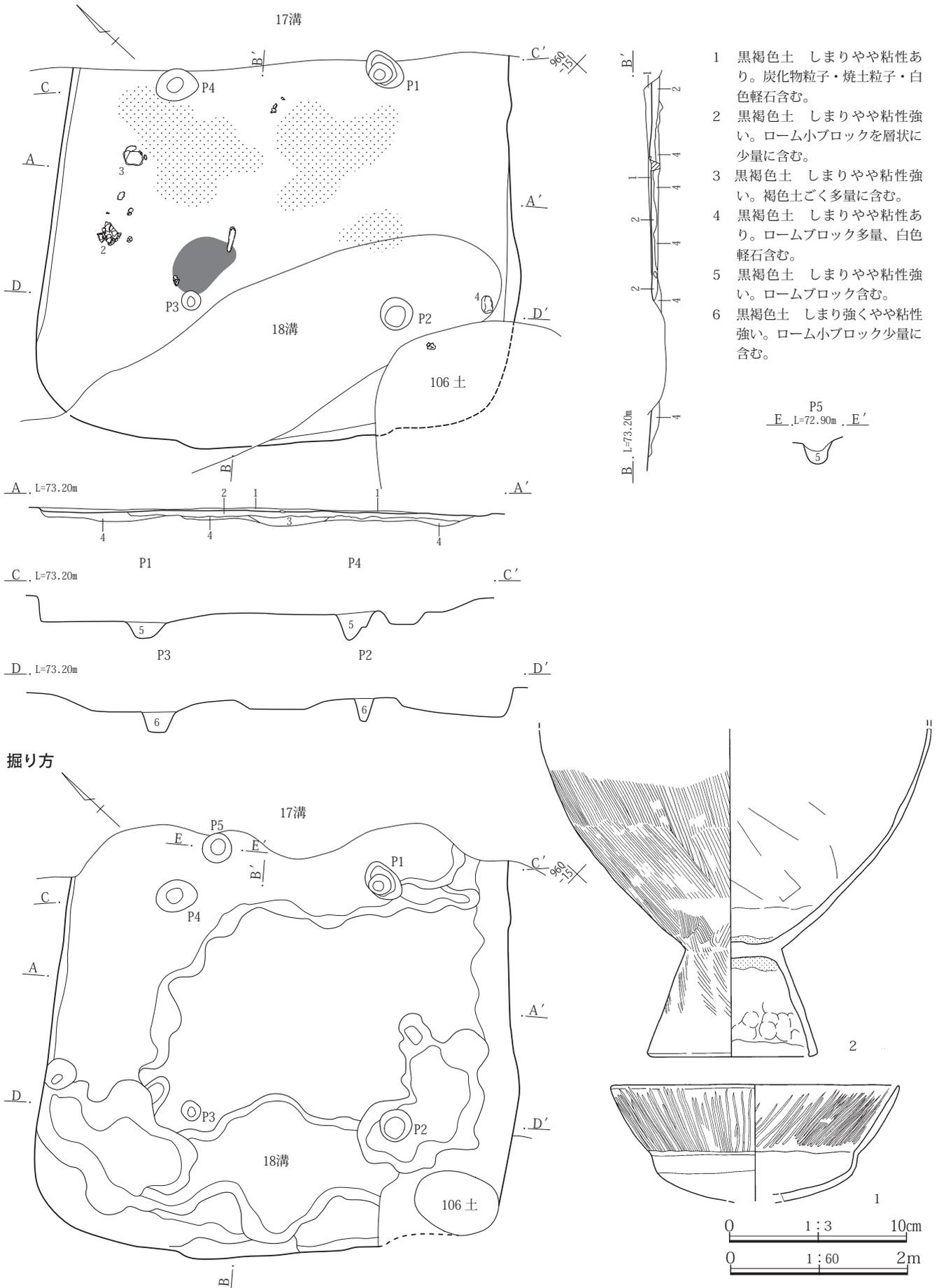
0 1:30 1m

第515図 2区97号住居カマド



0 1:3 10cm

第516図 2区98号住居出土遺物(1)

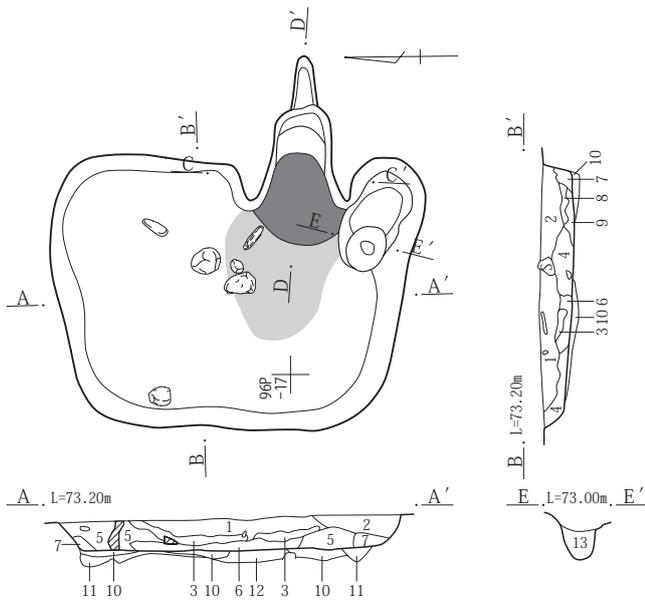


- 1 黒褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子・白色軽石含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロックを層状に少量に含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性強い。褐色土ごく多量に含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック多量、白色軽石含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック含む。
- 6 黒褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。

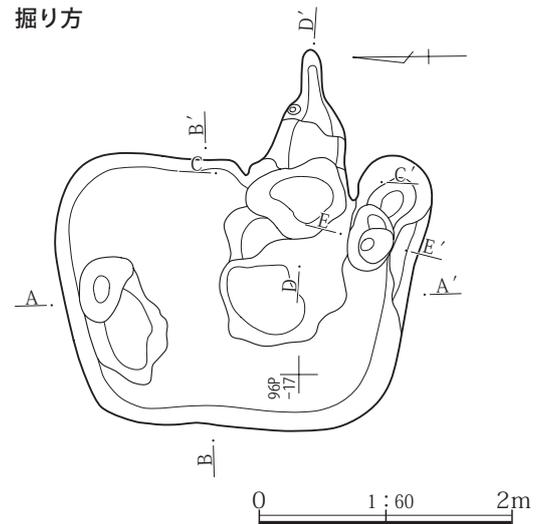
P5
E, L=72.90m, E'

0 1:3 10cm
0 1:60 2m

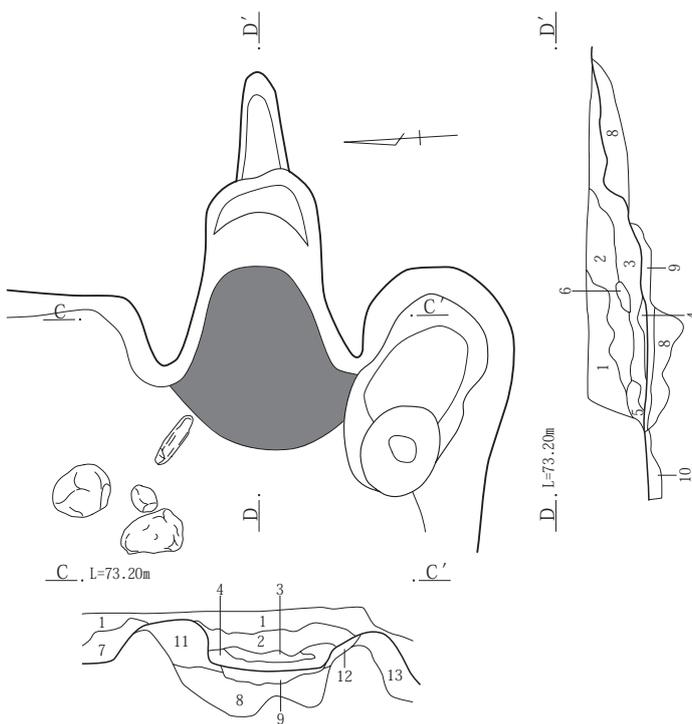
第517図 2区98号住居と出土遺物(2)



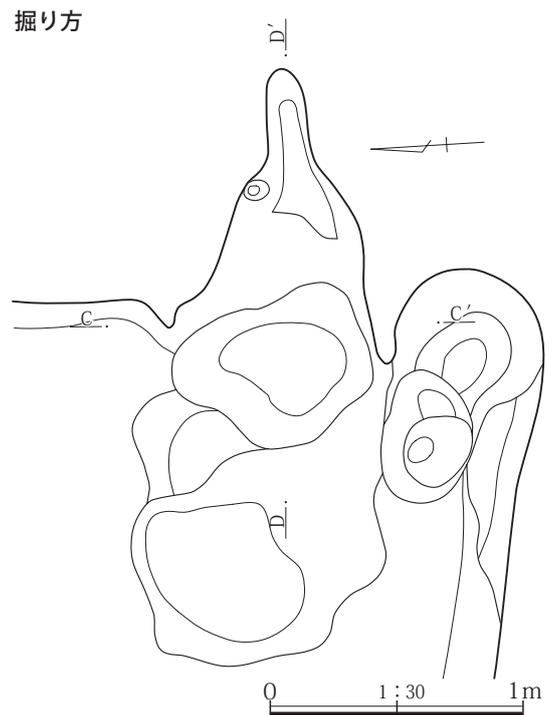
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック・小円礫を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。白色粒子含む。
- 3 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームごく多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子やや多量に含む。



- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。
- 8 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子やや多量、ローム粒子含む。
- 9 ロームブロック
- 10 暗褐色土+ロームブロック 堅く層状にしまる。
- 11 暗褐色土 ややしまり弱い。ロームブロックやや多量に含む。
- 12 黄褐色土 しまる。黒褐色土・暗褐色土を薄く層状に含む。
- 13 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。

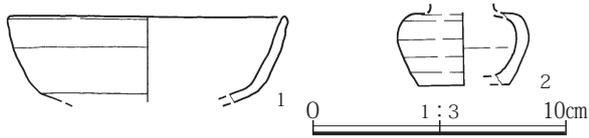


- カマド
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 2 褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子多量、焼土粒子少量に含む。
 - 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土小ブロック含む。
 - 4 黒色灰 焼土小ブロック含む。
 - 5 明黄褐色粘土ブロック
 - 6 焼土ブロック
 - 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ロームブロックごく多量に含む。



- 8 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック多量、焼土粒子少量に含む。
- 9 焼土+黒色灰
- 10 ロームブロック 堅くしまり粘性あり。焼土ブロック・炭化物含む。
- 11 黄褐色土 堅くしまり粘性あり。内側は焼土化。
- 12 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土小ブロック微量に含む。内側は焼土化。
- 13 にぶい黄褐色土

第518図 2区99号住居



第519図 2区99号住居出土遺物

床 硬化範囲は確認できないが、埋没土10は層状で堅くしまる。

掘り方 カマド前面から中央部を主体として、全体に10cm程度掘り込んで凸凹する。

遺物 土器類の出土は少ない。中央部の埋没土中位に人頭大の円礫が投棄される。埋没土から土師器杯(1)、須恵器小壺(2)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品95g・同小型品45片が出土している。

時期 出土遺物から9世紀前半に比定される。

100号住居(第520～522図、P.L.211・212・321)

位置 96O・P-13～15 重複 17号溝より前出。

形態 長方形。 **主軸方位** N-44°-E

規模 面積29.56㎡ 長軸6.14m、短軸5.75m 残存壁高3～13cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

炉 北半部中央に設ける。底面はやや焼土化する。平面形は円形で、断面形は皿状。規模は長径52cm短径48cm深さ5cmである。

貯蔵穴 未検出。

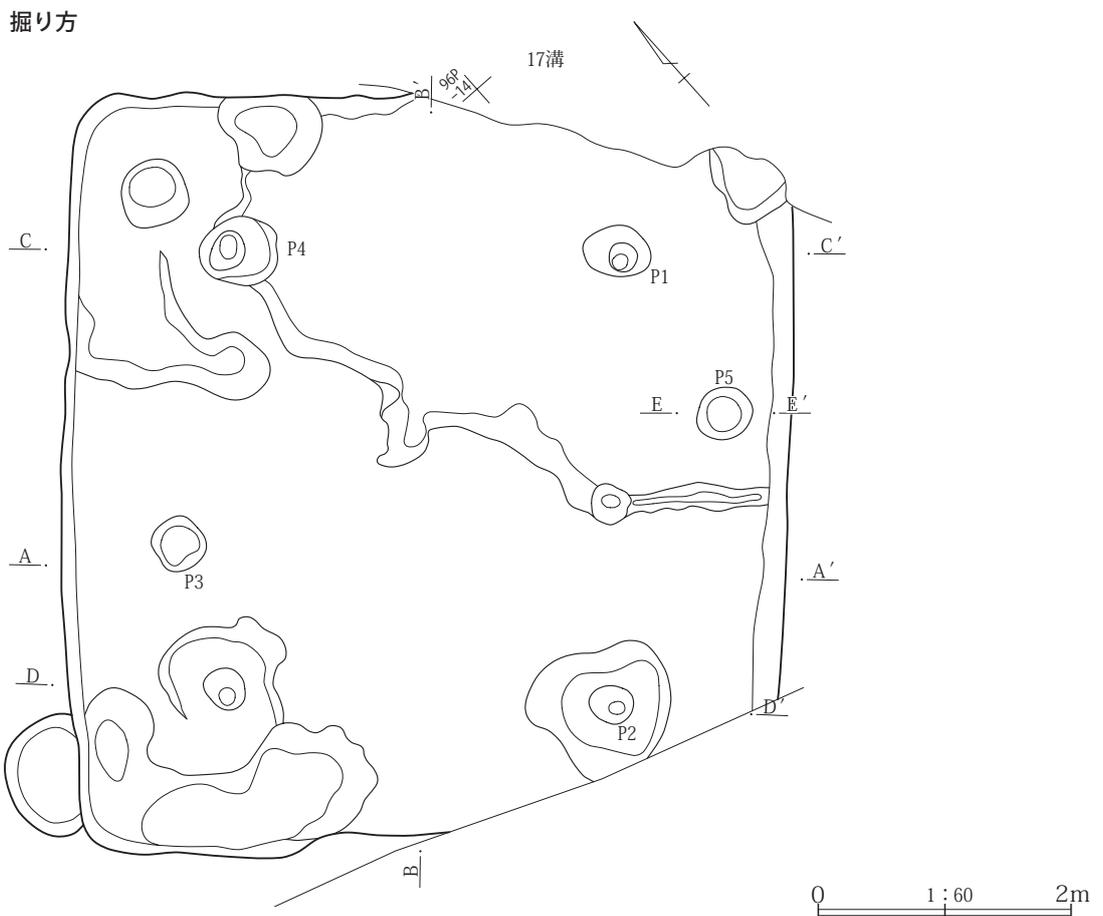
柱穴 四隅の対角線上に支柱穴4基、南壁寄りの中央で1基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)。P1：60・60・65、P2：52・51・48、P3：43・43・45、P4：65・58・58、P5：50・47・28

床 中央の東半部および西端部で硬化面を確認した。

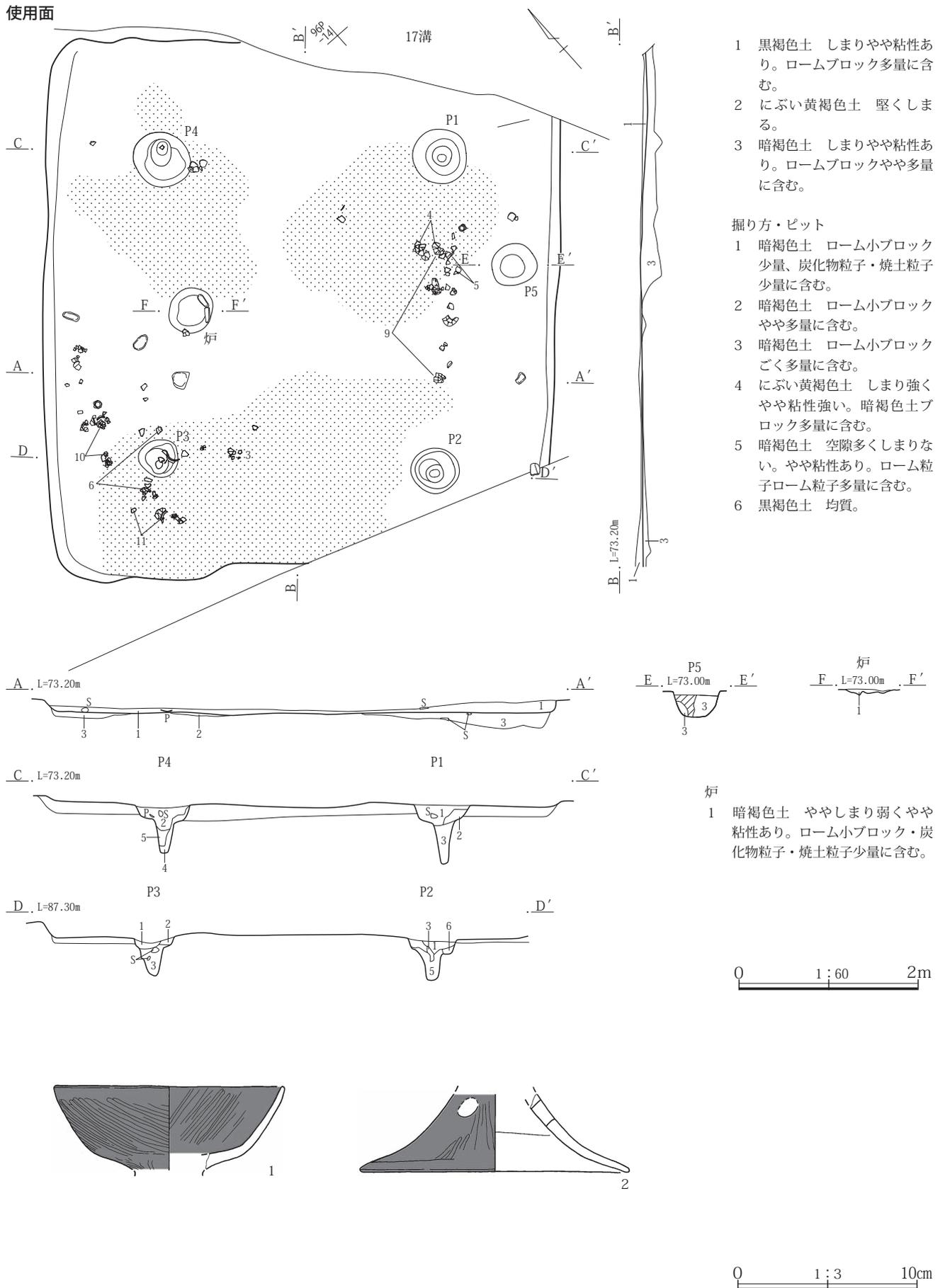
掘り方 東半部を主体に20cm程度掘り込み、全体は浅く凸凹する。

遺物 壁寄りで出土する。南壁寄りの床面では土師器埴(4)、同甕(5)、同壺(9)、北壁寄りの床面では土師器壺(3)、同埴(6)、同台付甕(10)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品2070g・同小型品500g、須恵器大型品2片が出土している。

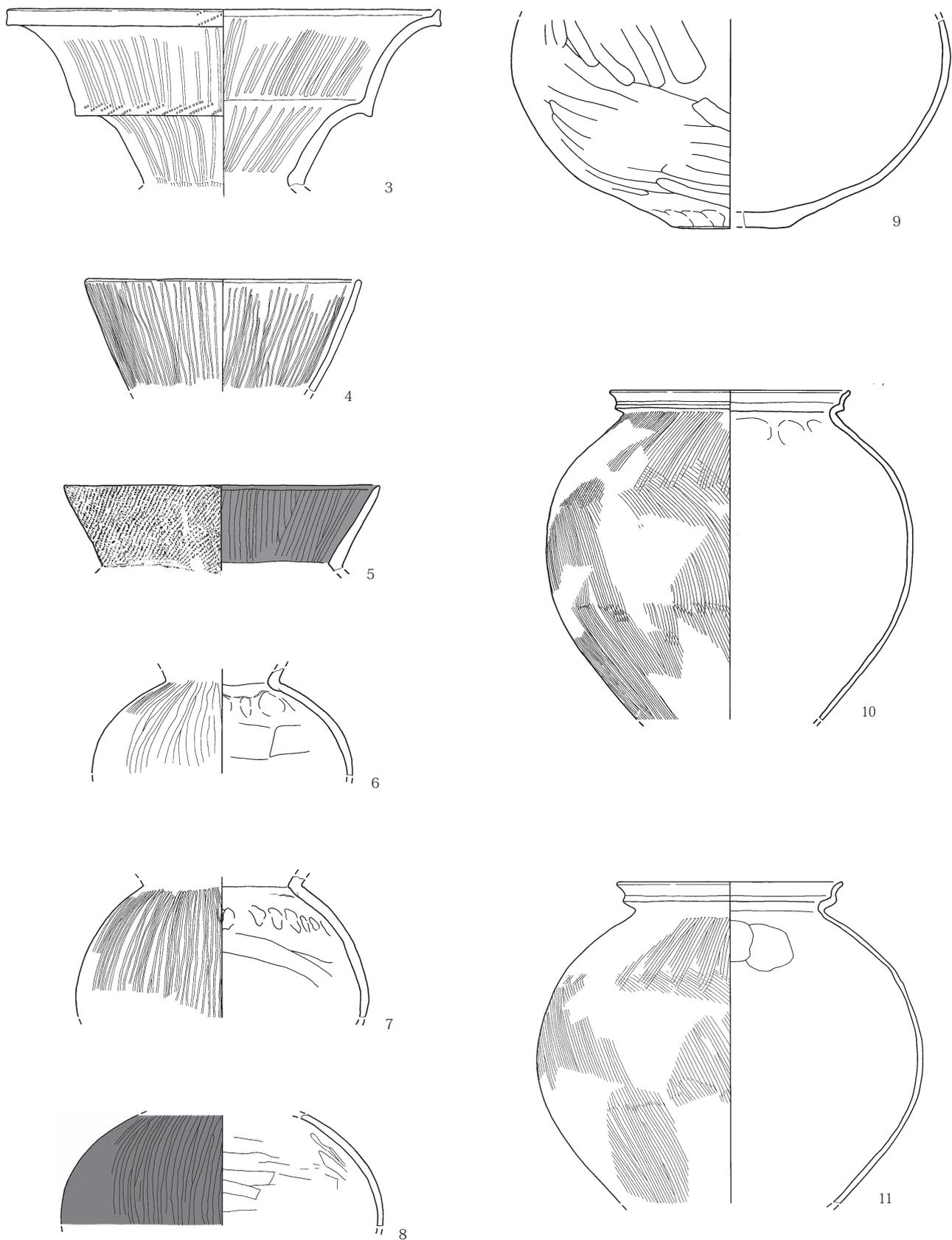
時期 出土遺物から4世紀前半に比定される。



第520図 2区100号住居掘り方



第521図 2区100号住居と出土遺物(1)



第522図 2区100号住居出土遺物(2)

2 掘立柱建物

2区では28棟の掘立柱建物が検出されたが、19棟は1号屋敷内に所在するため、ここではそれ以外の9棟を扱う。2・4号掘立柱建物はともに棟持ち柱を持ち、北西方向に主軸を採る建物である。周辺に点在する古墳時代の住居と主軸方位が一致することや、形態から同時期と考えられる。残る7棟は調査区内に点在し、飛鳥～平安時代の住居の主軸方位と一致し、それらと重複しないことから、およそ同時期と考えることができる。

2号掘立柱建物(第523図、P L .212・213、第9表)

位置 96Q～S-14・15グリッド。 重複 なし。

主軸方位 N-37～40°-W 面積 18.53㎡

形態 桁行3間・梁間2間の南北棟。梁側中央の柱穴は棟持ち柱で、P5は南短辺より中心が70cm外側へ張り出し、P10は北短辺より中心が57cm外側へ張り出す。南短辺は北短辺より15cm長いので、西長辺は東に内傾する。桁行柱間を平均すると、約1.487mとなるが、北長辺のP2は北へ8cm、P3は北へ4cm寄る。南長辺のP7も同じく北へ7cm寄るが、P8は南へ17cm寄るため、P7・8の柱間は1.25mと狭い。柱痕も見られず、埋没土に特徴的なものはない。柱穴の長径は43～66cmでややばらつくが概ね大きい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは棟持ち柱のP10が52cmとやや深い以外、31～38cmと均質である。詳細な規模・非掲載遺物は第9表のとおり。

3号掘立柱建物(第525図、P L .213・214、第10表)

位置 96P～R-9・10グリッド。

重複 P1はP11より、P6はP13より、P9はP16より、P10はP17より前出で、P7はP14より後出。

主軸方位 N-13～23°-W(1段階)、N-15～25°-W(2段階)

面積 23.28㎡(1段階)、20.66㎡(2段階)

形態 桁行3間・梁間2間の南北棟で、建て替えによりP1～10の柱穴10基(以下、1段階)と、P11～17(3基は重複により未確認)の柱穴7基(以下、2段階)の2つの段階に分かれる。1段階の東辺は西辺より40cm短いので、北辺は東下がり、南辺は西下がり傾き、平面形

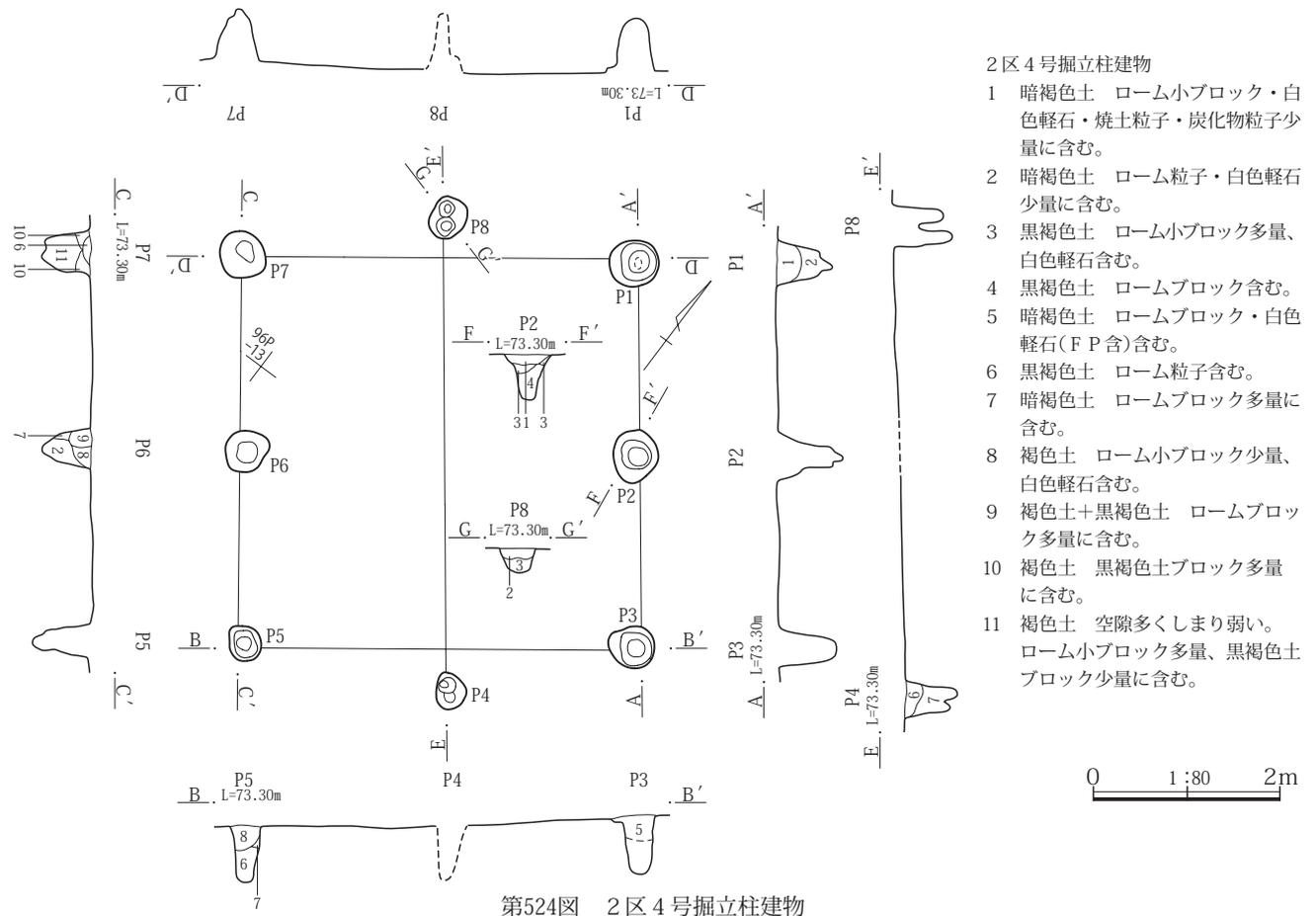
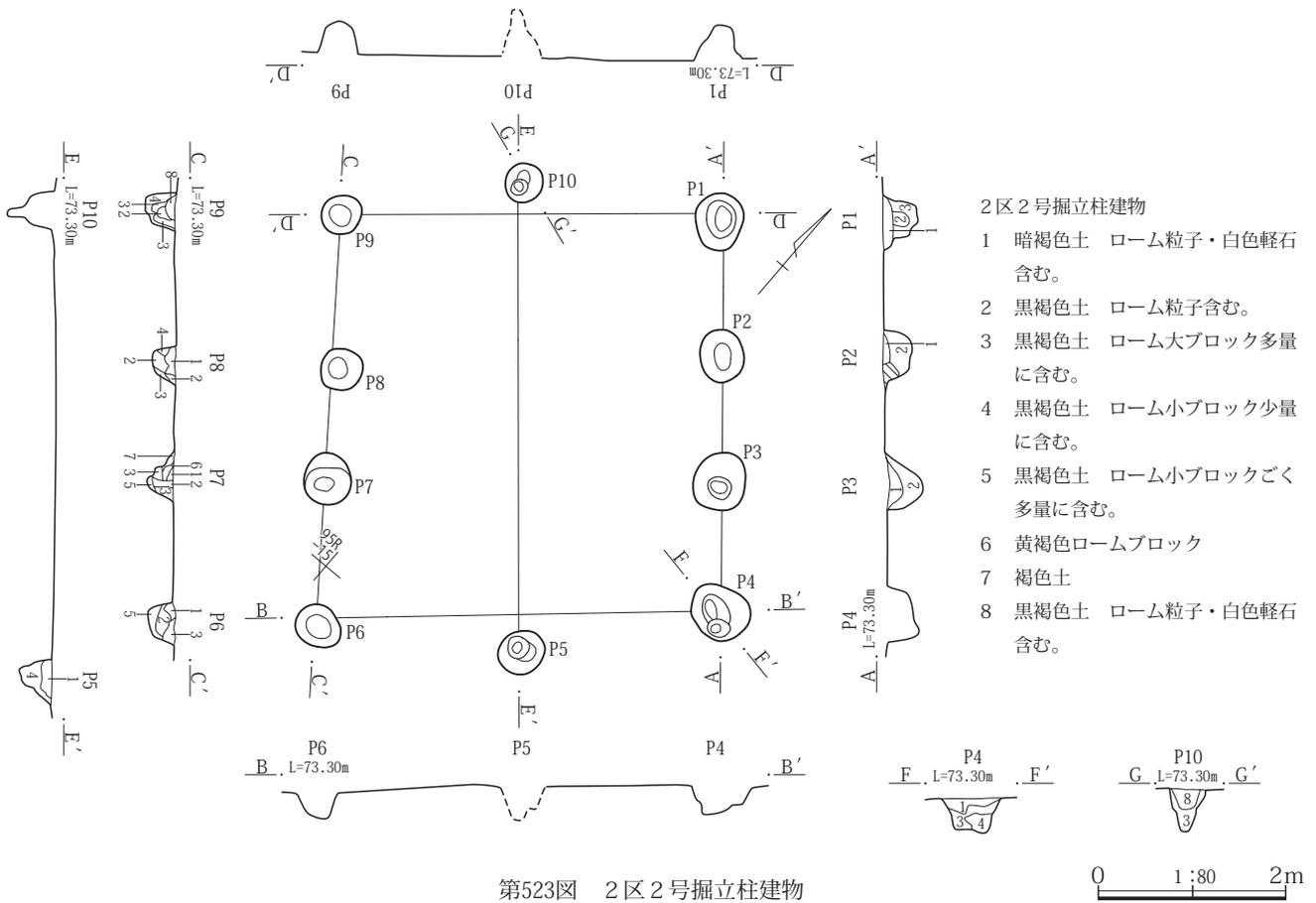
は台形となる。2段階の東辺は西辺より13cm短いので、西辺全体が南に寄るため、北・南辺とも南下がりに傾いて、平面形は菱形気味である。桁行柱間を平均すると、1段階は約1.967mで、2段階は1.895mである。東辺のP2は32cm北へ寄り、P3も15cm北へ寄るため、P3・4間は2.05mとやや広い。西辺も付合して、P7は北へ12cm寄り、P8も北へ7cm寄る。なお、西辺は東辺より長く、P9も北へ外れるため、P8・9の柱間は東辺ほど狭くない。また、2段階の西辺では、P15・16の柱間は1.77mと狭く、1段階の傾向と一致している。特徴的な埋没状況として、P14はP7より前出で、後者は柱痕を残す。おそらく、P7の方が2段階の可能性が高い。柱筋の通りからP7を1段階としたが、検討の余地を残している。P15はP8より後出で、埋没土7は柱痕を一部残す。P9はP16より前出で人為埋没する。柱穴の芯をはずれており、根固めによる充填土と見なされよう。こうした状況からも、1段階から2段階へという新旧関係が成立する。柱穴の形態はほとんど円形・楕円形で、隅丸方形が1基だけ含まれる。柱穴の長径は50～60cm台で均質で、やや小さいP2・7・12は重複による影響であろう。柱穴の深さは、40～50cm台が主体で、西辺については1段階のものが若干浅い傾向がある。詳細な規模・非掲載遺物は第10表のとおり。

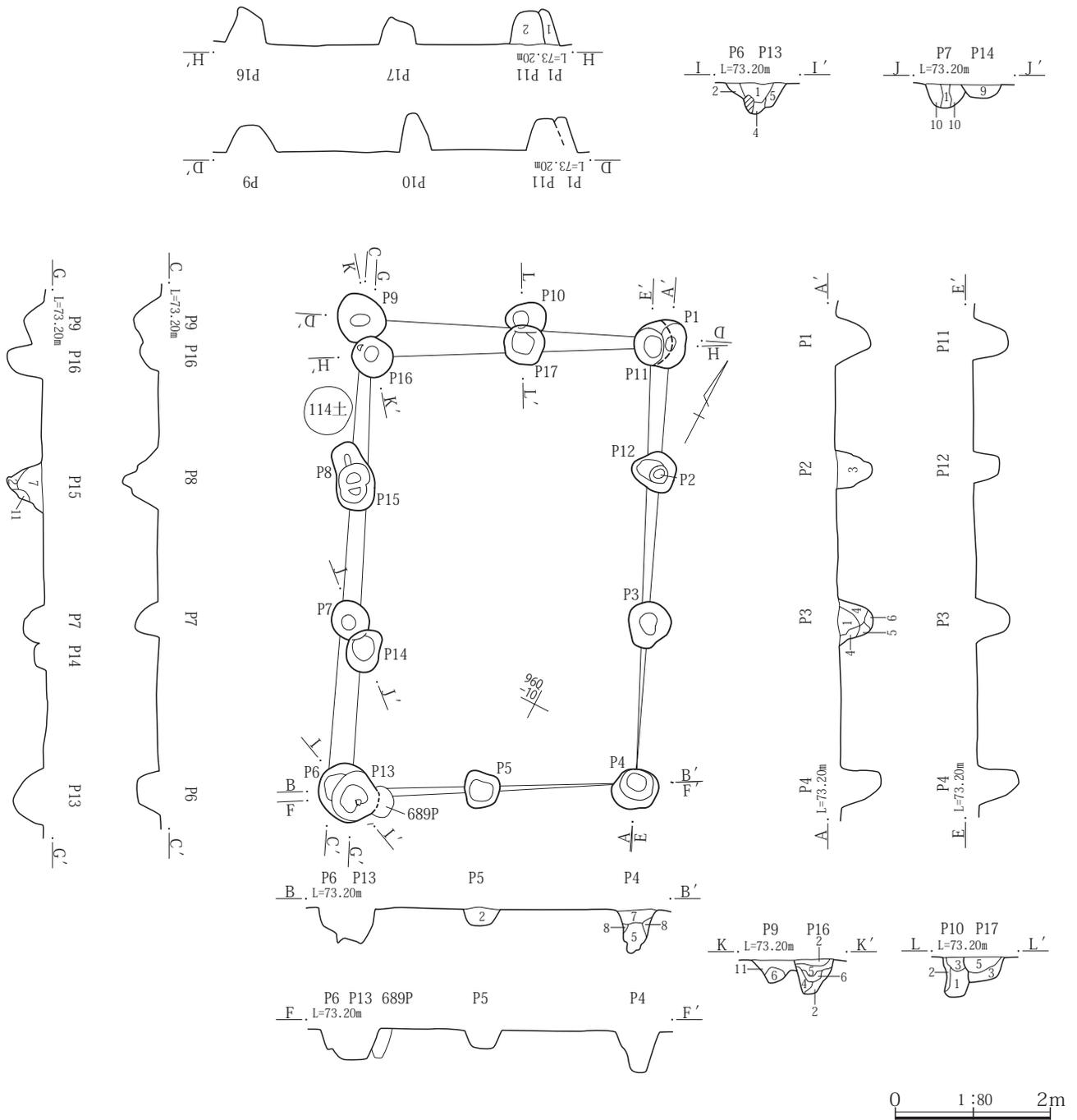
4号掘立柱建物(第524図、P L .214、第11表)

位置 96O・P-12・13グリッド。 重複 なし。

主軸方位 N-36～38°-W 面積 17.54㎡

形態 桁行2間・梁間2間の南北棟。梁側中央の柱穴は棟持ち柱で、P4は南短辺より中心が75cm外側へ張り出し、P8は北短辺より中心が65cm外側へ張り出す。西辺は東辺より10cm長いので、P7が北側へややずれるが、全体として柱間は均質で、平面形は整った正方形である。P4・8も梁間のほぼ中間に位置する。明確ではないが、P6の埋没土2・8は柱痕が一部残り、P4の底部の段差も柱痕を反映していよう。全体として、こうした傾向が見られる。柱穴の長径は40～58cmとほぼ均質で、深さも49～63cmと均質である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。詳細な規模・非掲載遺物は第11表のとおり。





2区3号掘立柱建物

- 1 暗褐色土 ローム粒子・白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロック・白色軽石(F P 含)含む。
- 4 黒褐色土 褐色土小ブロック・ローム粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 6 黒褐色土+ロームブロック
- 7 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・白色軽石少量に含む。
- 8 にぶい黄褐色土ブロック
- 9 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロックごく多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 11 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。

第525図 2区3号掘立柱建物

第4章 発掘調査の記録

第9表 2区2号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	桁行3間・梁間2間・南北棟				面積	18.53㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位	N-37°~40°-W				位置	96Q~S-14・15			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
東辺 4.49	P 1	61	51	38	楕円形	1.48	714	土師大4・小2片	
	P 2	56	47	31	楕円形	1.40	656		
	P 3	63	55	41	楕円形	1.52	715		
南辺 4.23	P 4	66	56	37	楕円形	2.11	652		
	P 5	50	45	37	円形	2.14	650		
西辺 4.43	P 6	51	44	37	楕円形	1.55	653		
	P 7	56	51	31	楕円形	1.25	717		
	P 8	45	44	31	円形	1.65	654		
北辺 4.08	P 9	45	42	32	円形	1.93	716		

第10表 2区3号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	桁行3間・梁間2間・南北棟				面積	23.28㎡ 20.66㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位	N-13°~23°-W N-15°~25°-W				位置	96P~R-9・10			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
東辺 5.70	P 1	62	—	46	不明(重複)	1.58	627	土師大6片	
	P 2	48	—	46	不明(重複)	1.93	626		
	P 3	60	55	45	不明(重複)	2.05	625		
南辺 3.88 (南辺) 3.65	P 4	61	54	51	不明(重複)	2.00	624	須恵大1片	
	P 5	51	51	26	隅丸方形	1.88、P13へ1.65	623		
西辺 6.10	P 6	64	—	30	不明(重複)	2.15	622	土師大2片	
	P 7	50	47	37	円形	2.10	691		
	P 8	37	—	33	不明(重複)	1.83	629		
北辺 4.01	P 9	(60)	60	36	円形	2.06	692	土師大3・小2片	
	P10	52	(37)	53	楕円形	1.73	632		
(東辺) 5.62	P11	58	(48)	44	楕円形	1.59	628	土師大140g・小2片	
	P12	45	—	33	不明(重複)		626		
(西辺) 5.75	P13	65	—	41	円形	1.96	622	P 6と同じ	
	P14	57	41	22	楕円形	2.03	690		
	P15	65	50	42	不明(重複)	1.77	629		
(北辺) 3.62	P16	52	49	48	円形	1.95	630	土師大2・小1片	
	P17	51	51	34	円形	P11へ1.65	633		

第11表 2区4号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	桁行2間・梁間2間・南北棟				面積	17.54㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位	N-36°~38°-W				位置	96O・P-12・13			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
東辺 4.13	P 1	53	50	53	円形	2.07	637	土師大2・小1片	
	P 2	58	49	63	楕円形	2.05	636		
南辺 4.19	P 3	50	45	62	楕円形	2.08	635		
	P 4	40	33	63	楕円形	2.18	694		
西辺 4.23	P 5	42	35	61	楕円形	2.06	639		
	P 6	47	42	54	楕円形	2.18	640		
北辺 4.20	P 7	53	48	49	楕円形	2.17	641	土師大2、須恵小1片	
	P 8	46	37	62	楕円形	P 1へ2.08	642		

5号掘立柱建物(第526図、P L .215、第12表)

位置 96O～Q-5～7グリッド。重複 P 2はP11より前出。

主軸方位 N-23～26°-W 面積 24.03㎡

形態 桁行3間・梁間2間の南北棟。西辺は東辺より46cm短く、南辺は北辺より13cm長いため、西辺は東に内傾し、南辺は東下がり傾く。平面形は台形。桁行柱間を平均すると、約1.9467mとなるが、東辺のP 2は南へ13cm、P 3は南へ10cm寄るため、P 3・4の柱間は1.80mと狭い。西辺ではP 7が北へ20cm、P 8が北へ13cm寄るため、P 8・9の柱間が1.75mと狭くなる。ただし、西辺自体が東辺より狭いため、両辺の柱筋のズレは顕著ではない。南北両辺の中間柱はともに5cm西に寄る。P 3には柱痕が残り、P 7・9は柱の抜き取りを想定させる。柱穴の長径では、P 4・5・8が80cmを超えており、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。全体として50cmを超えるものが多く大きい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは概して深く、32～62cmとばらつきがある。詳細な規模・非掲載遺物は第12表のとおり。

は概して深く、32～62cmとばらつきがある。詳細な規模・非掲載遺物は第12表のとおり。

6号掘立柱建物(第527図、P L .215・216、第13表)

位置 96M～O-6・7グリッド。重複 なし。

主軸方位 N-24～27°-W 面積 15.80㎡

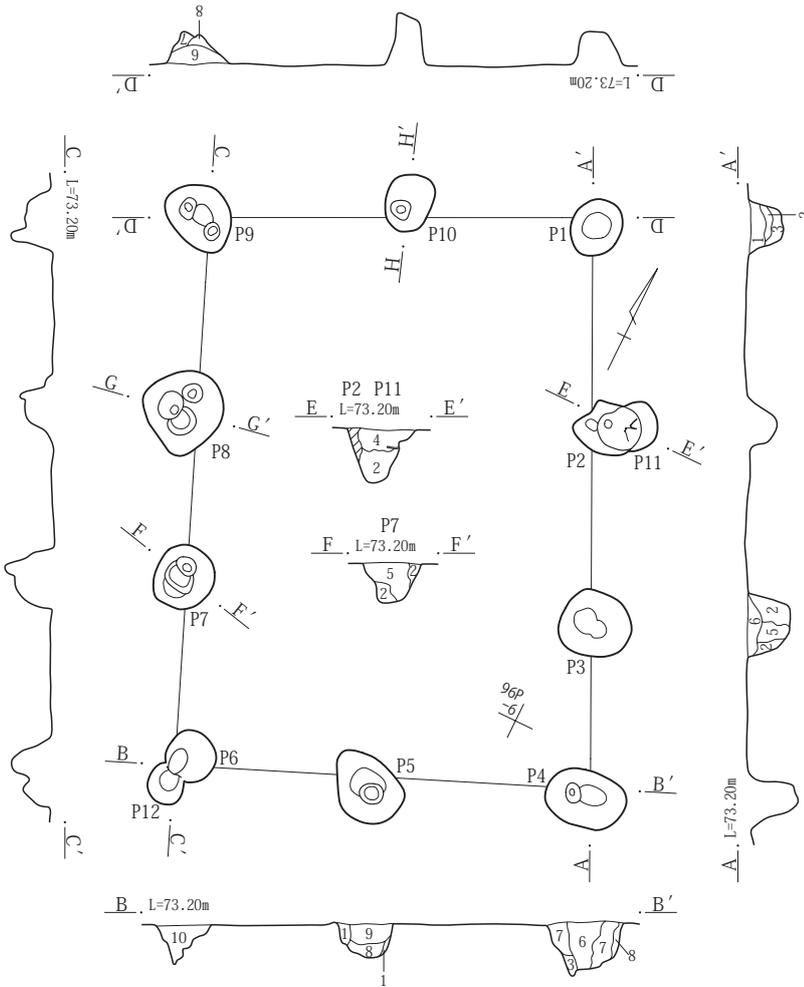
形態 桁行2間・梁間1間の正方形。南辺は北辺より20cm短いため、東辺は東へ外傾する。東辺のP 3は北へ47cm寄り、P 1・3の柱間は1.52mと狭く、更にP 2により等分する。狭いが出入り口の可能性が高い。西辺の中間柱P 6は4cm北へ寄る。柱穴は底面に柱の当たりとなった凹みを持つものが多い。P 5はこの凹みの上位にロームブロックが目立つ暗褐色土が堆積することから、柱の抜き取り後の埋め戻しを思わせる。柱痕は見られない。柱穴の長径はP 2・3がやや小さいが、概ね60cmを超えて大きい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは20～41cmで、南側は確認面も下がっている。詳細な規模・非掲載遺物は第13表のとおり。

第12表 2区5号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		桁行3間・梁間2間・南北棟			面積	24.03㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位		N-23～26°-W			位置	96O～Q-5～7			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
東辺 6.02	P 1	63	52	38	楕円形	2.13、P11へ2.12	677		
	P 2	(61)	50	32	楕円形	2.10	606	土師大5・小5 須恵大3	
	P 3	74	70	45	円形	1.80	676	土師大4・小40g	
南辺 4.18	P 4	84	60	62	楕円形	2.13	589		
	P 5	86	69	42	楕円形	2.08、P12へ2.14	600	土師大3片	
西辺 5.66	P 6	53	52	42	円形	2.08	679		
	P 7	67	61	50	円形	1.85	601	土師大30g	
	P 8	82	81	45	円形	1.75	610	土師大62g	
北辺 4.05	P 9	79	61	50	楕円形	2.01	609	土師大110g・小3片	
	P10	63	49	57	楕円形	P 1へ2.06	678		
	P11	48	-	61	不明(重複)	P 3へ2.12	606	P 2と同じ	
	P12	38	(35)	37	不明(重複)	P7へ2.28	-		

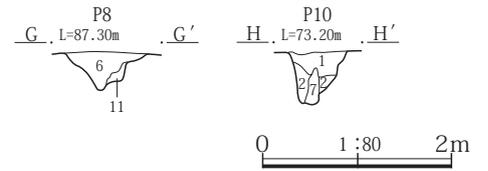
第13表 2区6号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		桁行2間・梁間1間・正方形			面積	15.80㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位		N-24～27°-W			位置	96M～O-6・7			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
東辺 3.93	P 1	61	53	41	楕円形	0.80	592		
	P 2	50	45	34	楕円形	0.72	591	土師大25g・小4片 須恵大1片	
	P 3	47	35	35	楕円形	2.43	590		
南辺 3.90	P 4	55	53	38	円形	3.90	682		
西辺 3.97	P 5	63	58	20	楕円形	2.02	596		
	P 6	64	58	34	楕円形	1.95	595	土師大1・小2片	
北辺 4.10	P 7	70	65	37	円形	P 1へ4.10	594	土師大3、須恵大1片	

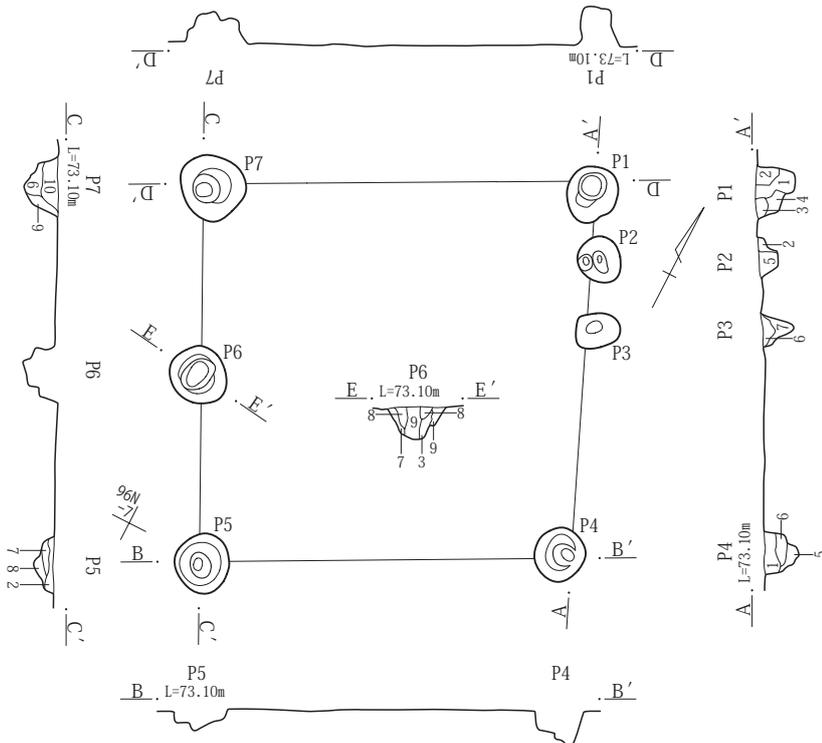


2区5号掘立柱建物

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック・白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 3 ロームブロック 暗褐色土やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 炭化物粒子やや多量、ローム粒子・焼土粒子・白色軽石(F P含)含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子・白色軽石含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 9 暗褐色土 白色軽石やや多量、焼土粒子少量に含む。
- 10 黒褐色土 ローム粒子少量、白色軽石含む。
- 11 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子やや多量に含む。



第526図 2区5号掘立柱建物



2区6号掘立柱建物

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・白色軽石少量に含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石少量、ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子少量、ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 7 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 9 暗褐色土 ローム小ブロック多量、白色軽石含む。
- 10 暗褐色土 白色軽石少量、ローム粒子微量に含む。



第527図 2区6号掘立柱建物

7号掘立柱建物(第528図、P L .216・217、第14表)

位置 96O・P-7・8グリッド。

重複 15号溝より前出で、北西部は消滅する。

主軸方位 N-67°~69°-E 面積 -

形態 桁行3間・梁間2間の東西棟と推定される。桁行柱間を平均すると約1.56mだが、南辺のP5は10cm西へ、P6は12cm西へ寄るため、P6・7の柱間は1.44mと狭い。東辺の中間柱P3は3cm北へ寄る。柱痕も見られず、埋没土に特徴的なものはない。P4・7は長径が64・55cmと若干長い、他の柱穴との重複も想定される。そのほかは46cm前後で均質である。深さも40~53cmとほぼ均質で、柱穴の形態は全て円形・楕円形である。詳細な規模・非掲載遺物は第14表のとおり。

8号掘立柱建物(第529図、P L .217、第15表)

位置 96O・P-4・5グリッド。

重複 P2は582号ピットより前出。110・111号土坑が内部にあるが、埋没土に浅間B軽石を含むことから、後出と考えられる。

主軸方位 N-17°~18°-W 面積 15.39㎡

形態 桁行2間・梁間1間の南北棟。西辺は東辺より14cm長く、全体に北に寄るため、南北辺とも東下がり傾向。P4の埋没土は柱痕状ながら上位から礫混じりのロームが混入し、人為埋没する。P5は埋没後上位を黄褐色土を充填して整地している。こうした状況から、P2部分の582号ピットの場合も、同じく埋填を思わせる。P1・3の長径は重複などの影響で大きい、その他は50~60cmと均質である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは、106cmと特に深いP1を除き、概ね48~69cmとやや深い。詳細な規模・非掲載遺物は第15表のとおり。

9号掘立柱建物(第530図、P L .218、第16表)

位置 96L・M-7~9グリッド。南側が調査区域外となる。

重複 なし。

主軸方位 N-59°-E 面積 -

形態 桁行3間以上・梁間1間の東西棟か。梁側のP5・6は軸組材としては西に寄りすぎている。出入口などの造作と考えられる。桁行柱間を平均すると、約1.993m

だが、北辺のP2は東に22cm、P3は西に5cm寄る。柱痕も見られず、埋没土に特徴的なものはない。P5の長径は78cmと大きく他の柱穴との重複も考えられる。その他は41~58cmでほぼ均質である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは28~57cmとばらつきがある。詳細な規模・非掲載遺物は第16表のとおり。

10号掘立柱建物(第531図、P L .218・219、第17表)

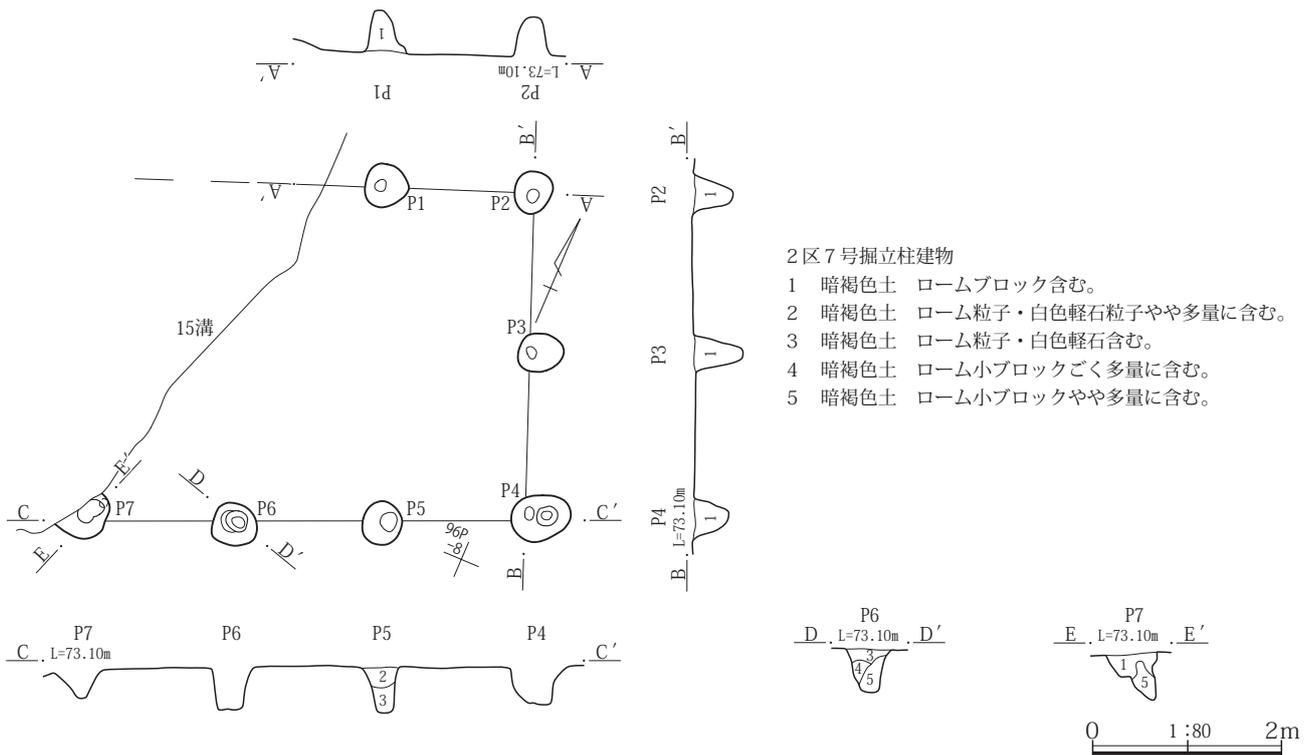
位置 86K・L-19・20グリッド。

重複 P8はP14より後出。P4・5は36号住居と重複するが新旧関係不明。

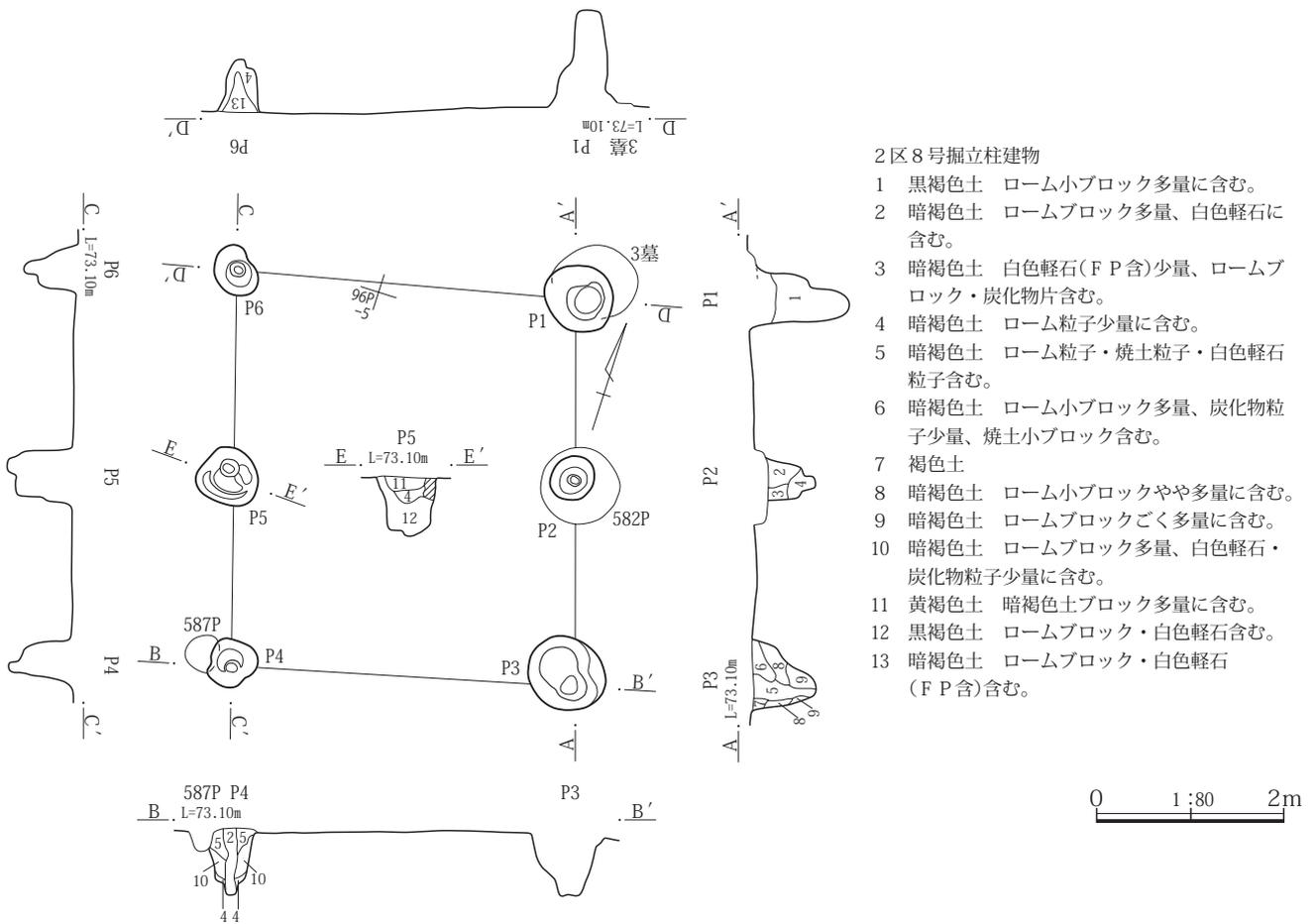
主軸方位 N-19°-W 面積 12.76㎡

形態 桁行2間・梁間2間の正方形で、建て替えによりP1~8の柱穴8基(以下、1段階)と、P9~14(2基は重複により未確認)の6基(以下、2段階)に分かれる。南辺は北辺より9cm長い、東辺は西に内傾する。柱間は多少ばらつきがある。特に東辺のP4は9cm北へ寄り、西辺のP8も北へ15cm寄る。2段階の柱穴は1段階の柱穴を避けたように、P9を軸として左回転方向に軸をずらしている。P5は柱痕が残り、埋没土14は掘り方を充填したものと言える。P8にも柱痕らしい埋没土がある。柱穴の長径は40~59cmと均質で、深さは22~54cmとややばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。詳細な規模・非掲載遺物は第17表のとおり。

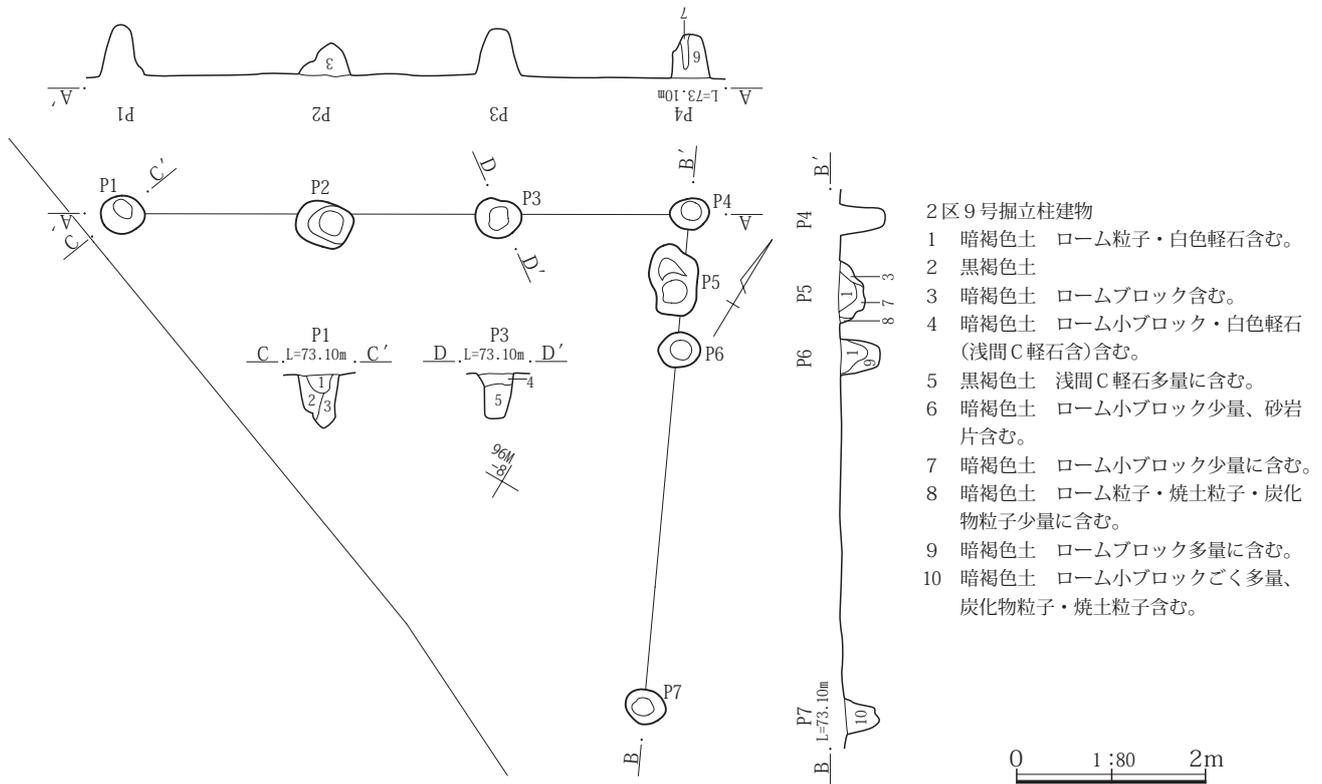
備考 P4は調査段階36号住居P5を名称変更。



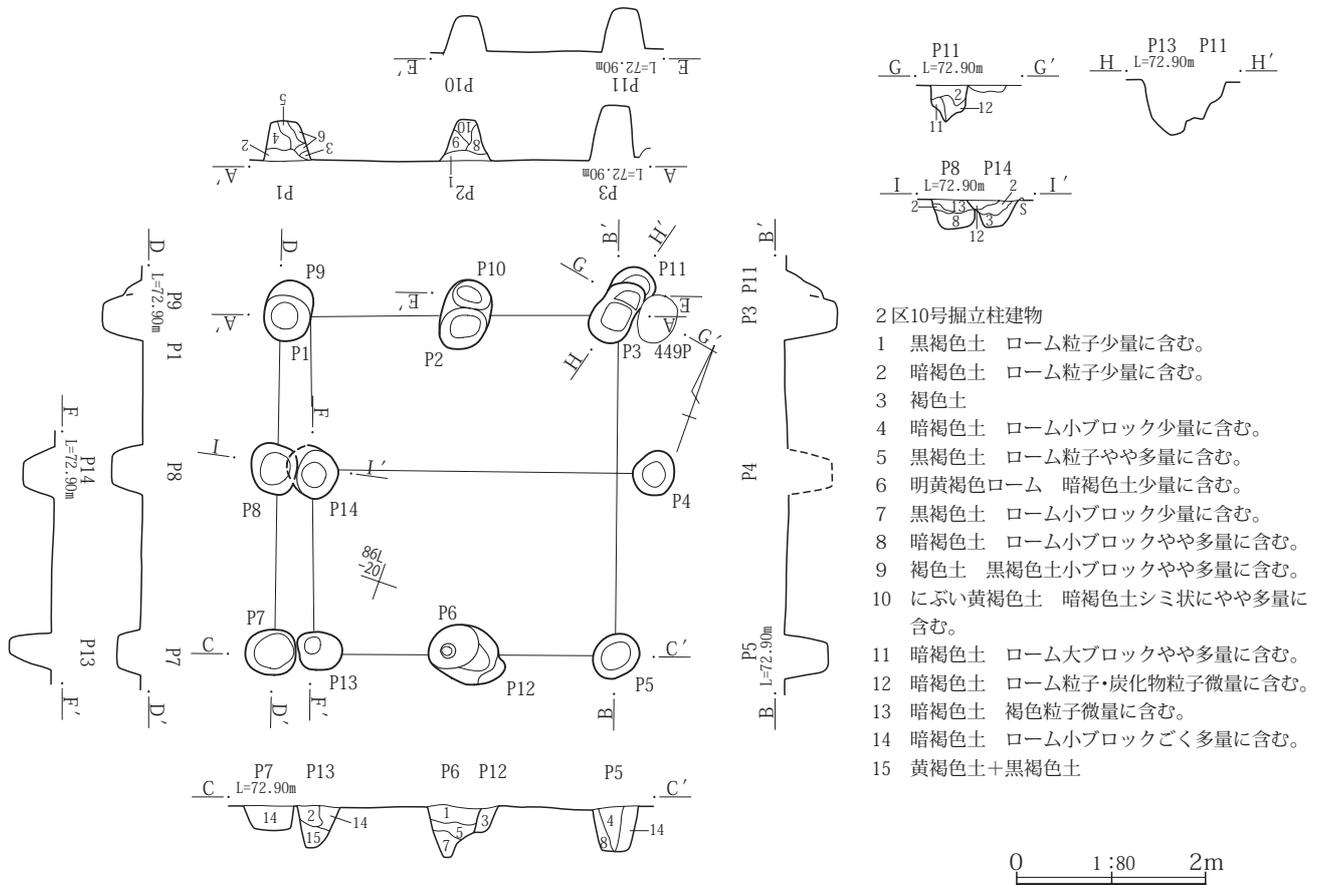
第528図 2区7号掘立柱建物



第529図 2区8号掘立柱建物



第530図 2区9号掘立柱建物



第531図 2区10号掘立柱建物

第4章 発掘調査の記録

第14表 2区7号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		桁行3間・梁間2間・東西棟			面積	—		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位		N-67°~69°-E			位置	960・P-7・8			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
	P 1	46	45	49	円形	1.60		688	
東辺 3.39	P 2	46	38	43	楕円形	1.66		687	
	P 3	47	41	51	楕円形	1.73		686	土師小1片
南辺 4.68	P 4	64	50	40	楕円形	1.66		685	須恵小1片
	P 5	45	42	50	楕円形	1.60		620	
	P 6	48	45	47	楕円形	1.44		619	
	P 7	55	(34)	53	不明	—		684	

第15表 2区8号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		桁行2間・梁間1間・南北棟			面積	15.39㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位		N-17°~18°-W			位置	960・P-4・5			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
東辺 4.13	P 1	78	69	106	楕円形	1.93		693	土師大2・小2片
	P 2	50	45	48	円形	2.20		583	土師大7・小3片 須恵小1片
南辺 3.60	P 3	85	75	68	楕円形	3.60		584	土師大4片
西辺 4.27	P 4	51	—	69	不明(重複)	2.14		586	
	P 5	60	59	68	円形	2.14		681	土師大1片
北辺 3.73	P 6	56	41	56	楕円形	P 1へ3.73		604	

第16表 2区9号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		桁行3間以上・梁間1間・東西棟			面積	—		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位		N-59°-E			位置	96L・M-7~9			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
北辺 5.98	P 1	47	41	57	円形	2.21		617	
	P 2	58	47	29	円形	1.75		614	
	P 3	48	42	49	楕円形	2.04		612	
東辺 5.27	P 4	41	33	44	楕円形	0.86		597	土師大1片
	P 5	78	52	28	楕円形	0.62		598	土師大1片
	P 6	43	36	41	楕円形	3.80		599	
	P 7	42	35	37	楕円形	—		611	

第17表 2区10号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		桁行2間・梁間2間・正方形			面積	12.76㎡		旧ピット No.	非掲載破片
主軸方位		N-19°-W			位置	86K・L-19・20			
桁・梁の規模(m)	柱穴 No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
北辺 3.50	P 1	(49)	48	42	円形	1.89		458	土師小1片
	P 2	50	(43)	44	円形か	1.61		466	土師大1・小1片
東辺 3.60	P 3	(48)	44	54	隅丸方形	1.71		450	土師小2片
	P 4	48	43	46	楕円形	2.00		36住P5	
南辺 3.59	P 5	52	44	41	楕円形	1.78		483	
	P 6	54	(45)	53	楕円形	1.81		274	
西辺 3.60	P 7	52	49	22	隅丸方形	1.95		453	
	P 8	52	49	32	隅丸方形	1.61		455	土師大4・小1片
	P 9	50	(31)	—	不明	1.95		458	P 1と同じ
	P10	40	28	36	楕円形	1.7		466	P 2と同じ
	P11	(40)	39	45	隅丸長方形	—		465	
	P12	59	(55)	26	不明	1.77		274	
	P13	48	41	43	隅丸方形	1.82		454	
	P14	51	(50)	30	隅丸方形か	1.7		456	

3 土坑

2区では土坑102基が検出されたが、ここでは1号屋敷内の土坑41基を除く61基を扱う。平面形は、以下のとおり7種類に分類され、分布もその形態により特徴付けられる。以下、形態別に概要を述べる。ただし、ピット状、不整形は省略する。

土坑形態	数量
隅丸方形・隅丸正方形	7
隅丸長方形	21
細長方形・隅丸細長方形	3
円形・不整円形	18
楕円形・長楕円形	10
ピット状	1
不整形	1
計	61

隅丸方形・隅丸正方形の土坑7基のうち、2号溝周辺の25・36号土坑はやや深く、前者は貯蔵穴と思われ、後者も住居と関連している。その他の5基は比較的大きく皿状で、106号土坑は98号住居と重複して、時期的に近い。残る4基は中世以降とみられ、西端の3基は周辺の隅丸長方形とも関連しよう。東側の26号土坑は3号溝と近接し、隅丸長方形の土坑とも関連する。

隅丸長方形の土坑21基は、概ね中世以降である。分布は4か所程度に分かれ、主軸方位にも違いがある。南西部の3基は北西—南東軸をとる土坑で、101号土坑は壁面が焼けており、3基とも火葬跡の可能性も考えられる。周辺では西側に隣接する綿貫牛道遺跡2区で、火葬跡とそれを囲む1・2号溝がある。前者の溝の延長は、本区の18号溝であることから、一連の墓域に関わると考えられる。ところで、これらの溝で区画された範囲では、内部の遺構が不明確となっているが、北側に分布する80号土坑など6基は、18号溝の走向方位と一致して、真北よりやや東に傾いており、関連がうかがえる。以上の一群の東に隣接する7基は、主軸方位が真北より西にやや傾き、ややまとまりを欠いている。また、94号土坑は北西隅に1基離れる。残る4基は、これらと離れて2号溝近くに位置する。27・66号土坑は、隅丸方形の26号土坑も

合わせて、3号溝と主軸方位が一致しており、中世の可能性が高い。

細長方形・隅丸細長方形の土坑3基は南西端に集中し南北に並ぶ。主軸方位は18号溝や14号溝と一致し、地割とも一致する一群である。

円形・不整円形の土坑18基のうち、6基は底面に粘土を張った痕跡などから、桶を埋設した土坑と思われ、2号溝より西側に点在する。また、確証はないが、15号溝より西側の6基も、形態や埋没土から同様な土坑と考えられる。残る6基のうち72号土坑は、調査区の中央にあり、規模も大きく浅い竪穴状である。また、他の5基は調査区東側に点在し、住居と重複するが、あまり時期差は感じられない。61号土坑は1号屋敷内だが、住居より前出である。

楕円形・長楕円形の土坑10基のうち、103・104号土坑は住居と重複し、床下土坑とも思える。また、同じく住居と重複する65・67・70号土坑3基は、後出で浅く、中世以降まで下がると考えられる。残る5基のうち、79号土坑は唯一長楕円形で、埋没土も黒みが強く深い。ほかの4基は、57号土坑と重複する56号土坑など、隅丸長方形の土坑群と混在しており、埋没土も近似し、中世以降に位置づけられる。

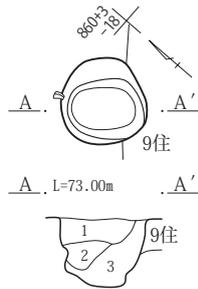
25号土坑(第532・534図、P L .219・321)

位置 86O—18グリッド。9号住居より後出で、10号住居と重複するが新旧関係不明。位置的に10号住居の貯蔵穴の可能性もあるが、調査所見に従う。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位は開き気味。底面は平坦で、東側が楕円形に凹む。埋没土は黒褐色土を主体とし、東側から人為埋没するか。規模は長軸68cm短軸68cm深さ54cmである。埋没土から1の土師器杯が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品137g・同小型品2片が出土している。出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長4cmのクスノキ科の可能性のある割材と判明した。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギーコムギ種子と判明した。出土遺物から古墳時代以降に比定される。

26号土坑(第532図、P L .219)

位置 86N—19グリッド。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面皿状。底面は平坦で、若干凸凹する。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。

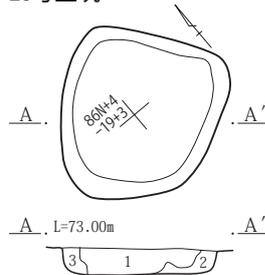
25号土坑



2区25号土坑

- 1 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土粒子。炭化物粒子少量に含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。

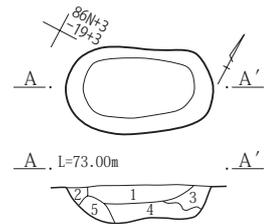
26号土坑



2区26号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子含む。

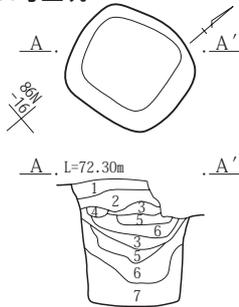
27号土坑



2区27号土坑

- 1 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子やや多量に含む。
- 2 黄褐色土ブロック
- 3 黒褐色土 ややしまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子微量、ローム粒子・焼土粒子含む。
- 5 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック含む。

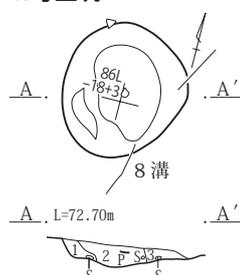
36号土坑



2区36号土坑

- 1 黒褐色土 ややしまり粘性弱い。炭化物少量、ローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土 しまり粘性弱い。ローム大ブロック多量に含む。
- 3 にぶい橙色焼土 上下位に黒色灰含む。
- 4 暗褐色土 堅くしまる。焼土粒子・ローム粒子・炭化物粒子に含む。
- 5 黒褐色土 しまり粘性弱い。焼土粒子・炭化物粒子に含む。
- 6 にぶい黄褐色粘質土 ややしまり弱い。暗褐色土多量に含む。
- 7 にぶい黄褐色粘質土+暗褐色土 互層堆積。ややしまり弱い。

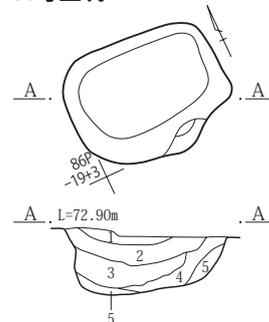
43号土坑



2区43号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量、焼土粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。焼土ブロック多量、ロームブロック少量に含む。
- 3 褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ローム粒子微量に含む。

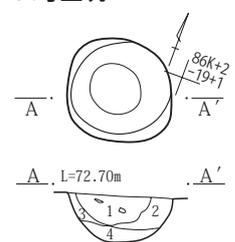
53号土坑



2区53号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子ごく多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 4 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・黒褐色土ブロック含む。
- 5 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。

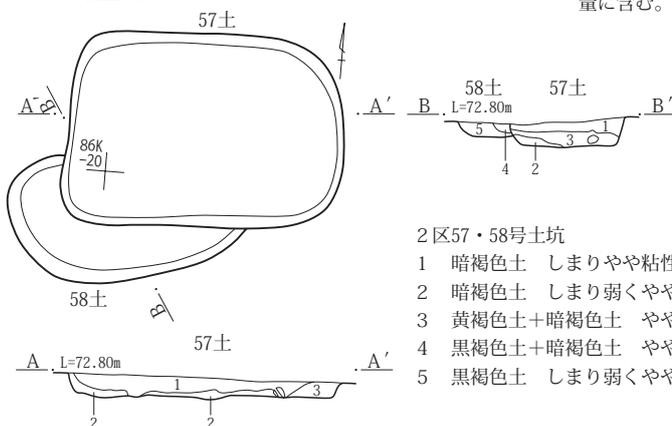
54号土坑



2区54号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子・小円礫含む。
- 2 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。

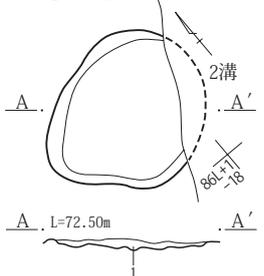
57・58号土坑



2区57・58号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子ごく多量に含む。
- 3 黄褐色土+暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。
- 4 黒褐色土+暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。
- 5 黒褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。

59号土坑

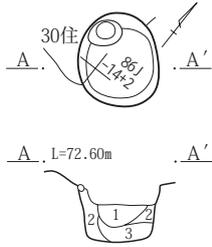


2区59号土坑

- 1 黒褐色土 堅くしまる。

第532図 2区25～27・36・43・53・54・57～59号土坑

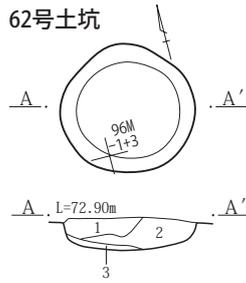
61号土坑



2区61号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子微量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロックやや多量に含む。

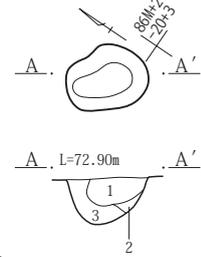
62号土坑



2区62号土坑

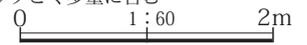
- 1 黒褐色砂質土 しまる。ローム小ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 黒褐色砂質土 しまる。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。

63号土坑

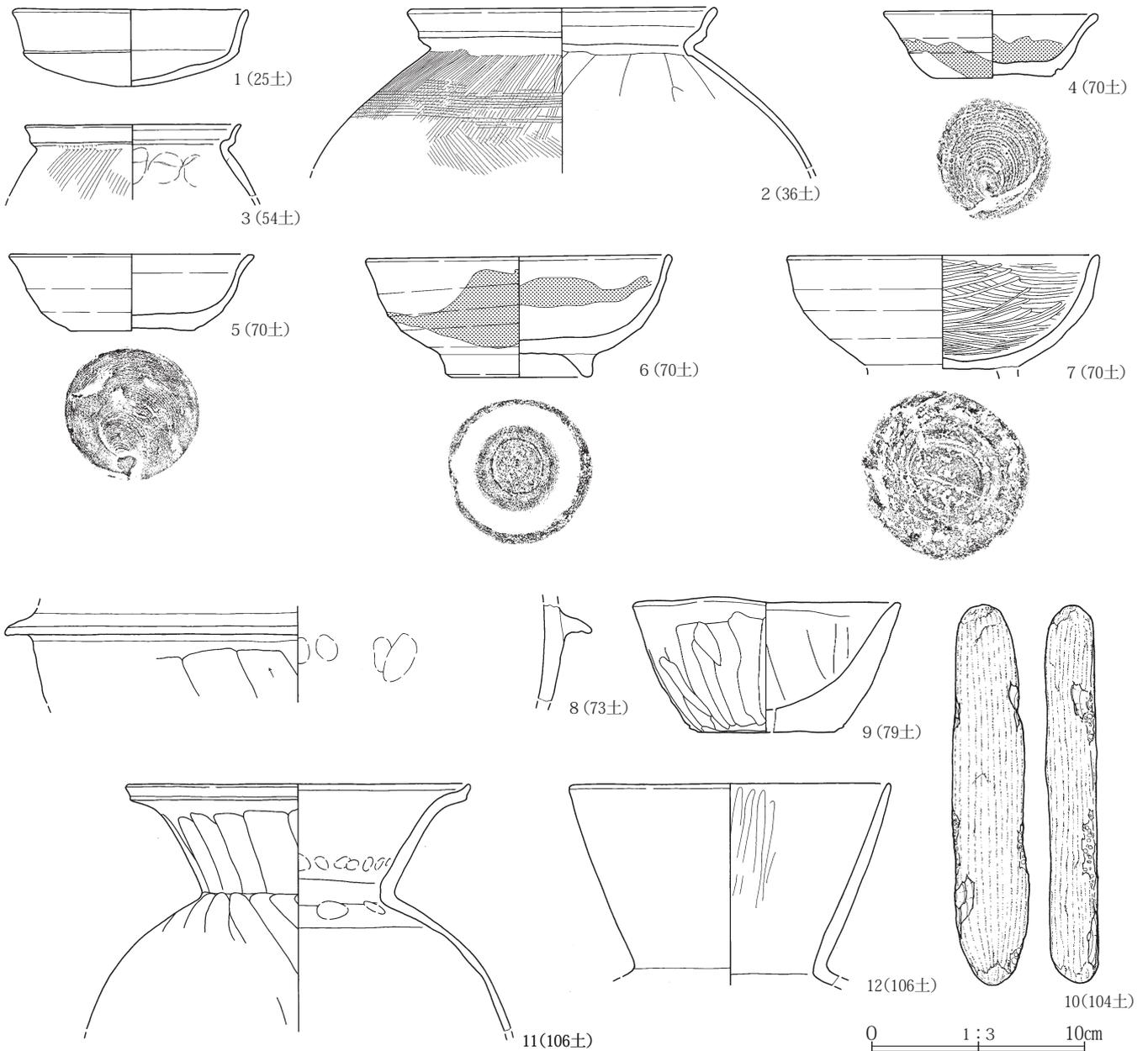


2区63号土坑

- 1 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む



第533図 2区61～63号土坑



第534図 2区土坑出土遺物

規模は長軸135cm短軸123cm深さ26cmである。S字甕38gを含む土師器大型品168g・同小型品25gが出土している。

27号土坑(第532図、P L .219)

位置 86N-19グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-63°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、やや凸凹する。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸125cm短軸68cm深さ27cmである。S字甕40gを含む土師器大型品68gが出土している。

36号土坑(第532・534図、P L .220・321)

位置 86N-15・16グリッド。7号住居より前出。平面形は隅丸正方形。主軸方位はN-73°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土下位はにぶい黄褐色粘質土を主体として人為埋没する。中位の埋没土3は焼土化した粘土層であり、上位を含めて2面存在する。断面形状は丸く、燃焼面として2度使用されたことが判明する。中位より上部は7号住居に伴う可能性が高い。規模は長軸96cm短軸87cm深さ102cmである。埋没土から2の土師器台付甕が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品520g・同小型品98gが出土している。焼土層などで出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、イネ種子がやや多く、ササゲ属アズキ亜科アズキ型種子、オオムギ果実、アワ種子と判明した。7号住居との重複関係から7世紀中頃以前に比定される。

43号土坑(第532図、P L .220)

位置 86K・L-18グリッド。35・36号住居より後出で、8号溝より前出。平面形は円形。壁は斜めに立ち上がり、断面皿状。底面は平坦で、中段がめぐる。埋没土は暗褐色土を主体として自然埋没する。規模は長径106cm短径95cm深さ21cmである。S字甕1片を含む土師器大型品88g・同小型品38gが出土している。

53号土坑(第532図、P L .220)

位置 86P-19グリッド。8号住居より後出で、9号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はE-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸125cm短軸101cm深さ55cmである。S字甕1片を含む土師器大型品62g・同小型品2片が出土している。

54号土坑(第532・534図、P L .220)

位置 86K-19グリッド。36号住居と重複し、内部土坑の可能性もある。平面形は円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みを持ち、一段を持って円形に下がる。埋没土は互層堆積で人為埋没か。規模は長径83cm短径82cm深さ37cmである。埋没土から3の土師器台付甕が出土する。掲載遺物のほか土師器甕1片が出土している。出土遺物から古墳時代以降に比定される。

57・58号土坑(第532図、P L .220)

57号土坑 位置 86J・K-19・20グリッド。58号土坑より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-87°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、やや凸凹する。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸218cm短軸155cm深さ15cmである。S字甕4片を含む土師器大型品6片・同小型品1片が出土している。

58号土坑 位置 86J・K-19・20グリッド。57号土坑より前出。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径(177)cm短径102cm深さ16cmである。S字甕1片を含む土師器大型品5片・同小型品1片が出土している。

59号土坑(第532図、P L .220)

位置 86L-17・18グリッド。2号溝より後出。平面形は円形。削平が著しく残存状態は悪い。断面皿状。底面はやや凸凹する。埋没土はロームブロックを含む粘土で、桶などを埋設する粘土貼り部分と考えられる。規模は長径126cm短径(113)cm深さ10cmである。遺物は出土していない。

61号土坑(第533図)

位置 86I・J-14グリッド。30号住居より前出で、28号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形。底面は平坦で、一部ピット状に凹む。自然埋没か。規模は長径75cm短径64cm深さ40cmである。S字甕3片を含む土師器大型品70gが出土している。

62号土坑(第533図、P L .220)

位置 96L・M-1グリッド。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没。規模は長径106cm短径103cm深さ20cmである。形状から桶を埋設した土坑とみられる。S字甕1片を含む土師器大型品4片・同小型品2片が出

土している。

63号土坑(第533図、P L .220)

位置 86M-20グリッド。平面形は不整楕円形。断面はピット状。埋没土1は均質で、2・3はロームブロックを多量に含んで充填土である。規模は長径65cm短径51cm深さ34cmである。土師器大型品1片が出土している。

64号土坑(第535図、P L .220)

位置 86I-15グリッド。49号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は円形で、断面ピット状。埋没土2は柱痕状で、1は充填土。規模は長径63cm短径57cm深さ46cmである。土師器大型品4片・同小型品2片、須恵器小型品1片が出土している。

65号土坑(第535図、P L .220)

位置 96P-2グリッド。53号住居より後出。上面平面形は楕円形で、中位から方形気味となる。壁はほぼ垂直で、中位から斜めに開く。底面は凸凹する。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径73cm短径62cm深さ54cmである。遺物は出土していない。

66号土坑(第532図、P L .221)

位置 86O-20グリッド。42・45号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-36°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、やや凸凹する。自然埋没か。規模は長軸170cm短軸73cm深さ32cmである。土師器大型品2片・同小型品5片が出土している。

67号土坑(第535図、P L .221)

位置 96M・N-1グリッド。64号住居より後出。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径102cm短径77cm深さ21cmである。S字甕5片を含む土師器大型品7片・同小型品4片が出土している。

68号土坑(第535図、P L .221)

位置 96K-3グリッド。57号住居より後出。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径68cm短径64cm深さ21cmである。遺物は出土していない。

69号土坑(第535図、P L .221)

位置 96J-3グリッド。58号住居より後出。平面形は円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径

104cm短径(74)cm深さ25cmである。S字甕2片を含む土師器大型品3片が出土している。

70号土坑(第534・535図、P L .321)

位置 96M-3グリッド。62号住居より後出。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径(128)cm短径(115)cm深さ23cmである。ほぼ完形の須恵器椀(6)、黒色土器(7)、須恵器杯(4・5)がまとまって出土した。7の黒色土器椀は伏せられた状態であった。出土した種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、アワ種子が多量、ダイズ属種子、マメ科種子、イネ種子が微量と判明した。出土遺物から10世紀中頃に比定される。

72号土坑(第535図、P L .221)

位置 96M・N-7グリッド。平面形は円形。壁は緩やかに立ち上がり、断面皿状。底面はほぼ平坦で、わずかに凸凹する。埋没土は暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。規模は長径302cm短径247cm深さ8cmである。遺物は出土していない。

73号土坑(第534・535図、P L .221)

位置 96S-12グリッド。73・74号住居より後出。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径116cm短径114cm深さ32cmである。壁面にタガの痕跡が一部見られるため、桶を埋設した土坑であろう。埋没土から8の土師器羽釜が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1片・同小型品2片が出土している。出土遺物は混入であろう。

74号土坑(第535図、P L .222)

位置 96T-14グリッド。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径115cm短径107cm深さ16cmである。土師器大型品3片・同小型品2片が出土している。

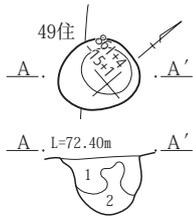
75号土坑(第535図、P L .222)

位置 96T-15グリッド。平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、やや凸凹する。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径168cm短径150cm深さ17cmである。S字甕1片を含む土師器大型品4片・同小型品1片、須恵器小型品2片が出土している。

76号土坑(第535図、P L .222)

位置 96T-12グリッド。北側の一部は調査区域外とな

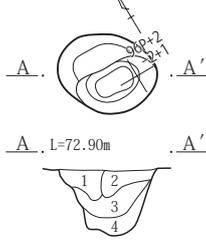
64号土坑



2区64号土坑

- 1 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。明黄褐色ロームを縞状に含む。
- 2 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。やや粘性あり。ロームブロック少量に含む。

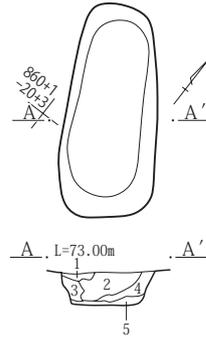
65号土坑



2区65号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ロームブロック少量に含む。

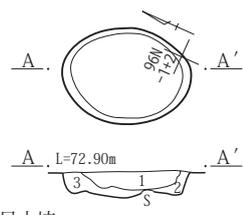
66号土坑



2区66号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 3 黄褐色土 ややしまりやや砂質。暗褐色土ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 5 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。

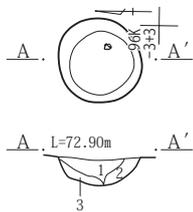
67号土坑



2区67号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子やや多量に含む。

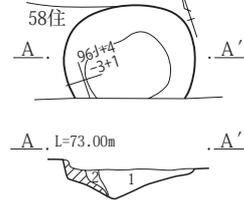
68号土坑



2区68号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。
- 3 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。

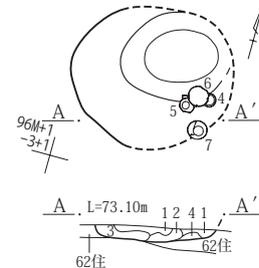
69号土坑



2区69号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 2 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子ごく多量に含む。

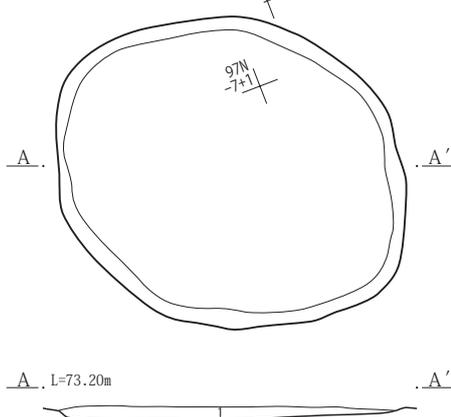
70号土坑



2区70号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム小ブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム小ブロック多量に含む。
- 3 黄褐色土+ロームブロック しまりやや粘性強い。
- 4 ロームブロック しまりやや粘性強い。

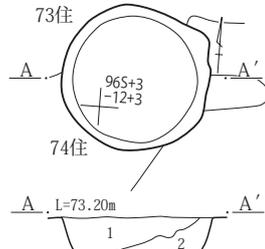
72号土坑



2区72号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック少量に含む。

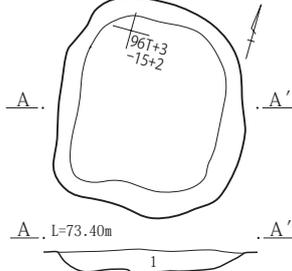
73号土坑



2区73号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。焼土小ブロック・炭化物粒子・ローム粒子含む。

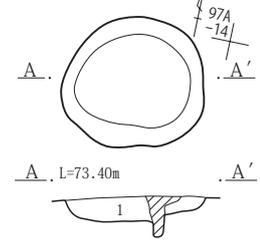
75号土坑



2区75号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子少量、白色軽石含む。

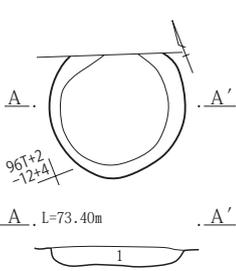
74号土坑



2区74号土坑

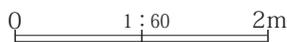
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。白色軽石含む。

76号土坑



2区76号土坑

- 1 暗褐色砂質土 ややしまり弱い。浅間B軽石多量、ロームブロック含む。



第535図 2区64～70・72～76号土坑

る。平面形は円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石を含み均質で人為埋没か。規模は長径111cm短径107cm深さ14cmである。S字甕1片を含む土師器大型品2片・同小型品5片が出土している。

77号土坑(第536図、P L .222)

位置 96S・T-11グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-32°-W。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立つが自然埋没か。規模は長軸200cm短軸102cm深さ14cmである。S字甕48gを含む土師器大型品60gが出土している。

78号土坑(第536図、P L .222)

位置 96S・T-10グリッド。平面形は不整楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径165cm短径122cm深さ9cmである。土師器小型品4片が出土している。

79号土坑(第534・536図、P L .222・321)

位置 96R-10グリッド。平面形は長楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。自然埋没とみられる。規模は長径211cm短径90cm深さ41cmである。埋没土から9の土師器手捏ねが出土する。掲載遺物のほか土師器大型品310g・同小型品60g、須恵器大型品1片が出土している。

80・81号土坑(第536図、P L .222)

80号土坑 位置 96R・S-13グリッド。81号土坑より前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-12°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没。規模は長軸190cm短軸118cm深さ24cmである。S字甕3片を含む土師器大型品55g・同小型品50g、須恵器大型品2片が出土している。

81号土坑 位置 96R・S-13グリッド。80号土坑より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-26°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石を含み均質で人為埋没。規模は長軸183cm短軸110cm深さ30cmである。土師器大型品2片が出土している。

82号土坑(第536図、P L .222・223)

位置 96R・S-13・14グリッド。平面形は楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は浅間B軽石を含み、残存する深さが浅いため、埋没状況不詳。

規模は長径127cm短径100cm深さ6cmである。遺物は出土していない。

83号土坑(第536図、P L .223)

位置 96S-13・14グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-71°-W。壁は緩やかに立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石を含み、ロームブロックが目立ち人為埋没。規模は長軸200cm短軸137cm深さ10cmである。遺物は出土していない。

84号土坑(第536図、P L .223)

位置 96Q-12グリッド。72号住居より後出。平面形は隅丸長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面上位にロームブロック混土が水平堆積し、床面状を呈するが、硬化していない。自然埋没とみられる。規模は長軸221cm短軸220cm深さ42cmである。S字甕90gを含む土師器大型品410g・同小型品75g、須恵器小型品4片が出土している。

85・97号土坑(第536図、P L .224)

85号土坑 位置 96P・Q-12・13グリッド。72号住居より後出で、97号土坑より前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-64°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没。規模は長軸245cm短軸150cm深さ23cmである。遺物は出土していない。

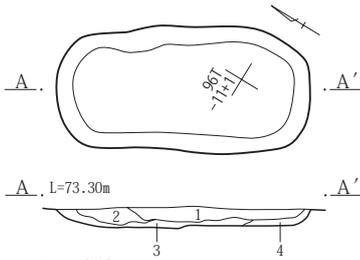
97号土坑 位置 96P・Q-12・13グリッド。72号住居、85号土坑より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-50°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。西側から埋められる。上位に黄褐色土が堆積するが、締め固められてはいない。規模は長軸197cm短軸175cm深さ55cmである。S字甕100gを含む土師器大型品185g・同小型品4片、須恵器小型品1片が出土している。

86・87号土坑(第537図、P L .223)

86号土坑 位置 96S-14グリッド。87号土坑より前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-17°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸176cm短軸(55)cm深さ12cmである。遺物は出土していない。

87号土坑 位置 96S-14グリッド。86号土坑より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-16°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸219cm短軸98cm深さ20cmである。遺物は出土していない。

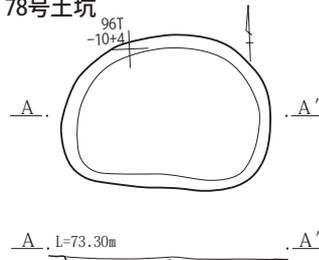
77号土坑



2区77号土坑

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ロームブロックごく多量、白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。白色軽石少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子ごく多量に含む。

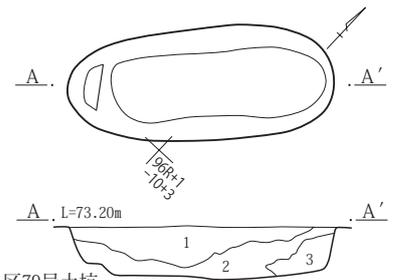
78号土坑



2区78号土坑

- 1 暗褐色土 しまり粘性強い。ロームブロック・白色軽石・焼土粒子含む。

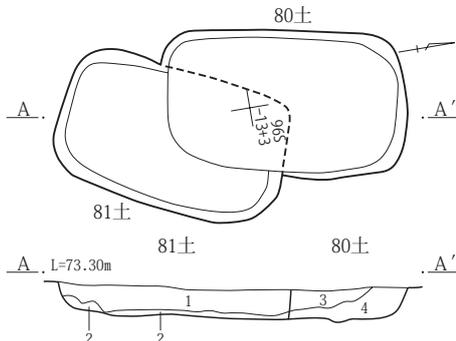
79号土坑



2区79号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・白色軽石(F P 含)含む。
- 2 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック少量、白色軽石(F P 含)含む。
- 3 黒褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子少量に含む。

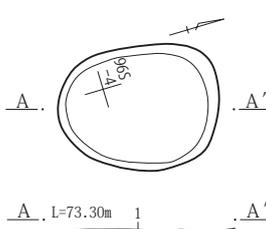
80・81号土坑



2区80・81号土坑

- 1 暗褐色砂質土 しまる。ローム粒子少量、浅間B軽石多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子含む。

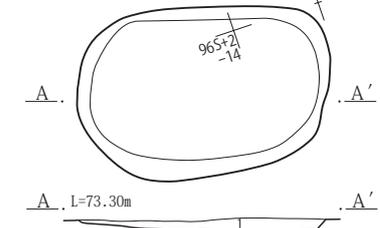
82号土坑



2区82号土坑

- 1 暗褐色砂質土 しまる。浅間B軽石多量に含む。

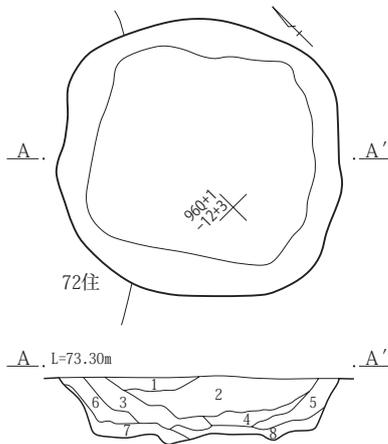
83号土坑



2区83号土坑

- 1 暗褐色砂質土 しまる。ロームブロック多量、浅間B軽石多量に含む。

84号土坑

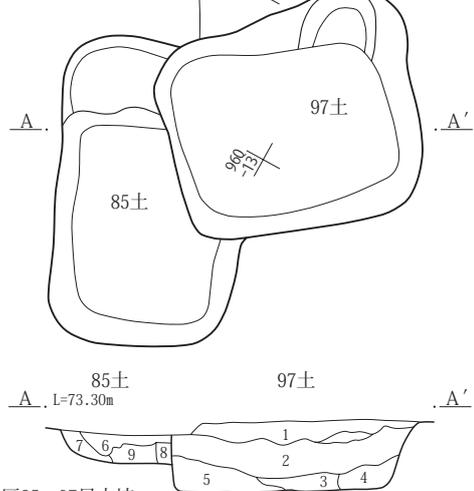


2区84号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物粒子微量、焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子微量、白色軽石(F P 含)、小円礫含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子やや多量に含む。
- 5 黒褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量に含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。

0 1:60 2m

85・97号土坑



2区85・97号土坑

- 1 黄褐色土 しまりやや粘性あり。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量、白色軽石(F P 含)含む。
- 3 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子多量、白色軽石(F P 含)、円礫含む。
- 5 褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム粒子多量、焼土粒子少量、白色軽石(F P 含)含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、白色軽石やや多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子ごく多量、白色軽石少量に含む。
- 8 暗褐色土 しまり弱い。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 9 黄褐色土 しまりやや粘性あり。暗褐色土多量、ローム粒子・白色軽石含む。

第536図 2区77～85・97号土坑

88号土坑(第537図、P L .223)

位置 96S-14・15グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-22°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石、ロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸159cm短軸105cm深さ22cmである。S字甕3片を含む土師器大型品8片・同小型品3片が出土している。

89号土坑(第537図、P L .223)

位置 96S-15グリッド。平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土は浅間B軽石を含み、ロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径110cm短径96cm深さ8cmである。遺物は出土していない。

90号土坑(第537図、P L .223)

位置 96O・P-12グリッド。4号掘立柱建物の内部に位置するが、状況から後出とみられる。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-20°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸148cm短軸130cm深さ8cmである。遺物は出土していない。

91号土坑(第537図、P L .223)

位置 96N・O-10・11グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-11°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸150cm短軸104cm深さ29cmである。S字甕3片を含む土師器大型品8片・同小型品19片が出土している。

92号土坑(第537図、P L .224)

位置 96P-11グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-19°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸88cm短軸76cm深さ7cmである。土師器大型品3片・同小型品5片が出土している。

93号土坑(第537図、P L .224)

位置 96R-11グリッド。平面形は円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径90cm短径80cm深さ19cmである。土師器小型品6片が出土している。

94号土坑(第537図、P L .224)

位置 97A-15グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方

位はN-46°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸139cm短軸104cm深さ25cmである。S字甕3片を含む土師器大型品6片が出土している。

95号土坑(第537図、P L .224)

位置 96S-15・16グリッド。平面形は隅丸長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面近くで水平に黒褐色土が堆積し、強く締まることから使用面となっていたとみられる。黒褐色土下面は凸凹する。規模は長軸165cm短軸162cm深さ31cmである。土師器大型品3片が出土している。

96号土坑(第537図、P L .224)

位置 96S・T-16グリッド。平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、やや凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径148cm短径130cm深さ11cmである。S字甕2片、須恵器小型品1片が出土している。

98号土坑(第537図、P L .224)

位置 96Q・R-16・17グリッド。17号溝より後出で、19号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は細長方形。主軸方位はN-14°-E。壁は垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、やや凸凹する。埋没土は浅間B軽石、ロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸527cm短軸74cm深さ21cmである。遺物は出土していない。

99号土坑(第538図、P L .224)

位置 96R-13グリッド。平面形は楕円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、やや凸凹する。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径112cm短径92cm深さ24cmである。遺物は出土していない。

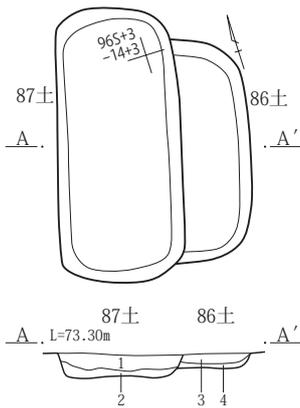
100号土坑(第538図、P L .224・225)

位置 96S-11グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-24°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸111cm短軸60cm深さ10cmである。S字甕4片を含む土師器大型品8片・同小型品5片が出土している。

101号土坑(第538図、P L .225)

位置 96Q-16グリッド。18・19号溝より前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-43°-W。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。壁面は若干焼土化する。底面は平坦で、炭化物が多く付着する。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸95cm短軸68cm深さ22cmである。人骨など

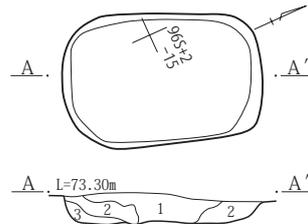
86・87号土坑



2区86・87号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。ロームブロック少量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色砂質土 しまる。砂多量、ローム粒子少量を含む。
- 3 暗褐色砂 しまる。ローム粒子少量を含む。
- 4 暗褐色砂質土 しまる。ローム粒子微量、炭化物粒子含む。

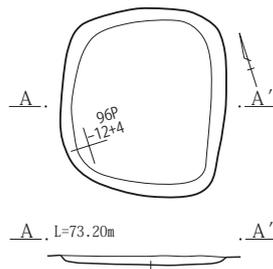
88号土坑



2区88号土坑

- 1 暗褐色砂質土 しまる。ロームブロック多量を含む。
- 2 暗褐色砂質土 ややしまる。浅間B軽石多量、ローム小ブロック少量を含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや砂質。ローム粒子やや多量を含む

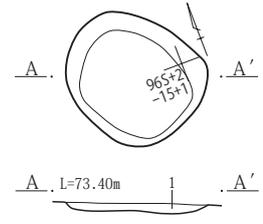
90号土坑



2区90号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。ロームブロック少量、白色軽石(F P 含)含む。

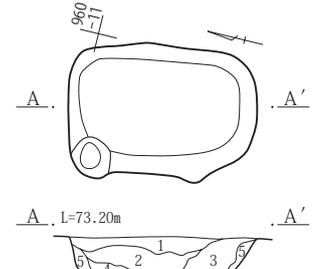
89号土坑



2区89号土坑

- 1 暗褐色砂質土 しまる。ローム小ブロック少量、浅間B軽石含む。

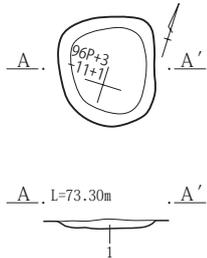
91号土坑



2区91号土坑

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子・白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子・白色軽石(F P 含)含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量を含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。ローム粒子多量を含む。
- 5 暗褐色土 ローム小ブロック少量を含む。

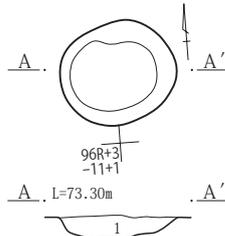
92号土坑



2区92号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量、白色軽石(F P 含)微量を含む。

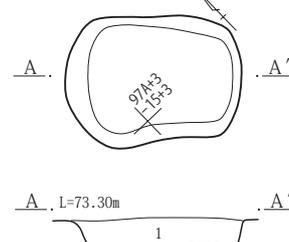
93号土坑



2区93号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量、白色軽石(F P 含)微量を含む。

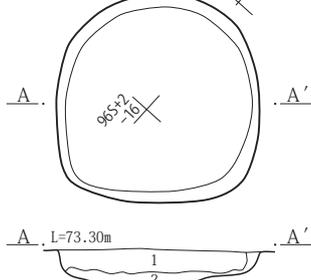
94号土坑



2区94号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。黒褐色土ブロックやや多量、白色軽石(F P 含)含む。

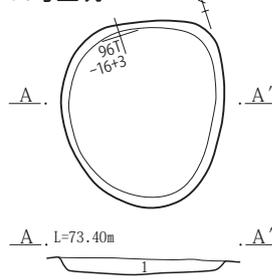
95号土坑



2区95号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、白色軽石(F P 含)含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック・白色軽石(F P 含)含む。

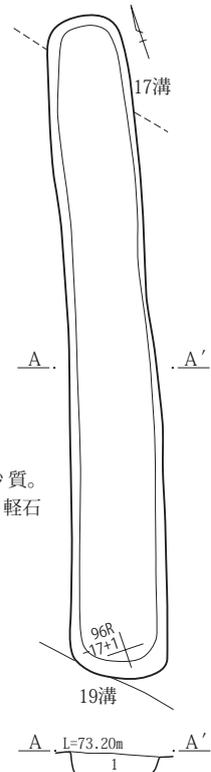
96号土坑



2区96号土坑

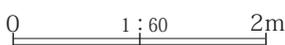
- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック多量、白色軽石(F P 含)含む。

98号土坑



2区98号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや砂質。ロームブロック少量、浅間A軽石または浅間B軽石含む。



第537図 2区86～96・98号土坑

は出土していないが、状況から火葬跡の可能性もある。S字甕1片を含む土師器大型品76g・同小型品50gが出土している。

102号土坑(第538図、P L .225)

位置 96P・Q-3・4グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-46°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、やや大きな炭化物が出土する。埋没土は均質で人為埋没か。焼土粒子を含むが、壁面の焼土化は見られない。規模は長軸117cm短軸55cm深さ14cmである。出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長5cmのクリの割材と判明した。状況から火葬跡の可能性はある。土器・石器は出土していない。

103号土坑(第538図、P L .225)

位置 96S-12・13グリッド。74号住居より前出。床下土坑とも思えるが、調査所見に従う。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径68cm短径61cm深さ38cmである。遺物は出土していない。

104号土坑(第534・538図、P L .225・321)

位置 96S-13グリッド。73号住居より前出。床下土坑とも思えるが、調査所見に従う。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径70cm短径46cm深さ38cmである。埋没土から10の敲石が出土する。掲載遺物のほか、土師器大型品1片が出土している。

105号土坑(第538図、P L .225)

位置 96P・Q-16グリッド。18号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-43°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土は中位以下に多量の炭化物片を含む。壁面の焼土化は見られない。規模は長軸132cm短軸72cm深さ30cmである。土師器大型品1片が出土している。出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、残存長2cmのクリの割材と判明した。状況から火葬跡の可能性はある。

106号土坑(第534・538図、P L .225)

位置 96P-15グリッド。98号住居、18号溝より前出。平面形は隅丸長方形で、竪穴状。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。床面・硬化面は確認されていない。埋没土は暗褐色土を主体として自然埋没する。規模は長軸217cm短軸213cm深さ16cmである。中央南寄りの

埋没土から土師器壺(11)、同直口壺(12)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品385gが出土している。出土遺物から古墳時代以降に比定される。

107・108号土坑(第538図、P L .225)

107号土坑 位置 96P・Q-17グリッド。108号土坑より前出。平面形は隅丸細長方形。主軸方位はN-19°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、やや凸凹する。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸482cm短軸112cm深さ30cmである。108号土坑と合わせて、土師器大型品2片・同小型品3片が出土している。

108号土坑 位置 96P・Q-17・18グリッド。107号土坑より後出。平面形は隅丸細長方形。主軸方位はN-17°-E。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没。規模は長軸519cm短軸(98)cm深さ12cmである。

109号土坑(第538図、P L .226)

位置 96Q-7グリッド。86号住居、708号ピットより後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-13°-W。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸208cm短軸129cm深さ18cmである。S字甕1片が出土している。

110号土坑(第538図)

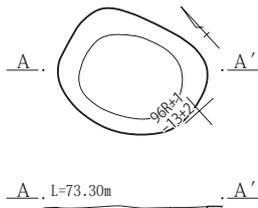
位置 96O-4グリッド。8号掘立柱建物内に位置するが、後出と考えられる。平面形は整った円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石を含み、ロームブロックを多量に含んで人為埋没。規模は長径95cm短径93cm深さ17cmである。形態から桶を埋設したものであろう。S字甕2片を含む土師器大型品72g・同小型品17g、須恵器大型品2片・同小型品2片が出土している。

備考 調査段階585号ピットを名称変更。

111号土坑(第538図)

位置 96O-4・5グリッド。8号掘立柱建物内に位置するが、後出と考えられる。平面形は整った円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石を含み、ロームブロック、褐色粘土ブロックを多量に含んで人為埋没。規模は長径89cm短径89cm深さ8cmである。形態から桶を埋設したものであろう。遺物は出土していない。

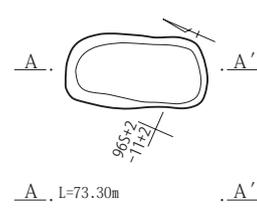
99号土坑



2区99号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子ごく多量に含む。

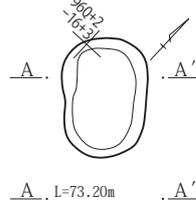
100号土坑



2区100号土坑

- 1 黒褐色土 ややしまり強くやや粘性弱い。ローム粒子多量、炭化物粒子やや多量、焼土粒子含む。

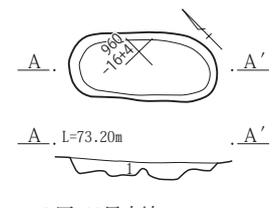
101号土坑



2区101号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。

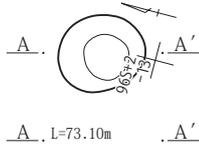
102号土坑



2区102号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子微量、炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。

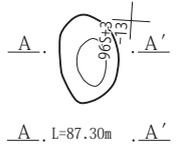
103号土坑



2区103・104号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ロームブロック含む。

104号土坑



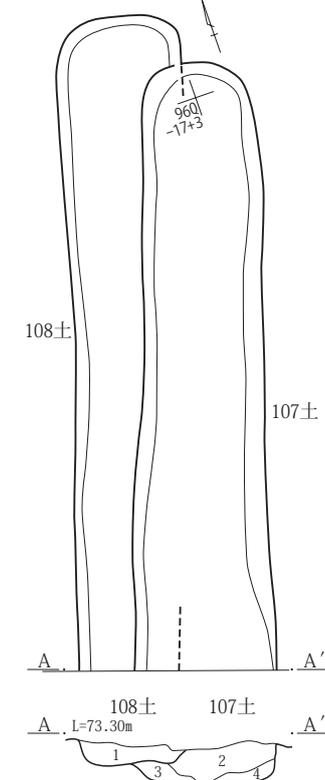
105号土坑



2区105号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物片多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・炭化物片含む。

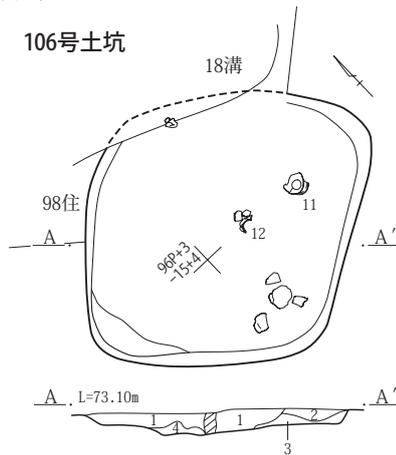
107・108号土坑



2区107・108号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロック・浅間B軽石含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや砂質。ローム小ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、黒褐色土ブロックやや多量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまりやや砂質。ローム小ブロック少量に含む。

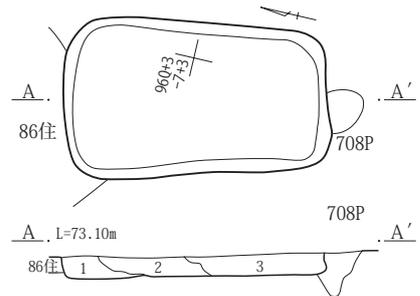
106号土坑



2区106号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。炭化物片少量、ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土小ブロック少量に含む。

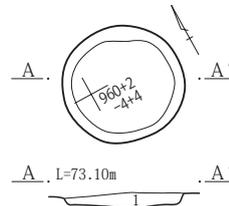
109号土坑



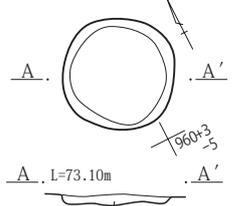
2区109号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、炭化物粒子・白色軽石(F P 含)含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、白色軽石(F P 含)含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、炭化物粒子・白色軽石(F P 含)含む。

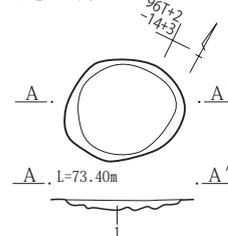
110号土坑



111号土坑

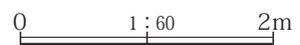


112号土坑



2区110～112号土坑

- 1 暗褐色砂質土 ローム小ブロック多量、浅間B軽石含む。



第538図 2区99～112号土坑

備考 調査段階588号ピットを名称変更。

112号土坑(第538図)

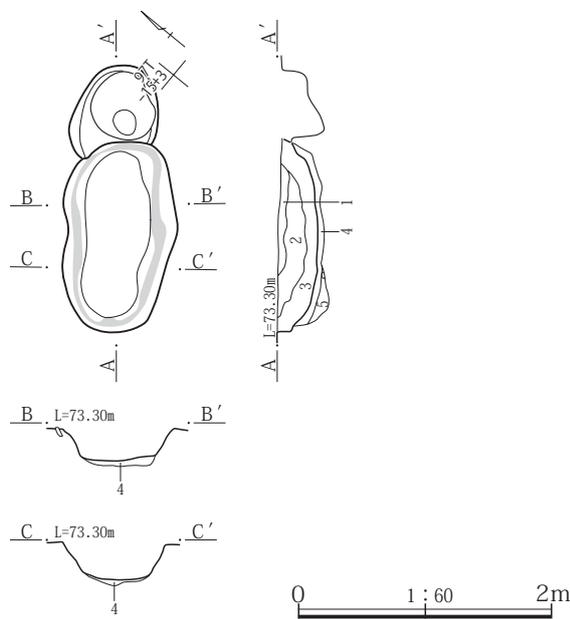
位置 96T-14グリッド。平面形は整った円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は浅間B軽石、ロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長径87cm短径85cm深さ7cmである。形態から桶を埋設したものであろう。土師器大型品4片・同小型品2片が出土している。

備考 調査段階603号ピットを名称変更。

4 窯

1号窯(第539図、P.L.226)

位置 96S-15グリッド。平面形は長楕円形で、北側に不整形の土坑が隣接するため、あわせて扱う。主軸方位はN-51°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持ち、炭化物が全面に広がる。炭化物層を除去した底面は、全く焼土化していない。壁面は確認面まで焼土化する。自然埋没と思われる。規模は長径151cm短径88cm深さ34cmである。円形土坑の形状はピット状で、長楕円部より後出のため、伴うものか疑問があるが、主軸



1号窯

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子少量、ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 炭化物ごく多量、焼土小ブロック含む。
- 4 炭化物+灰 焼土小ブロック少量に含む。
- 5 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。

第539図 2区1号窯

も一致している。内部は全く焼けていない。規模は長径151cm短径88cm深さ34cmである。S字甕30gを含む土師器大型品85g・同小型品1片が出土している。

5 井戸

1号屋敷部分を除外して、2号溝西方では5基の井戸が検出されているが、1号屋敷内でも古代となる2号井戸も加えて、6基をここで扱う。

2号井戸は、井戸側として方形に石組みを積み上げる形態で、古代としては希少な遺構に属する。他の5基は全て中世と考えられる。生活遺物の出土が多いが、中世に限れば周辺で墓や火葬跡、溝以外の遺構は見つかっていない。

2号井戸(第540・541図、P.L.226・227・322)

位置 86M-15・16グリッド。

重複 状況から7号住居より後出と思われる。1号屋敷内に位置するが、中世ではないため、ここで扱う。

確認面形状と規模 ほぼ正方形で竪穴状の掘り方を持つ。長軸298cm短軸250cm深さ110cmである。井筒上面も正方形で、規模は長軸154cm短軸135cmである。高さ70cm程度の石組みが残っており、本来上面まで積まれていたものとみられる。

底面形状と規模 円形で径62cm。中央は更に径42cmの円筒形に掘り込まれる。

断面形 井筒は円筒形で、上面は正方形の掘り方を持つ。

深さ 3.28m。

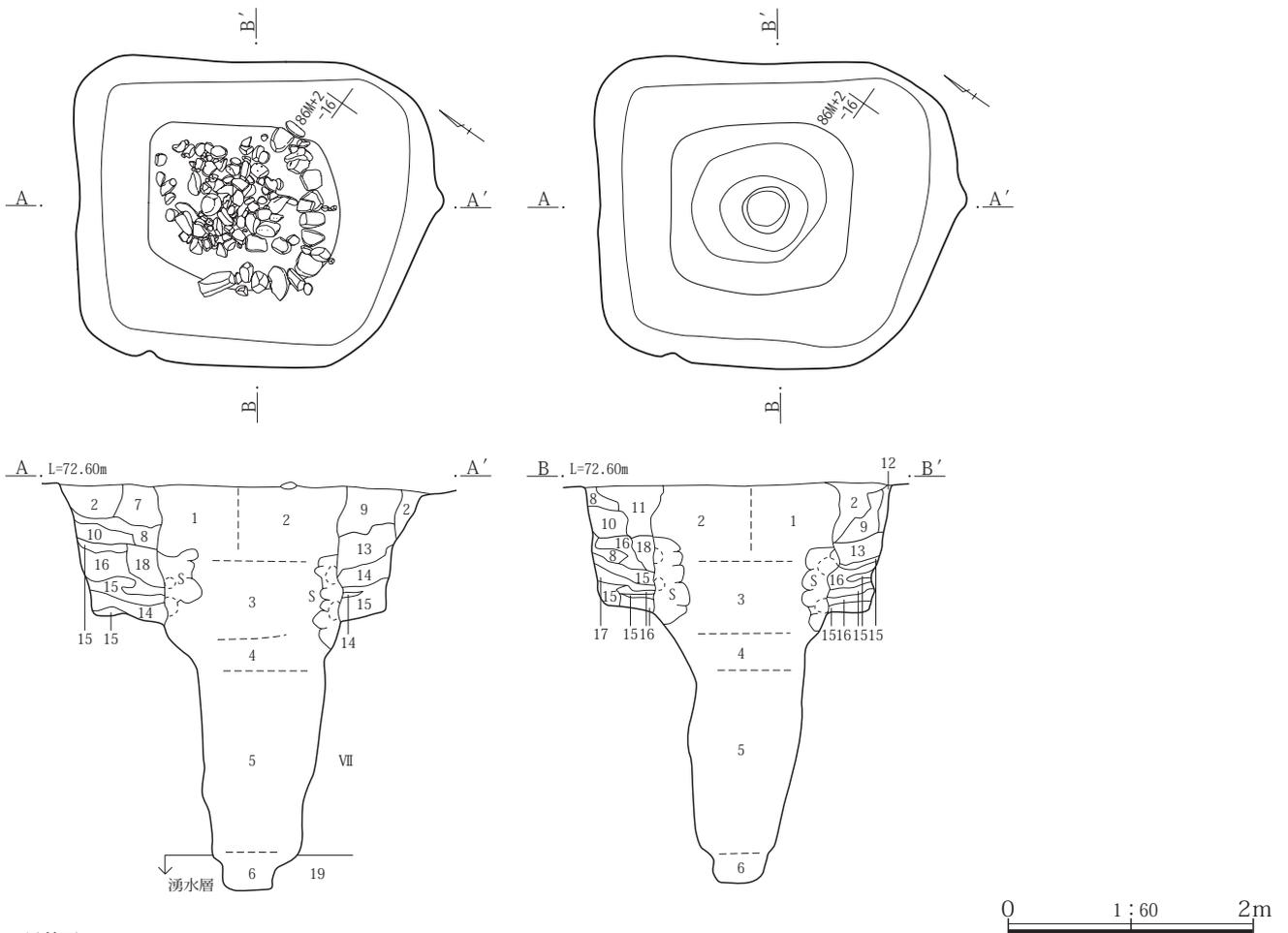
埋没状況 井筒部分の埋没土のうち、最下層の6は自然埋没か。それより上位は、掘削時の所見で人為埋没と記録されている。石組みの外側は、暗褐色土とにぶい黄橙色土により交互に埋められている。

湧水層 掘削業者所見により、深さ3.00m以下である。

調査時の湧水量は、にじみ出る程度と記録されている。

出土遺物 埋没土から土師器蓋(1)、須恵器杯(2)、土師器甕(3)、曲物の底板、側板(4~9)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品1590g・同小型品770g、須恵器大型品1520g・同小型品640gが出土している。

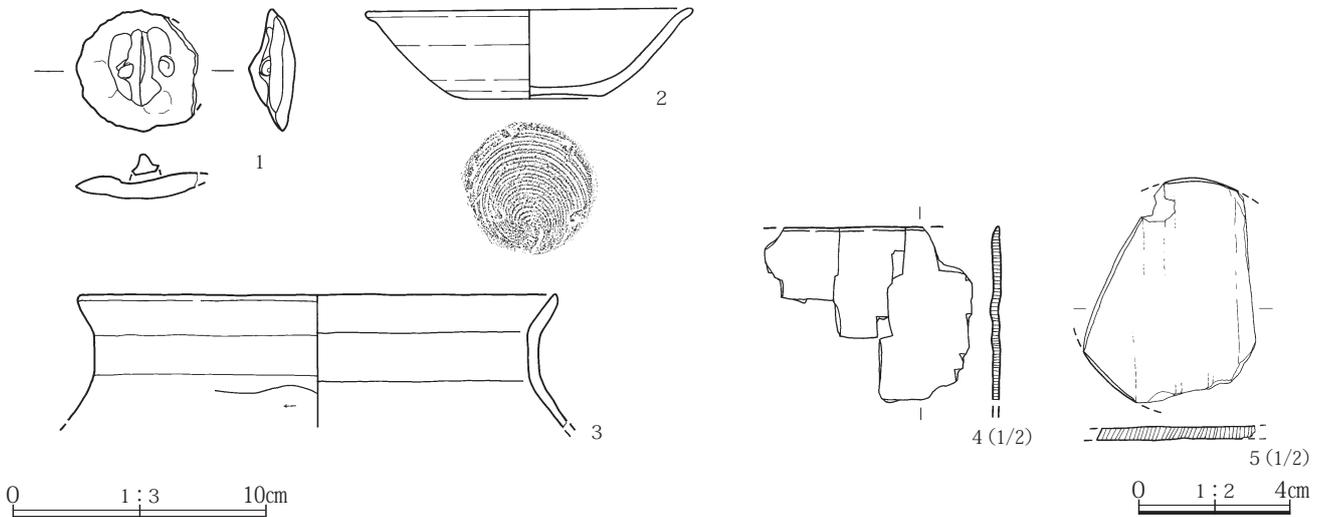
時期 出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。



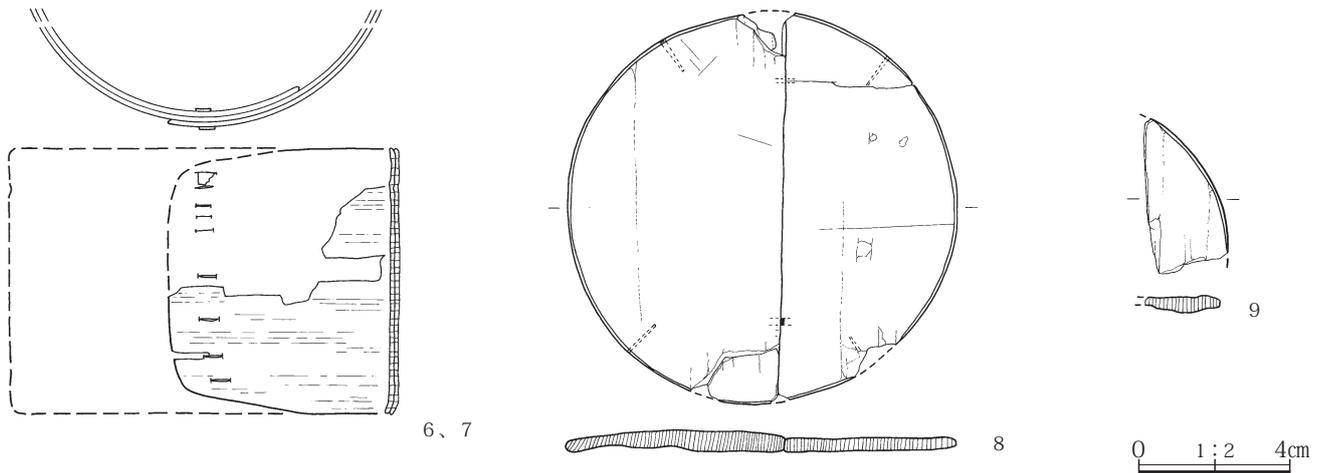
2号井戸

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム大ブロックごく多量に含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 巨礫多量に含む。
- 4 黒褐色土
- 5 褐灰色土 白色軽石多量に含む。
- 6 灰褐色土
- 7 にぶい黄褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム大ブロック多量に含む。
- 8 黒褐色土 ローム大ブロックやや多量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子少量、白色軽石・小円礫少量に含む。

- 10 暗褐色土 堅くしまる。ロームを層状に多量に含む。
- 11 褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 12 暗褐色土+ローム大ブロック
- 13 暗褐色土+ローム小ブロック 堅くしまる。
- 14 暗褐色土+ローム大ブロック しまる。互層堆積
- 15 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 16 にぶい黄褐色土 しまる。白色軽石・小礫多量に含む。
- 17 褐色土 暗褐色土含む。
- 18 灰褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
- 19 褐灰色砂 白色軽石多量に含む。湧水層。

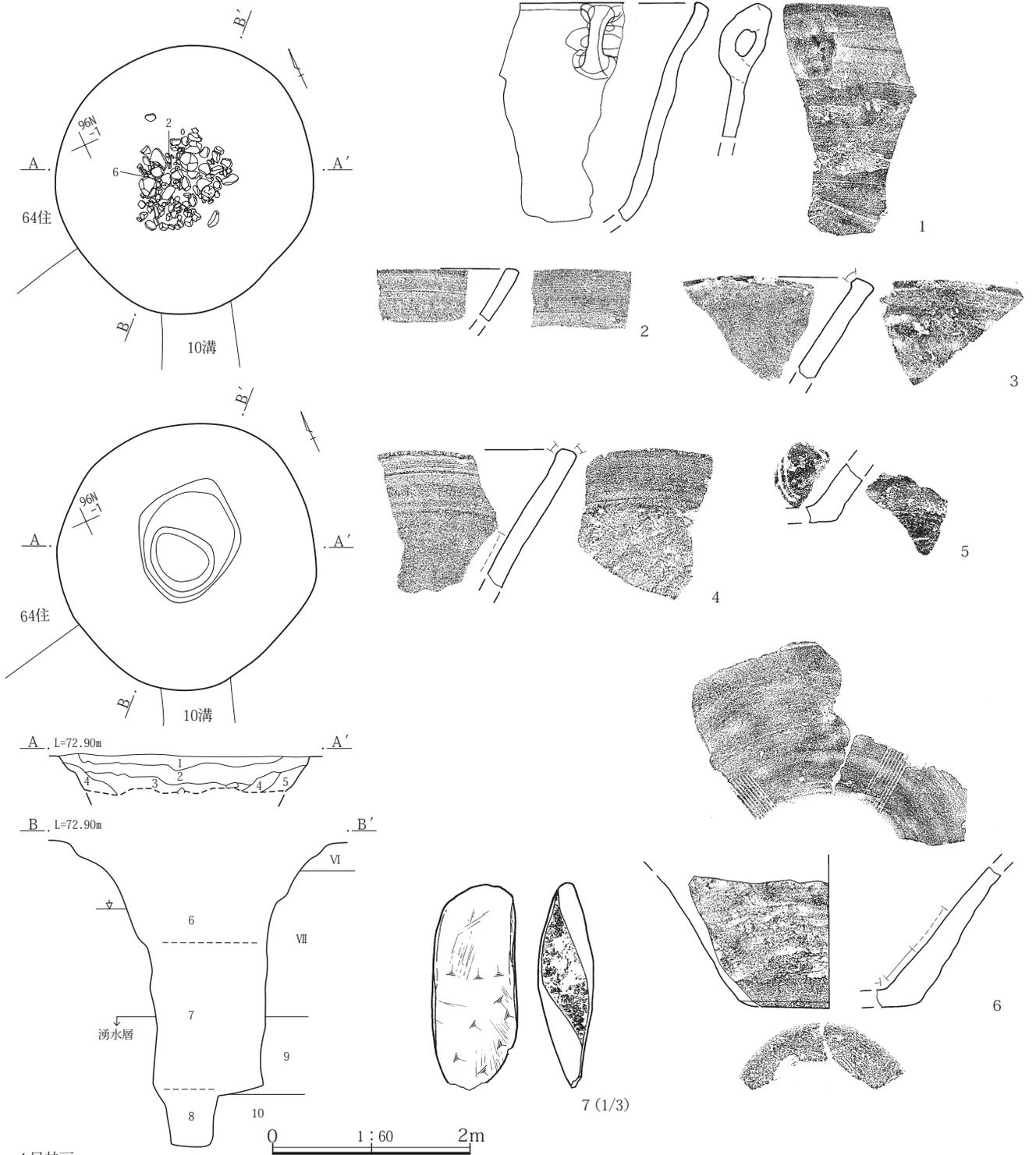


第540図 2区2号井戸と出土遺物(1)



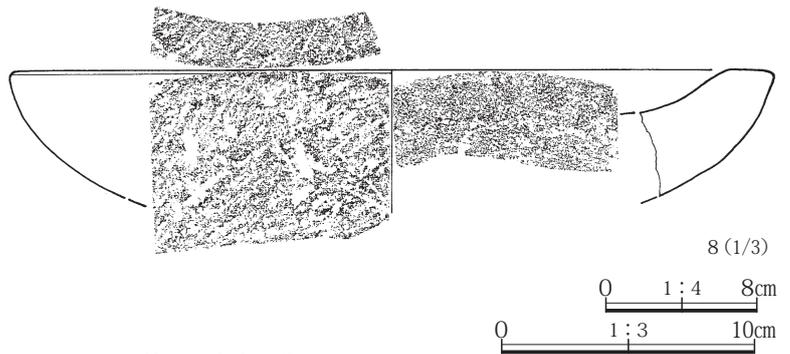
第541図 2区2号井戸出土遺物(2)

4号井戸(第542図、P L .227・322)**位置** 86M・N-20、96M・N-1 グリッド。**重複** 64号住居、10号溝より後出。**確認面形状と規模** 円形。長径266cm短径260cm。**底面形状と規模** 不整円形で、長径130cm短径104cm。底面西側は更に径60cmの円筒形に掘り込まれる。**断面形** 漏斗状。深さ3.10m。**埋没状況** 埋没土は下位から砂を主体としており人為埋没。上位は円形に大巾円礫で埋まり、埋没時は井筒が残っていたと考えられる。最上位に浅間A軽石を含むが、沈下してできた凹みに随時落ち込んだ程度である。**湧水層** 掘削業者所見により、深さ1.80m以下である。調査時の自然水位は深さ0.60mの位置にあり、湧水量は毎分約20Lと記録されている。**出土遺物** 埋没土から在在系土器鍋鉢を主体に、茶白(8)も出土する。在在系土器は14世紀後半から16世紀にわたる。掲載遺物のほか土師器大型品470g・同小型品110g、須恵器大型品150g・同小型品150g、埴輪4片が出土している。**時期** 出土遺物から16世紀を下限とすると考えられる。**6号井戸**(第543・544図、P L .228)**位置** 96L-1 グリッド。**重複** 状況から55号住居より後出。**確認面形状と規模** 円形。長径128cm短径114cm。**底面形状と規模** 円形。長径65cm短径62cm。**断面形** 円筒形で、最上位が若干開く。深さ2.40m。**埋没状況** 底面から黒褐色土と黒褐色砂質土が互層堆積し人為埋没するが、上位は埋まりきらず、土坑状に残され、埋没土4は壁面からの崩落を含みながら自然埋没する。最上位は浅間A軽石を含むが、こうした状況で混入したと考えられる。**湧水層** 掘削業者所見により、深さ1.40m以下である。調査時の自然水位は深さ0.70mの位置にあり、湧水量は毎分約20Lと記録されている。**出土遺物** 埋没土から1の在在系土器片口鉢が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品278g・同小型品2片が出土している。**時期** 出土遺物から15世紀前半以降に埋没したと考えられる。**7号井戸**(第543・544図、P L .228)**位置** 96N-7・8 グリッド。**重複** 状況から91号住居より後出。**確認面形状と規模** 円形。長径220cm短径194cm。**底面形状と規模** 円形。長径58cm短径50cm。**断面形** 漏斗状。深さ3.26m。**埋没状況** 明黄褐色砂質土を主体として、西方向から上位まで一気に埋められる。上位は自然埋没と見られるが、埋没土1は浅間B軽石が多いため、人為埋没の可能性もある。**湧水層** 調査所見はないが、深さ約2mと約2.6m付近に大きなえぐり込みがみられ、使用時の水位と考えられる。**出土遺物** 埋没土から在在系土器内耳鍋(2・3)が出土



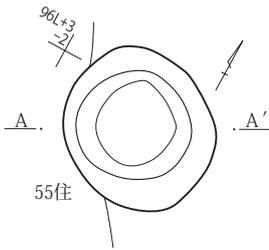
4号井戸

- 1 暗褐色砂質土 堅くしまる。浅間A軽石多量に含む。
- 2 暗褐色砂質土 しまる。浅間A軽石・焼土粒子少量、小円礫含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。
- 4 暗褐色土 ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・小円礫含む。
- 6 黒褐色土 巨円礫多量に含む。
- 7 黒褐色砂
- 8 褐灰色砂
- 9 褐灰色土 白色軽石・円礫含む。
- 10 灰白色砂

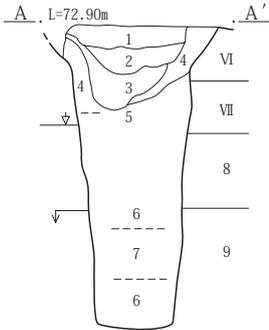


第542図 2区4号井戸と出土遺物

6号井戸



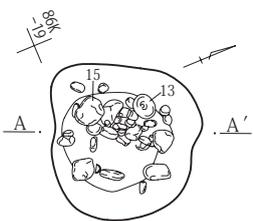
55住



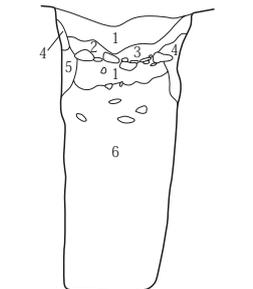
6号井戸

- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム小ブロック少量、浅間A軽石含む。
- 2 暗褐色砂質土 ややしまり弱い。焼土粒子・浅間A軽石含む。
- 3 黒褐色土 ややしまり弱くやや砂質。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 5 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 6 黒褐色土
- 7 黒褐色砂質土
- 8 褐灰色土 白色軽石・円礫含む。
- 9 灰色砂 白色軽石・円礫多量に含む。

9号井戸



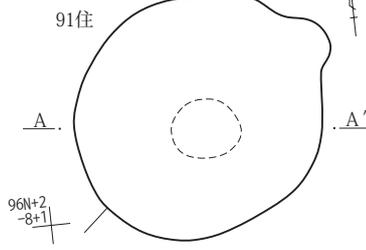
L=72.30m



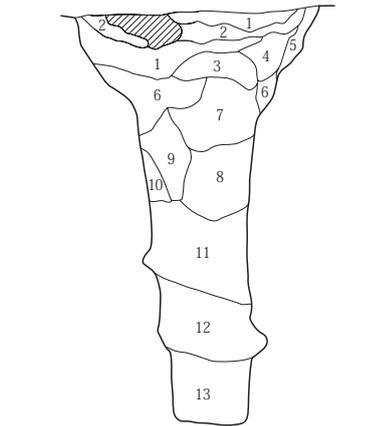
9号井戸

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・白色軽石(F P含)含む。
- 2 暗褐色砂質土 ややしまり弱い。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒子微量に含む。
- 5 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子ごく多量に含む。
- 6 暗褐色土+暗褐色砂 互層堆積。ローム小ブロック含む。

7号井戸



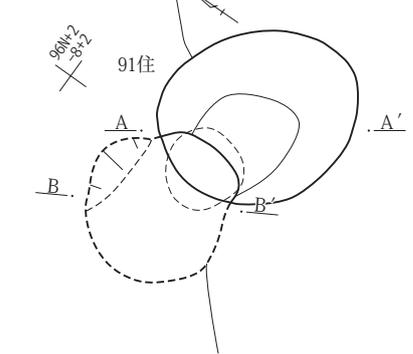
L=73.10m



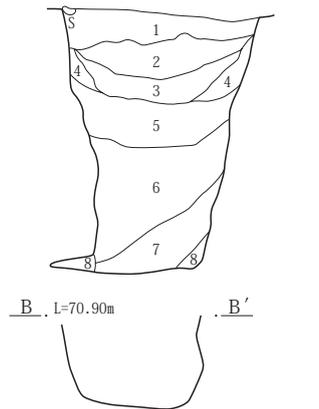
7号井戸

- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。浅間B軽石多量、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・白色軽石含む。
- 3 暗褐色土 空隙ありしまりない。砂・ローム粒子含む。
- 4 暗褐色砂質土 しまり弱い。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロック・ローム粒子少量に含む。
- 7 暗褐色土 大きな空隙多くあり。ローム小ブロック・小円礫含む。
- 8 明黄褐色砂質土+褐色土 層状堆積。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック縞状に含む。
- 10 暗褐色土 明黄褐色土ブロック含む。
- 11 明黄褐色砂質土+褐色土
- 12 褐色土+黒褐色土 互層堆積。
- 13 明黄褐色土+黒褐色土 互層堆積。上位に円礫集中。

8号井戸



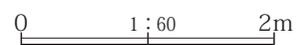
L=73.00m



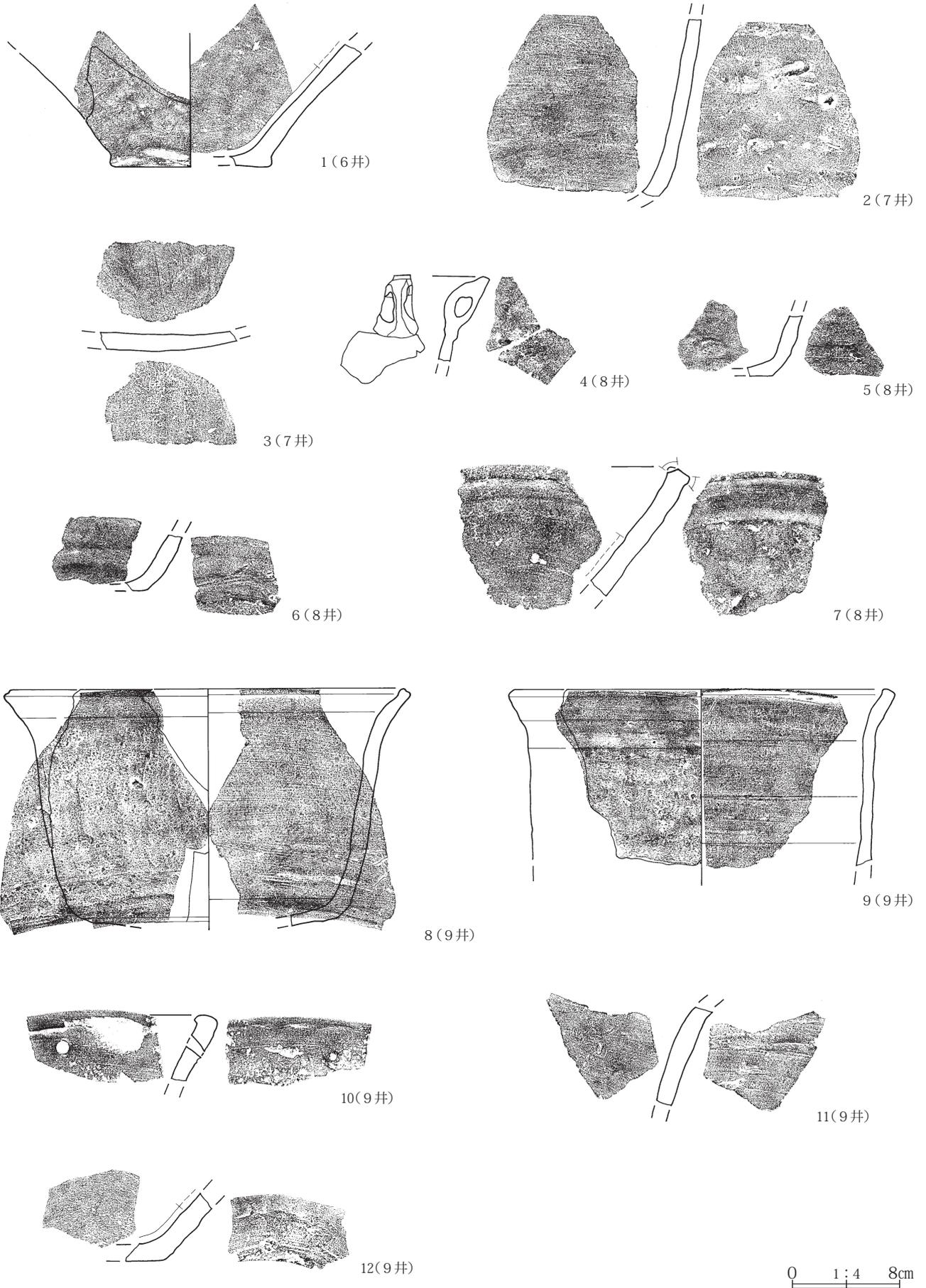
L=70.90m

8号井戸

- 1 暗褐色土 しまり粘性弱い。円礫多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや砂質。
- 3 黒褐色土 ややしまり弱くやや砂質。
- 4 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 5 黒褐色砂質土 ややしまる。浅間B軽石多量、ローム粒子少量に含む。
- 6 暗褐色砂質土 ややしまり弱い。浅間B軽石多量、ローム小ブロック含む。
- 7 にぶい黄橙色土 しまり強くやや粘性強い。
- 8 にぶい黄橙色土 暗褐色土含む。



第543図 2区6~9号井戸



第544図 2区井戸出土遺物(1)

する。出土した少量の未炭化種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、モモ核、センダン核と判明した。掲載遺物のほか土師器大型品281g・同小型品150g、須恵器大型品2片が出土している。

時期 出土遺物から14世紀後半から15世紀前半以降に埋没したと考えられる。

8号井戸(第543・544図、P L.228)

位置 96N-8グリッド。

重複 状況から91号住居より後出。

確認面形状と規模 円形。長径160cm短径133cm。

底面形状と規模 円形。長径124cm短径122cm。

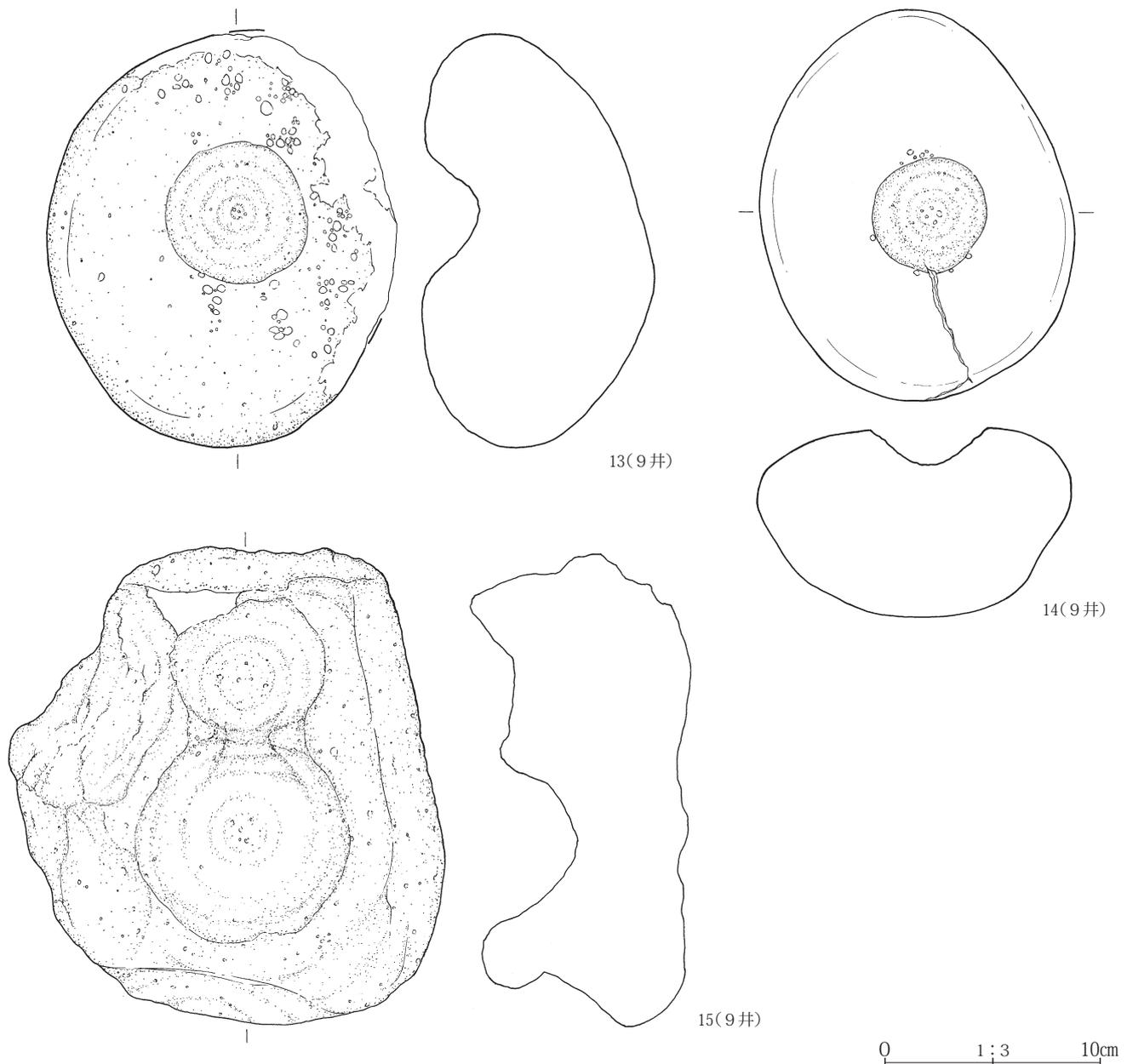
断面形 円筒形で、最下位は西側へ大きくずれる。深さ2.04m。

埋没状況 下位はにぶい黄橙色土を主体に南方向から埋まり、壁面の崩落か人為埋没と考えられる。中位は均質な砂質土で人為的に埋められ、上位は自然埋没か。

湧水層 大きくえぐれた部分は見られない。

出土遺物 埋没土から在地系土器鍋鉢(4~7)が出土する。掲載遺物のほか土師器大型品88g・同小型品38g、須恵器大型品1片・同小型品40gが出土している。

時期 出土遺物から14世紀後半から15世紀前半以降に埋没したと考えられる。



第545図 2区井戸出土遺物(2)

9号井戸(第543～545図、P.L.228・229・322)

位置 86J・K-18グリッド。

重複 2・8号溝と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模 隅丸方形に近い円形。長径136cm短径127cm。

底面形状と規模 円形。長径83cm短径80cm。

断面形 円筒形。深さ2.25m。

埋没状況 底面から暗褐色土と暗褐色砂の互層により人為的に埋められ、上位には大中円礫が多量に廃棄される。

最上位は重複もあり、埋没状況不詳。

湧水層 大きくえぐれた部分は見られない。

出土遺物 埋没土から在来系土器鍋鉢類がやや多く出土する。また、中央に凹みを持つ楕円礫(13～15)は用途

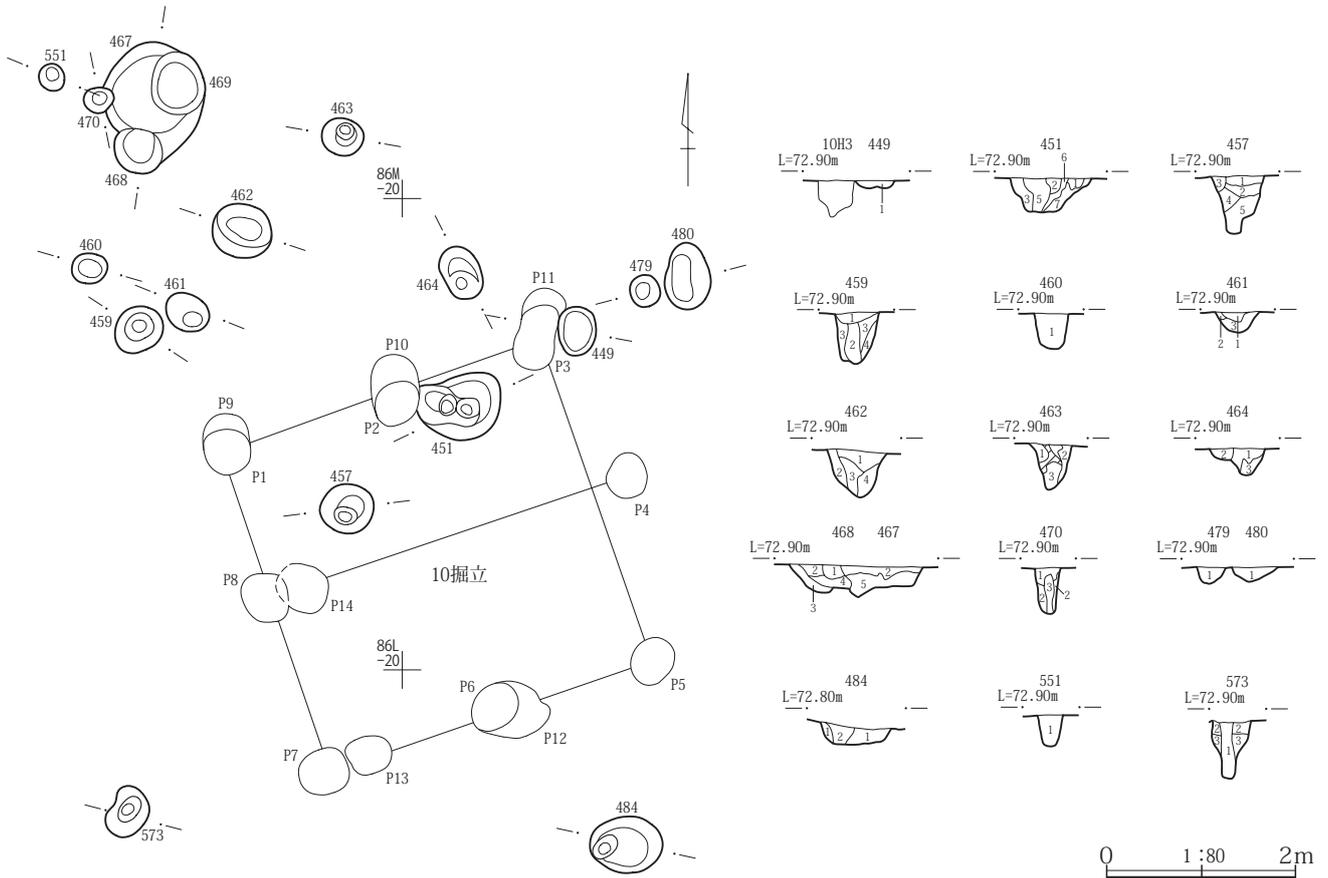
不明ながら注目される遺物である。掲載遺物のほか土師器大型品300g・同小型品75g、須恵器大型品1片・同小型品205gが出土している。

時期 出土遺物から14世紀後半から15世紀前半に比定される。

6 ピット(第546～553図、P.L.229・322、第18表)

2区ではピット501基が検出され、うち325基は1号屋敷内ピットとして扱う。ここでは残る176基について掲載する。調査区内に広く分布するが、幾つか集中する部分を掲載の都合、ピット群として扱った。詳細な規模・非掲載遺物は第18表のとおり。

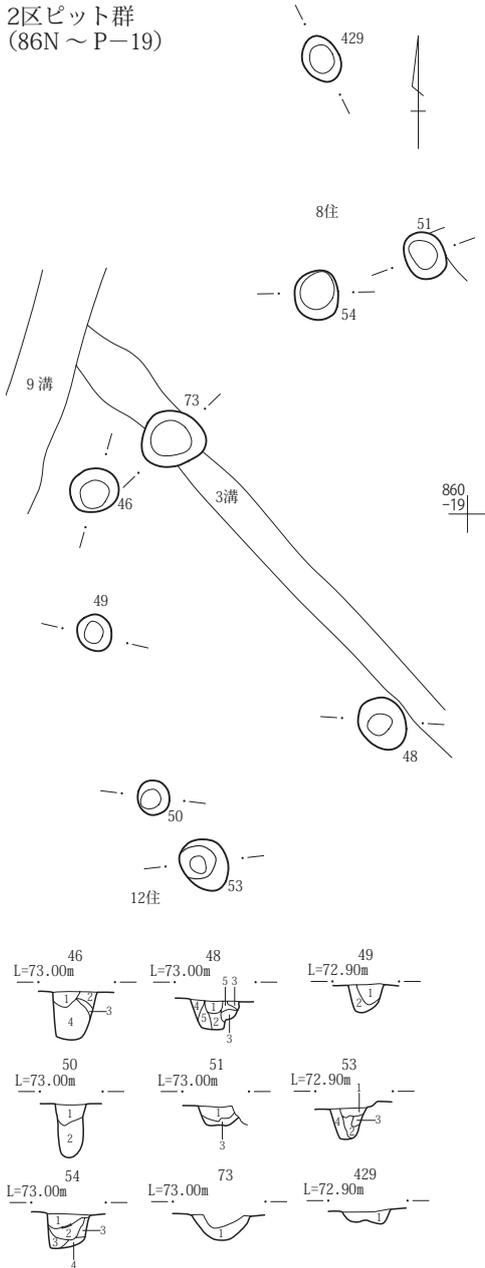
2区ピット群(86K～M-19・20)



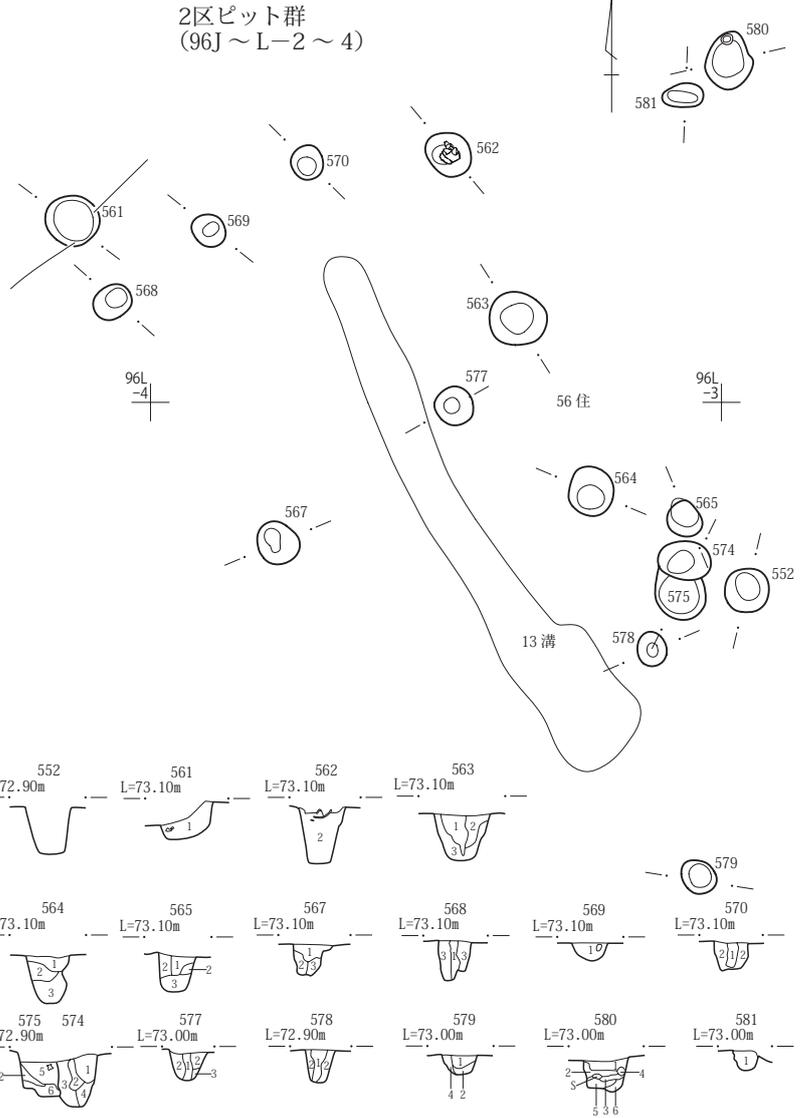
第546図 2区周辺ピット群(1)

449・451P 1暗褐色土ローム小塊やや多。2暗褐色土ローム粒少。3暗褐色土ローム大塊やや多。4暗褐色土ローム粒・炭化物粒微。5黒褐色土ローム粒少。6暗褐色土+ローム小塊 7にぶい黄褐色土暗褐色土シミ状にやや多。/457P 1暗褐色土ローム粒少。2黒褐色土ローム粒少。3褐色土 4暗褐色土ローム小塊少。5黒褐色土ローム粒やや多。6明黄褐色ローム暗褐色土少。/459P 1暗褐色土白軽石微。2暗褐色土ローム粒少。3暗褐色土ローム粒やや多。4黒褐色土ローム塊含。/460P 1灰褐色砂質土浅間A軽石やや多。/461P 1暗褐色土黒褐色土小塊やや多量、ローム粒・焼土粒・炭化物粒少。2にぶい黄褐色土 3黒褐色土+褐色土ローム大塊やや多。/462P 1暗褐色土ローム粒少。2黒褐色土ローム大塊極多。3黒褐色土ローム粒少。4黒褐色土ローム大塊多、焼土粒・炭化物粒少。/463P 1暗褐色土ローム粒多。2褐色土+黒褐色土 3黒褐色土ローム粒少。/464P 1暗褐色土ローム小塊少。2にぶい褐色土ローム小塊少。3暗褐色土+ローム小塊。/467・468P 1暗褐色土ローム塊・炭化物粒・白軽石(浅間C軽石含)含。2暗褐色土ローム粒少、白軽石(浅間C軽石含)含。3暗褐色土ローム粒多。4暗褐色土ローム粒やや多、焼土粒・炭化物粒少。5暗褐色土ローム大塊やや多。470P 1暗褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム小塊多。3褐色土ローム粒少。/479・480P 1褐色土ローム小塊少。/484P 1褐色土 2暗褐色土ローム粒多。/551P 1黒褐色土ローム粒少。/573P 1暗褐色土ローム小塊多。2暗褐色土ローム小塊少。3暗褐色土ローム粒やや多。

2区ピット群
(86N ~ P-19)



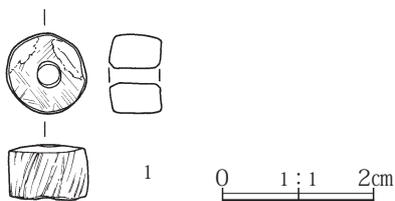
2区ピット群
(96J ~ L-2 ~ 4)



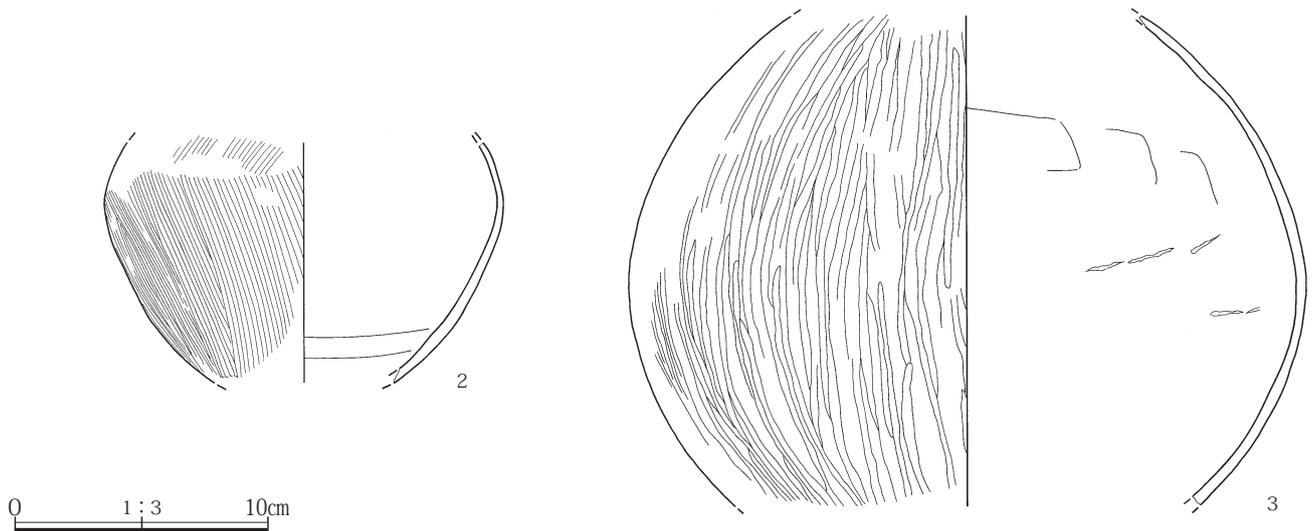
46P 1 暗褐土ローム小塊やや多量、小礫含。2 暗褐土ローム小塊少。3 黄褐土 4 黒褐土ローム粒少。/48P 1 暗褐土ローム粒・炭粒少。2 暗褐土ローム粒少。3 褐土ローム小塊やや多。4 褐土小礫少。5 暗褐土ローム粒やや多。/49P 1 暗褐土ローム粒微。2 暗褐土ローム大塊多。/50・51P 1 暗褐土ローム粒やや多。2 暗褐土ローム小塊極多。3 暗褐土+ローム大塊/53P 1 暗褐土ローム小塊・炭粒少。2 黒褐土ローム粒微。3 暗褐土ローム粒多。4 黒褐土ローム粒少。/54P 1 暗褐土ローム粒少。2 黒褐土ローム粒少。3 暗褐土ローム大塊多。4 黒褐土ローム粒微。/73P 1 暗褐土ローム大塊多。/429P 1 黒褐土 ローム粒少。

561・562P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム小塊やや多。/563P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊多。/564P 1 暗褐土ローム小塊少。2 黒褐土ローム大塊多。3 黒褐土ローム小塊少。/565P 1 暗褐土ローム大塊少。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム大塊多。/567P 1 暗褐土ローム小塊少。2 暗褐土+黄褐土 3 にぶい黄褐土暗褐土やや多。/569P 1 暗褐土ローム粒やや多。/568・570P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム小塊少。3 暗褐土ローム小塊多。/574・575P 1 褐土黒褐土大塊・ローム小塊やや多。2 暗褐土ローム小塊少量、焼土粒・炭粒含。3 暗褐土ローム粒・焼土粒・炭粒多。4 暗褐土ローム粒含。5 暗褐土ローム粒・炭粒やや多。6 黒褐土ローム粒・炭粒少。/577~579P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム粒多。3 にぶい黄褐土 4 暗褐土+黄褐土/580P 1 黒褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム小塊多。3 褐土+ローム小塊 4 黒褐土 5 にぶい黄褐土 6 暗褐土ローム大塊多。/581P 1 暗褐砂質土浅間B軽石・ローム粒含。

0 1:80 2m



第547図 2区周辺ピット群(2)と46号ピット出土遺物



第548図 2区562号ピット出土遺物

ピット群(1)では、10号掘立柱建物の存在があり、他にも451・457・459・462・463号ピットで1棟となる可能性もあるが、南東部が判断できない。470・573号ピットもしっかりと掘り込まれる。

ピット群(2)の左側は、中世に比定される3号溝周辺の一群であるが、46号ピット埋没土から白玉(1)が出土するとおり、古代的な様相が強い。46・50・54号ピットはしっかりと掘り込まれる。48号ピットはやや浅いが、中央に柱痕を残している。

ピット群(2)の右側もしっかりと掘り込むものが多い。567～569・570・577号ピットは、ほぼ方形に並ぶ。掘立柱建物とも思えるが、可能性に止まる。562～564・578号ピットは、更に規模が大きく、建物を想定させるが、対応する東辺が見いだせない。56号住居と重複するため、その影響もあるだろうが不明である。562号ピットの確認面近い中央部で、土師器台付甕(2)、同壺(3)や大円礫が出土する。柱の抜き取り穴に入れられた可能性が高い。出土遺物から古墳時代に比定される。なお、13号溝は断面方形に深く掘り込まれており、56号住居との関連も考えられるが、本ピット群と関連する可能性も残る。

ピット群(3)も建物の柱穴として十分な規模を持つが、建物として復元できる並びではない。538号ピットは小規模ながら柱痕を残している。510号ピットから手捏ね土器が出土する。

ピット群(4)上は、調査区の北西端の一群で、埋没土に浅間A軽石を含む1基、浅間B軽石を含む2基がある。また、658号ピットは礫により底面から埋めるもので、

在地系土器片口鉢(5)が出土し中世に比定される。14号溝との関係もうかがえる。1号窯も近接するが、直接結びつけられるものはない。

ピット群(4)下は、37号住居の南側に点在するもので、特段まとまりはない。比較的浅いものが多いが、558号ピットはしっかりと掘り込まれる。550号ピットから土師器壺(6)、566号ピットから土師器埴(7)が出土し、周辺の住居と概ね同時期であろう。

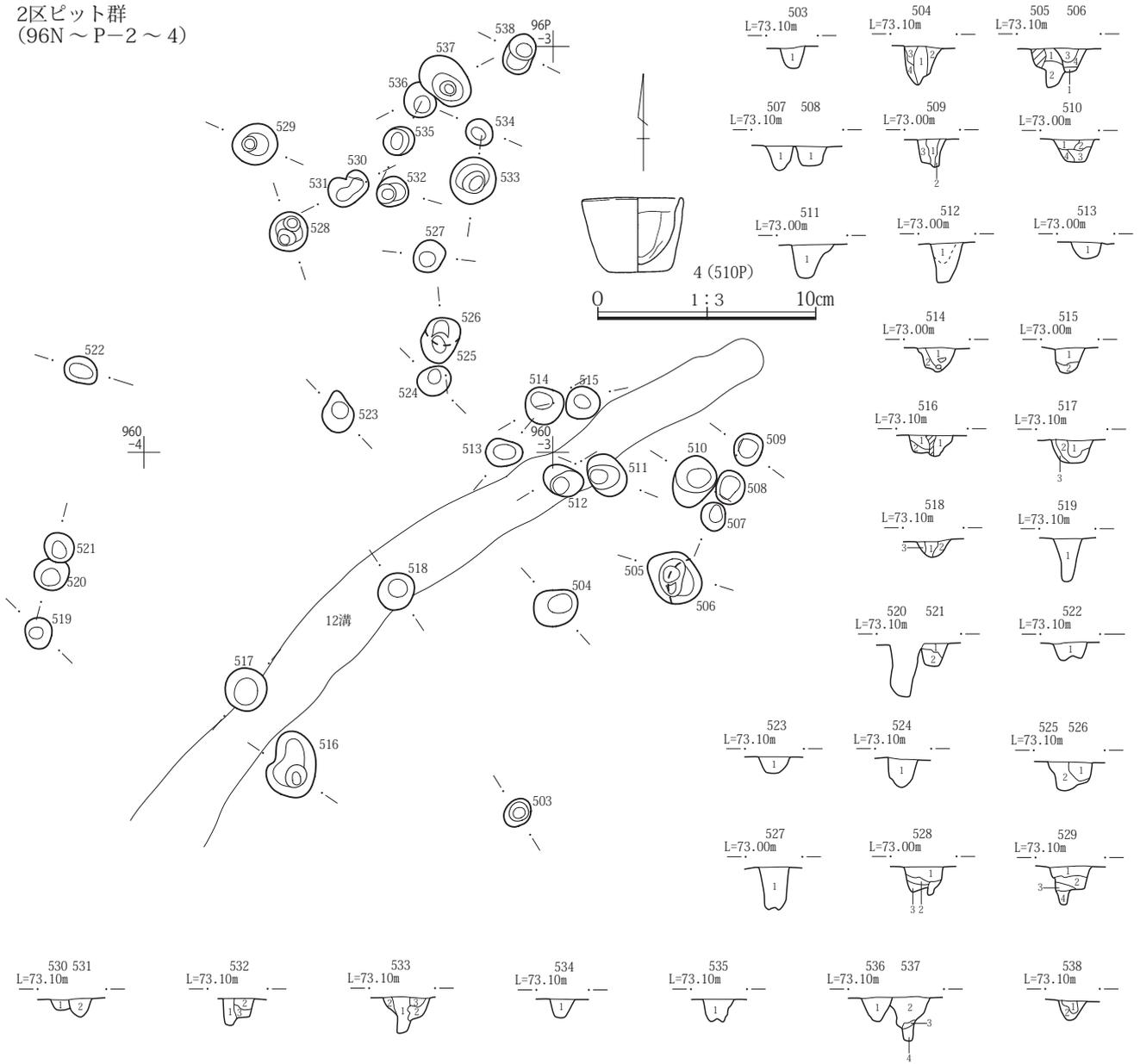
ピット群(5)左上は53号住居の西側に位置する小さな一群で、540・548・549号ピットなどしっかりと掘り込まれたピットがあるが、建物として並ぶものはない。542・543・514号ピットはやや浅いが直線的に並ぶ。調査区の端部で不測要素が多く、柱穴列としては可能性に止まる。

ピット群(5)右上は5号掘立柱建物のすぐ北側に位置する。699号ピットは大型で明瞭な柱痕を残している。607・608・720・721号ピットは直線的に並ぶ4基で、比較的深く掘立柱建物の一部と思われる。対応するピットは北側に想定されるが、92号住居内に可能性のあるものはあるが、79号住居内には確認できない。可能性の一つとしておく。

ピット群(5)左下は調査区西側の2号掘立柱建物と重複するもので、651・655号ピットはしっかりと掘り込まれ、2号掘立柱建物との関わりを思わせるが、結びつけることは難しい。

ピット群(5)右下は調査区南西隅に位置する一群である。特に並ぶものはない。674・675・711・712号ピットの埋没土は、上位にローム大ブロックが目立ち、埋没が

2区ピット群
(96N ~ P-2 ~ 4)



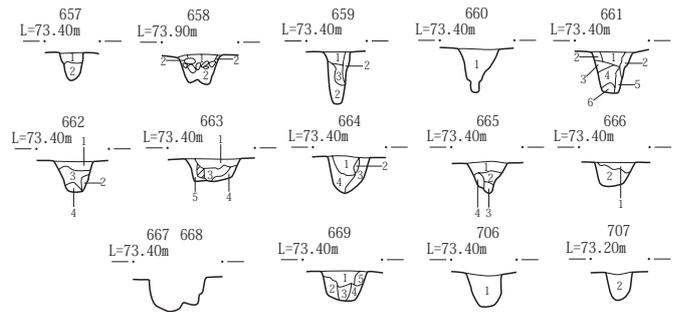
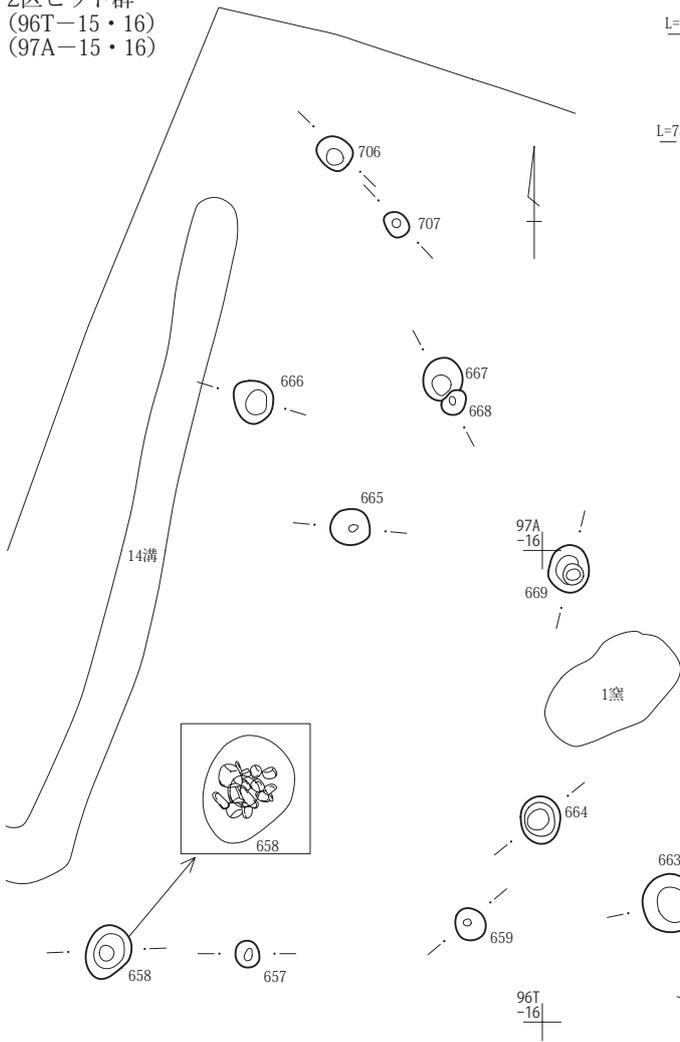
503P 1 暗褐土ローム塊やや多。/504P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム小塊少。3 暗褐土ローム粒・焼土粒含。4 暗褐土+ローム塊。/505・506P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土空隙多縮弱。ローム粒多。3 暗褐土ローム粒・焼土粒少。4 褐土+ローム塊/507・508P 1 暗褐土ローム小塊多。/509P 1 暗褐土空隙多縮弱。ローム粒含。2 暗褐土ローム粒多。3 暗褐土ローム粒少。/510P 1 暗褐土ローム粒・白軽石含。2 暗褐土ローム塊極多、白軽石含。3 暗褐土ローム小塊多量、炭化物粒少。4 暗褐土ローム粒多。/511P 1 暗褐土ローム塊極多。/512P 1 暗褐砂質土 浅間B軽石含か。/513P 1 黒褐土ローム小塊含。/514P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム小塊多。/515・516・519P 1 暗褐土ローム塊含。2 暗褐土ローム小塊やや多。/517P 1 暗褐土ローム粒・炭化物粒・白軽石含。2 暗褐土ローム塊極多、炭化物粒含。3 暗褐土+ローム塊。/518P 1 暗褐土ローム粒・炭化物粒含。2 ローム塊暗褐土極多。3 暗褐土ローム小塊多。/521・523 ~ 526P 1 暗褐土ローム塊やや多。2 暗褐土+黄褐土。/522・527P 1 暗褐土ローム塊多、炭化物粒含。/528P 1 暗褐土ローム小塊多。2 褐土ローム粒少。3 暗褐土ローム小塊極多。/529P 1 褐土堅締。炭化物粒・焼土粒多、ローム小塊含。2 暗褐土ローム小塊含。3 黒褐土ローム小塊やや多。4 黒褐土ローム粒含。/530・531P 1 暗褐土ローム塊やや多。2 黒褐土浅間B軽石多。/532P 1 にぶい黄褐土 2 褐土ローム塊含。3 ローム塊小円礫含。/533P 1 にぶい黄褐土 2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム粒含。534P 1 暗褐土ローム小塊多。/535P 1 褐土ローム塊含。/536・537P 1 褐土ローム塊少。2 褐土炭化物粒少、ローム粒含。3 扁平なローム塊 4 黒褐土ローム粒含。/538P 1 黒褐土ローム塊やや多、細粒白軽石含。2 黒褐土ローム塊やや多。

第549図 2区周辺ピット群(3)と510号ピット出土遺物

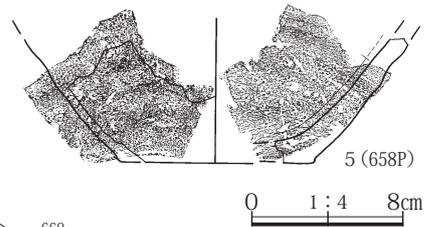
0 1:80 2m

第4章 発掘調査の記録

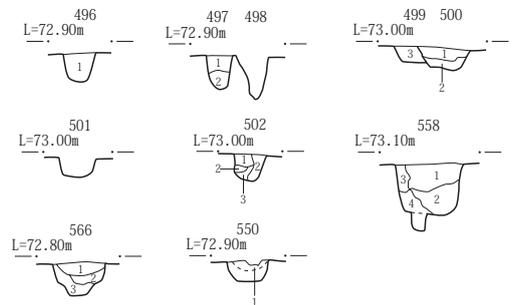
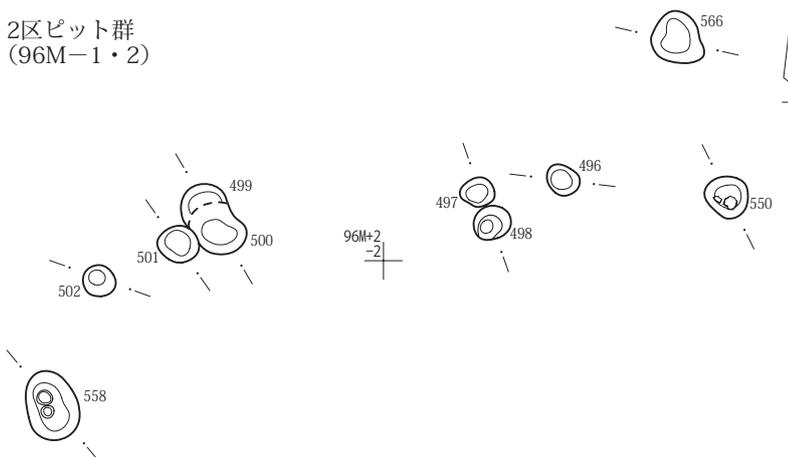
2区ピット群
(96T-15・16)
(97A-15・16)



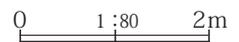
657P 1 暗褐色土ローム小塊・白軽石少含。2 暗褐色土ローム小塊多含。
/658P 1 暗褐色土白軽石微含。2 暗褐色土ローム小塊やや多含。/659・
660P 1 暗褐色土ローム粒少含。2 暗褐色土ローム小塊多含。3 暗褐色土ローム
小塊少含。/661P 1 暗褐色土ローム小塊やや多、白軽石含。2 黄褐色土
3 暗褐色土ローム大塊やや多含。4 暗褐色土ローム小塊多含。5 黒褐色土ローム
大塊多含。6 ローム塊 黒褐色土少含。/662~664P 1 暗褐色土ローム粒
少、白軽石含。2 暗褐色土ローム大塊多含。3 暗褐色土ローム小塊少含。
4 暗褐色土ローム小塊やや多含。5 黄褐色土暗褐色土少含。/665P 1 暗褐色
砂質土浅間A 軽石多含。2 暗褐色土浅間A 軽石少含。3 暗褐色土ローム粒少
含。4 暗褐色土ローム大塊多含。/666P 1 暗褐色土ローム粒・焼土粒・炭
粒・白軽石やや多含。2 暗褐色土白軽石微含。/669P 1 暗褐色土 ローム粒・
白軽石少含。2 暗褐色土白軽石微含。3 暗褐色土ローム小塊少含。4 暗褐
土+ローム小塊 5 褐色土/706・707P 1 暗褐色土浅間B 軽石含。2 暗褐色
土ローム小ブロック少、浅間B 軽石含。



2区ピット群
(96M-1・2)



496P 1 黒褐色土+褐色土/497P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。2 ローム大塊暗褐色土極多。
/499・500P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。2 暗褐色土ローム大塊多。3 暗
褐色土ローム大塊極多。/502P 1 暗褐色土ローム粒・炭粒少。2 暗褐色土ローム小塊やや多。3 黄褐色土暗褐色土極多。/550P 1 暗褐色土ローム小塊少。/558P 1 黒褐色土ローム
粒・焼土粒・炭粒少。2 黒褐色土ローム粒やや多。3 黒褐色土ローム大塊極多。4 黒褐色土ローム粒・炭粒少。/566P 1 暗褐色土ローム粒少。2 暗褐色土ローム小
塊極多。3 暗褐色土ローム小塊やや多。

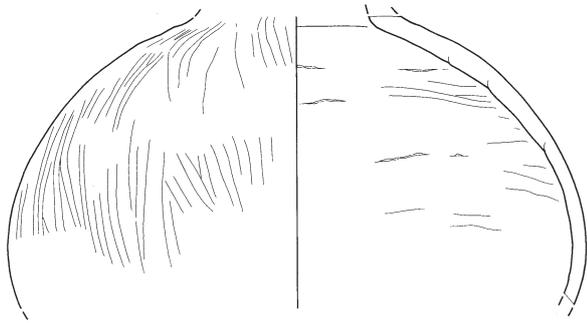


第550図 2区周辺ピット群(4)と658号ピット出土遺物

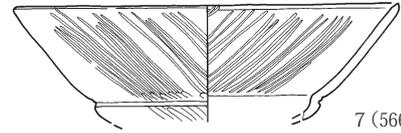
乱れている。これらがまとまって廃棄された状況も想定される。

その他、個別に点在するピットでは、一部に柱痕らし

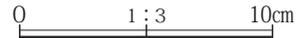
い堆積状況もあるが、明確ではなかった。593号ピットの埋没土から土師器杯(8)が出土している。



6 (550P)



7 (566P)



第551図 2区550・566号ピット出土遺物

第18表 2区ピット群・ピット計測表

ピット群(86K～M-19・20)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
449	86L-19	52	40	8	土師大80g
451	86L-19	87	65	48	土師小1片
457	86L-20	53	53	63	
459	86L-20	54	48	62	
460	86L-20	36	32	35	
461	86L-20	48	38	33	
462	86L-20	64	57	50	土師大1・小3片
463	86M-20	44	40	56	土師大3片
464	86L-19	59	40	39	土師小1片
467	86M-20	112	-	34	土師大3片
468	86M-20	54	-	25	土師大9・小1片 須惠大1片
469	86M-20	(65)	(56)	37	土師大4片
470	86M-20	32	27	58	
479	86L-19	34	31	18	土師大2片
480	86L-19	71	49	14	
484	86K-19	76	60	50	土師大3片
551	86M-20	29	26	34	土師大2片
573	86K-20	55	37	74	須惠小1片

ピット群(86N～P-19)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
46	860-19	51	46	52	土師大98g・小40g 須惠大1片
48	86N-19	57	47	30	土師大4・小1片
49	86N-19	40	37	27	土師大4・小20g
50	86N-19	36	34	57	土師大2・小1片
51	860-19	51	40	26	土師大5、須惠大1片
53	86N-19	58	47	38	
54	860-19	52	46	50	
73	860-19	65	63	28	
429	860-19	50	38	20	土師小2片

ピット群(96J～L-2～4)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
552	96K-2	47	46	47	
561	96L-4	56	54	39	
562	96L-3	52	44	63	土師大175g・小1片
563	96L-3	60	57	52	土師大7片
564	96K-3	52	46	54	土師小3片
565	96K-3	39	37	44	土師大1片
567	96K-3	47	42	38	土師大2・小1片
568	96L-4	42	35	40	
569	96L-4	38	33	26	
570	96L-3	36	34	33	
574	96K-3	53	-	58	土師大85g・小1片
575	96K-3	55	41	70	
577	96K-3	41	40	40	

578	96K-3	36	31	43	土師大1片
579	96J-3	39	33	24	
580	96L-2	61	50	41	
581	96L-3	43	25	21	

ピット群(96N～P-2～4)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
503	96N-3	37	30	55	土師大1・小1片
504	96N-2	54	45	61	
505	96N-2	60	-	61	
506	96N-2	38	-	29	土師大85g・小4片
507	96N-2	35	30	32	
508	96N-2	41	35	25	
509	960-2	41	34	31	
510	96N-2	65	50	26	土師大4、須惠大1片
511	96N-2	54	43	46	
512	96N-2	48	36	62	土師大26g・小2片
513	96N-3	45	34	24	土師大1片
514	960-3	46	45	43	土師大1片
515	960-2	43	40	62	土師小1片
516	96N-3	82	60	29	土師小4片
517	96N-3	52	51	30	
518	96N-3	45	43	21	土師大2片
519	96N-4	39	33	55	土師大1片
520	96N-4	41	(40)	66	土師大1・小1片
521	96N-4	37	(31)	33	土師大1片
522	960-4	42	33	19	
523	960-3	52	38	23	
524	960-3	41	35	42	
525	960-3	43	-	29	
526	960-3	40	-	22	
527	960-3	40	35	60	土師大3片
528	960-3	48	46	41	
529	960-3	54	50	54	土師大3・小3片 須惠小1片
530	960-3	30	-	25	
531	960-3	39	-	38	
532	960-3	45	36	32	
533	960-3	58	55	49	
534	960-3	35	31	20	
535	960-3	39	35	31	
536	960-3	43	38	28	
537	960-3	70	(46)	65	
538	960-3	52	35	40	土師大1片

ピット群(96T～96A-15・16)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
657	96T-16	28	25	33	
658	96T-16	58	46	31	
659	96T-16	35	32	59	

第4章 発掘調査の記録

660	96S-15	48	47	53	
661	96T-15	56	45	50	土師大4・小1片
662	96T-15	42	40	35	
663	96T-15	61	59	26	
664	96T-15	50	42	39	
665	97A-16	42	40	50	
666	97A-16	45	41	28	
667	97A-16	46	41	55	
668	97A-16	29	22	29	
669	97T-16	50	42	50	
706	97A-16	38	33	34	
707	97A-16	29	23	30	

ピット群(96M-1・2)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
496	96M-1	36	30	46	
497	96M-1	35	31	40	土師小1片
498	96M-1	40	35	49	
499	96M-2	50	-	18	
500	96M-2	56	47	21	
501	96M-2	45	39	21	土師大1片
502	96M-2	35	34	40	土師小1片
550	96M-1	46	43	19	
558	96M-2	75	52	69	土師大5・小1片
566	96M-1	55	52	38	土師大3片

ピット群(96P・Q-2・3)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
539	96P-3	61	45	55	
540	96P-3	61	55	46	土師大5片
542	96Q-3	54	42	25	土師小2片
543	96Q-3	65	51	43	土師大2・小3片
544	96P-2	65	45	38	
545	96P-2	49	46	37	土師大1、須恵小1片
546	96P-3	70	48	49	土師小2、須恵大1片
547	96P-3	46	40	22	須恵小1片
548	96P-3	58	55	32	
549	96P-3	86	57	43	

ピット群(96Q-5・6)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
607	96Q-6	50	50	54	土師大2片
608	96Q-6	60	54	30	
699	96Q-6	63	50	52	土師大1片
705	96Q-6	45	40	40	土師大1・小1片
720	96Q-6	52	42	45	土師大3片
721	96Q-5	60	53	42	土師大1・小2片
722	96Q-5	33	-	38	

ピット群(96R-14・15)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
651	96R-14	49	38	60	
655	96R-14	51	49	61	土師大1片
695	96R-14	61	51	85	
696	96R-14	66	60	70	
697	96R-15	61	52	29	
718	96R-14	45	30	16	

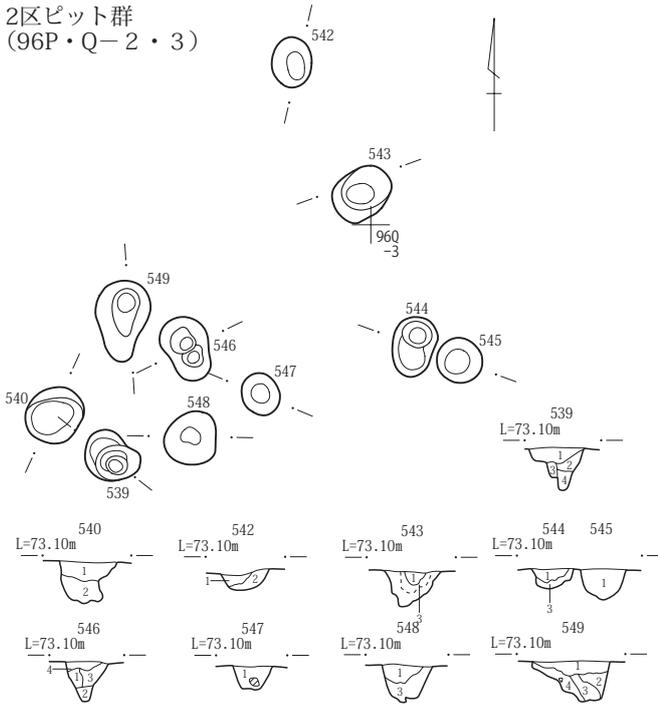
ピット群(96R・S-7)

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
672	96S-7	38	34	39	
673	96S-7	44	35	51	
674	96R-7	123	58	71	土師大2、須恵大1片
675	96R-7	56	50	43	
711	96R-7	(54)	36	25	
712	96R-7	53	37	74	

個別ピット

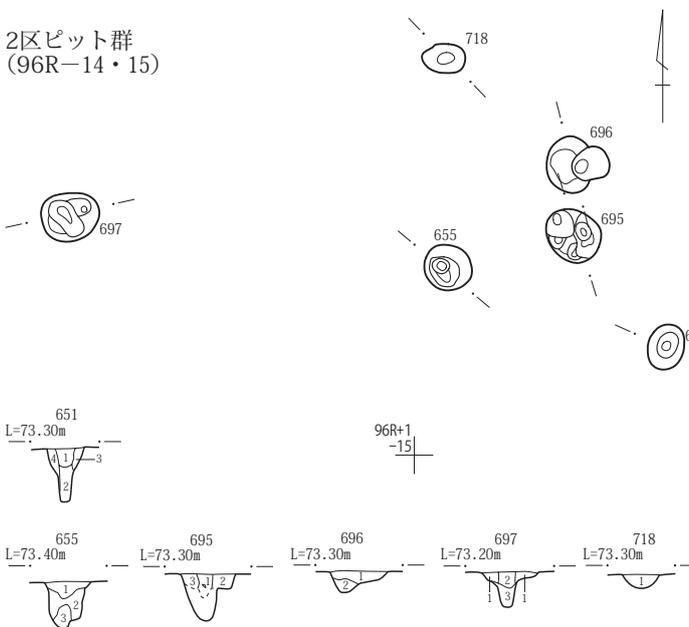
ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
44	86N-17	45	37	32	土師大2・小1片
47	86M-19	45	40	28	土師大3・小5片
195	86M-18	45	40	22	
196	86M-18	39	36	36	
273	86L-18	70	(51)	55	
323	86L-17	55	40	28	
438	86L-18	40	35	20	
439	86L-19	32	32	46	
541	86N-20	55	40	40	
559	96N-1	47	47	20	
560	96N-1	51	50	23	
571	96P-1	28	26	30	
572	96N-1	39	36	40	
576	96M-3	41	31	41	
582	96O-4	83	82	23	土師大3片
587	96O-5	40	(34)	29	土師大1片
593	96N-7	59	38	47	土師大131g・小90g
602	96O-6	43	41	46	
605	96O-5	26	25	19	
613	96M-8	41	32	50	
615	96M-8	53	(50)	41	
616	96M-8	70	55	39	土師大1片
618	96M-9	41	40	43	
621	96O-9	52	44	43	須恵小1片
631	96Q-10	36	30	34	土師大3片
634	96Q-11	58	32	37	土師大4片
638	96O-12	43	35	28	
643	96P-12	40	30	40	
644	96R-13	55	52	17	
645	96S-13	35	31	42	
646	96S-13	43	36	49	
647	96S-13	40	31	45	
648	96R-13	73	61	21	
649	96Q-14	48	43	61	
670	96S-12	27	25	50	土師大7・小4片 須恵小1片
680	96P-5	43	37	25	
683	96O-8	79	62	51	土師大1片
689	96P-10	38	(21)	36	
698	96N-9	54	45	24	土師大8片
708	96Q-7	33	(29)	43	
709	96O-8	58	57	45	土師大3・小3片
719	96R-9	45	(37)	32	

2区ピット群
(96P・Q-2・3)



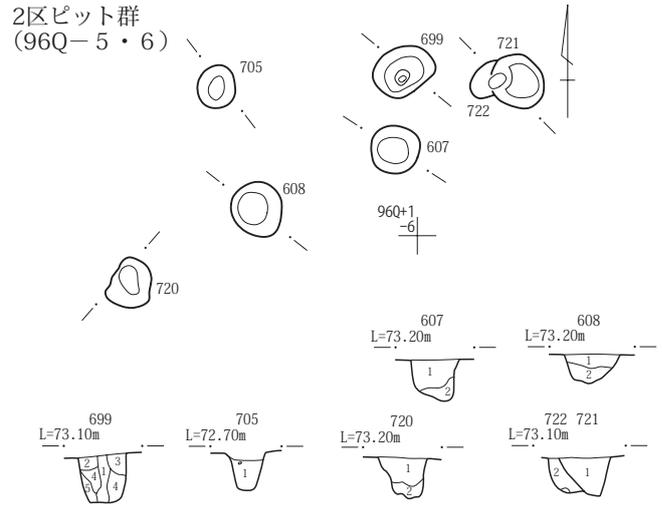
539P 1 暗褐色土ローム粒やや多。2 黒褐色土ローム小塊やや多。3 黒褐色土ローム大塊極多。4 黒褐色土ローム小塊多。/540P 1 褐色土ローム小塊少。2 暗褐色土ローム大塊やや多。/542 ~ 548P 1 暗褐色土ローム粒少。2 暗褐色土ローム小塊極多。3 暗褐色土ローム小塊やや多。4 灰褐色土ローム粒少。/549P 1 暗褐色土ローム粒・焼土粒・炭化物粒少。2 暗褐色土ローム小塊多。3 暗褐色土ローム小塊やや多。4 黄褐色土暗褐色土極多含。

2区ピット群
(96R-14・15)



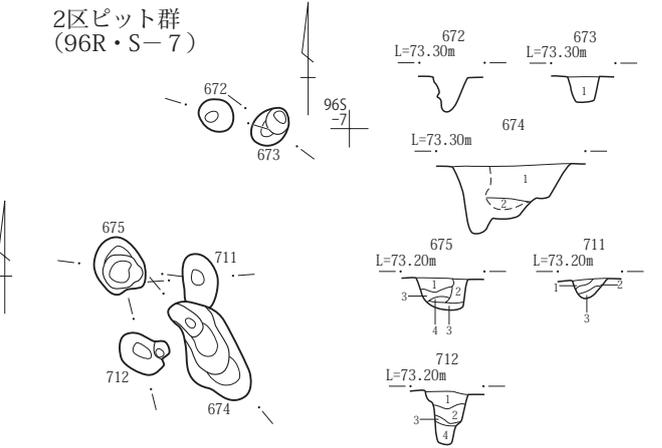
651P 1 暗褐色土ローム粒・白軽石少。2 暗褐色土ローム粒少。3 褐色土 4 暗褐色土ローム大塊やや多。/655P 1 暗褐色土ローム粒・炭化物粒・焼土粒・白軽石少。2 暗褐色土ローム小塊やや多。3 黒褐色土ローム大塊極多。/695P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 暗褐色土ローム大塊多。3 暗褐色土+褐色土/696P 1 暗褐色土ローム粒少。2 暗褐色土ローム小塊やや多。/697P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。2 暗褐色土ローム小塊少。3 暗褐色土ローム粒小塊。/718P 1 暗褐色土ローム粒少。

2区ピット群
(96Q-5・6)



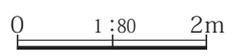
607・608P 1 暗褐色土ローム粒子・白軽石微。2 黒褐色土ローム大塊少。/699P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 明黄褐色土暗褐色土少。3 暗褐色土ローム大塊多。4 黒褐色土白軽石微。5 黒褐色土ローム大塊多。/705P 1 暗褐色土ローム大塊極多。/720P 1 褐色土暗褐色土極多、ローム小塊少。2 暗褐色土ローム小塊やや多。/721・722P 1 暗褐色土ローム大塊やや多。2 暗褐色土ローム大塊多。

2区ピット群
(96R・S-7)

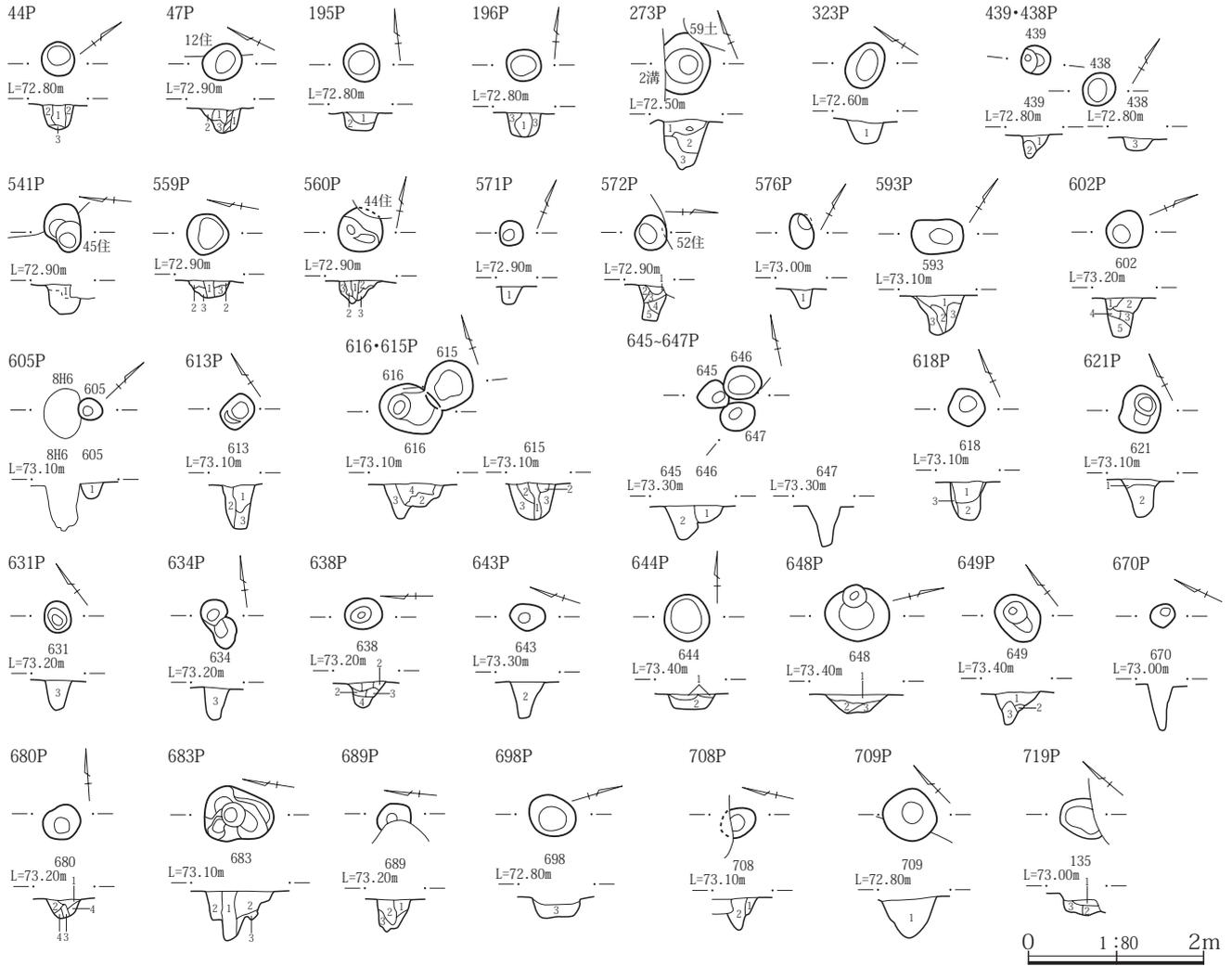


673P 1 暗褐色土ローム粒子・白軽石含。/674P 1 暗褐色土ローム大塊多。2 暗褐色土ローム小塊やや多。/675P 1 暗褐色土ローム大塊極多。2 暗褐色土ローム大塊やや多。3 暗褐色土ローム小塊少。4 暗褐色土ローム小塊多。/711P 1 明黄褐色土 2 褐色土暗褐色土をモザイク状に多。3 暗褐色土ローム小塊少。/712P 1 暗褐色土ローム小塊多。2 暗褐色土+ローム小塊黒褐色土小塊多。3 黒褐色土 4 暗褐色土ローム小塊多、黒褐色土大塊多。

第552図 2区周辺ピット群(5)



第4章 発掘調査の記録

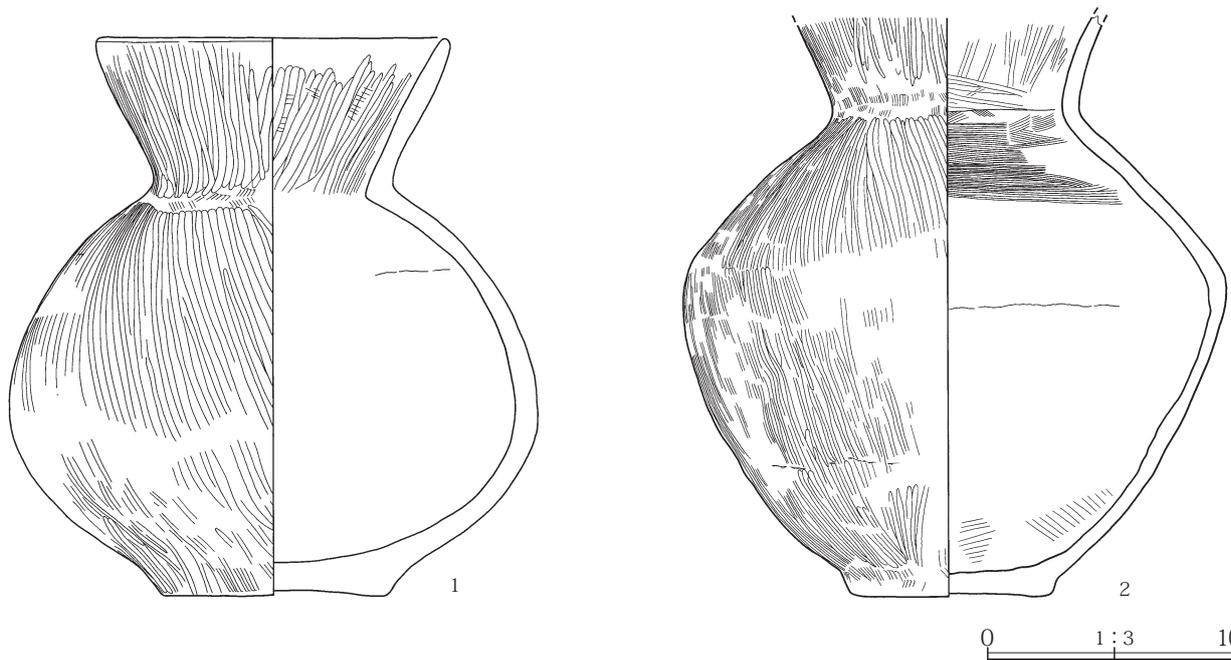
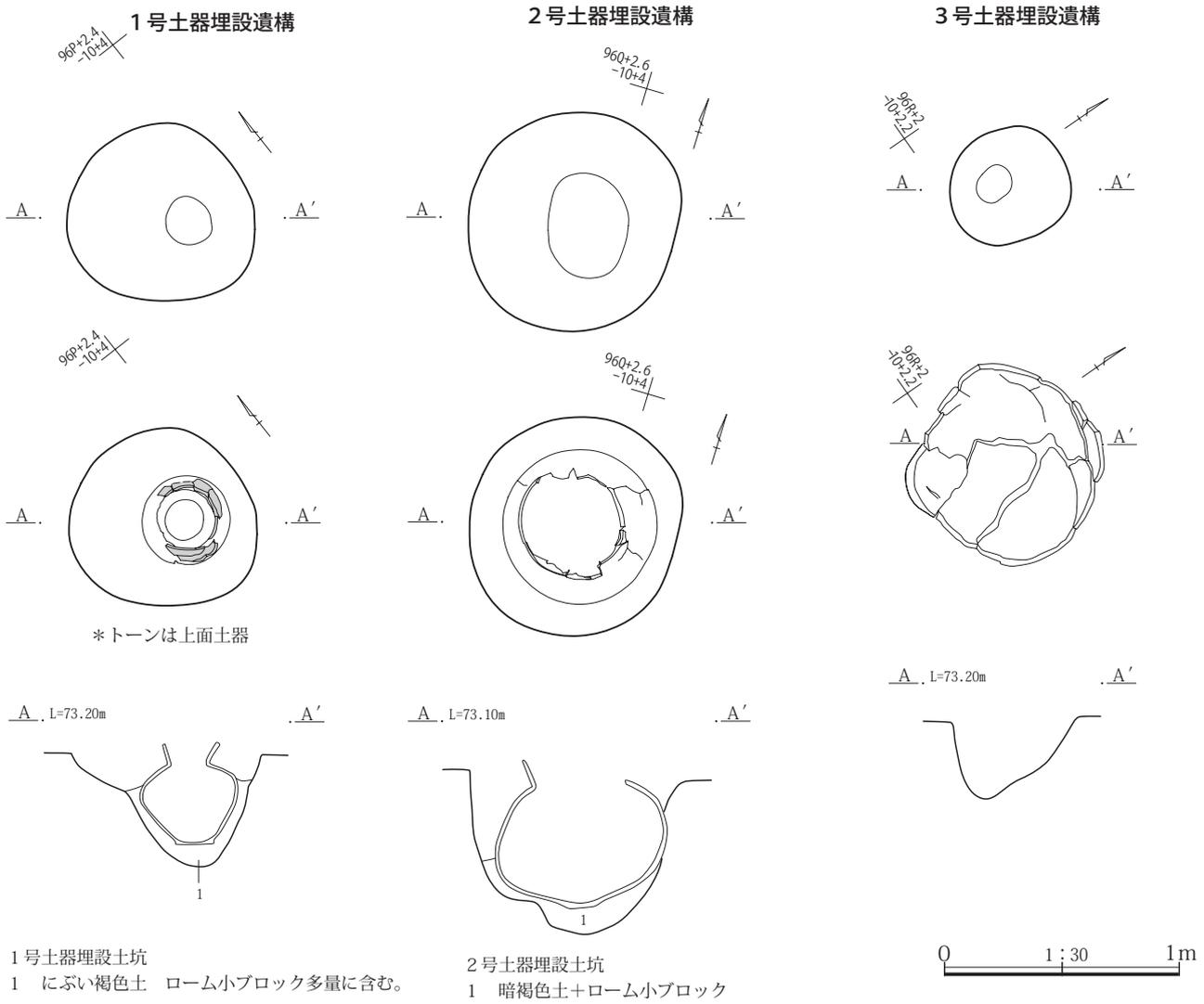


44P 1 暗褐土ローム小塊多。2 暗褐土ローム粒少。3 暗褐土ローム粒多。/47P 1 暗褐土ローム塊・白軽石(FP含)含。2 暗褐土ローム塊少、炭粒含。3 暗褐土ローム粒少。/195・196P 1 暗褐土ローム小塊多。2 暗褐土+黄褐土 3 暗褐土ローム大塊極多。/273P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム塊やや多。3 暗褐土ローム塊多。/323P 1 黒褐土大塊+褐土大塊ローム小塊多。/438・439P 1 暗褐土+ローム大塊 2 褐土ローム大塊多。3 暗褐土ローム大塊やや多。/541P 1 暗褐土ローム粒少。/559・560P 1 暗褐土ローム小塊少。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土+黄褐土。/571P 1 暗褐砂質土浅間B軽石多。/572P 1 褐土ローム粒少、炭粒・焼土粒微。2 褐土ローム粒多。3 褐土暗褐土大塊多、ローム粒・炭粒含。4暗褐土+ローム小塊 5ローム小塊暗褐土やや多。/576P 1 暗褐砂質土浅間B軽石多、ローム小塊少。/593P 1 褐土ローム粒多。2 褐土ローム小塊やや多。3 黒褐土ローム大塊多。602P 1 褐土 2 暗褐土ローム粒・白軽石少。3 暗褐土ローム大塊やや多、黄軽石含。4 褐土ローム小塊少。5 暗褐土ローム粒少。/605P 1 暗褐土浅間B軽石多。/613P 1 暗褐土白軽石やや多。2 暗褐土ローム小塊多。3 黒褐土ローム粒少。/615・616P 1 暗褐土ローム粒・白軽石微。2 暗褐土ローム粒多。3 暗褐土ローム小塊少。4 暗褐土ローム大塊極多。/645・646P 1 暗褐土ローム粒・焼土粒・炭粒微。2 暗褐土ローム大塊多、白軽石含。/618P 1 暗褐土白軽石多、焼土粒・炭粒微。2 暗褐土ローム大塊やや多。3 褐土。/621・631・634P 1 暗褐土ローム粒多。2 黒褐土ローム粒・白軽石やや多。3 暗褐土ローム小塊少。/638・643P 1 暗褐土ローム粒少。2 黒褐土ローム粒・白軽石少。3 黒褐土ローム小塊多。4 黒褐土ローム小塊やや多。/644P 1 暗褐砂質土中砂多。2 褐土暗褐土塊多。/648P 1 暗褐砂質土ローム粒少、浅間B軽石含。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 ローム小塊暗褐土多。/649P 1 褐土ローム粒やや多。2 黒褐土白軽石少。3 黒褐土ローム大塊やや多。/680P 1 暗褐土ローム粒少。2 暗褐土ローム大塊やや多。3 暗褐土空隙多縮弱。ローム粒少、黒褐土小塊やや多。4 暗褐土ローム小塊やや多。/683P 1 暗褐土ローム粒・白軽石少。2 暗褐土ローム大塊やや多。3 暗褐土ローム小塊多。/689・698P 1 黒褐土ローム小塊少。2 黒褐土ローム小塊やや多。3 黒褐土ローム小塊極多。/708P 1 暗褐土ローム小塊やや多。2 黒褐土ローム小塊やや多。白軽石少。/709P 1 暗褐土ローム粒・小礫少。/719P 1 暗褐土ローム小塊少、炭化物粒・焼土粒含。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊極多。



第553図 2区周辺ピットと593号ピット出土遺物

7 土器埋設遺構

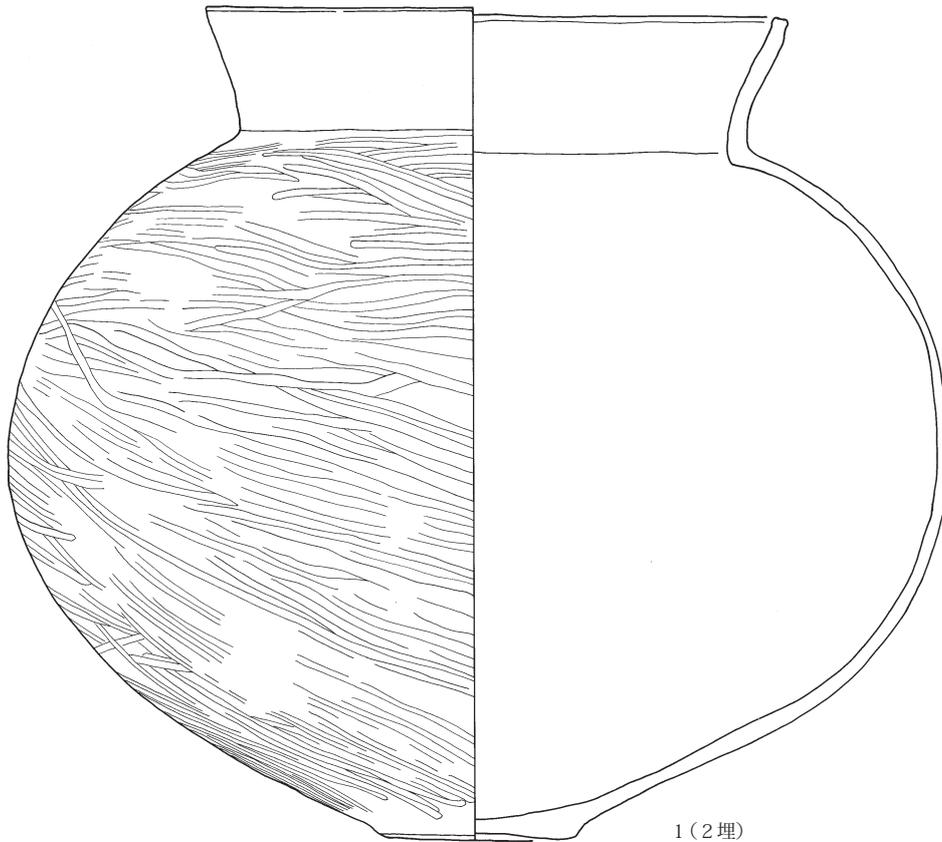
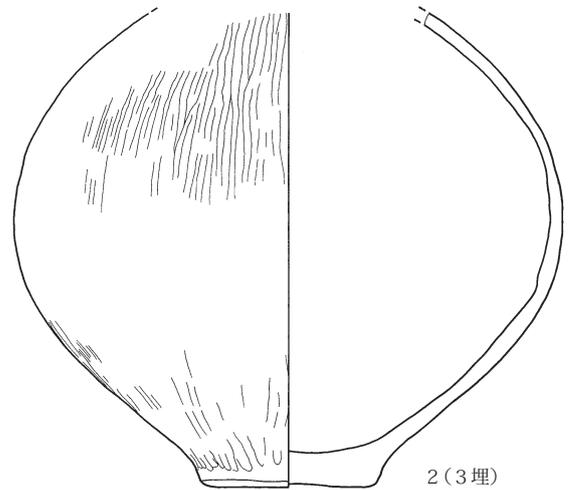


第554図 2区1~3号土器埋設遺構と1号土器埋設遺構出土遺物

調査区中央部で3号掘立柱建物周辺に集中して土器埋設遺構が3基検出された。周辺は比較的住居の分布が粗く、古墳時代前期の住居がやや距離を置いて並んでいる。墓域であった可能性を示唆する。

1号土器埋設遺構(第554図、P L .230・323)

位置 96P-10グリッド。土師器壺(2)が正位に埋置され、口縁部に別の土師器壺(1)が入り子状態で被せられていたと考えられる。土器内の埋没土は少なく空洞に近い。埋没土は水洗選別されたが、骨片・玉類は出土していない。掘り方の規模は長径52cm短径52cm深さ32cmである。掲載遺物のほか土師器大型品30gが出土している。形態から土器棺墓と考えられ、弥生時代以来の系譜を引く祭儀風習が推測できる。出土遺物から4世紀代に比定



0 1:4 8cm

第555図 2区2・3号土器埋設遺構出土遺物

される。

備考 調査段階700号ピットを名称変更。

2号土器埋設遺構(第554・555図、P L .230・323)

位置 96Q-10グリッド。土師器壺(1)が正位に埋置されていた。確認面で口縁部が露呈しており、蓋などがあった場合でも欠損してしまった可能性が高い。土器内の埋没土は少なく空洞に近い。埋没土は水洗選別されたが、骨片・玉類は出土していない。掘り方の規模は長径63cm短径60cm深さ46cmである。掲載遺物のほか土師器大型品4片が出土している。1号土器埋設遺構と同様、土器棺墓の可能性が高い。出土遺物から4世紀代に比定される。

備考 調査段階701号ピットを名称変更。

3号土器埋設遺構(第554・555図、P L .231・323)

位置 96R-10グリッド。土師器壺(2)が転倒した状態で出土した。下部に掘り方にあたる土坑も確認され、横位に埋置された可能性がある。骨片・玉類は出土していない。掘り方の規模は長径34cm短径31cm深さ23cmである。掲載遺物のほか土師器大型品52g・同小型品1片が出土している。1号土器埋設遺構と同様、土器棺墓の可能性が高い。出土遺物から4世紀代に比定される。

備考 調査段階702号ピットを名称変更。

8 墓

2区では土坑墓2基を検出した。分布は1号火葬跡もあわせて、1号屋敷と15・16号溝の間に位置しており、周辺に点在する中世の井戸も関係が想定される。

2号墓(第556図、P L .231・324)

位置 96N-1グリッド。攪乱により南西部を失うが、平面形は長楕円形と思われる。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。規模は長軸108cm短軸72cm深さ6cmである。北壁西寄りで歯、南東部で体肢骨の一部が出土する。出土した人骨は、鑑定の結果(第5章第1項)20歳代から30歳代の男性の土葬人骨とされ、頭部を北向きに埋葬されている。東壁寄りの底面に伏せられた状態で、1の在り系土器皿(15世紀前半～中頃)、北壁の頭部近くで銅銭2枚(2・3)が出土する。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギーコムギ種子、イネ種子と判明した。出土遺物から15世紀前半～中頃に比定される。

3号墓(第556図、P L .231・324)

位置 96P-4グリッド。8号掘立柱建物P1より後出。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。規模は長径(100)cm短径80cm深さ10cmである。中央南寄りで四肢骨が出土する。出土した人骨は、鑑定の結果(第5章第1項)成人女性の土葬人骨とされる。中央北寄りの底面で銅銭(4・5)が出土する。出土した炭化種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オオムギ種子が少量、サクラ属サクラ節核、イネ種子が微量と判明した。出土遺物から14世紀後半以降に比定される。

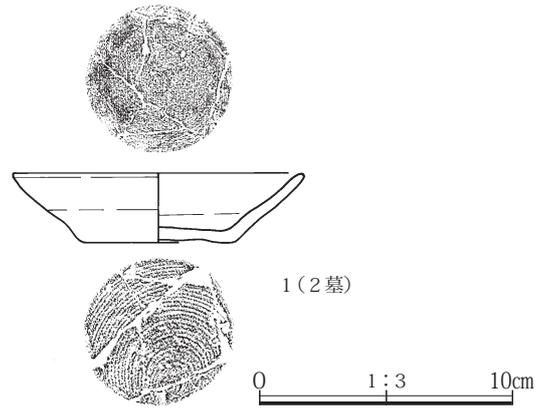
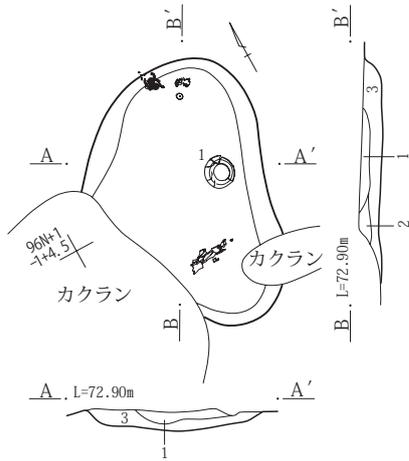
9 火葬跡

1号火葬跡(第557図、P L .231・232・324)

位置 96M-3グリッド。62号住居、11号溝より後出。平面形は長楕円形で、長辺は直線に近い。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。規模は長径119cm短径82cmで、焼土面までの深さは約15cm、全体の深さは19cmである。中央部を中心に、焼土面で焼人骨、炭化物片が多量に出土する。壁面はほぼ焼土化し、埋没土1の下位も全体に焼土層が形成され、燃焼面と考えられる。出土した人骨は、鑑定の結果(第5章第1項)20～30歳代の女性の火葬人骨とされ、頭部が土坑北寄りにあり、頭を北にした屈位で火葬されたと判明した。埋没土から被熱した龍泉窯系青磁碗(1)、やや変形した銅銭(2)が出土しており、火葬時に入れられた可能性が高い。出土した炭化材は、樹種同定の結果(第5章第5項)、タケ亜科の割材と判明した。出土遺物から中世に比定される。出土した微量の種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、オナモミ総苞、オオムギ種子、コムギ種子、オオムギーコムギ種子、イネ種子、微量の炭化種実類は、モモ核、オオムギ種子、オオムギーコムギ種子と判明した。掲載遺物のほか土師器大型品115g・同小型品48g、須恵器小型品3片が出土している。

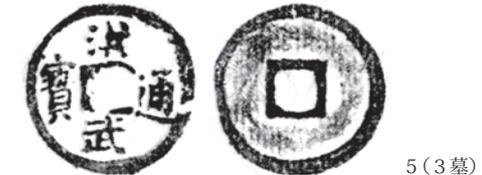
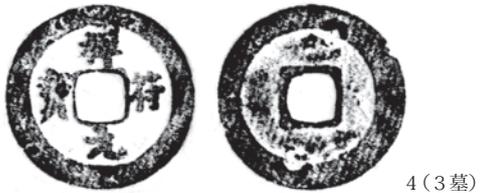
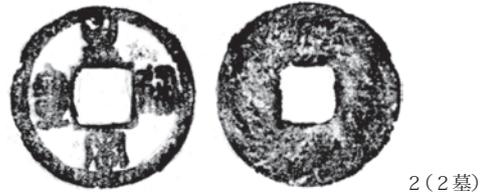
備考 調査段階1号墓を名称変更。

2号墓

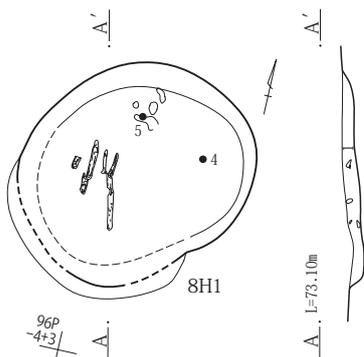


2号墓

- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量、骨片含む。
- 3 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、ローム小ブロック少量に含む。

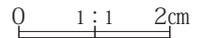
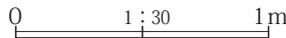


3号墓

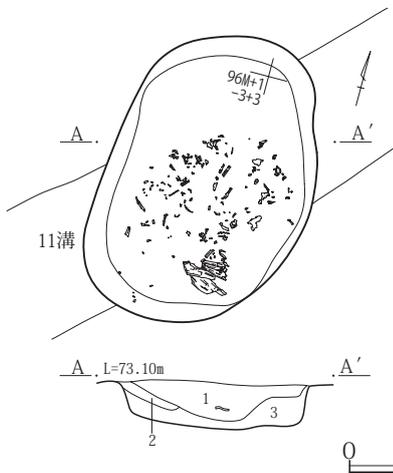


3号墓

- 1 暗褐色砂質土 ややしまる。砂多量、ローム粒子少量、骨片含む。

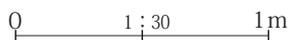


第556図 2区2・3号墓と出土遺物

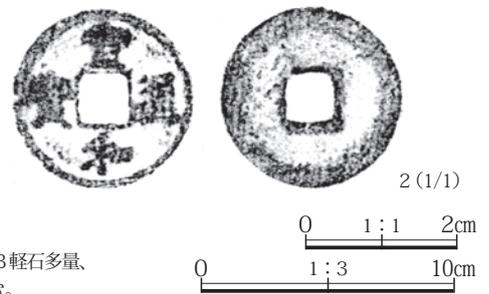
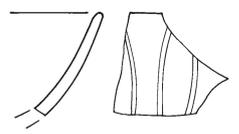


1号火葬跡

- 1 暗褐色砂質土 ややしまり弱い。浅間B軽石多量、焼土小ブロック・焼骨・焼けた角礫含む。
- 2 赤褐色焼土
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子多量、細焼骨片少量に含む。



第557図 2区1号火葬跡と出土遺物



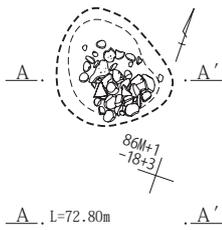
10 集石遺構

2号溝から西方へ10m程度離れた範囲で、集石遺構2か所が検出された。

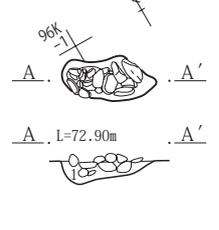
2号集石遺構(第558図、P L .232・324)

位置 86M-18グリッド。こぶし大に円礫を中心とする。礫の範囲は、ほぼ径45cmである。浅く掘り込みが確認される。掘り込みの規模は長径63cm短径55cm深さ11cmである。礫に混じって1の在地系土器が出土しており、江戸

2号集石



3号集石

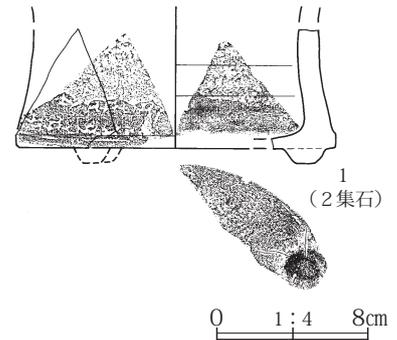


2号集石遺構

1 黄褐色土 よごれたローム。土壤攪乱か。

3号集石遺構

1 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。
ロームブロックやや多量に含む



第558図 2区集石遺構と出土遺物

11 溝

2区では17条の溝が検出されたが、1号屋敷に関わる3条を除く14条をここでは扱う。1区や隣接する綿貫牛道遺跡へも延びて、広域に及ぶ溝は4条ある。このうち、18号溝は区画溝であり、西側へ延びて綿貫牛道遺跡2区1号溝と同一だが、区画自体の一边40m規模によって規定されている。15～17号溝は、1区や綿貫牛道遺跡を超えて、更に調査区域外が延びる溝であり、判断情報を超えている。残る10条については、比較的小規模な溝であり、狭い範囲の遺構と関連するものとみられる。西端の14・19号溝のうち、前者は18号溝が囲む区画に一致し、後者は17号溝に並走して、広域な溝とも関連がうかがえる。調査区中央から東側に分布する11～13・20号溝は、周辺の住居と前後する溝で、同時期に営まれたものであろう。中世屋敷の西側に隣接する8号溝は、近世の溝で地割りと一致している。また、西側に並走する9・10号溝は、時期不明ながら中世屋敷西辺の2号溝と並走して中世以降とも思われ、これと合流して不明となる3号溝の年代観と合致する。

3号溝(第559図、P L .232)

位置 86N・O-19グリッド。東側は16号住居と重複して後出となるが、範囲は確認できていない。西端部は9

時代以降に比定される。時期の近い遺構として、東側に8号溝がある。

3号集石遺構(第558図、P L .232)

位置 86・96J-20・1グリッド。長さ10cm程度の棒状礫を長さ約40cm幅15cm程度の長方形に近い形に集める。浅く掘り込みが確認される。掘り込みの規模は長径49cm短径23cm深さ12cmである。礫に混じって古墳時代の土師器杯が出土したが、混入の可能性が高い。

号溝と接続して不明となる。平面形は直線状。走向方位はN-43°-W。断面形はU字形。底面は丸みを持つ。両端の比高差は8cmで、勾配1.34%で南東へ下向する。埋没土は暗褐色土を主体とするが埋没状況不詳。規模は長さ5.95m上端幅29～58cm深さ15cmである。埋没土から在地系土器鍋1片(非掲載)が出土する。出土遺物から中世に比定される。

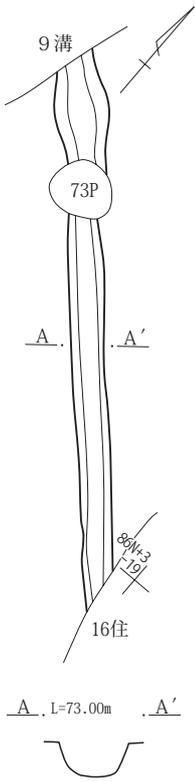
8号溝(第559図)

位置 86I～O-17～19グリッド。9・17・20・35号住居、2号溝より後出。南側は調査区域外に延びる。北側は9号住居を壊すが、範囲は確認できていない。平面形は直線状。走向方位はN-16°-E。断面形は皿状。底面は凸凹する。両端の比高差は29cmで、勾配1.04%で南方へ下向する。埋没土は浅間A軽石を含み、やや砂質。自然埋没とみられる。規模は長さ28.0m上端幅35～109cm深さ29cmである。遺物は出土していない。埋没土から近世以降に比定される。

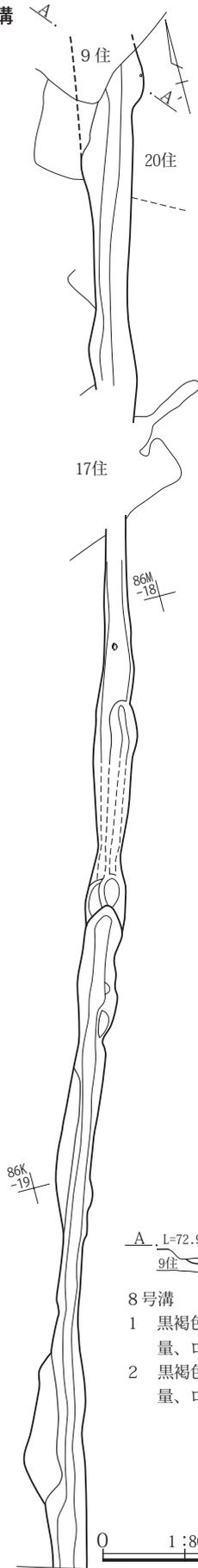
9号溝(第559図、P L .232)

位置 86N～P-19・20グリッド。8・42号住居跡、53号土坑、3号溝と重複するが新旧関係不明。北側は調査区域外に延びるか。南側は丸みをもって立ち上がる。平面形は直線状で、北端は東向きに湾曲し始める。走向方位はN-20°-E。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。両

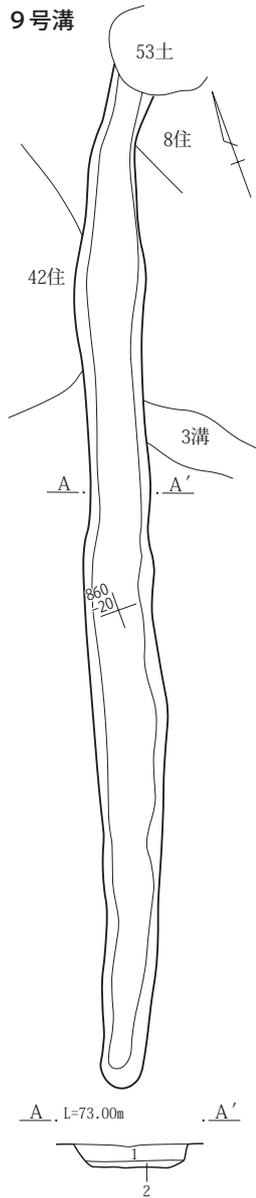
3号溝



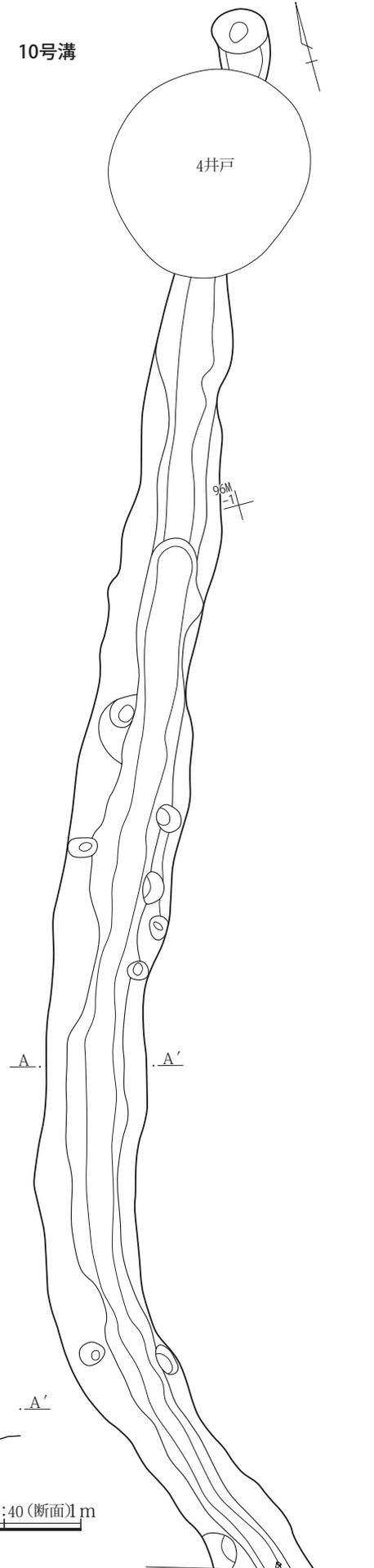
8号溝



9号溝

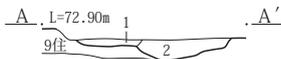


10号溝



9号溝

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや砂質。ロームブロック斑状に含む。



8号溝

- 1 黒褐色土 堅くしまりやや砂質。浅間A軽石多量、ローム粒子微量に含む。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや砂質。浅間A軽石少量、ローム粒子少量に含む。



0 1:80 2m

0 1:40 (断面) 1m

第559図 2区3・8~10号溝

端の比高差は14cmで、勾配1.29%で南方へ下向する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長さ10.88m上端幅39～79cm深さ18cmである。遺物は出土していない。

10号溝(第559図、P L .232)

位置 96J～M-1、86M-20グリッド。4号井戸より前出。北端は4号井戸の先で丸みを持って立ち上がる。南側は調査区域外に延びる。平面形は大部分直線状だが、南側で急速に東向きに湾曲する。走向方位はN-18°-W～N-22°-E。断面形は逆台形。底面は凸凹する。両端の比高差は4cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ20.28m上端幅65～148cm深さ39cmである。遺物は出土していない。

11号溝(第560図、P L .232)

位置 96K～O-1～5、86O・P-20グリッド。37・40・41・42・62号住居より後出で、44・52号住居、1号火葬跡より前出。南北両側とも調査区域外に延びる。平面形はやや小刻みに蛇行する。走向方位はN-42°-E。断面形は逆台形。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。両端の比高差は6cmで、勾配はほとんどない。自然埋没と思われる。規模は長さ34.40m上端幅65～114cm深さ26cmである。遺物は出土していない。

12号溝(第560図、P L .233)

位置 96M～O-2～4グリッド。59号住居より前出で、重複するピットとは新旧関係不明。平面形は緩く蛇行する。走向方位はN-50°-E。断面形は皿状。底面は凸凹する。両端の比高差は9cmで、勾配はほとんどない。自然埋没と思われる。規模は長さ15.76m上端幅48～153cm深さ23cmである。土師器小型品1片が出土している。

13号溝(第561図、P L .233)

位置 96K・L-3グリッド。両端ともほぼ垂直に立ち上がる。平面形はほぼ直線状。走向方位はN-27°-W。断面形は逆台形で、壁はかなり垂直に近い。底面は平坦。両端の比高差は6cmで、勾配はほとんどない。埋没土の下位は黒みが強く、上位は黄褐色土が一部被覆する。自然埋没した後、整地された可能性がある。規模は長さ6.08m上端幅46～99cm深さ54cmである。56号住居と並走しており、外部施設の可能性もある。遺物は出土していない。

14号溝(第560図、P L .233)

位置 96T・97A-16・17グリッド。西側は調査区域外へ延び、北端は緩く立ち上がるが、削平された可能性が高い。平面形はL字形。走向方位はN-69°-W～N-15°-E。断面形は皿状。底面は平坦でやや丸みを持つ。両端の比高差は5cmで、勾配はほとんどない。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没か。規模は長さ7.50m上端幅37～62cm深さ12cmである。土師器大型品130gが出土している。

15号溝(第561・563・564図、P L .233・324)

位置 96M～S-8～10グリッド。87～91号住居、16・20号溝より後出。南北両側とも調査区域外に延びる。北側は1区22号溝と同一である。平面形は直線状。走向方位はN-13°-E。断面形はU字形で、中位からくの字に外側へ開き中段を造る。底面は丸みを持つ。両端の比高差は3cmで、勾配はほとんどない。地形的に表流水が多く流れ込むため、一部砂層も見られ、埋没土はしまり気味である。自然埋没と思われる。規模は長さ30.48m上端幅207～302cm深さ78cmである。埋没土から在地系土器鍋鉢類がやや多く出土する。取り上げは16号溝と分けられていないが、本遺構のものが多いと思われる。27の在地系土器壺は注目される。遺物の年代は14世紀後半から16世紀にわたり、遺構年代は16世紀下限とすると考えられる。

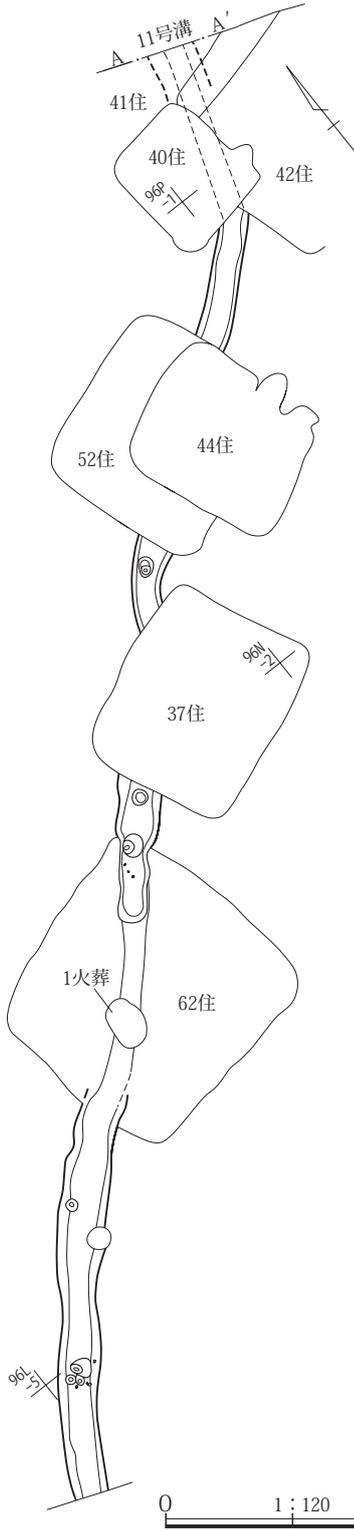
16号溝(第561・563・564図、P L .233・324)

位置 96M～S-8・9グリッド。87～91号住居より後出で、15号溝より前出。南北両側とも調査区域外に延びる。平面形は直線状。走向方位はN-13°-E。断面形は逆台形。底面はほぼ平坦でやや凸凹する。両端の比高差は10cmで、勾配はほとんどない。埋没土は浅間B軽石を多く含む。自然埋没と思われる。規模は長さ30.56m上端幅71～156cm深さ74cmである。出土遺物は16号溝と分けられない。中世に比定される。

17号溝(第562・565・566図、P L .233・234・324)

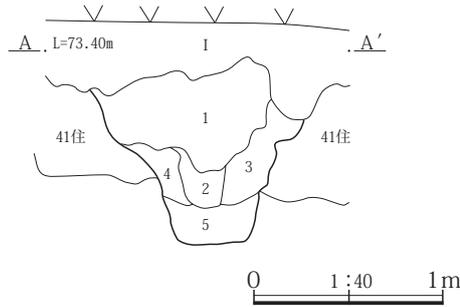
位置 96N～T-12～17グリッド。98・100号住居より後出で、98号土坑より前出。東西両側とも調査区域外に延びる。西側は隣接する綿貫牛道遺跡2区19号溝、更に北側へ延びて1区9号溝と同一である。平面形はほぼ直線状で、南側はわずかに西へ曲がり始める。走向方位はN-40°-W。断面形は皿状で、底面中央が更にV字形

11号溝



14号溝

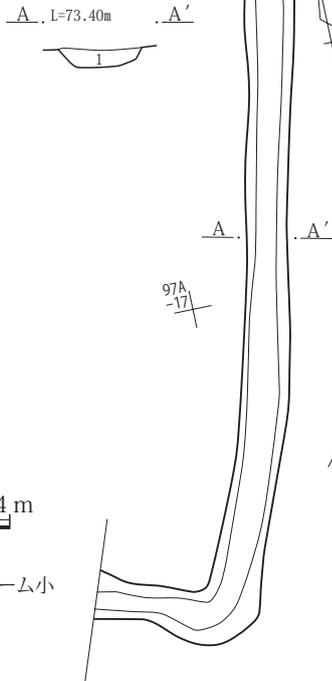
- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック少量、白色軽石含む。



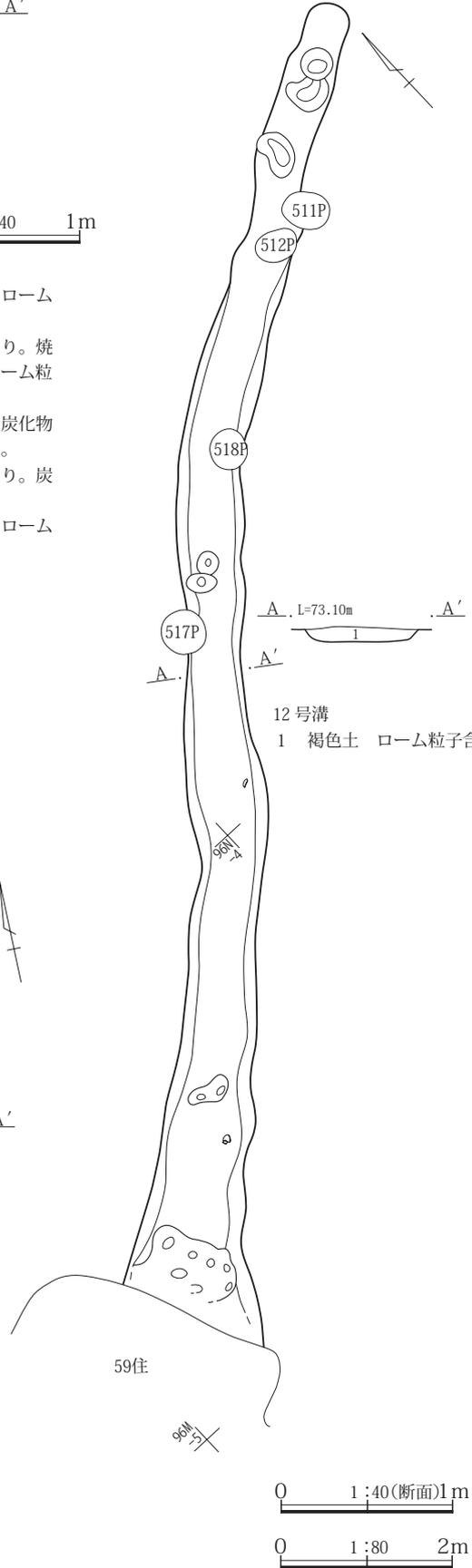
11号溝

- 1 暗褐色土 ややしまり強くやや砂質。ローム粒子含む。
 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。焼土粒子多量、炭化物粒子やや多量、ローム粒子微量に含む。
 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子やや多量、ローム粒子微量に含む。
 4 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。
 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。

14号溝



12号溝

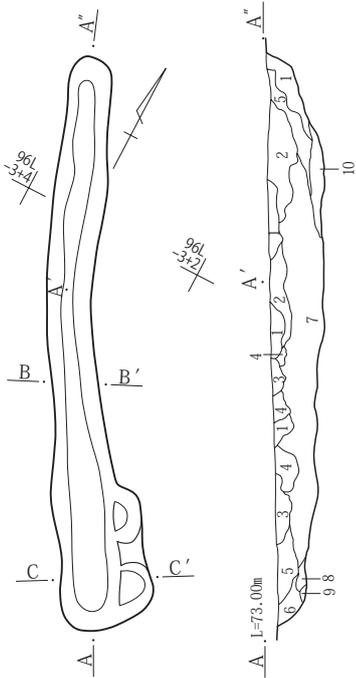


12号溝

- 1 褐色土 ローム粒子含む。

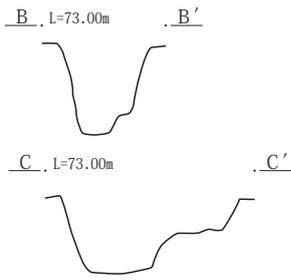
第560図 2区11・12・14号溝

13号溝

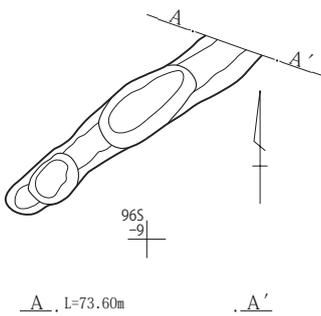


13号溝

- 1 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム大ブロックごく多量に含む。
- 2 にぶい橙色土 ややしまり弱い。褐色土大ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子少量に含む。
- 4 黄褐色土 しまる。
- 5 黒褐色土 ややしまる。ローム粒子少量に含む。
- 6 黒褐色土+黄褐色土 しまりやや粘性強い。
- 7 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム大ブロック多量に含む。
- 8 黒褐色土 しまりやや粘性強い。ローム大ブロック少量に含む。
- 9 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性あり。
- 10 黒褐色土 ややしまり弱く粘性あり。きめ細かい。ローム小ブロックやや多量に含む。



20号溝



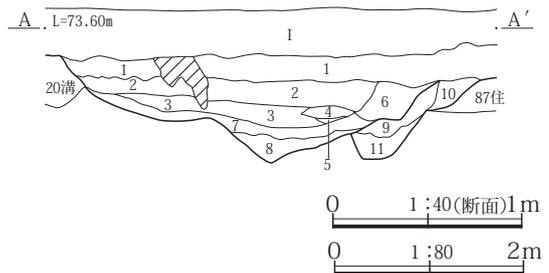
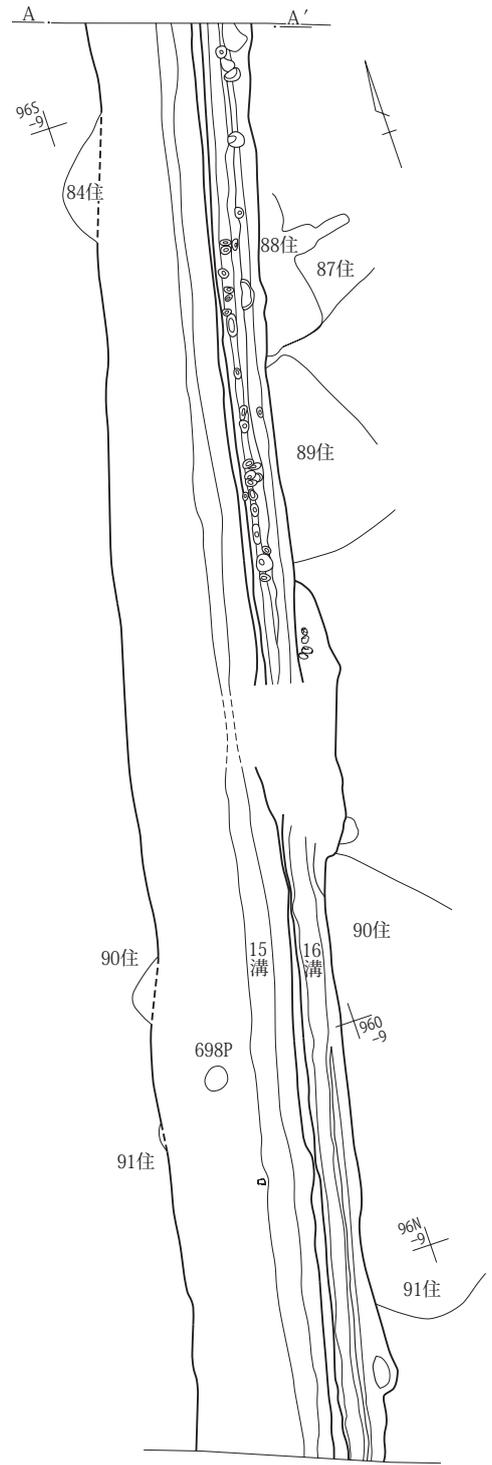
15・16号溝

- 1 暗褐色砂質土 しまる。白色軽石 (F P 含む) やや多量、炭化物粒子・焼土粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや砂質。白色軽石 (F P 含む) 多量、炭化物粒子・焼土粒子少量に含む。
- 3 暗褐色砂質土 堅くしまる。粗砂多量に含む。
- 4 暗褐色砂質土 ややしまり弱い。粗砂多量に含む。
- 5 中砂 ごく堅くしまる。
- 6 にぶい黄褐色砂質土 ややしまり弱い。粗砂含む。
- 7 にぶい黄褐色砂質土 ややしまる。細砂含む。
- 8 灰黄褐色シルト質土 しまる。白色軽石 (F P 含む) 少量に含む。
- 9 暗褐色砂質土 しまる。白色軽石 (F P 含む)・浅間B軽石多量に含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや砂質。黒褐色土ブロック・浅間B軽石含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。

20号溝

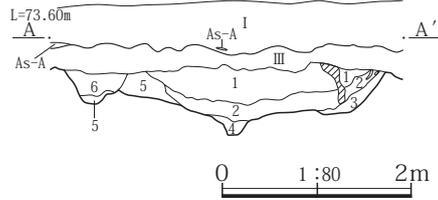
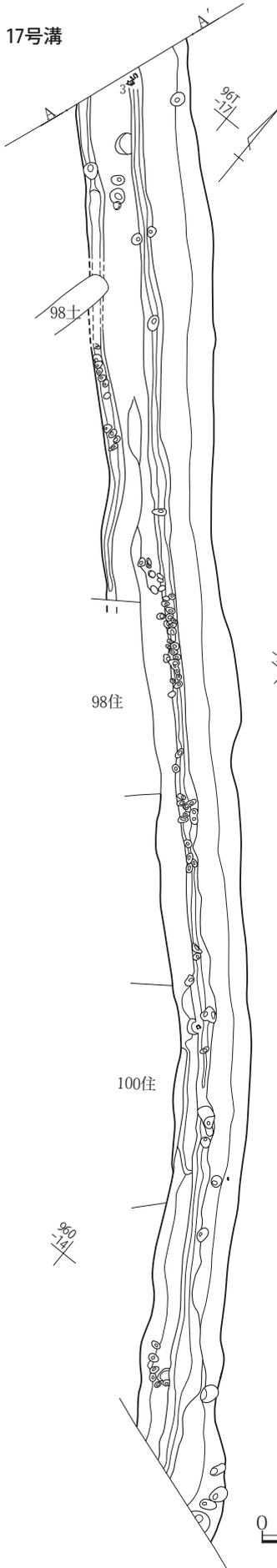
- 1 暗褐色土 ややしまり粘性強い。ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック・軽石粒子含む。

15・16号溝



第561図 2区13・15・16・20号溝

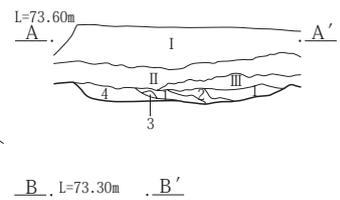
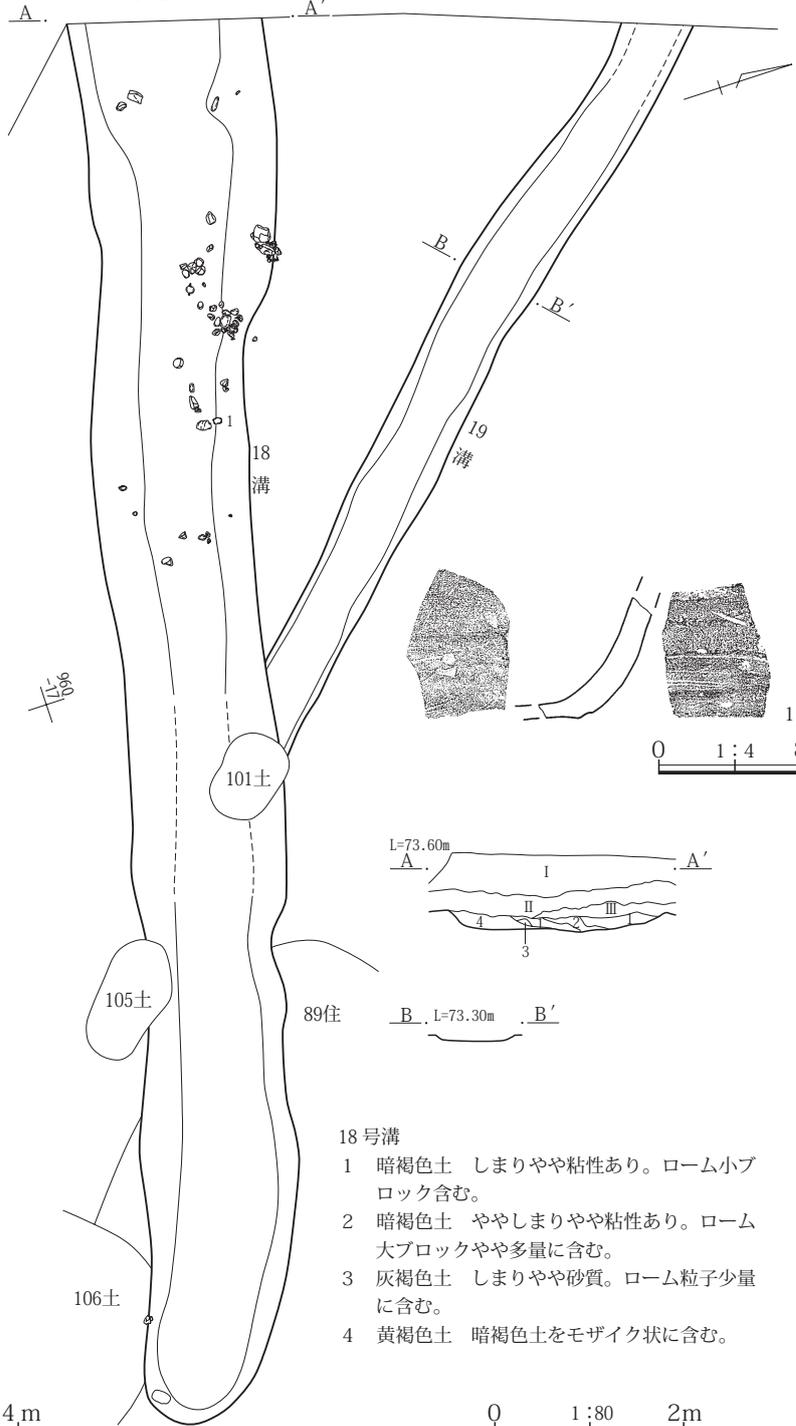
17号溝



17号溝

- 1 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性弱い。白色軽石 (F P 含) 含む。
- 2 灰褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。白色軽石 (F P 含) やや多量、ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子やや多量、砂礫 (浅間B軽石か) 含む。
- 4 黒褐色土 ややしまり弱くやや砂質。ローム大ブロック含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム大ブロック多量に含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。

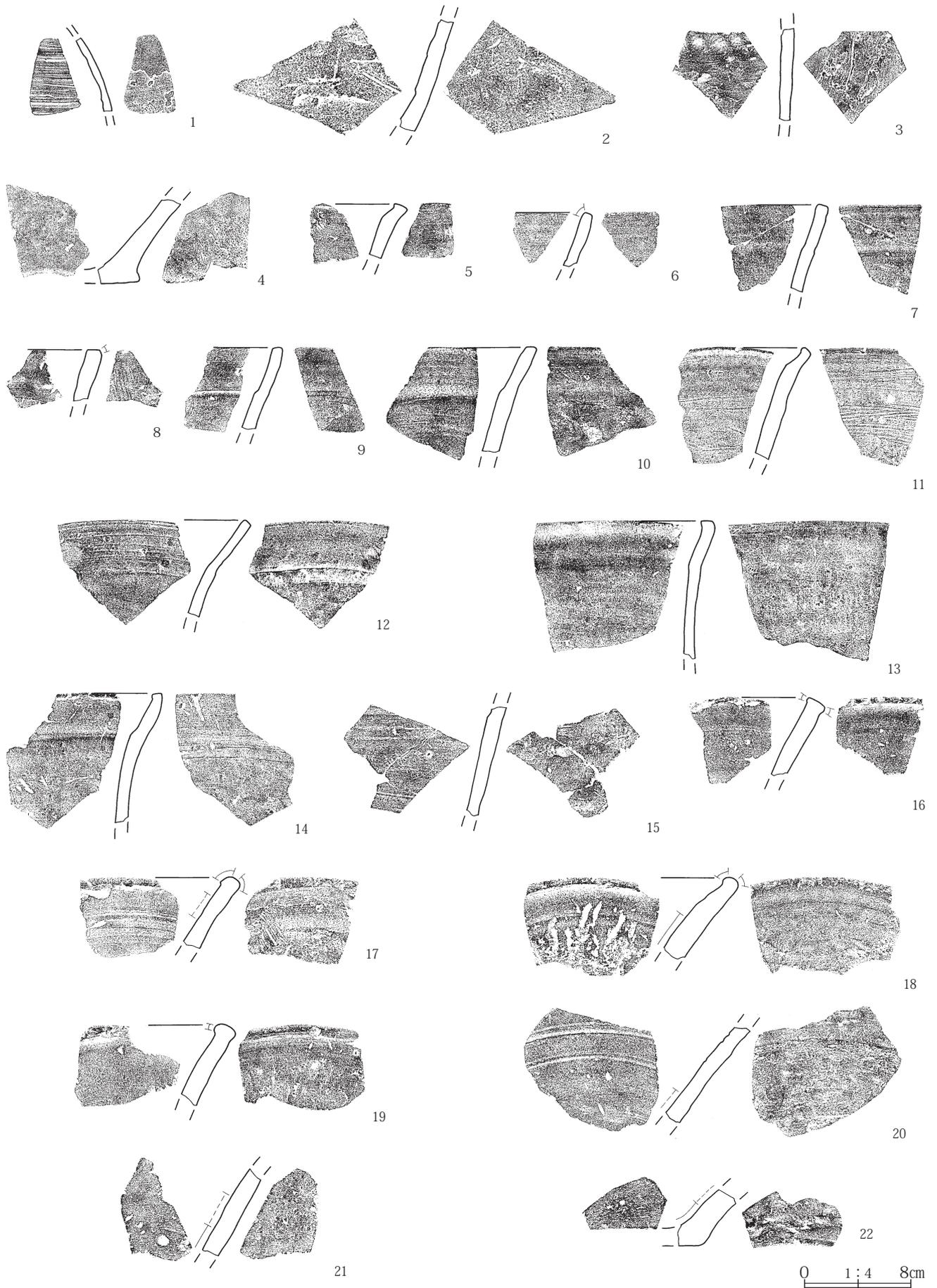
18・19号溝



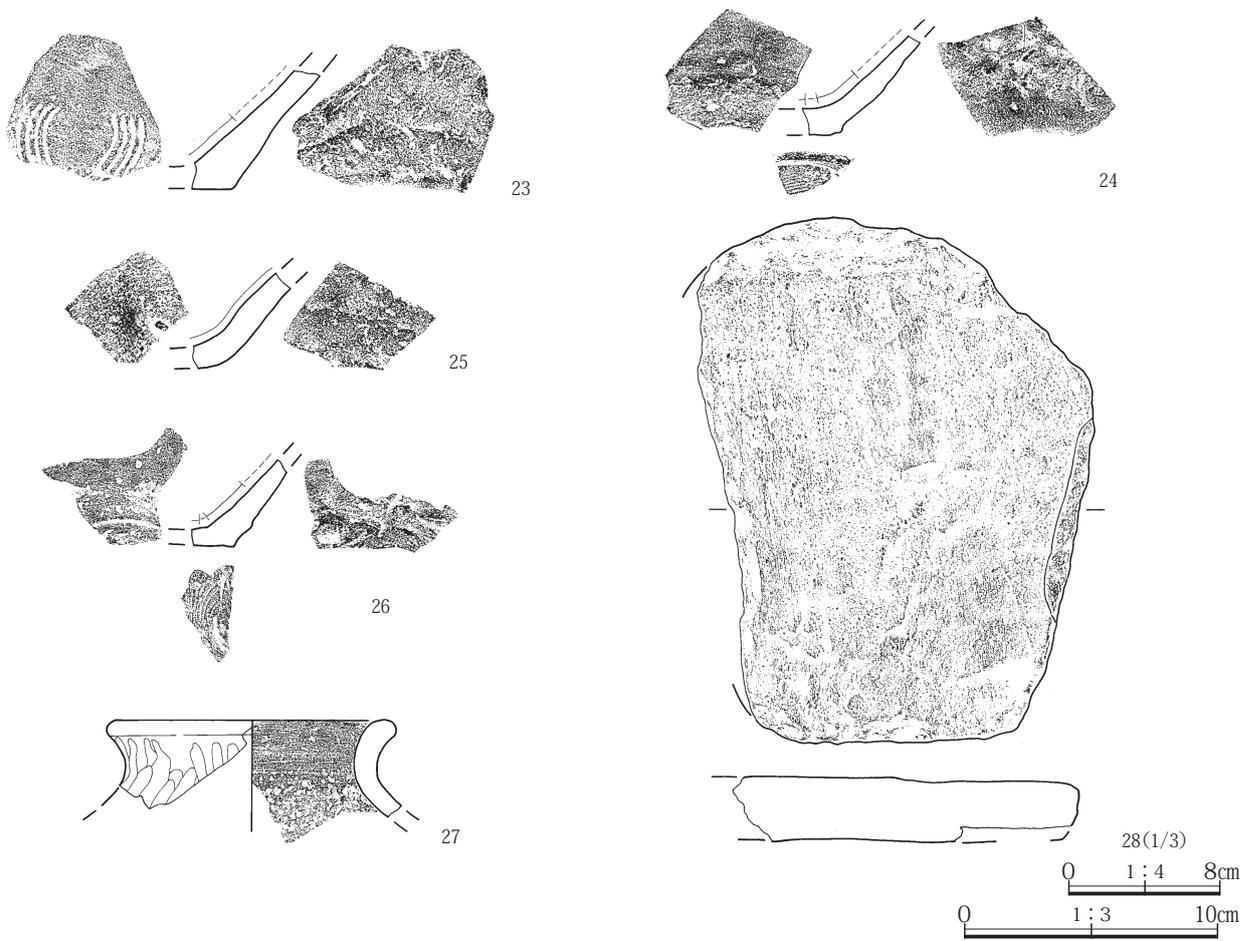
18号溝

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム大ブロックやや多量に含む。
- 3 灰褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子少量に含む。
- 4 黄褐色土 暗褐色土をモザイク状に含む。

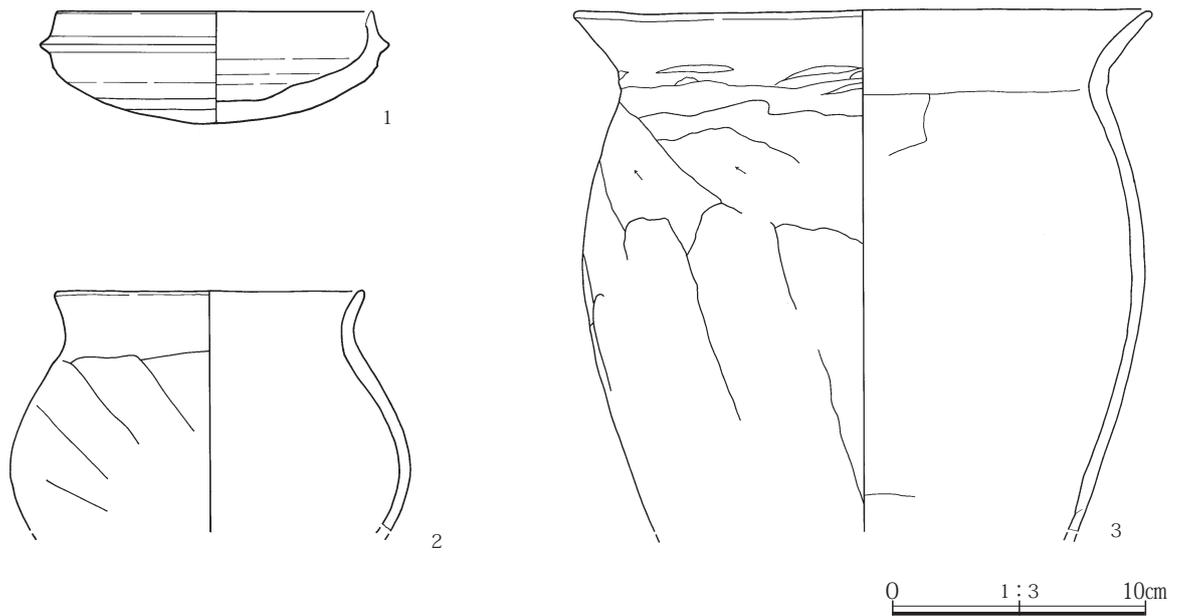
第562図 2区17～19号溝と18号溝出土遺物



第563図 2区15・16号溝出土遺物(1)



第564図 2区15・16号溝出土遺物(2)



第565図 2区17号溝出土遺物(1)

に凹むが、埋没土の違いから前出の溝とも思われる。ただし、走向に違いはない。また、南端にも細い溝が並走しており、後出のようにも見えるが、調査所見はない。埋没土は一部浅間B軽石の可能性も考えられるが、暗褐色土を主体として自然埋没と思われる。規模は長さ38.04m上端幅187～316cm深さ56cmである。埋没土から土師器甕(3)ほかが出土する。掲載遺物のほか須恵器小型品2片、埴輪1片が出土している。出土遺物から8世紀前半を下限とすると考えられる。

18号溝(第562図、P L .234)

位置 96P～R-15～18グリッド。98号住居、101・106号土坑より後出で、105号土坑、19号溝と重複するが新旧関係不明。西側は調査区域外となり、隣接する綿貫牛道遺跡2区1号溝と同一である。平面形は直線状で、東端はわずかに南に湾曲する。走向方位はN-73°-W。断面形は浅い皿状。底面はほぼ平坦。両端の比高差は4cmで、勾配はほとんどない。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没か。規模は長さ14.92m上端幅118～206cm深さ10cmである。西寄り以小礫が幾つか出土し、あわせて在地系土器内耳鍋(1)が出土する。出土遺物か

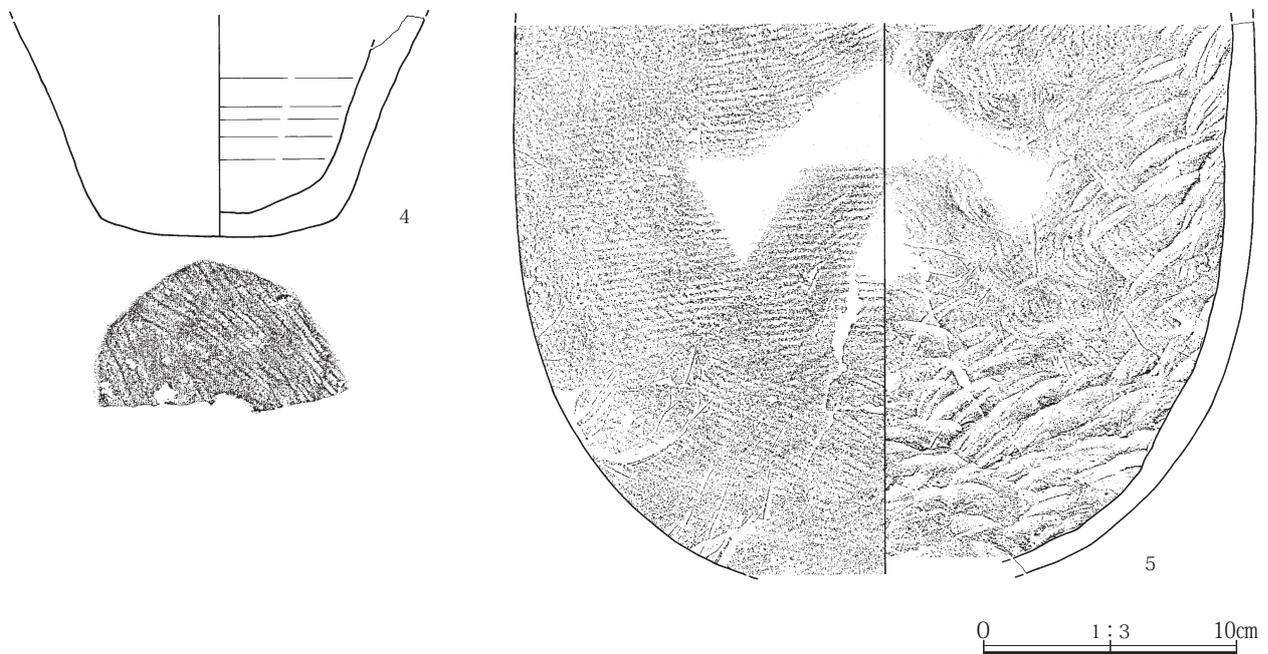
ら14・15世紀に比定される。

19号溝(第562図、P L .234)

位置 96Q・R-16・17グリッド。101号土坑より後出。18号溝と重複するが新旧関係不明で、合流後の状況は不明となる。西側は調査区域外へ延びるが、隣接する綿貫牛道遺跡2区では同一となる溝は確認できない。平面形は直線状。走向方位はN-42°-W。断面形は浅い皿状。底面は平坦。両端の比高差は7cmで、勾配はほとんどない。埋没状況不詳。規模は長さ8.85m上端幅64～82cm深さ12cmである。17号溝と並走するため、関連する可能性がある。

20号溝(第561図、P L .234)

位置 96S-8・9グリッド。15号溝より前出で、82号住居より後出だが、南へは延びない。北側は調査区域外に延びる。平面形は直線状。走向方位はN-54°-E。断面形はU字形。底面は平坦で、2か所が土坑状に30cm程度掘り込まれる。勾配は計測できない。埋没土は暗褐色土を主体として自然埋没か。規模は長さ3.12m上端幅38～60cm深さ19cmである。土師器大型品1片が出土している。



第566図 2区17号溝出土遺物(2)

12 1号屋敷(中世)

1号屋敷は2号溝を西限として、北限は1区2号溝となる。東限・南限は調査区域外となり不明である。規模は溝外側で南北48m以上、東西46m以上である。なお、4号溝は屋敷を南北に分割する区画溝であり、埋没状況から途中で埋められたと考えられる。これにより、屋敷は、北側で南北約21m、南側は南北30m以上に分割される。なお、同様に屋敷を細分する区画溝として、3区1号溝がある。1号屋敷では19棟の掘立柱建物が検出され、主軸方位により4種類に分類できる。土坑は41基、ピットは450基検出され、多くが屋敷に伴うものと考えられる。

(1)掘立柱建物

1号屋敷では調査段階で掘立柱建物1棟が認定されていたが、その1棟についても変更の余地があり、1号柱穴列として次項へ回す。ここでは、整理段階で新たに認定した19棟を扱う。

主軸方位に着目すると、第19表のとおり掘立柱建物は4種類に分類でき、4類については更に二分される。全体として、小規模で規格性の低い建物が多いため、平面

形が歪み数値が安定しない。

1類は真北に対して、主軸が西へ77～81度傾く6棟である。このうち、12号掘立柱建物だけは、やや数値が大きいため分けている。重複関係と柱筋の一致を手がかりにすれば、ほぼ2棟ずつに組み合わせられ、3時期にわたる。

2類は同じく主軸が西へ72～76度傾く5棟である。14号掘立柱建物は数値的にやや乱れるが、一部が調査区域外となる影響も想定されるため、18号掘立柱建物との関係から、この分類となる。重複関係と柱筋の一致から2～3時期にわたる。

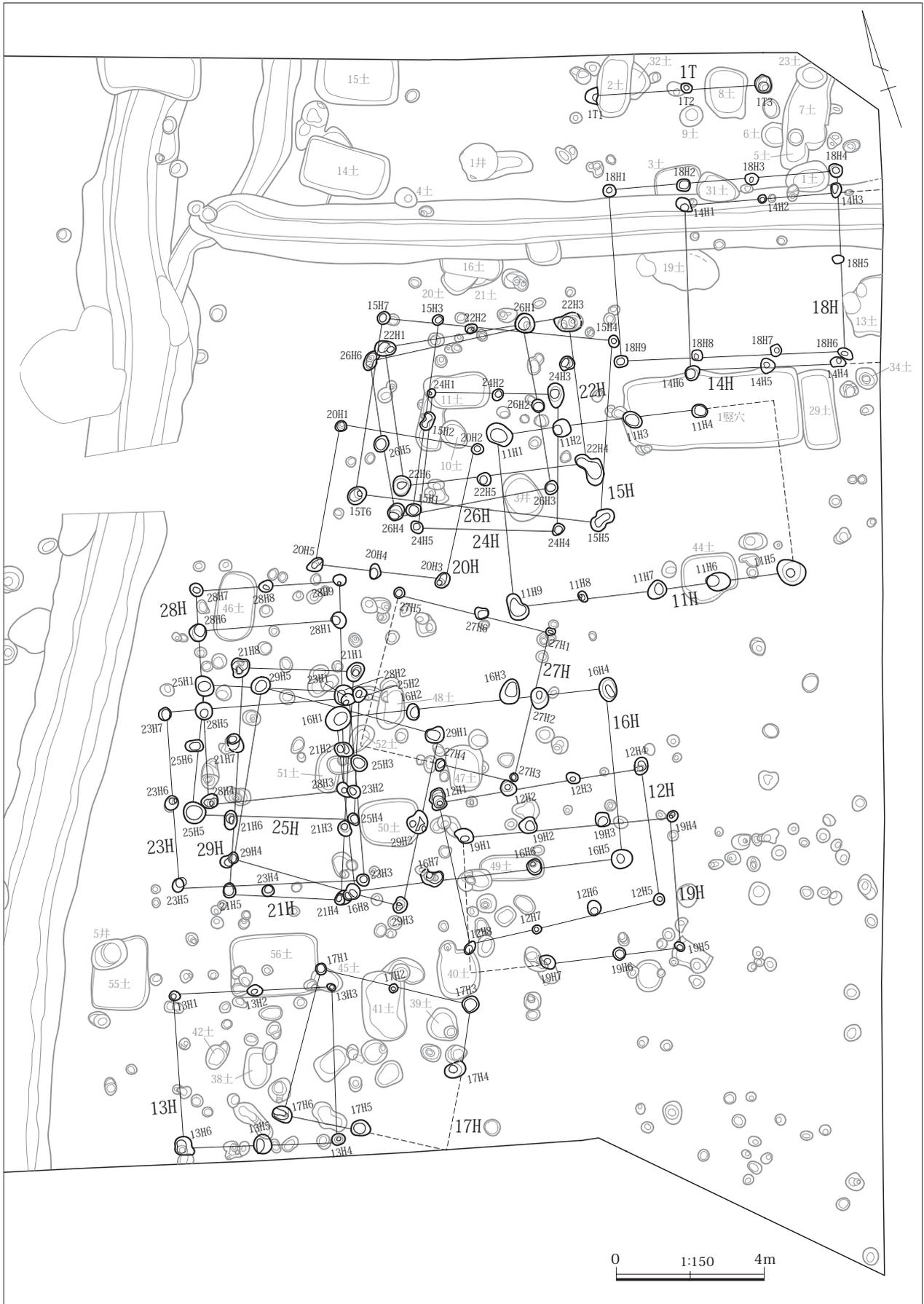
3類は同じく主軸が西へ64～70度傾く4棟である。重複関係と柱筋の一致から2時期程度となる。

4類は同じく主軸が西へ56～62度傾く4棟である。主軸方位の違いで二分されるが、柱筋の一致からもその組み合わせが追認できる。

分布からみると、1号屋敷の外形を区画する2号溝と走向方位が一致するのは、4類だけである。また、屋敷を細分する4号溝と2類の14・18号掘立柱建物は重複しており、時期が異なることを示している。

第19表 2区1号屋敷内・3区建物一覧

区名	分類名	建物No	主軸方位	面積㎡	桁行平均	桁行平均柱間	寸尺	梁間平均	寸尺	規格(梁間×桁行)	埋没状況	分類内での重複
2区	1	11	N-78°-W	35.16	7.48	1.87	6.2	4.70	15.5	1×4間・東西棟	人為	22・26
		12	N-81～85°-W	20.67	5.46	1.82	6.0	3.785	12.5	1×3間・東西棟	柱痕	
		16	N-77～78°-W	33.94	7.33	2.443	8.1	4.63	15.3	1×3間・東西棟	柱痕	19
		19	N-77°-W	19.76	5.63	1.877	6.2	3.55	11.7	1×3間・東西棟	人為	16
		22	N-78°-W	18.09	3.73			4.85	16.0	2×1間・東西棟	柱痕	11・26
		26	N-10～11°-E	19.18	4.385			4.375	14.4	1×2間・正方形	柱痕	11・22
	2	13	N-74～75°-W	17.97	4.30			4.18	13.8	1×2間・正方形		
		14	N-76～(79)°-W	18.92	4.61			4.105	13.5	1×2以上間・東西棟	柱痕	18
		18	N-73～76°-W	29.83	6.15	2.05	6.8	4.85	16.0	1×3間・東西棟	柱痕	14
		23	N-15°-E	23.27	4.705			4.945	16.3	2×2間・正方形		28
		28	N-16～18°-E	21.14	4.675			3.66	12.1	1×2間・南北棟・北庇	柱痕	23
		15	N-64～67°-W	32.84	5.105			4.925	16.3	1×2間・正方形・西下屋		
		21	N-22～24°-E	18.79	6.10	2.033	6.7	3.08	10.2	1×3間・南北棟		25
		24	N-70°-W	13.36	3.685			3.625	12.0	2×1間・正方形		
3	25	N-68°-W	14.71	4.275			3.44	11.4	2×1間・東西棟		21	
	20	N-60～62°-W	13.88	3.59			3.865	12.8	2×1間・正方形			
4-1	29	N-29～31°-E	22.33	4.70			4.75	15.7	1×2間・正方形	柱痕		
	17	N-56～57°-W	17.42	4.17			4.10	13.5	2×2間・正方形			
4-2	27	N-57°-W	17.43	4.25			4.10	13.5	2×2間・正方形			
	1	N-20～21°-E	20.85	5.45	1.817	6.0	3.825	12.6	2×3間・南北棟		2	
3区	2	2	N-15°-E	19.63	3.945			3.835	12.7	1×2間・正方形・北下屋		1
		3	N-40～42°-E	(20.48)	5.55	1.85	6.1	3.69	12.2	1×3間・南北棟	人為	4・5
	5	4	N-44°-E	13.22	4.3			3.075	10.1	1×2間・南北棟		3・5
		5	N-48°-E	(21.59)	6.24	2.08	6.9	3.46	11.4	1×3間・南北棟		3・4



第567図 2区1号屋敷内掘立柱建物分布図

11号掘立柱建物(第568図、P.L.235・236、第20表)

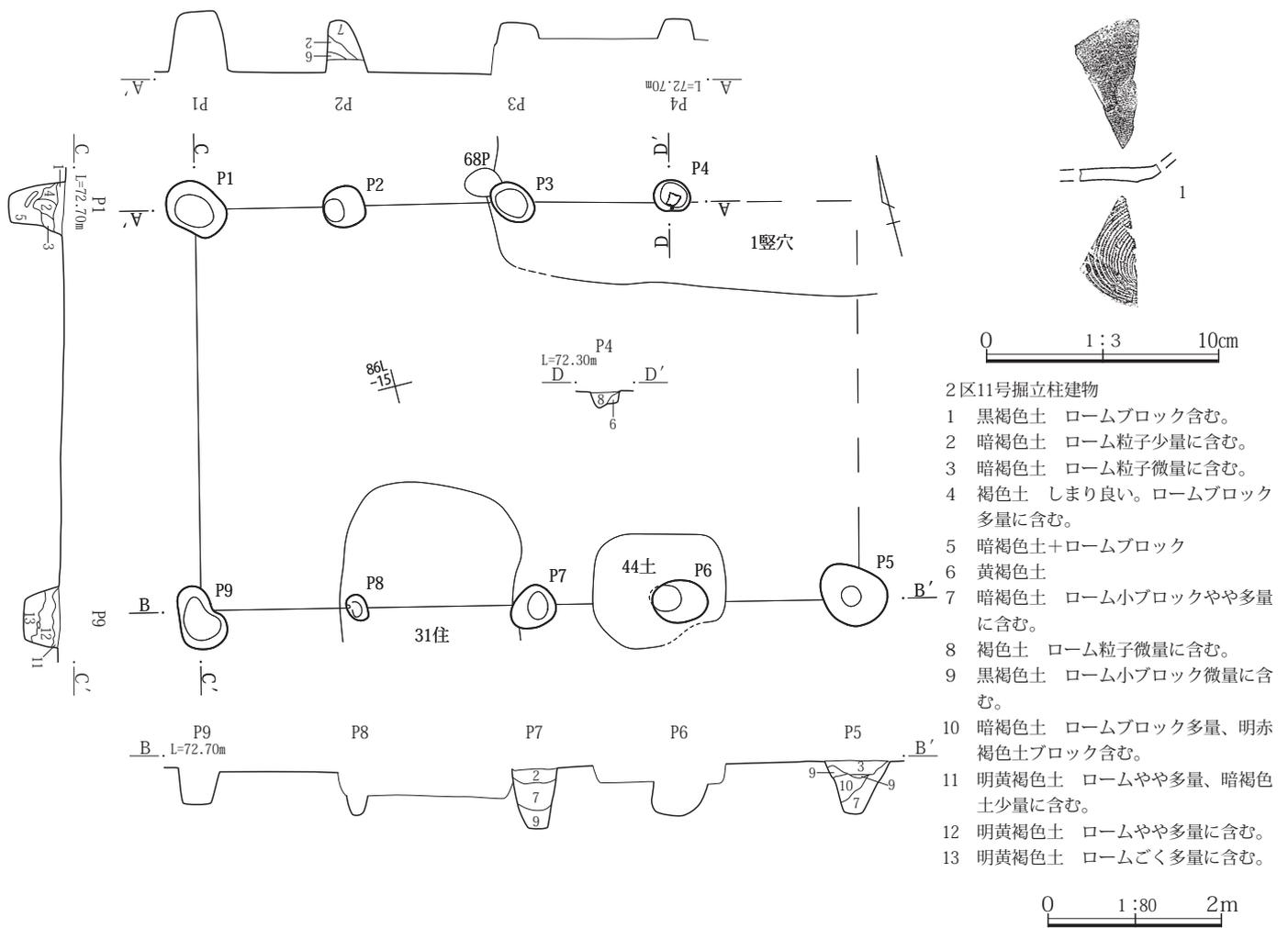
位置 86K・L-14・15グリッド。

重複 P8は31号住居より後出と考えられ、P6は44号土坑より後出。P3・P4は1号竪穴状遺構と重複するが新旧関係不明。15・22・24・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-78°-W 面積 (35.16) m²

形態 梁間1間型で桁行4間の東西棟。北東隅柱は1号竪穴状遺構と重複して消滅したものと考えられるが、遺構写真では底面に若干痕跡らしいものがある。桁行柱間を平均すると、約1.87m・約6.2尺であるが、北辺のP2が27cm西に寄るため、P3との柱間が18cm広がっている。南辺のP6は26cm西に、P7は逆に21cm東に寄る

ため、P6・7間の柱間は1.47mと狭い、位置的に出入り口である可能性も示す。重複により上面を壊されているものを除くと、柱穴の規模は径60cm前後が主体である。P1・5・9は長径が70cmを超えて大きいが、P1・9の埋没土は黄褐色～明黄褐色土が多く、水平方向に埋まるため、廃棄後に柱を抜き取り、人為的に締め固めながら埋められた可能性が高い。P2・5も人為的に東方向から埋められており、同様に位置づけられる。柱穴の形態はP2が隅丸方形で、残りは楕円形である。柱穴の深さは43～71cmと概ね深い。詳細な規模と非掲載遺物は第20表のとおり。P3の埋没土から1の古瀬戸陶器小皿が出土する。出土遺物から15世紀代に比定される可能性がある。



第568図 2区11号掘立柱建物と出土遺物

第20表 2区11号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	梁間1間型・桁間4間・東西棟				面積	(35.16)㎡		旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位	N-78°-W				位置	86K・L-14・15			
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
	P 1	72	55	71	楕円形	1.60	142		
	P 2	47	47	59	隅丸方形	2.05	138		
	P 3	60	40	57	楕円形	1.84	65	土師大1片	
	P 4	43	35	64	楕円形	—	81		
南辺 7.48	P 5	80	65	58	楕円形	2.13	121		
	P 6	64	48	61	楕円形	1.47	324		
	P 7	55	45	70	楕円形	2.08	294	土師大5・小5片	
	P 8	31	23	62	楕円形	1.81	—		
西辺 4.70	P 9	76	52	43	不整楕円形	P 1へ4.70	37土		

12号掘立柱建物(第569図、P L .236、第21表)

位置 86 I ・ J -15・16グリッド。

重複 P 3は33号住居と、P 4は32号住居跡と、P 5は49号住居と重複し、後出と考えられる。P 8は40号土坑と重複するが新旧関係不明。16・19号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-81～85°-W 面積 20.67㎡

形態 梁間1間型で桁行4間の東西棟。東辺は西辺より43cm短いため、東辺は東へ外傾し、南辺は西下がり傾いて、平面形は歪な台形となる。桁行柱間を平均すると、約1.82m・約6.2尺であるが、北辺の柱穴はほぼ同じ柱間で並ぶ。南辺のP 7は10～16cm程度東へ寄るため、P 6・7間の柱間は1.66mと狭い。ただし、南辺が西下がり大きく傾くため、北辺との対応関係は数値ほどには齟齬がない。P 6は柱筋よりも内側へずれ込む。P 1では柱痕が確認され、埋没土6は充填土である。P 4も写真から断面作図部分は柱痕部分と推測される。南辺の柱穴についても均質ではなく、柱痕を残す可能性がある。P 1の長径は58cmとやや大きいため、柱の建て替えなどによる重複も考えられる。ほかは概ね40cm前後である。柱穴の形態は乱れのあるP 1を除き、すべて円形・楕円形である。柱穴の深さは、P 7・8が30cm前後とやや浅く、他に南辺P 5・6も40cm前後である。北辺はすべて57～70cmと深いため、北辺と南辺で柱穴の深さを変えている可能性もある。詳細な規模と非掲載遺物は第21表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

13号掘立柱建物(第570図、P L .236、第22表)

位置 86 I ・ J -17・18グリッド。

重複 P 5は256号ピットより後出。P 2は56号土坑と、P 3は45号土坑と重複するが新旧関係不明。17号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。
主軸方位 N-74～75°-W 面積 17.97㎡

形態 南北1間×東西2間の正方形。南北辺が9～15cm程度長い。北辺中間柱P 2は4cm程度東へ寄る。P 5は明黄褐色土を主体とするが、地山も汚れたロームであり、一概に全て埋填土とは見なしがたい。ただし、P 1上位に黄褐色土が水平に堆積するため、廃棄後に柱を抜き取り、人為的に埋められた可能性も残る。柱穴の規模は、重複で壊されるP 2・3を除いても、径30～50cmとややばらつきがある。P 6については、別のピットまたは抜き取り跡の重複も考えられる。柱穴の形態は、P 6を除いてすべて円形・楕円形である。深さは59～70cmと概ね深い。詳細な規模は第22表のとおり。中央部に楕円形の42号土坑があり、埋没土に炭・焼土などは見られないが、位置から内部施設である可能性が高い。遺物は出土していない。

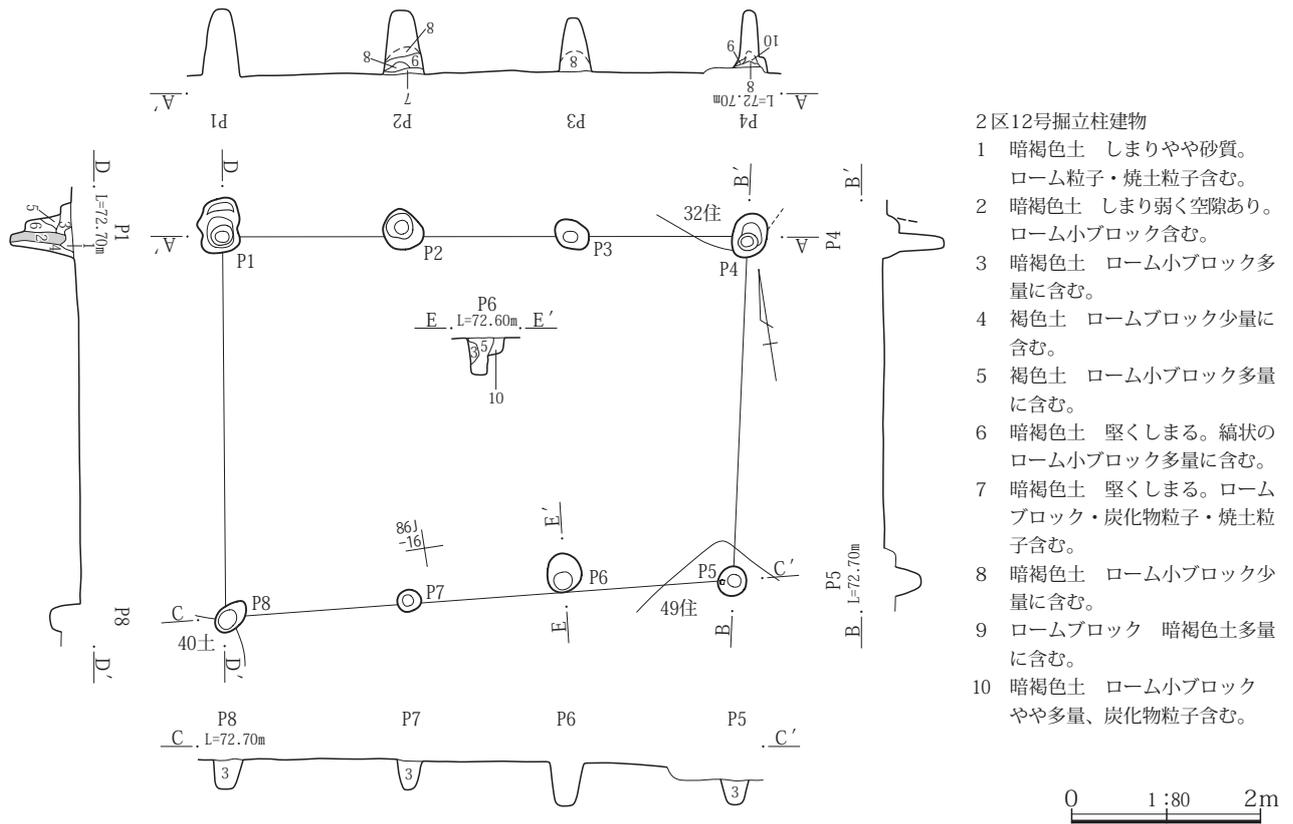
14号掘立柱建物(第571図、P L .237、第23表)

位置 86 L ・ M -13・14グリッド。

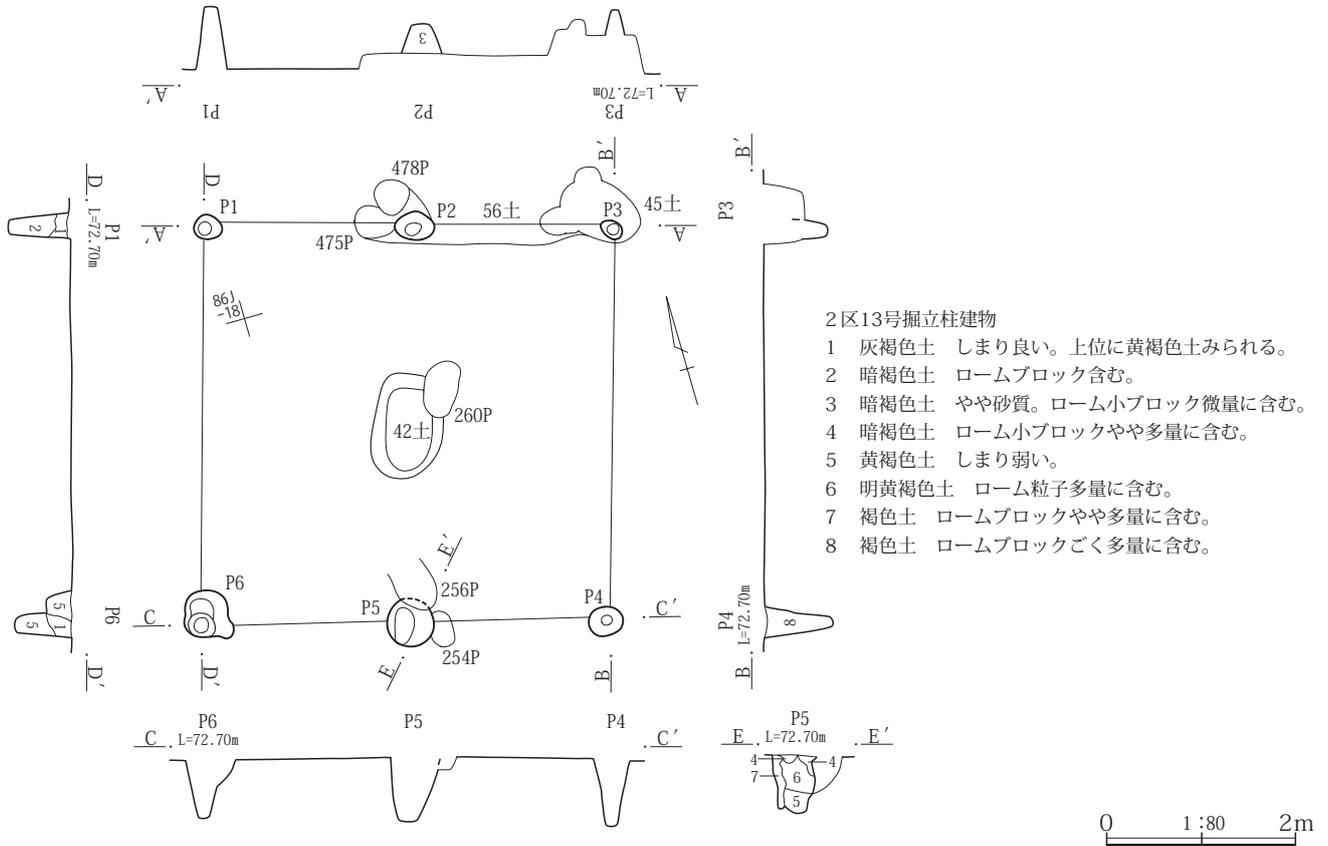
重複 P 1は72号ピットより後出。P 1～3は4号溝と、P 4・5は1号竪穴状遺構と重複するが新旧関係不明。18号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-76～79°-W 面積 18.92㎡

形態 梁間1間型で桁行2間以上の東西棟。重複する18号掘立柱建物と近似するため、桁行3間以上と想定する。西辺は東へ内傾する。北辺のP 1・2間、南辺のP 5・



第569図 2区12号掘立柱建物



第570図 2区13号掘立柱建物

6間の柱間は、ともに隣の柱間、P2・3間、P4・5間よりも13cm前後広く、南北辺同士ではよく符号する。P5では柱痕が残り、埋没土7は充填土である。重複による影響もあるが、柱穴の規模は、概ね径40～50cmと

均質である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは78cmと深いP1を除き、概ね30cm前後である。詳細な規模は第23表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

第21表 2区12号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間1間型・桁間4間・東西棟			面積	20.67㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-81～85°-W			位置	86I・J-15・16		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 5.55	P 1	58	41	70	隅丸長方形	1.90	412	
	P 2	43	39	63	楕円形	1.78	309	
	P 3	37	27	57	楕円形	1.87	312	
東辺 3.57	P 4	48	36	59	楕円形	3.59	330	土師大1・小1片
南辺 5.37	P 5	31	30	40	円形	1.80	49住内ピット	
	P 6	41	36	42	楕円形	1.66	223	
	P 7	26	24	27	円形	1.92	217	
西辺 4.00	P 8	40	25	30	楕円形	P 1へ4.00	215	

第22表 2区13号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		1×2間・正方形			面積	17.97㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-74～75°-W			位置	86I・J-17・18		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 4.30	P 1	30	26	63	楕円形	2.20	232	
	P 2	42	30	47	楕円形	2.11	477	
東辺 4.15	P 3	25	18	66	楕円形	4.14	296	
南辺 4.30	P 4	37	30	70	楕円形	2.15	201	
	P 5	50	47	67	円形	2.15	257	
西辺 4.21	P 6	50	50	59	隅丸方形	P 1へ4.21	239	

第23表 2区14号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間1間型・桁間(2)間・東西棟			面積	18.92㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-76～79°-W			位置	86L・M-13・14		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 4.13	P 1	50	34	78	楕円形	2.13	71	土師大1片
	P 2	22	22	10	円形	2.00	59	
東辺 4.65	P 3	40	30	27	楕円形	4.65	56	
南辺 4.08	P 4	43	30	35	楕円形	1.98	—	
	P 5	40	38	30	円形	2.12	82	
西辺 4.57	P 6	43	37	37	楕円形	P 1へ4.57	—	

15号掘立柱建物(第572図、P L .237・325、第24表)

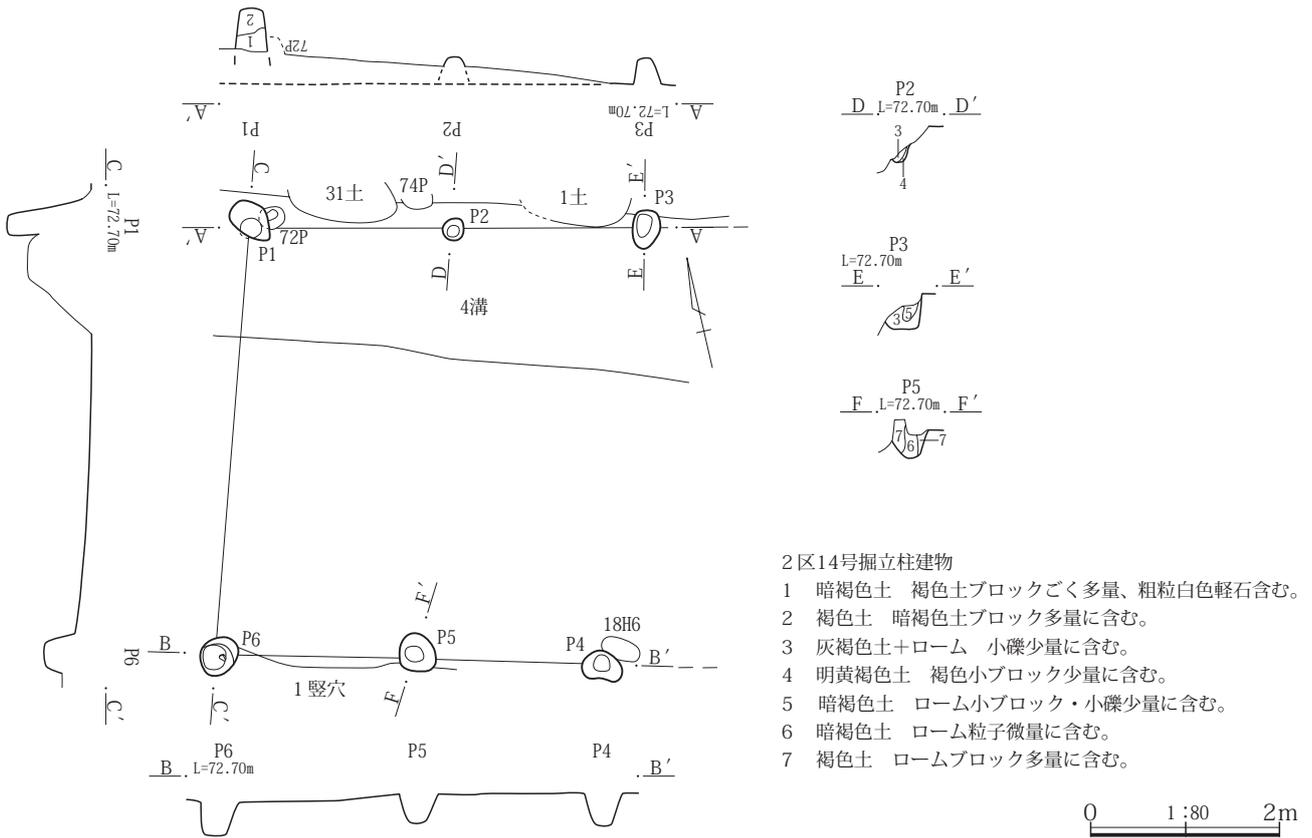
位置 86K～M-14・16グリッド。

重複 P5は127・128号ピットと重複するが新旧関係不明。15・22・24・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

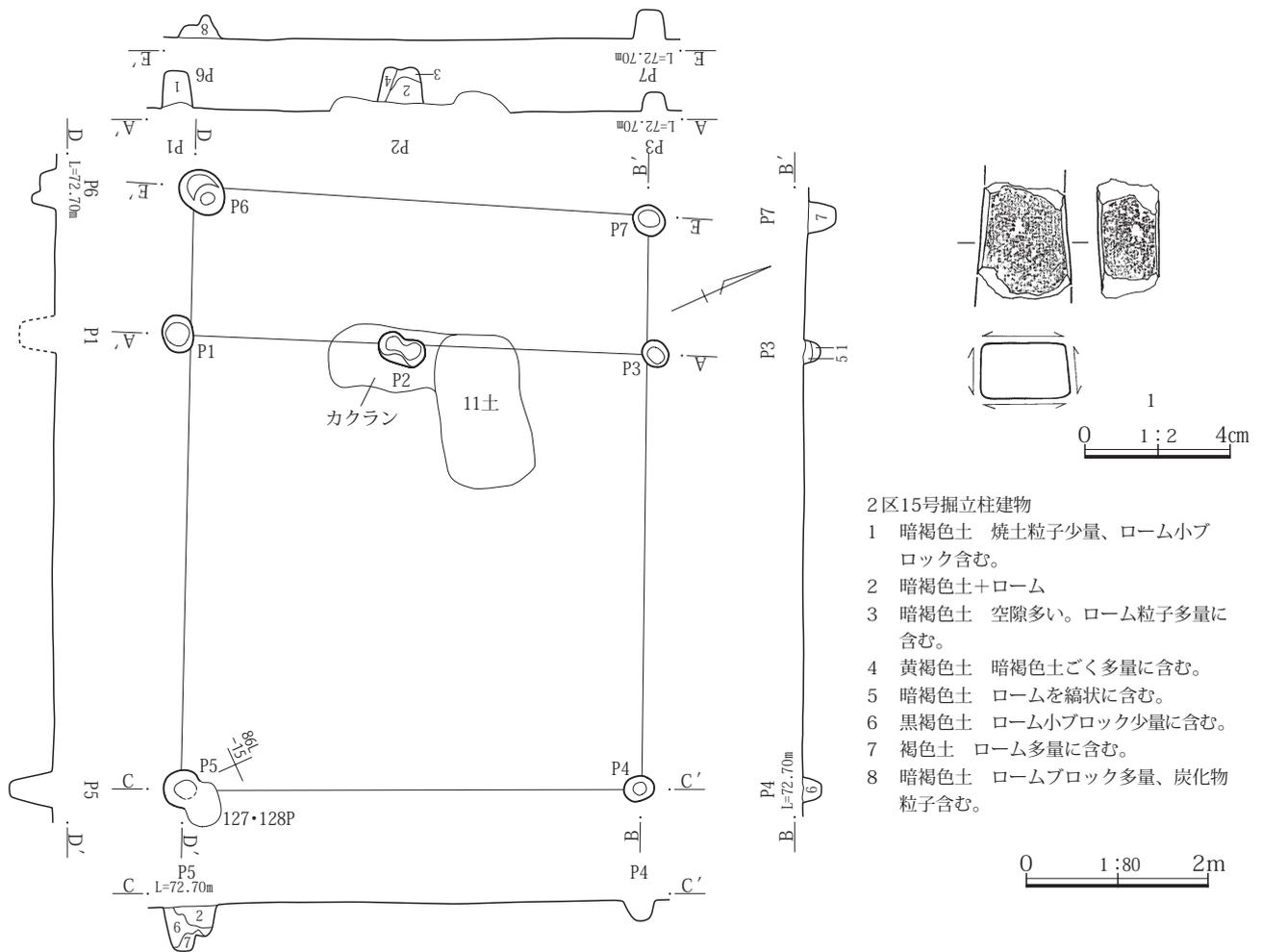
主軸方位 N-64～67°-W 面積 32.84㎡

形態 南北1間×東西2間の正方形・西下屋。北辺は南辺より25cm短いため、西辺は東へ内傾する。西辺の中間柱P2は45cm南へ寄る。P2・6の長径は50cmを超える

が、別のピットまたは抜き取り跡の重複も考えられる。ほかのピットの径は31～41cmである。埋没土はロームが目立つが、特徴的なものはない。柱穴の形態は、乱れのあるP2・5を除き全て楕円形である。柱穴の深さは北辺のP3・4が18・19cmと浅く、残りも31～46cmとやや浅い。詳細な規模は第24表のとおり。P5の埋没土から1の砥石が出土する。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。



第571図 2区14号掘立柱建物



第572図 2区15号掘立柱建物と出土遺物

第24表 2区15号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		1×2間・正方形・西下屋			面積	32.84㎡		旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-64~67°-W			位置	86K~M-14~16			
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
西辺 5.23	P 1	41	33	40	楕円形	2.40	162		
	P 2	52	31	41	—	2.85	26	土師大1・小2片須恵小1片	
北辺 4.80	P 3	31	27	18	楕円形	4.80	20	土師大1片	
東辺 4.98	P 4	34	27	19	楕円形	4.97	8		
南辺 5.05	P 5	41	—	46	—	P 1へ5.05	129	土師大2・小3片	
西下屋 1.54	P 6	55	45	31	楕円形	4.83、P 1へ1.54	176	土師大1・小2片	
西下屋 1.52	P 7	35	32	31	楕円形	P 3へ1.52	181	須恵大1片	

16号掘立柱建物(第573図、P L .237・238、第25表)

位置 86 J・K-15・16グリッド。

重複 P 3は322号ピット、P 8は399号ピットより前出。P 3・4は32号住居より後出と考えられる。P 6は49号土坑と、P 7は421号ピットと重複するが新旧関係不明。12・19・21・23・25・27～29号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-77～78°-W 面積 33.94㎡

形態 梁間1間型で桁行3間の東西棟。東辺は西辺より14cm短いため、南辺は西下がり傾く。桁行柱間を平均すると、約2.44m・約8.1尺であるが、北辺のP 2は42cm西に寄り、P 3も20cm程度西に寄り、P 1・2間の柱間だけ、40cm程度狭くなっている。南辺のP 6は東へ7cm、P 7は西へ19cm寄るため、P 6・7間の柱間のみ、26cm広くなり、北辺とほぼ柱間が一致して柱筋が付合する。P 4に柱痕が残り、埋没土3は充填土である。柱穴の規模はP 2が長径45cmとやや小さいが、重複のものを除いて概ね長径57～73cmと大きい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは37～61cmまでばらつきがみられる。詳細な規模と非掲載遺物は第25表のとおり。ほぼ中央部に47号土坑、西端に50号土坑があり、位置から内部施設の可能性がある。47号土坑は深く、50号土坑は皿状であり、用途は異なるとみられる。P 2埋没土中位から1の在り系土器内耳鍋が出土する。出土遺物から中世後半に比定される。

17号掘立柱建物(第574図、P L .238、第26表)

位置 86 I-16・17グリッド。

重複 P 2は41号土坑より、P 4は50号住居より後出。P 1は45号土坑、P 4は208号ピットと重複するが新旧関係不明。13号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-56～57°-W 面積 (17.42) ㎡

形態 梁間2間型で桁行2間の正方形。北辺の中間柱P 2は7cm西に寄る。推測となるが、東辺のP 4は南へ、南辺のP 5は東へ10cm程度寄ると考えられる。P 2は人為埋没する41号土坑を掘削して掘られたためか、ロームが多く、下位は特に締まる。P 6も黄褐色土で埋まっており、人為埋没を思わせる。柱穴の規模は重複により乱れるP 1・2・4を除き、長径43～55cmである。柱穴の形態はP 3が隅丸方形である以外、全て円形・楕円形である。柱穴の深さでは、P 3が11cmと浅すぎ、何らかの誤認があると考えられる。P 5も24cmとやや浅いが、ほかにも32～55cmとややばらつきがある。詳細な規模と非掲載遺物は第26表のとおり。北東隅に39号土坑があり、位置から内部施設の可能性がある。形態は皿状である。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

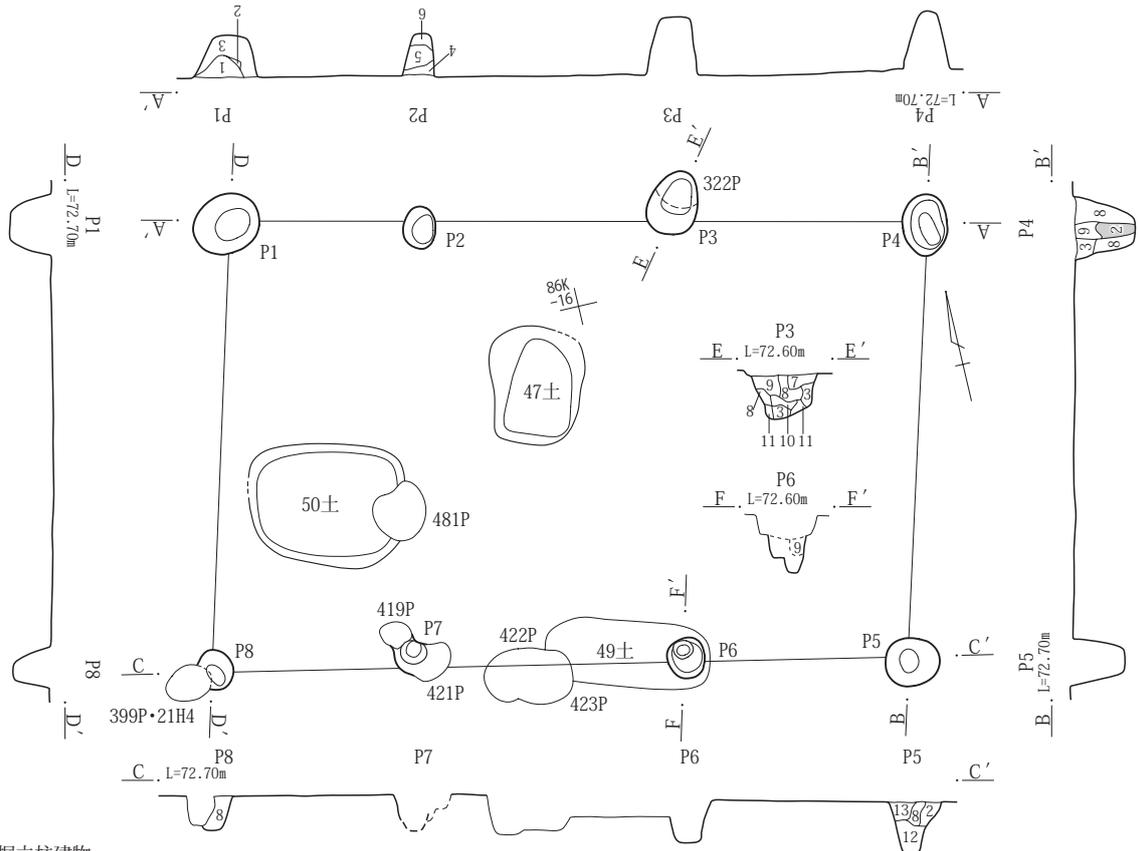
18号掘立柱建物(第575図、P L .238・239、第27表)

位置 86 L・M-13・14グリッド。

重複 P 2は3号土坑より、P 8は4号住居より後出。14号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

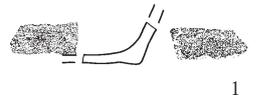
主軸方位 N-73～76°-W 面積 29.83㎡

形態 梁間1間型で桁行3間の東西棟。東辺は西辺より26cm長いため、東辺は東へ外傾し、南辺は東下がり傾く。桁行柱間を平均すると、約2.05m・約6.8尺であるが、北西隅のP 4は東に10cm程度外れる。南辺のP 7は東へ16cm、P 8は東へ9cm寄るため、P 6・7間の柱間は1.88mと狭い。東辺の中間柱P 5は8cm北に寄る。P 1には柱痕が残り、埋没土1は充填土である。P 3は上面が開く断面形のため、長径は56cmと大きいにすぎず、柱穴の規模は概ね径40cm前後と均質である。柱穴の形態は隅丸方形と円形・楕円形が混在する。柱穴の深さはP 6・7が14・17cmと浅いが、確認面が下がっており、数値ほど極端な差はない。北辺は概ね50cmを超えて深く、南辺は



2区16号掘立柱建物

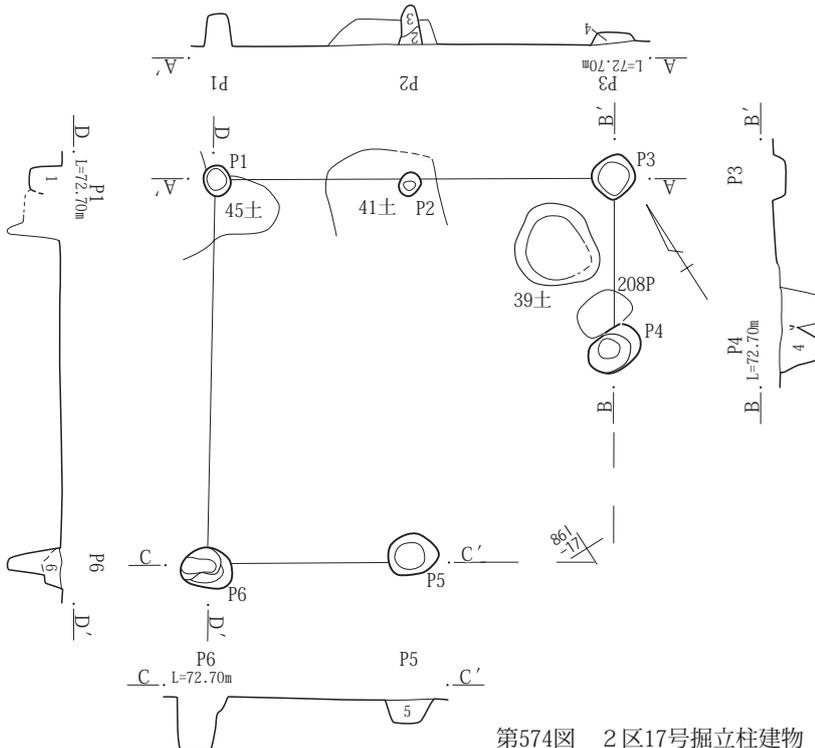
- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色土 黒褐色土多量、ローム小ブロック少量に含む。 | 8 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。 |
| 2 褐色土 ローム粒子多量に含む。 | 9 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。 |
| 3 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。 | 10 暗褐色土+ロームブロック |
| 4 褐色土 堅くしまる。円礫含む。 | 11 黒褐色土 ローム粒子少量に含む。 |
| 5 灰褐色土 ローム小ブロック多量に含む。 | 12 暗褐色土 しまり弱く空隙多い。ローム粒子少量に含む。 |
| 6 褐色土 ローム大ブロック多量に含む。 | 13 褐色土 堅くしまる。ローム小ブロックやや多量に含む。 |
| 7 褐色土 非常に堅くしまる。ロームを縞状に多量に含む。 | |



0 1:4 8cm

第573図 2区16号掘立柱建物と出土遺物

0 1:80 2m



17号掘立柱建物

- | |
|-----------------------|
| 1 黒褐色土 ローム小ブロック多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。 |
| 3 暗褐色土+褐色土 堅くしまる。 |
| 4 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。 |
| 5 暗褐色土 ローム粒子微量に含む。 |
| 6 黄褐色土 ローム大ブロック多量に含む。 |

0 1:80 2m

第574図 2区17号掘立柱建物

第25表 2区16号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間1間型・桁間3間・東西棟			面積	33.94㎡		旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-77°-W			位置	86J・K-15・16			
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
北辺 7.34	P 1	73	61	43	楕円形	2.02	361	土師大1片	
	P 2	45	34	44	楕円形	2.72	369		
	P 3	45	(41)	61	楕円形	2.65	-		
東辺 4.56	P 4	66	46	60	楕円形	4.56	329	土師大4・小3片	
南辺 7.32	P 5	57	52	54	円形	2.37	316		
	P 6	(41)	40	40	円形	2.86	427		
	P 7	(36)	35	38	—	2.10	420		土師大2・小3片須恵小1片
西辺 4.70	P 8	44	—	35	楕円形	P 1へ4.70	400		

第26表 2区17号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間2間型・桁間2間・正方形			面積	(17.42)㎡		旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-56°-W			位置	86I-16・17			
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)			
		長径	短径	深さ					
北辺 4.17	P 1	31	29	32	円形	2.03	392		
	P 2	25	23	41	円形	2.15	229		
	P 3	43	42	11	隅丸方形	1.82	210		
	P 4	59	40	43	楕円形	—	209	土師小1片	
	P 5	53	43	24	楕円形	2.22	202	土師大3片	
西辺 4.10	P 6	55	42	55	楕円形	P 1へ4.10	252		

それより10cm程度浅い傾向にある。詳細な規模と非掲載遺物は第27表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

19号掘立柱建物(第576図、P L .239、第28表)

位置 86 I ・ J - 15 ・ 16グリッド。

重複 P 5 ・ 6は49号住居より、P 7は219号ピットより後出と考えられる。P 1は415号ピットと、P 2は307号ピットと重複するが新旧関係不明。12・16号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-77°-W 面積 (19.76) ㎡

形態 梁間1間型で桁行3間の東西棟。東辺は東へやや外傾する。南西隅柱は40号土坑と重複するが、底面で確認できる。写真で記録されるが平面図で確認できない。桁行柱間を平均すると、約1.88m・約6.2尺であるが、北辺のP 2は西へ7cm寄る。南辺のP 6は22cm東へ寄り、P 7も7cm程度東に寄る。P 1・3の埋没土は、暗褐色土と黄褐色土が相互に水平堆積しており、廃棄後に柱を抜き取り、人為的に埋められている。P 2の埋没土7は空隙を伴い柱痕とも思えるが、全体として人為埋没にもみえる。P 7と219号ピットを挟んで近接する218号ピットは、若干北西に外れるがやはり人為埋没であり、こちらが帰属する柱穴とも考えられる。柱穴の規模では、重複して上面を欠くものを除き、P 4が長径32cmとやや小さく、ほかも38～53cmとばらつきがある。柱穴の形態

は隅丸方形と円形が混在する。柱穴の深さは26cmと浅いP 4を除けば、概ね50cmを超えて深い。P 7も浅いため、218号ピットと入れ替わる可能性が高い。詳細な規模と非掲載遺物は第28表のとおり。北西隅に49号土坑があり、位置から内部施設の可能性がある。ただし、主軸方位が若干異なる。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

備考 調査段階49号住居P 3・13を、当遺構のP 6・5に名称変更。

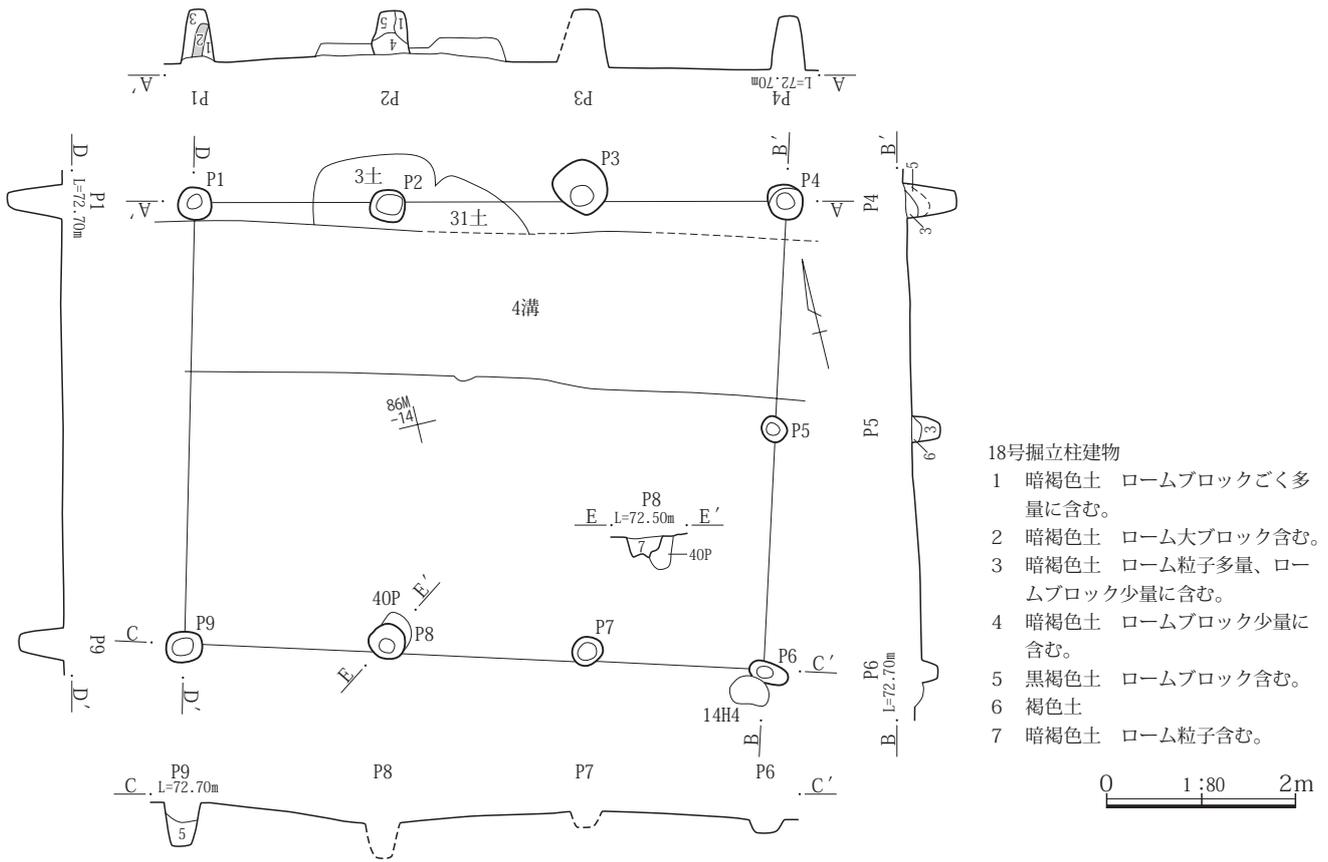
20号掘立柱建物(第577図、P L .239、第29表)

位置 86 K ・ L - 15 ・ 16グリッド。

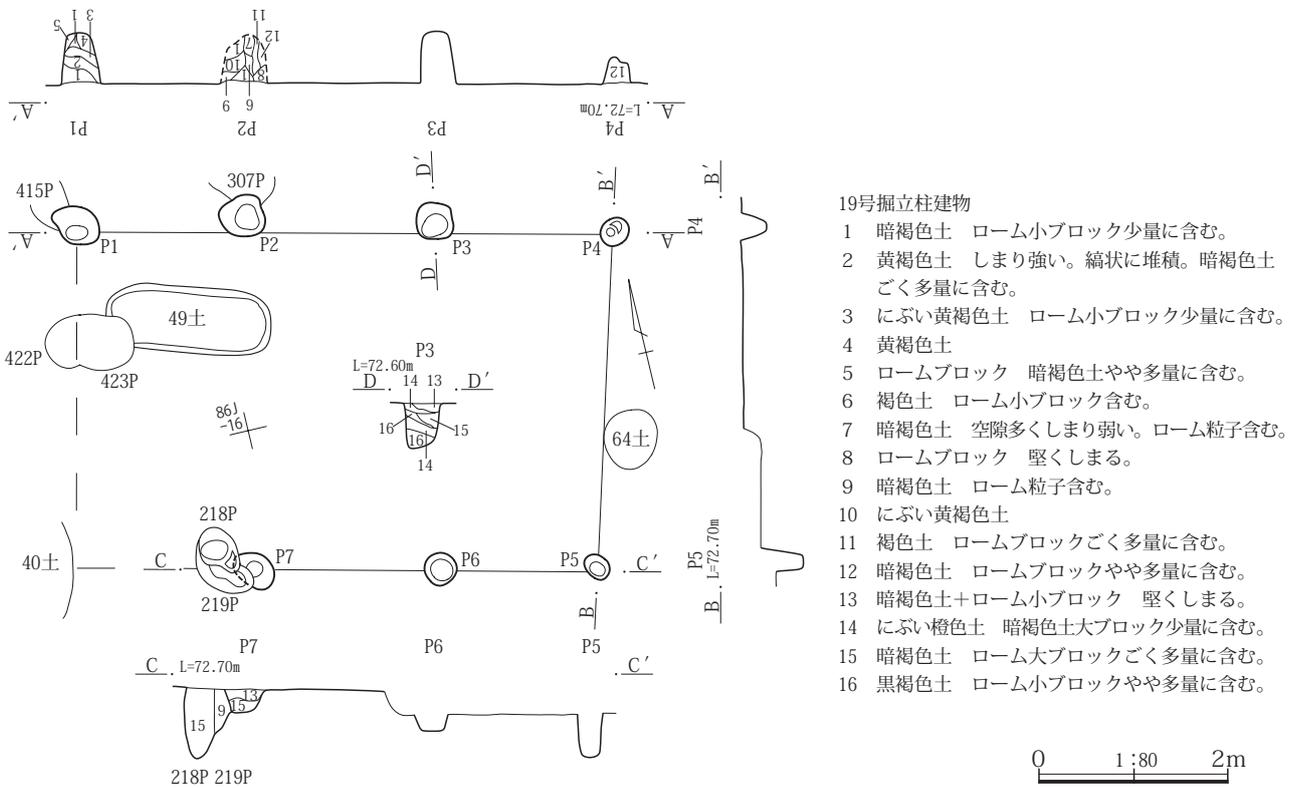
重複 15・24・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-60°-W 面積 13.88㎡

形態 南北1間×東西2間の2×1間・正方形。南辺は北辺より32cm短いため、東辺は東へ外傾する。南辺の中間柱P 4は西へ8cm程度寄る。柱穴の規模はP 3～5の長径は43～49cmとやや長く、別のピットまたは抜き取り跡の重複も考えられる。ほかは概ね30cm前後である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは22～40cmとばらつきがあるが概ね浅い。詳細な規模と非掲載遺物は第29表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。



第575図 2区18号掘立柱建物



第576図 2区19号掘立柱建物

第27表 2区18号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	梁間1間型・桁間3間・東西棟				面積	29.83㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位	N-73°-76°-W				位置	86L・M-13・14		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 6.20	P 1	35	34	54	円形	2.05	27	
	P 2	36	33	38	隅丸方形	2.03	3	
	P 3	56	51	61	楕円形	2.14	37	土師大1・小2片須恵大1片
東辺 4.98	P 4	39	36	57	楕円形	2.42	30	土師大3片
	P 5	28	26	22	円形	2.58	83	土師大1片
南辺 6.10	P 6	43	22	14	楕円形	1.88	—	
	P 7	32	30	17	円形	2.10	—	
	P 8	37	37	36	円形	2.13	40	
西辺 4.72	P 9	37	31	45	隅丸方形	P 1へ4.71	39	土師大1片

第28表 2区19号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	梁間1間型・桁間3間・東西棟				面積	(19.76)㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位	N-77°-W				位置	86I・J-15・16		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 5.63	P 1	53	39	63	楕円形	1.81	416	
	P 2	48	46	63	楕円形	1.97	306	土師小3片
	P 3	38	37	51	隅丸方形	1.86	314	土師大1片
東辺 3.55	P 4	32	28	26	楕円形	3.55	335	土師大1片
	P 5	30	23	66	楕円形	1.65	49住P13	
	P 6	33	33	41	円形	1.96	49住P3	
	P 7	(47)	(34)	28	楕円形	—	220	土師大62g・小4片須恵小4片

21号掘立柱建物(第578図、P L .2389・325、第30表)

位置 86J・K-16・17グリッド。

重複 P 2は52号土坑より、P 4は399号ピットより前出。P 2は409号ピットと、P 7は378号ピットと重複するが新旧関係不明。16・23・25・28・29号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-22°-24°-E 面積 18.79㎡

形態 梁間1間型で桁行3間の南北棟。西辺が東辺より12cm短いため、南辺は東下がり傾く。桁行柱間を平均すると、約2.03m・約6.7尺であるが、東辺のP 3は北へ10cm程度寄る。西辺のP 6は南へ10cm、P 7は北へ13cm寄るため、P 6・7間の柱間は2.20mと広く、東辺と付合する。P 4に後出する399号ピットや、P 8の北側に後出するピット(付番せず)があり、据え換えの過程は追えないが、柱の入れ替えなども想像できる。P 7は一見柱痕を残すように見えるが、端に寄りすぎ平面的にも回っていない。偶然の産物である。逆に、P 3・6は充填土で埋まるが、やや中心を外れており、廃棄後の埋め戻しとは限らない。P 1・2・6～8の長径は50cmを超えており、柱の建て替えなどによる重複を想像させる。そのほかは概ね35cm前後である。柱穴の形態は全て円形・

楕円形である。柱穴の深さは23～39cmと、46～59cmと北側の4本がやや深い。詳細な規模は第30表のとおり。P 6の埋没土から1の在地系土器皿が出土する。出土遺物から14世紀に比定される可能性がある。

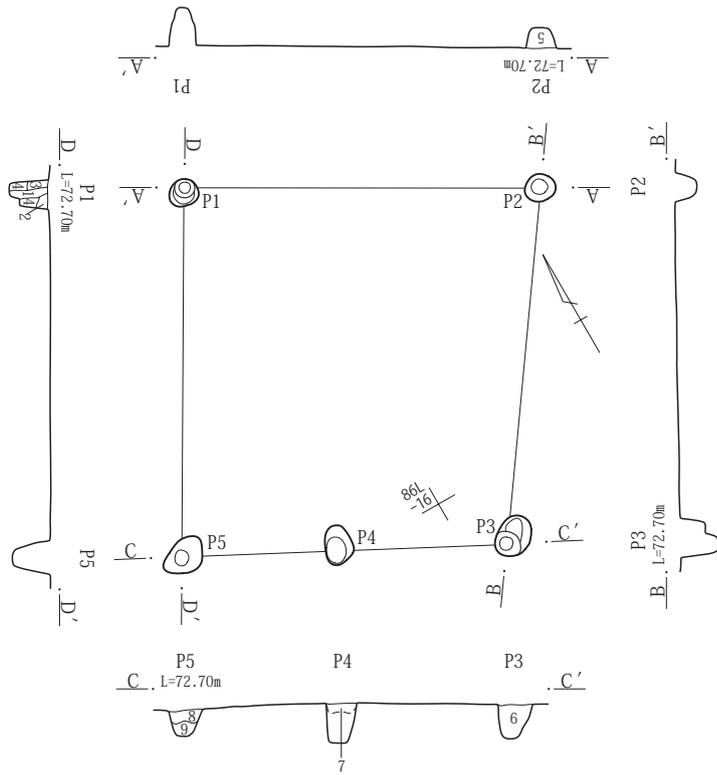
22号掘立柱建物(第579図、P L .240、第31表)

位置 86L・M-14・15グリッド。

重複 P 3は10号ピットより後出。P 4は132号ピットと重複するが新旧関係不明。15・20・24・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

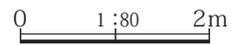
主軸方位 N-78°-W 面積 18.09㎡

形態 梁間2間型で桁行1間の東西棟。北辺の中間柱P 2は7cm西に寄る。南辺の中間柱P 5も西へ23cm寄り、南北でほぼ付合している。これら2本はともに柱筋から外側へ柱穴1本分張り出しており、棟持柱と推定される。P 1・3では柱痕が残り、埋没土9は充填土である。P 1の場合、西から抜き取りが行われたように見え、埋没土4は底面まで斜めに入り込んでいる。P 1・6の長径は50cmを超え、そのほかは40cm弱となっている。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは、29～67cmとばらつきがある。詳細な規模と非掲載遺物は第31表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

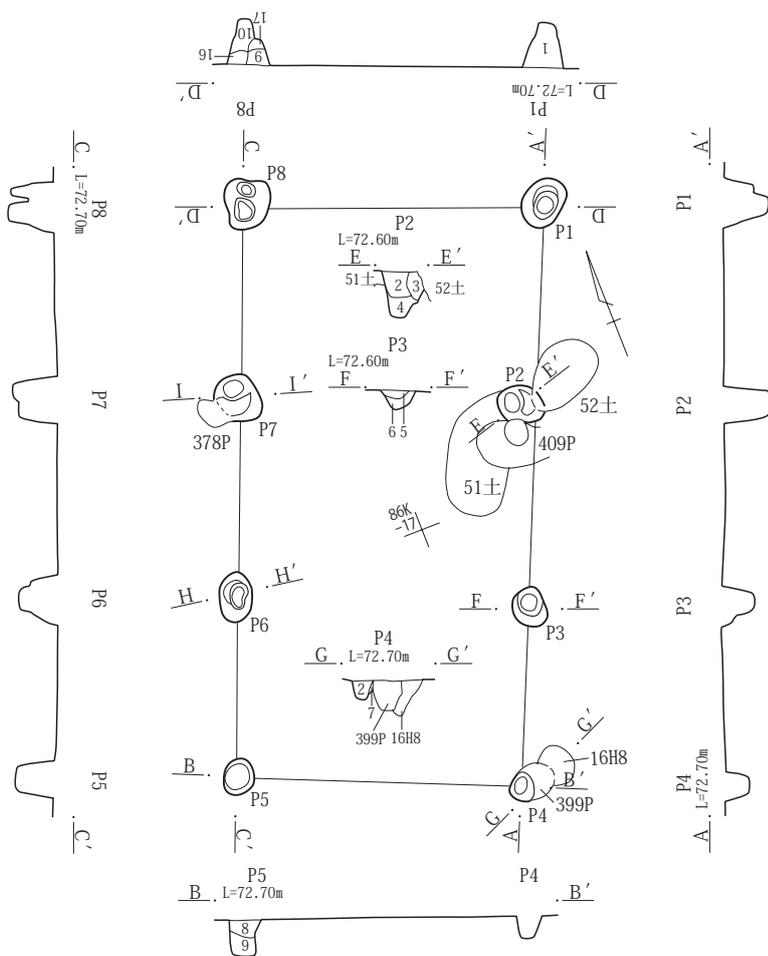


20号掘立柱建物

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 2 黒褐色土 堅くしまる。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロックごく多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
- 8 暗褐色土+黄褐色土 焼土粒子微量に含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒子微量、ローム小ブロック含む。

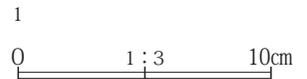
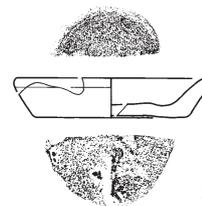


第577図 2区20号掘立柱建物



21号掘立柱建物

- 1 褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック微量に含む。
- 3 黒褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 4 明黄褐色土
- 5 暗褐色土 ローム小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 6 褐色土 炭化物粒子少量、暗褐色土小ブロック含む。
- 7 にぶい黄褐色土 暗褐色土小ブロック少量に含む。
- 8 褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
- 9 褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 10 黒褐色土+ロームブロック
- 11 黄褐色土 黒褐色土小ブロック含む。
- 12 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 13 にぶい黄褐色土 堅くしまる。暗褐色土ブロックやや多量に含む。
- 14 暗褐色土+ローム小ブロック
- 15 明黄褐色土 堅くしまる。
- 16 にぶい黄褐色土 堅くしまる。
- 17 暗褐色土 ローム大ブロックごく多量に含む。



第578図 2区21号掘立柱建物と出土遺物

第29表 2区20号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		2×1間・正方形			面積	13.88㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-60°~62°-W			位置	86K・L-15・16		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 3.75	P 1	32	29	40	円形	3.75	178	土師小1片
東辺 3.80	P 2	32	30	22	円形	3.80	144	
南辺 3.43	P 3	46	35	38	楕円形	1.80	161	土師大1・小2片
	P 4	43	30	40	楕円形	1.63	165	
西辺 3.93	P 5	49	33	29	楕円形	P 1へ3.93	174	土師大1片

第30表 2区21号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間1間型・桁間3間・南北棟			面積	18.79㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-22°~24°-E			位置	86J・K-16・17		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺 6.16	P 1	55	41	46	楕円形	2.13	341	
	P 2	52	40	59	楕円形	2.12	411	土師大1・小1片
	P 3	43	34	32	楕円形	1.94	404	土師小1片
南辺 3.00	P 4	31	26	23	楕円形	3.00	398	土師小1片
西辺 6.04	P 5	36	33	39	楕円形	1.93	442	
	P 6	53	34	37	楕円形	2.20	390	
	P 7	54	(42)	47	楕円形	1.90	379	土師大1片
北辺 3.16	P 8	59	50	47	不整形	P 1へ3.16	348	土師大2片

23号掘立柱建物(第580図、P L .240、第32表)

位置 86 J ・ K - 16 ・ 17グリッド。

重複 P 1 は25号掘立柱建物 P 2 より前出で、28号掘立柱建物 P 2 より後出。P 2 は28号掘立柱建物 P 3 と重複するが新旧関係不明。16・21・25・28・29号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-15°-E 面積 23.27㎡

形態 2間四方の正方形。東辺が西辺より21cm長いいため、南辺は東下がりに傾く。南辺の中間柱 P 4 は10cm程度西に寄り、柱筋より外側へ柱1本分外れる。棟持柱とは考えられず、又材を使用して柱上部で桁を受けていた可能性がある。P 5 ・ 6 は褐色土で均質に埋まっており、廃棄後の埋め戻しも思わせるが、柱穴の中心をやや外れ微妙である。柱穴の規模は長径33~40cmで均質である。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは南辺の P 3 ~ 5 が、26・13・30cmと浅く、そのほかは41~62cmとやや深い。詳細な規模と非掲載遺物は第32表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

24号掘立柱建物(第581図、P L .240・241、第33表)

位置 86 K ・ L - 15グリッド。

重複 P 1 は11号土坑より後出。11・15・20・26号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-70°-W 面積 13.36㎡

形態 南北1間×東西2間の正方形。北辺は南辺より49cm狭いため、西辺は東へ内傾し、東辺は西へ内傾して、平面形は台形となる。北辺の中間柱 P 2 は16cm東へ寄る。P 3 の規模は柱痕はみられず、中心部埋没土にロームブロックを多く含んで、むしろ抜き取り穴にローム混土が入った印象を受ける。ほかの柱穴の埋没土も概ね均質なローム混土である。P 3 の長径は70cmと大きく、深さも62cmと突出して異質である。そのほかは径35cm前後が主体で、深さも19~30cmと一様に浅い。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。詳細な規模と非掲載遺物は第33表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

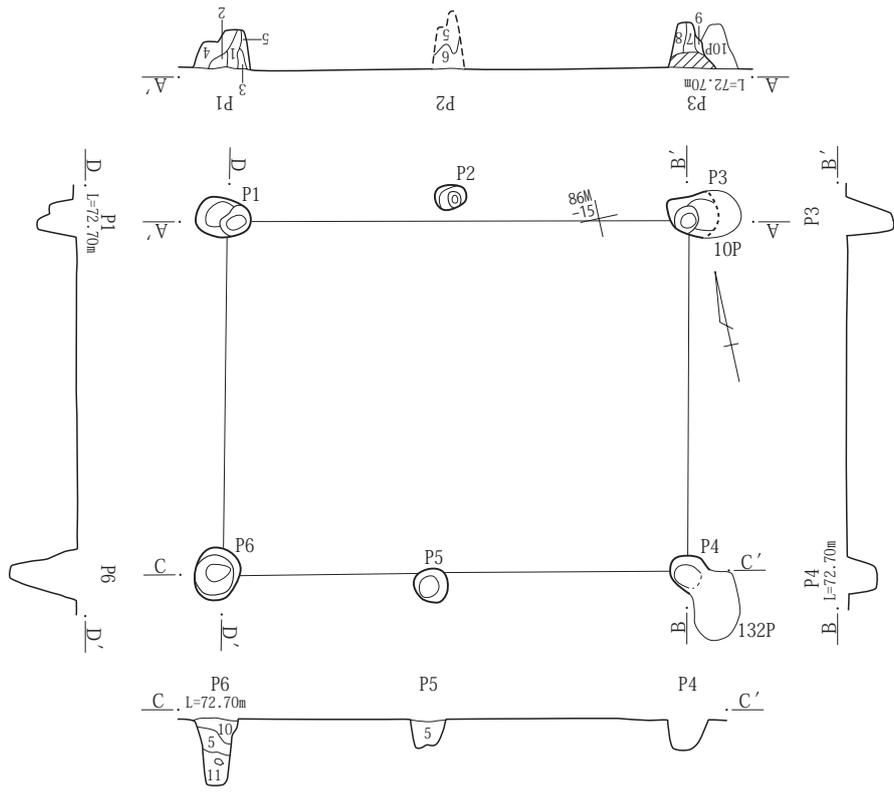
25号掘立柱建物(第582図、P L .241、第34表)

位置 86 J ・ K - 16 ・ 17グリッド。

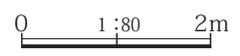
重複 P 2 は23号掘立柱建物 P 2 より後出で、373号ピットと重複するが新旧関係不明。P 3 は409号ピットと重複するが新旧関係不明。16・21・23・28・29号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-68°-W 面積 14.71㎡

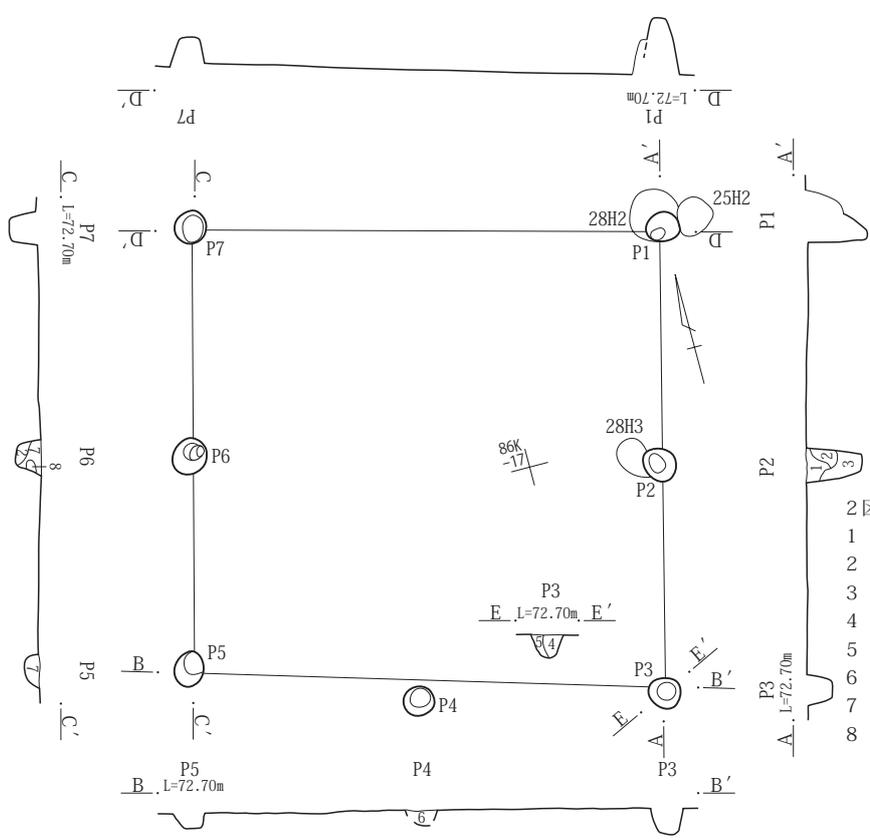
形態 南北2間×東西1間の方形。各辺とも若干の長短はあるが、平面形はほぼ長方形である。東辺の中間柱 P 3 は南へ19cm寄る。西辺の中間柱 P 6 は北へ7cm寄る。P 5 は径約60cmの円形で大きい、中央部は柱痕状に埋



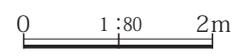
- 2区22号掘立柱建物
- 1 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子含む。
 - 2 暗褐色土+ロームブロック
 - 3 暗褐色土 ローム粒子やや多量に含む。
 - 4 ロームブロック
 - 5 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
 - 6 暗褐色土 ロームブロックごく多量に含む。
 - 7 黒褐色土 空隙多くしまり弱い。ローム小ブロック含む。
 - 8 黒褐色土 小円礫少量、ローム粒子含む。
 - 9 黒褐色土 ローム大ブロックごく多量に含む。
 - 10 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
 - 11 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。



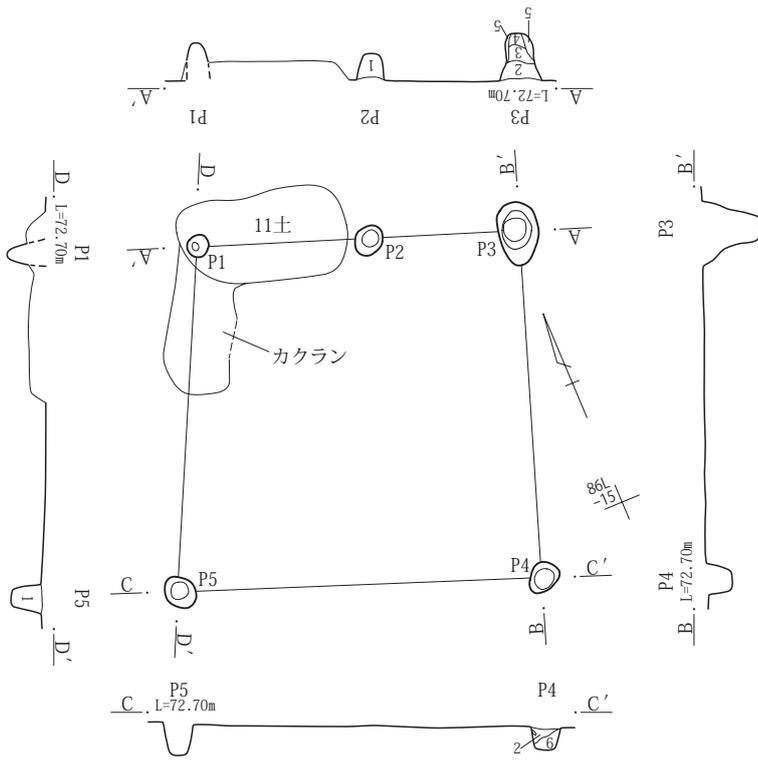
第579図 2区22号掘立柱建物



- 2区23号掘立柱建物
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量に含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子含む。
 - 3 黒褐色土 空隙多くしまり弱い。ローム粒子含む。
 - 4 黒褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
 - 5 ローム小ブロック 暗褐色土ごく多量に含む。
 - 6 にぶい黄褐色土 黒褐色土小ブロック少量に含む。
 - 7 褐色土 ローム粒子少量に含む。
 - 8 ロームブロック



第580図 2区23号掘立柱建物

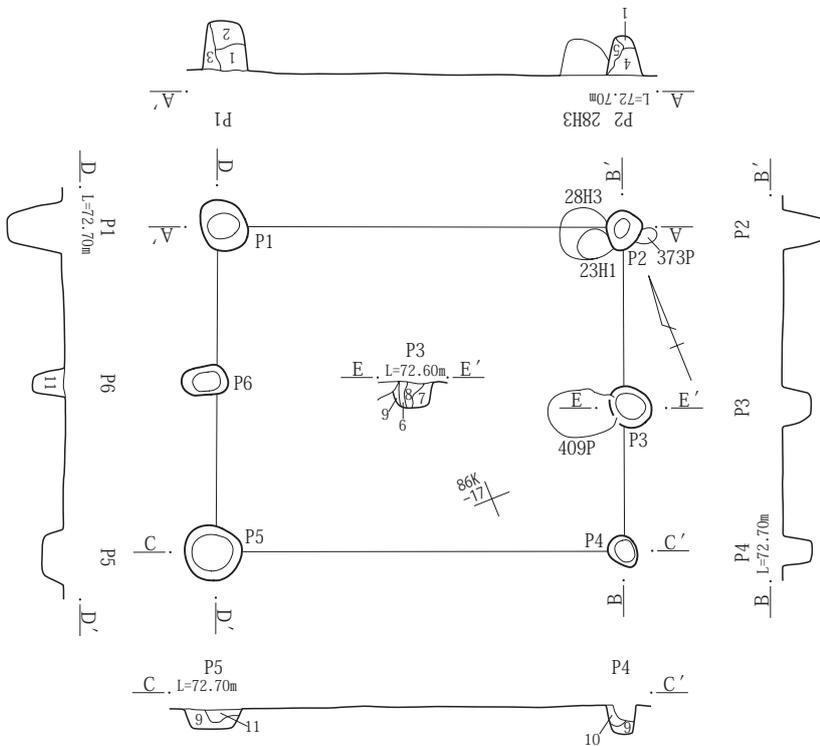


2区24号掘立柱建物

- 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム大ブロック多量に含む。

第581図 2区24号掘立柱建物

0 1:80 2m



2区25号掘立柱建物

- 1 褐色土 炭化物粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。ローム粒子多量に含む。
- 3 ロームブロック
- 4 暗褐色土+ローム粒子 炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子ごく多量に含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 7 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 8 暗褐色土 ローム小ブロック微量に含む。
- 9 にぶい褐色土 黒褐色土少量に含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロック縞状にごく多量含む。
- 11 暗褐色土 黒褐色土ブロック・ローム粒子少量に含む。

第582図 2区25号掘立柱建物

0 1:80 2m

第4章 発掘調査の記録

第31表 2区22号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間2間型・桁間1間・東西棟			面積	18.09㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-78°-W			位置	86L・M-14・15		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 4.75	P 1	57	41	37	楕円形	2.31	22	
	P 2	32	24	61	楕円形	2.46	183	
東辺 3.76	P 3	(58)	42	49	楕円形か	3.76	11	
南辺 4.95	P 4	37	-	29	不明(重複)	2.71	-	
	P 5	37	36	33	円形	2.23	143	
西辺 3.70	P 6	55	47	67	楕円形	P 1へ3.70	148	土師大2片須恵大1・小1片

第32表 2区23号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		2×2間・正方形			面積	23.27㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-15°-E			位置	86J・K-16・17		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺 4.81	P 1	34	30	62	円形	2.43	-	
	P 2	38	33	61	円形	2.39	407	土師大1・小1片
南辺 4.98	P 3	35	34	26	円形	2.60	401	
	P 4	33	32	13	円形	2.41	443	
西辺 4.60	P 5	38	31	30	楕円形	2.26	272	
	P 6	40	35	53	円形	2.35	386	
北辺 4.91	P 7	34	34	41	円形	P 1へ4.91	471	

第33表 2区24号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		2×1間・正方形			面積	13.36㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-70°-W			位置	86K・L-15		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 3.38	P 1	24	23	19	円形	1.85	11土内P	
	P 2	33	29	26	楕円形	1.53	141	
東辺 3.72	P 3	70	42	62	楕円形	3.72	14	土師大130g
南辺 3.87	P 4	36	27	22	楕円形	3.87	130	
西辺 3.65	P 5	37	30	30	楕円形	P 1へ3.65	163	

第34表 2区25号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		2×1間・方形			面積	14.71㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-68°-W			位置	86J・K-16・17		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
北辺 4.20	P 1	57	47	52	楕円形	4.20	384	土師大1片
東辺 3.41	P 2	41	36	42	楕円形	1.90	372	
	P 3	48	41	27	楕円形	1.52	408	土師大3・小1片
南辺 4.35	P 4	36	29	29	楕円形	4.35	405	土師小1片
西辺 3.47	P 5	60	58	21	円形	1.81	387	
	P 6	47	31	29	楕円形	P 1へ1.67	382	

まるため、掘り方が大きいものとする。そのほかは径50cm前後を主体とする。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。北辺のP 1・2の深さは52・42cmとやや深い、そのほかは30cm以下でやや浅い。詳細な規模と非掲載遺物は第34表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

26号掘立柱建物(第583図、P L .241・242、第35表)

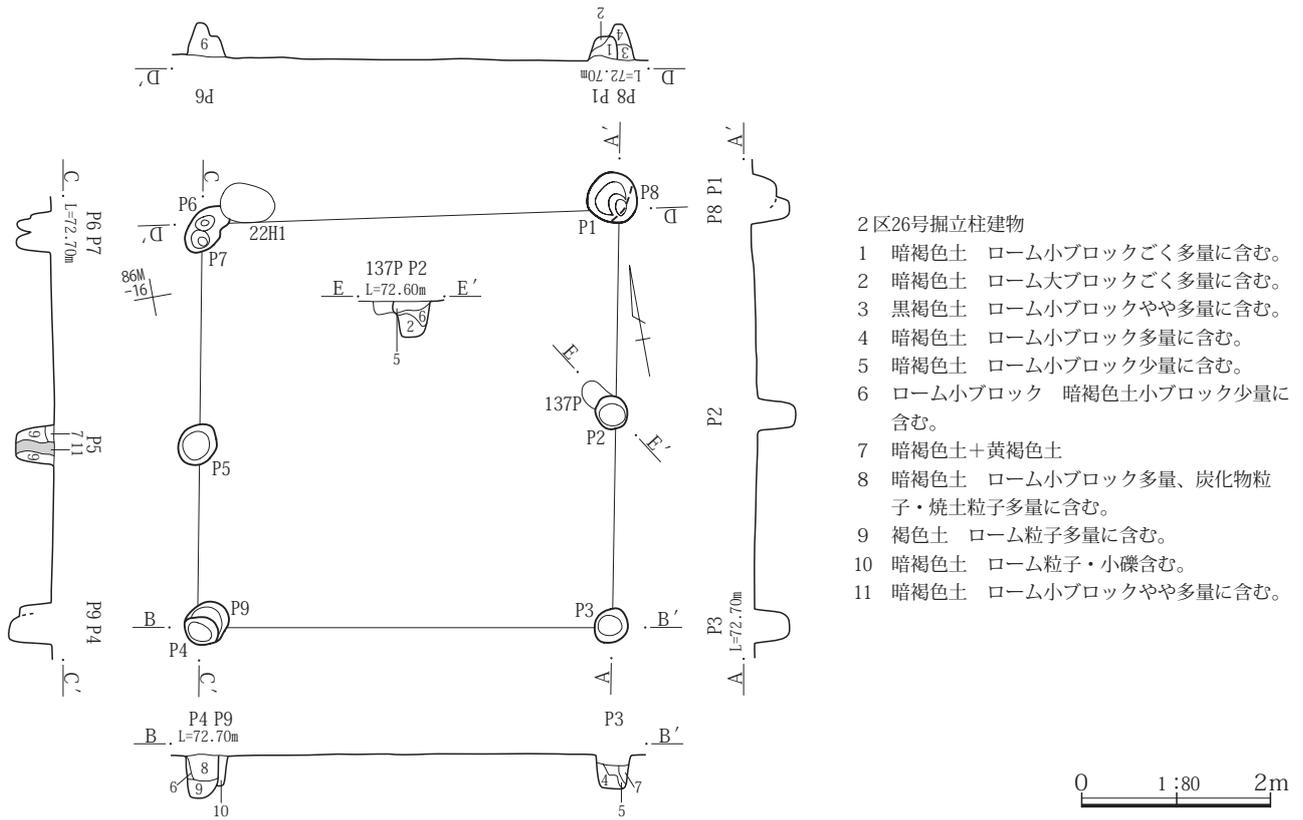
位置 86L・M-14～16グリッド。

重複 P 1はP 8より、P 2は137号ピットより、P 4

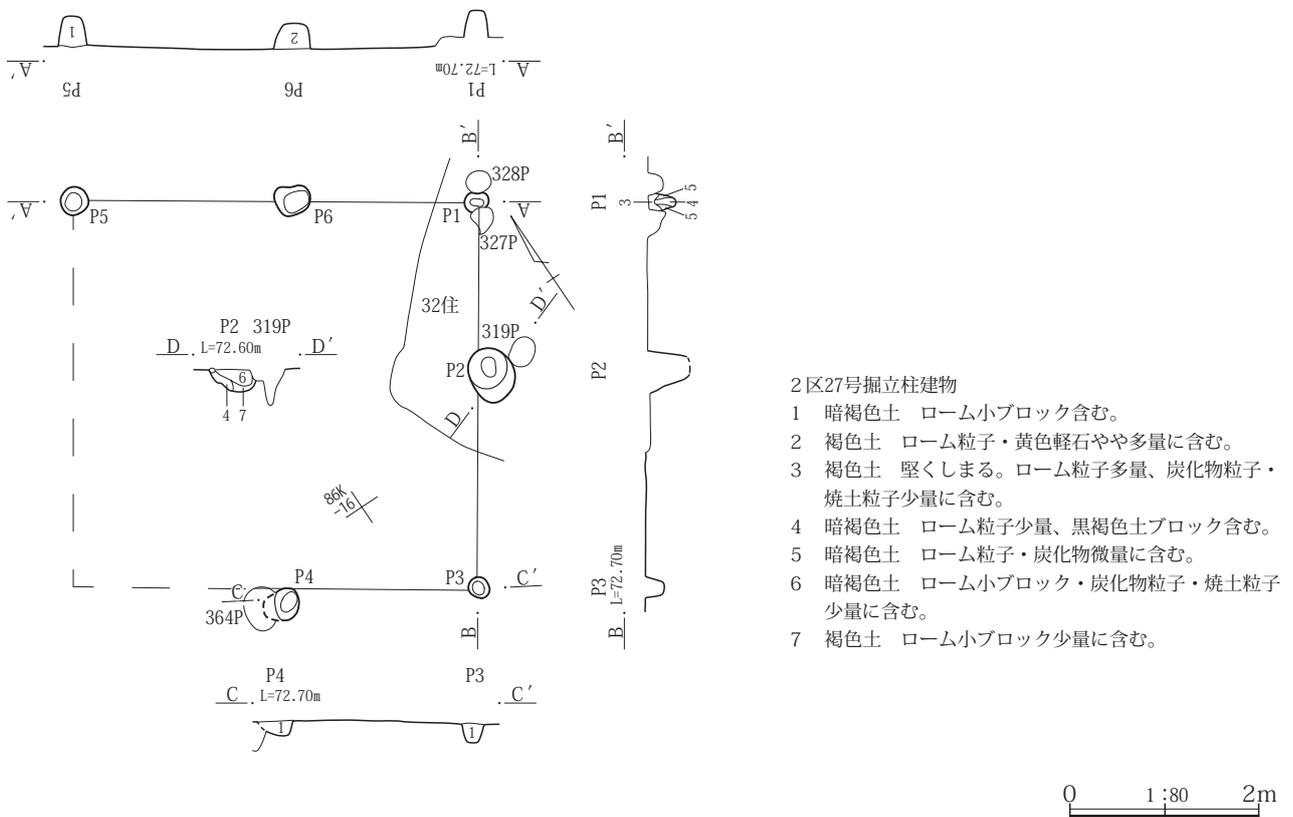
はP 9より後出。P 6はP 7、22号掘立柱建物P 1と重複するが新旧関係不明。11・15・20・22・24号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-10～11°-E 面積 19.18㎡

形態 梁間1間型で桁行2間の南北棟。東辺は西辺より11cm長い、北辺は西下がり傾く。西辺の中間柱P 5は20cm程度南へ寄る。P 5には柱痕が残り、埋没土9は充填土である。P 1・8、P 4・9、P 6・7で柱の建て替えと考えられ、西側がほぼ新しい。そうした影響



第583図 2区26号掘立柱建物



第584図 2区27号掘立柱建物

第35表 2区26号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		1×2間・南北棟			面積	19.18㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-10°-11°-E			位置	86L・M-14~16		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺 4.44	P 1	52	39	25	楕円形	2.21	17	
	P 2	36	33	44	円形	2.25	136	土師大1片
南辺 4.35	P 3	37	34	35	円形	4.33	131	土師小1片
西辺 4.33	P 4	40	30	44	楕円形	1.94	164	
	P 5	46	38	40	楕円形	2.37、P 7へ2.16	147	土師大1片
北辺 4.40	P 6	(39)	32	34	不明(重複)	P 8へ4.40	180	
	P 7	32	—	35	不明(重複)	4.45	179	
	P 8	42	—	38	不明(重複)	P 2へ2.16	16	
	P 9	39	—	33	不明(重複)	P 5へ1.81	164	

第36表 2区27号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		2×2間・正方形			面積	(17.43)㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-57°-W			位置	86J・K-15・16		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺 4.10	P 1	25	(20)	34	楕円形か	1.75	435	土師大1片
	P 2	57	45	43	楕円形	2.36	320	
	P 3	23	20	19	楕円形	2.00	310	
	P 4	(38)	32	15	楕円形か	—	363	土師大1片
北辺 4.25	P 5	29	28	31	円形か	2.35	166	土師小1片
	P 6	37	33	32	楕円形	P 1へ1.91	160	

のない柱穴の規模は36～46cmである。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。深さはP 1が25cmとやや浅いが、そほかは33～44cmと均質である。詳細な規模と非掲載遺物は第35表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

27号掘立柱建物(第584図、P L .242、第36表)

位置 86J・K-15・16グリッド。

重複 P 1は327号ピットより、P 4は364号ピットより後出。P 2は319号ピットより前出。P 1は328号ピットと重複するが新旧関係不明。

主軸方位 N-57°-W 面積 (17.43) ㎡

形態 2間四方の正方形。東辺のP 2は北へ40cm程度寄る。北辺のP 6は東へ21cm寄る。柱痕も見られず、埋没土に特徴的なものはない。柱穴の規模はP 3が長径57cmとやや大きく、そのほかは23～37cmとばらつきがある。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは、南辺のP 3・4が19・15cmとやや浅く、そのほかは30cmを超える。詳細な規模と非掲載遺物は第36表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

28号掘立柱建物(第585図、P L .242、第37表)

位置 86J～L-16・17グリッド。

重複 P 2は23号掘立柱建物P 2より前出。P 3は23

号掘立柱建物P 2と重複するが新旧関係不明。16・21・23・25号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-16°-18°-E 面積 21.14㎡

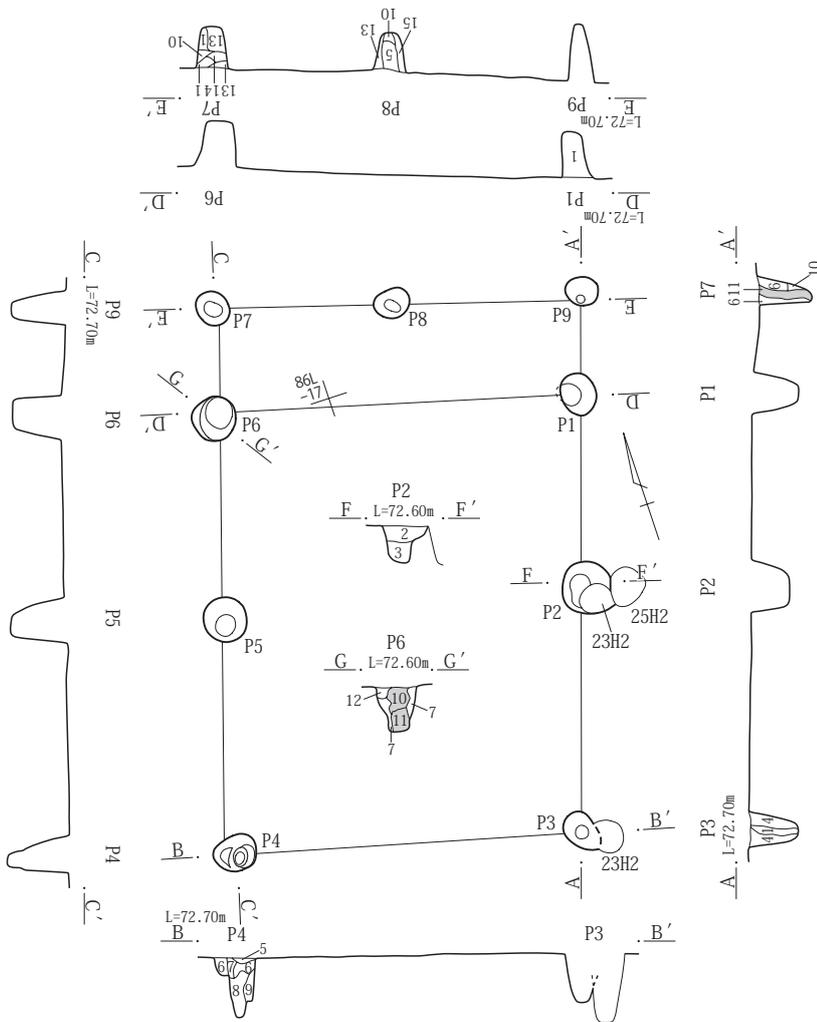
形態 梁間1間型で桁行2間の南北棟・北庇。東辺は西辺より9cm短いため、南辺は西下がり傾く。東辺のP 2は北へ25cm、西辺のP 5は北へ11cm寄る。庇の長さは、東辺が9cm短い。P 6・8・9には柱痕が残り、埋没土6・7・13は充填土である。P 3・4は柱痕を残すように見えるが、やや上面が乱れる。P 2の長径は重複の関係もありやや大きい、そのほかは身屋部は45～48cmと均質で、底部は35～38cmと10cm程度小さい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さは39～63cmとややばらつきもあるが、50cmを超えるものが多い。身屋部と底部で差はない。詳細な規模と非掲載遺物は第37表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

29号掘立柱建物(第586図、P L .242・243、第38表)

位置 86J・K-16・17グリッド。

重複 P 2は50号土坑と重複するが新旧関係不明。16・21・23・25・27・28号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-29°-31°-E 面積 22.33㎡

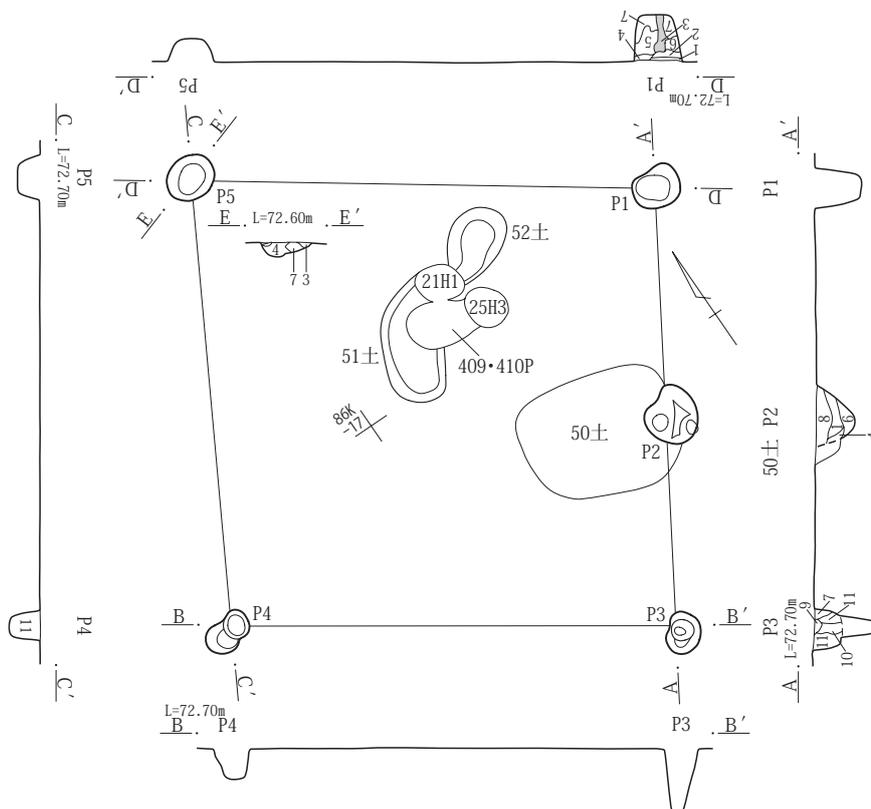


2区28号掘立柱建物

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土
- 3 暗褐色土 空隙多くしまり弱い。ローム粒子多量に含む。
- 4 にぶい黄褐色土 暗褐色土モザイク状に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 6 褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 7 褐色土+黄褐色土
- 8 褐色土 空隙多くしまり弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 10 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 11 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 12 褐色土+ロームブロック 堅くしまる。
- 13 ロームブロック
- 14 暗褐色土 ロームブロックごく多量、炭化物粒子少量に含む。
- 15 暗褐色土 堅くしまる。ロームブロック多量に含む。

0 1:80 2m

第585図 2区28号掘立柱建物



2区29号掘立柱建物

- 1 褐色土 堅くしまる。ローム小ブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土+ローム大ブロック 堅くしまる。
- 3 褐色土 焼土粒子少量に含む。
- 4 褐色土 ローム小ブロック微量に含む。
- 5 褐色土 ローム小ブロック多量、焼土粒子含む。
- 6 にぶい黄褐色土 堅くしまる。
- 7 にぶい黄褐色土 小礫含む。
- 8 褐色土 堅くしまる。ローム小ブロック少量、小円礫含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロックごく多量に含む。
- 11 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。

0 1:80 2m

第586図 2区29号掘立柱建物

第37表 2区28号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		1×2間・南北棟・北庇			面積	21.14㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-16~18°-E			位置	86J~L-16・17		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺 4.62	P 1	45	36	44	楕円形	2.07	342	土師大1・小1片
	P 2	54	(49)	39	円形か	2.56	375	
南辺 3.62	P 3	48	32	51	楕円形	3.60	406	土師小1片
西辺 4.73	P 4	45	39	63	楕円形	2.48	388	
	P 5	48	46	53	円形	2.25	383	
北辺 3.70	P 6	46	44	48	円形	1.11、P 1へ3.70	354	土師大1片
北庇 1.11	P 7	38	32	50	楕円形	1.88	356	土師大1片
	P 8	37	30	45	楕円形	1.99	344	
北庇 1.02	P 9	35	30	63	円形	P 1へ1.02	171	

第38表 2区29号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		1×2間・南北棟			面積	22.33㎡	旧ピットNo.	非掲載破片
主軸方位		N-29~31°-E			位置	86J・K-16・17		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
		長径	短径	深さ				
東辺 4.65	P 1	50	40	47	隅丸方形	2.48	368	土師小1片
	P 2	57	46	41	不整形円形	2.16	481	
南辺 4.64	P 3	44	34	69	楕円形	4.64	396	
西辺 4.75	P 4	51	29	32	楕円形	4.75	391	
北辺 4.86	P 5	54	45	22	楕円形	P 1へ4.86	357	

形態 梁間1間型で桁行2間の南北棟。北辺が南辺より22cm長い為、西辺は西へ外傾し、平面形は歪んだ台形となる。P 1には柱痕が残り、埋没土5~7は充填土である。P 4の西側は浅くピット状に乱れるが、詳細は不明。柱穴の規模はやや小さいP 3を除き50cmを超える。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。柱穴の深さは22~69cmとばらつきがある。詳細な規模と非掲載遺物は第38表のとおり。中央部に51号土坑、やや北寄りに52号土坑があり、位置から内部施設の可能性がある。51号土坑は隅丸長方形で比較的浅い。52号土坑は楕円形で粘土貼りされている可能性が高く、建物内の水場に関係すると思われる。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

(2) 柱穴列

1号柱穴列(第587図、P L .243、第39表)

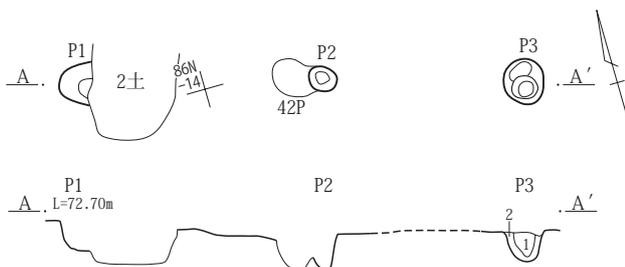
位置 86M・N-13・14グリッド。

重複 P 2は2号住居、P 3は1号住居より後出と思われる。P 1は2号土坑と、P 2は42号ピットと重複するが新旧関係不明。

主軸方位 N-74°-W

形態 P 1・2間に比べP 2・3間の柱間が31cm短い。P 2は重複により乱れるが、柱穴の規模は概ね50cm弱であり、掘立柱建物の柱穴と違いがない。おそらく、建物の一辺と考えられる。柱穴の形態は楕円形である。深さも40cm前後である。詳細な規模と非掲載遺物は第39表のとおり。出土した土師器・須恵器は混入と考えられる。

備考 調査段階1号掘立柱建物を一部抽出し名称変更。



第587図 2区1号柱穴列

2区1号柱穴列

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック微量に含む。

0 1:80 2m

第39表 2区1号柱穴列計測表

主軸方位	N-74°-W			位置	86M・N-13・14	旧ピットNo	非掲載破片
柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)		
	長径	短径	深さ				
P 1	46	(34)	43	不明(重複)	2.47	77	
P 2	30	25	35	楕円形	2.16	43	
P 3	49	42	33	楕円形	—	33	土師大2・小1片須恵大1片

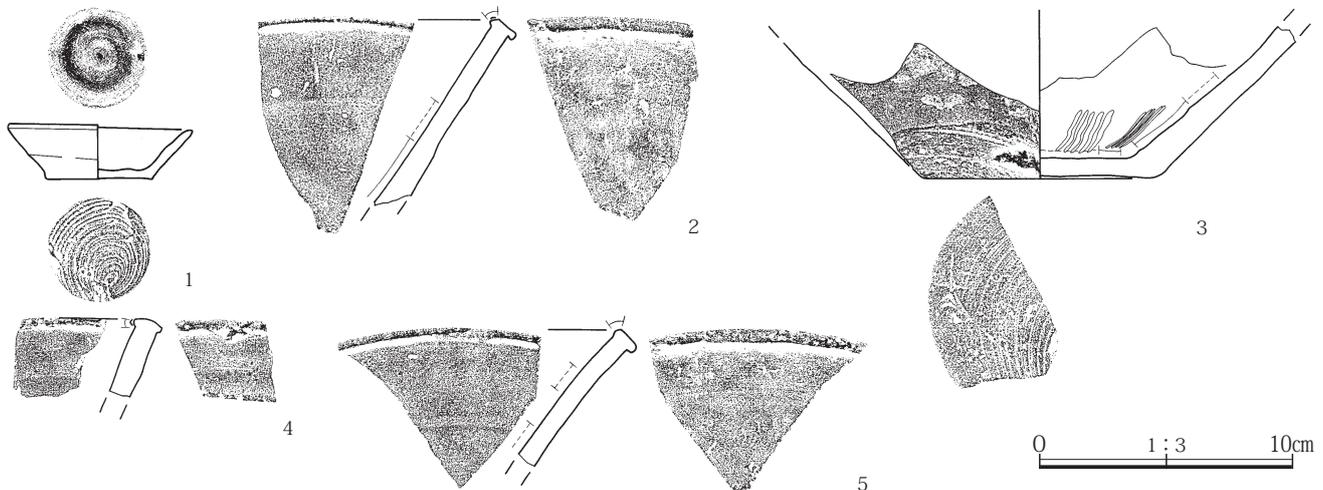
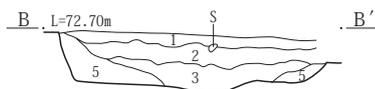
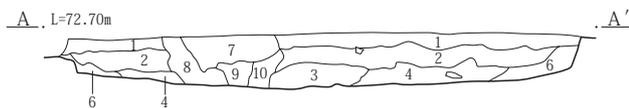
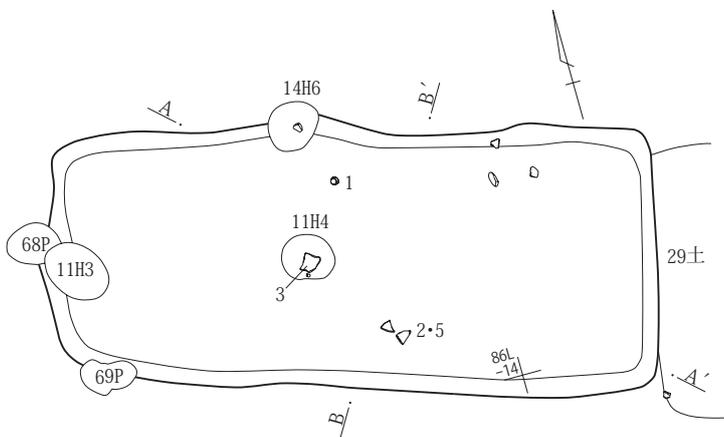
(3) 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構(第588図、P L.243・325)

位置 86K・L-13・14グリッド。11号掘立柱建物P 3・4、14号掘立柱建物P 6、68・69号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は長方形。壁はほぼ垂直に立ち上

がる。床面、硬化面は見つかっていない。規模は長軸4.89m短軸2.05m深さ39cmである。出土遺物から15・16世紀に比定される。土師器大型品185g・同小型品32g、須恵器小5片が出土している。

備考 調査段階28号土坑を名称変更。



2区1号竪穴状遺構(28号土坑)

- 1 暗褐色土 堅くしまる。ロームブロックごく多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量、黒褐色土大ブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム大ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量に含む。
- 5 褐色土 ややしまり弱く粘性あり。黒褐色土大ブロックごく多量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子・焼土粒子微量に含む。
- 7 黒褐色土 ややしまりやや粘性弱い。炭化物片・ローム大ブロック多量に含む。
- 8 褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子少量に含む。
- 10 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土粒子・炭化物片少量に含む。

第588図 2区1号竪穴状遺構と出土遺物

(4)土坑

1号屋敷内では41基の土坑が検出された。平面形は、以下のとおり6種類に分類され、分布にも特徴が認められる。ただし、2基は平面形不明のため除外する。

隅丸方形	7
長方形	1
隅丸長方形	16
隅丸細長方形	1
円形	7
楕円形	7
計	39

隅丸方形は7基であり、規模により様相が異なる。15・30号土坑は規模も大きく、竪穴状遺構にもみえる。屋敷内の北端に偏り、30号土坑は区画溝である4号溝より前出して、屋敷より古いか当初段階と思われる。55号土坑もほぼ同じ規模だが浅く、屋敷の南西端に位置する。以上、3基は屋敷の端部にあり、建物に関係しない特徴がある。8・40・44号土坑は断面皿状のもので、建物の内部というよりも、壁面に接する位置にある点で、一致している。残る18号土坑は、深いもので4号溝と重複しており、周辺の隅丸長方形のものに状況に近い。

長方形は29号土坑1基で、浅間A軽石を埋没土に含み、屋敷との関連は考えにくい。

隅丸長方形は16基で、全体の4割を占める。やはり規模により様相が異なる。56号土坑は比較的大きく、竪穴状遺構ともみえる。13号掘立柱建物の北辺に接し、柱穴は重複する。比較的深めである7基のうち、2・14・16・20号土坑は、屋敷の北端にあり、建物との関係は薄い。残る11・38・41号土坑も建物と重複するが、主軸方位が異なり関係は薄いようにみえる。深いものは3基あり、47号土坑は16号掘立柱建物の内部にある。45・48号土坑も形態的に似ており、掘立柱建物の角隅にあるが、関係づけは難しい。16号掘立柱建物に関して、浅めの50号土坑も内部施設の可能性が高い。51号土坑も同様に29号掘立柱建物の内部にある。同様に浅い3・7・46号土坑も掘立柱建物に近接して分布する。

隅丸細長方形は49号土坑1基で、19号掘立柱建物の内部施設と考えられる。

円形のもの6基で、断面皿状の39号土坑は17号掘立柱建物の内部施設と考えられる。10号土坑は深いもので、15号掘立柱建物の内部にあり、関連も想定される。残る4基は4号溝より北側に位置する。4号土坑は近世の遺構で、32号土坑は古代以前とみられる。9・23号土坑は比較的深く近似する。

楕円形のもは6基で、比較的深い42・52号土坑は、13・29号掘立柱建物の内部施設と位置づけられる。34号土坑はピットの掘り方の可能性もある。残る4基はすべて4号溝周辺に位置する。1・5号土坑は深めで、19・31号土坑は浅めと形態は異なる。

1号土坑(第590図、P L .243)

位置 86M-13グリッド。5号土坑より後出で、調査状況から4号溝より後出と思われる。57・61号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。浅間A軽石を含む。規模は長径119cm短径84cm深さ35cmである。土師器大型品3片・同小型品28g、須恵器大型品1片・同小型品2片が出土している。

2・32号土坑(第590・593図、P L .243・325)

2号土坑 位置 86M・N-13・14グリッド。32号土坑より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-26°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み、東側から人為埋没する。規模は長軸(172)cm短軸92cm深さ47cmである。調査区域北壁に接して上位から1の在地系土器片口鉢が出土する。出土遺物から14世紀後半頃から15世紀前半頃に比定される。掲載遺物のほか、土師器大型品6片・同小型品2片、須恵器大型品3片・同小型品50gが出土している。

32号土坑 位置 86M・N-13・14グリッド。2号土坑より前出で、2号住居、78号ピットと重複するが新旧関係不明。西半部を失うが平面形は円形か。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土は黒褐色土を主体とする。規模は長径(83)cm短径(80)cm深さ33cmである。埋没土から古代以前か。

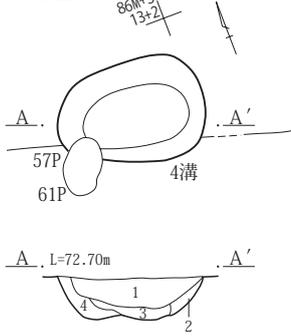
3・31号土坑(第590図、P L .243・244)

3号土坑 位置 86M-13・14グリッド。18号掘立柱建物P2より前出で、31号土坑、4号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-80°-W。



第589図 2区1号屋敷内土坑分布図

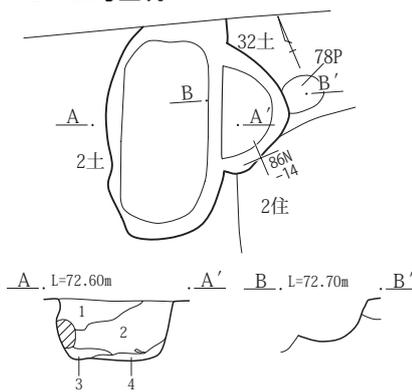
1号土坑



2区1号土坑

- 1 黒褐色土+暗褐色土 ローム小ブロック少量、小礫少量に含む。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、浅間A軽石含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土小ブロック多量、浅間A軽石含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱い。ローム粒子ごく多量、焼土粒子含む。

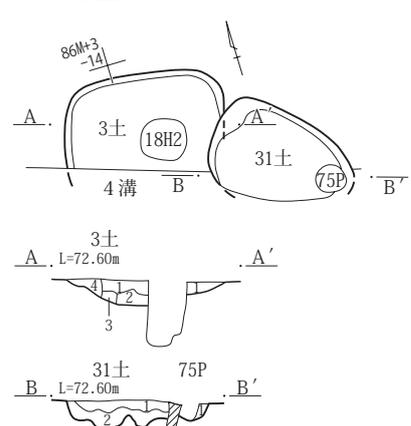
2・32号土坑



2区2号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム大ブロックやや多量、焼土粒子・炭化物片含む。
- 2 暗褐色土+黄褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物片含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ロームブロック多量、炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまり粘性強い。ローム小ブロック含む。

3・31号土坑



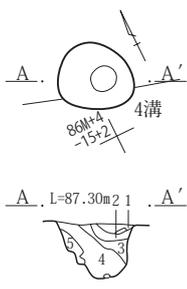
2区3号土坑

- 1 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子・ローム小ブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロックごく多量に含む。
- 3 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック含む。

2区31号土坑

- 1 暗褐色土 しまり粘性弱い。ローム粒子多量、焼土小ブロック含む。
- 2 褐色土 ややしまり粘性ない。焼土小ブロック少量に含む。

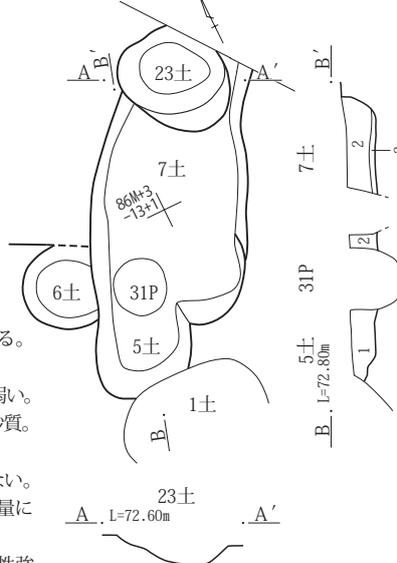
4号土坑



2区4号土坑

- 1 褐色土+黄褐色土 しまる。焼土小ブロック含む。
- 2 褐色土+焼土+灰 しまり弱い。
- 3 褐色土 しまり弱くやや砂質。ローム。
- 4 褐色土 ややしまり粘性ない。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 5 黄褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子少量に含む。

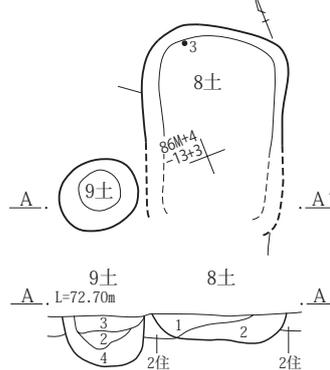
5・6・7・23号土坑



2区5・7号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子多量、焼土粒子・土器片・白色軽石含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、焼土粒子含む。

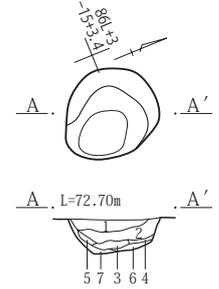
8・9号土坑



2区8・9号土坑

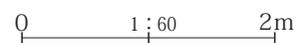
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまりやや砂質。ローム小ブロック・焼土粒子少量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。

10号土坑



2区10号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子やや多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや砂質。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 黄褐色土 しまり弱い。焼土粒子・黒色灰多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 5 ローム小ブロック ややしまりやや粘性あり。暗褐色土ごく多量に含む。
- 6 ロームブロック ややしまり強い。黒褐色土少量に含む。
- 7 褐色土 ややしまり強い。



第590図 2区1～10・23・31・32号土坑

壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸125cm短軸(78)cm深さ14cmである。土師器大型品5片・同小型品5片が出土している。

31号土坑 位置 86M-13グリッド。75号ピットより前出で、3号土坑、4号溝と重複するが新旧関係不明。重複により南半部が、不明となるが楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土に焼土を含む。埋没状況不詳。規模は長径105cm短径76cm深さ24cmである。遺物は出土していない。

4号土坑(第590・593図、P L .244・325)

位置 86M-15グリッド。4号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は歪んだ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はロームブロックを多量に含み、西から人為埋没する。埋没土2は焼土、灰を多量に含み、埋没過程で燃焼用に利用された可能性がある。規模は長径61cm短径51cm深さ46cmである。埋没土から2の瀬戸陶器が出土する。出土遺物から19世紀前半に比定される。

5・6・7・23号土坑(第590図)

5号土坑 位置 86M-13グリッド。1号土坑、31号ピットより前出で、6・7号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径75cm短径(55)cm深さ23cmである。土師器大型品2片・同小型品2片、須恵器大型品1片、縄文土器1片が出土している。

6号土坑 位置 86M-13グリッド。5・7号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径(68)cm短径(58)cm深さ20cmである。土師器大型品130g・同小型品35g、須恵器大型品1片・同小型品2片が出土している。

7号土坑 位置 86M-13グリッド。31号ピットより前出で、5・6・23号土坑と重複するが新旧関係不明。重複によりわかりにくい、平面形は隅丸長方形か。主軸方位はN-25°-E。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸(201)cm短軸122cm深さ23cmである。土師器大型品78g、縄文土器1片が出土している。

23号土坑 位置 86M-13グリッド。7号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁は丸みを持っ

て斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没状況不詳。規模は長径90cm短径(69)cm深さ23cmである。土師器大型品1片が出土している。

8・9号土坑(第590・593図、P L .244・325)

8号土坑 位置 86M-13グリッド。2号住居より後出。平面形は隅丸方形か。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸(130)cm短軸114cm深さ23cmである。土師器大型品95g・同小型品70g、須恵器大型品3片・同小型品1片が出土している。

9号土坑 位置 86M-13グリッド。2号住居より後出。

平面形はほぼ円形。ピット状。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径64cm短径56cm深さ25cmである。須恵器小型品1片が出土している。

10号土坑(第590図、P L .244)

位置 86L-15グリッド。平面形はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径80cm短径69cm深さ30cmである。土師器小型品1片、須恵器大型品1片が出土している。

11号土坑(第591図、P L .244)

位置 86L-15グリッド。24号掘立柱建物P1より前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-72°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸169cm短軸96cm深さ24cmである。土師器小型品5片、須恵器小型品2片が出土している。

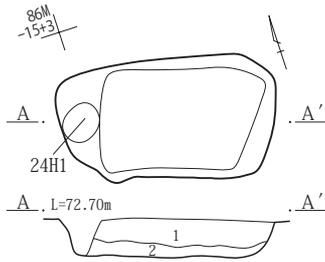
13号土坑(第591図)

位置 86L-13グリッド。東半部は調査区域外となるため、平面形は不明。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸168cm短軸(95)cm深さ11cmである。土師器大型品1片・同小型品1片、須恵器大型品1片が出土している。

14号土坑(第591図、P L .244)

位置 86M・N-15グリッド。7号住居、1号集石遺構より後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位N-57°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸240cm短軸140cm深さ42cmである。土師器大型品300g・同小型品175gが出土している。

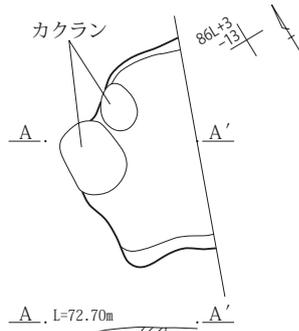
11号土坑



2区11号土坑

- 1 黄褐色土+暗褐色土 ややし
まりやや粘性あり。
- 2 黄褐色土 しまりやや粘性あ
り。暗褐色土粒子含む

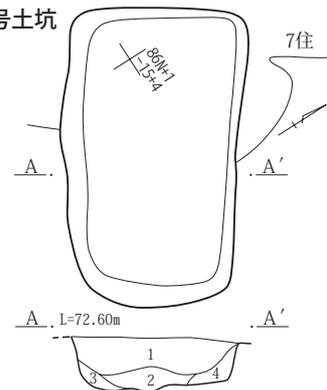
13号土坑



2区13号土坑

- 1 暗褐色土 堅くしまりやや砂質。浅間A
軽石・ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム
大ブロック多量に含む。

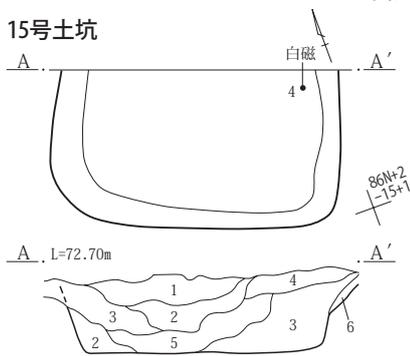
14号土坑



2区14号土坑

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック多量、炭化物片・円礫含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックごく
多量、炭化物粒子・焼土粒子やや多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土ブロックやや多量、
炭化物粒子少量、ローム粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子少量、
ロームブロック含む。

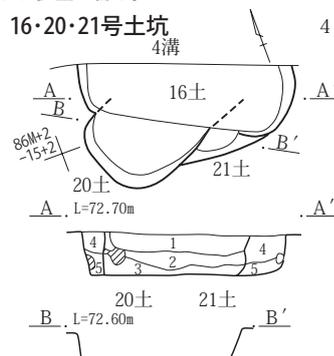
15号土坑



2区15号土坑

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量、小礫
少量に含む。
- 2 暗褐色土 小礫少量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム大ブロック多量、小
礫少量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・小礫少量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量、
小礫少量に含む。

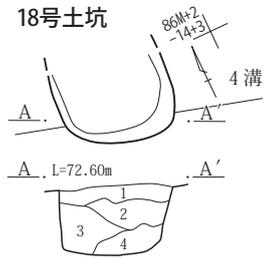
16・20・21号土坑



2区16・20・21号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック
少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックご
く多量に含む。
- 3 褐色土 堅くしまり粘性強い。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックや
や多量、焼土粒子少量に含む。
- 5 褐色土 しまりやや粘性あり。暗褐色粒子多量に含む。

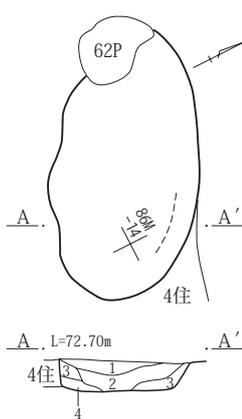
18号土坑



2区18号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ロー
ム大ブロック・炭化物粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ロー
ム小ブロック・炭化物粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あ
り。ローム大ブロックごく多量、炭化
物片含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。
ローム小ブロック少量に含む。

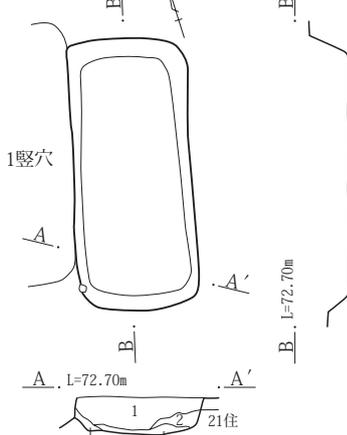
19号土坑



2区19号土坑

- 1 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。炭化物粒子少量、ローム粒
子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土+ロームブロック しまりやや粘性強い。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子微量に含む。

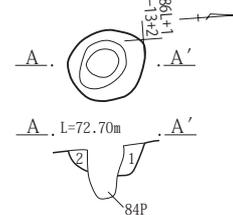
29号土坑



2区29号土坑

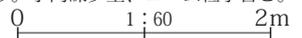
- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子ごく多量、焼土小ブロック・炭
化物粒子・浅間A軽石含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子やや多量、炭化物片含む。
- 3 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。小円礫少量、ローム粒子含む。

34号土坑



2区34号土坑

- 1 暗褐色土 しまり粘性弱い。
ローム粒子多量、焼土小ブ
ロック含む。
- 2 褐色土 ややしまり粘性な
い。焼土小ブロック少量に
含む。



第591図 2区11・13～16・18～21・29・34号土坑

15号土坑(591・593図、P L .244・325)

位置 86N-15グリッド。北半部は調査区域外となるが、平面形は隅丸方形か。やや大型で竪穴状遺構と見なすこともできる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。硬化面は確認されていない。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸225cm短軸(126)cm深さ55cmである。東壁寄り底面で4の白磁皿、埋没土から在地系土器内耳鍋(5~7)が出土する。出土遺物から15世紀前半頃に比定される。掲載遺物のほか、土師器大型品52g・同小型品85g、須恵器大型品1片・同小型品3片が出土している。

16・20・21号土坑(第591図、P L .244)

16号土坑 位置 86M-15グリッド。20号土坑より前出で、21号土坑、4号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-64°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径173cm短径(54)cm深さ36cmである。土師器大型品2片・同小型品3片、須恵器小1片が出土している。

20号土坑 位置 86M-15グリッド。16・21号土坑より後出。北半部は重複により不明確となるが、平面形は隅丸長方形か。主軸方位はN-68°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸(76)cm短軸(74)cm深さ35cmである。遺物は出土していない。

21号土坑 位置 86M-15グリッド。20号土坑より前出で、16号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径(75)cm短径(24)cm深さ34cmである。遺物は出土していない。

18号土坑(第591図、P L .244)

位置 86M-14グリッド。4号溝と重複するが新旧関係不明。重複により北半部を失うが、平面形は隅丸方形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸92cm短軸(65)cm深さ63cmである。土師器大型品4片・同小型品4片、須恵器小1片が出土している。出土遺物から中世に比定される。

19号土坑(第591図、P L .244)

位置 86L・M-14グリッド。4号住居、4号溝、62号

ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径214cm短径119cm深さ35cmである。遺物は出土していない。

29号土坑(第591図)

位置 86K・L-13グリッド。21号住居より後出と思われる、1号竪穴状遺構と接する。平面形は長方形。主軸方位はN-9°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で人為埋没か。浅間A軽石を含む。底面近くに黒褐色土が水平に堆積しており、一定期間開口のまま使用されたことを思わせる。規模は長軸220cm短軸91cm深さ15cmである。土師器大型品160g・同小型品28gが出土している。

30号土坑(第592図、P L .244)

位置 86N・O-16グリッド。2号溝より前出。北半部は調査区域外となるが、平面形は隅丸方形か。主軸方位はN-70°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は非常に平坦で、床面状に見える。埋没土は黄褐色土と褐色土が互層をなし人為埋没。埋没土上位に礫が集中して投棄される。東側は特に多いが、こちら側は2号溝から連続しており、不分明ながら多くは2号溝埋没時に投棄されたものであろう。規模は長軸283cm短軸(117)cm深さ71cmである。遺物は出土していない。

34号土坑(第591図、P L .245)

位置 86L-13グリッド。84号ピットより前出。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土1は84号ピットの充填土にみえ、当遺構自体84号ピットの掘り方の可能性もある。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径63cm短径56cm深さ26cmである。遺物は出土していない。

38号土坑(第592図、P L .245)

位置 86I-17グリッド。204号ピットより前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-70°-E。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや丸みを持つ。埋没土は黄褐色土を主体に人為埋没するが、締め固めた状況は確認されていない。規模は長軸101cm短軸67cm深さ23cmである。遺物は出土していない。

39号土坑(第592図、P L .245)

位置 86I-16グリッド。299号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。

底面は凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径88cm短径85cm深さ21cmである。土師器大型品1片・同小型品3片、須恵器大型品1片が出土している。

40号土坑(第592図、P L .245)

位置 86 I -16グリッド。中央部で19号掘立柱建物南西隅柱と重複し後出と思われるが、平面の記録がない。12号掘立柱建物P 8、214号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸方形。主軸方位はN-13°-E W。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没で、上位は強く締め固められる。規模は長軸134cm短軸116cm深さ22cmである。遺物は出土していない。

41号土坑(第592図、P L .245)

位置 86 I -16・17グリッド。17号掘立柱建物P 2より前出で、297・298号ピットより後出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-18°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持って平面形円形気味となる。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。よく締め固まる。規模は長軸192cm短軸116cm深さ32cmである。土師器大型品125g・同小型品38gが出土している。

42号土坑(第592図、P L .245)

位置 86 I -17グリッド。260号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径112cm短径74cm深さ22cmである。遺物は出土していない。

44号土坑(第592図、P L .245)

位置 86 K -14グリッド。11号掘立柱建物P 6より前出。平面形は隅丸方形。主軸方位はN-12°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸153cm短軸133cm深さ24cmである。土師器大型品4片・同小型品2片、須恵器小1片が出土している。

45・56号土坑(第592図、P L .245・246)

45号土坑 位置 86 I・J-17グリッド。13号掘立柱建物P 3、17号掘立柱建物P 1、56号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-43°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸88

cm短軸61cm深さ42cmである。遺物は出土していない。

56号土坑 位置 86 I・J-17グリッド。13号掘立柱建物P 2、45号土坑、475・476・478号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形で、竪穴状遺構とすることもできる。主軸方位はN-74°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。床面、硬化面は確認されていない。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。強く締め固められる。規模は長軸236cm短軸170cm深さ18cmである。土師器大型品90g・同小型品28g、須恵器小型品3片が出土している。

46号土坑(第593・594図、P L .246)

位置 86 K・L-16・17グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-27°-E。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸190cm短軸106cm深さ18cmである。埋没土から瀬戸・美濃陶器が出土する。出土遺物から江戸時代に比定される。掲載遺物のほか、土師器大型品2片・同小型品1片が出土している。

47号土坑(第593・594図、P L .246・325)

位置 86 J-16グリッド。362号ピットより後出で、436号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-22°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は黄褐色土を主体として東側から埋める。西壁側に黒褐色土が入り込んでおり、埋められた当初隙間を生じさせる何物かが当てられていたと考えられる。規模は長軸125cm短軸102cm深さ56cmである。底面で銅銭2枚が出土する。出土遺物から中世以降に比定される。掲載遺物のほか、土師器大型品4片・同小型品5片が出土している。

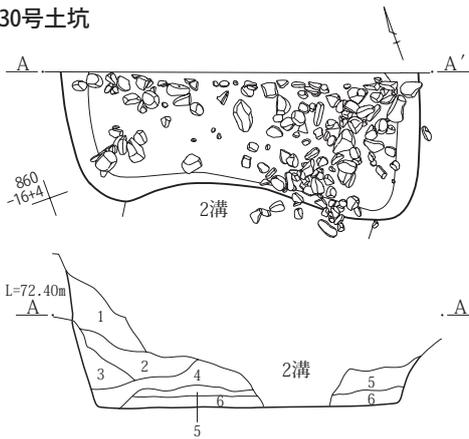
48号土坑(第594図、P L .246)

位置 86 K-16グリッド。370・371号ピットより前出。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-20°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は黄褐色土を主体とし人為埋没。規模は長軸117cm短軸76cm深さ57cmである。遺物は出土していない。

49号土坑(第594図、P L .246)

位置 86 J-15・16グリッド。16号掘立柱建物P 6、424号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸細長方形。主軸方位はN-72°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量

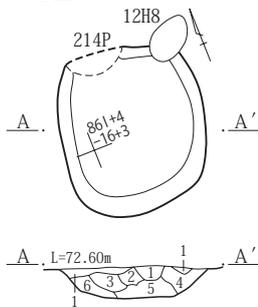
30号土坑



2区30号土坑

- 1 暗褐色土 小礫多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 黄褐色土 暗褐色土大ブロック多量に含む。
- 5 灰褐色土 ややしilt質。白色粘土小ブロック多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロック少量、赤色粒子少量に含む。

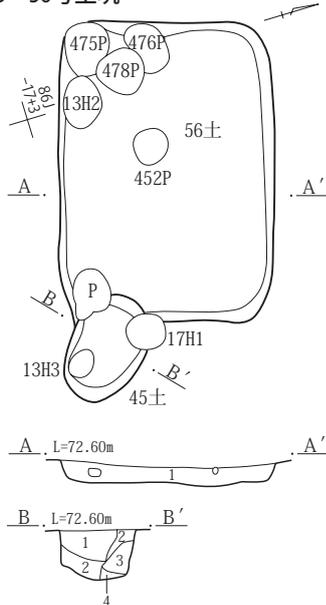
40号土坑



2区40号土坑

- 1 黄褐色土 堅くしまる。
- 2 黄褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ローム粒子・褐色軽石多量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子含む。

45・56号土坑



2区45号土坑

- 1 褐色土+黄褐色土 ややしまりやや粘性あり。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 3 明黄褐色土+褐色土 しまり強くやや粘性あり。
- 4 褐色土 ややしまりやや粘性あり。暗褐色土含む。

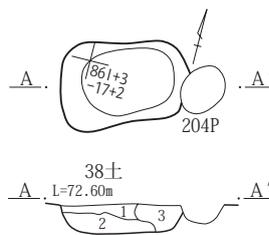
2区56号土坑

- 1 暗褐色土 ごく堅くしまりやや砂質。ロームブロック多量、炭化物粒子・焼土小ブロック含む。

2区44号土坑

- 1 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 2 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、炭化物粒子含む。
- 4 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。

38号土坑



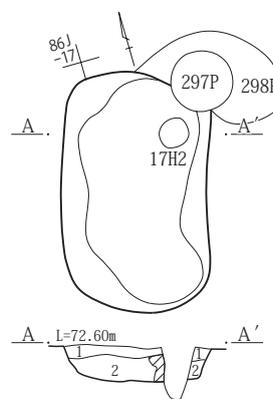
2区38号土坑

- 1 黄褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量に含む。
- 2 黄褐色土 しまり弱く粘性強い。暗褐色土ブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり良くやや粘性強い。黄褐色土多量に含む。

2区39号土坑

- 1 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量に含む。

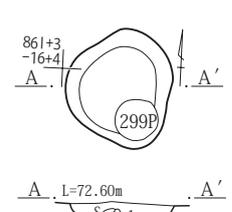
41号土坑



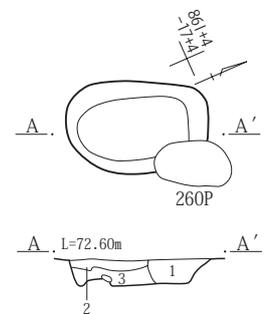
2区41号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 2 暗褐色粘質土 堅くしまる。ロームブロックごく多量に含む。

39号土坑



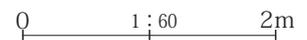
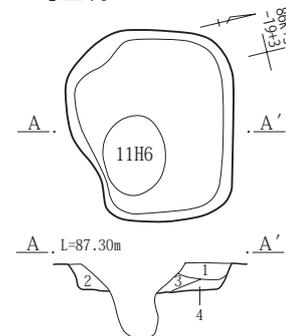
42号土坑



2区42号土坑

- 1 褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。ローム粒子多量に含む。
- 2 黄褐色土 しまり良く粘性弱い。ロームブロック多量に含む。
- 3 褐色土 しまり良く粘性弱い。ロームブロックやや多量に含む。

44号土坑



第592図 2区30・38～42・44・45・56号土坑

に含み人為埋没。規模は長軸173cm短軸70cm深さ22cmである。土師器大型品3片が出土している。

50号土坑(第000図、P L.246)

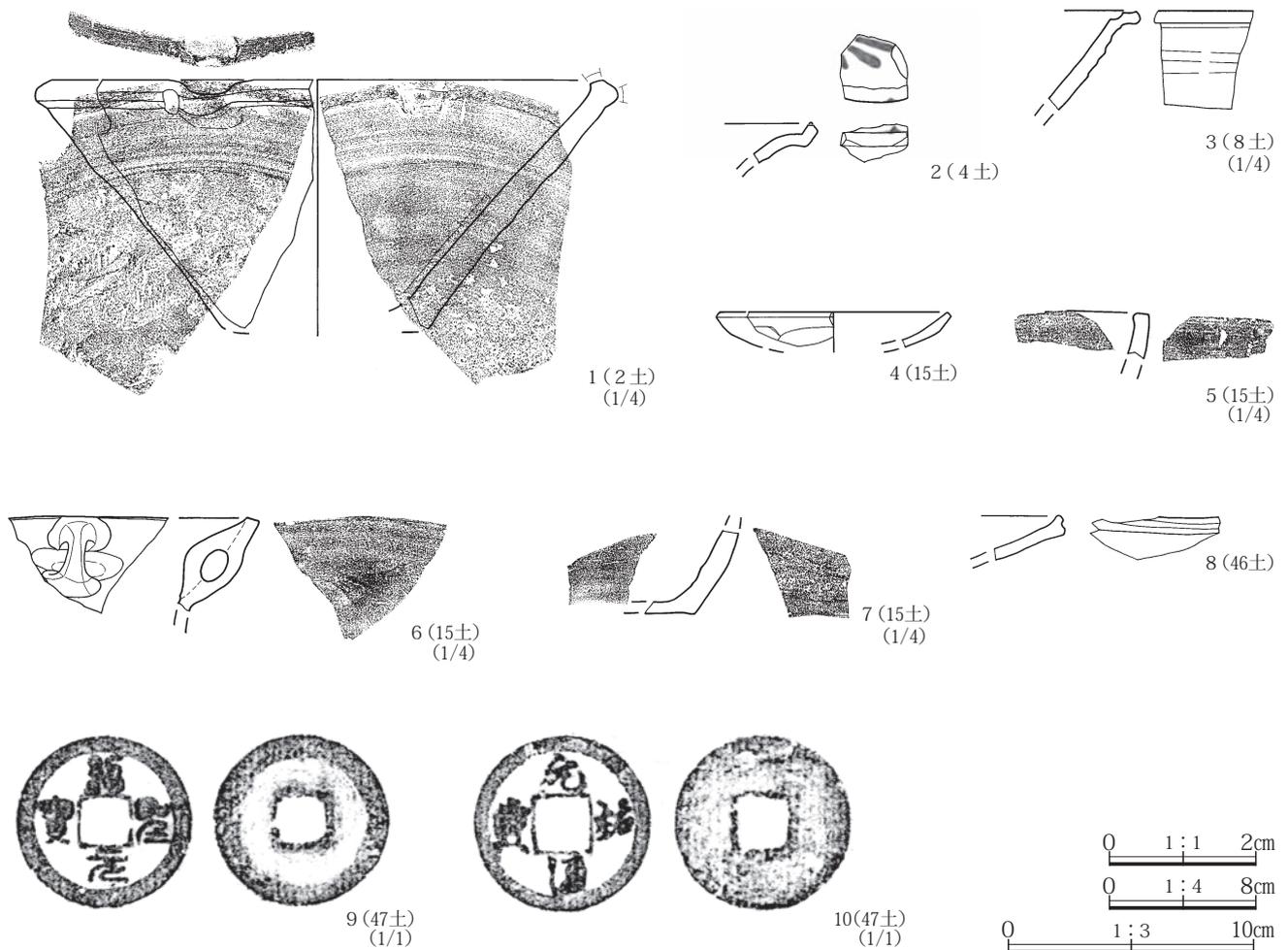
位置 86J-16グリッド。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-73°-W。外側にほぼ同規模で前出する土坑が重なるが、平面図では現れていない。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸165cm短軸132cm深さ33cmである。遺物は出土していない。

51・52号土坑(第594図、P L.246)

51号土坑 位置 86J・K-16グリッド。21号掘立柱建物P2、410号ピットと重複するが新旧関係不明。平面

形はほぼ隅丸長方形。主軸方位はN-29°-E。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土は黒褐色土を主体とし、自然埋没か。規模は長軸135cm短軸64cm深さ16cmである。埋没土から古代以前である可能性がある。土師器小型品2片、須恵器小型品1片が出土している。

52号土坑 位置 86K-16グリッド。21号掘立柱建物P2より後出。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。底面から埋没土中位および輪郭に沿って明黄褐色土で埋まっており、粘土貼りにより何らかの容器をすえた可能性も考えられる。規模は長径85cm短径56cm深さ30cmである。土師器大型品1片・同小型品1片が出土している。



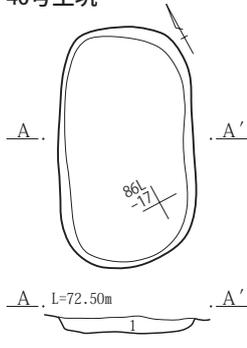
第593図 2区土坑出土遺物

55号土坑(第594図、P L.246)

位置 86J-18グリッド。5号井戸より前出。平面形は隅丸方形。主軸方位はN-18°-E。壁は斜めに立ち上

がる。底面は平坦。床面、硬化面は確認されていない。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸201cm短軸157cm深さ7cmである。遺物は出土していない。

46号土坑



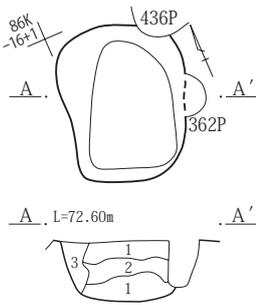
2区46号土坑

1 褐色土 しまりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。

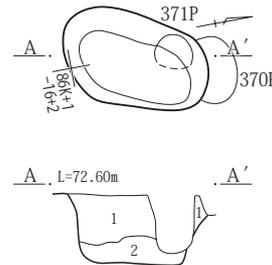
2区47号土坑

- 1 黄褐色土 黄色軽石多量に含む。
- 2 黄褐色土 しまりやや粘性あり。黄色軽石多量、暗褐色土縞状に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子含む。

47号土坑



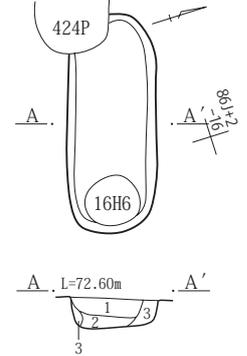
48号土坑



2区48号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 明黄褐色土 しまり弱く粘性弱い。空隙多い。

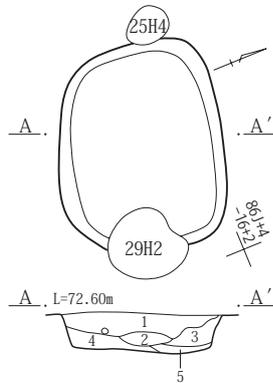
49号土坑



2区49号土坑

- 1 暗褐色砂質土 堅くしまる。ローム小ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム小ブロック少量に含む。

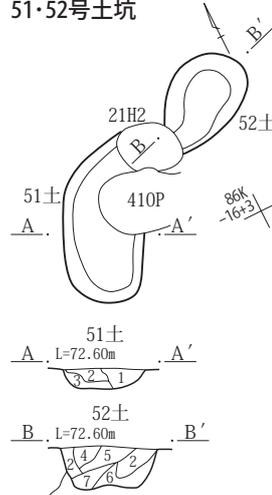
50号土坑



2区50号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・ローム粒子含む。
- 3 黄褐色土ブロック ややしまりやや粘性あり。黒褐色土・暗褐色土含む。
- 4 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。
- 5 黄褐色土 しまり弱く粘性弱い。

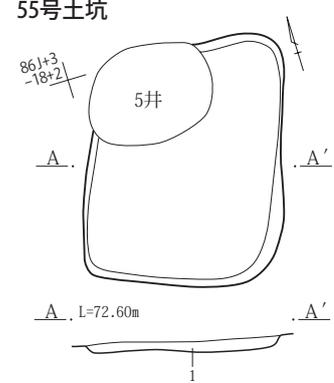
51・52号土坑



2区51・52号土坑

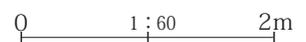
- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性強い。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土小ブロック含む。
- 5 暗褐色粘質土 しまる。ローム小ブロック多量に含む。
- 6 明黄褐色土
- 7 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。

55号土坑



2区55号土坑

- 1 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。黄褐色土少量に含む。



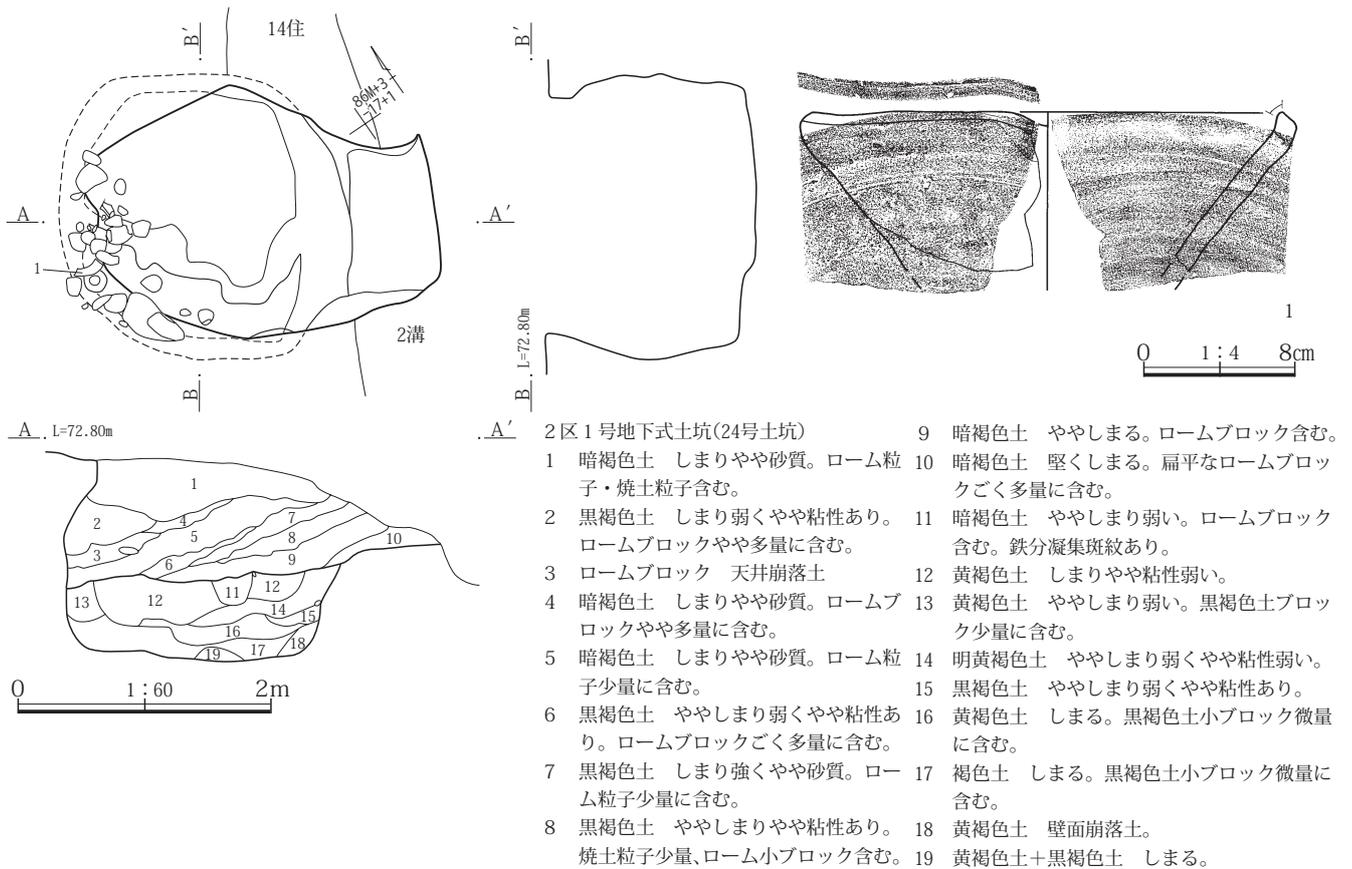
第594図 2区46～52・55号土坑

(5)地下式土坑

1号地下式土坑(第595図、P.L.247・325)

位置 86M-17グリッド。2号溝より前出。平面形は不整形円形の東側に長方形が取り付くイチジク形。本体円形部分の壁はオーバーハングして、長方形部はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦だが、中で埋没土が上下に分かれ、下部は黄褐色土を主体として埋まる。乱れてはいるが、基本土層Ⅵ・Ⅶの層順で埋まっているため、天井の崩落土を主体とする考える。その黄褐色土面か

ら上位は、東方から暗褐色土・黒褐色土で人為的に埋められるため、天井崩落後も黄褐色土面で使用され、奥壁に沿って巨円礫が集中して出土する。主体部の規模は長径202cm短径198cm深さ162cmで、長方形部の規模は長軸124cm短軸67cm深さ32cmである。黄褐色土面より18cm上で、1の在土系土器鉢が出土する。出土遺物から14世紀前半頃に比定される。掲載遺物のほか、土師器大型品1095g・同小型品310g、須恵器小型品200gが出土している。



第595図 2区1号地下式土坑と出土遺物

(6)井戸

井戸は3基検出され、1号屋敷内に点在する。1号井戸は北端に位置し、4号溝に近接する。5号井戸は南西部にあり2号溝に近接する。以上の2基は、出土遺物から年代を確定できないが、状況から屋敷と同時期と考えて支障はないだろう。3号井戸は中世で、屋敷の中央北寄りに位置する。掘立柱建物とも重複するが、覆屋と明確に見なされるものはない。

1号井戸(第596図、P.L.247)

位置 86M-14・15グリッド。重複 なし。

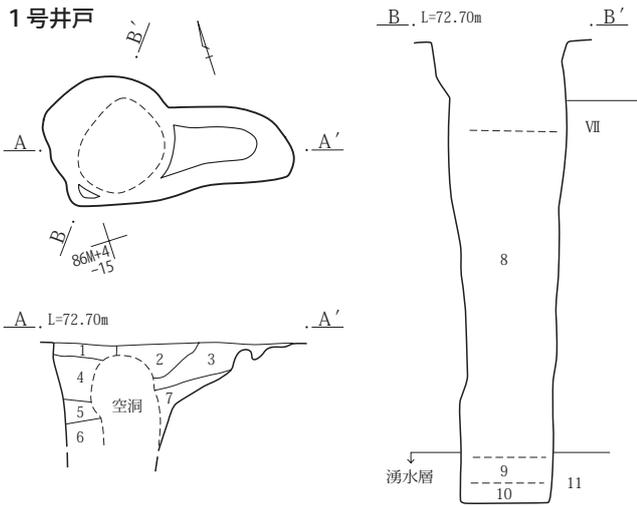
確認面形状と規模 ほぼ円形の本体の東側に溝状の作り出しが付く。本体部長径1.05m短径1.04m、作りだし部規模は長軸94cm短軸61cm深さ47cmである。

底面形状と規模 円形。長径0.72m短径0.62m。

断面形 円筒形。深さ 3.65m。上位壁面に相対して深いピット一対が観察されている。

埋没状況 埋没土最上位は堅くしまるが、多くは黒褐色土で埋まる。埋没状況は自然埋没に近いが、通例に従えば人為埋没が妥当であろう。

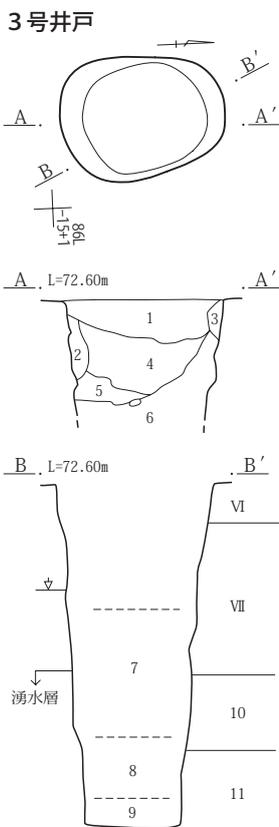
1号井戸



1号井戸

- 1 暗褐色シルト質土 堅くしまる。浅間A軽石多量に含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまりやや粘性弱い。ロームブロックごく多量に含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 5 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック少量に含む。
- 6 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 7 褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロックやや多量に含む。
- 8 黒褐色土
- 9 黒褐色土 巨礫含む。
- 10 灰褐色砂質土
- 11 褐灰褐色砂 白色軽石多量に含む。湧水層。

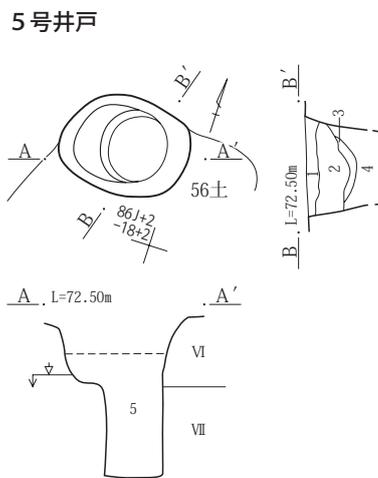
3号井戸



3号井戸

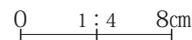
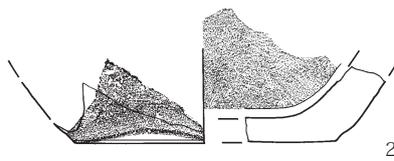
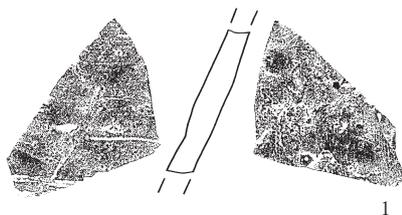
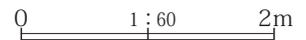
- 1 黒褐色土 ややしまり粘性弱い。白色軽石・ローム粒子・焼土粒子・炭化物片含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 3 褐色土
- 4 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。炭化物多量、ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム粒子少量、焼土小ブロック少量に含む。
- 6 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量に含む。
- 7 黒褐色砂質土
- 8 黒褐色土 白色軽石多量に含む。
- 9 黒褐色土
- 10 褐灰色土 大円礫含む。
- 11 灰褐色砂 白色軽石含む。

5号井戸



5号井戸

- 1 褐色土 堅くしまり粘性弱い。ローム小ブロックやや多量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック多量、炭化物粒子やや多量に含む。
- 3 黄褐色土 ややしまる。
- 4 暗褐色土+ロームブロック
- 5 褐灰色土



第596図 2区1・3・5号井戸と3号井戸出土遺物

湧水層 掘削業者所見により、深さ3.30～3.70m間のⅦ層内で、調査時点ではにじみ出る程度であった。

遺物 底面近くで曲物片が出土したと記録されるが、所在は確認されない。ほかに、土師器大型品48g、須恵器大型品2片・同小型品2片が出土している。

時期 出土遺物から古代以降に比定される。

3号井戸(第596図、P L .247)

位置 86L-15グリッド。 **重複** 柱穴と直接の重複はないが、15・24・26号掘立柱建物と重複する。位置関係から、15・24号掘立柱建物は覆屋の可能性はある。

確認面形状と規模 楕円形。長径1.30m短径0.96m。

底面形状と規模 円形。長径0.92m短径0.82m。

断面形 円筒形。深さ 2.73m。

埋没状況 埋没土下位は黒褐色砂質土を主体として人為的に埋め戻され、上位は徐々に埋まる。

湧水層 掘削業者所見により、深さ1.60m以下である。調査時の自然水位は深さ0.9mの位置にあり、湧水量は毎分約20Lと記録されている。

遺物 埋没土から1の常滑陶器、2の在地系土器片口鉢が出土する。掲載遺物のほか、土師器小型品1片が出土している。

時期 出土遺物から中世に比定される。

5号井戸(第596図、P L .248)

位置 86J-18グリッド。 **重複** 55号土坑より後出。

確認面形状と規模 不整楕円形。長径1.0m短径0.79m。

底面形状と規模 円形。長径0.53m短径0.45m。

断面形 上面は崩れるが、円筒形。深さ1.26m。

埋没状況 埋没土下位は褐色土を主体に人為的に埋め戻され、上位は徐々に埋まる。

湧水層 掘削業者所見により、深さ0.50m以下である。調査時の自然水位は深さ0.45mの位置にあり、湧水量は毎分約10Lと記録されている。深さから夏季のみの使用と推測される。

遺物 埋没土から在地系土器鍋1点(非掲載)が出土する。中世遺物のほか、土師器大型品2片・同小型品3片、須恵器大型品1片が出土している。

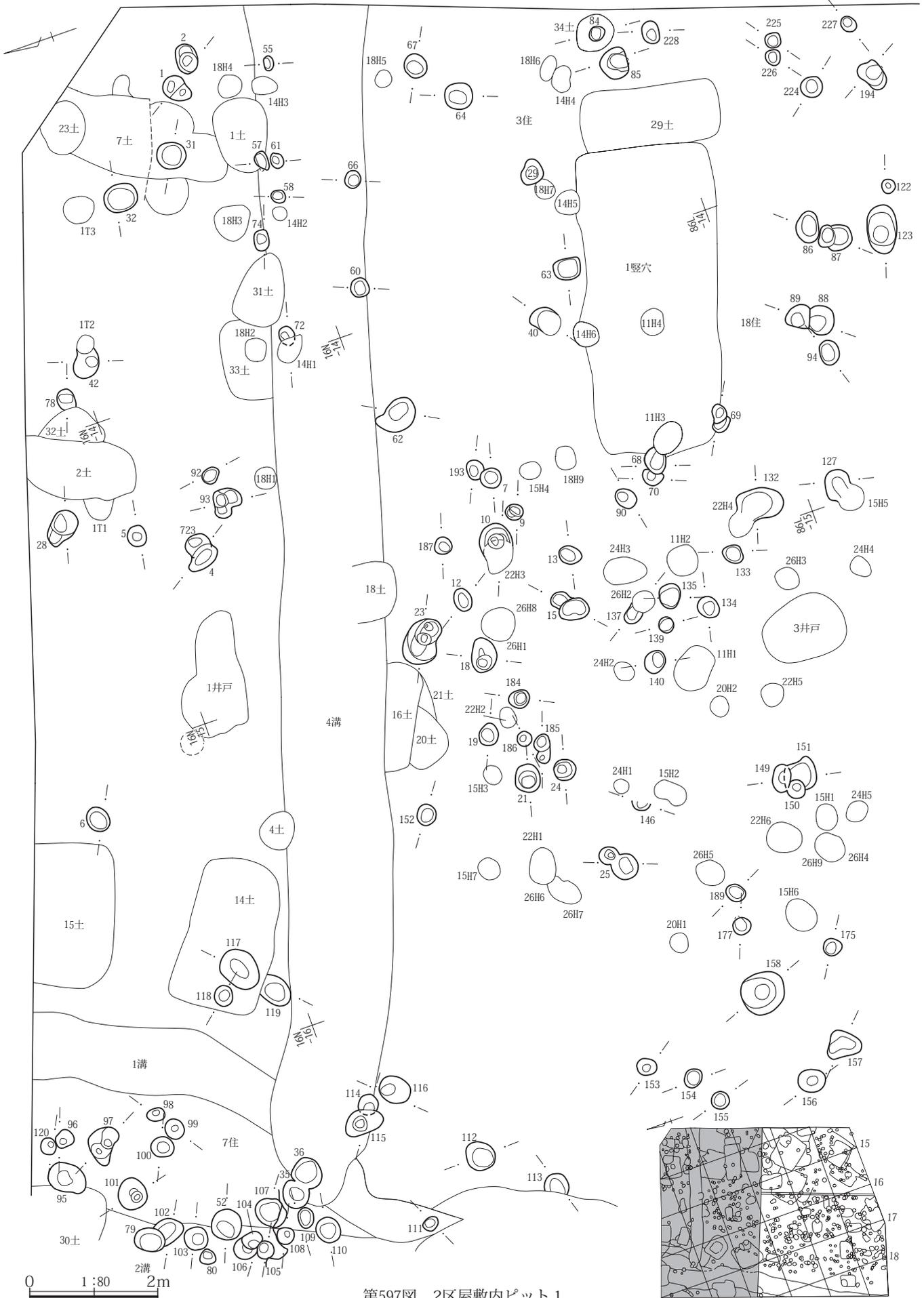
時期 出土遺物から中世以降に比定される。

(7)ピット(第597～604図、P L .248・325、第40～42表)

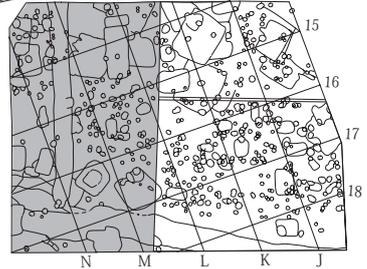
1号屋敷内にはピットが450基あり、うち掘立柱建物19棟と1号柱穴列の柱穴と認定した126基を除く、324基を3枚の平面図に分け、屋敷内ピット1～3として扱う。ピットの分布は、掘立柱建物の分布とほぼ一致することから、認定できなかった建物の柱穴がほとんどであると考えられる。ただし、屋敷内ピット1とした屋敷の北半部のうち、北西端はピットの集中部であるが、掘立柱建物は1棟も復元されていない。2号溝や7号住居などと激しく重複している。これらのピットは、屋敷との関連づけがやや難しい部分である。35・36号ピットは4号溝より前出であるのも示唆的で、36号ピットの埋没土から須恵器杯(1)が出土する。また、108～113号ピットは極端に浅く、同列には扱えないが、111号ピットの埋没土から土師器杯(2)が出土している。

埋没土において、柱痕が残るものは概して少なく、明確なものは244・258・265・448・474号ピットが挙げられる。一方、埋め戻された上、上面が黄褐色土で被覆されている例では、116・117号ピットがある。特に前者は14号土坑の底面で確認されたことから、埋没後に14号土坑が営まれ、使用されるなかで黄褐色土で覆われたと推測される。

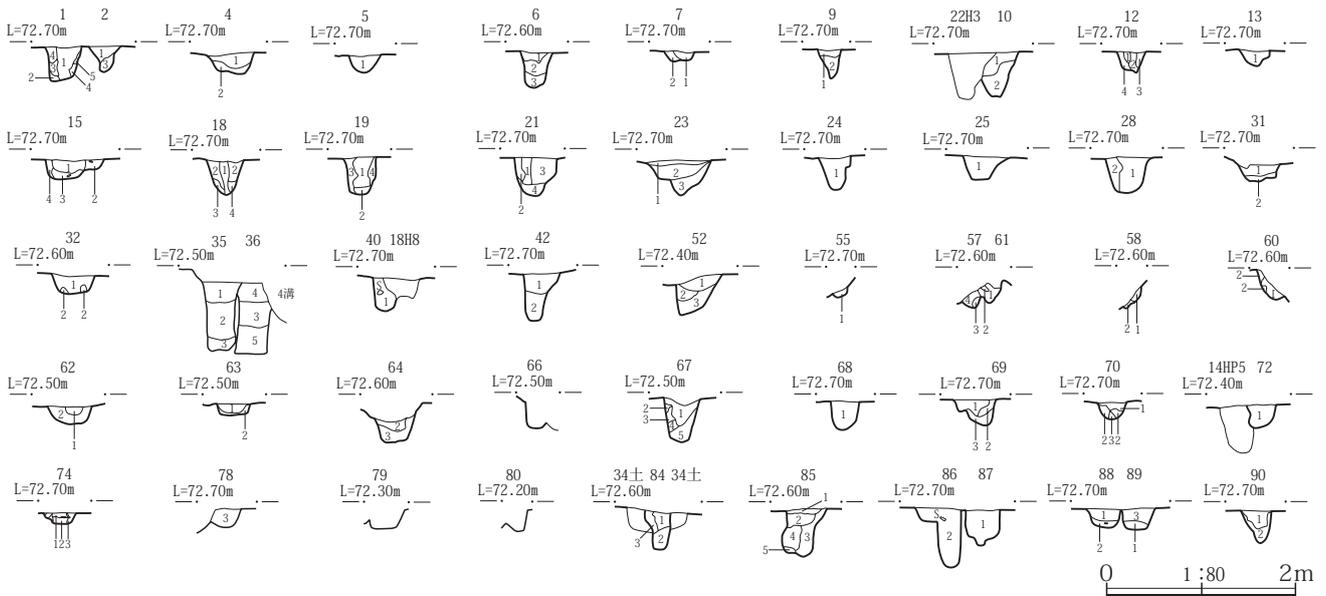
ほかに遺物を伴うものとして、屋敷の中央4号溝寄りの140号ピット埋没土から3の古瀬戸天目碗(15世紀半ば頃)が出土する。また、屋敷南西部の247号ピットでは6の在地系土器鍋(14世紀末～15世紀半ば頃)、西端中央部の359号ピットでは8・9の在地系土器内耳鍋(15世紀後半～16世紀前半)が出土しており、ピットに年代幅があることが判明する。



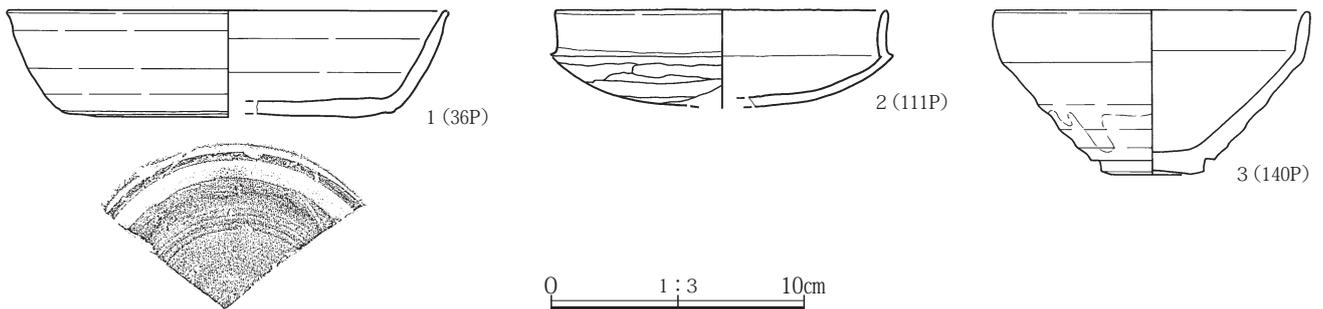
第597図 2区屋敷内ピット1



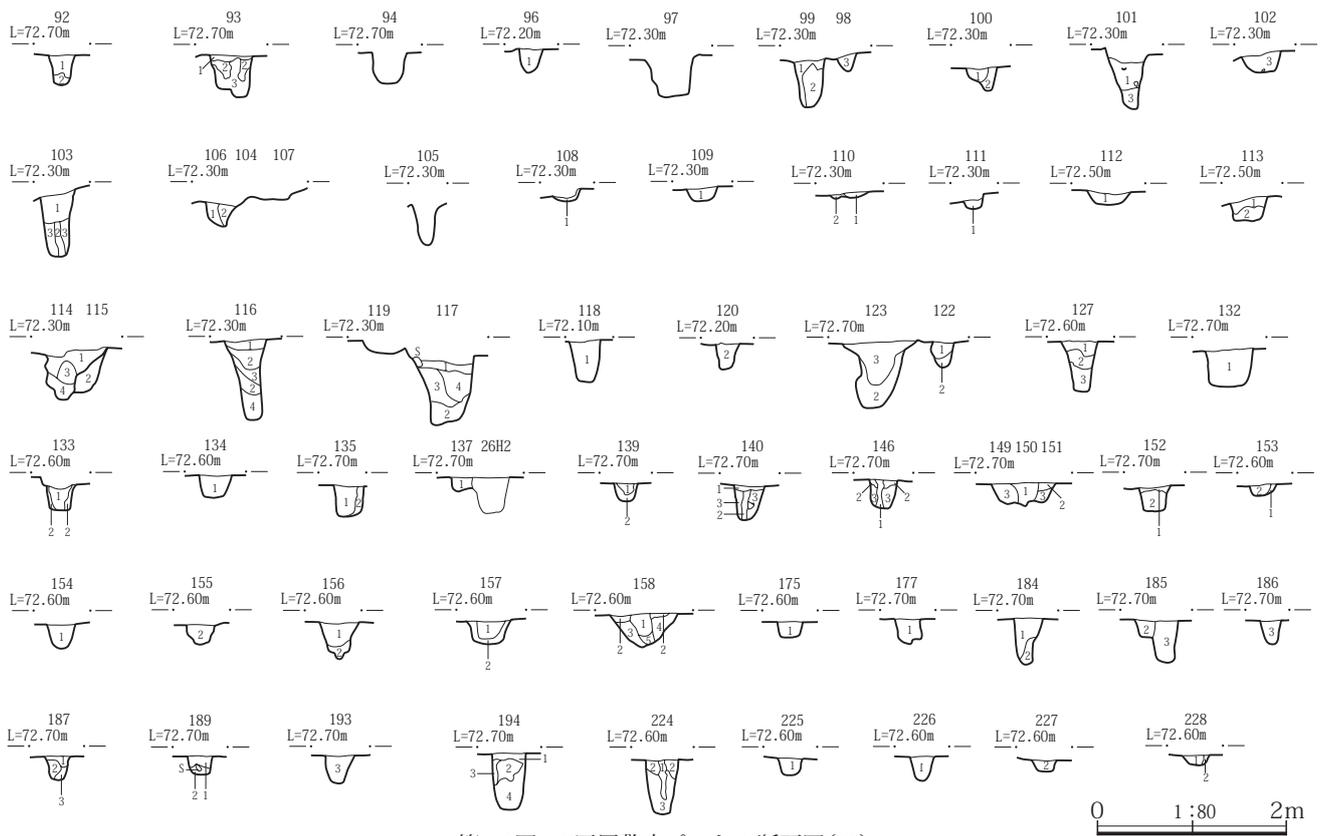
第4章 発掘調査の記録



1・2P 1 黒褐土ローム粒子・焼土粒子少量、炭粒子含。2 黒褐土+ローム 3 黒褐土ローム小塊・ローム粒子少。4 暗褐土ローム塊極多量、焼土粒子少。5 暗褐土 / 4P 1 暗褐土ローム小塊・焼土粒子・炭粒子少。2 暗褐土ローム小塊多。 / 5P 1 黒褐土ローム粒子・焼土粒子・炭片含。 / 6P 1 褐土ローム塊やや多。2 暗褐土ローム粒子多。3 にぶい黄褐土ローム粒子多量、焼土粒子・小礫含。 / 7P 1 暗褐土ローム小塊やや多量、焼土粒子・炭粒子含。2 暗褐土ローム小塊極多。 / 9P 1 黒褐土堅縮。ローム小塊多。2 極暗褐土ローム小塊・焼土粒子少。 / 10P 1 黒褐土ローム粒子・焼土粒子・浅間A軽石含。2 暗褐土ローム塊極多。 / 12P 1 暗褐土ローム粒子少。2 黒褐土ローム小塊・ローム粒子含。3 暗褐土ローム塊極多。4 暗褐土ローム塊含。 / 13P 1 暗褐土ローム粒子多量、炭粒子少量、ローム大塊含。 / 15P 1 黒褐土 ローム塊やや多量、浅間A軽石?含。2 暗褐土ローム小塊少。3 黒褐土ローム小塊少。4 黒褐土ローム粒子多。 / 18P 1 暗褐土空隙多締弱。ローム小塊・黒褐土塊含。2 暗褐土ローム小塊多。3 褐土 4 暗褐土ローム小塊含。 / 19P 1 暗褐土ローム粒子やや多。2 暗褐土+ローム塊 3 暗褐土+褐土堅縮。4 ローム塊。 / 21P 1 暗褐土ローム小塊少。2 暗褐土ローム粒子多。3 暗褐土+ローム塊 4 黒褐土ローム塊やや多。 / 23P 1 黒褐土堅縮。ローム粒子含。2 暗褐土ローム塊多量、焼土粒子含。3 黒褐土+明黄褐土 / 24P 1 暗褐土ローム粒子・黄軽石やや多。 / 25P 1 黒褐土ローム小塊やや多。 / 28P 1 暗褐土ローム塊少。2 暗褐土ローム塊極多。 / 31P 1 暗褐土ローム小塊少量、炭粒子含。2 黒褐土ローム小塊含。 / 32P 1 暗褐土ローム粒子少。2 ローム塊 / 35・36P 1 暗褐土ローム小塊・炭片やや多。2 暗褐土ローム大塊多量、焼土小塊・炭片少。3 暗褐土ローム小塊少。4 暗褐土ローム小塊多。5 暗褐土堅縮。ローム大塊やや多。 / 40P 1 暗褐土ローム塊・小礫含。 / 42P 1 暗褐土ローム塊やや多量、炭粒子少。2 黒褐土ローム粒子多。 / 52P 1 暗褐土ローム小塊少量、焼土粒子・炭粒子含。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊多。 / 55・58・60P 1 暗褐土ローム小塊少。2 黄褐土 / 57・61・63P 1 暗褐土黄粒子含。2 ローム塊 3 褐土ローム小塊多。4 黒褐土ローム小塊少。5 褐土 / 62・64P 1 暗褐土+ローム大塊 2 暗褐土ローム小塊少。3 暗褐土ローム大塊多。 / 67P 1 灰褐土ローム小塊多。2 暗褐土白軽石含。3 ローム塊 4 暗褐土炭粒子含。5 灰褐土ローム小塊やや多。 / 68P 1 暗褐土ローム小塊やや多。 / 69P 1 褐土ローム粒子・小礫少。2 褐土ローム粒子少。3 褐土ローム小塊多。 / 70P 1 黒褐土ローム小塊極多。2 黒褐土ローム小塊少。3 ローム塊 / 72P 1 暗褐土ローム粒子少。 / 74・78P 1 黒褐土焼土小塊やや多量、炭粒子・ローム粒子含。2 褐土ローム小塊極多量、焼土粒子含。3 暗褐土ローム粒子やや多量、焼土小塊少。 / 84P 1 暗褐土ローム小塊多量、白軽石含。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊少。 / 85P 1 褐土非常に堅縮。ローム小塊多。2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊極多。4 暗褐土ローム小塊少。5 にぶい黄橙土 / 86・87P 1 暗褐土ローム小塊やや多。2 暗褐土ローム小塊・小礫やや多。 / 88・89P 1 黒褐土ローム小塊少。2 黒褐土ローム大塊多。3 黒褐土ローム小塊やや多。 / 90P 1 暗褐土ローム小塊少。2 にぶい黄橙土黒褐土小塊少。



第598図 2区屋敷内ピット1断面図(1)とピット出土遺物(1)



第599図 2区屋敷内ピット1断面図(2)

/92・93P 1暗褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム小塊やや多。3暗褐色土ローム小塊極多。/96P 1暗褐色土ローム塊多。/98・99P 1暗褐色土ローム小塊多。2暗褐色土ローム小塊やや多。3灰褐色土ローム粒子極多。/100～102P 1暗褐色土ローム小塊やや多。2暗褐色土+ローム大塊 3暗褐色土ローム大塊多。/103P 1暗褐色土ローム小塊やや多量、褐色粒子・炭粒子含。2暗褐色土ローム小塊少。3暗褐色土ローム小塊やや多。/108・109P 1灰褐色土ローム小塊やや多。/110P 1黒褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム小塊極多。/111P 1褐色土/112P 1暗褐色土ローム小塊やや多、炭片・褐色粒子含。/113P 1暗褐色土ローム小塊少。2黄褐色土暗褐色土塊多。/114・115P 1褐色土ローム小塊やや多、褐色粒子・小礫含。2暗褐色土ローム大塊多、黒褐色土大塊多。3暗褐色土ローム粒子微。4暗褐色土ローム小塊やや多。/116・117P 1褐色土ローム小塊多。2暗褐色土ローム小塊やや多。3暗褐色土ローム小塊極多。4暗褐色土ローム小塊少。/118・120P 1暗褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム小塊多。/122・123P 1暗褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム小塊やや多。3暗褐色土ローム大塊やや多。/127P 1暗褐色土ローム小塊極多。2黒褐色土ローム小塊やや多。3黒褐色土ローム粒子やや多。/132P 1暗褐色土黒褐色土・褐色土大塊極多。/133・135P 1暗褐色土ローム粒子やや多。2褐色土黒褐色土小塊少。/134P 1黒褐色土ローム小塊極多。/137P 1暗褐色土ローム小塊少。/139P 1暗褐色土ローム小塊やや多。2暗褐色土+黄褐色土/140P 1黒褐色土ローム粒子多、浅間B軽石含。2ローム塊黒褐色土多。3黒褐色土ローム小塊やや多。/146P 1暗褐色土ローム粒子少。2暗褐色土ローム粒子やや多。3褐色土黒褐色土多。/149～151P 1暗褐色土ローム小塊極多。2暗褐色土黒褐色土大塊やや多、ローム小塊少。3暗褐色土ローム小塊やや多。/152P 1褐色土堅締。ローム小塊多。2暗褐色土ローム小塊多。/153P 1暗褐色土ローム小塊微。2暗褐色土ローム粒子少。/154～156P 1暗褐色土ローム小塊やや多、炭粒子・焼土粒子少。2暗褐色土ローム粒子・焼土粒子少。/157P 1暗褐色土ローム粒子少。2暗褐色土ローム粒子やや多。/158P 1暗褐色土ローム小塊含。2暗褐色土ローム小塊やや多。3暗褐色土ローム小塊多、焼土粒子・炭粒子含。4暗褐色土ローム大塊多。5暗褐色土ローム大塊やや多。/175P 1暗褐色土ローム小塊少。/177P 1褐色土+ローム小塊/184～186P 1暗褐色土ローム大塊多。2暗褐色土ローム小塊極多。3暗褐色土ローム小塊少。/187P 1黄褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム粒子少。3暗褐色土+黄褐色土/189・193P 1暗褐色土ローム小塊多。2黄褐色土 3暗褐色土ローム小塊少。/194P 1暗褐色土ローム小塊少。2暗褐色土ローム小塊やや多、黒褐色土小塊少。3明黄褐色土 4暗褐色土ローム大塊やや多。/224P 1暗褐色土ローム小塊微。2暗褐色土ローム小塊多。3暗褐色土ローム小塊少。/225・226P 1暗褐色土ローム大塊多。/227・228P 1暗褐色土ローム小塊少。2にぶい黄褐色土黒褐色土小塊やや多。

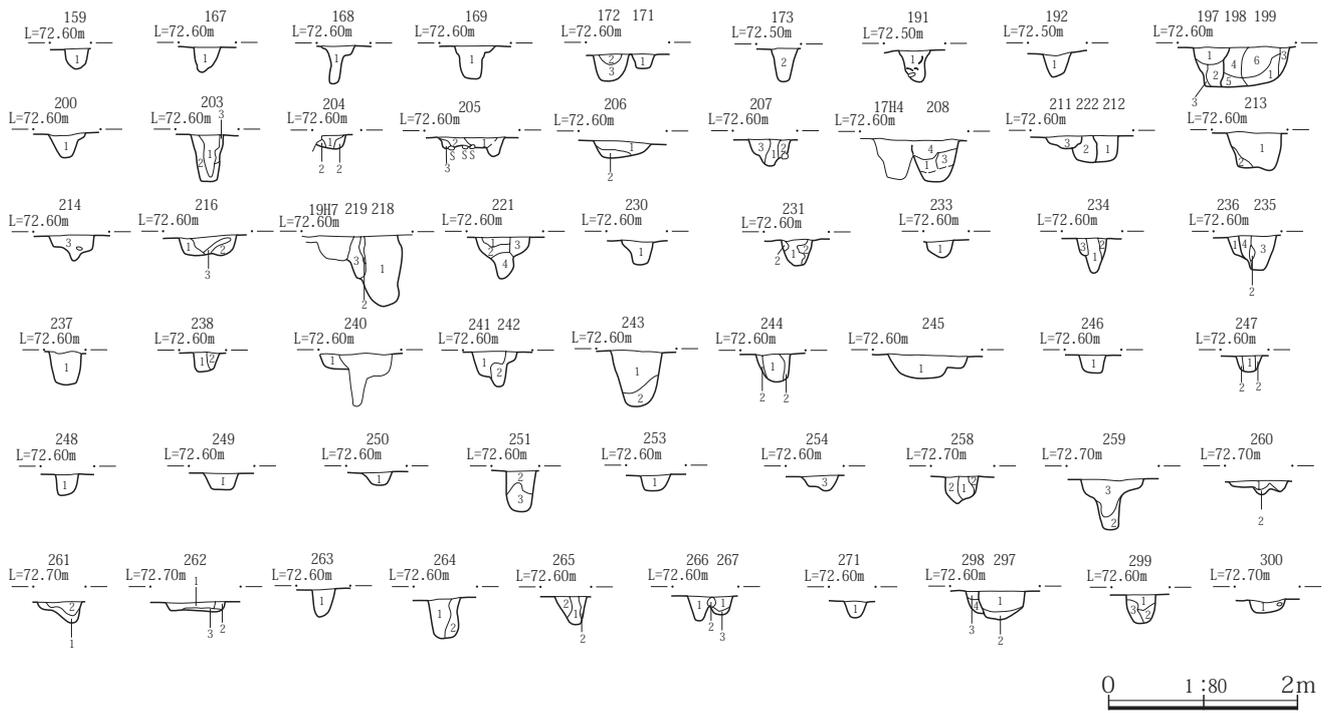
第4章 発掘調査の記録

第40表 2区1号屋敷内ピット1計測表

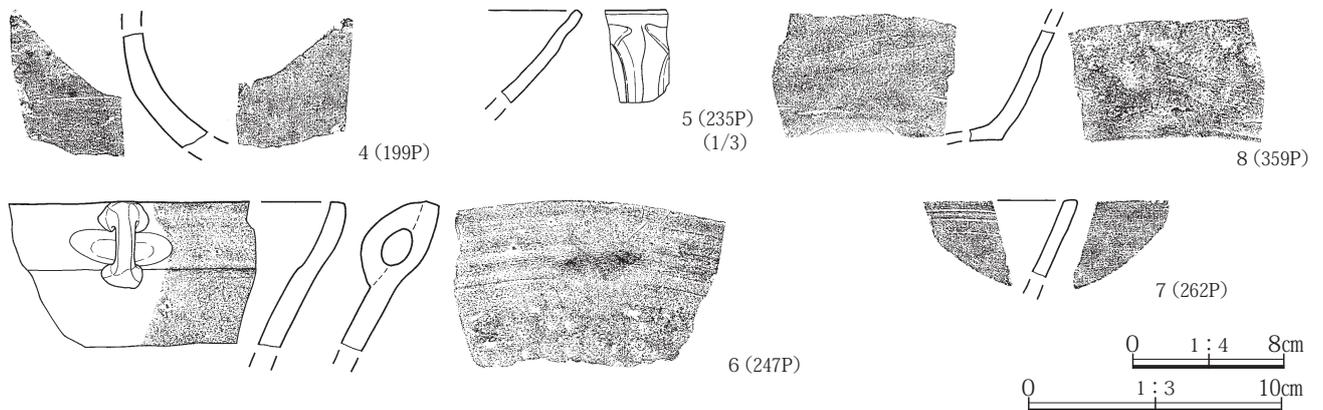
ピットNo.	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
1	86M-13	47	37	35	
2	86M-13	48	33	46	
4	86M-14	53	(26)	18	
5	86M-14	33	30	17	
6	86N-15	40	33	35	
7	86L-14	32	31	11	
9	86L-14	26	25	21	
10	86L-14	48	—	47	
12	86M-14	36	27	20	土師小1片
13	86L-14	36	28	20	
15	86L-15	60	38	23	
18	86M-15	53	38	61	
19	86M-15	35	30	42	
21	86M-15	45	38	43	
23	86M-14	77	53	39	
24	86M-15	34	32	37	
25	86L-15	65	40	24	土師大2・小1片
28	86N-14	59	39	36	
29	86L-13	40	32	31	
31	86M-13	46	41	19	土師大3片
32	86M-13	53	43	19	土師大4片
35	86N-16	42	—	67	土師大160g・小32g 須恵大1・小1片
36	86N-16	47	—	72	土師大3・小1片
40	86L-14	35	—	35	土師小1片
42	86M-13	(50)	36	38	
52	86N-16	48	46	43	土師大70g・小50g
55	86M-13	23	15	24	
57	86M-13	31	20	39	土師大1片
58	86M-13	22	20	20	
60	86M-13	29	29	35	
61	86M-13	24	19	20	
62	86M-14	63	45	39	
63	86L-14	42	34	12	
64	86L-13	44	42	40	
66	86L-13	27	24	28	
67	86L-13	38	36	46	
68	86L-14	(43)	32	33	土師大1・小1片
69	86L-14	45	22	40	
70	86L-14	33	(23)	27	
72	86M-13	(30)	24	40	土師大1・小1片
74	86M-13	33	23	16	土師大2片
78	86N-13	(30)	27	5	
79	86N-16	48	37	17	土師小2片
80	86N-16	24	24	21	土師大4片
84	86L-13	26	22	31	
85	86L-13	51	43	46	
86	86L-14	50	36	44	
87	86K-14	50	35	62	土師大1片須恵大1・ 小1片
88	86K-14	46	38	32	
89	86K-14	39	36	30	土師大6・小3片縄文 1片
90	86L-14	35	28	38	
92	86M-14	29	24	38	
93	86M-14	50	36	45	
94	86K-14	40	30	35	土師大1、須恵小1片
95	86N-16	60	44	58	土師小1片
96	86N-16	28	25	26	土師大1・小2片
97	86N-16	55	40	44	
98	86N-16	26	21	20	
99	86N-16	31	30	52	
100	86N-16	35	32	25	
101	86N-16	50	44	62	土師大7・小2片
102	86N-16	(38)	36	29	土師大2片
103	86N-16	39	38	70	
104	86N-16	(30)	28	40	
105	86N-16	28	25	49	土師大72g・小3片
106	86N-16	(35)	33	33	

107	86N-16	49	43	17	土師大3・小3片
108	86N-16	26	26	11	
109	86N-16	32	23	24	
110	86N-16	40	36	15	土師大2・小1片
111	86M-16	25	19	15	
112	86M-16	45	45	18	
113	86M-16	(40)	36	26	
114	86M-16	(32)	29	47	土師大2・小2片 須恵大1片
115	86M-16	62	40	54	須恵大1片
116	86M-16	49	39	85	土師大4・小2片
117	86N-15	67	52	74	土師大2・小3片
118	86N-15	33	29	49	土師大3片
119	86N-15	(48)	41	23	土師大175g・小3片
120	86N-16	22	22	26	土師大1片
122	86K-14	22	20	24	
123	86K-14	76	45	68	
127	86K-14	42	—	55	
132	86L-14	71	48	43	土師大100g・小18g 須恵大1・小2片
133	86L-15	34	28	40	
134	86L-15	36	30	28	
135	86L-15	39	32	45	
137	86L-15	(23)	24	21	
139	86L-15	24	24	23	
140	86L-15	33	31	44	
146	86L-15	29	—	41	
149	86L-15	44	—	20	
150	86L-15	30	28	37	
151	86L-15	(51)	45	20	
152	86M-15	33	29	30	
153	86M-16	32	26	15	
154	86L-16	31	25	30	
155	86L-16	28	28	27	土師大1片
156	86L-16	43	35	43	土師大3、灰釉1片
157	86L-16	50	42	32	土師大3片
158	86L-16	69	65	40	
175	86L-16	29	27	17	土師大3片
177	86L-16	28	27	30	
184	86M-15	33	28	51	
185	86M-15	45	25	45	
186	86M-15	23	23	30	
187	86M-14	27	27	27	
189	86L-16	31	26	17	
193	86L-14	31	26	27	
194	86K-13	49	33	65	
224	86K-13	34	33	57	
225	86K-13	24	23	19	土師大1片
226	86K-13	25	23	25	
227	86K-13	26	21	18	土師大1片
228	86K-13	36	26	9	
723	86M-14	39	—	14	

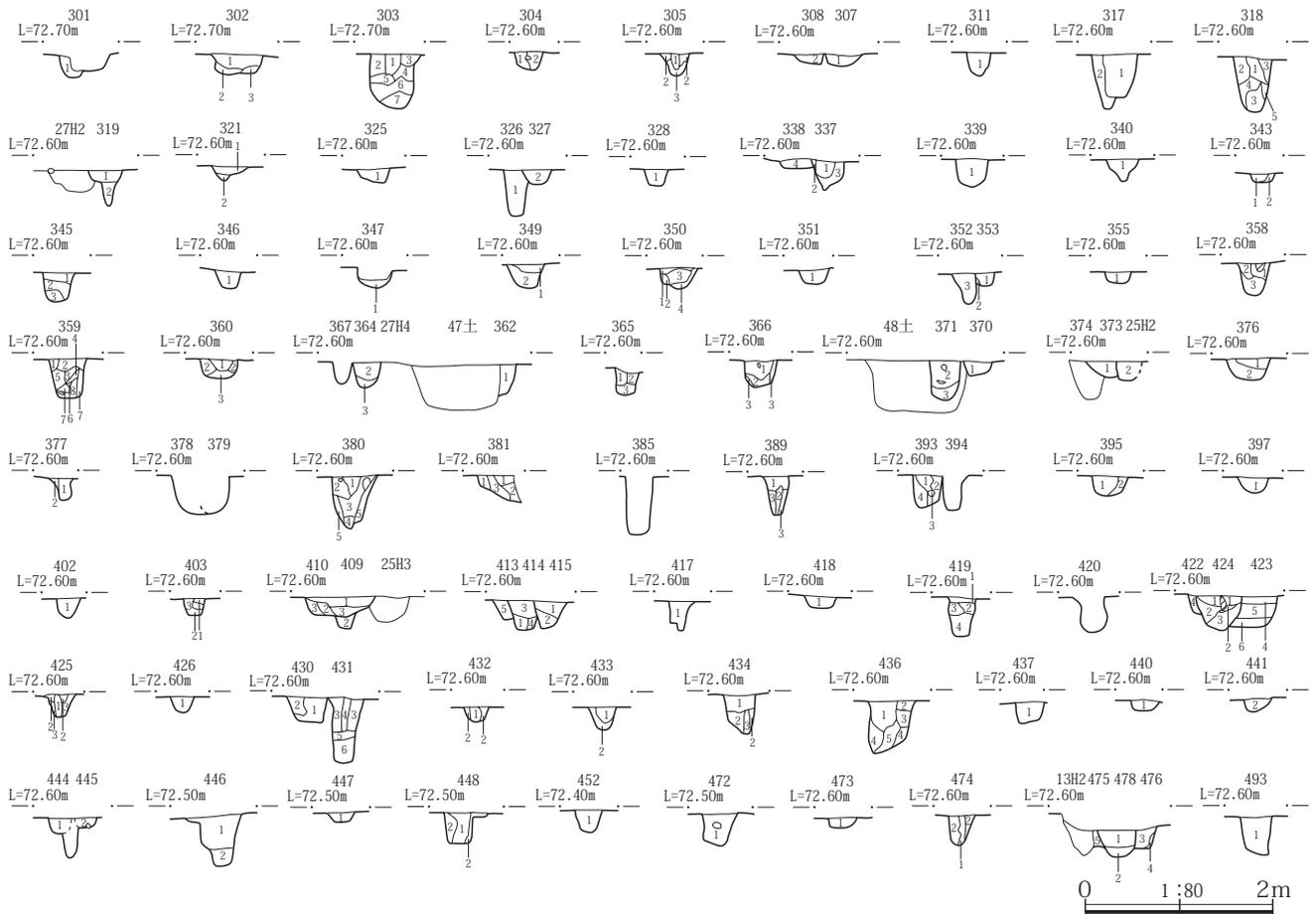
第4章 発掘調査の記録



159P 1 褐土ローム塊少。/167P 1 暗褐土ローム塊・ローム粒含。/168P 1 暗褐土ローム塊微。/169P 1 褐土ローム粒・焼土粒・炭粒含。/171~173P 1 暗褐土ローム粒・炭粒含。2 暗褐土ローム小塊少。3 暗褐土ローム小塊多。/191P 1 暗褐土ローム小塊やや多量、赤褐粒・炭粒含。/192P 1 暗褐土ローム塊少。/197~199P 1 暗褐土ローム小塊極多。2 暗褐土ローム小塊多。3 暗褐土ローム小塊やや多。4 褐土ローム小塊極多。5 褐土ローム小塊やや多。6 暗褐土ローム大塊多。/200P 1 黒褐土ローム大塊極多。/203P 1 暗褐土ローム小塊少。2 暗褐土ローム塊やや多。3 暗褐土ローム塊極多。/204P 1 暗褐土ローム小塊少。2 黄褐土/205ピット 1 暗褐土ローム大塊多量、焼土小塊・炭粒やや多。2 暗褐土ローム小塊やや多、焼土粒・炭粒少。3 褐土+ローム小塊/206P 1 暗褐土ローム塊やや多、炭粒含。2 暗褐土ローム極多。/207P 1 暗褐土ローム小塊微。2 明黄褐土ローム小塊少。3 暗褐土ローム小塊少。/208・211・212・222P 1 暗褐土ローム塊多。2 暗褐土 3 暗褐土ローム粒少。4 暗褐土堅縮ローム塊やや多。/213・214P 1 暗褐土ローム塊やや多。2 褐土ローム塊多。3 褐土/216P 1 暗褐土ローム大塊極多。2 暗褐土ローム粒少。3 黄褐土。/218・219P 1 暗褐土+ローム塊 2 暗褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊少。/221P 1 にぶい黄褐土しまり良い。ローム小塊やや多、小礫含。2 暗褐土ローム大塊やや多。3 暗褐土ローム小塊やや多。4 暗褐土ローム大塊極多。/230P 1 褐土ローム塊やや多。/231P 1 灰褐土ローム大塊やや多。2 にぶい黄褐土しまり良い。/233P 1 褐土ローム大塊多量、黒褐土大塊少。/234P 1 灰褐土ローム塊少。2 明黄褐土 3 褐土ローム大塊多、黒褐土大塊少。/235・236P 1 暗褐土ローム小塊少。2 黄褐土暗褐土小塊極多。3 暗褐土ローム小塊やや多。4 灰褐土ローム小塊少。/237P 1 暗褐土ローム大塊極多。/238P 1 暗褐土ローム粒やや多。2 灰褐土+褐土。/240P 1 灰褐土+黄褐土。/241・242P 1 暗褐土ローム大塊多。2 暗褐土ローム小塊やや多。/243P 1 暗褐土ローム大塊多量、黒褐土大塊少。2 灰褐土ローム大塊やや多。/244P 1 暗褐土ローム小塊少。2 にぶい黄褐土暗褐土小塊多。/245P 1 褐土ロームやや多。/246P 1 暗褐土ローム小塊少量、炭粒含。/247P 1 黒褐土ローム小塊少。2 黄褐土暗褐土小塊少量、小礫に含。/248P 1 暗褐土ローム塊やや多含。/249P 1 黒褐土+黄褐土。/250・251・253・254P 1 暗褐土ローム塊多含。2 褐土ローム塊多含。3 暗褐土ローム塊やや多含。/258~261P 1 暗褐土ローム塊やや多。2 暗褐土+ローム塊 3 暗褐土ローム塊多、小礫少。/262P 1 暗褐土ローム小塊やや多、炭粒含。2 黄褐土 3 黄褐土暗褐土小塊やや多。/263P 1 灰褐土ローム小塊多。左上位にローム水平堆積。/264P 1 暗褐土ローム小塊少。2 暗褐土ローム小塊極多。/265P 1 暗褐土ローム小塊微。2 褐土ローム塊極多。/266・267P 1 暗褐土ローム小塊多。2 黄褐土黒褐土小塊少。3 暗褐土+黄褐土。/271P 1 褐土ローム小塊多。/297・298P 1 褐土ローム小塊・YP少。2 褐土ローム小塊やや多。3 暗褐土ローム小塊・YP少。4 暗褐土ローム大塊極多含。/299P 1 暗褐土ローム小塊やや多含。2 黒褐土ローム大塊多含。3 暗褐土ローム大塊多含。/300P 1 褐土ローム小塊やや多含。



第601図 2区屋敷内ピット2断面図(1)とピット出土遺物(2)

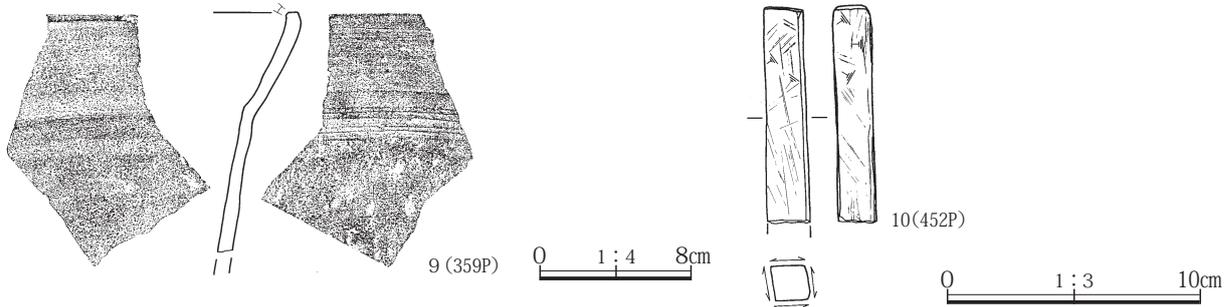


第602図 2区屋敷内ピット2断面図(2)

/301P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。/302P 1 暗褐色土ローム粒・小礫少、白軽石含。2 暗褐色土ローム小塊多。3 にぶい黄褐色土。/303P 1 褐色土ローム小塊多、黒褐色土大塊少。2 黄褐色土堅締。3 褐色土ローム小塊少。4 暗褐色土ローム大塊多。5 褐色土ローム小塊多。6 暗褐色土ローム小塊多。7 褐色土空隙多締弱。ローム塊・黒褐色土塊多。/304P 1 黒褐色土ローム小塊・小礫少。2 暗褐色土ローム大塊多。/305P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 暗褐色土ローム小塊やや多。3 暗褐色土ローム粒少。/307・308P 1 暗褐色土ローム塊極多、炭粒・焼土粒少。2 暗褐色土ローム塊多、炭粒・焼土粒少。/311P 1 暗褐色土ローム粒少。/317P 1 暗褐色土ローム粒・焼土粒微。2 暗褐色土ローム小塊多。/318P 1 暗褐色土ローム粒少。2 暗褐色土ローム小塊多。3 暗褐色土ローム小塊やや多。4 暗褐色土ローム小塊 5 にぶい黄褐色土/319P 1 暗褐色土堅締。ローム粒多、ローム小塊少。2 暗褐色土ローム大塊やや多。/321P 1 暗褐色土堅締。ローム小塊やや多。2 暗褐色土ローム大塊多。/325～328P 1 暗褐色土ローム小塊少、焼土粒・炭粒含。2 灰褐色土ローム粒・焼土粒・炭粒少。/337・338P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 褐色土 3 暗褐色土ローム大塊極多。4 褐色土ローム粒多。/339P 1 褐色土堅締。黒褐色粒少。/340P 1 暗褐色土ローム小塊。/343P 1 暗褐色土ローム小塊極多。2 にぶい黄褐色土黒褐色土小塊少。/345P 1 褐色土ローム小塊少、炭粒・焼土粒含。2 暗褐色土炭粒・ローム粒・白軽石少。3 暗褐色土。/346P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。/347P 1 暗褐色土ローム小塊極多、黒褐色土小塊少。/349P 1 褐色土ローム小塊少。2 暗褐色土ローム大塊多、焼土粒少。/350P 1 褐色土ローム粒多。2 暗褐色土ローム粒少。3 暗褐色土ローム小塊やや多。4 にぶい褐色土ローム粒多、焼土粒含。/351P 1 暗褐色土ローム大塊多、黒褐色土塊・焼土小塊含。/352・353P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 にぶい黄褐色土黒褐色土小塊少。3 暗褐色土ローム粒多。/355P 1 黒褐色土ローム粒少。/358P 1 ローム塊堅締。黒褐色土小塊含。2 暗褐色土ローム粒・焼土粒・炭粒含。3 暗褐色土ローム塊含。/359P 1 褐色土ローム小塊微。2 暗褐色土ローム小塊多。3 褐色土ローム小塊少。4 褐色土ローム小塊 5 黄褐色土堅締。暗褐色土塊含。6 にぶい黄褐色土 7 褐色土ローム小塊 8 黒褐色土ローム小塊少。/360P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 暗褐色土ローム小塊多。3 にぶい褐色土ローム粒多。/362・364P 1 黒褐色土ローム粒・炭粒少。2 暗褐色土ローム小塊少。3 暗褐色土ローム小塊多。/365P 1 暗褐色土ローム小塊極多。2 褐色土塊 堅締。3 褐色土ローム小塊多。/366P 1 にぶい黄褐色土 黒褐色土大塊少。2 褐色土ローム大塊・黒褐色土大塊やや多。3 褐色土ローム小塊少。/370・371P 1 褐色土ローム小塊・炭粒少。2 褐色土ローム大塊少。大円礫含。3 褐色土/373・374P 1 褐色土ローム小塊多、炭粒・焼土粒含。2 にぶい黄褐色土堅締。/376P 1 黒褐色土ローム小塊・ローム粒含。2 褐色土塊黒褐色土小塊含。/377P 1 褐色土ローム小塊少。2 灰褐色土ローム小塊・白軽石少。/380P 1 暗褐色土ローム粒少。2 暗褐色土ローム小塊極多。3 にぶい黄褐色土黒褐色土小塊少。4 暗褐色土ローム粒含。5 にぶい黄褐色土黒褐色土大塊少、中礫含。/381P 1 褐色土堅締。ローム小塊やや多。2 褐色土ローム小塊少。3 褐色土ローム小塊少。/389P 1 暗褐色土ローム小塊多。2 暗褐色土空隙多締弱。ローム粒少。3 暗褐色土ローム小塊やや多。/393P 1 黒褐色土ローム粒少。2 黒褐色土ローム小塊多。3 褐色土塊 4 褐色土ローム小塊少含。/395P 1 暗褐色土ローム小塊多。2 暗褐色土ローム大塊。/397・402P 1 暗褐色土ローム粒多。/403P 1 暗褐色土黒褐色土大塊多。2 黒褐色土ローム粒少含。3 暗褐色土ローム小塊やや多。/409・410P 1 暗褐色土ローム小塊多、黒褐色土小塊多。2 黒褐色土ローム大塊多。3 黒褐色土ローム小塊多。/413～415P 1 暗褐色土ローム小塊少含。2 暗褐色土ローム小塊多。3 暗褐色土ローム大塊多。4 にぶい黄褐色土黒褐色土小塊少含。5 暗褐色土ローム小塊やや多。/417P 1 黒褐色砂質土 ローム塊・浅間B軽石含。/418P 1 暗褐色土堅締。ローム小塊、小礫少含。/419P 1 暗褐色土堅締。ローム粒多。2 黄褐色土堅締。暗褐色土やや多。3 黒褐色土ローム小塊多。4 黒褐色土ローム小塊やや多。/422～424P 1 暗褐色土+黄褐色土互層堆積。堅締。2 暗褐色土ローム小塊やや多。3 褐色土ローム小塊極多。4 暗褐色土ローム大塊やや多。5 黄褐色土暗褐色土少含。6 褐色土。/425P 1 暗褐色土空隙多締弱。ローム小塊やや多。2 暗褐色土堅締。ローム小塊多。3 暗褐色土+ローム塊。/426P 1 黒褐色砂質土 堅締。ローム小塊少、炭粒含。/430・431P 1 褐色土ローム小塊多、焼土粒含。2 黒褐色土ローム小塊やや多。3 褐色土ローム小塊やや多。4 褐色土空隙多締弱。ローム小塊極多。5 暗褐色土+ローム小塊 6 暗褐色土ローム粒少含。/432P 1 暗褐色土ローム粒少含。2 暗褐色土堅締。ローム小塊多。/433P 1 暗褐色土堅締。ローム粒少含。2 暗褐色土ローム小塊多。/434P 1 灰褐色土堅締。ローム小塊多。2 灰褐色土ローム小塊極多。3 暗褐色土空隙多締弱。ローム小塊含。/436P 1 褐色土ローム小塊やや多、焼土粒・炭粒含。2 褐色土堅締。ローム小塊多。3 黄褐色土堅締。暗褐色土多。4 暗褐色土空隙多締弱。ローム小塊多。5 暗褐色土空隙多締弱。

第4章 発掘調査の記録

ローム小塊少含。/437・440・441P 1暗褐色ローム小塊多。2暗褐色ローム小塊多、黒褐色小塊多。/444・445P 1暗褐色ローム小塊極多。2暗褐色ローム小塊少含。/446P 1にぶい褐色ローム粒・小礫少含。2にぶい黄褐色。/447P 1にぶい黄褐色ローム小塊少含。/448P 1褐色暗褐色小塊やや多。2褐色黒褐色小塊やや多、炭化物粒含。/452P 1暗褐色ローム粒少含。/472P 1褐色ローム粒・小礫少含。/473P 1黄褐色土塊非常に堅締。黒褐色多。/474P 1暗褐色土空隙多締弱。ローム粒少含。2暗褐色堅締。ローム小塊少含。/475・476・478P 1暗褐色ローム小塊やや多。2暗褐色ローム小塊少含。3黒褐色ローム小塊やや多。4黒褐色ローム小塊少含。5褐色ローム小塊微に含。/493P 1暗褐色ローム塊多。



第603図 2区屋敷内ピット出土遺物(3)

第41表 2区1号屋敷内ピット2計測表

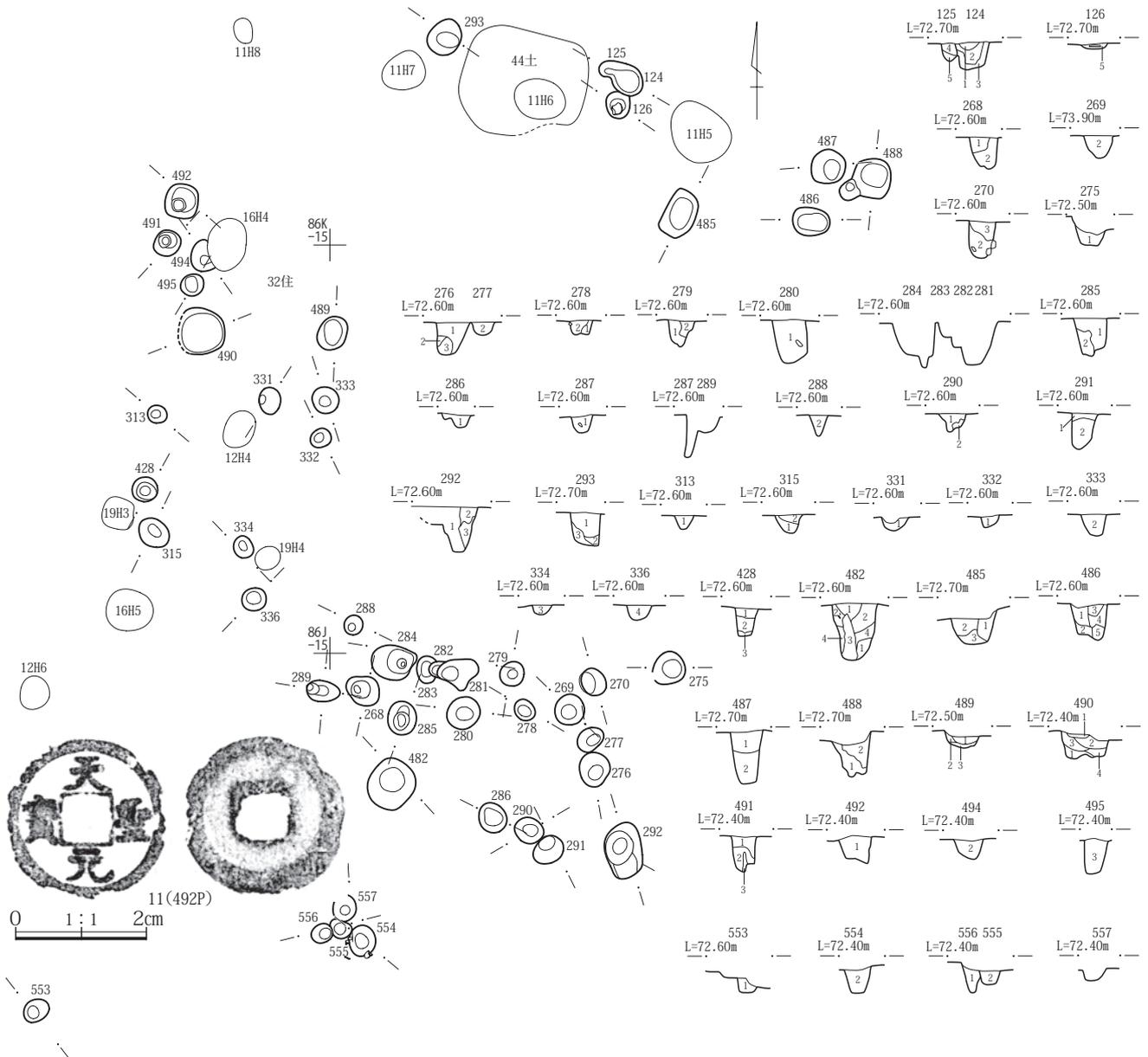
ピットNo.	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
159	86K-15	30	25	21	
167	86K-16	37	27	26	土師大1片
168	86K-16	(55)	40	38	土師大2片
169	86K-16	50	40	39	
171	86L-16	27	23	16	
172	86L-16	43	37	29	土師小1片
173	86L-16	30	25	38	
191	86L-16	33	31	65	土師小3片
192	86L-17	30	28	32	
197	86I-17	50	—	44	
198	86I-17	55	—	41	
199	86I-17	48	—	38	土師小1片
200	86I-17	40	35	30	
203	86I-17	41	35	54	
204	86I-17	40	31	16	
205	86I-17	67	65	14	土師小2片
206	86I-17	81	65	18	土師大1片
207	86I-16	56	45	27	土師大30g・小1片
208	86I-16	60	(49)	42	
211	86I-16	37	(36)	12	
212	86I-16	(46)	46	26	
213	86I-16	58	43	39	土師大2、須恵小4片
214	86I-16	46	—	40	土師大2片
216	86J-16	63	43	20	土師大2・小2片
218	86I-16	55	39	75	
219	86I-16	(66)	31	33	
221	86I-16	49	—	51	土師小1、須恵小1片
222	86I-16	23	20	37	土師大3・小3片 須恵小1片
230	86J-18	33	31	27	
231	86J-17	34	32	26	
233	86J-18	53	29	36	
234	86I-18	32	30	45	
235	86I-18	26	—	21	
236	86I-18	39	35	40	
237	86I-18	34	33	37	
238	86I-18	29	27	19	
240	86I-18	43	(24)	20	
241	86I-17	41	—	46	
242	86I-17	39	—	42	
243	86I-17	54	—	62	
244	86I-17	38	32	32	
245	86I-17	84	54	25	土師大1片
246	86I-17	29	25	21	
247	86I-17	34	30	15	
248	86J-17	29	26	23	
249	86J-17	42	27	21	
250	86I-17	37	32	16	

251	86I-17	35	31	43	
253	86I-17	48	33	19	
254	86I-17	39	24	13	
255	86I-17	37	—	54	
256	86I-17	41	—	52	
258	86I-17	40	26	32	
259	86I-17	64	59	52	土師大1片
260	86I-17	61	36	42	
261	86I-17	47	40	21	
262	86I-17	63	38	11	土師大4、須恵小1片
263	86J-17	25	25	31	
264	86J-17	37	33	61	
265	86J-17	34	32	36	
266	86J-17	(26)	25	26	
267	86J-17	(25)	24	20	
271	86J-17	25	22	20	
297	86I-16	48	(48)	34	土師大2片
298	86I-16	(115)	63	41	土師大1片
299	86I-16	34	32	32	
300	86J-16	(51)	40	18	
301	86I-16	28	—	23	
302	86J-16	55	48	21	須恵小2片
303	86J-16	53	50	63	土師小1片
304	86J-15	32	26	21	土師大1片
305	86J-15	33	29	29	
307	86J-15	(50)	41	18	
308	86J-15	37	32	15	
311	86J-15	25	24	28	
317	86J-15	48	45	62	
318	86J-15	49	45	65	
319	86K-15	33	25	53	土師大2・小1片
321	86J-15	43	40	16	
322	86K-15	(43)	(31)	61	土師大1片
325	86K-15	32	32	14	土師大19g
326	86K-15	38	28	51	土師大2・小3片
327	86K-15	30	23	20	土師大1・小1片
328	86K-15	26	24	16	
337	86K-16	37	30	34	
338	86K-16	(59)	54	17	土師大1片
339	86K-16	40	34	36	土師大1片
340	86K-16	39	34	26	土師大1片
343	86L-16	29	26	19	
345	86L-16	35	33	36	土師大1・小1片
346	86K-16	28	28	20	
347	86K-16	38	36	27	
349	86K-17	43	43	30	
350	86K-17	41	39	24	
351	86K-17	33	29	16	

352	86L-17	22	-	38	
353	86L-17	26	21	13	
355	86L-17	40	28	21	土師大2・小1片
358	86K-16	42	33	35	土師大1片
359	86K-16	42	41	46	土師大3・小4片
360	86K-17	49	40	33	
362	86J-16	35	-	38	
364	86J-16	46	36	32	土師大1片
365	86J-16	30	25	38	土師大1片
366	86K-16	40	35	35	
367	86J-16	27	21	27	土師大1片
370	86K-16	54	-	15	
371	86K-16	31	-	43	
373	86K-16	38	(33)	27	
374	86K-16	30	-	27	
376	86K-16	48	32	22	土師大1片
377	86K-16	26	22	28	
378	86K-17	65	40	43	
379	86K-17	34	26	47	
380	86K-17	(49)	46	63	
381	86K-17	41	-	32	土師小1片
385	86J-16	33	29	65	
389	86K-17	35	29	63	
393	86J-16	38	33	33	
394	86J-16	27	25	41	
395	86J-16	39	38	22	
397	86J-16	33	31	34	
402	86J-16	28	27	25	
403	86J-16	25	21	56	
409	86K-16	28	24	35	
410	86K-16	(72)	49	25	
413	86J-16	41	-	26	土師大3片
414	86J-16	37	-	33	土師大1片
415	86J-16	(45)	40	35	
417	86J-16	30	29	34	
418	86J-16	36	35	12	土師大1片
419	86J-16	35	27	42	
421	86J-16	49	(45)	28	
422	86J-16	50	-	21	
423	86J-16	58	-	37	
424	86J-16	53	(49)	52	土師大1片
425	86J-16	32	27	26	
426	86J-16	30	26	18	
430	86K-16	59	(36)	24	土師大4片
431	86K-16	86	48	77	
432	86L-16	33	27	21	土師大2片
433	86L-16	29	29	27	土師大4・小1片須恵小1片
434	86K-16	33	(30)	55	土師大1片
436	86K-16	54	53	62	土師大2片
437	86K-17	30	28	17	
440	86K-16	41	28	16	
441	86K-16	31	30	18	
444	86J-17	31	30	47	
445	86J-17	25	(20)	14	
446	86J-18	60	42	53	
447	86I-18	28	27	14	
448	86I-18	48	31	41	
452	86J-17	27	27	26	
472	86K-17	40	33	30	
473	86J-17	29	25	16	
474	86J-17	31	28	39	
475	86J-17	75	36	32	
476	86J-17	41	26	27	
478	86J-17	38	36	34	
493	86J-15	41	34	66	土師大1・小1片

第42表 2区1号屋敷内ピット3計測表

ピットNo	位置	長径	短径	深さ	非掲載破片
124	86K-14	42	35	33	
125	86K-14	20	-	22	
126	86K-14	33	29	8	
268	86I-14	43	36	44	
269	86I-14	37	36	32	
270	86I-14	34	29	46	
275	86I-14	40	38	25	土師大1・小1片
276	86I-14	43	38	49	土師大1片
277	86I-14	35	26	28	
278	86I-14	27	23	20	
279	86I-14	31	29	38	
280	86I-14	41	38	54	
281	86I-14	50	39	54	
282	86I-14	19	-	31	土師小2片
283	86I-14	32	(22)	18	
284	86I-14	50	40	54	
285	86I-14	41	35	42	
286	86I-14	37	33	17	
287	86I-15	(26)	24	20	
288	86I-14	25	22	30	
289	86I-15	25	-	50	
290	86I-14	35	31	26	
291	86I-14	40	31	46	
292	86I-14	73	40	54	
293	86K-14	46	38	40	
313	86J-15	24	22	15	
315	86J-15	41	33	27	土師大3・小1片
331	86J-15	33	26	23	土師大1・小1片
332	86J-15	27	22	21	
333	86J-15	33	32	39	土師大1・小1片
334	86J-15	28	23	18	
336	86J-15	30	28	19	
428	86J-15	31	31	35	土師大1片
482	86I-14	61	55	71	土師大52g・小2片
485	86K-14	57	38	40	
486	86K-13	45	35	43	土師小1片
487	86K-13	43	41	67	
488	86K-13	47	46	56	土師大5・小1片
489	86J-15	43	35	25	
490	86J-15	57	(56)	47	土師大3片
491	86K-15	32	31	45	
492	86K-15	42	41	39	
494	86J-15	39	(24)	25	
495	86J-15	28	26	41	
553	86I-15	33	26	31	
554	86I-14	38	32	66	
555	86I-14	28	21	37	
556	86I-15	27	23	55	
557	86I-14	32	28	54	須恵小1片



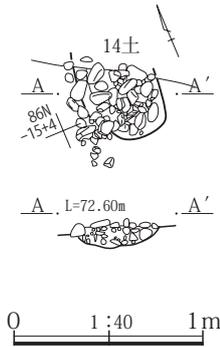
124 ~ 126P 1 暗褐色土ローム粒微、軽石含。2 暗褐色土ローム小塊少、炭粒含。3 暗褐色土ローム粒含。4 褐色土ローム粒やや多、軽石含。5 黄褐色土。/268 ~ 270P 1 暗褐色土ローム大塊多。2 にぶい黄褐色土暗褐色土多、小礫少。3 にぶい黄褐色土暗褐色土大塊多、小礫やや多。/275P 1 黒褐色土堅締。ローム大塊多。/276・277P 1 褐色土ローム大塊多。2 暗褐色土ローム粒極多。3 黒褐色土ローム塊含。/278 1 黄褐色土 2 暗褐色土ローム大塊多。/279P 1 暗褐色土ローム大塊多。2 褐色土暗褐色土小塊少。/280P 1 褐色土暗褐色土をシミ状に含。/285 1 褐色土暗褐色土多。2 暗褐色土ローム小塊少。/286P 1 暗褐色土ローム塊極多。/287・288P 1 褐色土ローム粒やや多。2 暗褐色土ローム小塊やや多。/290P 1 黒褐色土扁平なローム塊極多。2 褐色土黒褐色土・小礫やや多。/291P 1 黄褐色土 2 褐色土黒褐色土やや多。/292P 1 暗褐色土ローム粒多。2 暗褐色土ローム大塊極多。3 褐色土 /293P 1 暗褐色土ローム小塊少。2 暗褐色土ローム粒微。3 暗褐色土ローム大塊多。/313 P 1 暗褐色土ローム大塊多。315P 1 暗褐色砂質土 堅締。2 ローム塊 /331 ~ 334・336P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。2 暗褐色土炭粒・白軽石少。3 暗褐色土ローム大塊多。4 暗褐色土ローム粒・炭粒・焼土粒やや多。/428P 1 暗褐色砂質土 ローム粒少。2 暗褐色土ローム粒・焼土粒微。3 暗褐色土+ローム塊。/482P 1 暗褐色土ローム小塊微。2 暗褐色土ローム小塊多。3 暗褐色土ローム小塊少。4 灰褐色土ローム小塊少。/485P 1 暗褐色土ローム小塊やや多、焼土粒少。2 にぶい褐色土暗褐色土やや多。3 暗褐色土+ローム小塊焼土粒少。/486P 1 暗褐色土ローム大塊やや多、炭粒含。2 暗褐色土+ローム小塊 3 暗褐色土ローム小塊極多。4 にぶい褐色土暗褐色土やや多。5 暗褐色土ローム粒少。/487・488P 1 灰褐色土ローム粒多、ローム小塊少。2 暗褐色土ローム小塊少、焼土粒含。/489P 1 暗褐色土ローム粒少、炭粒含。2 暗褐色土ローム小塊少。3 暗褐色土+ローム大塊 /490P 1 暗褐色土+ローム小塊 2 暗褐色土ローム小塊少。3 暗褐色土ローム小塊やや多。4 暗褐色土ローム小塊多。/491P 1 暗褐色土+ローム小塊 2 暗褐色土ローム粒少。3 暗褐色土空隙多締弱。/492・494・495P 1 暗褐色土ローム大塊多。2 暗褐色土ローム粒・焼土粒・炭化物粒微。3 にぶい褐色土ローム小塊多、焼土粒子・炭化物粒含。/553 ~ 556P 1 暗褐色土ローム小塊やや多。2 暗褐色土ローム粒・炭化物粒・焼土粒少。

第604図 2区屋敷内ピット3とピット出土遺物(4)

(8)集石遺構

1号集石遺構(第605図、P L.248)

位置 86M・N-15グリッド。14号土坑より前出で、4号溝より後出と思われる。重複により一部消滅するが、平面形はほぼ円形にこぶし大の円礫が集中する。下位には外形がほぼ一致するほぼ円形の掘り込みを持つ。規模は長径(45)cm短径41cm深さ10cmである。土師器大型品1片が出土している。



第605図 2区1号集石遺構

(9)溝

1号屋敷内では3条の溝が検出され、うち2条は区画溝と位置づけられる。ともに人為的に埋め戻されるが、屋敷内部を南北に分割する位置にある4号溝は埋没後に締め固められており、状況は異なる。1号溝は4号溝より前出で、区画溝に比べ浅いため、屋敷内部を仕切るような溝と考えることも可能である。

1号溝(第606図、P L.248)

位置 86M・N-15・16グリッド。15号土坑、4号溝より後出で、2号溝と重複するが新旧関係不明。北側は調査区域外に延びる。平面形は軽微なS字形に蛇行する。走向方位はN-47°-E。断面形はU字形。底面は丸みを持つ。両端の比高差は14cmで、勾配1.91%で北方へ下向する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長さ7.34m上端幅56~104cm深さ31cmである。土師器大型品620g・同小型品290g、須恵器大型品2片・同小型品140gが出土している。

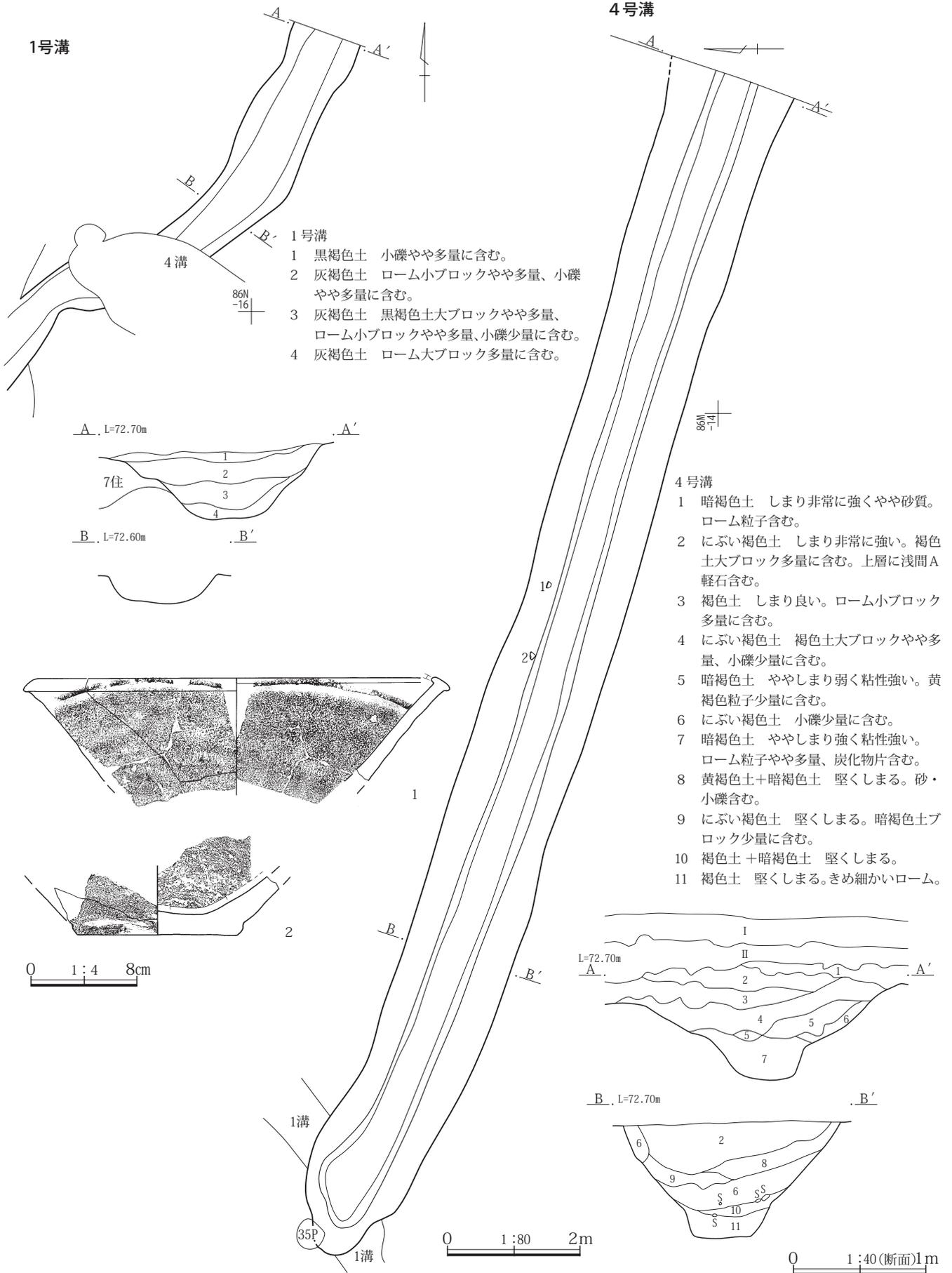
2号溝(第607~610図、P L.248・249・325・326)

位置 86I~N-16~19グリッド。6・7号住居、30号土坑より後出で、8号溝より前出。北側は調査区域外に延び、1区2号溝と同一である。南側は調査区域外に延びる。平面形は北端を除きほぼ直線状で、北端6m程は西へわずかに折れて湾曲する。走向方位はN-28°-E。

断面形は逆台形で、中位付近で稜を持って、くの字形に外傾する。底面はほぼ平坦。両端の比高差は10cmで、勾配はほとんどない。埋没土下位は人為埋没で、中位に多量の大円礫が投棄される。上位は自然埋没か。規模は長さ30.12m上端幅195~331cm深さ89cmである。埋没土から2の古瀬戸折縁深皿(15世紀半ば頃)を含む古瀬戸陶器4点に加え、在地系土器鍋鉢類を主体として遺物が多量に出土する。1の同安窯系青磁碗は伝世とすれば、出土遺物の年代は14世紀中頃から16世紀前半に及ぶ。掲載遺物のほか、土師器大型品6125g・同小型品3030g、須恵器大型品1702g・同小型品1175g、埴輪2片が出土している。

4号溝(第606図、P L.249)

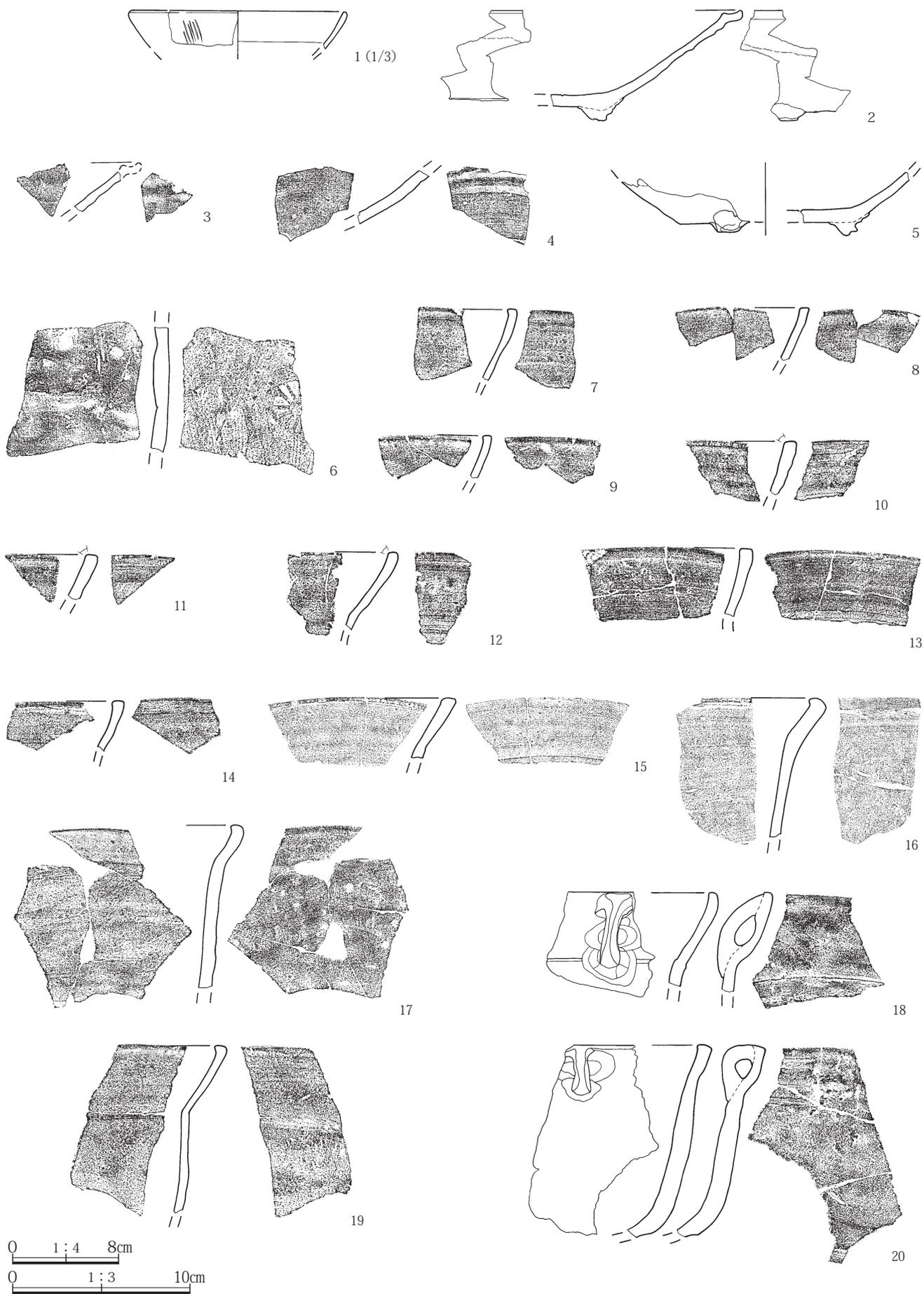
位置 86L・M-13・16グリッド。1号溝より前出。平面形は直線状で、西端部は若干北向きに折れる。西側は斜めに立ち上がり、隣接する2号溝との間に1m弱の間隔が開くため、1号屋敷内での通路を形成する。東側は調査区域外に延び、3区5号溝と同一である。走向方位はN-71°-W。断面形は逆台形で、中位付近で稜を持って、くの字形に外傾する。底面はほぼ平坦。両端の比高差は15cmで、勾配はほとんどない。埋没土下位は自然埋没か。中位からにぶい褐色土を主体とする埋没土で、南側から埋められる。上位は堅く締め固められる。規模は長さ18.84m上端幅150~193cm深さ83cmである。中央部の北壁側埋没土中位から在地系土器片口鉢(1・2)が出土する。出土遺物から15世紀後半には埋められたと考えられる。掲載遺物のほか、土師器大型品760g・同小型品440g、須恵器大型品140g・同小型品140g、埴輪1片が出土している。



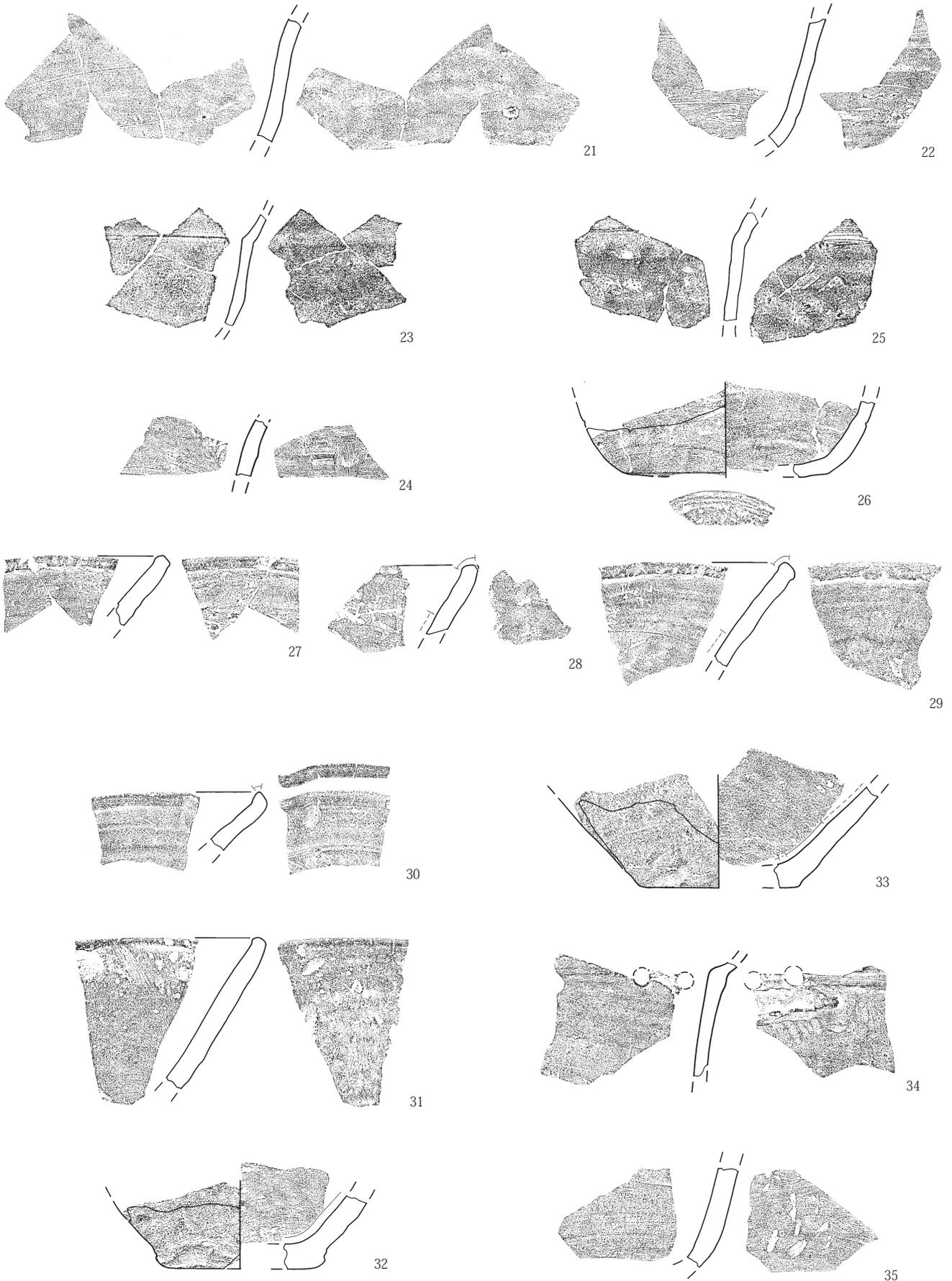
第606図 2区1・4号溝と4号溝出土遺物



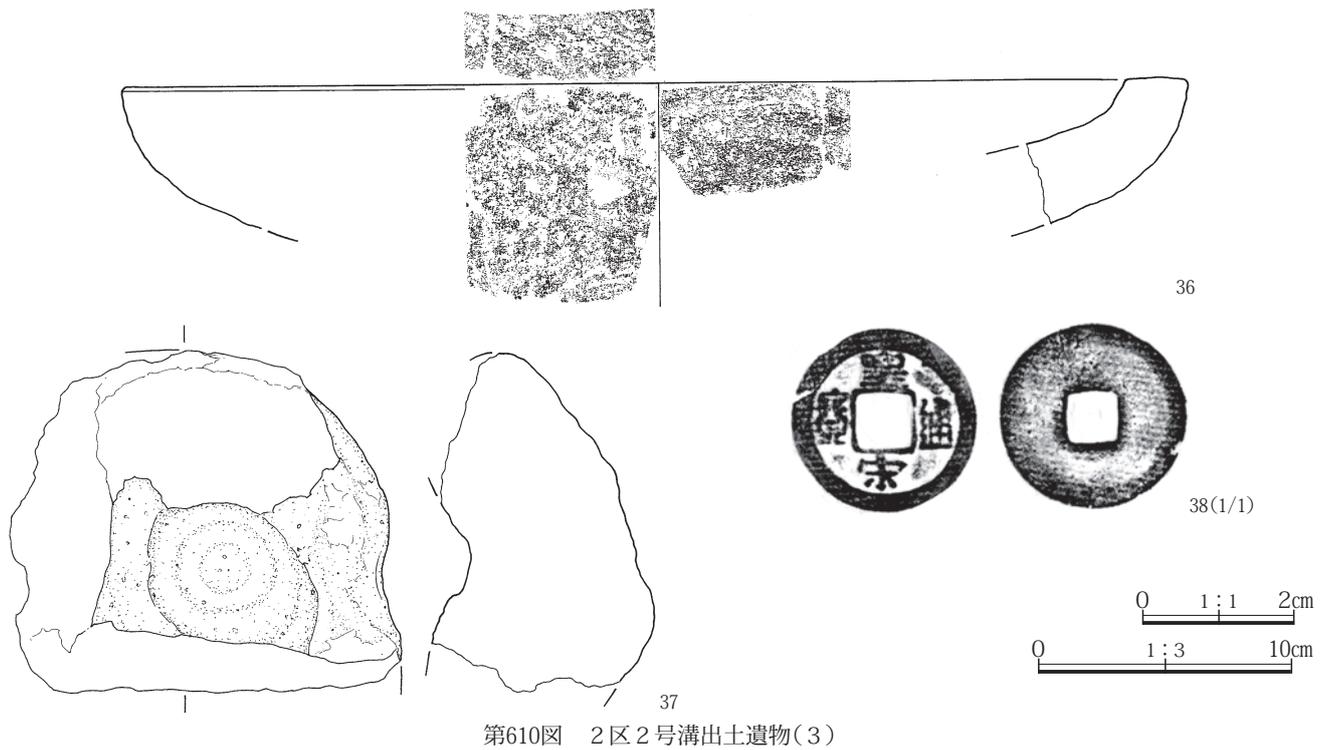
第607図 2区2号溝



第608図 2区2号溝出土遺物(1)



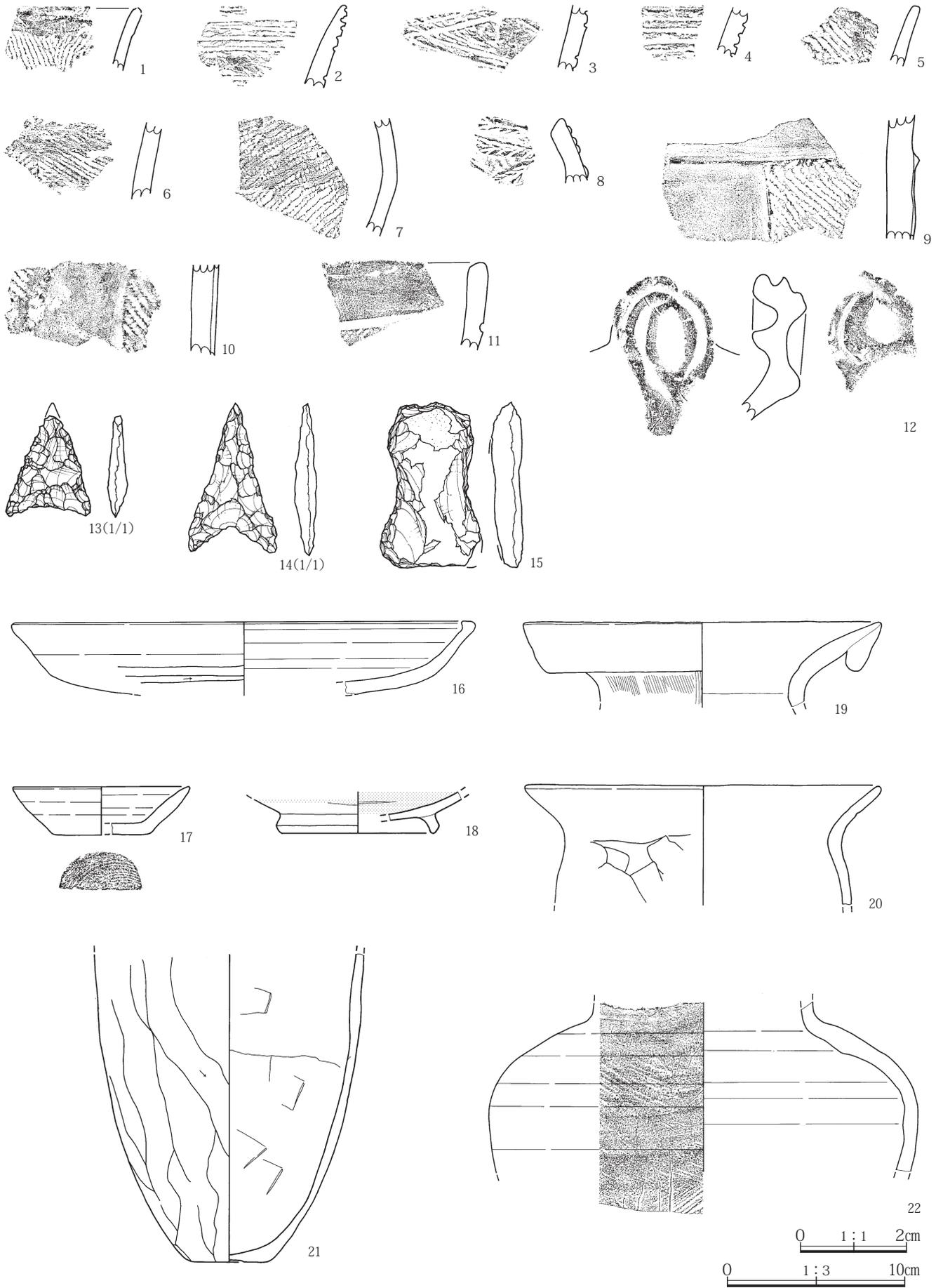
第609図 2区2号溝出土遺物(2)



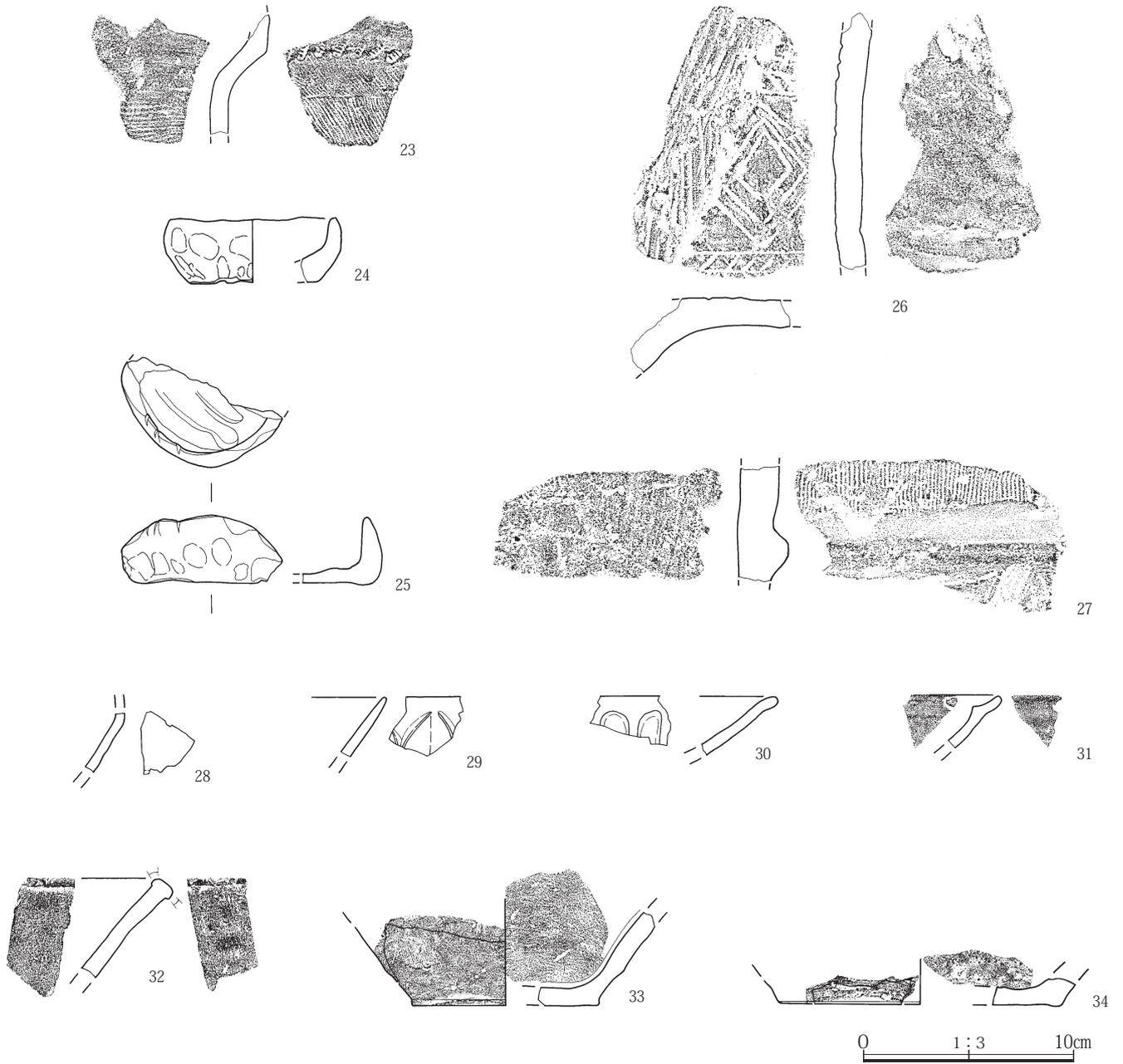
13 遺構外出土遺物(第611・612図、P L .326)

縄文時代の遺構は検出されず、包含層から前期～後期の土器(1～11)が出土した。石器は3点である。非掲載遺物を含めると、前期前半(花積下層式期～黒浜・有尾式期)の土器が26点と多く、中期が多い1区の状況とやや異なっている。

表土ほかから出土した龍泉窯系青磁碗(29)・同皿か(30)、古瀬戸天目茶碗(28)・同卸目付き大皿か(31)は、中世屋敷に相応しい遺物であり、時期もほぼ一致している。



第611図 2区遺構外出土遺物(1)



第612図 2区遺構外出土遺物(2)

第43表 2区遺物観察表

2区1号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第379図	1	須恵器 椀	底部片	底 5.6 台 5.2	細砂粒/還元焰・ 燻/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転案で高台は貼付。	
第379図	2	土師器 甃	口縁部～胴部上 位片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

2区4号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第382図 PL.302	1	土師器 杯	床直 3/4	口 10.5 高 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りか。内面撫で。	外面摩滅顕著
第382図	2	土師器 杯	+3cm 口縁部～底部片	口 13.0 稜 10.5	細砂粒/良好・外 燻/にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第382図	3	土師器 甃	掘り方 口縁部～胴部片	口 24.5	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/にぶい 黄橙	口縁部横撫で。胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
-	4	板碑片			雲母石英片 岩	12.1	9.3	425.1	側縁摩耗	非実測
-	5	砥石	礫砥石		蛇紋岩	(12.9)	(5.3)	178.0	背面側に縦位線条痕。石材感を重視するなら磨製石斧様だが、側縁は未加工の礫面で線条痕も粗い。線条痕は石斧研磨に伴う線条痕より粗く、刃ならし傷に近い。	非実測
-	6	加工痕ある 剥片	礫片		雲母石英片 岩	7.6	7.2	93.9	エッジを粗く加工。	非実測

2区6号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第383図 PL.302	1	土師器 杯	+4cm 完形	口 10.8 高 2.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第383図 PL.302	2	土師器 杯	4/5	口 12.1 高 4.1	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第383図 PL.302	3	土師器 杯	掘り方 完形	口 13.6 高 4.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面に煤付着
第383図 PL.302	4	土師器 杯	掘り方 1/2	口 15.4 最 15.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第383図 PL.302	5	須恵器 蓋	+2cm 口縁部一部欠損	口 11 高 2.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部外面回転ヘラ削り。	外面に薄く自然釉
第383図	6	土師器 甃	掘り方 口縁部～胴部上 位片	口 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第383図	7	土師器 甃	口縁部～胴部上 位片	口 19.4	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
第383図 PL.302	8	敲石	床直	棒状礫	砂岩	13.8	4.1	245.1	小口部上端に敲打・衝撃剥離痕がある。	

2区7号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第385図	1	土師器 杯	+19cm 口縁部～底部片	口 11.8 稜 11.6	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第385図	2	須恵器 蓋	掘り方 口縁部小片	口 13.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。	
第385図	3	土師器 甃	掘り方 口縁部～胴部上 位片	口 19.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

2区8号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第387図 PL.302	1	土師器 鉢	+3cm 3/4	口 10.9 高 5.5 底 5.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	体部外面横のハケ目後撫で。内面横のヘラ磨き。底部撫で。		
第387図 PL.302	2	土師器 器台	床直 受部一部欠損、 脚部1/3	口 15.4 高 16.1 底 12.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤	受部外面上半横のヘラ磨き、下半縦の細かなハケ目。内面端部横、体部縦のヘラ磨き、下半細かなハケ目。受部突帯は撫で。脚部外面縦のヘラ磨き、内面撫で。脚部の穿孔は4孔。	受部内面～脚部外面赤色塗彩	
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率		特 徴 ・ 状 態		
第387図 PL.302	3	鉄製品 鎌	覆土	長4.7 幅2.9 厚0.2 重4.7		平根で浅い腸割と短いかつぎを持つ鉄鎌で茎を欠く		

第4章 発掘調査の記録

2区9号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第388図	1	土師器 杯	床直 口縁部~底部片	口 11.8 稜 11.8	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。	
第388図	2	土師器 高杯	床直 杯部片	口 19.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部はへら削りか。内面撫 で。	内面摩滅

2区10号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第392図 PL.302	1	須恵器 椀	1/4	底 6.9 台 6.4	細砂粒・粗砂粒・ 雲母/酸化/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。	器面摩滅
第392図	2	灰釉陶器 皿か	底部片	底 7.6 台 7	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転不明。高台は三日月高台で底部撫で後の 貼付。施釉き刷毛掛けか。	
第392図	3	須恵器 椀	口縁部~底部片	口 13.8 高 5 底 7.2	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台は底部回転糸切り後の貼 付。	
第392図 PL.302	4	須恵器 瓶	口縁部~頸部	口 12.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。	
第392図 PL.302	5	土師器 甕	+14cm 口縁部~胴部上 半片	口 20.4 胴 31.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部は へら削り。内面胴部はへら撫で。	

2区11号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第393図 PL.302	1	土師器 杯	+2cm 1/3	口 12.8 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	縞状の素地
第393図 PL.302	2	土師器 杯	+6cm 口縁部一部欠損	口 13.1 高 4.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	内面吸炭
第393図 PL.302	3	土師器 杯	完形	口 12.8 高 4.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	底部に黒斑
第393図 PL.302	4	土師器 杯	+2cm 3/4	口 13 高 4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	
第393図 PL.302	5	土師器 高坏	床直 脚部1/2	脚 12.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚柱部外面縦のへら削り、内面縦の撫で、端部撫で。	脚柱部内面に 輪積み痕
第393図 PL.302	6	土師器 鉢	床直 完形	口 10.4 高 9.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、体部外面横のへら削り、内面撫で。	外面に細かな ハゼ
第393図 PL.302	7	土師器 有孔鉢	口縁部一部欠損	口 16.8 高 9.6 底 3.3 孔 1.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部外面縦のへら削り、内面横のへら削り。	
第393図 PL.303	8	土師器 甕	口縁部~胴部上 位片	口 22.7	細砂粒多/良好/に ぶい黄橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部 はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第393図 PL.303	9	土師器 甕	床直 3/4	口 18.6 高 40.2 底 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は縦のへら削り、内面横のへら撫で。	胴部外面に粘 土付着 胴部 内面下位に接 合痕
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率		特 徴 ・ 状 態	
第393図 PL.303	10	鉄製品 紡錘車		長 3.4幅 4.2 厚 0.4 重 15.8	ほぼ完形の紡輪の両端に短い紡軸が残存する。紡輪と紡軸はやや斜めに接して いる、錆化がすすむ前に外力により変形したとみられる		

2区12・13号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第395図	1	須恵器 甕か	12住+4cm 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転不明。	内面にハゼ
第395図	5	土師器 甕	13住+5cm 口縁部~胴部上 位片		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへ ら撫で。	
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率		特 徴 ・ 状 態	
第395図 PL.303	2	鉄製品 釘	12住+1cm	長 5.0幅 1.2 厚 0.5 重 5.1	角釘頭部をやや薄く広げた形状に成型する。断面形状の割に現存長は短い端部 は細くなるが錆化のため破損かいなかは不明		
第395図 PL.303	3	鉄製品 紡錘車	12住+5cm	長 6.2幅 4.8 厚 0.3 重 13.4	半円形に残存する紡輪に直交する形で紡軸が片方に残存する。		
第395図 PL.303	4	鉄製品 鑿か	12住+1cm 完形	長 26.3 幅 3.9 厚 1.3 重 252.6	錆化が進んでいるが、内部には金属鉄が残り比較的良好な状態。先端は鋭利に とがらず丸みをおびる		

2区14号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第397図	1	土師器 高坏	杯部片		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部横撫で、体部へら撫で、内面撫で。	
第397図	2	土師器 器台	脚部片		細砂粒/良好/橙	脚部外面縦のへら磨き、内面撫で。穿孔は3孔。	

2区15号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第398図	1	土師器 鉢	+5cm 口縁部~体部片	口 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部へら削り。内面撫で。	粉っぽい素地

2区16号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第399図 PL.303	1	土師器 杯	+2cm 1/2	口 11.6 高 3.5 底 8.4	細砂粒・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、体部は撫で、部分的に指の押圧。底部は手持ちへら削り。					
第399図 PL.303	2	土師器 杯	+11cm 1/2	口 12.0 高 3.4 底 9.0	細砂粒・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。					
第399図 PL.303	3	土師器 杯	+2cm 3/4	口 11.4 高 3.5 底 8.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。					
第399図 PL.303	4	須恵器 皿	掘り方 3/4	口 13.1 高 3.0 底 6.3 台 6.8	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	器面摩滅				
第400図 PL.303	5	須恵器 皿	掘り方 1/2	口 12.8 高 3.5 底 7.0 台 7.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。					
第400図 PL.303	6	須恵器 皿	掘り方 1/3	口 14.2 高 3.3 底 6.2 台 6.4	細砂粒・角閃石・ 軽石/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。	器面摩滅				
第400図 PL.303	7	須恵器 杯	掘り方 口縁部一部欠損	口 11.9 高 3.9 底 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。					
第400図 PL.303	8	須恵器 杯	+5cm 1/2	口 12.7 高 3.7 底 6.5	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	藤岡か				
第400図	9	須恵器 杯か	掘り方 口縁部片	口 17.7	細砂粒/還元/オ リーブ黒	ロクロ整形、回転右回り。	いぶし焼成				
第400図	10	灰釉陶器 輪花椀	+10cm 口縁部片	口 18.8	細砂粒/還元/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。施釉は刷毛掛けか。					
第400図 PL.303	11	須恵器 椀	+4cm 2/3	口 14.3 高 6.0 底 6.3 台 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。					
第401図	12	土師器 甕	掘り方 口縁部~頸部片	口 14.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部内外面横の細かなハケ目後、内面撫でか。頸部~胴部外面横の細かなハケ目。頸部内面~口縁部内外面、胴部外面赤彩。					
第401図 PL.304	13	土師器 甕	+8cm 口縁部~胴部上 半片	口 18.8 胴 22.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。					
第401図 PL.304	14	土師器 甕	+5cm 口縁部~胴部上 半片	口 19.8 胴 21.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。					
第401図 PL.304	15	土師器 甕	+5cm 口縁部~胴部上 半片	口 20.3 胴 23.2	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	外面にカマド装着時の粘土が付着。				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考	
第401図 PL.304	16	敲石	掘り方	棒状礫	蛇紋岩	(16.6)	7.1	449.2	小口部・両側縁を敲打する。		
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率			特 徴 ・ 状 態				
第401図 PL.304	17	鉄製品 不詳	+10cm	長 2.8幅 2.5 厚 0.2 重 4.5				薄い板状の鉄製品、錆化と破損のため本来の形状は不明			
第401図 PL.304	18	鉄製品 刀子		長 10.1幅 1.4 厚 0.35 重 17.9				棟・刃側ともに閔をもつ刀子で茎と刃先とも欠損する。刃部は全体に細く使用による研ぎ減りとみられる			
第401図 PL.304	19	鉄製品 紡錘車		長 3.9幅 4.3 厚 0.15 重 11.5				ほぼ完形の紡輪で紡軸を通す穴は見られるが軸自体は残っていない			

2区17号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第403図 PL.304	1	土師器 杯	+9cm 2/3	口 11.7 高 3.7	細砂粒・輝石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第403図 PL.304	2	土師器 杯	+9cm 口縁部3/4欠損	口 11.9 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第403図 PL.304	3	土師器 杯	10cm 2/3	口 10.6 高 3.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅 底部黒斑
第403図 PL.304	4	土師器 杯	口縁部一部欠損	口 9.8 高 3.7	細砂粒・角閃石・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅 底部黒斑
第403図 PL.304	5	土師器 杯	+2cm 口縁部一部欠損	口 11.3 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	
第403図 PL.304	6	土師器 杯	+8cm 1/3	口 11.8 高 4.3	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、口唇部内面に細い凹線を巡らせる。底部手持ちへら削り、内面撫で。	
第403図 PL.304	7	土師器 甕	口縁部~胴部片	口 23.8	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面撫で。	器面摩滅

第4章 発掘調査の記録

2区20号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第405図	1	土師器 杯	床直 底部片		細砂粒・軽石/良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第405図	2	土師器 杯	床直 完形	口 11.8 高 4.5 稜 13.2	細砂粒/良好・燻/ にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。	
第405図	3	土師器 甕	床直 口縁部～底部	口 15.7 胴 23.7 底 10.8	細砂粒/良好/赤褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部にへら撫で。	

2区21号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第406図	1	埴輪 円筒	+7cm 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	凸帯は貼付、体部はハケ目後口縁部と凸帯の上下は横撫で、内面は口縁部が横案で、体部はハケ目(2cmあたり8本)。	

2区22号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第407図 PL.305	1	土師器 小型壺	+2cm 完形	口 8.3 高 10.1 底 5.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部折り返し、頸部外面押圧、胴部外面縦の撫で、内面撫で。	頸部外面に接合痕、胴部内面に輪積み痕顕著				
第407図 PL.305	2	土師器 壺	+7cm 口縁部片	口 16.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	往診部は横撫で、口縁部はハケ目後下半にへら磨き。					
第407図 PL.305	3	土師器 台付甕	+3cm 口縁部～胴部上 位片	口 12.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6～7本)。内面は胴部が撫で。					
第407図	4	土師器 台付甕	口縁部～胴部片	口 11.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向のハケ目(1cmあたり4本)。内面撫で。ハケ目(1cmあたり8本)。肩部内面横のへら撫で。					
第407図 PL.305	5	土師器 台付甕	+3cm 口縁部～胴部片	口 11.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり6本)。肩部内面連続的な撫で。	器面摩滅 肩部内面に輪積み痕				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考	
第407図 PL.305	6	石製品	+9cm	扁平礫	粗粒輝石安山岩	10.6	7.5	448.9	背面側中央に浅い窪み部を作出。凹み部の内面は部分的に摩耗。		
第407図 PL.305	7	砥石	+5cm	礫砥石	珪質粘板岩	(11.2)	11.2	814.3	表裏面とも光沢を帯びた研磨面。裏面側研磨面には粗い線条痕が残る。		
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率			特 徴 ・ 状 態				
第407図 PL.305	8	鉄製品 鏃	+4cm	長 4.7幅 2.1厚 0.1重 4.6	平根で深い腸剣を持つ無茎鏃で、矢柄とみられる植物痕跡が残る						

2区25号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第410図	1	須恵器 椀	底部片	底 8.6 台 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

2区26・27・29・30号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第413図 PL.305	1	土師器 杯	26住床直 1/2	口 12.8 高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第413図 PL.305	2	土師器 杯	26住床直 1/3	口 16.6 高 4.2	細砂粒・角閃石・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	器面摩滅
第413図	3	土師器 皿	26住掘り方 1/4	口 17.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面撫で。	内外面に付着物
第413図 PL.305	4	須恵器 杯	26住床直 1/3	口 12.0 高 3.5 底 8.8	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら起こし。	厚手の作り
第413図 PL.305	5	土師器 甕	27住+5cm 口縁部～胴部上 位片	口 19.8	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第413図	6	土師器 杯	29住掘り方 1/4	口 13.6 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第413図	7	土師器 杯	29住+12cm 1/3	口 12.6 高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	外面の撫で部に輪積み痕
第413図	8	須恵器 杯	29住+10cm 口縁部～底部片	口 14.4 高 3.2 底 8.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転へら削り。	
第413図 PL.305	9	土師器 甕	29住掘り方 口縁部～胴部中 位片	口 23.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第413図	11	土師器 杯	30住+8cm 口縁部～底部片	口 10.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に広く撫での部分を残す。内面撫で。	器面摩滅 底部黒斑
第413図	12	土師器 杯	30住 口縁部～底部片	口 10.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第413図	13	須恵器 杯	30住+8cm 口縁部～体部片	口 13.9	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。	
第413図	14	須恵器 杯	30住 底部片	底 8.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。	
第413図 PL.305	15	土師器 甗	30住+11cm 口縁部～胴部中 位片	口 19.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	胴部の一部に 粘土付着。
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率		特 徴 ・ 状 態	
第413図 PL.305	10	鉄製品 釘か	29住掘方	長 9.2幅0.4 厚0.4 重6.6	断面ほぼ正方形で両端に向かい細くなり頭部等の形状を持たない		

2区31号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第416図	1	須恵器 杯	+21cm 底部片	底 7.0	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部及び体部下端回転ヘラ削り。	
第416図	2	土師器 甗	口縁部～胴部上 位片	口 16.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

2区32・33号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第417図	1	土師器 杯	32住掘り方 口縁部～底部片	口 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部ヘラ削りか。内面撫で。	器面摩滅
第417図	2	土師器 鉢	32住 口縁部～体部片	口 11.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面ヘラ削り、内面斜のヘラ撫で。	粉っぽい素地
第417図	3	土師器 甗	32住掘り方 口縁部片	口 16.9	細砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、胴部外面ヘラ削り。	器面摩滅
第417図	4	土師器 杯	33住掘り方 口縁部片	口 10.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	

2区34・35・36・37号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第420図 PL.305	1	土師器 杯	34住+13cm 2/3	口 13.3 高 3.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	外面摩滅
第420図	2	土師器 杯	34住+5cm 1/4	口 10.6 高 3.0 最 11.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第420図	3	須恵器 蓋	34住掘り方 3/4	口 13.3	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部外面回転ヘラ削り。	
第420図 PL.305	4	須恵器 杯	34住掘り方 1/2	口 11.6 高 3.7 底 8.0	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部及び体部下端手持ちヘラ削り。	
第420図	5	土師器 甗	34住+20cm 口縁部～胴部片	口 20.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面横のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	
第420図 PL.306	6	土師器 杯	35住床直 1/2	口 11.4 高 3.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	器面摩滅 底 部黒斑
第420図	7	土師器 器台か	36住 受部片	口 8.9	細砂粒/良好/明赤 褐	受部外面上半横撫で、下半縦のヘラ磨き、内面放射状ヘラ磨き。	受部内面摩滅
第420図	8	土師器 高杯	36住床直 杯部～脚部片		細砂粒/良好/橙	杯部内外面撫でか。	器面摩滅
第420図	9	土師器 台付甗	36住 脚部片			脚部外面右下方向のハケ目(1cmあたり6本)。脚部天井及び底部内面砂目粘土で補填。	
第420図	10	土師器 杯	37住+14cm 1/4	口 13.6	細砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	縞状の素地
第420図	11	土師器 器台か	37住+10cm 脚部片	底 12.8	細砂粒/良好/明赤 褐	脚部外面縦のヘラ磨き、内面横の撫で。脚部の穿孔は3孔か。	
第420図 PL.306	12	土師器 埴	37住床直 口縁部～胴部片	口 14.4	細砂粒/良好/橙	口縁部～頸部外面斜のハケ目後縦のヘラ磨き、内面縦のヘラ磨き。胴部外面縦のヘラ磨き、内面撫で。頸部内面に指先の押圧。	
第420図 PL.306	13	土師器 台付甗	37住床直 口縁部一部欠損	口 15.5 高 29.7 底 8.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり5本)。脚部外面右下方向のハケ目。胴部内面撫で、頸部内面に押圧。脚部天井及び底部内面砂目粘土で補填。	
第420図 PL.306	14	土師器 台付甗	37住+5cm 口縁部～胴部片	口 19.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向のハケ目(1cmあたり4本)。内面撫で。	肩部内面に輪 積み痕
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率		特 徴 ・ 状 態	
第420図 PL.306	15	鉄製品 槍鉋	37住+10cm	長 5.5幅1.0 厚0.3 重4.1	先端部は鋭利な三角形を呈する槍鉋で茎部で折損する。刃の切削面と茎とは約20°の角度を持つ、刃先下面にはいわゆる裏すき状のわずかな凹みがある		

第4章 発掘調査の記録

2区38号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第423図 PL.306	1	須恵器 椀	床直 3/4	口 13.5 高 5.1 底 6.0 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転糸切り後の貼付。	底部～体部下 端内外面吸炭

2区39号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第425図 PL.306	1	須恵器 杯	+15cm 1/3	口 12.8 高 4.0 底 6.0	細砂粒・角閃石/ 酸化/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	器面摩滅			
第425図 PL.306	2	須恵器 杯	床直 2/3	口 13.4 高 3.4 底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	器形歪む			
第425図 PL.306	3	須恵器 杯	貯蔵穴 口縁部一部欠損	口 12.8 高 4.0 底 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	いぶし焼成			
第425図 PL.306	4	須恵器 椀	貯蔵穴 口縁部一部欠損	口 13.8 高 5.5 底 5.6 台 5.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転糸切り後の貼付。				
第425図 PL.306	5	土師器 甗	+6cm 口縁部～胴部中 位片	口 18.2 胴 20.6	細砂粒・褐色粒/ 良好/橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。				
第425図 PL.306	6	土師器 甗	床直 1/2	口 19.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜、下半斜のへら削り、内面撫で。	胴部内面下半 に接合痕 胴 部内面中位及 び頸部外面に 輪積み痕			
第425図 PL.307	7	土師器 甗	+9cm 1/3	口 20.2	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜、下半縦のへら削り、内面撫で。	胴部内面中位 に接合痕 頸 部外面に輪積 み痕			
第426図 PL.306	8	土師器 甗	床直 1/3	口 19.4	細砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部横撫で。胴部外面上半横、下半縦のへら削り、内面横のへら撫で。	胴部内面下位 に接合痕 胴 部内面変色			
第426図 PL.307	9	土師器 甗	+6cm 口縁部～胴部片	口 19.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜、下半縦のへら削り、内面撫で。	胴部内面下位 に接合痕			
第426図 PL.307	10	土師器 甗	+6cm 2/3	口 19.0	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横、下半斜のへら削り、内面撫で。	胴部内面下位 に接合痕			
第426図 PL.307	11	土師器 甗	+6cm 口縁部～胴部片	口 19.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜、下半斜のへら削り、内面撫で。	外面の摩滅顕 著 胴部内面 下位に接合痕			
第426図 PL.307	12	土師器 甗	+6cm 1/2	口 19.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜、下半斜のへら削り、内面撫で。	胴部内面下半 に接合痕 胴 部内面中位及 び頸部外面に 輪積み痕			
第426図 PL.307	13	須恵器 羽釜	+20cm 口縁部～胴部中 位片	口 19.8 鏑 23.8	細砂粒・粗砂粒・ 砂岩/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏑は貼付、胴部下位はへら削り。				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
第426図 PL.307	14	砥石	—	礫砥石	粗粒輝石安 山岩	9.9	9.5	337.8	表裏面に光沢を帯びた研磨面。	
—	15	カマド石			未固結凝灰 岩	(18.2)	19.1	1130.0	背面側は中央より下端側が、裏面側は全体が煤ける。薄板状で、厚さ4cmを測る。整形痕については不明瞭。	非実測

2区40号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第427図	1	須恵器 椀	掘り方 底部～体部	底 7.2 台 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第427図 PL.308	2	土師器 有孔鉢	+3cm 2/3	口 15.6 高 7.9 孔 2.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部外面横のへら削り、内面横のへら撫で。	体部外面下半 の摩滅顕著
第427図 PL.308	3	土師器 甗	+3cm 口縁部～胴部上 半片	口 19.8 胴 22.2	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

2区42号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第429図	1	土師器 甗	掘り方 口縁部～胴部上 位片	口 17.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐	外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

2区43号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第430図 PL.308	1	須恵器 杯	+3cm 口縁部一部欠損	口 13.3 高 3.8 底 7.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
第430図	2	土師器 甗	+2cm 口縁部～胴部上 位片	口 25.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐	口縁部から頸部は横撫で、頸部に指頭痕が残る、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
第431図 PL.308	3	敲石	床直	棒状礫	粗粒輝石安山岩	20.9	8.7	1549.9	小口部・側縁に打痕。被熱して赤化・スス付着。	

2区44・45・46号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第434図 PL.308	1	須恵器 杯	44住床直 1/3	口 13.8 高 4.5 底 6.8	細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転 ヘラ削り。	
第434図 PL.308	2	須恵器 長頸壺	44住+30cm 1/4		細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転不明。肩部外面に凹線と櫛状工具による 刺突を巡らせる。	外面に自然釉
第434図 PL.308	3	土師器 甕	44住+13cm 口縁部～底部片	口 20.2	細砂粒・角閃石/ 良好/明黄褐	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜のヘラ削り、下半縦の ヘラ削り、内面撫で。	胴部内面下位 に接合痕 上 位に輪積み痕
第434図 PL.308	4	土師器 甕	44住 1/2	口 17.2 高 22.0 底 4.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横、下半斜のヘラ削り、内面 横のヘラ撫で。底部ヘラ削り。	口縁部内面～ 胴部外面の摩 滅顕著 胴部 内面下位に接 合痕
第434図 PL.308	5	須恵器 椀	45住床直 完形	口 13.3 高 5.0 底 6.0 台 5.2	細砂粒/還元/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転糸切り後の雑な 貼付。	高台変形
第434図 PL.308	6	須恵器 椀	45住床直 2/3	口 13.0 高 5.3 底 6.6 台 6.4	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転糸切り後の貼付。	器面摩滅
第434図	7	須恵器 椀	45住 底部片	底 7.1 台 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。底部整形不明、高台は貼付。	
第434図	9	土師器 杯	46住+14cm 1/3	口 12.6 高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を 残す。内面撫で。	
第434図	10	土師器 杯	46住掘り方 1/4	口 10.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面摩滅 底 部黒斑
第434図 PL.308	11	須恵器 杯	46住+13cm 1/3	口 13.4 高 3.8 底 7.2	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元/褐灰	ロクロ整形、回転左回り。底部回転ヘラ削り。	内面擦れ
第434図 PL.308	12	土師器 甕	46住+2cm 口縁部～胴部片	口 18.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面横～斜のヘラ削り、内面撫で。	口縁部外面に 輪積み痕

挿図番号 PL.番号	No.	種類	出土位置 残存率	残存率	特徴・状態
第434図 PL.308	8	鉄製品 不詳	45住	長 1.95幅 2.1厚 0.25重 4.4	錆化し内部は空洞化するとともに破損のため本来の形状・用途は不明

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
-	13	カマド石	46住		未固結凝灰 岩	34.2	19.2	7510.0	整形痕は不明瞭だが、整形痕の幅は広い。柱状を 呈す。	非実測

2区47号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第437図 PL.308	1	土師器 杯	+9cm 3/4	口 12.3 高 3.4 底 10.3	細砂粒・角閃石・ 軽石/良好/にぶい 橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に狭く撫での部 分を残す。内面撫で。体部外面撫で後部分的に押圧。体部 内面撫で、底部手持ちヘラ削り。	底部中央に窪 み
第437図 PL.308	2	須恵器 椀	+4cm 1/4	口 15.4 底 9.0	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部及び体部下端回転ヘ ラ削り後の貼付。	高台貼付部か ら剥落
第437図	3	土師器 甕	+4cm 口縁部～胴部上 位片	口 15.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラ撫で。	

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
第437図 PL.308	4	石製品		楕円礫	玉髓	2.4	2.1	7.2	性格不明。線条痕等は見られない。	

2区48号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第439図	1	土師器 皿	+25cm 口縁部～底部片	口 16.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で。	器面摩滅 内 面に細かなハ ゼ顕著
第439図	2	土師器 杯	口縁部～体部片	口 15.0 最 15.3	細砂粒/良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部から体部はヘラ削り、器面磨滅の ため単位不明。	
第439図	3	土師器 杯	+12cm 1/4	口 12.6	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に狭く撫での部 分を残す。内面撫で。	
第439図 PL.308	4	須恵器 杯	+25cm 1/3	口 12.4 高 3.1 底 9.2	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転ヘラ起こし。	器面摩滅
第439図 PL.308	5	須恵器 杯	床直 3/4	口 12.6 高 4.1 底 8.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ起こし後、周辺手 持ちヘラ削り。	
第439図	6	土師器 甕	+11cm 口縁部片	口 19.6	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で。	器面摩滅

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況	備考
第439図 PL.308	7	紡錘車	+3cm	厚型	蛇紋岩	径3.7	高1.6	33.1	上面の孔周辺は光沢を帯びる。体部側面に刀子状 刃器による整形痕を残す。	

第4章 発掘調査の記録

2区49号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第441図	1	土師器 杯	+8cm 口縁部~体部片	口 20.0 最 20.6	細砂粒/良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部から体部はへら削り。	
第441図	2	土師器 甕	床直 口縁部~胴部上 位片	口 20.8	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	残存率		特徴・状態	
第441図 PL.308	3	鉄製品 刀子	掘方	長 4.8幅 1.5 厚 1.0 重 5.6	鉄製のはばきをもつ刀子で、破損した茎の周りには木質(広葉樹・散孔材)が残存する。刃部は短く細く使用による研ぎべりとみられる		

2区50号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第442図 PL.309	1	土師器 杯	口縁部一部欠損	口 10.7 高 3.2	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
-	2	敲石		棒状礫	変質安山岩	13.2	4.9	398.2	小口部打痕	非実測

2区51号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第443図 PL.309	1	土師器 杯	掘り方 1/2	口 11.2 高 3.4 最 11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第443図	2	土師器 甕	床直 口縁部片	口 22.8	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、胴部外面へら削り、内面撫で。	

2区52号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第432図	1	土師器 杯	口縁部~底部片	口 12.8	細砂粒・石英/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第432図	2	土師器 杯	口縁部~底部片	口 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地
第432図 PL.309	3	土師器 杯	口縁部~底部片	口 13.0 底 7.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。内面は体部から口縁部に斜放射状暗文。	
第432図 PL.309	4	土師器 鉢	床直 口縁部~体部片	口 10.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、一部に指頭痕が残る、体部はハケ目(1cmあたり7本)。内面は口縁部にハケ目。	
第432図	5	土師器 台付鉢か	脚部片	脚 15.4	細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部外面縦のへら撫で、内面撫で。	器胎吸炭

2区53号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第444図	1	土師器 壺	床直 口縁部~頸部片	口 18.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	シャープな作りの有段口縁で、外面撫で、内面横のへら磨き。頸部外面縦のへら撫で、内面横のへら磨き。	

2区54・56号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第446図	1	土師器 杯	54住 口縁部~体部片	口 13.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半は手持ちへら削り。	
第446図	2	土師器 埴	56住 口縁部下半~底部片	頸 6.4	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は縦位のへら磨き、体部から底部はへら削り後へら磨き。内面は口縁部と体部はへら磨き、底部は撫で。	
第446図	3	土師器 小型台付甕	56住 頸部~胴部片		細砂粒/良好/にぶい黄橙	頸部~肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり6本)。内面斜のへら撫で。	胴部外面に不整形の吸炭

2区55号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第448図 PL.309	1	土師器 杯	+16cm 完形	口 10.5 高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地
第448図 PL.309	2	土師器 杯	+2cm 完形	口 11.1 高 3.1	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第448図 PL.309	3	土師器 杯	完形	口 10.8 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	
第448図 PL.309	4	土師器 杯	+4cm 完形	口 10.9 高 3.6	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	
第448図 PL.309	5	土師器 杯	+4cm 口縁部一部欠損	口 10.4 高 3.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	底部に黒斑 器面摩滅 粉っぽい素地
第448図 PL.309	6	土師器 杯	床直 口縁部一部欠損	口 10.6 高 3.8	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第448図 PL.309	7	土師器 杯	+4cm 口縁部一部欠損	口 11.5 高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第448図 PL.309	8	土師器 杯	+5cm 3/4	口 11.2 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第448図 PL.309	9	土師器 杯	+5cm 完形	口 11.8 高 3.6	細砂粒・角閃石/ 良好	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅			
第448図 PL.309	10	土師器 杯	+5cm 完形	口 11.7 高 4.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、外稜下に狭く撫での部分を残す。内面撫で。				
第448図 PL.309	11	土師器 杯	口縁部一部欠損	口 11.9 高 3.4	細砂粒・軽石/良 好/明赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	口縁部の一部 吸炭			
第448図 PL.309	12	土師器 杯	+15cm 2/5	口 10.8 高 4.0 稜 10.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。内面は底部がへら撫で。	有段口縁部			
第449図 PL.309	13	土師器 有孔鉢か	1/2	口 20.5 高 14.3	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、体部外面縦のへら削り、内面撫で。				
第449図 PL.309	14	土師器 甕	+5cm 1/2	口 14.8 高 16.5 胴 16.6	細砂粒・白色粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部にへら撫で。				
第449図 PL.309	15	土師器 甕	+5cm 口縁部～胴部片	口 21.3	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面横のへら撫で。	器面摩滅			
第449図 PL.309	16	土師器 甕	+5cm 口縁部～胴部片	口 19.4	細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面横のへら撫で。				
第449図 PL.309	17	土師器 甕	3/4	口 21.0 高 34.7 底 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部にへら撫で。				
第449図 PL.310	18	土師器 甕	口縁部～胴部下 位	口 23.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。				
第450図 PL.310	19	土師器 甕	3/4	口 20.7 高 37.6 底 3.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部にへら撫で。				
第450図 PL.310	20	土師器 甕	2/3	口 20.7	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面撫で。	胴部内面下位 に接合痕 頸 部内面に輪積 み痕 器面摩 滅顕著			
第450図 PL.310	21	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 16.6	細砂粒・軽石/良 好/灰黄褐	口縁部横撫で、胴部外面縦のへら削り、内面撫で。	胴部内面下半 摩滅し変色			
挿図番号 図版番号	Na.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第450図 PL.310	22	砥石	+9cm	切り砥石	砥沢石	(8.9)	6.0	219.2	四面使用。上端側に粗い刃ならし傷。	
-	23	敲石		盤状礫	粗粒輝石安 山岩	13.8	12.8	1577.8	側面敲打	非実測

2区57・58号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第451図	1	土師器 台付甕	57住+2cm 口縁部～胴部片	口 11.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり6本)。肩部内面縦の強い撫で。	
第451図	2	土師器 埴	58住 口縁部片	口 12.8	細さ理由/良好/明 赤褐	口縁部内外面撫で。	

2区59号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第454図 PL.311	1	土師器 杯	+23cm 3/4	口 12.9 高 3.6 底	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に型肌を残す。内面撫で。	外面型肌部に 輪積み痕
第454図 PL.311	2	土師器 杯	+20cm 3/4	口 13.6 高 3.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	外面に輪積み 痕 内面摩滅
第454図 PL.311	3	土師器 杯	掘り方 2/3	口 13.7 高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面撫で。	器面摩滅
第454図 PL.311	4	土師器 杯	床直 口縁部一部欠損	口 13.1 高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第454図 PL.311	5	土師器 杯	+17cm 口縁部一部欠損	口 13.3 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第454図 PL.311	6	土師器 杯	+17cm 1/3	口 18.3 底 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横撫で、下半から体部と底部は手持ちへら削り。内面は口縁部に斜放射状、底部に螺旋状暗文。	
第454図	7	須恵器 杯	+17cm 1/3	口 13.2 高 4.0 底 9.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部下端手持ちへら削り、底部回転へら削り。	
第454図	8	須恵器 蓋	+7cm 口縁部～体部片	口 14.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部外面回転へら削り。	
第454図	9	須恵器 蓋	+17cm 口縁部片	口 17.8	細砂粒/還元/灰オ リーブ	ロクロ整形、回転右回り。天井部外面回転へら削り。摘は欠損のため不明。	
第454図 PL.311	10	土師器 甕	+10cm 胴部片		細砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。外面はへら削り、内面はへら撫で。	
第454図	11	土師器 甕	+5cm 口縁部～胴部上 位片	口 23.0	細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第454図	12	土師器 甕	+11cm 口縁部～頸部片	口 21.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、胴部外面へら削り、内面撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第454図 PL.311	13	須恵器 椀(コップ 形)	+27cm 2/3	底 2.9	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へら起こしか。	

第4章 発掘調査の記録

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第454図 PL.311	14	敲石		棒状礫	黒色片岩	13.8	3.6	226.6	両側縁とも小口部に近い位置に敲打痕がある。各2ヶ所の敲打痕は対照的な位置関係にあり、敲打具以外の使い方も考えるべきかもしれない。	

2区60号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第457図 PL.311	1	土師器 杯	+10cm 3/4	口 13.1 高 3.6	細砂粒・角閃石・ 軽石/良好/にぶい 橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第457図 PL.311	2	土師器 杯	+11cm 1/2	口 12.6 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第457図 PL.311	3	土師器 杯	+17cm 3/4	口 12.7 高 3.3	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	
第457図 PL.311	4	土師器 杯	+20cm 3/4	口 12.4 高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	口唇部内面および内面に煤付着 器面摩滅
第457図 PL.311	5	土師器 杯	+4cm 3/4	口 12.6 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。	器面摩滅
第457図 PL.311	6	土師器 杯	+20cm 口縁部一部欠損	口 11.7 高 3.5	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に狭く型肌部分を残す。内面撫で。	外面型肌部分に輪積み痕 内面に褐色の付着物
第457図 PL.311	7	土師器 杯	掘り方 1/2	口 14.2 高 4.3 底 7.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部外面へら削りか。体部内面撫で後斜放射状の暗文施文。底部手持ちへら削り。	器面の摩滅顕著
第457図 PL.311	8	須恵器 蓋	+2cm 3/4	口 14.2 高 2.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は扁平な宝珠摘状で、天井部外面回転へら削り後の貼付。	器胎内酸化
第457図	9	土師器 鉢か	口縁部～体部片	口 20.2	細砂/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面へら削り、内面斜の撫で。	体部外面摩滅
第457図	10	土師器 甕	掘り方 口縁部～胴部上 位片	口 25.0	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第457図 PL.311	11	砥石		切り砥石	砥沢石	11.0	3.3	141.5	四面使用。上端側で破損後、破損部を磨き整形、孔を開け下げ砥石としたもの。径5.5mmの孔を両側穿孔する。小口部下端には刃ならし傷が残る。	
第457図 PL.311	12	砥石	+2cm	切り砥石	砥沢石	(10.2)	7.7	382.9	四面使用。上端側の破損後も砥石として継続使用。	

挿図番号 PL.番号	No.	種類	出土位置 残存率	残存率	特徴・状態
第457図 PL.311	13	鉄製品 不詳		長6.5幅0.5厚0.3重2.9	断面長方形の角棒状の鉄製品で、錆化が著しく内部空洞となり本来の形状不明

2区61号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第458図 PL.311	1	須恵器 椀	貯蔵穴 口縁部一部欠損	口 12.8 高 5.0 底 7.2 台 6.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転系切り後の貼付。	
第458図 PL.311	2	須恵器 椀	貯蔵穴 3/4	口 13.8 高 5.2 底 6.8 台 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台は底部回転系切り後の貼付。	
第458図 PL.311	3	須恵器 椀	+6cm 1/2	口 13.0 高 5.5 底 7.6 台 6.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転系切り後の貼付。	
第458図 PL.311	4	須恵器 椀	貯蔵穴 1/2	口 14.0 高 5.4 底 7.2 台 6.2	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転系切り後の雑な貼付。	高台変形
第458図 PL.311	5	須恵器 椀	+6cm 1/2	口 13.4 高 5.4 底 6.8 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は底部回転系切り後の雑な貼付。	体部外面の一部吸炭 器面摩滅
第458図	6	須恵器 甕	掘り方 胴部上半片		細砂粒/酸化焙き み/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。	内面胴部に煤が付着。

2区62号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第461図 PL.312	1	土師器 器台	床直 脚部片	脚 13.1	細砂粒/良好/橙	脚部外面縦のへら磨き、内面撫で。脚部の穿孔はややずれた位置に2孔。	
第461図	2	土師器 埴	床直 口縁部片	口 10.9	細砂粒/良好/橙	口縁部～頸部内外面斜のへら磨き。頸部内面ハケ目。	
第461図	3	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 12.6	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のハケ目(1cmあたり6本)。内面横のへら削り。	口縁部～胴部外面煤付着
第461図 PL.312	4	土師器 台付甕	床直 2/3	口 13.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり6本)。肩部内面強い撫で。	
第462図 PL.312	5	土師器 台付甕	床直 2/3	口 13.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、口唇部内面に細い凹線を巡らせる。頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり5本)。内面撫で。	胴部内面下位に接合痕

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第462図 PL.312	6	土師器 台付甕	床直 2/3	口 17.2 高 32.4 底 5.9 脚 9.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり5～6本)、脚部 端部は内側に折り返し。内面は胴部が撫で。	脚部内側に砂 粒を多く含む 粘土を貼付。			
第462図 PL.312	7	土師器 台付甕	床直 口縁部～胴部下 位	口 13.0 胴 20.2	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり5～6本)、内面 は胴部が撫で。				
第462図 PL.312	8	土師器 台付甕	口縁部-胴部片	口 14.4 胴 22.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり5本)。内面胴部 は撫で。				
第462図 PL.312	9	須恵器 甕	+6cm 口縁部片		細砂粒/還元焰/灰	口縁部は凹線と断面三角形の凸帯によって2段に区画、区 画内に波状文が巡る。	内面にヘラ描 き、一部のた め判読不明。			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第462図 PL.312	10	敲石	+2cm	棒状偏平礫	粗粒輝石安 山岩	16.8	7.4	734.2	右側縁中央が敲打され、ノッチ状に挟れるほか、右辺・ 裏面側が研磨され、光沢を帯びる。	

2区63号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第465図 PL.313	1	土師器 杯	+2cm 3/4	口 13.7 高 4.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ 削り、器面磨滅のため単位不明。				
第465図 PL.313	2	土師器 杯	+26cm 2/3	口 14.6 高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を 残す。内面撫で。	器面磨滅			
第465図 PL.313	3	土師器 杯	掘り方 3/4	口 13.0 高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に狭く型肌の部分 を残す。内面撫で。				
第465図 PL.313	4	土師器 杯	+2cm 2/3	口 16.0 高 5.3	細砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に型肌部分を 残す。内面撫で。				
第465図	5	土師器 皿	1/2	口 13.8 高 3.0	細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨滅			
第465図	6	土師器 杯	1/2	口 16.2 高 4.3 底 9.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、体部外面ヘラ削りか。体部内面撫で後斜放 射状、見込部螺旋状暗文施文。	器面磨滅			
第465図	7	土師器 杯	+36cm 口縁部～底部片	口 17.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、内面撫で。	器面磨滅			
第465図 PL.313	8	須恵器 転用硯(蓋)	+7cm 端部一部欠損	口 11.4 高 2.4 摘 3.8	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は環状摘で天井部回転ヘラ削り 後の貼付。研面は内面中央で平滑。	内面端部に重 ね焼きの痕跡 外面に自然釉			
第465図 PL.313	9	須恵器 杯	+32cm 1/2	口 13.3 高 3.8 底 8.8 摘	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部回転ヘラ起こし後、雑な手 持ちヘラ削り。				
第465図 PL.313	10	須恵器 杯	口縁部一部欠損	口 14.0 高 3.7 底 9.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ起こし。	器面磨滅			
第465図 PL.313	11	須恵器 壺か	+23cm 胴部～底部片	底 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し不明。胴部下端 に1条の凹線が巡る。	底部器胎に粘 土接合痕			
第465図	12	須恵器 鉢か	口縁部～体部片	口 19.8	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は環状摘で天井部回転ヘラ削り 後の貼付。研面は内面中央で平滑。				
第465図 PL.313	13	須恵器 甕	掘り方 頸部～胴部片		細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回りか。肩部と胴部中に凹線を巡らせ る。	外面に薄く自然 釉			
第466図 PL.313	14	土師器 甕	床直 3/4	口 22.2 高 27.9 底 5.9	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、中位に段を有する。胴部外面は斜の2段 のヘラ削り。内面撫で。	胴部内面褐色 に変色 胴部 内面下位に接 合痕			
第466図 PL.313	15	土師器 甕	+22cm 底部欠損	口 23.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面2段の斜のヘラ削り、内面横のヘ ラ撫で。	胴部内面下位 に接合痕 胴 部外面中位に 粘土附着			
第466図 PL.313	16	土師器 甕	+30cm 口縁部～胴部片	口 22.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横、下半斜のヘラ削り、内面 撫で。	胴部内面下半 に接合痕。			
第466図 PL.313	17	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 14.2	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面横の撫で。				
第466図	18	須恵器 甕	+5cm 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	有段口縁で、頸部外面に4本単位の櫛描き波状文を巡らせ る。頸部外面下半に平行叩きの痕跡。				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第466図 PL.313	19	敲石	—	楕円偏平礫	粗粒輝石安 山岩	11.4	13.2	602.8	側縁を敲打使用。敲打は部分的に摩耗しており、研磨 具としての使用も想定されよう。	
-	20	砥石		切り砥石	砥沢石	7.3	3.3	23.0	破片。	非実測
-	21	敲石		棒状偏平礫	雲母石英片 岩	17.7	5.8	483.4	上端側縁を敲打。	非実測

2区66・67号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第469図 PL.314	1	須恵器 椀	66住+14cm 底部片	底 6.3 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/オリーブ黒	ロクロ整形、回転右回りか。高台は底部回転糸切り後の貼 付。	いぶし焼成
第469図	2	須恵器 盤か	67住掘り方 底部片		細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下端～底部外面回転ヘラ 削り。	

第4章 発掘調査の記録

2区68号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第472図 PL.314	1	土師器 杯	底直 2/3	口 12.3 高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	口縁部外面～ 内面漆塗りか
第472図 PL.314	2	土師器 杯	底直 1/2	口 12.9 高 3.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	外面に黒斑
第472図 PL.314	3	土師器 杯	+17cm 完形	口 12.8 高 4.3	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。外稜は シャープな作り。	内面吸炭 外 面半面吸炭
第472図 PL.314	4	土師器 杯	底直 完形	口 11.9 高 4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地
第472図 PL.314	5	土師器 杯	+12cm 3/4	口 11.5 高 4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地
第472図 PL.314	6	土師器 杯	底直 完形	口 12.0 高 5.8	細砂粒・雲母・軽 石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	内面吸炭
第472図 PL.314	7	土師器 有孔鉢	+20cm 1/2	口 19.2 高 14.8 孔 3.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部外面斜のヘラ削り、下端横のヘラ削り、 内面撫で。	体部内面下半 に灰色の付着 物
第472図 PL.314	8	土師器 鉢	底直 口縁部～体部下 位片	口 18.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、体部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不 明。内面体部はヘラ撫で。	
第472図	9	土師器 鉢	+5cm 1/4	口 23.5	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	口縁部内面の 磨滅顕著
第472図 PL.314	10	土師器 台付鉢	+3cm 1/2	口 11.4 高 17.1 脚 11.5	細砂粒・粗砂粒・ 長石/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面上半斜、下半横のヘラ削り、内面 撫で。脚部外面縦のヘラ削り、端部撫で。脚部内面の接合 部指先の撫で。	体部内面変色
第472図 PL.314	11	土師器 台付鉢	床直 1/2	口 10.9 高 16.2 脚 12.6	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/にぶい 黄橙	口縁部横撫で、体部外面斜のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。 脚部外面縦のヘラ削り、内面横のヘラ削り。	口縁部外面の 一部吸炭
第472図 PL.314	12	土師器 鉢	+7cm 3/4	口 12.3 高 14.0	細砂粒。軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部～底部外面ヘラ削り、内面ヘラ撫で。	
第472図 PL.314	13	土師器 鉢	+3cm 完形	口 12.2 高 10.3	細砂粒・粗砂粒・ 長石/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面横のヘラ削り、内面撫で。	内面吸炭 底 部に黒斑 体 部外面上半に 輪積み痕
第473図 PL.314	14	土師器 甕	底直 口縁部～胴部片	口 20.4	細砂粒・軽石・角 閃石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面横～斜のヘラ削り、内面斜の撫で。	
第473図	15	土師器 甕	+20cm 口縁部～胴部片	口 18.5	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。 胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	
第473図	16	土師器 甕	底直 胴部～底部片	底 4.7	細砂粒・角閃石・ 軽石/良好/にぶい 黄橙	胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で、底部ヘラ削り。	胴部内面下位 に接合痕 底 部付近吸炭
第473図 PL.314	17	土師器 甕	+3cm 3/4	口 14.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	胴部内面下位 に接合痕
第473図 PL.314	18	土師器 甕	床直 口縁部・胴部一 部欠損	口 18.5 高 34.7 底 3.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面横の撫で。	胴部内面下位 に接合痕 胴 部外面下端に 黒斑
第473図 PL.315	19	土師器 甕	+4cm 1/2	口 19.6	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面撫で。	胴部外面縦位 の吸炭
第473図 PL.315	20	土師器 甕	底直 2/3	口 16.3	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/明黄 褐	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	頸部外面に輪 積み痕 器面 摩滅
第474図 PL.315	21	土師器 壺	1/2	口 21.5	細砂粒・粗砂粒・ 片岩・軽石/良好/ 橙	胴部内面撫でか。外面は器面の磨滅が激しく、整形不明。	胴部外面剥離 顕著

2区70号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第477図 PL.315	1	須恵器 杯	+8cm 口縁部一部欠損	口 11.8 高 4.0 底 7.1	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り後、周辺手持 ちヘラ削り。	
第477図 PL.315	2	須恵器 杯	+6cm 口縁部一部欠損	口 11.8 高 3.8 底 5.8	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り後、周辺手持 ちヘラ削り。	
第477図 PL.315	3	須恵器 杯	床直 口縁部一部欠損	口 12.8 高 4.2 底 7.5	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り後、周辺及び 体部下端手持ちヘラ削り。	口縁部外面に 重ね焼きによ る変色
第477図	4	土師器 甕	+16cm 口縁部～胴部片	口 19.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	器面摩滅
第477図 PL.315	5	土師器 甕	+16cm 口縁部～胴部片	口 19.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、胴部外面上半横、下半斜のヘラ削り、内面 横のヘラ撫で。	胴部内面下半 変色

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第477図 PL.315	6	土師器 甕	+7 cm 2/3	口 21.4	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、胴部外面上半斜、下半縦のヘラ削り、内面撫で。	胴部内面下位に接合痕 胴部外面中位に粘土付着帯状の変色
第477図 PL.315	7	土師器 甕	+7 cm 口縁部～胴部上半	口 19.8 胴 22.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第477図 PL.316	8	土師器 甕	+7 cm 2/3	口 21.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横撫で、胴部外面斜の2段のヘラ削り、内面撫で。	胴部内面下位に接合痕 頸部外面に輪積み痕
第478図 PL.316	9	土師器 甕	+7 cm 1/3	口 21.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横～斜、下半縦のヘラ削り、内面撫で。	器面摩滅
第478図	10	土師器 甕	+2 cm 口縁部～胴部片	口 22.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横のヘラ削り、内面斜のヘラ撫で。	
第478図	11	須恵器 甕	+8 cm 口縁部～胴部片	口 20.4	細砂粒/還元/灰白	叩き整形。胴部外面平行叩き後撫で、内面当て具不明。	

2区71号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第480図	1	土師器 杯	底部～体部片		細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒/良好/にぶい黄橙	口縁部と体部の間にハケ目が残る。底部から体部下半にヘラ磨き。内面口縁部はヘラ磨き。				
第480図 PL.317	2	土師器 鉢	床直 1/4	口 15.0 高 8.7 底 3.4	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部は縦位のヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は底部から口縁部へのヘラ磨き。				
第480図	3	土師器 直口壺	口縁部片	口 15.0	細砂粒/良好/赤褐	外面は放射状ヘラ磨き、内面は上半が斜め、下半は横方向のヘラ磨き。				
第480図 PL.317	4	土師器 壺か	床直 2/3	口 16.8 高 29.8 底 6.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面撫で。胴部下端押圧。	胴部内面に輪積み痕			
第480図	5	土師器 壺か	+6 cm 口縁部～胴部片	口 7.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、内面にハケ目わずかに残存。胴部外面ハケ目後撫で。下半にハケ目残る。内面撫で。	胴部内面に輪積み痕顕著			
第480図 PL.317	6	土師器 台付甕	床直 口縁一部と脚部欠損	口 12.6	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向の2段程度のハケ目(1cmあたり6本)。	胴部内面下位に接合痕 脚部は貼付部から剥落			
第480図 PL.317	7	土師器 台付甕	床直 胴一部・脚部欠損	口 15.1	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、口唇部内面に凹線状の窪みが巡る。頸部～肩部外面左下方向のハケ目(1cmあたり5本)。胴部外面左上方向の3段ほどのハケ目(1cmあたり6本)。内面撫で。脚部は接合部から剥落。胴部内面下端に砂目粘土残存。	胴部内面下位に接合痕			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第480図 PL.317	8	砥石	床直	多面砥石	砥沢石	(7.1)	7.2	396.1	断面八角形状を呈する砥石破片。	
第480図 PL.317	9	砥石	床直	礫砥石	流紋岩	19.3	8.2	1425.2	背面側に光沢を帯びた研磨面。両端の小口部に打痕。	

2区73号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第483図	1	土師器 甕	+3 cm 口縁部～頸部片	口 17.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、内面撫で。				
第483図 PL.316	2	土師器 鉢	+12cm 3/4	口 10.3 高 7.9 底 7.1	細砂粒・雲母/良 好/灰黄褐	口縁部横撫で、体部外面縦の撫で、内面横の撫で。				
第483図	3	須恵器 杯	底部片	底 13.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は底部回転ヘラ削り後の貼付か。				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第483図 PL.316	4	敲石	床直	棒状礫	溶結凝灰岩	16.4	5.9	472.0	上端側に全周する敲打痕があるほか、小口部・側縁に打痕がある。	
第483図 PL.316	5	砥石	床直	礫砥石	粗粒輝石安山岩	24.4	25.4	6820.0	背面側平坦面に浅い刃ならし傷を伴う研磨面、礫周辺部に多方向の刃ならし傷がある。	

2区76号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第485図	1	土師器 杯	カマド 口縁部～体部片	口 10.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、体部外面撫で、内面丁寧な撫で。	器面摩滅
第485図 PL.316	2	土師器 杯	貯蔵穴 3/4	口 11.4 高 3.3 底 8.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、一部に指頭痕が残る、底部は手持ちヘラ削り。	
第485図 PL.316	3	黒色土器 杯	1/2	口 14.2 高 4.6 底 7.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削りか。内面丁寧なヘラ磨き後黒色処理。	内面やや摩滅
第485図	4	土師器 甕	+8 cm 胴部～底部片	底 4.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部外面斜のヘラ削り、内面撫で、底部ヘラ削り。	胴部内面下位に接合痕

第4章 発掘調査の記録

2区77号住居出土遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
-	1	砥石	北壁	礫砥石		14.6	15.9	1.132.6	裏表面とも弱い光沢面を有する。	非実測

2区78号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第489図	1	土師器 杯	+18cm 口縁部～底部片	口 12.3	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を 残す。内面撫で。	
第489図 PL.316	2	土師器 杯	掘り方 1/3	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら 削り。	
第489図	3	須恵器 椀	口縁部～体部片	口 16.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転不明。	
第489図	4	土師器 甕	+3cm 底部片	底 5.2	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	胴部外面斜のへら削り、内面撫で、底部へら削り。	器面摩滅 胴 部内面下位に 接合痕

2区79号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第492図 PL.316	1	土師器 杯か	+2cm 1/2	口 9.5 高 2.8	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部横撫で、体部外面撫で後押圧。底部手持ちへら削り、 内面撫で。	器面吸炭
第492図 PL.316	2	土師器 杯	床直 口縁部一部欠損	口 11.9 高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地
第492図 PL.316	3	土師器 杯	+30cm 口縁部一部欠損	口 11.8 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅顕著 粉っぽい素地
第492図 PL.316	4	土師器 高杯	床直 3/4	口 18.6 高 16.4 脚 13.0 稜 10.6	細砂粒/良好/橙	杯身部と脚部は接合。杯身部口縁部と裾部は横撫で、底部 から脚部はへら削り。内面は脚部がへら撫で。	
第492図 PL.316	5	土師器 甕	+8cm 口縁部～胴部上 半片	口 10.6 胴 14.7	細砂粒/やや軟質/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第492図 PL.316	6	土師器 甕	ピット内 口縁部～胴部下 位片	口 14.0 胴 14.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第492図	7	土師器 甕	+10cm 口縁部～胴部上 位片	口 16.6	細砂粒・粗砂粒・ 白色粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

2区82・85号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第494図 PL.317	1	土師器 杯	82住+11cm 口縁部一部欠損	口 10.5 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、外稜は凹線を巡ら し描出。内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地
第494図 PL.317	2	土師器 杯	82住+10cm 完形	口 11.5 高 3.5 稜 10.7	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り、器 面磨滅のため単位不明。	
第494図 PL.317	3	土師器 鉢	82住 口縁部～体部片	口 18.8 稜 19.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で、体部は手持ちへら削り。器面磨滅のため 単位不明。	
第494図	4	土師器 鉢	82住床直 口縁部～体部片	口 9.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、体部外面横のへら削りか。内面撫で。	器面の摩滅顕 著
第494図 PL.317	5	土師器 杯	85住 1/2	口 13.0 高 3.0 稜 13.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、体部(稜下)は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第494図 PL.317	6	土師器 甕	85住 口縁部～胴部上 位片	口 8.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部ハケ目後横撫で、胴部上位にボタン状円盤を貼付、 その下位に廉縄文(単位不明)が巡る。	
第494図	7	土師器 甕	85住床直 口縁部～胴部片	口 18.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面横のへら削り、内面撫で。	

2区86号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第495図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口 10.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	内面の摩滅顕 著 底部に黒 斑
第495図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	口 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅 粉っぽい素地

2区87号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第497図 PL.318	1	土師器 杯	床直 2/3	口 10.3 高 3.2	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第497図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	口 11.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部は手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第497図 PL.318	3	須恵器 蓋	+4cm 完形	口 10.7 高 2.9 摘 1.8	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は宝珠摘で天井部外面回転へ ら削り後の貼付。	体部外面にわ ずかに自然釉

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要	
第497図 PL.318	4	須恵器 蓋	床直 完形	口 8.1 高 2.1 摘 1.6	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘は宝珠摘で貼付。	体部外面に自然釉 天井部わずかに落ち込む	
第497図	5	須恵器 高杯	杯部底部～脚部 上位小片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。杯部と脚部は接合。	脚部に透孔が3カ所。	
第497図 PL.318	6	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上 半	口 19.7	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。		
第497図 PL.318	7	土師器 甕	床直 1/3	底 4.0	細砂粒・軽石/良 好/橙	胴部外面縦のへら削り、内面撫で。	器面摩滅	
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率			特 徴 ・ 状 態	
第498図 PL.318	8	鉄製品 鉸具		長6.4幅4.7厚1.1重37.1			三つの部品から構成される[かこ]でUの字形の金具内側2ヶ所の3mm程の凹みにT字形の金具[舌]の両端を差し込み回転軸とし、その外側二箇所開けた穴にI字形の金具を通し固定する形状である。	

2区88号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第499図 PL.318	1	土師器 鉢か	床直 1/2	口 21.0 高 12.5 底 16.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部下に弱い鈔状の突帯を巡らし、上位は連続する押圧。突帯下半はへら削りか。内面撫で。	器面摩滅顕著			
第499図 PL.318	2	土師器 広口壺	床直 口縁部～胴部片 凸	口 14.8 凸 19.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	凸帯は貼付か。口唇部横撫で、口縁部は撫で、胴部はへら削り、器面磨滅のため単位不明。				
挿図番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第499図 PL.318	3	砥石	+ 4 cm	礫砥石	粗粒輝石安 山岩	(15.0)	9.2	679.9	四面使用。下端小口部は横位研磨整形。上半部欠損。	

2区89号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第500図 PL.318	1	土師器 杯	口縁部一部欠損	口 11.1 高 3.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面撫で。				
第500図 PL.318	2	土師器 杯	+ 6 cm 1/3	口 12.8 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。				
第501図 PL.318	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部片	口 20.6	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面斜のへら撫で。	胴部外面中位剥離。			
第501図 PL.319	4	土師器 甕	床直 胴部一部欠損	口 22.3 高 34.1 底 4.5	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、胴部外面斜～縦のへら削り、内面横のへら撫で、底部へら削り。	胴部内面中位～下位に接合痕と輪積み痕 胴部内面変色			
第501図 PL.319	5	土師器 甕	床直 底部大半を欠損	口 20.6 底 6.1	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部にへら撫で。				
第501図 PL.319	6	土師器 甕	床直 胴部一部欠損	口 21.7 高 35.0 底 4.6	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面撫で。底部へら削り。	胴部外面中位に粘土付着 胴部内面下位に接合痕明瞭 器面摩滅顕著			
挿図番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第501図 PL.318	7	敲石	+ 6 cm	扁平礫	溶結凝灰岩	12.4	6.5	368	小口部上端・側縁に敲打痕がある。	

2区90号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第505図	1	須恵器 杯	カマド 1/4	口 13.6 高 4.0 底 9.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へら削り。	

2区91号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第503図 PL.319	1	土師器 埴	+ 8 cm 1/2	口 16.8 高 5.9	細砂粒/良好/橙	口縁部～体部外面撫でか。口縁部内面撫で後、やや粗い斜のへら磨き。	内外面に細かなハゼ
第503図	2	土師器 甕	床直 口縁部～頸部片	口 13.2	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部～頸部外面斜のハケ目(1cmあたり8本)後、口縁部横撫で。内面撫で。	
第503図	3	土師器 甕	+ 5 cm 口縁部～胴部片	口 11.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、胴部外面横のハケ目後、斜のハケ目(1cmあたり6本)。内面斜の撫で。	
第503図 PL.319	4	土師器 台付甕	+ 4 cm 1/3	口 13.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり7本)。内面撫で。	胴部内面下端に接合痕 胴部内面下半変色

第4章 発掘調査の記録

2区92号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第507図 PL.320	1	土師器 杯	1/4	口 11.8 口 3.0 稜 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。	内面の一部に厚く油煙が付着。				
第507図 PL.320	2	土師器 杯	1/3	口 11.4 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅				
第507図 PL.320	3	土師器 杯	+16cm 口縁部～底部片	口 14.8 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅				
第507図	4	須恵器 蓋	1/3	口 11.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は欠損するため形状は不明で、天井部外面回転へら削り後の貼付。	秋間古窯跡群産か				
第507図 PL.320	5	須恵器 蓋	床直 端部一部欠損	口 19.7 高 5.1 摘 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘は環状摘で、天井部外面回転へら削り後の貼付。					
第507図	6	須恵器 盤	口縁部～体部片	口 23.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へら削り後脚部貼付。口縁部に蓋受状の窪みを有する。					
第507図 PL.320	7	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	口 18.1 高 4.8 底 12.1	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は回転へら削り。内面底部はへら撫で。					
第507図	8	須恵器 甕	床直 胴部～底部片	底 9.0	細砂粒/還元/灰白	叩き整形。胴部外面へら削り、内面当て具は青海波文。底部へら削り。					
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考	
第507図 PL.320	9	石製模造品	+3 cm	白玉	滑石	径1.2	高0.7	1.6	上下両面の研磨は弱い。側面には粗い縦線条痕。		
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	残 存 率			特 徴 ・ 状 態				
第507図 PL.320	10	鉄製品 鏃	床直	長 7.6幅 0.6 厚 0.4 重 6.4	長頸鏃、先から7.6cm程で破損し茎を欠く。先端は斜めとがる片刃とみられるが錆化により形状は不明瞭						
第507図 PL.320	11	鉄製品 不詳	床直	長 4.7幅 0.5 厚 0.45 重 4.1	断面ほぼ正方形で徐々に細くなるが端部は尖らない。一方の端は破損し内部は錆化により空洞化する						

2区93号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第508図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	粉っぽい素地
第508図	2	土師器 甕	口縁部片	口 16.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で。	

2区94号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第510図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	粉っぽい素地
第510図 PL.320	2	土師器 壺か	掘り方 胴部～底部片	底 4.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面撫で、下端縦の撫で、内面へら撫で。	胴部外面中位に、環状の赤彩

2区95号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第511図 PL.320	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 12.2 高 3.6 稜 13.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。	
第511図 PL.320	2	土師器 鉢	床直 口縁部～底部片	口 19.8	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面上半横、下半縦のへら削り、内面撫で。	

2区96号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第513図 PL.320	1	土師器 埴	床直 胴部一部欠損	口 9.9 高 14.0 底 3.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部外面縦、内面横～斜のへら磨き、胴部外面上半横のへら磨き後、縦のへら磨き。下半横～斜のへら磨き。内面撫で。	
第512図 PL.320	2	土師器 壺	床直 3/4	口 15.2 高 28.1 底 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐	口縁部内外面ハケ目後、横のへら磨き。胴部外面縦のへら磨き。内面横のハケ目。	胴部外面中位に黒斑
第512図 PL.320	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部下 位2/3	口 15.4 胴 19.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は口唇部から胴部までハケ目後口唇部を横撫で、胴部はへら磨き。内面は口縁部がハケ目、胴部はへら撫で。	

2区97号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第514図 PL.320	1	土師器 皿	床直 1/2	口 14.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第514図	2	土師器 杯	掘り方 1/3	口 10.7	細砂粒・輝石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面摩滅
第514図	3	土師器 杯	+7 cm 1/3	口 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	底部外面に修復痕 底部に黒斑

観察表

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第514図	4	土師器 鉢	床直 口縁部～底部片	口 19.8	細砂粒・角閃石・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。内面撫でか。	器面摩滅
第514図	5	土師器 高杯	杯部底部小片		細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒/良好/赤褐	杯部と脚部は接合。内外面とへら磨き、単位不鮮明。	
第514図	6	須恵器 甕	床直 口縁部片		細砂粒/還元/暗灰	有段口縁で、頸部外面に6～7本単位の櫛描き波状文を巡らす。	内外面に細かなハゼ自然釉

2区98号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第517図 PL.320	1	土師器 鉢	1/2	口 16.0	細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は放射状へら磨き(暗文状)、体部から底部はへら削りか、器面磨滅のため単位不明。内面は口縁部が斜放射状へら磨き(暗文状)。				
第517図 PL.320	2	土師器 台付甕	床直 1/3	脚 8.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり8本)。内面斜の強い 篋撫で。脚部外面右下方向のハケ目。内面下半縦の強い撫 で。脚部天井及び底部内面砂目粘土で補填。	胴部内面下位 に接合痕			
第516図	3	土師器 台付甕	床直 1/3		細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	肩部外面左下方向、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり 5～6本)。内面撫で。脚部天井及び底部内面砂目粘土で補 填。	胴部外面中位 に炭化物付着 胴部外面下 半及び内面中 位変色 胴部 内面下位に接 合痕			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第516図 PL.320	4	砥石	+ 8 cm	礫砥石	流紋岩	18.3	11.4	1323.4	表裏面・右側面は光沢を帯びた研磨面・刃ならし傷。 両端の小口部に敲打痕。	

2区99号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第519図	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口 10.8 底 8.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、体部外面撫で、内面丁寧な撫で、底部手持ちへら削り。	
第519図	2	須恵器 小壺	胴部～底部片	底 3.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転方向不明。	

2区100号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第521図 PL.321	1	土師器 高杯	杯部片	口 12.6	細砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐	杯部内外面赤彩後斜のへら磨き。	
第521図	2	土師器 器台	+ 4 cm 脚部片	脚 14.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	脚部外面赤彩後縦のへら磨き、内面撫で、上半は横のへ ら削り。穿孔は3孔か。	
第522図	3	土師器 壺	+ 2 cm 口縁部片	口 23.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口唇部と口縁部中位の段上位に刺突文が巡る。口縁部は内 外面ともへら磨き。頸部にハケ目。	
第522図	4	土師器 埴	床直 口縁部片	口 14.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部内外面縦のへら磨き。	外面摩滅
第522図 PL.321	5	土師器 甕	+ 2 cm 口縁部片	口 16.6	細砂粒/良好/浅黄 橙	内面口縁部は赤色塗彩。口縁部は外面にL R 縄文が施文、 内面は縦位のへら磨き。	
第522図	6	土師器 埴	床直 頸部～胴部片		細砂粒/良好/明赤 褐	胴部外面縦のへら磨き、頸部内面押圧、胴部内面横のへら 撫で。	頸部内面に接 合痕
第522図	7	土師器 埴	頸部～胴部片		細砂粒/良好/橙	胴部外面縦のへら磨き、頸部内面押圧、胴部内面斜の撫で。	
第522図	8	土師器 埴	胴部片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面ハケ目後縦のへら磨き、内面横の撫で。外面赤彩。	
第522図	9	土師器 壺	+ 2 cm 胴部～底部片	底 6.2	細砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	胴部外面斜～横のへら撫で、胴部外面下端連続する押圧。 内面撫で。	胴部外面下端 ～底部に黒斑
第522図 PL.321	10	土師器 台付甕	+ 2 cm 1/3	口 17.0	細砂粒・軽石/良 好/灰黄褐	口縁部横撫で、頸部～肩部外面左下方向、胴部外面左上方 向のハケ目(1cmあたり6本)。肩部内面やや強い縦の撫で。	
第522図 PL.321	11	土師器 台付甕	+ 6 cm 口縁部～胴部	口 15.6 胴 27.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり4～5本)、内面 胴部は撫で。	

2区土坑土坑出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第534図 PL.321	1	土師器 杯	25土 1/2	口 10.9 高 3.6 稜 9.9	細砂粒/やや軟質/ 橙		
第534図 PL.321	2	土師器 台付甕	36土 口縁部～胴部上 位片	口 14.2	細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部は縦位のハケ目、上位に横位のハケ 目が巡る(1cmあたり6本)。	
第534図	3	土師器 台付甕	54土 口縁部～胴部上 位片	口 9.8	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部横撫で、胴部はハケ目。内面胴部は撫で、指頭痕が 残る。	

第4章 発掘調査の記録

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第534図 PL.321	4	須恵器 杯(灯明か)	70土 完形	口 9.6 高 3.2 底 5.5	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/酸化/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	内外面に帯状に煤付着			
第534図 PL.321	5	須恵器 杯	70土 2/3	口 11.2 高 3.6 底 5.8	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。				
第534図 PL.321	6	須恵器 椀	70土 口縁部一部欠損	口 14.0 高 5.8 底 7.4 台 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台は底部回転糸切り後の貼付。	体部内外面に帯状に煤付着			
第534図 PL.321	7	黒色土器 椀	70土 高台欠損	口 14.4 底 7.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。内面丁寧なヘラ磨き後黒色処理。高台は貼付で、貼付部から剥落。	器面摩滅			
第534図	8	土師器 羽釜	73土 鏝～胴部小片	鏝 26.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面に指頭痕が残る。				
第534図 PL.321	9	土師器 手捏ね	79土 1/2	口 12.1 高 6.4 底 6.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部雑な横撫で、体部外面縦の撫で、内面斜の撫で。				
第534図	11	土師器 壺	106土 口縁部～胴部片	口 16.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部はシャープな作りで、頸部外面斜の撫で、胴部外面斜の撫で、内面やや雑な撫で。頸部内面に押圧。				
第534図	12	土師器 直口壺	106土 口縁部片	口 14.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は内外面とも縦位のヘラ磨き、器面磨滅のため単位不明。				
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第534図 PL.321	10	敲石	104土	棒状礫	雲母石英片 岩	17.9	3.5	221.3	上端側縁・右側縁下部を敲打。	

2区2号井戸出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要	
第540図 PL.322	1	土師器 蓋	ほぼ完形	摘 4.8	細砂粒/良好/橙	摘みは摘み上か。中央に穿孔が1カ所。		
第540図 PL.322	2	須恵器 杯	3/4	口 12.6 高 3.5 底 5.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第540図	3	土師器 甕	口縁部片	口 18.7	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、胴部外面上半横のヘラ削り、内面撫で。		
挿図 図版	No.	種別	口径(長)	底径 (幅)	器高 (厚)	木取り	形・成調整等	摘要
第540図 PL.322	4	曲物側板		(10.9)	0.5	柾目	上端部以外、端部欠損。	針葉樹
第540図 PL.322	5	曲物底板	(12.3)		0.7	柾目	左端部は直線的に削られ2次使用痕跡か。	針葉樹
第541図	6	曲物側板	(20.4) (60)	14.0	0.4		接合部で三重。カバ止め穴は9カ所。	針葉樹
第541図	7	曲物側板	(20.4)(65.5)	14.0	0.4	柾目		針葉樹
第541図 PL.322	8	曲物底板	20.4		1.2	柾目	側部2カ所接合により丸板を作る。端部に向かい薄くなる。下側部に対角に四つの目釘穴あり。深さ2cmほど。表面は平滑で丸みあり、裏面荒れて平ら。	針葉樹
第541図 PL.322	9	曲物底板	残8.2		0.9	柾目	表面丸みあり、裏面平ら気味。	スギ

2区4号井戸出土遺物

挿 図 版	No.	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎 土	色調	形・成調整等	備考
第542図 PL.322	1	在地系 土器	内耳 鍋	-	-	-	-	口縁部 から底 部片	B	灰・暗 灰	断面中央は暗灰色、断面は灰白色のサンドイッチ状。内面器表は暗灰色、外面器表は灰色。口縁部下でゆるく外反し、端部は内側に突き出る。内耳部外面下位は粘土を貼り付けたような痕跡があり、下は器壁に粘土紐を通して推定されるが上部は不明。体部外面は板状工具による横位撫で、刷毛目状痕が残る。体部外面下位は寛撫で。	Ⅱ期。
第542図	2	在地系 土器	内耳 鍋	-	-	-	-	口縁部 片	B	灰褐	断面はにぶい橙色、器表は灰褐色。口縁部外面の横撫範囲は3cmと狭い。器壁はやや厚い。口縁部上面は平坦。	中世。
第542図	3	在地系 土器	片口 鉢	-	-	-	-	口縁部 片	B	暗灰	還元炎。口縁部上面は僅かに丸みを持ち、端部内面は突き出る。突出部先端は摩滅のため形状不明。口縁部外面は丸く、外方に僅かに肥厚。	Ⅲ・Ⅳ期。
第542図	4	在地系 土器	片口 鉢	-	-	-	-	口縁部 片	B	灰	還元炎。体部は僅かに外反し、口縁部は僅かに内湾。口縁部内面突き出すが、器表の摩滅により詳細不明。口縁部外面も器表摩滅。口縁部内外面の摩滅は、細く剥離が連続したような形状。体部内面は使用によりやや平滑。	Ⅲ・Ⅳ期。
第542図 PL.322	5	在地系 土器	片口 鉢	-	-	-	-	体部か ら底部 片	B	灰	還元炎。底部と体部境から体部下位に相向かいとなる弧状のすり目。底部回転糸切無調整か。	V・Ⅵ期。
第542図 PL.322	6	在地系 土器	片口 鉢	-	-	12.0	-	1/3	B	灰	還元炎。底部に比して体部下位の器壁厚い。体部は外反。体部内面下位に8本一単位の直線的でシャープなすり目2箇所残存。すり目は全体で4箇所と推定される。底部回転糸切無調整で周縁の器表は摩滅。使用により、体部内面下位と底部周縁の器表摩滅し、体部内面中位は平滑となる。内面の底部と体部境は擦れていない。	V期か。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考		
第542図 PL.322	7	砥石		切り砥石	砥沢石	10.3	4.3	130.1	側縁は折断後、磨き整形。			
第542図 PL.322	8	茶臼			粗粒輝石安 山岩	(径30)		297.5	外面は粗い磨き整形、内面から口唇は丁寧な磨き整形。			

2区井戸出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第544図	1	在地系土器	片口鉢	6井戸	-	(11.8)	-	1/4	B	灰	還元炎。体部は外反し、外反部の器壁は薄い。残存部にすり目は認められない。使用により、体部内面中位以下の器表は摩滅し、底部と体部境は窪む。体部内面上位は平滑となる。底部回転糸切無調整で周縁は摩滅。	IV期か。
第544図	2	在地系土器	内耳鍋	7井戸	-	-	-	体部片	A	暗灰・黒	断面はにぶい黄褐色、内面器表は暗灰色、外面器表は黒色。体部外面下端付近の器表は褐色。器壁厚く、体部は直線的に立ち上がる。体部下端付近は内湾。体部外面下端付近は篋撫で。	I・II期か。
第544図	3	在地系土器	内耳鍋	7井戸	-	-	-	底部片	B	灰オリーブ・灰	断面の外面側はにぶい黄色、内面側は灰色、内面器表は灰色、外面器表は灰オリーブ色。外面は砂底状。内面は撫で。	中世。
第544図	4	在地系土器	内耳鍋	8井戸	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。内耳部片。口縁部は外反。内耳下部外面には粘土紐が突き出たような突起が認められ、下部のみ器壁に通して接合した可能性がある。	中世。
第544図	5	在地系土器	内耳鍋	8井戸	-	-	-	体部から底部片	B	灰	還元炎。体部外面下端は内湾し、外面は篋撫で。底部外面は砂底状。底部は残存部が少なく、丸底か平底か不明。	中世。
第544図	6	在地系土器	内耳鍋	8井戸	-	-	-	体部から底部片	B	灰	還元炎。体部外面下端は内湾し、外面は篋撫で。底部外面は砂底状。底部は残存部が少なく、丸底か平底か不明。	中世。
第544図	7	在地系土器	片口鉢	8井戸	-	-	-	1/9	B	灰	還元炎。器壁は厚く、体部中位付近でゆるく外反。口縁部はやや内湾。口縁部端部内外面は突出するが、使用による摩滅が著しく、形状は不明。体部内面下位は使用により平滑となる。	III期か。
第544図 PL.322	8	在地系土器	内耳鍋	9井戸	(19.9)	(18.8)	-	1/8	B	灰	断面はにぶい黄褐色。器表は灰色。口縁部は外反し、端部内面は丸みを帯びて突き出る。体部外面は篋状工具による縦位撫で。体部外面下位は篋撫で。底部外面は砂底状。丸底。	I・II期。
第544図	9	在地系土器	内耳鍋	9井戸	(27.7)	-	-	1/8	B	黒・灰黄	断面はにぶい黄褐色、外面器表は黒色、内面器表は灰黄色。口縁部は外反し、端部内面は尖り気味に突き出す。	I・II期。
第544図 PL.322	10	在地系土器	火鉢か	9井戸	-	-	-	口縁部片	B	灰黄褐	断面はにぶい黄褐色、器表は灰黄褐色。口縁部器壁は厚く、端部内面は突出して尖る。残存部に焼成以前の穿孔1箇所残存。	中世。
第544図	11	在地系土器	不詳	9井戸	-	-	-	体部上位片	B	灰オリーブ	還元炎。器壁は厚く、口縁部は外反。口縁部は横撫で。体部外面は篋状工具による横位撫で。体部内面は横位撫で。	中世。
第544図	12	在地系土器	片口鉢	9井戸	-	-	-	体部から底部	B	黒	断面は褐色、器表は黒色。底部外面は砂底状。内面底部周縁から体部下端は使用による摩滅によりドーナツ状に窪む。	中世。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況			備考
第545図 PL.322	13	石製品	9井戸	楕円磔	粗粒輝石安山岩	19.2	16.1	3676.8	背面側中央付近に径6.5cmの凹み部。凹み部の内部は敲打後、摩耗。			
第545図 PL.322	14	石製品	9井戸	楕円磔	粗粒輝石安山岩	18.0	14.5	2748.9	背面側中央付近に径5cmの凹み部。凹み部内部は敲打後、摩耗。			
第545図 PL.322	15	石製品	9井戸	楕円磔	二ッ岳軽石	22.2	20.1	2480.3	軽石を厚く板状に整形、背面側に大小2ヶ所の凹み部を作出。凹み部内部は敲打後、丁寧な摩耗。			
-	16	敲石	9井戸	棒状扁平磔	黒色片岩	11.5	6.0	425.2	小口部打痕			非実測

2区ピット出土遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況			備考	
第547図 PL.322	1	石製模造品	46ピット	白玉	滑石	径1.1	高0.7	1.4	上下両面の研磨は弱い。側面には粗い縦位線条痕。				
-	9	砥石?	658ピット	扁平磔	デイスait	9.3	7.0	242.1	表裏面に線条痕を伴う研磨面がある。			非実測	
挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要				
第548図	2	土師器 台付甕か	562ピット 胴部片		細砂粒/良好/黒褐	胴部は外面がハケ目、内面はヘラ撫で。							
第548図	3	土師器 壺	562ピット 胴部片		細砂粒/良好/黒褐 にぶい黄橙	胴部外面縦のヘラ磨き、内面横のヘラ撫で。			胴部内面に輪積み痕				
第549図 PL.322	4	手捏ね土器 椀形	510ピット 口縁部1/3欠損	口 3.4 高 3.4 底 2.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部・体部・底部とも器面磨滅のため単位不明。内面は撫で。							
挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等		備考
第550図	5	在地系土器	片口鉢	658ピット	-	(10.4)	-	1/6	B	灰黄	断面は灰白色。還元炎。体部下位はやや内湾し、残存部上位で外反。底部回転糸切無調整。内面体部下位以下は、使用により器表摩滅し、中位は平滑となる。		
挿図番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要				
第551図	6	土師器 壺	550ピット 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	内面に輪積み痕が残る。外面は縦位のヘラ磨き、内面はヘラ撫で。							
第551図	7	土師器 埴	566ピット 口縁部~体部片	口 14.9	細砂粒/良好/赤	口縁部は斜放射状、体部は斜めのヘラ磨き。内面は口縁部が斜放射状ヘラ磨き。							
第553図	8	土師器 杯	593ピット 口縁部~底部片	口 12.8 稜 12.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。							

第4章 発掘調査の記録

2区1号土器埋設遺構出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第554図 PL.323	1	土師器 壺	1土器埋設 3/4	口13.4 高22.1 底 9.0	細砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部内外面ハケ目後縦のへら磨き、胴部外面縦のへら磨き、内面撫で。	
第554図 PL.323	2	土師器 壺	1土器埋設 口縁部・胴部一部欠	底 10.6	細砂粒軽石/良好/橙	口縁部～胴部外面ハケ目後縦のへら磨き、口縁部内面縦～横のへら磨き。肩部内面横のハケ目(1cmあたり9から10本)。胴部内面下端斜のハケ目。	胴部内面のハゼ顕著

2区2・3号土器埋設遺構出土遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第555図 PL.323	1	土師器 壺	2土器埋設 口縁部一部欠損	口30.0 高44.1 底 10.4	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙良好/にぶい黄橙	口縁部外面へら磨きか。胴部外面横～斜のへら磨き、内面撫で。	口縁部内面及び胴部内面下半摩滅。器胎吸炭
第555図 PL.323	2	土師器 壺	3土器埋設 1/2	底 9.2	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	胴部外面縦のへら磨き、内面撫で。	胴部内面のハゼ顕著

2区2・3号墓出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第556図 PL.324	1	在地系土器	皿	2号墓 +6cm	11.3	5.9	2.7	完形	B	灰黄	体部下位は外反し、口縁部は僅かに内湾。内面の底部と体部境は強い横撫により小さく窪む。底部左回転糸切無調整。	15世紀前半～中。
挿図版	図番	種別	器形	出土位置	径1(mm)	径2(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存	形・成調整等/備考		
第556図 PL.324	2	銭貨	皇宋通寶	2墓	24.70	24.73	1.10～1.15	2.68	完形	周縁の一部僅かに欠損。篆書。北宋、1038年初鑄。		
第556図 PL.324	3	銭貨	景祐元寶か	2墓	23.37	23.38	1.08～1.19	2.07	完形	篆書の景祐元寶か。北宋、1034年初鑄か。		
第556図 PL.324	4	銭貨	祥符元寶	3墓+11cm	24.96	24.95	1.07～1.26	3.02	完形	北宋、1008年初鑄。		
第556図 PL.324	5	銭貨	洪武通寶	3墓+8cm	23.45	-	1.41～1.62	3.17	右側縁欠	無背。明、1368年初鑄。		

2区1号火葬跡出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第557図	1	龍泉窯系青磁	碗		-	-	-	口縁部片		灰	内外面の釉は泡立ち、二次被熱であろう。文様は不鮮明だが、鎊のない蓮弁文であろう。	I-5a類。
挿図版	図番	種別	器形	出土位置	径1(mm)	径2(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存	形・成調整等/備考		
第557図 PL.324	2	銭貨	宣和通寶		24.13	23.96	0.97～1.06	2.22	完形	やや変形し周囲が波打つ。隸書。北宋、1119年初鑄。		

2区2号集石遺構出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第558図 PL.324	1	在地系土器	不詳		-	(16.8)	-	1/8	A	黒	断面はにぶい黄褐色、器表は黒色。外面は外型によ施文。底部外面に半球径状の脚貼り付け。脚は1箇所残存。脚端部は摩滅。底部外面は砂底状。	江戸時代以降か。

2区18号溝出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第562図	1	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	体部下位から底部片	B	褐灰・黒	還元炎。断面は灰白色、内面と体部外面下端以下の器表は褐灰色、体部外面器表は黒色で煤付着。体部の器壁は厚く、下位で内湾。内湾部の外面は匏撫で。底部外面は砂底状。丸底であろう。	I・II期か。

2区15・16号溝出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第563図 PL.324	1	古瀬戸	瓶類		-	-	-	体部片		灰黄	外面に灰釉。細かい貫入が入る。1/2ほどは灰釉が剥がれる。	古瀬戸
第563図	2	常滑陶器	甕		-	-	-	体部片		にぶい赤黒・にぶい褐	断面は橙色、内面器表は赤黒色、外面器表はにぶい褐色。内面に自然釉が斑状にかり、体部下位と考えられる。外面から見て右上の割れ口に漆状黒色付着物があり、漆継ぎの可能性が高い。	中世。漆継か。
第563図	3	常滑陶器	甕か		-	-	-	体部片		暗赤褐・にぶい橙	断面は橙色、外面器表は暗赤褐色。内面器表はにぶい褐色。外面は工具による縦位撫で。内面の指頭厚痕部の器表摩滅し、撫で部分の高い箇所器表も摩滅して平滑。片口鉢にしては体部のカーブが緩すぎ、甕の二次使用痕の可能性が高い。	中世。
第563図 PL.324	4	常滑陶器	甕か		-	-	-	体部下位から底部		黒	断面は灰白色、外面の器表は黒色。内面は自然釉がきれいにかかる。器壁は厚い。	中世。
第563図	5	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	褐灰	断面はにぶい黄褐色。器表は褐灰色。器壁厚く、口縁部は短く外反。口縁端部は内側に小さく突き出る。	I期。
第563図	6	在地系土器	内耳鍋か		-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁はやや薄い。	中世。

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第563図	7	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部片	B	黒	断面はにぶい橙色、器表は黒色。焼成最終段階は燻し気味。器壁はやや厚く、口縁部は体部から直線的に延びる。口縁部は僅かに内湾。内面口縁部下の段は、幅広で不明瞭。口縁部上面は平坦で、内面端部はやや明瞭な稜をなす。	Ⅱ期か。
第563図	8	在地系土器	内耳鍋か	-	-	-	-	口縁部片	B	黄灰	断面はにぶい黄橙色、器表は黄灰色。器壁は厚く、端部付近は僅かに内湾し、端部上面は平坦。端部内外面は明瞭な稜をなす。口縁部から体部外面は斜位の刷毛目状撫で。内面右下には若干窪みが確認され、内耳貼り付けの可能性はある。	中世。
第563図	9	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部片	B	黄灰	還元炎。器壁はやや厚く、口縁部は外反せず直線的。内面口縁部下の段は低く明瞭で、緩い稜をなす。口縁部内面は明瞭な稜をなす。	Ⅱ・Ⅲ期。
第563図	10	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部片	B	灰・黒	断面は灰色、器表は黒褐色から黒色。器壁は厚いが、口縁部は直線的。口縁部上面はほぼ平坦で、内面の稜は明瞭。	Ⅱ期。
第563図	11	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部から体部上位片	A	褐灰・黒	断面はにぶい黄橙色、内面器表は褐灰色、外面器表は黒色。器壁厚く、口縁部は外反。口縁部上位内面は器厚を減じ、端部内面は内側に突き出す。体部外面は横位の刷毛目状撫で。	Ⅰ期。
第563図	12	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁は薄く、口縁部はやや外反して長く延びる。口縁部上面は丸みを持つが、端部内外面は稜をなす。内面口縁部下の段は緩く低いが、稜はやや明瞭。	Ⅳ・Ⅴ期。
第563図	13	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部から体部片	B	黄灰・黒褐	口縁部の断面中央は灰白色、断面は橙色、内面器表は黄灰色、外面器表は黄灰色から黒褐色。口縁部は緩く外反し、やや長く延びる。端部付近は内湾。口縁部上面は平坦。外面に皸状亀裂痕僅かに残る。	Ⅱ期。
第563図	14	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部片	B	黄灰	断面はにぶい黄橙色、器表は灰黄色。口縁部下で緩く外反し、口縁部は内湾気味に延びる。口縁部内面は小さく屈曲して突き出る。内面口縁部下の段は幅広で明瞭。	Ⅱ期。
第563図	15	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	体部片	B	黒	断面はにぶい黄橙色、器表は黒色。焼成最終段階は燻し。内面口縁部下の段は低くやや不明瞭だが、下部の稜は明瞭。器壁厚い。	Ⅰ～Ⅲ期か。
第563図	16	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁はやや厚く、端部内外面は突き出る。端部内外面の器表は摩滅。端部上面は丸みを持つ。	Ⅲ～Ⅴ期。
第563図	17	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	赤灰	断面はにぶい橙色、器表は赤灰色。口縁部小さく外反。器壁はやや厚い。口縁部内外面の摩滅著しい。端部内面は丸く突き出ている可能性高い。	Ⅲ～Ⅴ期。
第563図	18	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	灰白	口縁部は外反して開く。器壁は非常に厚いが、口縁部は器厚を減じる。口縁部内面は突き出るが、器表の摩滅著しい。端部外面の器表も摩滅。端部外面直下は、轆轤目状の凹凸。内面口縁部下は器表剥離部分が帯状をなす。また、この部分に筋状の傷があるが、使用に伴うか否かは不明。	Ⅲ～Ⅴ期か。
第563図	19	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	黄灰・灰	断面中央は黄灰色、断面はにぶい黄橙色。器表付近から器表は黄灰色から灰色。焼成最終段階は還元炎。器壁はやや厚く、口縁部は外反気味。口縁部外面直下は、横撫でにより凹線状に浅く窪む。口縁部上面は丸く、内面は大きく突き出るが摩滅が著しい。	Ⅲ・Ⅳ期か。
第563図	20	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	体部片	B	灰	還元炎。残存部上位は横撫で。内面中位から上位は凹線状の浅い窪みが3条めぐる。内面下位は使用により平滑。	中世。
第563図	21	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	体部片	B	にぶい黄橙	断面はにぶい橙色、器表はにぶい黄橙色。残存部内面下位は使用により器表摩滅し、中位は平滑。	中世。
第563図	22	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	体部から底部片	A	灰・黒褐	断面はにぶい黄橙色、器表は灰色から黒褐色。体部下位から外反して開く。使用により体部と底部境が窪み、断面の色調が現れる。体部内面の器表も摩滅するが、器表の灰色部分内で摩滅が止まる。底部外面の器表も摩滅が著しく、断面の色調が現れる。	中世。
第564図 PL.324	23	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	下半部片	B	灰	還元炎。体部下位の器壁厚い。底部回転系切無調整。体部内面下位に、4本一単位の幅広弧状すり目。すり目は残存部に2箇所。すり目部分の器表は、使用により摩滅。摩滅部より上位の器表は平滑。	Ⅴ・Ⅵ期。
第564図	24	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	体部下位から底部片	B	灰黄褐・黒褐	断面はにぶい黄橙色、内面器表は灰黄褐色、外面器表は黒褐色。底部付近の器壁はやや厚いが、体部は薄い。体部は内湾気味に開く。底部回転系切無調整。使用により、体部内面下位と底部周縁の器表は摩滅し、底部と体部境、体部下位の器表は平滑。底部左回転系切無調整。	中世。
第564図	25	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	体部下位から底部片	B	灰	還元炎。体部下位から外反して開く。内面の器表は使用により全面摩滅。底部外面も器表摩滅。内面に長径5mmの礫が突き出る。	中世。
第564図	26	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	体部下位から底部片	B	灰	還元炎。器壁薄い。体部は内湾気味に立ち上がる。底部左回転系切無調整。使用により体部下位と底部周縁の器表摩滅し、体部中位と体部と底部境の器表は平滑。	中世。
第564図	27	在地系土器	壺	(14.5)	-	-	1/4	B	灰から橙	断面は橙色、器表は橙色から灰色。口縁部は外湾し、端部外面下位にゆるい稜をなす。頸部外面は粗い縦位磨き。肩部内面の器表は斑状に剥離。	中世。	
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況		備考	
第564図 PL.324	28	板碑			雲母石英片岩	(20.7)	(15.5)	1391.3	右側縁に平坦な整形面。左辺を除く各辺は丸味を帯びる。			
-	29	石製品		茶白破片	粗粒輝石安山岩	9.7	4.8	189.1	側縁側を平滑に研磨。加工意図不明。		非実測	

2区17号溝出土遺物

挿図番号 PL.番号	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第565図	1	須恵器 杯身	1/3	口 12.4 高 4.4	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部回転ヘラ削り。	器面摩滅
第565図	2	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 12.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面撫で。	器面摩滅
第565図 PL.324	3	土師器 甕	+38cm 口縁部～胴部下 位片	口 22.6 胴 22.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

第4章 発掘調査の記録

挿図番号 PL.番号	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第566図 PL.324	4	須恵器 すり鉢	体部～底部片	底 9.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部と体部下端外面平行叩き、 体部外面横のカキ目。	体部外面と底部内面に自然釉
第566図 PL.324	5	須恵器 横瓶	胴部片		細砂粒・白色粒/ 還元焰/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

2区11号掘立柱建物出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第568図	1	古瀬戸	小皿	P 3	-	(4.6)	-	底部片		灰黄	内面は無釉。体部外面の1部に斑状の灰釉。底部右回転糸切無調整。底部推定径は4.6cm。底部内面は平滑となる。	古瀬戸。

2区15号掘立柱建物出土遺物

挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第572図 PL.325	1	砥石	P5	切り砥石	砥沢石	(3.2)	2.5	20.7	四面使用。使用面は荒れて線条痕等は不明。	

2区16号掘立柱建物出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第573図	1	在地系土器	内耳鍋か	P 2	-	-	-	体部下位から底部片	B	黄灰	底部外面は砂底状。器壁は薄い。平底。	中世。

2区21号掘立柱建物出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第578図 PL.325	1	在地系土器	皿	P 6	(7.5)	(6.0)	1.6	1/3	B	にぶい 黄橙	口径に比して底径大きく、器高は低い。体部器壁厚。底部周縁は回転横撫でにより窪む。底部左回転糸切無調整。	14世紀。

2区1号竪穴状遺構出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第588図 PL.325	1	在地系土器	皿	+20cm	7.2	4.1	2.0～2.2	口縁部1/2、底部完	B	黒褐・にぶい 黄橙	体部から口縁部は直線的に開く。底部左回転糸切無調整。底部内面周縁は、回転横撫によりドーナツ状に浅く窪む。	中世。
第588図 PL.325	2	在地系土器	片口鉢	+2cm	-	-	-	口縁部から体部片	A	灰黄	還元炎。体部から口縁部は直線的に開く。口縁部上面は浅く窪む。端部内外面は上方から押しつぶすようにして内外面に広げる。端部内面の上面は平坦に摩滅。使用により端部内面下位の器表摩滅し、中位は平滑となる。体部外面に皺状亀裂残る。	IV・V期。5に似るが色調と外反度合いが異なる。
第588図 PL.325	3	在地系土器	片口鉢	+33cm	-	(12.0)	-	1/4	B	灰黄	還元炎。体部下位は外反。内面体部下端に幅広不均一な5本一単位のすり目を長さ3cm～4cm施す。すり目は残存部に2箇所だが、間隔は不均一。体部内面下端と底部周縁の器表は摩滅、体部内面中位、体部と底部境、底部中央の器表は平滑となる。左回転糸切無調整で周縁は摩滅。体部外面下端は回転篋削り。	V・VI期。
第588図	4	在地系土器	片口鉢か	-	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁厚。口縁部上面は丸みを持ち、端部内外面は突き出る。端部内面先端は摩滅し、先端形状は不明。	中世。
第588図	5	在地系土器	片口鉢	+2cm	-	-	-	口縁部片	A	黄褐	口縁部はやや外反。口縁部上面は浅く窪む。端部内外面は上方から押しつぶすようにして内外面に広げる。端部内面の上面は平坦に摩滅。口縁外反部内面の器表はやや摩滅。使用により端部内面下位の器表摩滅し、中位は平滑となる。体部外面に皺状亀裂残る。	IV・V期。2に似るが色調と外反度合いが異なる。

2区土坑出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第593図 PL.325	1	在地系土器	片口鉢	2土	(30.3)	-	-	1/6	B	灰～暗灰	断面は灰白色、器表は灰色から暗灰色。口縁部は横撫で。体部から口縁部は直線的に延びる。口縁部は内外面に突き出るが、両端部共に器表摩滅。片口部の外面端部は口縁部と同じ幅で摩滅し、内面端部は幅狭く摩滅。使用により、体部内面下位の器表は摩滅し、中位は平滑となる。器壁は厚い。	III・IV期。
第593図 PL.325	2	瀬戸陶器	鉢か	4土	-	-	-	口縁部片		灰白	口縁部は外反し、端部は上方に折り曲げる。内面は鉄絵具による1重圏線内に施文。口縁部は欠損部多いが、口鏝であろう。内外面は透明釉で白色を呈する。	登窯。
第593図 PL.325	3	古瀬戸	折縁深皿	8土	-	-	-	口縁部片		灰黄	内面の轆轤目はやや顕著。口縁部端部は屈曲して外反し、内面に折り返したように明瞭な稜を有する段差。内外面に灰釉。口縁部上面はやや窪む。	古瀬戸後I期。
第593図 PL.325	4	中国磁器	白磁皿	15土+2cm	(9.4)	-	-	1/8			外面口縁部下は回転篋削りだが、削り残しがある。内外面に透明釉。細かい貫入が入る。	白磁D群。

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第593図	5	在地系土器	内耳鍋	15土	-	-	-	口縁部片	B	褐灰	断面はにぶい黄色。やや器壁厚い。口縁端部上面は平坦で、端部内面は内湾して小さく突き出るように丸くする。	中世。
第593図 PL.325	6	在地系土器	内耳鍋	15土	-	-	-	口縁部片	B	黒褐	断面はにぶい黄色、器表は黒褐色。器壁は薄く、口縁端部内外面は明瞭な稜をなす。内耳は器壁に貼り付ける。	Ⅲ期以降か。
第593図	7	在地系土器	内耳鍋	15土	-	-	-	底部片	B	黄灰	断面はにぶい黄色、体部外面の器表は黒褐色、内面の器表は黄灰色。体部外面下端から体部外面の器表はにぶい褐色。底部外面は砂底状で周縁が小さく窪む。体部下位は緩く内湾し、外面下端は寛撫で。平底か。	中世。
第593図	8	瀬戸・美濃陶器	不詳	46土	-	-	-	口縁部片		灰白	口縁端部外面は凹線を1条めぐらす。内外面に灰釉。	江戸時代か。
挿図版	図番	種別	器形	出土位置	径1(mm)	径2(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存	形・成調整等/備考		
第593図 PL.325	9	銭貨	紹聖元寶	47土床直	23.25	23.93	1.32～1.52	2.38	完形	篆書。無背。北宋、1094年初鑄。		
第593図 PL.325	10	銭貨	元祐通寶	47土	24.49	24.19	1.31～1.47	2.35	完形	行書。北宋、1086年初鑄。		

2区1号地土坑出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第595図 PL.325	1	在地系土器	片口鉢	+18cm	(26.0)	-	-	1/4	B	灰	還元炎。口縁部横撫で。口縁部やや歪む。器厚は比較的均一で、口縁端部は折り曲げるように立ち上がる。口縁端部は丸みを帯び、器表は摩滅。口縁端部斜め上方は平坦。	I期か。

2区3号井戸出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第596図	1	常滑陶器	甕か		-	-	-	体部片		暗赤褐・灰褐	断面は灰白色、外面器表は暗赤褐色、内面器表は灰褐色。外面は板状工具による撫で。	中世。
第596図	2	在地系土器	片口鉢		-	(13.8)	-	底部片	A	灰褐	断面中央は灰白色、断面はにぶい橙色、器表は灰褐色。器壁厚い。底部外面は砂底で周縁は寛撫で。体部外面は丁寧な撫で。内面は使用により器表摩滅し、底部周縁はドーナツ状に窪む。	中世。

2区屋敷内ピット出土遺物

挿図番号 PL.番号	No.	種別	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要	
第598図	1	須恵器	杯	36ピット 1/4	口 17.2 底 13.2	高 4.2	細砂粒/還元/灰白	口縁部整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り後、低い高台削り出し。				
第598図	2	土師器	杯	111ピット 1/3	口 13.0	底	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。外縁はシャープな作り。				
挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第598図 PL.325	3	古瀬戸	天目碗	140P	(12.4)	4.0	6.5	3/4		浅黄	体部は直線的に開き、口縁部は屈曲して直立気味に立ち上がる。口縁部は長い。内面から体部外面中に鉄釉。釉は光沢の少ない黒色であるが、釉の薄い口縁部は赤褐色に発色する。体部内面から底部内面も斑状に赤褐色部分がある。高台脇はほぼ水平に削り込み、高台内は浅く削る。体部外面と高台は右回転寛削り。	古瀬戸後Ⅳ期古。
第601図	4	常滑陶器	甕	199P	-	-	-	頸部片		褐灰	内面の器表付近のみ橙色。	中世。
第601図 PL.325	5	龍泉窯系青磁	碗	235P	-	-	-	口縁部片		灰	青磁釉は不透明で焼成やや不良。外面に鎗蓮弁文。	I-5-b類。
第601図 PL.325	6	在地系土器	内耳鍋	247P	-	-	-	口縁部片	B	褐灰	断面中央から内面の器表は褐灰色、断面中央から外面器表付近はにぶい橙色、外面器表は黒褐色。器壁は厚く、口縁部下で僅かに外反し、口縁部は内湾。口縁端部内面は稜をなす。内面口縁部下は低くゆるい段をなす箇所と段をなさない箇所がある。内耳は器壁に貼り付け。	Ⅱ・Ⅲ期。
第601図	7	在地系土器	内耳鍋	262P	-	-	-	口縁部片	A	暗灰黄	器壁やや薄く、外反気味。	中世。
第601図	8	在地系土器	内耳鍋	359P	-	-	-	体部下位から底部片	A	黄灰	断面から内面器表は灰黄色、体部外面器表は黒褐色、体部外面下端から底部外面はにぶい橙色。体部外面下位は寛撫で。底部外面周縁はやや窪む。底部外面は砂底状。丸底の可能性高い。	I・Ⅱ期か。
第603図 PL.325	9	在地系土器	内耳鍋	359P	-	-	-	口縁部から体部	A	灰	還元炎。口縁部下で外反し、口縁端部は内湾。口縁端部内面は突き出すが、器表は摩滅。内面口縁部下はゆるい稜をなすが、段差は不明瞭。器壁は薄く、屈曲部外面は幅が狭く強い横撫でを複数回施す。	Ⅳ・Ⅴ期。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況			備考
第603図 PL.325	10	砥石	452ピット	切り砥石	砥沢石	(8.5)	1.7	39.2	四面使用。背面側に縦位線条痕が残る。			
挿図版	図番	種別	器形	出土位置	径1(mm)	径2(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存	形・成調整等/備考		
第604図 PL.325	11	銭貨	天聖元寶	492P	24.22	24.98	1.14～1.24	2.22	一部欠	遺存状態がやや悪く周縁の約1/2が欠損。真書。北宋、1023年初鑄。		

第4章 発掘調査の記録

2区4号溝出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第606図	1	在地系土器	片口鉢	+20cm	(29.8)	-	-	上半部片	B	灰	還元炎。器表は薄く口縁部下で外反。口縁端部上面は丸みを持ち、内外面は折り返すように丸く突き出す。内面側突出部先端は器表やや摩滅。	IV・V期。2と同一個体か。
第606図	2	在地系土器	片口鉢	+17cm	-	(12.0)	-	体部下位から底部片	B	灰	還元炎。底部は板造り。器壁は厚い。内面は底部周縁から体部下端が使用により表摩滅し、他の箇所は平滑となる。	中世。1と同一個体か。

2区2号溝出土遺物

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第608図 PL.325	1	同安窯系青磁	碗		(12.0)	-	-	口縁部片		灰白	口縁部は内湾し、端部付近は肥厚。外面は細い櫛描文。残存部内面下端に横線。内外面に青磁釉。	I-1・b
第608図 PL.325	2	古瀬戸	折縁深皿		-	-	-	口縁部から底部片		にぶい黄橙	口縁部は外反し、屈曲部と端部は突出する。口縁部内外面に灰釉。底部に低い脚を貼り付け。底部内面中央に円形の凹線。	古瀬戸後IV期古。4と同一個体か。
第608図 PL.325	3	古瀬戸	盤類		-	-	-	体部片		にぶい黄橙	内外面に灰釉。残存部下位は無釉。	古瀬戸。5と同一個体か。
第608図 PL.325	4	古瀬戸	盤類		-	-	-	体部下位片		にぶい黄橙	残存部外面上端に灰釉。外面中位以下は回転篋削り。	古瀬戸。2と同一個体か。
第608図 PL.325	5	古瀬戸	盤類		-	-	-	1/4		淡黄	体部外面下位は回転篋削り。篋削りは段差を生じる。内外面の残存部上端に灰釉。上端部以下は無釉。低い脚1箇所残存。	古瀬戸後期。3と同一個体か。
第608図 PL.325	6	常滑陶器	甕か	+30cm	-	-	-	体部片		灰黄	断面は灰白色。外面に叩き目。内面は器表摩滅し平滑となる。片口鉢と同様な使用痕。	中世。
第608図	7	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	灰黄	器壁は薄く、口縁端部付近は肥厚。口縁端部内面は内側に突き出る。口縁端部内面は尖り気味。	IV・V期。
第608図	8	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	灰黄	断面はにぶい黄橙色、器表は灰黄色。器壁は薄い。口縁端部上面は平坦。	IV・V期か。9と同一個体か。
第608図	9	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	灰黄	断面はにぶい黄橙色、器表は灰黄色。器壁は薄い。口縁端部上面は平坦。	IV・V期か。8と同一個体か。
第608図	10	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁厚い。口縁端部内面は器表摩滅。	中世。11と同一個体か。
第608図	11	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁厚い。口縁端部内面は器表摩滅。	中世。10と同一個体か。
第608図	12	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	A	灰	還元炎。口縁部下で外反し、口縁端部は内湾。口縁端部付近は肥厚。口縁端部内面の突出部は摩滅し形状不明。内面口縁部下は湾曲。	IV・V期か。
第608図	13	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B		断面は橙色、器表は褐灰色。器壁はやや厚く、口縁端部付近は肥厚し、端部上面は僅かに丸みを持つ。口縁部下の外反は弱い。	II・III期か。
第608図	14	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	A	にぶい橙から灰	断面から外面器表下半はにぶい橙色、器表は灰色。口縁端部付近は肥厚し、上面は僅かに丸みを帯びる。	中世。
第608図	15	在地系土器	内耳鍋	+25cm	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。口縁部内外面は轆轤目状の凹凸廻る。器壁はやや厚いが、口縁部は長く延びる。口縁端部上面は平坦で、端部外面は稜をなす。端部内面は小さく突出すると推定されるが、摩滅のため不詳。	III・IV期か。
第608図	16	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部から体部	B	褐灰・灰褐	断面は橙色、外面器表は褐灰色、内面器表は灰褐色。体部器壁はやや薄いが口縁部は厚い。口縁部は外反し、直線的にやや長く延びる。端部は内側に突き出る。	I・II期。
第608図 PL.326	17	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部から体部	B	灰	断面は灰黄色、器表は灰色。器壁は厚い。口縁部下で外反し、口縁部は内湾。口縁端部は内側に突き出る。口縁端部内面は丸い。内面口縁部下の屈曲部はゆるい稜をなす。	I・II期。
第608図 PL.326	18	在地系土器	内耳鍋		-	-	-	口縁部片	B	黒	断面はにぶい橙色、器表は黒色。口縁部は屈曲して外反し、上半で内湾。端部上面は幅狭く平坦。屈曲部内面は低い明瞭な段をなし、極低く狭い隆帯状の盛り上がりか廻る。内耳は器壁への粘土紐貼り付け。	IV・V期。

観察表

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第608図	19	在地系土器	内耳鍋	+38cm	-	-	-	口縁部から体部	B	灰	断面から器表まで灰色。還元炎。器壁は薄く、口縁部下で外反。口縁部は肥厚し、端部は内側に突き出る。屈曲部内面は丸みを持ち、稜や段差は認められない。	Ⅳ・Ⅴ期。
第608図 PL.326	20	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	口縁部から底部片	B	黒・褐灰	断面は明赤褐色、外面器表は黒色、内面器表は褐灰色。外面は部分的に煤付着。器壁厚く、口縁部は短い。口縁部は耳貼り付け部のみの残存で口縁部形状の詳細は不明。口縁部外面に粘土を貼り付けたような痕跡があり、内耳は粘土紐を器壁に貫通して貼り付けた可能性高い。体部下位は内湾し、外面は篋撫で。篋撫で部から底部外面はにぶい赤褐色。	I期。
第609図	21	在地系土器	内耳鍋	+21cm	-	-	-	体部片	B	灰	還元炎。器壁厚い。口縁部は外反。	中世。26と同一個体の可能性高い。
第609図	22	在地系土器	内耳鍋か	+38cm	-	-	-	体部片	B	褐灰	断面は灰褐色、器表は褐灰色。還元炎気味。器壁は厚く、体部下位は内湾。体部外面海面は篋撫で。	中世。
第609図	23	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	体部片	B	黒	断面はにぶい橙色、器表はにぶい橙から黒褐色。口縁部下で屈曲して口縁部は外反。屈曲部内面は明瞭な稜をなし、段差もやや明瞭。体部下位付近はやや内湾。	中世。
第609図	24	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	体部上位片	B	褐灰	断面は灰褐色、器表は褐灰色。還元炎気味。器壁は厚い。口縁部は緩く外反。内面に耳接合痕残る。	I・II期か。
第609図	25	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	体部片	B	灰	還元炎。器壁はやや厚く、屈曲して口縁部は外反。屈曲部内面は横撫によりゆるい稜をなす。	中世。
第609図 PL.326	26	在地系土器	内耳鍋	-	-	-	-	体部から底部片	B	灰	還元炎。器壁厚い。丸底の可能性高い。体部外面下位は篋撫で。体部外面に紐作り痕残る。	I・II期か。21と同一個体の可能性高い。
第609図	27	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	橙	残存部下位断面は灰黄色、上位断面と器表は橙色。口縁部内面は突出するが、摩滅により形状不明。端部外面は小さく突き出るが、器表摩滅。	中世。
第609図	28	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	黄灰	断面はにぶい赤褐色、器表付近から器表は黄灰色。焼成最終段階は還元炎気味。口縁部上面から端部内面の器表摩滅。端部外面は小さく欠損。	中世。
第609図	29	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	灰	断面は灰白色、器表付近から器表は灰色。還元炎。口縁部は直線的に開く。口縁部上面は丸みを持ち、外面は小さく突出。端部内面は突出するが、端部摩滅し端部形状は不明。	Ⅲ・Ⅳ期。
第609図	30	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。器壁はやや薄い。口縁部は外反し、端部は上方に立ち上げる。端部上面は尖る。端部上面は細かい剥離が連続したように器表摩滅。	Ⅱ・Ⅲ期。
第609図	31	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部から体部片	A	褐灰	断面は橙色、器表は橙色から褐灰色。体部から口縁部は直線的に開く。口縁部内面は内側に突き出るが、器表の遺存が悪く詳細不明。体部内面の使用痕も不明。口縁部内面の器表欠損。	中世。
第609図	32	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	底部片	B	灰白	断面はにぶい橙色、器表は灰白色。器壁は厚い。内面の器表は使用により摩滅し、体部下端から底部周縁はドーナツ状に窪む。底部外面の器表は摩滅。体部外面は凹凸が多い。	中世。
第609図	33	在地系土器	片口鉢	+30cm	-	-	-	体部片	B	灰	断面はにぶい橙色、器表付近から器表は灰色。内面は使用により体部下位と底部周縁の器表は摩滅。内面の体部中位、体部と底部境は平滑。底部外面の器表は摩滅。底部外面は砂状。体部外面中位以上に皺状亀裂残る。	中世。
第609図 PL.326	34	在地系土器	不詳	-	-	-	-	体部上位片	B	にぶい黄橙	断面は橙色、器表はにぶい黄橙色。頸部は肥厚して外反。残存部上端内面は内湾。頸部屈曲部に直径9mmの円孔2箇所残存。円孔部外面下に取っ手と推定される貼り付け痕残る。体部外面は板状工具による縦位撫で。体部内面下位は横位刷毛目状撫で。	時期不詳。
第609図	35	在地系土器	火鉢か	-	-	-	-	体部下位片	B	褐灰	断面は橙色、器表は褐灰色。外面は板状工具による撫で。内面は撫で。体部曲面は弱く、径はかなり大きい。	中世。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ(g)	製作状況・使用状況			備考
第610図 PL.326	36	茶臼	+30cm		粗粒輝石安山岩	(径42)		381.3	外面は粗く磨き整形、内面から口唇は丁寧な磨き整形。			
第610図 PL.326	37	石製品		楕円礫	二ッ岳軽石	(13.3)	(15.3)	746.8	礫を分割、背面側平坦面に径6cmの凹み部。内面は敲打が優勢で、摩耗は部分的。			
挿図版	図番	種別	器形	出土位置	径1(mm)	径2(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存	形・成調整等/備考		
第610図 PL.326	38	銭貨	皇宋通寶	+26cm	24.78	24.68	1.13～1.28	2.93	完形	北宋、1038年初鑄。真書。		

2区遺構外出土遺物

挿図版	図番	器形	残存	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第611図 PL.326	1	深鉢	口縁部破片	101土坑	細砂、繊維	黄褐	ふつう	平口縁の口縁下を僅かに無文帯とし、以下の胴部にLとRによる縦長の菱状となる縄文を施す。	花積下層式
第611図 PL.326	2	深鉢	口縁部破片	18溝	粗砂、繊維	にぶい赤褐	ふつう	波状口縁で、口縁部文様に平行沈線で三角ないし菱形の文様を描く。	黒浜・有尾式
第611図 PL.326	3	深鉢	胴部破片	108土坑	細砂、繊維	にぶい褐	ふつう	口縁部文様に平行沈線で三角形の文様を描く。	黒浜・有尾式

第4章 発掘調査の記録

挿図版	図番	器形	残存	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等			備考
第611図 PL.326	4	深鉢	胴部破片	75土坑	細砂、繊維	にぶい褐	ふつう	口縁部文様に平行沈線で文様を描く。			黒浜・有尾式
第611図 PL.326	5	深鉢	口縁部破片	91住居	粗砂、繊維	にぶい褐	ふつう	平口縁の口縁以下にRの縄文を施す。			黒浜・有尾式
第611図 PL.326	6	深鉢	胴部破片	17溝	粗砂、繊維	にぶい褐	ふつう	胴部にLの附加条(Lの1本附加)とRの附加条(Rの1本附加)による羽状縄文を施す。			黒浜・有尾式
第611図 PL.326	7	深鉢	胴部破片	72住居	粗砂、細礫、白色粒、繊維	にぶい褐	ふつう	胴部にLの附加条(Lの1本附加)の縄文を施す。			黒浜・有尾式
第611図 PL.326	8	深鉢	口縁部破片	106土坑	粗砂	にぶい橙	ふつう	波状口縁の口縁下に刻みをもつ浮線文で曲線的な文様を描き、地文にRLの縄文を施す。			諸磯b式
第611図 PL.326	9	深鉢	胴部破片	2溝	粗砂、白色粒	黄褐	ふつう	口縁部無文帯を区画する隆帯を巡らせ、以下に隆帯の懸垂文で区画し、縦位の無文帯とRLの縄文を施す。			加曾利E式
第611図 PL.326	10	深鉢	胴部破片	29住居	粗砂、細礫	にぶい赤褐	ふつう	胴部に縦位の弧状の無文帯を隆帯で区画し、RLの縄文を施す。			加曾利E式
第611図 PL.326	11	深鉢	口縁部破片	1住居	粗砂	暗褐	ふつう	直立する平口縁の口縁下を無文帯とし、沈線を巡らせて無文帯を区画する。			称名寺式
第611図 PL.326	12	深鉢	口縁部破片		粗砂、黒色粒、石英	黄褐	ふつう	口縁部の把手。C字状の沈線と、側面に刺突あり。			堀之内式
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長	幅	重さ (g)	使用状況・製作状況		備考
第611図 PL.326	13	石鏃	36住	凹基無茎鏃	黒曜石	1.9	1.5	0.7	完成状態。浅く基部を抉る。先端部を欠損。		
第611図 PL.326	14	石鏃	11住	凹基無茎鏃	黒色安山岩	2.8	1.6	1.1	完成状態。両側縁は浅く抉れ、返し部が膨らむ。		
第611図 PL.326	15	打製石斧	4溝	短冊型?	細粒輝石安山岩	10.3	5.5	92.6	完成状態。器体中央に弱く抉れ、刃部は再生され直刃様を呈す。再生以前の形状も分銅様だが、最初期の刃部を素刃とするならば、上半部が抉れるタイプとなる。		
-	36	石鏃	-	凹基無茎鏃	黒曜石	(1.6)	1.2	1.3	完成状態。		非実測
-	37	石鏃	フク土	不明	黒曜石	(1.5)	1.2	0.4	先端部破片?		非実測
-	38	石核	-	板状?	黒曜石	1.6	2.9	4.7	小型剥片剥離?		非実測
-	39	石核	-	楕円礫	硬質泥岩	10.3	13.8	627.8	幅広剥片剥離。		非実測
-	40	加工痕ある剥片	-	幅広剥片	硬質泥岩	7.1	8.4	99.8	加工意図: 削器。被熱。		非実測
-	41	石鏃	-	凹基無茎鏃	チャート	3.3	1.9	1.9	完成状態? 返し部の作り出し未完成		非実測
-	42	削器	-	幅広剥片	黒色頁岩	6.5	8.2	96.4	刃部: 剥片端部		非実測
-	43	加工痕ある剥片	表土	幅広剥片	硬質頁岩	6.9	8.1	93.5	加工意図: 削器		非実測
-	44	加工痕ある剥片	-	幅広剥片	珪質頁岩	5.2	10.7	99.6	加工意図: 削器		非実測
-	45	打製石斧	表土	分銅型		(10.8)	7.3	234.2	完成状態。上下両端とも刃部再生を試みている。		非実測
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況		備考
-	46	砥石	表土	切り砥石	珪質頁岩	3.8	2.8	8.8	砥面に浅いU字状の溝。		非実測
挿図番号 PL.番号	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要		
第611図	16	須恵器 盤	口縁部~底部片	口 25.6	細砂粒・粗砂粒・白色粒/還元焰/暗灰	口クロ整形、回転方向不明。底部から体部下半はヘラ削り。					
第611図 PL.326	17	須恵器 杯	5井戸/口縁部~底部片	口 9.7 高 2.7 底 5.4	細砂粒/酸化/灰黄褐	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切りか。					
第611図	18	灰釉陶器 椀	416ピット/底部片	底 8.6 台 8.4	細砂粒/還元/灰白	口クロ整形、回転方向不明。高台は三日月高台で、底部撫で後の貼付。施釉は刷毛掛けか。			見込み部に重ね焼き痕		
第611図 PL.326	19	土師器 壺	48住 口縁部片	口 19.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は添付、口縁部はハケ目、一部撫で。内面はヘラ撫で。					
第611図	20	土師器 甕	口縁部~胴部片	口 19.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面撫で。			器面摩滅		
第611図	21	土師器 甕	胴部~底部片	底 4.2	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	胴部外面縦~斜のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。			胴部内面に接合痕		
第611図	22	須恵器 短頸壺	頸部~胴部上半片	胴 24.0	細砂粒・粗砂粒・白色粒/還元焰/暗灰	口クロ整形、回転右回り。胴部外面に叩き痕が残る。					
第612図 PL.326	23	土師器 甕	4溝/口縁部片		細砂粒・褐色粒/良好/橙	口縁部中位に刺突文が巡る、下半はハケ目。内面は下半にヘラ撫で。					
第612図 PL.326	24	手捏ね土器 杯形	15・16溝/口縁部~底部片	口 7.8 高 3.0 底 6.0	細砂粒/良好/灰黄	口縁部は内外面とも指頭痕が残る。					
第612図 PL.326	25	土師器 手捏ね	15・16溝 1/3	高 3.2	細砂粒/良好/褐灰	外面撫で、下半に押圧。内面雑な撫で。					
第612図 PL.326	26	埴輪 形象	2溝								
第612図	27	埴輪 円筒	2溝/破片		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	外面縦ハケ後断面台形の突帯貼付。					

観察表

挿図版	No.	種別	器形	出土位置	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第612図 PL.326	28	古瀬戸	天目碗	表土	-	-	-	体部上位片		灰白	内外面に天目釉。外面に赤褐色斑点在。外面下端は無釉。残存部上端は屈曲して立ち上がる。	古瀬戸後期。598図3と同一個体か。
第612図 PL.326	29	龍泉窯系青磁	碗	表土	-	-	-	口縁部片		灰白	外面に鎬蓮弁文。内外面に青磁釉。釉厚はやや薄い。	I-5-b類。
第612図 PL.326	30	龍泉窯系青磁	皿か	表土	-	-	-	口縁部片		灰白	体部は僅かに内湾して広がり、口縁部は小さく外反。釉厚は約1mm。釉に貫入が入る。体部内面は浅い窪みが放射状に入る。	中世。
第612図 PL.326	31	古瀬戸	卸目付大皿か	表土	-	-	-	口縁部小片		灰白	口縁部外面は小さく外反。口縁部内面は断面三角形の凸帯。内外面に灰釉。	古瀬戸後IV期新。
第612図	32	在地系土器	片口鉢	表土	-	-	-	口縁部片	B	灰	還元炎。口縁部下で小さく屈曲して外反。口縁部は上面から押しつけられ、小さく折り返したように丸く突き出る。端部上面は丸みを持つ。端部内外面は残存部がきわめて少ないが、端部内外面の器表は摩滅している可能性が高い。	V・VI期か。
第612図	33	在地系土器	片口鉢	表土	-	(11.8)	-	下半部片	A	灰	断面中央と器表は灰色、断面中央以外から器表付近は橙色、器表は灰色。焼成最終段階は還元炎。底部は板作り。内面は、使用による摩滅が著しく、橙色部分が露出し、深い部分は断面中央の灰色部分にまで達する。	中世。
第612図 PL.326	34	常滑陶器	壺か甕	68住	-	-	-	底部片		橙	断面は灰白色、器表は橙色。底部内面は轆轤目状の凹凸。内面の1部に自然釉かかる。	中世。
挿図番号 PL.番号	NO.	種器	種類	出土位置	残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要
第612図 PL.326	35	在地形土器	取鍋か(杯)	60住/完形		口底 7.8 4.4	高 1.5	細砂粒/酸化/橙	体部は外反。底部内面周縁は凹線状に凹む。左回転糸切無調整。一方の口縁部から体部は還元し、この部分は変形する。取鍋等として使用か。			江戸時代

第4節 3区の遺構と遺物

1 竪穴住居

調査区全体に散在して3軒を検出した。

1号住居(第613図、P L.251・252・327)

位置 86F・G-10・11グリッド。

重複 1号墓より前出で、2号土坑、17・18号ピットと重複するが新旧関係不明。

形態 半分以上調査区域外であり不明。

主軸方位 不明。

規模 面積(5.07)m² 長軸(3.22) m、短軸(2.24) m

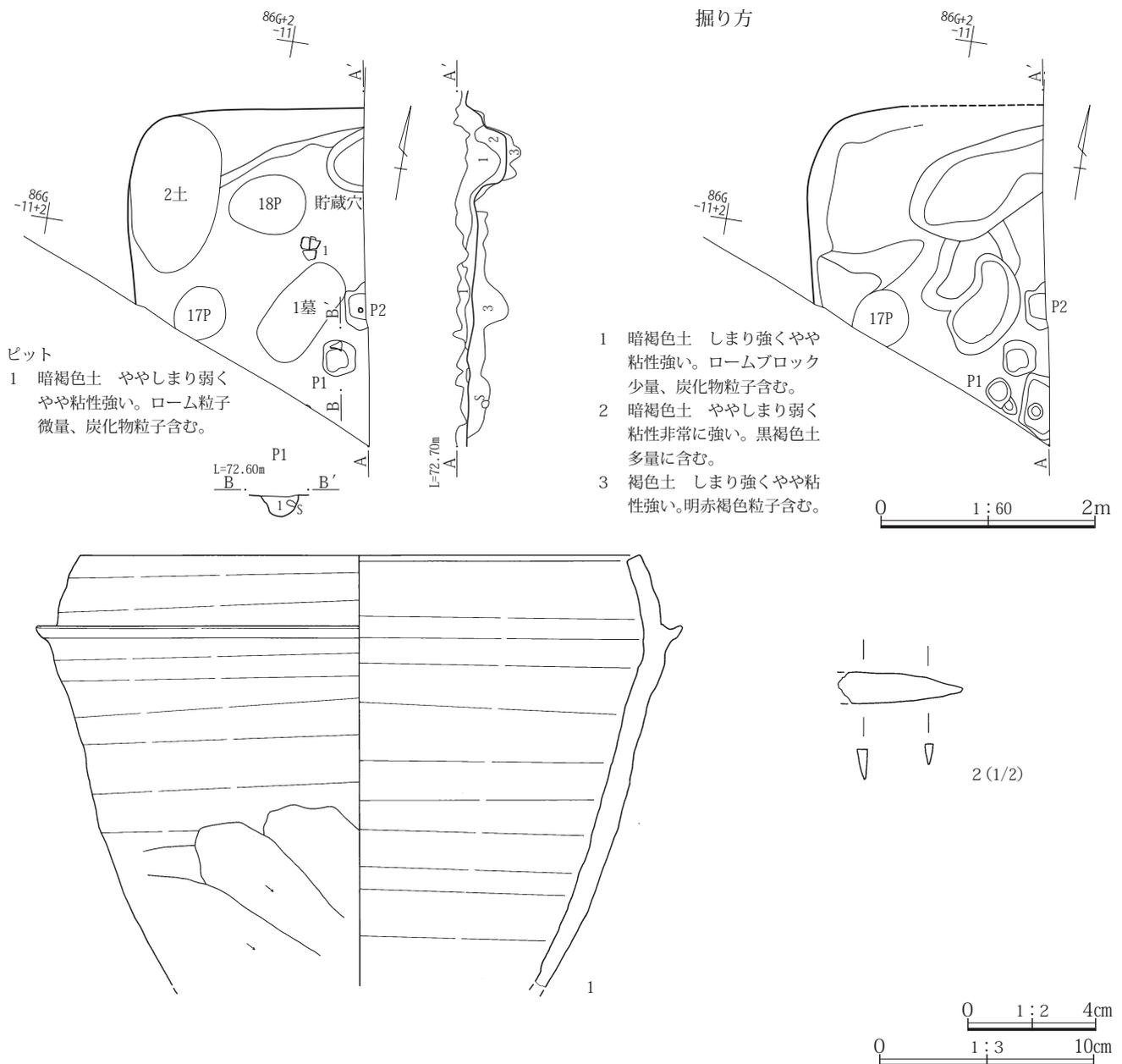
残存壁高 西辺7 cm

埋没土 表土が乱れており、上位からの圧縮が強い。その影響もあり、埋没状況不詳。

カマド 未検出

貯蔵穴 北壁中央付近にあり、東半分は調査区域外となるが、楕円形とみられる。規模は長径60cm短径(34)cm深さ29cmである。

柱穴 中央東寄りに2基検出するが、主柱穴ではない。規模(長径・短径・深さcm)、P 1 (33・30・19)、P 2 (45・(19)・12)cm。



第613図 3区1号住居と出土遺物

床 貼り床、硬化範囲は確認されていないが、全体に強くしまる。

掘り方 中央部を若干掘り残す状態で、周辺を20cm程度掘り込む。

遺物 遺物の出土は少ない。中央部で1の須恵器羽釜、埋没土から2の刀子が出土した。

時期 出土遺物から10世紀中頃に比定される。

2号住居(第614図、P L .252・253)

位置 86H-11グリッド

重複 9号土坑より前出で、3号土坑と重複するが新旧関係不明。1～5号掘立柱建物も含めてピットは、状況から後出と考えられる。

形態 東側が調査区域外となるため詳細不明。

主軸方位 N-3°-W

規模 面積(14.25)㎡ 長軸4.42m、短軸3.64m 残存壁高 北辺4～11cm、西辺12～15cm、南辺6～12cm

埋没土 確認段階で床面がほとんど残っておらず、埋没状況不詳。

カマド 未検出。 貯蔵穴 未検出。

柱穴 主柱穴と見なされるP1・2・4・11を含む14基を検出した。規模(長径・短径・深さcm)、P1(58・41・46)、P2(53・45・41)、P3(28・25・42)、P4(35・29・38)、P5(42・37・39)、P6(31・23・28)、P7((30)・25・50)、P8(30・24・34)、P9(38・31・18)、P10((42)・36・30)、P11(53・46・29)、P12(24・19・21)、P13(23・22・16)、P14(23・(17)・16)cm。

床 貼り床、硬化面は確認できず、調査面が掘り方とも考えられる。

遺物・時期 遺物は出土せず、時期は確定できない。

3号住居(第615図、P L .253)

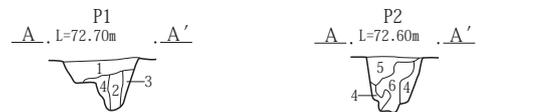
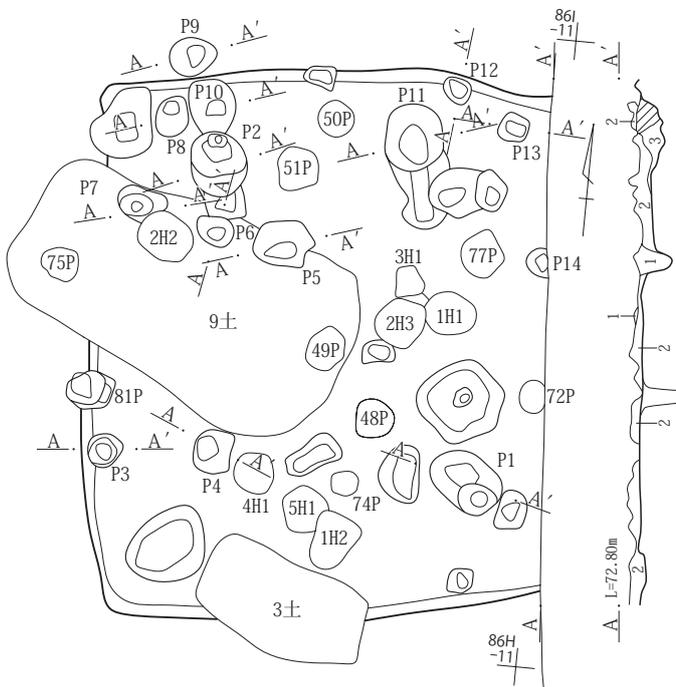
位置 86J・K-11 重複 1号溝より前出。

形態 大部分が重複により消滅するため不明。

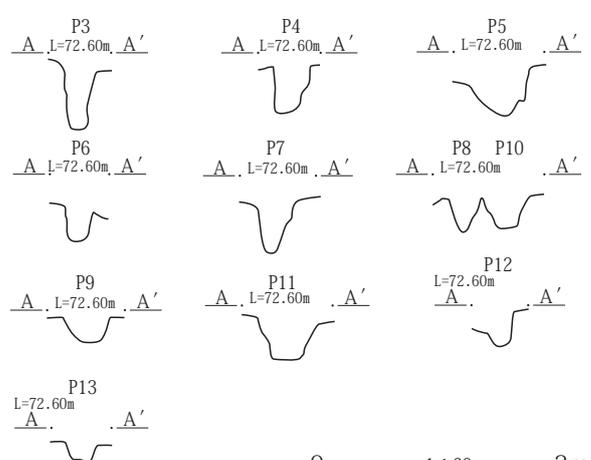
主軸方位 N-49°-E

規模 面積1.88㎡ 長軸2.30m、短軸1.67m 残存壁高 北東辺3～6cm、南東辺5～7cm、南西辺3cm

埋没土 暗褐色土を主体とするが、残存する深さが浅い

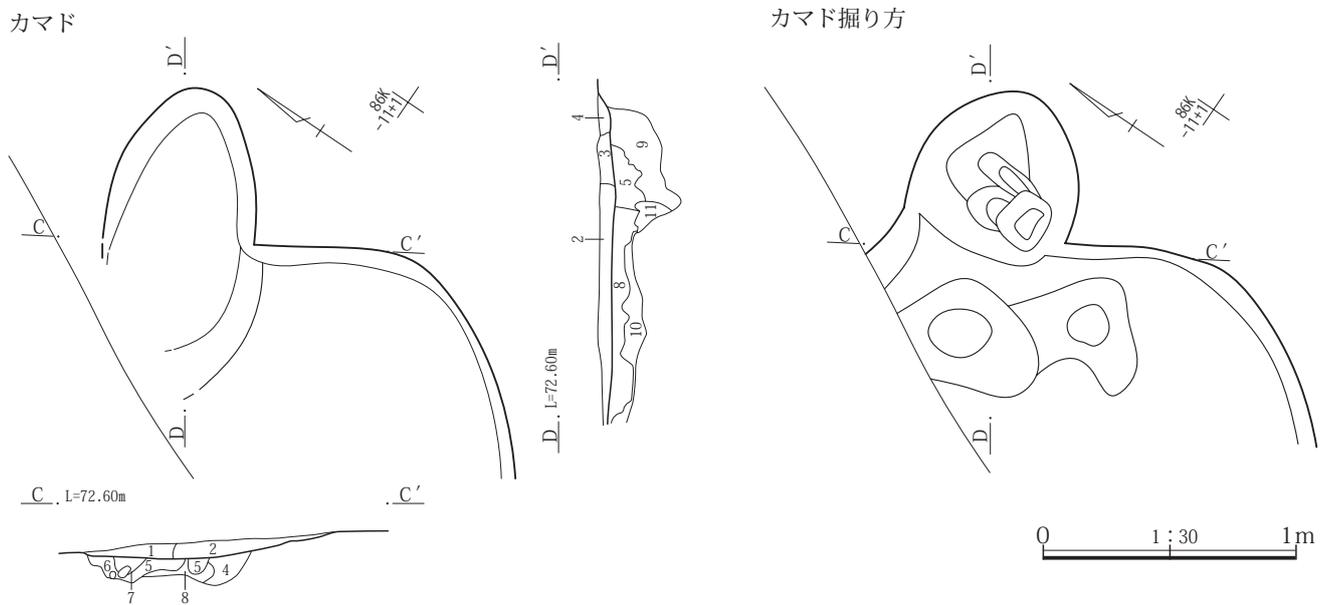
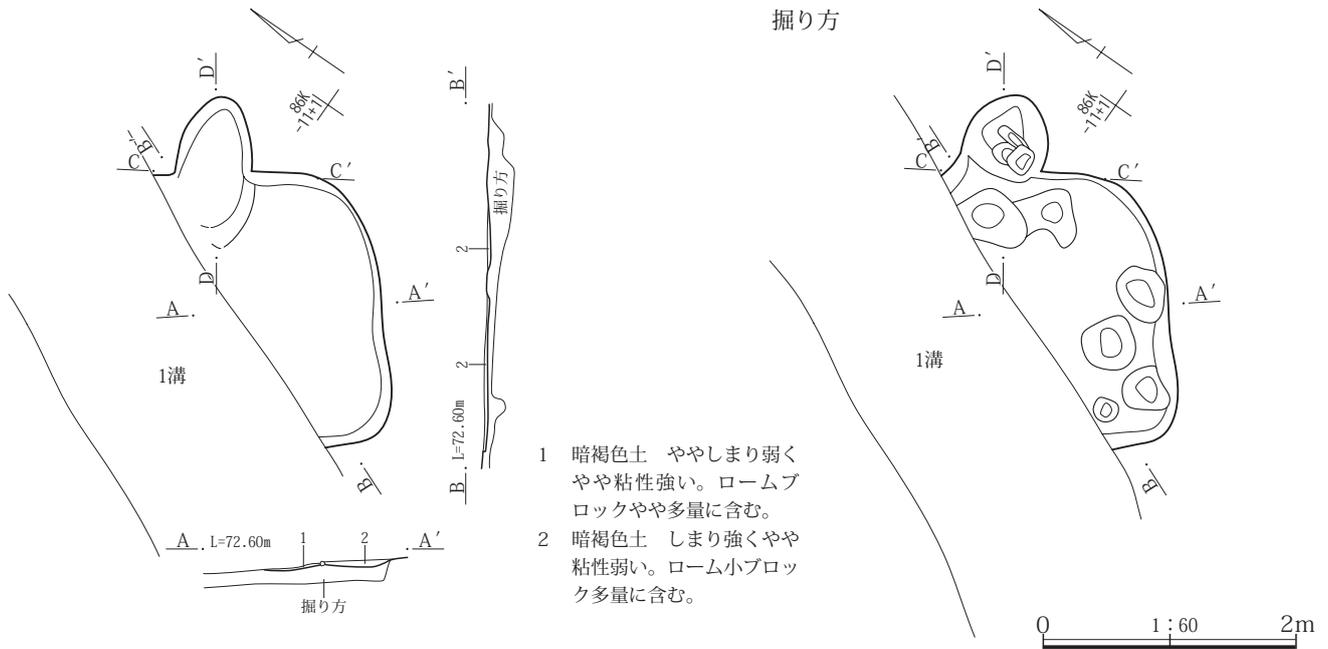


- ピット
- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム小ブロック少量を含む。 | 4 褐色土 しまり良い。ロームやや多量を含む。 |
| 2 暗褐色土 ややしまり弱く粘性非常に強い。 | 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。ロームブロック多量を含む。 |
| 3 黄褐色土 しまり強く粘性強い。 | 6 黒褐色土 ややしまり弱く粘性非常に強い。ローム粒子微量を含む。 |



- | |
|--|
| 1 暗褐色土 ややしまり弱く粘性強い。ローム小ブロック多量、ローム大ブロック多量を含む。 |
| 2 暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。ロームブロックごく多量、炭化物粒子含む。 |
| 3 褐色土 しまり強く粘性強い。 |

第614図 3区2号住居



- カマド
- | | |
|--|---|
| 1 暗褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム小ブロックやや多量、焼土ブロック微量に含む。 | 6 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。焼土ブロック・ローム粒子やや多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 ローム大ブロック・ローム小ブロック多量に含む。 | 7 黒褐色土 しまり強くやや粘性弱い。焼土ブロック・ローム粒子含む。 |
| 3 暗褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。 | 8 暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。ローム小ブロックやや多量、焼土ブロック・炭化物含む。 |
| 4 褐色土 堅くしまり粘性弱い。ロームブロックやや多量、焼土小ブロック微量に含む。 | 9 褐色土 ややしまり弱い。ローム粒子微量に含む。 |
| 5 褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。焼土多量、ロームブロックやや多量に含む。 | 10 褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロックごく多量に含む。 |
| | 11 明黄褐色土 しまり強くやや粘性弱い。 |

ため、埋没状況不詳。

カマド 北辺に設ける。燃烧部を住居外に持つ。わずかに焼土が見られる。袖は確認できない。全体規模は長さ120cm幅51cm、確認面からの深さは25cmである。掘り方の深さは燃烧部で20cm程度である。

貯蔵穴 未検出。 **柱穴** 未検出。

床 貼り床、硬化面は確認できない。

掘り方 全体に10cm程度掘り込まれる。

第615図 3区3号住居

2 掘立柱建物

3区では掘立柱建物5棟が検出された。主軸方位に注目すると、2種類に分類され、分類名は2区の掘立柱建物に準じ、一致しない3棟を新たに5類とした(第19表参照)。この5類の建物は、2区1号屋敷の東辺となる3区1号溝と重複することから、時期の異なる遺構と考えられる。一方、2類の2棟は1号溝と走向方位がほぼ一致しており、並存する可能性が高い。ただし、屋敷の全体規模が不明確なため、内部に位置するのか、隣接地にあたるのかは判断できない。調査区の北側はほぼ溝で占められることから、遺構も南半部に集中しており、必然的に掘立柱建物も南端に集中している。

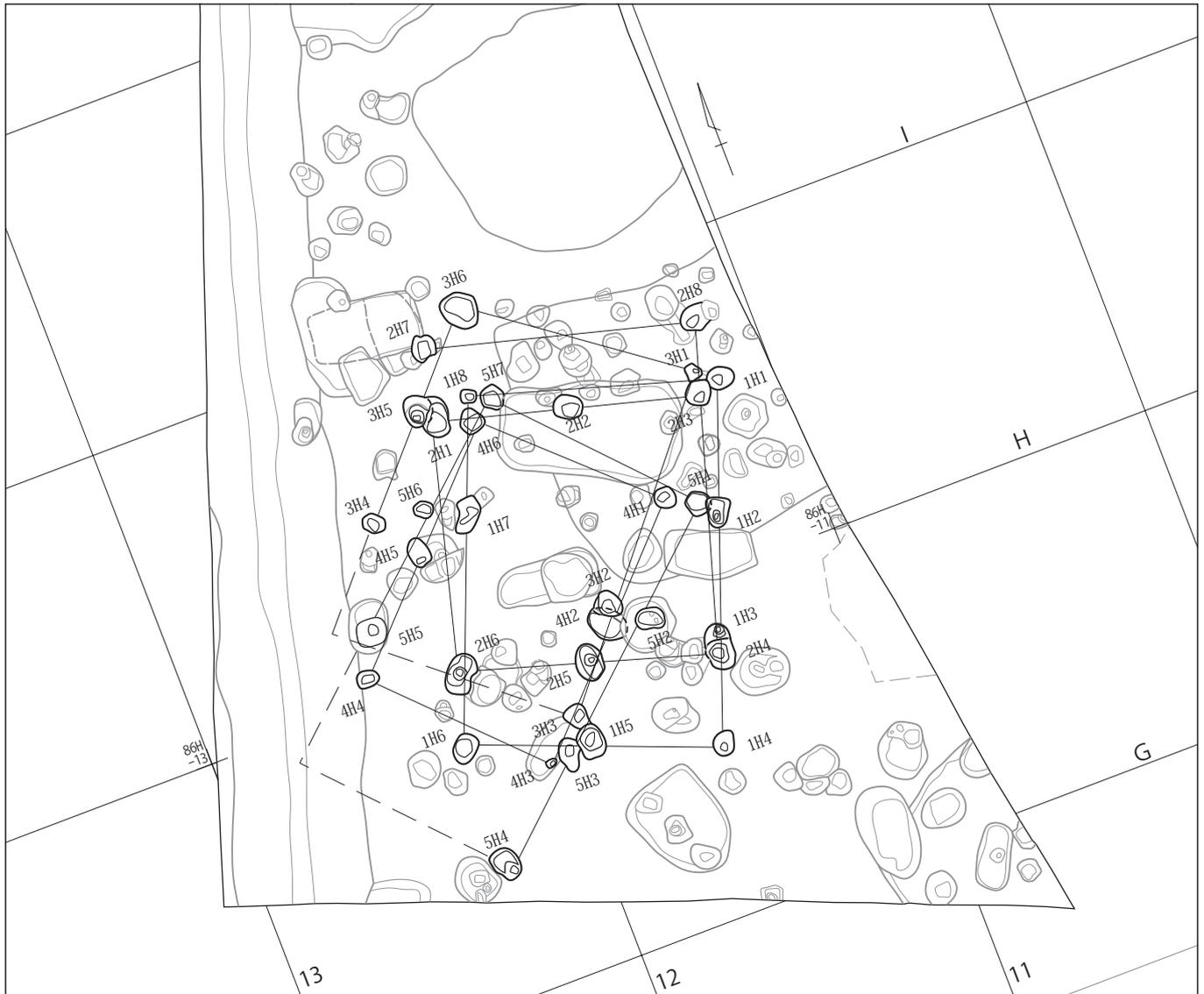
1号掘立柱建物(第617図、P L.254・255、第44表)

位置 86G・H-11・12グリッド。

重複 2号住居と重複し、状況から後出である。P1は2号掘立柱建物P3と、P3は2号掘立柱建物P4と、P5は3号掘立柱建物P3、5号掘立柱建物P3、4号土坑と、P7は37号ピットと重複するが新旧関係不明。4号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-20°~21°-E 面積 20.85㎡

形態 梁間2間型で桁行3間の南北棟。西辺は東辺より24cm短いため、北辺は西下がり傾く。桁行柱間を平均すると、約1.82m・約6.0尺であるが、P1は12cm程度北に寄り、P2は12cm南に寄るため、P1・2間は27cm広がっているが、対面する西辺のP7との柱筋はほぼ



第616図 3区掘立柱建物分布図

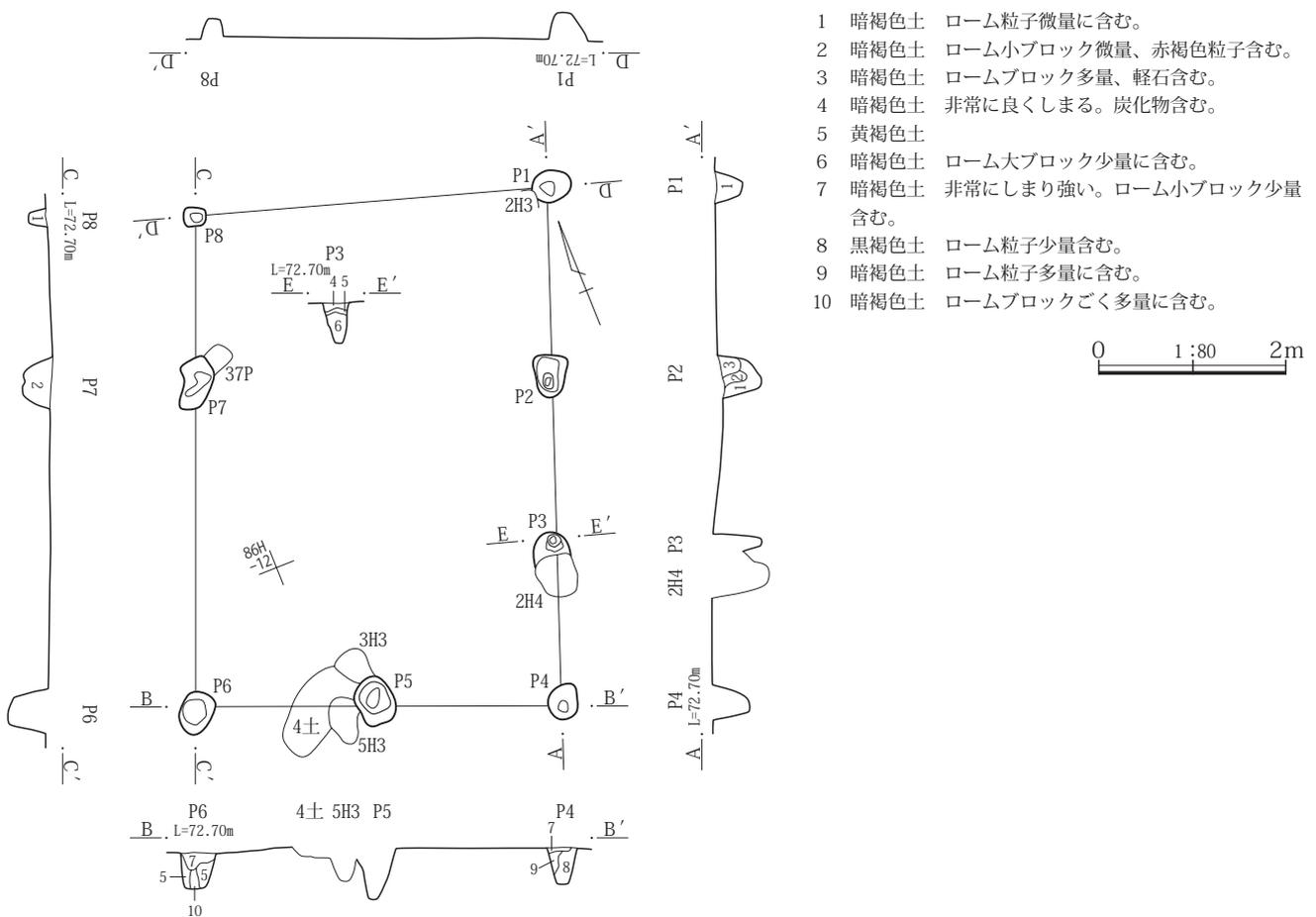
一致する。南辺の中間柱P 5は5cm程度西へ寄る。北辺の中間柱に対応するピットが2号住居内にあるが、住居のピットとして調査されており、抽出しなかった。また、南西隅から1間めのピットについても、2号掘立柱建物P 6に重複している可能性もある。埋没土は暗褐色土を主体としており、明確な柱痕は認められない。P 8を除き柱穴の長径40～60cmで短径よりも10cm程度長いが、柱穴の重複よりも掘削の形態によるとみられる。柱穴の形態は隅丸方形・長方形と楕円形が混在する。柱穴の深

さは北側のP 1・7・8が19～30cmと浅く、他は39～55cmである。詳細な規模は第44表のとおり。中世遺物は出土していない。

2号掘立柱建物(第618図、P L.254・255、第45表)

位置 86G・H-11・12グリッド。

重複 2号住居と重複し、状況から後出である。P 1は3号掘立柱建物P 5より前出。P 2も9号土坑より前出か。P 4は29号ピットより前出で、1号掘立柱建物P 3と重複するが新旧関係不明。4・5号掘立柱建物と重複



第617図 3区1号掘立柱建物

第44表 3区1号掘立柱建物計測表

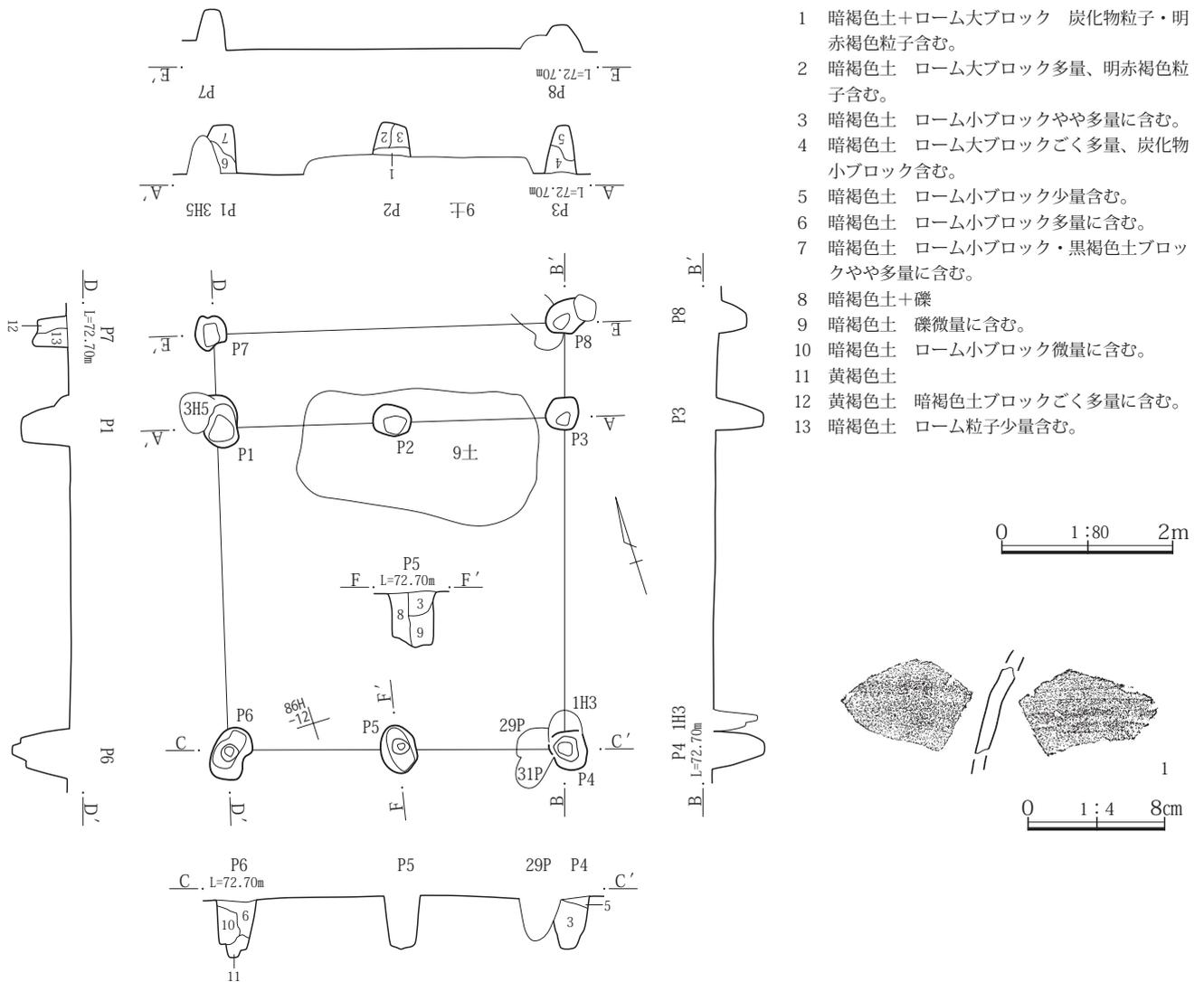
建物全体の規模	梁間2間型・桁行3軒・南北棟			面積	20.85㎡	旧ピットNo.	
主軸方位	N-20°～21°-E			位置	86G・H-11・12		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 5.57	P 1	42	34	30	楕円形	2.09	73
	P 2	46	30	50	隅丸長方形	1.70	45
	P 3	39	(24)	50	不明	1.79	53
南辺 3.92	P 4	40	32	39	楕円形	2.02	13
	P 5	51	39	55	隅丸長方形	1.91	11
西辺 5.33	P 6	45	34	42	隅丸長方形	3.55	6
	P 7	60	35	29	不整長方形	1.78	36
北辺 3.73	P 8	23	20	19	隅丸方形	P 1へ3.73	82

するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-15°-E 面積 19.63㎡

形態 梁間1間型で桁行2間の正方形・北下屋。南辺の中間柱P5は5cm程度西へ寄る。北下屋の中間柱に対応するピットが2号住居内にあるが、住居のピットとして

調査されており、抽出しなかった。P2の埋没土1は充填土であり、9号土坑の底面であった段階に埋められたと考えられる。重複関係では前出が多いが、明らかに人為埋没するものはみられない。P1・5・6の長径は57～64cmとやや長く、別のピットまたは抜き取り跡の重



第618図 3区2号掘立柱建物と出土遺物

第45表 3区2号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間1間型・桁行2軒・北下屋			面積	19.63㎡	
主軸方位		N-15°-E			位置	86G・H-11・12	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	旧ピットNo.
		長径	短径	深さ			
北辺 3.99	P 1	63	(38)	57	楕円形か	2.02	41
	P 2	44	35	40	隅丸長方形	1.97	52
東辺 3.87	P 3	37	37	56	隅丸方形	3.87	76
南辺 3.90	P 4	46	42	61	隅丸方形	1.90	30
	P 5	57	40	61	楕円形	2.01	27
西辺 3.80	P 6	64	38	68	隅丸長方形	P 1へ3.80	19
北下屋1.13	P 7	36	33	51	隅丸方形	4.10	59
北下屋1.12	P 8	40	(37)	31	楕円形か	P 3へ1.15	—

複も考えられる。全体として40cm弱と均質である。柱穴の形態は隅丸方形と楕円形が混在する。身屋部柱穴の深さは概ね60cm前後と深く、下屋部の柱穴は31・51cmと若干浅くなっている。詳細な規模は第45表のとおり。P 6の埋没土から1の在在系土器鍋体部片が出土する。出土遺物から中世に比定される。

3号掘立柱建物(第619図、P L .254・255、第46表)

位置 86G～I-11・12グリッド。

重複 2号住居と重複し、状況から後出である。P 5は2号掘立柱建物P 1より後出で、P 2は4号掘立柱建物P 2と、P 3は1号掘立柱建物P 5と重複するが新旧関係不明。

主軸方位 N-40～42°-E 面積 (20.48)㎡

形態 梁間1間型で桁行3間の南北棟。北辺は西下がりに傾く。桁行柱間を平均すると、約1.85m・約6.1尺であるが、東辺のP 2は南へ10cm程度寄るため、P 2・3の柱間は12cm狭くなるが、対面する西辺P 4との柱筋はほぼ一致している。西辺のP 4・5の柱間、P 5・6の柱間もともに5～10cmと狭いが、南西隅柱が未検出なため、数値的な誤差が含まれる。P 5の埋没土4はしまりの良い黄褐色土であり、P 5埋没後に凹みを充填している。本建物が廃棄されたのち、周辺を整地していたこ

とがわかる。長径は24～61cmとばらつきがあり、深さは13～26cmと47・59cmの2種類に分類されるが、浅いものが多い。柱穴の形態はすべて円形・楕円形である。詳細な規模は第46表のとおり。P 5埋没土から1の中国青白磁が出土する。出土遺物から中世に比定される。

4号掘立柱建物(第620図、P L .254・256、第47表)

位置 86G・H-11・12グリッド。

重複 2号住居と重複し、状況から後出である。P 2は3号掘立柱建物P 2、5号土坑と、P 3は4号土坑と重複するが新旧関係不明。1・2・5号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-44°-E 面積 13.22㎡

形態 梁間1間型で桁行2間の南北棟。東辺が西辺より18cm長い為、南辺は東下がりに傾く。東辺の中間柱P 2は8cm程度北に寄り、西辺の中間柱P 5は12cm程度南に寄るため、対面するP 2・5の柱筋に違和感はない。埋没土に特徴的なものはみられない。P 2の長径は62cmとやや大きいが重複による影響も考えられ、全体としては40cm前後と均質である。柱穴の形態は隅丸方形と円形・楕円形が混在する。柱穴の深さは9～17cmと25～35cmに分かれるが概ね浅い。詳細な規模は第47表のとおり。遺物は出土していない。

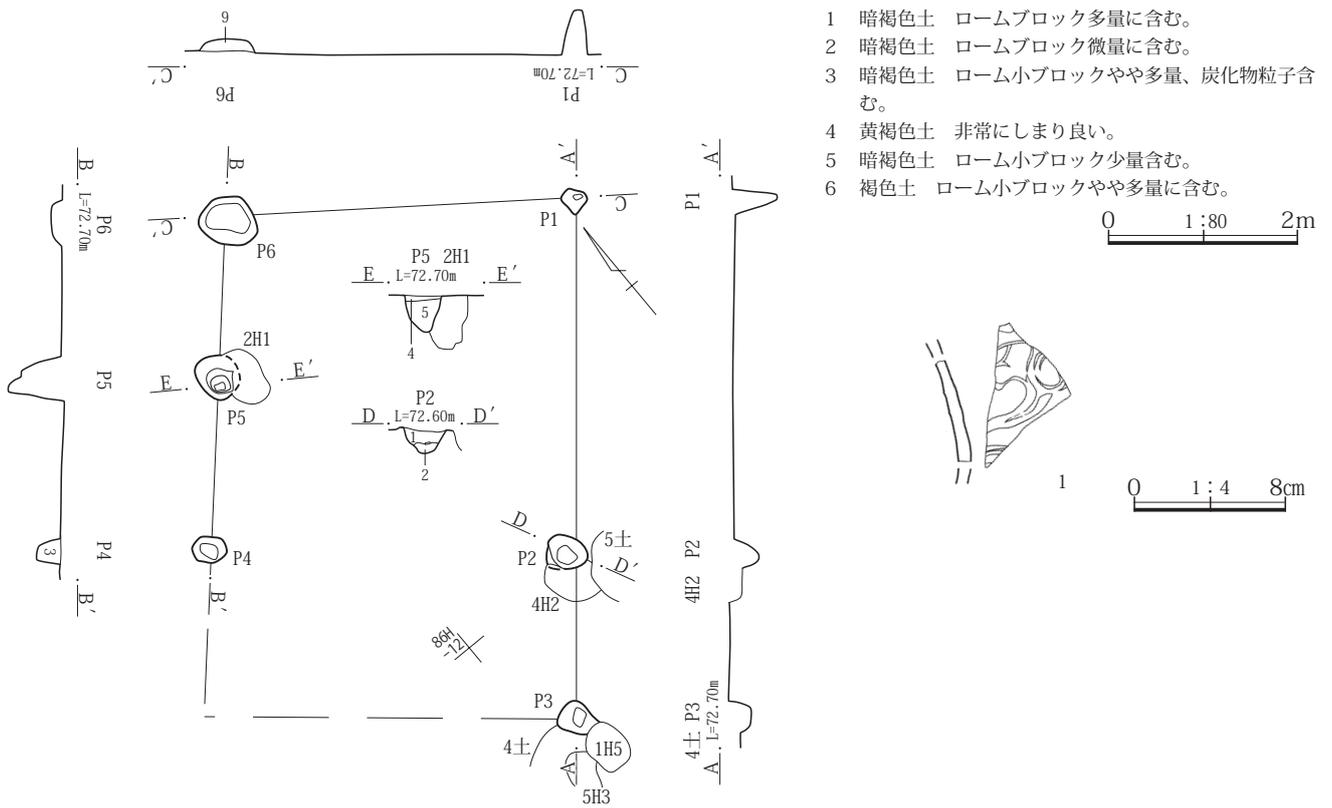
第46表 3区3号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	梁間1間型・桁行3軒・南北棟				面積	(20.48)㎡	旧ピットNo.
主軸方位	N-40～42°-E				位置	86G～I-11・12	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 5.55	P 1	24	23	47	不整円形	3.82	78
	P 2	43	40	26	不整円形	1.73	54
南辺 —	P 3	(36)	32	21	円形	—	9
西辺 (3.55)	P 4	36	27	26	楕円形	1.75	87
	P 5	48	(40)	59	円形	1.80	40
北辺 3.69	P 6	61	52	13	楕円形	P 1へ3.69	57

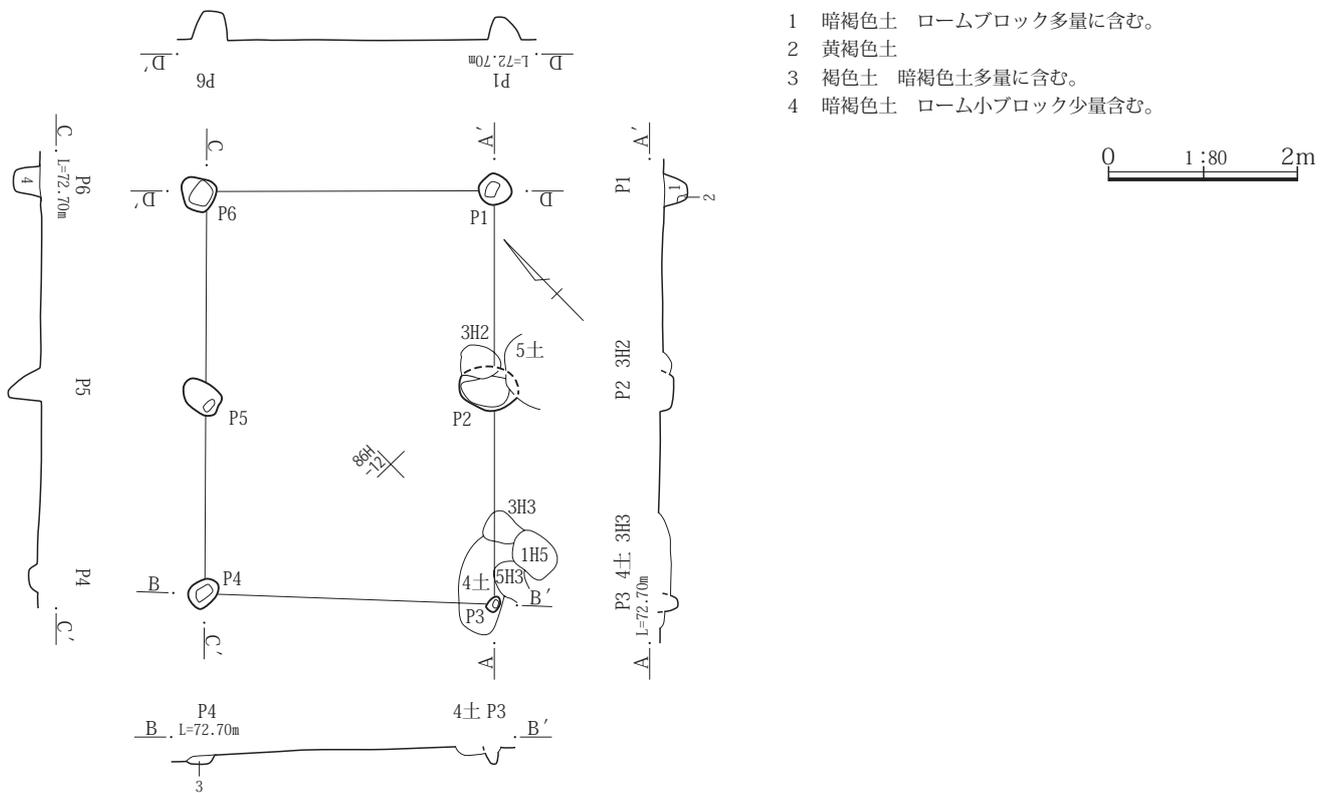
第47表 3区4号掘立柱建物計測表

建物全体の規模	梁間1間型・桁行2軒・南北棟				面積	13.22㎡	旧ピットNo.
主軸方位	N-44°-E				位置	86G・H-11・12	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 4.39	P 1	32	32	25	円形	2.12	47
	P 2	62	(46)	17	楕円形	2.28	4土
南辺 3.08	P 3	26	11	14	隅丸方形	3.09	
西辺 4.21	P 4	34	26	9	楕円形	2.00	85
	P 5	43	30	35	隅丸長方形	2.23	55
北辺 3.07	P 6	37	34	28	不整形	P 1へ3.07	42

第4節 3区の遺構と遺物



第619図 3区3号掘立柱建物と出土遺物



第620図 3区4号掘立柱建物

5号掘立柱建物(第621図、P.L.254・256、第48表)

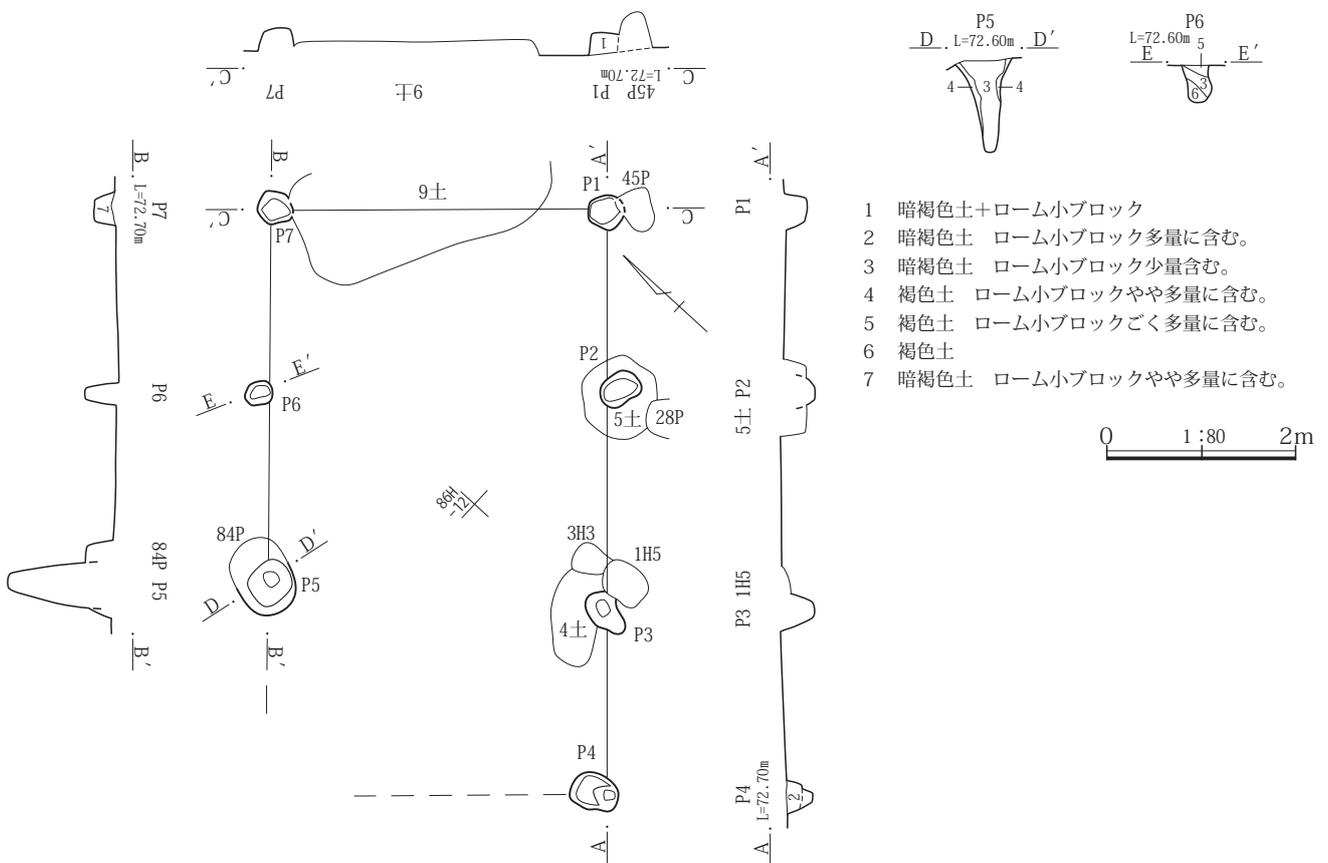
位置 86G・H-11・12グリッド。

重複 2号住居と重複し、状況から後出である。P1は45号ピット、P2は5号土坑、P3は4号土坑、P7は9号土坑と重複するが新旧関係不明。1～4号掘立柱建物と重複するが、柱穴同士の重複がなく新旧関係不明。

主軸方位 N-48°-E 面積 -

形態 梁間1間型で桁行3間の南北棟。桁行柱間を平均すると、約2.08m・約6.9尺であるが、東辺のP2は16cm南へ、P3は8cm北へ寄るため、P2・3の柱間は25

cm広がっている。西辺のP6も13cm南に寄り、東辺P2と付合するが、P5も8cm程度北へ寄っている。埋没土に特徴的なものはみられない。柱穴の径は30～60cmとややばらつきがある。柱穴の形態は隅丸方形と円形・楕円形が混在する。柱穴の深さではP5が111cmと突出し、ほかの柱穴も14～37cmとばらける。P5は重複などによる影響が考えられ、深さはそのままでは認めがたく、むしろ84号ピット程度と考えた方が良いだろう。詳細な規模は第48表のとおり。遺物は出土していない。



第621図 3区5号掘立柱建物

第48表 3区5号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		梁間1間型・桁行3軒・南北棟			面積	(21.89)㎡	旧ピットNo.
主軸方位		N-48°-E			位置	86G・H-11・12	
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次ピットとの間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 6.24	P 1	38	35	24	円形	1.92	46
	P 2	43	30	14	隅丸長方形	2.33	
	P 3	52	33	35	楕円形	2.00	8
	P 4	50	40	28	隅丸長方形	-	2
西辺 3.94	P 5	60	50	111	隅丸長方形	2.00	84
	P 6	30	24	37	楕円形	1.95	38
北辺 3.46	P 7	38	35	23	不整円形	P 1へ3.46	83

3 土坑

3区では土坑15基が検出された。土坑の形態では、円形2基、楕円形4基、長楕円形3基が調査区南端にまどまり、長方形2基、隅丸長方形4基はその北側に集中して、分布に違いがある。人為的に埋没するものが多い。9号土坑は近世であり、3号土坑も主軸方位がそれに一致する。また、10～12B号土坑は1号溝と重複することから、長方形・隅丸長方形の土坑は1号屋敷と時期が異なると考えられる。なお、建物の内部施設となる土坑も検出されていない。

1号土坑(第622・623図、P L .256)

位置 86G-10・11グリッド。平面形は楕円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。北端部は一段下がるが植物攪乱の影響も懸念される。埋没土1は非常に堅くしめるが均質で、充填土とも認めがたい。覆土が加圧されたものであるろうが、その時期は不明である。規模は長径86cm短径74cm深さ28cmである。埋没土から土師器甕(1)が出土した。

2号土坑(第622・623図、P L .256)

位置 86F・G-10・11グリッド。1号住居より後出。平面形は長楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土では暗褐色土と黄褐色土が互層をなし、粘土貼りを伴う土坑にもみえる。規模は長径147cm短径83cm深さ21cmである。埋没土から須恵器羽釜(2)が出土した。

3号土坑(第622図、P L .256・257)

位置 86G・H-11グリッド。2号住居と重複し、状況から後出とみられる。平面形は長方形。主軸方位はN-72°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はローム混土と暗褐色土で西側から段階的に埋めている。規模は長軸135cm短軸75cm深さ35cmである。中世遺物は出土していない。

4号土坑(第622図、P L .257)

位置 86H-11・12グリッド。1号掘立柱建物P5、4号掘立柱建物P3、5号掘立柱建物P3と重複するが新旧関係不明。平面形は長楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹し、植物攪乱著しい。埋没状況は不自然であり、人為埋没か。規模は長径127cm短径49cm深さ13cmである。中世遺物は出土していない。

5号土坑(第622図、P L .257)

位置 86G・H-12グリッド。5号掘立柱建物P2、28号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長径85cm短径82cm深さ42cmである。中世遺物は出土していない。

6号土坑(第622図、P L .257)

位置 86H-11グリッド。平面形は楕円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みを持ち、中央から東壁にかけてピット状に凹み、重複も考えられる。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径90cm短径70cm深さ51cmである。中世遺物は出土していない。

7号土坑(第622図、P L .257)

位置 86G-11グリッド。平面形は楕円形。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。中央部にピットが重複するようにもみえるが、植物攪乱の可能性もある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径72cm短径55cm深さ46cmである。中世遺物は出土していない。

8A・8B号土坑(第622図、P L .257)

8A号土坑 **位置** 86H-11・12グリッド。8B号土坑より前出で、東側は重複により消滅するが、平面形は長楕円形か。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。規模は長径154cm短径75cm深さ13cmである。

8B号土坑 **位置** 86H-11グリッド。8A号土坑より後出。平面形は円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径76cm短径75cm深さ39cmである。中世遺物は出土していない。

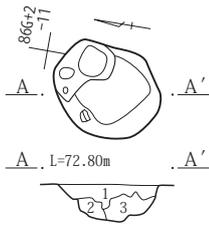
9号土坑(第622図、P L .257・327)

位置 86H-11グリッド。2号掘立柱建物P2より後出か。49号ピットより前出で、75ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-66°-W。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸274cm短軸145cm深さ16cmである。埋没土から3の瀬戸美濃陶器鉢が出土する。出土遺物から近世に比定される。

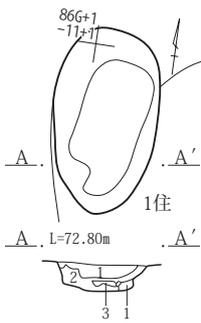
10～12A・B号土坑(第622図、P L .257・258)

10号土坑 **位置** 86H・I-11・12グリッド。58号ピットより前出で、11号土坑より後出。2号掘立柱建物P7

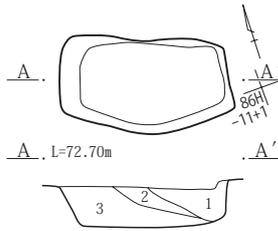
1号土坑



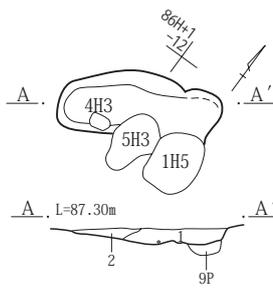
2号土坑



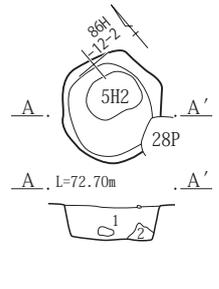
3号土坑



4号土坑



5号土坑



3区1号土坑

- 1 暗褐色土 しまり非常に強くやや粘性弱い。炭化物ブロック・軽石含む。
- 2 黄褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。暗褐色土ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱く粘性強い。ロームブロック微量に含む。

3区2号土坑

- 1 暗褐色土 しまり良く粘性弱い。ローム小ブロック微量、赤色粒子含む。
- 2 黄褐色土 ややしまり弱く粘性非常に強い。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱く粘性やや強い。ローム小ブロック少量に含む。

3区3号土坑

- 1 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ローム小ブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性強い。ローム大ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ローム大ブロックごく多量に含む。

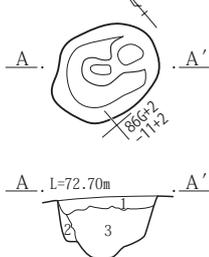
3区4号土坑

- 1 暗褐色土 非常にしまり良くやや粘性弱い。
- 2 褐色土 非常にしまり良くやや粘性弱い。ローム小ブロックやや多量、軽石含む。

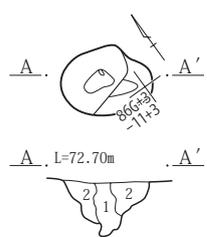
3区5号土坑

- 1 暗褐色土 非常にしまり良く粘性弱い。ローム大ブロック少量、軽石含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱く粘性非常に強い。ローム大ブロックやや多量に含む。

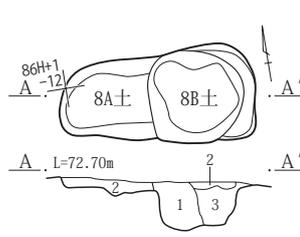
6号土坑



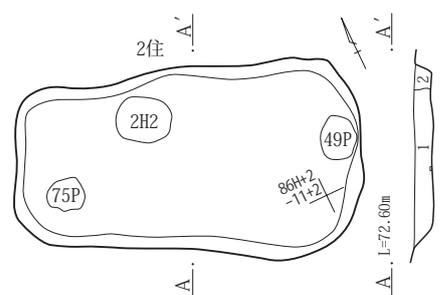
7号土坑



8A号・8B土坑



9号土坑



3区6号土坑

- 1 暗褐色土 非常にしまり良く粘性弱い。炭化物粒子・軽石含む。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量に含む。

3区7号土坑

- 1 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性強い。ローム大ブロックやや多量、炭化物含む。

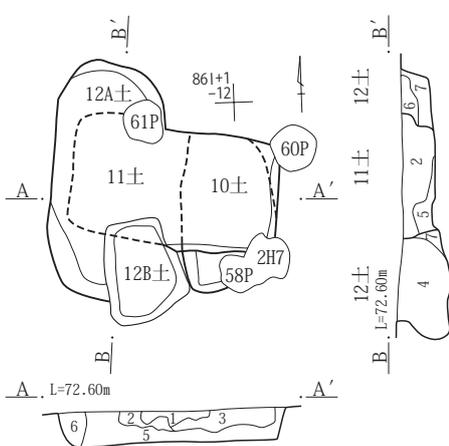
3区8A・8B号土坑

- 1 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ローム大ブロックやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ロームブロック少量、軽石含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム大ブロック多量に含む。

3区9号土坑

- 1 暗褐色土 非常にしまり良くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性強い。ロームブロック多量に含む。

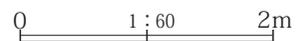
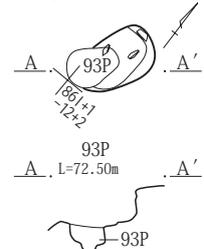
10～12A・B号土坑



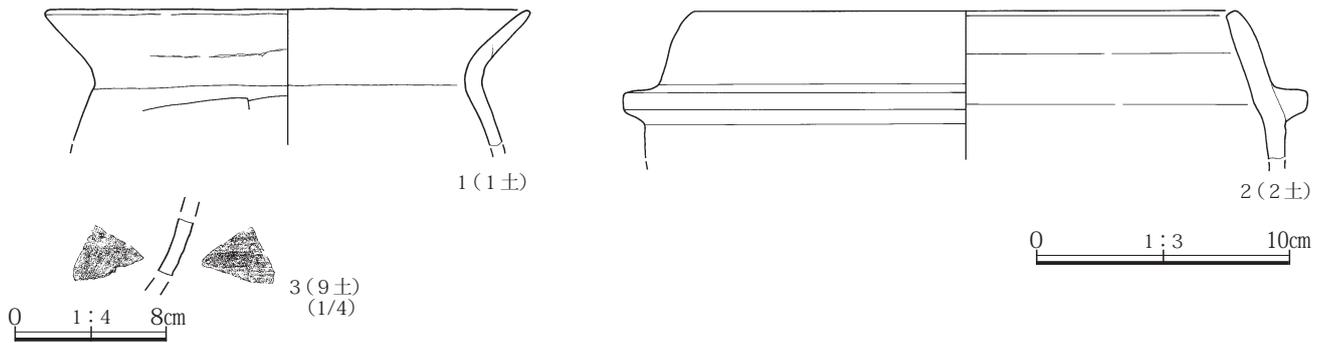
3区10・11・12号土坑

- 1 黄褐色土 非常にしまり良く粘性弱い。
- 2 暗褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ローム粒子少量に含む。
- 3 暗褐色土 非常にしまり良くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり良く非常に粘性強い。ローム多量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ローム少量、赤色粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱く非常に粘性強い。ローム粒子微量、炭化物含む。
- 7 暗褐色土 しまり良くやや粘性強い。ロームブロックごく多量に含む。

13号土坑



第622図 3区1～13号土坑



第623図 3区土坑出土遺物

と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形か。主軸方位は $N-1^{\circ}-E$ 。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土1黄褐色土により上位が堅く締め固められる。規模は長軸126cm短軸(75)cm深さ18cmである。

11号土坑 位置 86H・I-11・12グリッド。10号土坑より前出で、12号土坑より後出。61号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位は $N-84^{\circ}-W$ 。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。10号土坑と同じく、埋没土1黄褐色土により上位が堅く締め固められる。規模は長軸165cm短軸95cm深さ23cmである。中世遺物は出土していない。

12A号土坑 位置 86H・I-12グリッド。11号土坑より前出で、12B号土坑、61号ピット、1号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位は $N-5^{\circ}-E$ 。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸187cm短軸86cm深さ36cmである。

12B号土坑 位置 86H・I-12グリッド。11号土坑より前出で、12A号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は台形気味の長方形。主軸方位は $N-13^{\circ}-W$ 。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを含み均質で人為埋没。規模は長軸81cm短軸60cm深さ42cmである。中世遺物は出土していない。

13号土坑(第622図、P L .258)

位置 86H-2グリッド。93号ピット、1号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁は一部オーバーハングする。底面は丸みを持つ。埋没土は暗褐色土を主体とする。埋没状況不詳。規模は長軸(65)cm短軸41cm深さ25cmである。中世遺物は出土していない。

4 井戸

1号井戸(第624・625図、P L .258・327)

位置 86I-11グリッド。重複 なし。

確認面形状と規模 不整円形。長径3.60m短径3.30m。

底面形状と規模 不明。径0.79m。

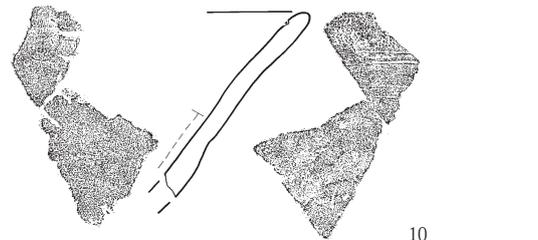
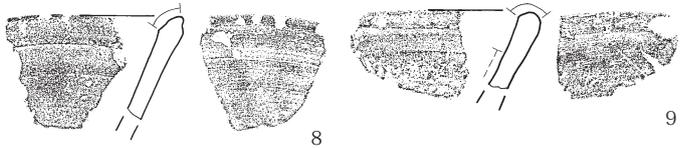
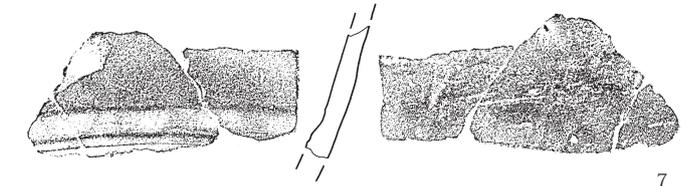
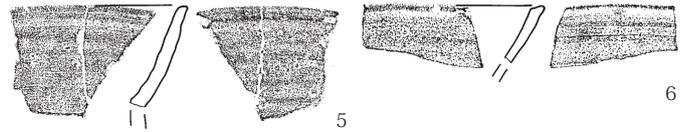
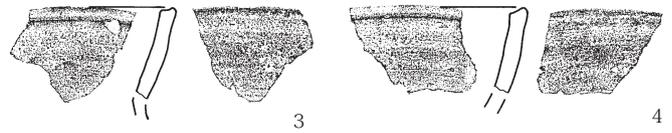
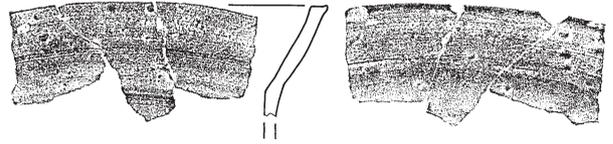
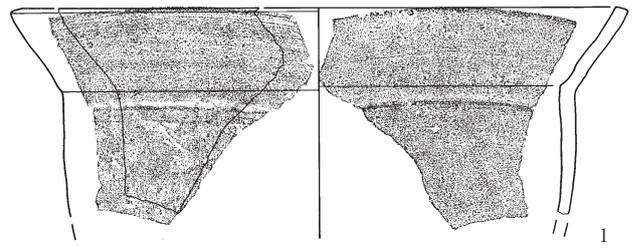
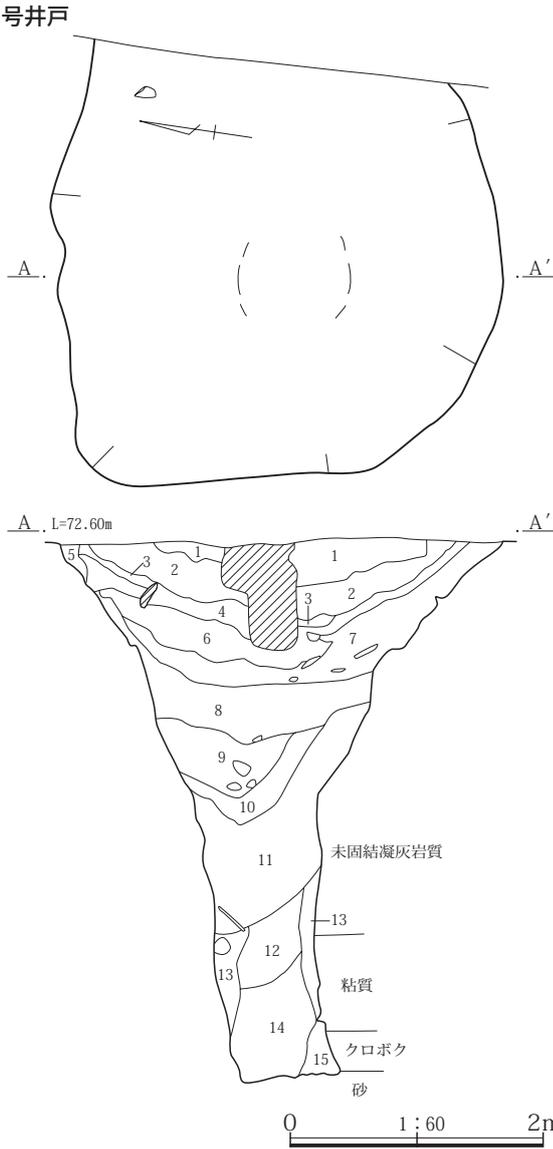
断面形 漏斗状。深さ 4.25m。

埋没状況 下位は砂質で埋められ、中位は黄褐色土と暗褐色・褐色土により交互に埋められる。上位は層厚も薄く、U字形に埋まっており、埋没後の沈下に合わせて適宜、自然埋没も含めて埋まったものとみられる。

遺物 埋没土から在地系土器を主体にやや多く出土する。在地系土器鍋鉢類の年代は、15世紀前半から16世紀前半に及ぶ。また、残存率1/2を超える14の板碑などは祭祀的な面も含めて投棄されたことも考えられる。出土した少量の未炭化種実類は、鑑定の結果(第5章第6項)、モモ核、センダン核と判明した。

時期 出土遺物から16世紀前半頃を下限と考えることができる。

1号井戸



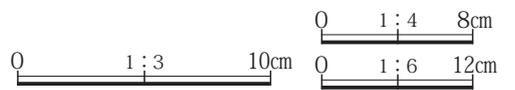
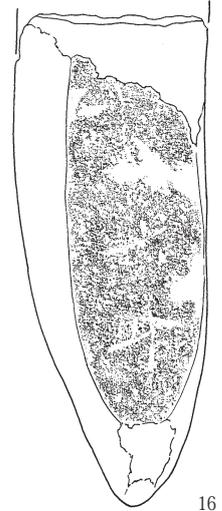
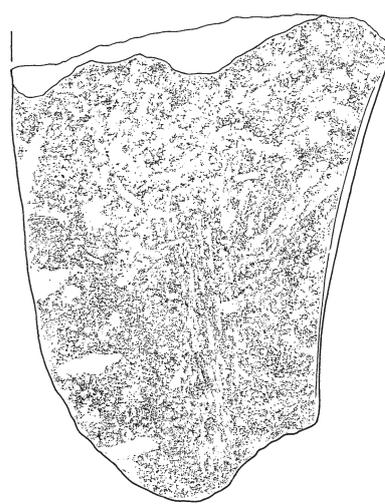
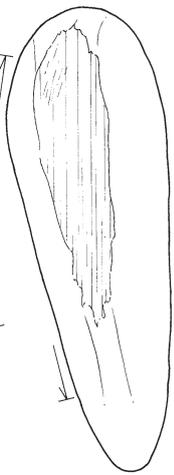
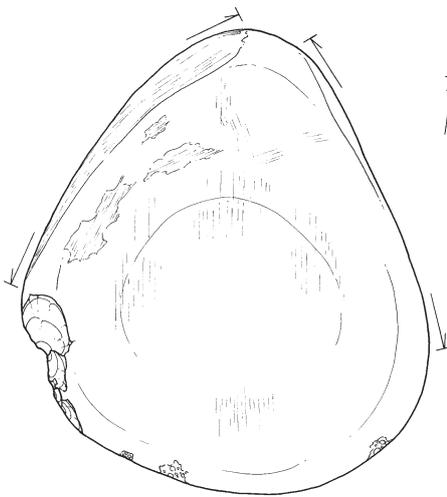
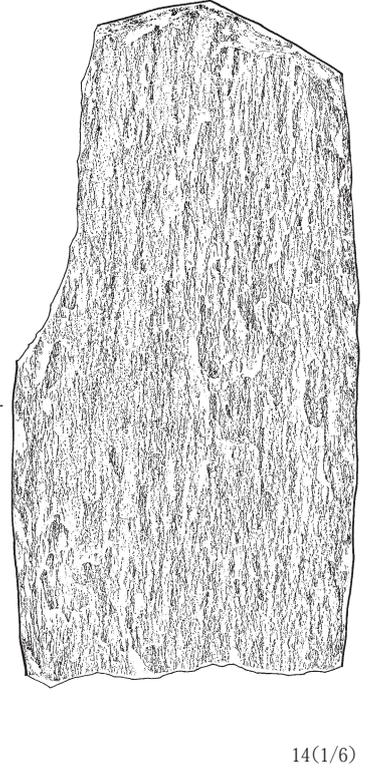
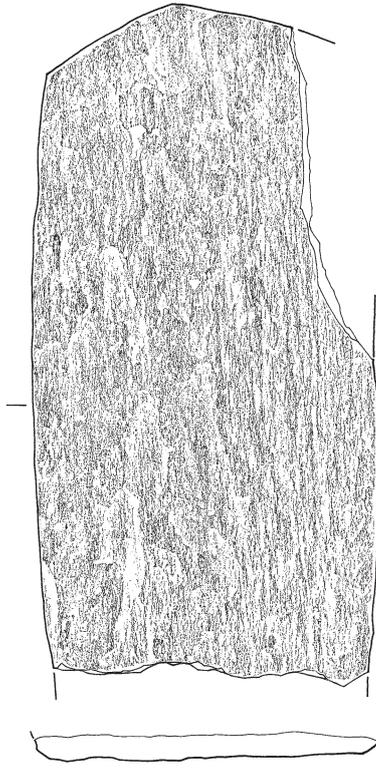
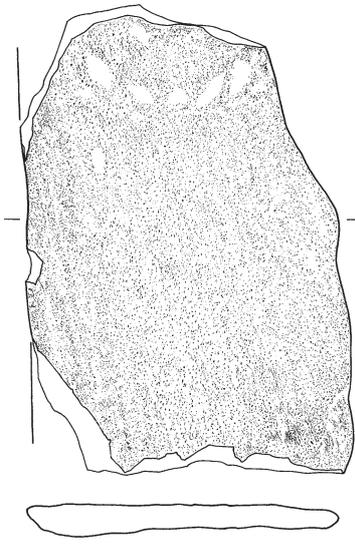
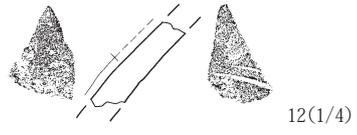
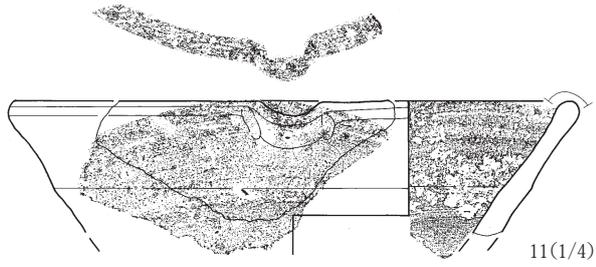
3区1号井戸

- 1 暗褐色土 非常にしまり良く粘性ない。ローム小ブロック少量、軽石含む。
- 2 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ローム大ブロックごく多量、明褐色粒子含む。
- 3 褐色土 ロームブロック多量、炭化物含む。
- 4 暗褐色土 しまり良く粘性強い。炭化物片含む。
- 5 暗褐色土 非常にしまり良く粘性ない。ロームブロックやや多量に含む。
- 6 黄褐色土 しまり弱く粘性非常に強い。ロームブロック多量に含む。
- 7 褐色土 しまり弱く粘性非常に強い。ロームブロック少量に含む。
- 8 黄褐色土 しまり弱く粘性非常に強い。
- 9 褐色土 しまり強く粘性強い。
- 10 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。

- 11 明黄褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子多量に含む。
- 12 オリーブ灰色砂質土 ややしまり腐食に富む。
- 13 浅黄色土 しまり粘性強い。鉄分凝集斑紋多くあり。
- 14 灰色砂質土 ややしまり弱くやや粘性強い。
- 15 にぶい黄色シルト質土 ややしまり強くやや粘性弱い。

0 1:4 8cm

第624図 3区1号井戸と出土遺物(1)



第625図 3区1号井戸出土遺物(2)

5 ピット(第626～629図、P.L.258・327、第49・50)

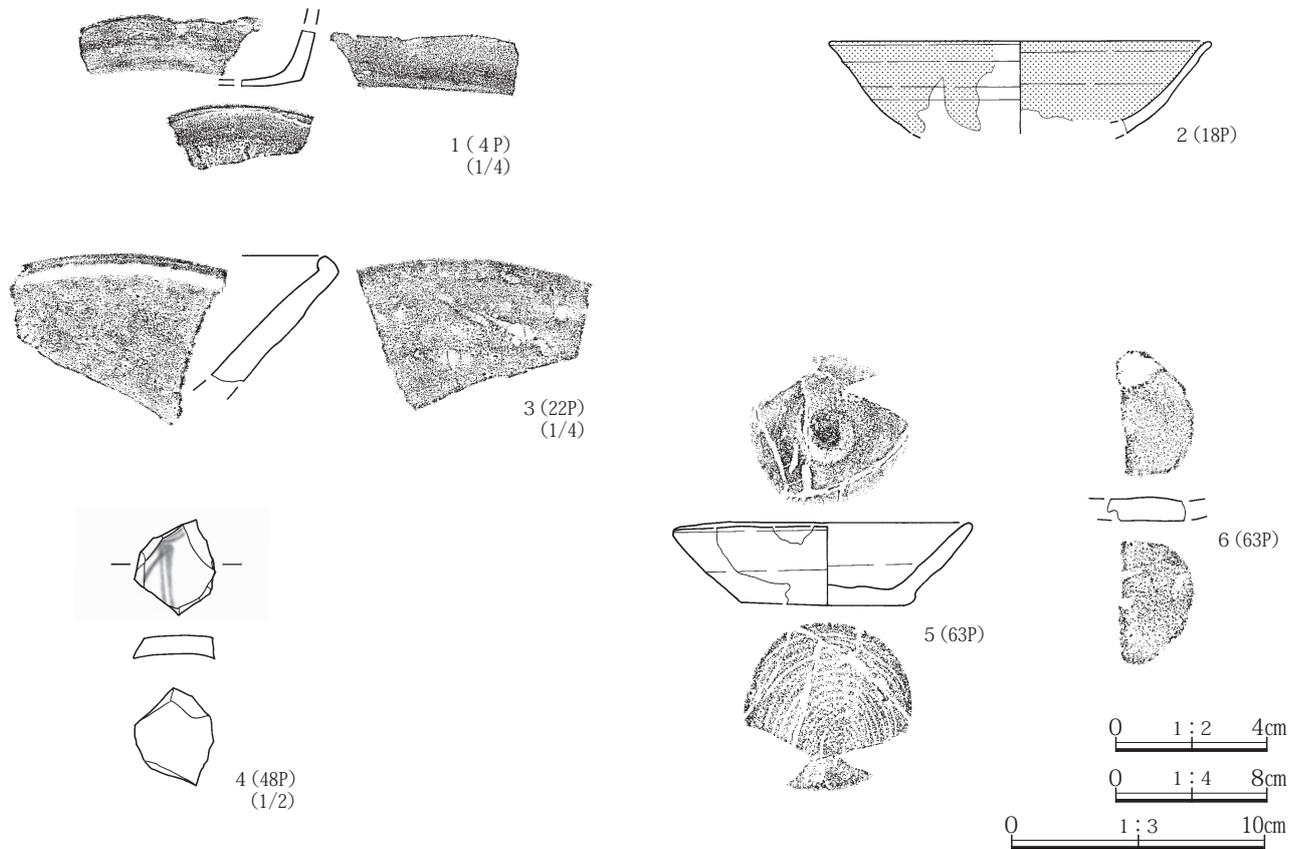
3区で検出されたピットは93基であり、うち掘立柱建物として復元された31基を除く、62基をここでは扱う。なお、ピットの分布も掘立柱建物と同様に、調査区の南半部に集中するため、これを便宜上ピット群と呼び、やや離れた1号溝西側のピット4基を個別扱いとした。性格的な分類ではないが、多くは認定できていない建物の柱穴と考えられる。詳細な規模は第49・50表のとおり。

全体として埋没土に特徴的なものはなく、明らかな柱痕もみられない。注目されるものとして、64号ピットは暗褐色土と黄褐色土が互層堆積し、確認面で人頭大の円礫が出土する。ピットが廃棄され、礎石に換えられたようにもみえるが、関係する建物は抽出されなかった。

出土遺物では22号ピットから在地系土器片口鉢(15世紀前半～16世紀)や、63号ピットから在地系土器皿(15世紀前半～中頃)が出土しており、掘立柱建物の時期を考える資料となる。また、48号ピットでは近世の肥前磁器が出土し、西側に隣接する9号土坑の時期と合わせて、この周辺に近世の遺構が分布する状況が確認できる。

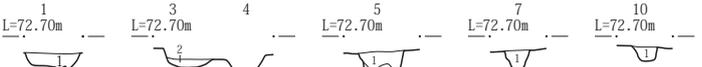
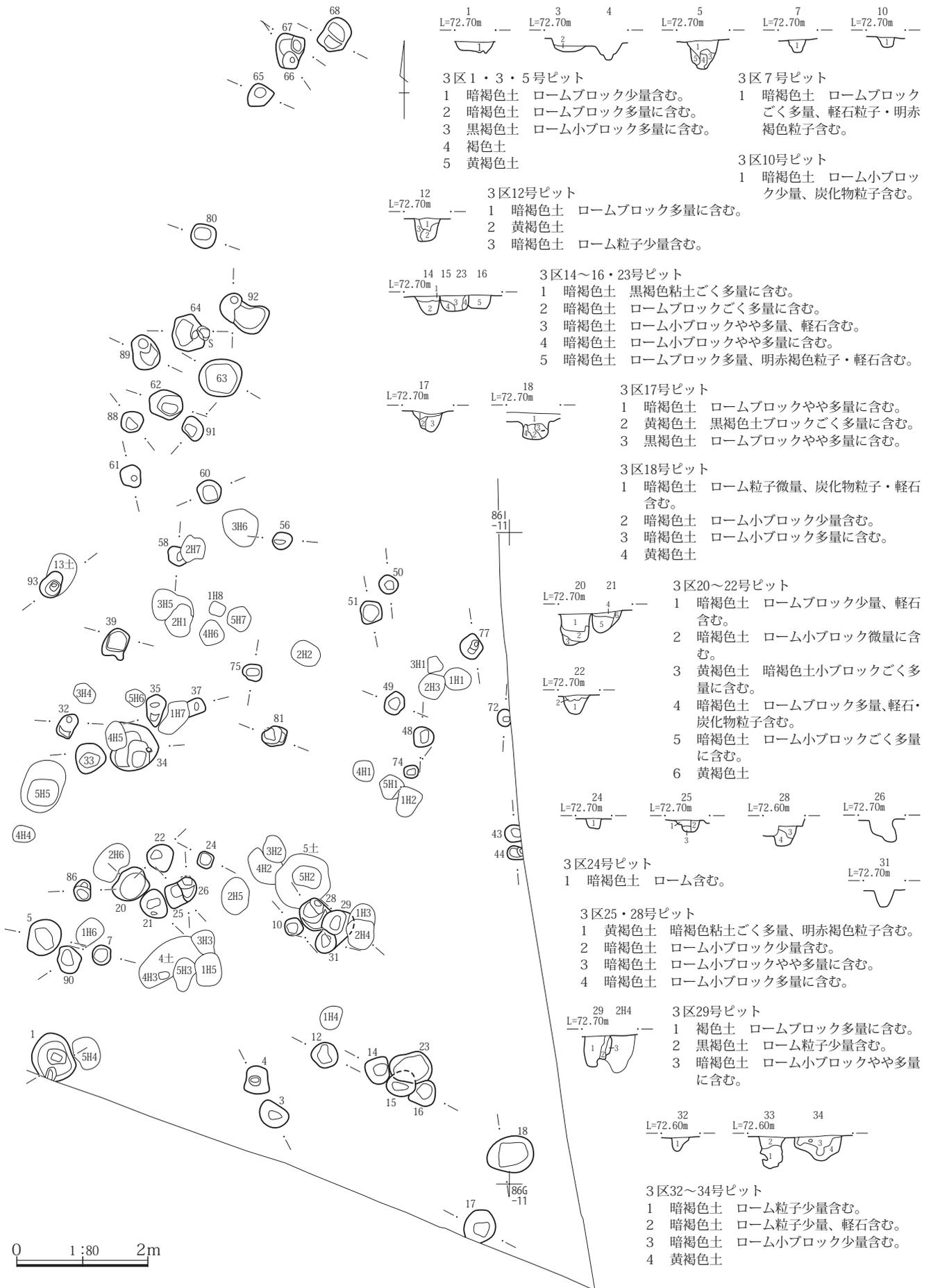
第49表 3区ピット計測表(1)

ピットNo.	位置	長径	短径	深さ
1	86G-12	74	60	22
3	86G-11	46	35	7
4	86G-11	43	32	22
5	86G-12	57	50	38
7	86G-12	30	27	24
10	86G-11	26	26	24
12	86G-11	40	39	37
14	86G-11	40	35	29
15	86G-11	44	(40)	26
16	86G-11	40	(35)	21
17	86F-11	50	46	30
18	86G-10	72	55	40
20	86G-12	56	46	42
21	86G-12	45	38	35
22	86G-12	42	41	31
23	86G-11	65	(50)	29
24	86G-11	24	22	14
25	86G-11	34	(25)	25
26	86G-11	38	37	33
28	86G-11	49	40	50
29	86G-11	(45)	38	41
31	86G-11	(32)	31	30
32	86H-12	38	24	33
33	86H-12	45	45	49
34	86H-12	73	70	37
35	86H-12	50	29	35
37	86H-11	(26)	23	23
39	86H-12	42	35	55



第626図 3区ピット出土遺物

第4節 3区の遺構と遺物



- 3区1・3・5号ピット
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
 - 3 黒褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
 - 4 褐色土
 - 5 黄褐色土
- 3区7号ピット
- 1 暗褐色土 ロームブロックごく多量、軽石粒子・明赤褐色粒子含む。
- 3区10号ピット
- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量、炭化物粒子含む。

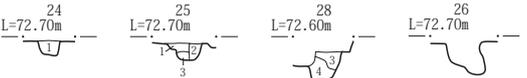
- 3区12号ピット
- 1 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
 - 2 黄褐色土
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

- 3区14~16・23号ピット
- 1 暗褐色土 黒褐色粘土ごく多量に含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロックごく多量に含む。
 - 3 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量、軽石含む。
 - 4 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
 - 5 暗褐色土 ロームブロック多量、明赤褐色粒子・軽石含む。

- 3区17号ピット
- 1 暗褐色土 ロームブロックやや多量に含む。
 - 2 黄褐色土 黒褐色土ブロックごく多量に含む。
 - 3 黒褐色土 ロームブロックやや多量に含む。

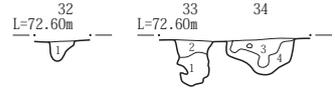
- 3区18号ピット
- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、炭化物粒子・軽石含む。
 - 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
 - 4 黄褐色土

- 3区20~22号ピット
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量、軽石含む。
 - 2 暗褐色土 ローム小ブロック微量に含む。
 - 3 黄褐色土 暗褐色土小ブロックごく多量に含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック多量、軽石・炭化物粒子含む。
 - 5 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
 - 6 黄褐色土

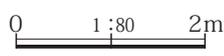


- 3区24号ピット
- 1 暗褐色土 ローム含む。
- 3区25・28号ピット
- 1 黄褐色土 暗褐色粘土ごく多量、明赤褐色粒子含む。
 - 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
 - 4 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。

- 3区29号ピット
- 1 褐色土 ロームブロック多量に含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。



- 3区32~34号ピット
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量、軽石含む。
 - 3 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
 - 4 黄褐色土



第627図 3区ピット群

第4章 発掘調査の記録

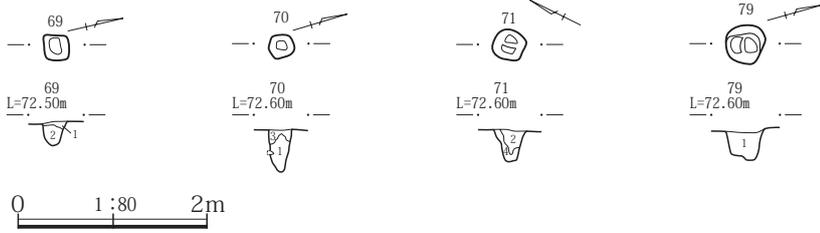


第628図 3区ピット群 断面図

第50表 3区ピット計測表(2)

ピットNo.	位置	長径	短径	深さ
43	86H-10	25	24	22
44	86H-10	(23)	20	22
48	86H-11	30	30	20
49	86H-11	35	30	24
50	86H-11	28	26	21
51	86H-11	34	31	31
56	86H-11	27	26	23
58	86H-12	32	(26)	43
60	86I-11	36	35	26
61	86I-12	35	32	65
62	86I-12	52	41	43
63	86I-11	63	57	32
64	86I-11	54	45	30
65	86J-11	38	32	36
66	86J-11	50	-	29
67	86J-11	44	-	19

68	86J-11	52	40	32
69	86K-11	26	26	23
70	86K-11	26	24	43
71	86L-11	32	32	41
72	86H-11	26	(20)	23
74	86H-11	21	19	14
75	86H-11	30	25	40
77	86H-11	38	35	57
79	86K-12	41	40	21
80	86I-11	38	36	28
81	86H-11	36	31	40
86	86G-12	32	25	24
88	86I-12	35	33	24
89	86I-12	54	33	35
90	86G-12	43	35	23
91	86I-11	35	27	16
92	86I-11	74	41	25
93	86H-12	42	30	40



- 3区69～71・79号ピット
 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
 2 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
 3 褐色土 軽石含む。
 4 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。

第629図 3区ピット

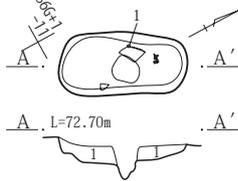
6 墓

1号墓(第630図、P L .258・327)

位置 86F-10グリッド。状況から1号住居より後出とみられ、中央部に重複するピット状の遺構よりも前出。平面形は両丸長方形。主軸方位はN-30°-E。壁はほ

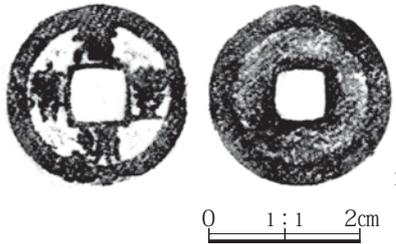
ぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。中央北西寄りの底面で、歯が出土するため、頭部を北向きに土葬されたものと推測される。中央部西寄りで1の銅銭(元豊通寶)が出土する。規模は長軸101cm短軸50cm深さ25cmである。出土した人骨は、鑑定の結果(第5章第1項)12～15歳女性の土葬人骨とされている。出土遺物から中世に比定される。

1号墓



3区1号墓

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。



第630図 3区1号墓と出土遺物

7 溝

3区では溝6条を検出した。すべて中世屋敷に関係すると思われるが、1号溝は規模も大きく、2区1号屋敷の東辺とも考えられるが、建物の状況から屋敷は東側に広がっていた可能性が高い。また、5B号溝もやや規模は小さいが、2区4号溝と同一であり、2区1号屋敷を細分する溝であろう。なお、5A号溝はこれと重複するが、検討材料に乏しい。2～4号溝は浅く形態が類似しており、いずれかの段階で屋敷を区画していた可能性がある。

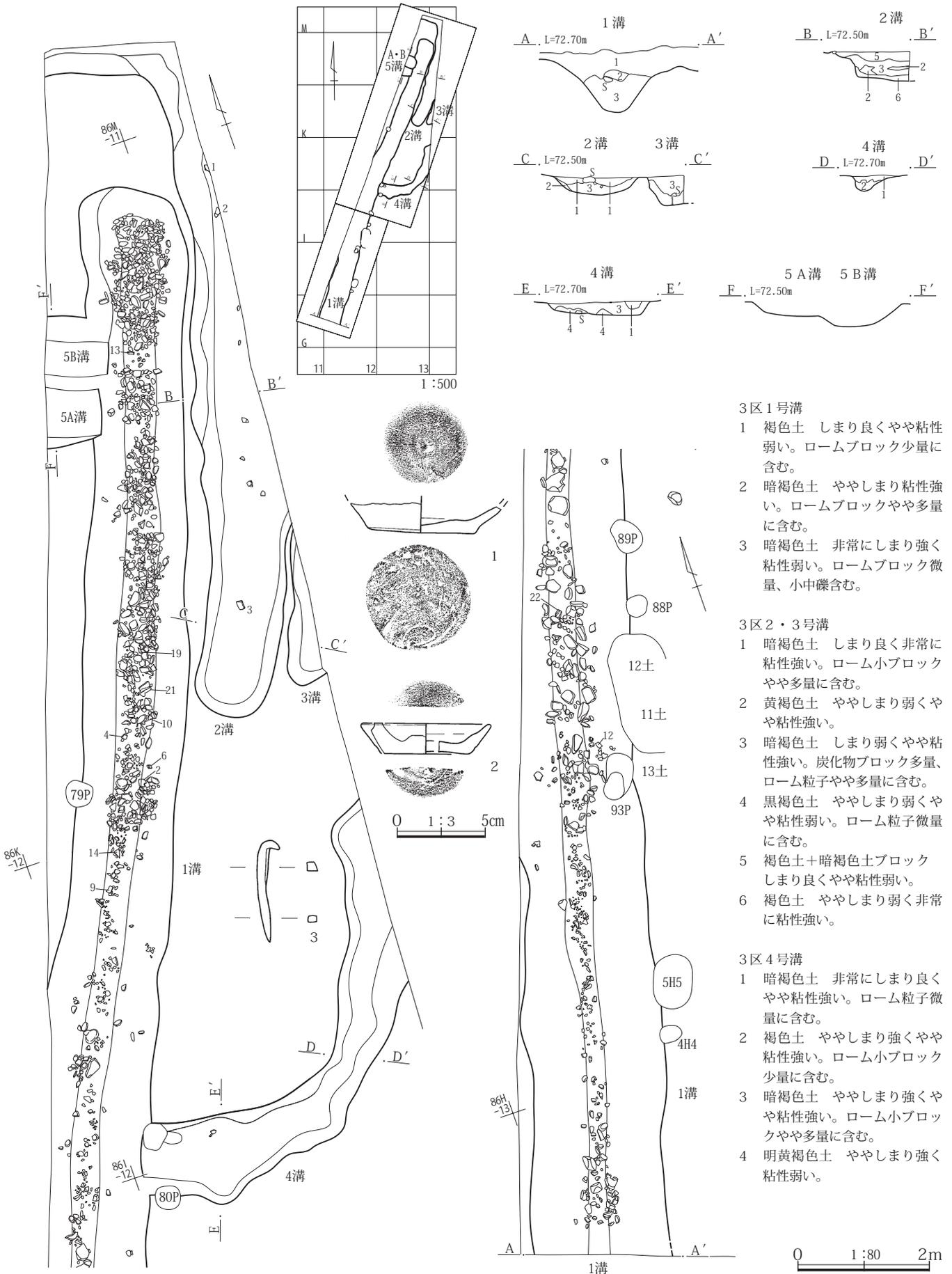
1号溝(第631～633図、P L .259・260・327・328)

位置 86G～L-10～13グリッド。4、5A・B号溝と重複するが新旧関係不明。南側は調査区域外に延びる。平面形はほぼ直線状。走向方位はN-19°-E。断面形は逆台形。底面は平坦。両端の比高差は17cmで、勾配は

ほとんどない。埋没土上位にこぶし大の円礫が多量に投棄される。以下の埋没土は礫を多く含む均質な暗褐色土で人為埋没か。投棄された円礫に混じって、遺物がやや多く出土する。在地系土器鍋鉢類を主体とし、古瀬戸瓶(1・2)も混じる。出土遺物は14世紀後半頃から16世紀に及ぶ。規模は長さ28.30m上端幅135～215cm深さ75cmである。出土遺物から16世紀を下限とすると考えられる。

2号溝(第631・634図、P L .259・260・328)

位置 86K～M-10・11グリッド。大部分が調査区域外となるが、平面形はL字形で、北西部は現道下となり、他の調査区で同一の溝は見つかっていない。走向方位はN-19°-E～N-75°-W。断面形は皿状。底面は丸みを持ち、やや凸凹する。両端の比高差は23cmで、勾配3.7%で北方へ下向する。埋没土1はロームブロックを多量に含み人為埋没で、良く締め固められ、円礫も少量見られる。北東調査区際の埋没土中位で礫に混じって2の在地



3区1号溝

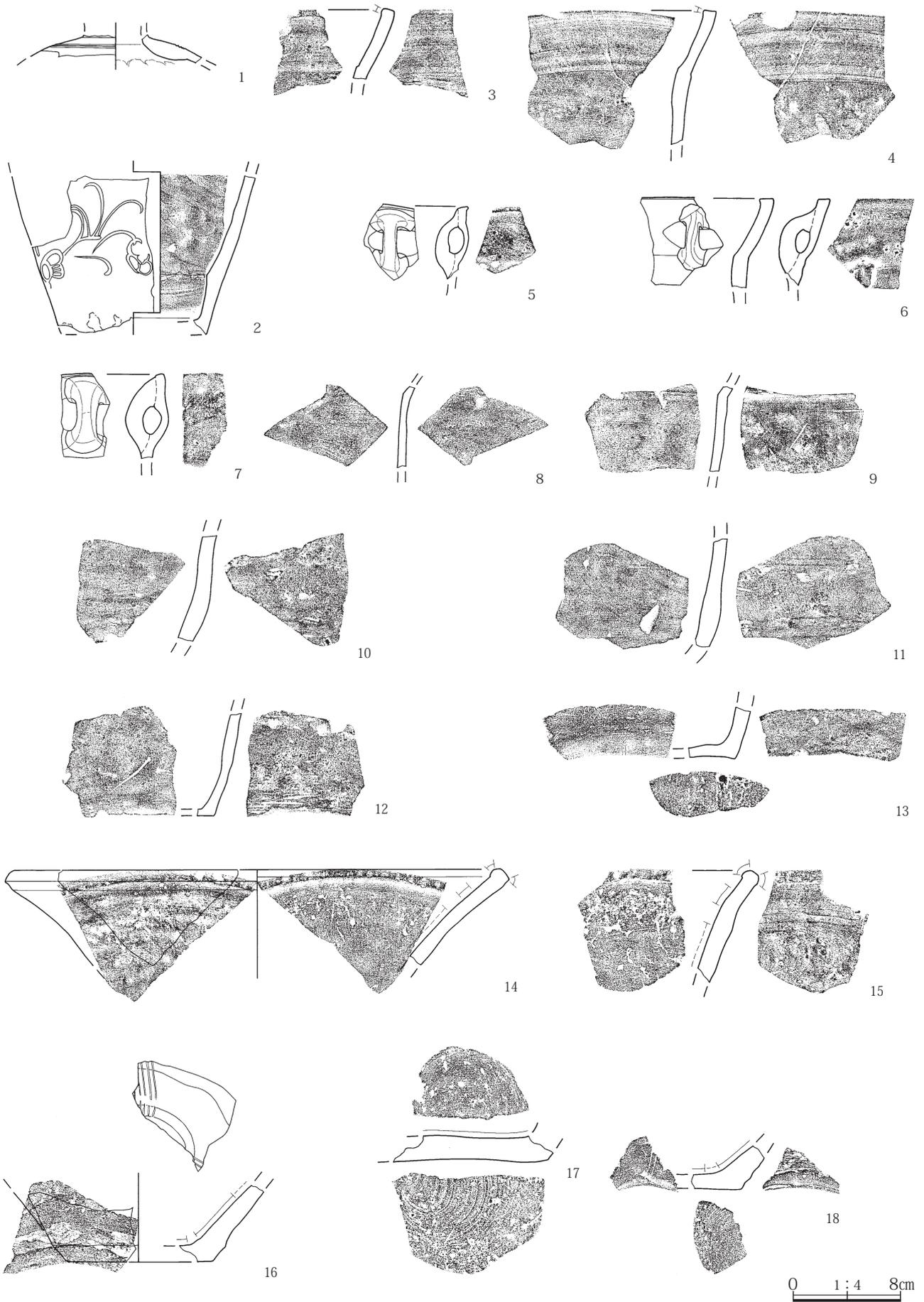
- 1 褐色土 しまり良くやや粘性弱い。ロームブロック少量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり粘性強い。ロームブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 非常にしまり強く粘性弱い。ロームブロック微量、小中礫含む。

3区2・3号溝

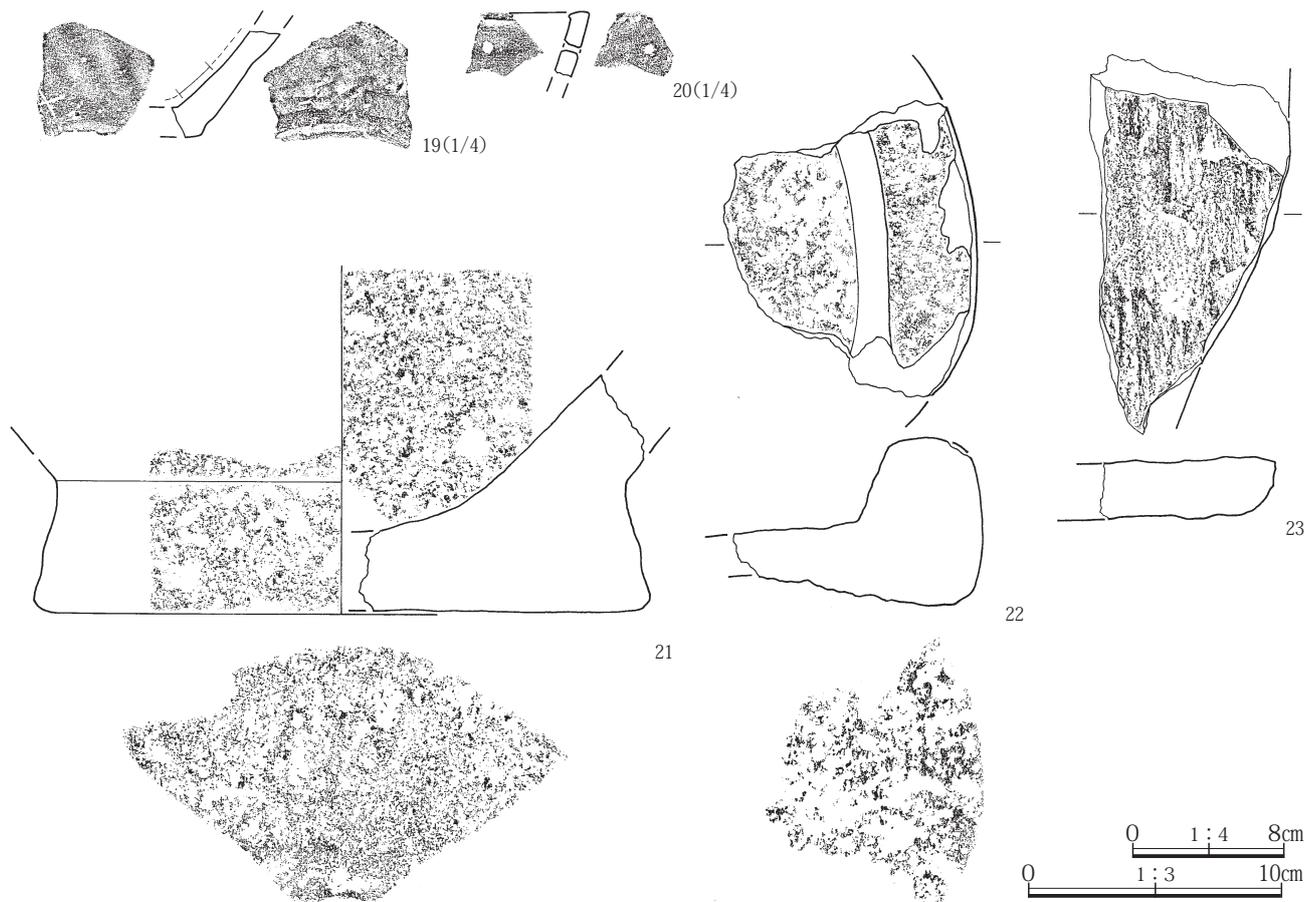
- 1 暗褐色土 しまり良く非常に粘性強い。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 2 黄褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや粘性強い。炭化物ブロック多量、ローム粒子やや多量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ローム粒子微量に含む。
- 5 褐色土+暗褐色土ブロック しまり良くやや粘性弱い。
- 6 褐色土 ややしまり弱く非常に粘性強い。

3区4号溝

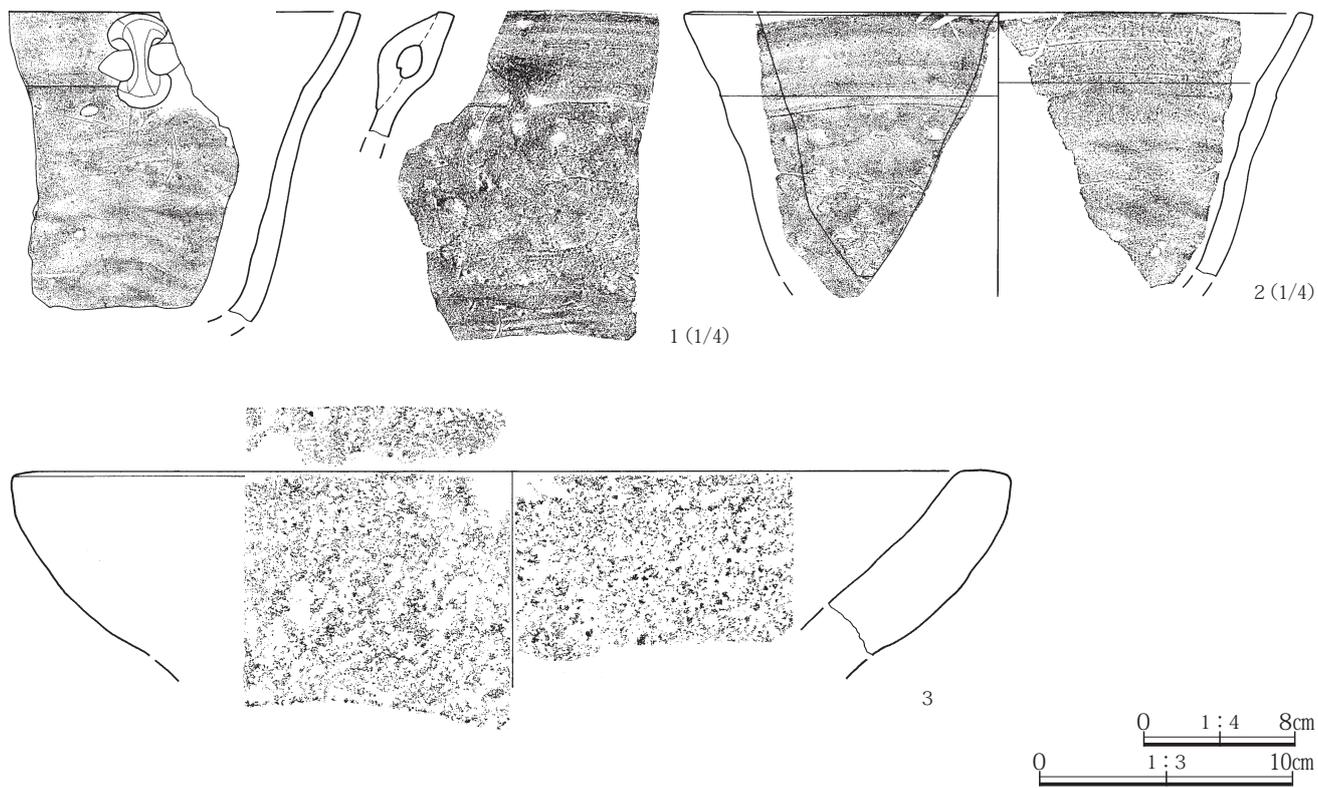
- 1 暗褐色土 非常にしまり良くやや粘性強い。ローム粒子微量に含む。
- 2 褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 明黄褐色土 ややしまり強く粘性弱い。



第632図 3区1号溝出土遺物(1)



第633図 3区1号溝出土遺物(2)



第634図 3区2号溝出土遺物

系土器内耳鍋が出土し、1号井戸と接合する。出土遺物の年代は14世後半から15世紀前半に及ぶ。規模は長さ11.40m上端幅110～125cm深さ25cmである。出土遺物から15世紀前半を下限とすると考えられる。

3号溝(第631図、P L .259・260)

位置 86K-10・11グリッド。調査区東壁際で一部が検出された。平面形は不明。断面形は逆台形か。底面はやや凸凹する。勾配は計測不能。埋没土1はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長さ2.35m上端幅60cm以上深さ36cmである。中世遺物は出土していない。

4号溝(第631図、P L .260・328)

位置 86I・J-10・11グリッド。東西両側ともに調査区域外に延びるが、西側延長線上にある2区ではその延長部は見つからず、途中で立ち上がった可能性がある。平面形はL字形で、屈曲部は狭まり立ち上がり気味となる。走向方位はN-90°～N-30°-E。断面形は皿状。底面はやや凸凹する。両端の比高差は3cmで、勾配はほとんどない。自然埋没か。E断面は徐々に埋まり、最終段階では南壁際が残って、D断面とほぼ同規模となる。埋没土から在地系土器皿(1・2)が出土する。規模は長さ7.95m上端幅59～134cm深さ16cmである。出土遺物から15世紀中頃を下限とすると考えられる。

5A号溝・5B号溝(第631図)

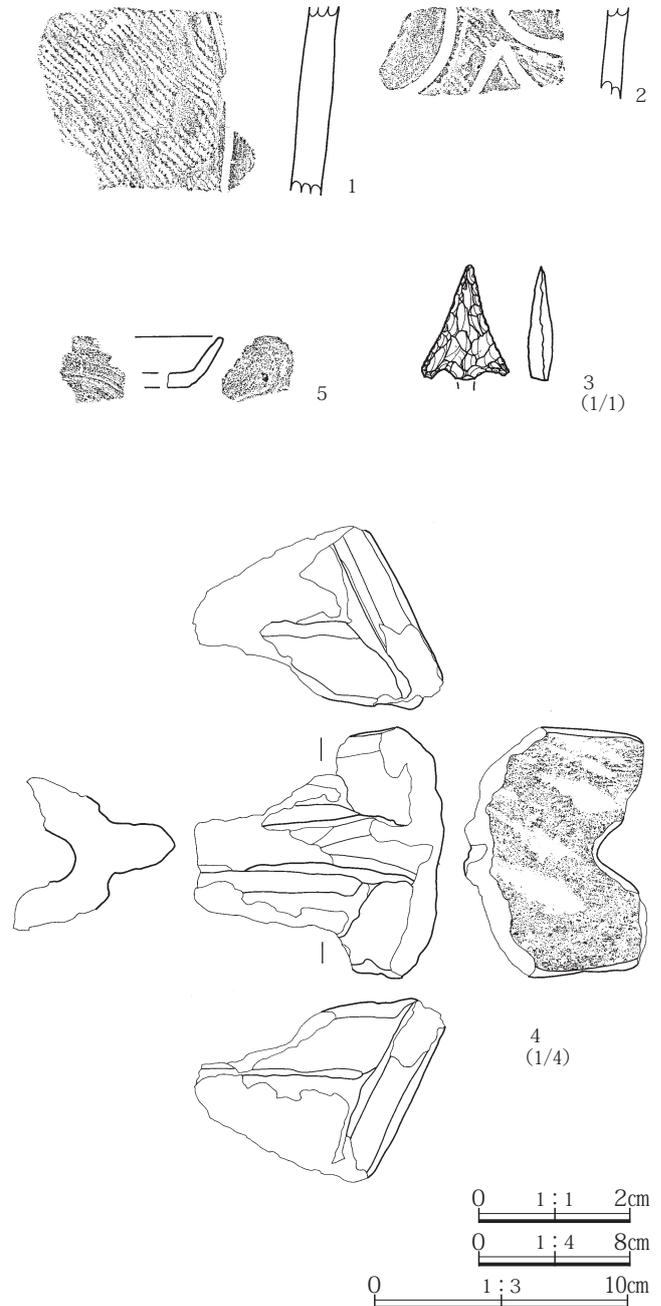
5A号溝 位置 86L-11グリッド。5B号溝より前出で、1号溝と重複するが新旧関係不明。1号溝より東方へは延びない。西側は調査区域外となり、位置と形態から2区4号溝と同一の可能性はある。西側は調査区域外となるが、2区でその延長部は見つかっていない。平面形は不明。断面形は皿状。底面は平坦。勾配計測不能。埋没状況不詳。規模は長さ0.84m上端幅92cm以上深さ13cmである。中世遺物は出土していない。

5B号溝 位置 86L-11グリッド。1・5A号溝より後出で、1号溝より東方へは延びない。西側は調査区域外となり、位置と形態から2区4号溝と同一の可能性はある。平面形は不明。断面形は逆台形。底面はやや丸みを持つ。勾配計測不能。埋没土はロームブロックが目立ち、南側から埋められる。上位は凹みとして残り、黒褐色土により自然埋没か。規模は長さ0.96m上端幅113cm深さ27cmである。中世遺物は出土していない。

8 遺構外出土遺物(第635図、P L .328)

縄文時代の遺構は検出されず、包含層から縄文時代中期・後期の土器1点ずつと石鏃1点を掲載した。非掲載遺物を含めると、中期後半(加曾利E式期)が18点と多くを占める。

4の家形埴輪は特筆される遺物であるが、1号溝に礫と共に投棄されたもので、出所をたどることは難しい。



第635図 3区遺構外出土遺物

第4章 発掘調査の記録

3区1号住居出土遺物

挿図番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/ 色調	成形・整形の特徴	摘要
第613図	1	須恵器 羽釜	+10cm 口縁部～胴部片	口 26.0	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/酸化/暗褐	ロクロ整形、回転右回り。鏝は丁寧な貼付。胴部外面下半は斜のへら削り。	
挿図番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/ 色調	成形・整形の特徴	摘要
第613図 PL.327	2	鉄製品 刀子		長 3.8幅0.9厚0.3重2.7		刀子の先端部分の破片、錆化が著しく本体は空洞化し破損する。	

3区2号掘立柱建物出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第618図	1	在地系 土器	内耳 鍋	P6	-	-	-	体部上 位片	A	褐灰・ 黒褐	断面はにぶい黄橙色、内面器表は褐灰色、外面器表は黒褐色。外面に煤付着。	中世。

3区3号掘立柱建物出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第619図 PL.327	1	中国青 白磁	梅瓶 か	P5	-	-	-	体部片		灰白	外面施釉。釉は発泡してざらつき、二次的の被熱を受ける。文様は不明瞭。	13世紀 ～14世 紀か。

3区土坑出土遺物

挿図番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/ 色調	成形・整形の特徴	摘要					
第623図	1	土師器 甕	1土 口縁部～胴部上 位片	口 18.8	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。						
第623図	2	須恵器 羽釜	2土 口縁部～鏝部片	口 21.4 鏝 27.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。						
挿図 図版	図 番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第623図 PL.327	3	瀬戸・ 美濃陶 器	鉢か	9土	-	-	-	体部片		灰黄	内外面に灰釉。	江戸時 代。

3区1号井戸出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第624図 PL.327	1	在地系 土器	内耳 鍋		(30.0)	-	-	1/8	A	灰	還元炎。器壁薄く、体部は内湾気味で口縁部下で屈曲。口縁部は直線的に開く。内面口縁部下の段は明瞭で、屈曲部の稜も明瞭。口縁部上面は平坦で、端部内外面はやや明瞭な稜をなす。	IV・V 期。
第624図	2	在地系 土器	内耳 鍋		-	-	-	口縁部 片	B	褐灰	断面はにぶい橙色、内面器表は褐灰色、外面器表は黒褐色。器壁はやや厚い。口縁部はやや窪み内傾。端部内面は明瞭な稜をなす。端部外面は丸みを持つ。	IV・V 期
第624図	3	在地系 土器	内耳 鍋		-	-	-	口縁部 片	A	褐灰	断面はにぶい橙色、内面器表は褐灰色、外面器表は黒褐色。器壁はやや厚い。口縁部はやや窪み内傾。端部内面は明瞭な稜をなす。端部外面は丸みを持つ。	IV・V 期。2 と同一 個体の 可能性 高い。
第624図	4	在地系 土器	内耳 鍋		-	-	-	口縁部 片	A	褐灰	断面はにぶい橙色、内面器表は褐灰色、外面器表は黒褐色。器壁はやや厚い。口縁部はやや窪み内傾。端部内面は明瞭な稜をなす。端部外面は丸みを持つ。	IV・V 期。2 と同一 個体の 可能性 高い。
第624図	5	在地系 土器	内耳 鍋		-	-	-	口縁部 片	A	灰黄褐	断面はにぶい橙色、内面器表は灰黄褐色、外面器表は黒褐色。器壁薄い。口縁部外面は尖り気味。端部内面上部の器表は摩滅。口縁部内面下の段は明瞭で、下部は明瞭な稜をなす。	IV・V 期。
第624図	6	在地系 土器	内耳 鍋か		-	-	-	口縁部 片	A	褐灰	還元炎。器壁薄く、口縁部は丸みを持って内外面に小さく突き出る。	IV・V 期か。
第624図	7	在地系 土器	内耳 鍋か		-	-	-	体部片	B	灰	還元炎。内面下位は強い撫でにより凹線状に窪む。	中世。
第624図	8	在地系 土器	片口 鉢か		-	-	-	口縁部 片	B	灰	還元炎。器壁薄く、口縁部は肥厚。口縁部内面は摩滅。	中世。
第624図	9	在地系 土器	片口 鉢		-	-	-	口縁部 片	B	橙	口縁部中位薄くなり、端部は肥厚。口縁部器壁摩滅し、口縁部内面下位は帯状に器表が剥離。片口部1箇所。	IV～VI 期。11 と同一 個体の 可能性 高い。
第624図	10	在地系 土器	片口 鉢		-	-	-	片口部 から体 部片	B	灰	還元炎。器壁薄く、体部から口縁部は外反。片口部のみの残存で口縁部形態は不明。体部内面中位以下は、使用により器表平滑。	IV～VI 期。

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第625図 PL.327	11	在地系 土器	片口 鉢		(29.0)	-	-	口縁部 片	B	橙	口縁部中位薄くなり、端部は肥厚。口縁部器壁摩滅し、口縁部内面 下位は帯状に器表が剥離。片口部1箇所。	IV～VI 期。9 と同一 個体の 可能性 高い。
第625図	12	在地系 土器	片口 鉢		-	-	-	体部片	B	にぶい 黄褐色	使用により、残存部内面上半は平滑となり、下半は器表が摩滅。外面 にすり目状の条線が2本認められるが、調整痕から反り具合と調整痕 から考えて外面である。	中世。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況		備考	
第625図 PL.327	13	板碑			雲母石英片 岩	(37.5)	(25.2)	3939.2	上辺に浅い薬研彫りの蓮座が残る。風化が激しく、蓮座 以下の詳細は不明。右辺は板碑初期の形状を逸し、丸味 を帯びている。			
第625図	14	板碑			雲母石英片 岩	(55.2)	27.4	5419.9	頂部山形右辺部を欠損。種子等は不明。右辺は丸味を帯 び、変形。			
第625図 PL.327	15	砥石?		礫砥石	粗粒輝石安 山岩	18.4	15.9	2051.8	両側面に光沢を帯びた研磨面。表裏面に摩耗面・粗い線 条痕。下端部側縁を敲打使用。スス付着。			
第625図 PL.327	16	砥石		礫砥石	粗粒輝石安 山岩	(19.1)	7.5	1830.3	背面側・左に摩耗面、性格不明の工具痕。中央付近に粗 い線条痕。側面の著しい研磨面が主たる使用面。			

3区ピット出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第626図	1	在地系 土器	内耳 鍋	4P	-	-	-	体部下 位から 底部片	A	灰	還元炎。体部外面から底部外面周縁の撫では非常に丁寧。底部外面は 砂底状。底部器壁は薄い。丸底。	中世。
第626図	3	在地系 土器	片口 鉢	22P	-	-	-	口縁部 片	A	橙	体部器壁は厚く、口縁部はやや薄い、口縁部は内側に折り曲げる。 器表の遺存状態が悪く、使用痕は不明。	IV～VI 期。
第626図 PL.327	4	肥前磁 器	円盤 状製 品か	48P	2.5(長 さ)	2.0(幅)	0.5(厚)	完形		灰白	波佐見系外面二重網目文の碗片周囲を意図的に打ち欠いた可能性高 い。	江戸時 代。
第626図 PL.327	5	在地系 土器	皿	63P	11.0～ 11.5	6.5	3.2	3/4	B	にぶい 黄橙	口縁部平面形はやや楕円形。底部内面は螺旋状轆轤目。体部外面の轆 轤目は1条のみ目立つ。底部左回転糸切無調整。	15世紀 前半～ 中。
第626図	6	在地系 土器	皿	63P	-	-	-	底部片	B	浅黄橙	遺存状態が悪く、切り離し技法など不明。	中世か。
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/ 色調	成形・整形の特徴			摘 要	
第626図	2	灰釉陶器 碗	18ピット 口縁部～体部片	口	14.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	口縁部整形、回転方向不明。施釉は刷毛掛けか。			

3区1号墓出土遺物

挿 図 版	図 番	種別	器形	出土位置	径1(mm)	径2(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存	形・成調整等/備考
第630図 PL.327	1	銭貨	元豊通寶	+7cm	24.31	24.02	1.03～1.13	2.14	完形	北宋、1078年初鑄。行書。

3区4号溝出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第631図 PL.328	1	在地系 土器	皿		-	6.0	-	下半部	B	にぶい 黄橙	底部内面中央は窪み、底部内面と体部境は、回転横撫でにより浅く窪 ませる。底部左回転糸切無調整。	中世。
第631図 PL.328	2	在地系 土器	皿		(7.3)	(5.0)	1.7	1/4	B	にぶい 黄橙	底部中央は盛り上がる。口縁部内面は窪む。底部左回転糸切無調整。	15世紀 前半～ 中。
挿図番号 PL.番号	No.	種 器 類	出土位置 残存率	残存率			特徴・状態					
第631図 PL.328	3	鉄製品 釘	覆土	長3.7幅0.8厚0.4重2.0			断面四角の角釘で頭部は少し薄く伸ばしくの字に折り曲げる。先は徐々に細く し先端は尖る					

3区1号溝出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第632図	1	古瀬戸	瓶小		-	-	-	肩部片		灰白	肩部に5条の横線。外面に灰釉。細かい貫入が入る。	古瀬戸 中・後 期。
第632図 PL.327	2	古瀬戸	瓶類	+42 cm	-	-	-	体部下 位片		灰白	外面に草花文。外面に灰釉。細かい貫入が入る。残存部左1/3の釉は 発泡しており、二次被熱の可能性高い。	古瀬戸 中・後 期。
第632図	3	在地系 土器	内耳 鍋		-	-	-	口縁部 片	B	灰褐色	断面はにぶい褐色、内面器表は灰褐色。外面器表は黒褐色。器壁はや や厚く、口縁部は長い。内面口縁部下の段差は低いがやや明瞭。口縁 部上面は平坦で、内面は突き出る。内面突出部先端は摩滅。端部外 面は丸みを持つ。	II・III 期。
第632図	4	在地系 土器	内耳 鍋	+44 cm	-	-	-	口縁部 から体 部片	B	黄灰	断面はにぶい黄色、器表は灰黄色。器壁やや厚く、口縁部は外反。口 縁部内面下の段差は幅広でやや明瞭、下部は明瞭な稜をなして屈曲。 口縁部上面は平坦。内面下位は内湾し、端部が僅かに突き出るよう に見える。突出部先端の器表は摩滅。端部内外面は明瞭な稜をなす。	III期。

第4章 発掘調査の記録

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第632図 PL.327	5	在地系 土器	内耳 鍋	-	-	-	-	口縁部 片	B	灰	還元炎。細く小さい内耳を器壁内面に貼り付け。口縁端部外面は外方に突き出す。端部上面は平坦。	V期か。8と同一個体の可能性あり。
第632図	6	在地系 土器	内耳 鍋	+42 cm	-	-	-	口縁部 片	B	褐灰	断面にはぶい黄褐色、器表は褐灰色。器壁はやや厚く、口縁部は明瞭に屈曲して延びる。口縁端部上面は平坦で、端部内外面は明瞭な稜をなす。端部付近内面は内湾。内耳上部は口縁部内面に貼り付けるが、下部は口縁部下外面に粘土貼り付け痕状の高まりがあり、器壁を貫通している可能性がある。	Ⅲ・Ⅳ期。
第632図 PL.327	7	在地系 土器	内耳 鍋	-	-	-	-	口縁部 片	B	灰黄	太めの内耳を器壁内面に貼り付け。	中世。
第632図	8	在地系 土器	内耳 鍋	-	-	-	-	体部片	B	灰	還元炎で器壁薄い。残存部上端は口縁部下端。口縁部下端は外反するが、内耳貼り付け部のため、段差や稜は不明。	中世。 5と同一個体の可能性あり。
第632図	9	在地系 土器	内耳 鍋	+49 cm	-	-	-	体部片	A	褐灰	口縁部の屈曲は明瞭。内面口縁部下の稜はやや明瞭。外面の1部に斜位篋削り残る。	Ⅲ～Ⅴ期か。
第632図	10	在地系 土器	内耳 鍋	+45 cm	-	-	-	体部片	A	灰黄褐	断面にはぶい褐色、内面器表は灰黄褐色、外面器表は黒褐色。体部外面下端以上に煤付着。体部外面下端は灰黄褐色。体部下位は内湾し、外面下位は篋削り。	Ⅰ・Ⅱ期か。
第632図	11	在地系 土器	内耳 鍋	-	-	-	-	体部片	B	にぶい 黄橙	断面と内面器表はにぶい黄褐色、外面器表は褐灰色。器壁は厚い。残存部の外面下端はにぶい黄褐色。体部外面下位は篋撫で。	Ⅰ・Ⅱ期か。
第632図	12	在地系 土器	内耳 鍋	+9 cm	-	-	-	体部下 位片	A	灰黄褐	断面と内面器表は灰黄褐色、外面器表は黒褐色。体部外面下端から底部外面は灰黄褐色。体部外面下位は篋撫で。平底で体部下位の湾曲は非常に弱く直線的。	Ⅲ～Ⅴ期か。
第632図	13	在地系 土器	内耳 鍋	+41 cm	-	-	-	体部下 位から 底部片	A	浅黄	断面から内面器表は浅黄色、体部外面器表は黒褐色。体部外面下端から底部外面は橙色。体部外面下位の湾曲はなく、直線的。内外面の体部と底部境は明瞭。器壁は厚いが、平底であろう。底部外面は砂底状。	Ⅲ・Ⅳ期か。
第632図 PL.327	14	在地系 土器	片口 鉢	+50 cm	(36.0)	-	-	1/8	B	にぶい 褐	断面は褐色。口縁部下で緩く屈曲し、口縁は開く。口縁端部内面は丸く突き出る。端部内外面の器表は細かい剥離が連続したように摩滅し、内面口縁部下の湾曲部も器表が剥離したような摩滅部が廻る。体部内面は使用により平滑となる。	Ⅳ・Ⅴ期か。
第632図	15	在地系 土器	片口 鉢	-	-	-	-	口縁部	B	灰	断面は暗灰色、口縁部器表付近は褐色、器表は灰色。還元炎気味。口縁部は外反し、端部は内面に突き出る。突出部の幅は広く、内外面共に器表は摩滅。外反部内面の器表は帯状に剥離。内面下半は使用により平滑となる。体部外面は縦位篋撫での後、横位撫で。	Ⅳ・Ⅴ期か。
第632図 PL.327	16	在地系 土器	片口 鉢	+43 cm	-	-	-	底部片	A	黒	断面は暗灰色、器表は黒色。体部外面下端は回転篋削り。使用により、底部内面周縁と体部下端は器表摩滅、体部下位と底部と体部境は平滑。	中世。 18と同一個体の可能性高い。
第632図	17	在地系 土器	片口 鉢	-	-	-	-	底部片	B	灰	還元炎。内面は使用により器表摩滅し平滑。底部左回転糸切無調整で周縁の器表摩滅。器壁は厚い。	中世。
第632図	18	在地系 土器	片口 鉢	フク 土	-	-	-	底部片	A	黒	断面は暗灰色、器表は黒色。体部外面下端は回転篋削りか。底部回転糸切無調整。使用により、底部内面周縁を除き、器表摩滅。体部内面に細く浅い3本+αのすり目。	中世。 16と同一個体の可能性高い。
第633図	19	在地系 土器	片口 鉢	+38 cm	-	-	-	体部下 位片	A	にぶい 黄褐	体部下位の器壁は厚い。内面に間隔の広いすり目が2箇所残る。体部内面下位は、使用により器表摩滅し、体部中位と底部と体部境は平滑となる。	Ⅴ・Ⅵ期。
第633図	20	在地系 土器	不詳	-	-	-	-	口縁部 小片	A	黒	断面は灰白色、器表は暗灰から黒色。口縁端部は内面に小さく突出し、端部は尖る。口縁部に焼成後の穿孔が1箇所残る。穿孔直径は器表で5mm。	時期不詳。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況			備考
第633図 PL.328	21	石鉢	+42cm		粗粒輝石安 山岩	底径 24.2	高さ (9.4)	1397.2	外面は粗く磨き整形、内面は丁寧な磨き整形。底部内面は粗い敲き整形痕を残す。底部外面は使用時のスレが著しい。			
第633図 PL.327	22	石臼	+48cm	上臼	粗粒輝石安 山岩	(径23)	高6.7	560.1	激しく使い込まれ、著しく片減る。溝目は痕跡程度。			
第633図 PL.327	23	板碑			雲母石英片 岩	(14.8)	7.8	383.0	裏面側は石英を含む層面で剥離。残存部に工具痕は見られない。			

3区2号溝出土遺物

挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第634図 PL.328	1	在地系 土器	内耳 鍋	+29 cm	-	-	-	1/6	A	黒	断面から器表はにぶい黄橙色、器表は黒色。焼成最終段階のみ焼し焼成。焼しは器表のみで器表付近には及ばない。口縁部は緩く屈曲し、内湾して延びる。内面口縁部下は湾曲し、稜や段差は認められない。口縁端部上面は平坦。内耳上部は口縁部内壁に貼り付けるが、下部は外面に粘土紐を押しつけたような痕跡があり、器壁に通して貼り付けている可能性がある。同様な例は第632図1にも認められる。体部下位は内湾し、外面は竈撫で。内耳貼り付け部の口縁はやや歪む。	Ⅱ期。
第634図	2	在地系 土器	内耳 鍋	+20 cm	(33.0)	-	-	1/8	B	灰	還元炎。口縁部下で小さく屈曲し、口縁部は僅かに内湾。端部上面は平坦。口縁部下内面は緩い稜をなす部分と丸みを持つ部分とがある。段差はない。残存部の体部下端外面は竈撫でか。	Ⅱ・Ⅲ期。
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況			備考
第634図 PL.328	3	石鉢	+8cm		粗粒輝石安 山岩	(径39)		497.8	内外面とも粗い磨き整形。口唇部は丁寧な磨き整形。			

3区遺構外出土遺物

挿図 図版	図 番	器形	残存	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考			
第635図 PL.328	1	深鉢	胴部破片	3住居	粗砂、細礫	黄褐	ふつつ	胴部に縦位の無文帯を沈線で区画し、L Rの縄文を施す。	加曾利E式			
第635図 PL.328	2	浅鉢	胴部破片	2溝	粗砂	橙	ふつつ	胴部に沈線でJ字文等の曲線的な文様を描き、L Rの縄文を充填する。	称名寺式			
挿図番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長	幅	重さ (g)	使用状況・製作状況	備考		
第635図 PL.328	3	石鉢		凹基有茎鉢	チャート	(1.5)	1.1	3.0	完成状態。茎を欠損。			
-	6	加工痕ある 剥片	No.8	幅広剥片	硬質泥岩	9	10.4	273.9	加工意図：削器。	非実測		
挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/ 色調	成形・整形の特徴			摘 要			
第635図	4	埴輪 家形埴輪	1号溝 屋根部片		細砂粒・粗砂粒/ 酸化/橙	屋根の棟端部と考えられ、棟の部分は板状の粘土を筒状のものに巻いて作成したものか。器面の整形はやや雑。			器面摩滅			
挿図 図版	図 番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	形・成調整等	備考
第635図	5	在地系 土器	皿	1住	-	-	-	破片	B	にぶい 黄橙	体部と口縁部はあまり開かない。小型の皿であろう。底部切り離し不明。	中世。

第5章 鑑定分析・自然科学分析

第1項 出土人骨鑑定分析

1 はじめに

当遺跡では、調査された墓、火葬跡を理解するため、出土人骨の鑑定分析を生物考古学研究所榑崎修一郎氏に委託して実施した。

2 分析目的

当遺跡2区では、中世の1号屋敷の西側に近接して、火葬跡1基、土坑2基が検出され、3区では土坑墓1基があり、あわせて4体の人骨が出土している。これらの人骨について、年齢・性別・個体数・部位の鑑定を行い、出土状況から火葬及び埋葬時の体位や、火葬方法、取骨法など、幅広い分析を行った。これにより、当遺跡における中世の生活・習俗を解明する有用な資料とすることができる。

3 分析結果

当遺跡の2・3区の墓坑・火葬跡から、人骨が出土したので、以下に報告する。

人骨は、クリーニング後、観察・写真撮影・計測を行った。人骨の計測方法は、藤田(藤田、1949)の方法に従い、歯の歯冠計測値の比較は、中近世人は松村(Matsumura、1995)を現代人は権田(権田、1949)を使用した。

(1) 2区出土人骨

2区では、1号火葬跡・2号墓・3号墓の3基から、人骨が出土している。これら、3基の遺構は、密集しておらず、散在して位置している。

1号火葬跡出土火葬人骨

①人骨の出土状況

人骨は、長軸約119cm・短軸約82cm・深さ約18cmの楕円形土坑から出土している。長軸は、ほぼ南北である。焼土を含み人骨は被熱を受けているので、火葬跡であると推定される。

②火葬方法

火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の

温度は、約900℃以上であると推定される。また、火葬人骨には亀裂・捻れ・歪みが認められるため、白骨化させたものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。

③被火葬者の頭位・焼成状態

被火葬者は、成人であると推定されている。また、大きな傾向として、土坑の北側から頭蓋骨片が出土している。土坑の規模から、被火葬者は、頭を北にした屈位で火葬にされたと推定される。

④副葬品

副葬品は、中世の中国青磁1点が検出されている。

⑤火葬人骨の出土部位

火葬人骨の出土部位は、部分的にほぼ全身におよぶ。

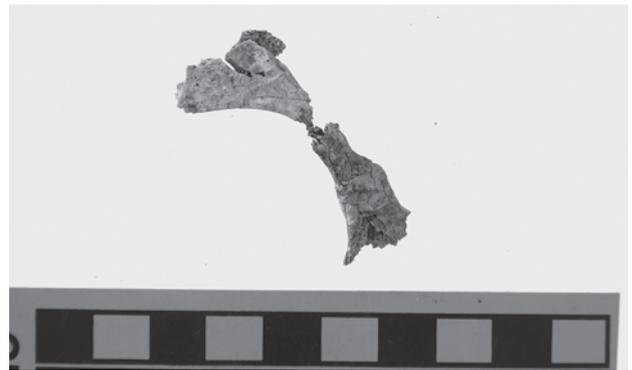
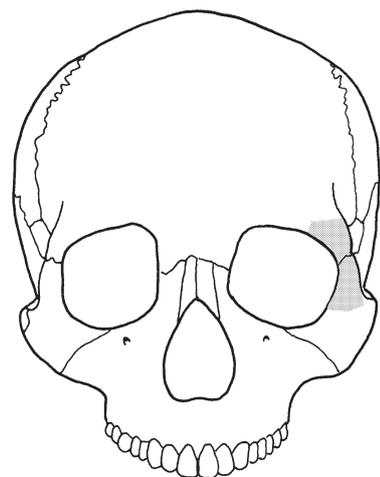


写真1 綿貫伊勢遺跡2区1号火葬跡出土火葬人骨



第636図 綿貫伊勢遺跡2区1号火葬跡出土火葬人骨出土部位図

⑥被火葬者の個体数

火葬人骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑦被火葬者の性別

火葬による収縮を考慮しても、全体的に華奢で小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。特に、写真1に示した眼窩上縁は鋭角で薄いため、女性と推定する根拠の1つになる。

⑧被火葬者の死亡年齢

歯根がある程度数、確認されている。また、下顎第3大臼歯の歯根も確認された。さらに、頭蓋骨の主要縫合は癒合していない状態であるので、被葬者の死亡年齢は約20歳代～30歳代であると推定される。

⑨収骨(拾骨)方法

火葬人骨の残存量は比較的多いため、一部の火葬人骨のみを収骨した西日本タイプの収骨(拾骨)方法であると推定される。

2号墓出土人骨

①人骨の出土状況

人骨は、長軸約108cm・短軸約72cm・深さ約6cmの不整楕円形土坑から出土している。但し、西側は攪乱を受けている。長軸は、ほぼ南北方向である。骨は、被熱を受けていないので、土葬である。

②人骨の頭位・埋葬状態

出土人骨の内、遊離歯の歯冠部が土坑の北側から出土しているため、頭位は北であると推定される。また、遊離歯は右側がほとんどで左側は少ない。経験則であるが、このように出土部位が偏る場合は、右側を下にして埋葬されていた場合が多い。左側は、遺構確認の際に破損したものと推定される。

③副葬品

副葬品は、中世のカワラケ1点が検出されている。

④人骨の出土部位

人骨は、遊離歯の歯冠部のみ出土しており、四肢骨は認められない。

⑤被葬者の個体数

遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値を比較すると、大きいため被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、上下第1大臼歯及び同第2大臼歯は象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。ところが、上下第3大臼歯には咬耗は認められない。

このような場合、第3大臼歯は萌出していないか萌出した直後、あるいは萌出しても咬合しなかったという可能性が考えられる。

本土坑墓は、現状で深さ6cmしかない。恐らく、遺構確認の際に四肢骨も一緒に削られた可能性が高い。従って、歯の咬耗度から、被葬者の死亡年齢は、約20歳代から約30歳代であると推定される。

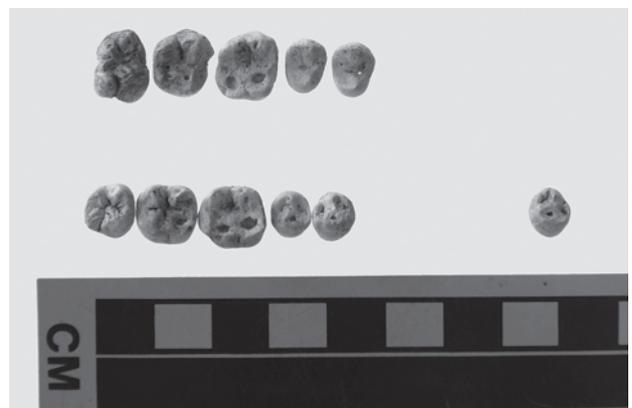


写真2 綿貫伊勢遺跡2区2号墓出土歯(咬合面観)

第52表 綿貫伊勢遺跡2区2号墓出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測	綿貫伊勢遺跡 2区2号墓		中世時代人* Matsumura, 1995		江戸時代人* Matsumura, 1995		現代人** 権田, 1959		
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
上顎	P1	MD	7.4	—	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	9.6	—	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	7.0	—	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.5	—	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	10.5	—	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	12.0	—	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
M2	MD	10.4	—	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
	BL	11.6	—	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	
M3	MD	9.3	—	—	—	—	—	8.94	8.86	
	BL	12.5	—	—	—	—	—	10.79	10.50	
下顎	P1	MD	7.5	7.4	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.4	8.4	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P2	MD	6.9	7.5	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.1	7.9	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	11.6	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	10.8	—	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	10.5	—	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	9.9	—	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	M3	MD	9.1	—	—	—	—	—	10.96	10.65
		BL	9.4	—	—	—	—	—	10.28	10.02

註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註2. 歯種は、P1(第1小臼歯)・P2(第2小臼歯)・M1(第1大臼歯)・M2(第2大臼歯)・M3(第3大臼歯)を意味する。

註3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径)を意味する。

3号墓出土人骨

①人骨の出土状況

人骨は、長軸約100cm・短軸約80cm・深さ約10cmの楕円形土坑から出土している。骨は、被熱を受けていないので、土葬墓であると推定される。

②被葬者の頭位・埋葬状態

四肢骨は、土坑の南側から出土している。従って、被葬者の頭位は、北であると推定される。土坑の規模から、屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品

副葬品は、銭貨(元豊通宝)が1点出土している。

④人骨の出土部位・個体数・性別・死亡年齢

四肢骨片のみが出土している。恐らく、大腿骨片であると推定される。大腿骨骨幹部の骨の厚さは比較的薄い。

しかしながら、骨片のみであるので個体数は1個体・性別は女性・死亡年齢は成人としか推定できない。

(2) 3区出土人骨

1号墓出土人骨は、発掘現場にて保存処理が行われていた。何が使用されたかは不明であるが、土砂と共に遊離歯の歯冠部に付着しており、クリーニングは電動リユーターで行わなければならなかった。発掘現場での保存処理は、よほどの場合を除いて実施しない方がよい。

1号墓出土人骨

①人骨の出土状況

人骨は、調査区の最南東部に位置する、1号墓から出土している。この1号墓は、長軸約101cm・短軸約50cm・深さ約12～25cmの規模である。人骨には、被熱を受けた痕跡が認められないため土葬墓であると推定される。

②人骨の頭位・埋葬状態

出土人骨の内、遊離歯の出土位置から、頭位は、北東であると推定される。また、遊離歯は右側がほとんどで左側は少ない。経験則であるが、このように偏る場合は、右側を下にして埋葬されていた場合が多い。左側は、遺構確認の際に破損したものと推定される。

③副葬品

副葬品は、中世の在地土器が1点出土している。

④人骨の出土部位

出土人骨は、遊離歯の歯冠部のみである。

⑤被葬者の個体数

出土遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は、比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

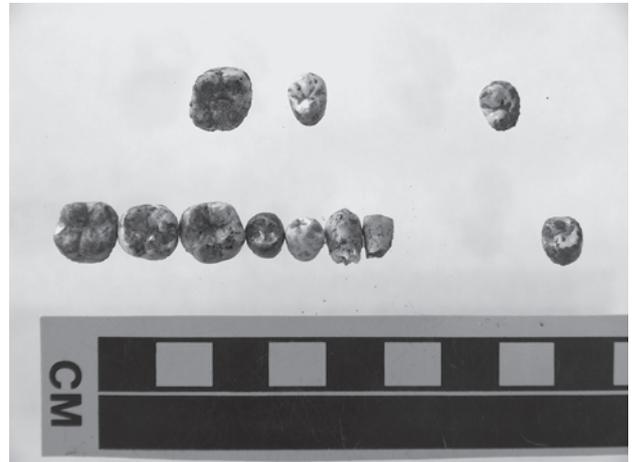


写真3 綿貫伊勢遺跡3区1号墓出土歯(咬合面観)

第53表 綿貫伊勢遺跡3区1号墓出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測	綿貫伊勢遺跡 3区1号墓		中世時代人* Matsumura, 1995		江戸時代人* Matsumura, 1995		現代人** 権田, 1959	
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
P1	MD	7.2	—	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
	BL	9.3	—	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
P2	MD	6.8	7.0	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
	BL	9.1	8.8	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
M1	MD	10.6	—	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
	BL	11.4	—	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
M2	MD	9.5	10.3	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
	BL	11.3	11.4	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
I2	MD	5.5	—	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
	BL	5.9	—	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
C	MD	6.6	—	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
	BL	7.2	—	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
P1	MD	6.9	—	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
	BL	7.7	—	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
P2	MD	7.4	—	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
	BL	8.6	—	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
M1	MD	11.3	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
	BL	10.6	—	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
M2	MD	10.5	—	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
	BL	9.7	—	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
M3	MD	11.2	—	—	—	—	—	10.96	10.65
	BL	10.7	—	—	—	—	—	10.28	10.02

註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註2. 歯種は、P1(第1小白歯)・P2(第2小白歯)・M1(第1大白歯)・M2(第2大白歯)・M3(第3大白歯)を意味する。

註3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇側舌径)を意味する。

⑦被葬者の死亡年齢

遊離歯の咬耗度を観察すると、ほとんど咬耗が認められない。これは、萌出していないか萌出した直後、あるいは萌出しても咬合しなかったという可能性が考えられる。従って、被葬者の死亡年齢は約12歳から15歳であると推定される。

4 まとめ

綿貫伊勢遺跡の2区及び3区から、人骨が出土した。以下の表3に、まとめを示した。

第54表 綿貫伊勢遺跡出土人骨まとめ

	遺構	人骨	個体数	性別	死亡年齢
2区	1号火葬跡	火葬人骨	1個体	女性	20歳～30歳
	2号墓	土葬人骨	1個体	男性	20歳～30歳
	3号墓	土葬人骨	1個体	女性	成人
3区	1号墓	土葬人骨	1個体	女性	12歳～15歳

引用文献

藤田恒太郎 1949 歯の計測基準について、「人類学雑誌」、61: 1-6
 権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67: 151-163
 MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, *National Science Museum Monographs* No.9, National Science Museum, Tokyo.

第2項 出土獣骨鑑定分析

1 はじめに

当遺跡では、調査された住居などから出土した獣骨の鑑定分析を生物考古学研究所榑崎修一郎氏に委託して実施した。

2 分析目的

当遺跡1区92・154・186号住居、2区97号住居では、獣骨が出土し、一部焼けているものも見られた。これらの獣骨について、種の同定・年齢・性別・個体数・部位の鑑定を行った。これにより、当遺跡における家畜、その他動物に対する葬送儀礼、あるいは利用の仕方など、様々な要素が検討できることとなる。

3 分析結果

出土獣骨は、クリーニング後、観察・写真撮影・計測を行った。なお、馬歯の計測方法は、フォン・デン・ドリェシュの方法に従った(von den DRIESCH, 1976)。

(1) 1区出土獣骨

1区では、92号住居・154号住居・186号住居から、獣骨が出土している。

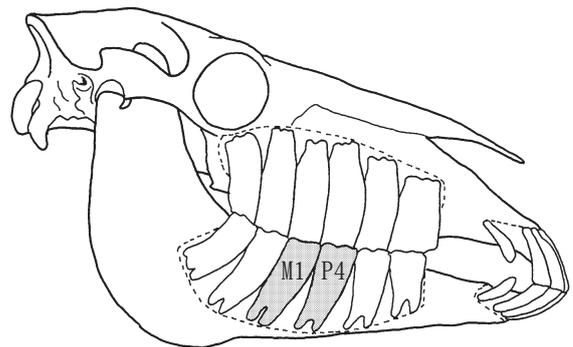
92号住居出土獣骨

骨は、92号住居の埋没土から出土している。ウマ(馬) [*Equus caballus*] の下顎右P4 (第4小臼歯) とM1 (第1大白歯) が同定された。

P4の、MD (歯冠近遠心径)は27mm・BL (歯冠頬舌径)は17mmである。なお、M1は歯冠部が破損しているため、計測はできなかった。ウマの場合、性別は犬歯の有無及び寛骨の形態から推定できるが、今回、どちらも出土していないため、不明である。死亡年齢は、歯冠高から、約9歳の牡馬であると推定される。



写真1 綿貫伊勢遺跡1区92号住居出土馬歯(頬側面観)
 [左: M1・右: P4]



第637図 綿貫伊勢遺跡1区92号住居出土馬歯出土部位図

154号住居出土獣骨

骨は、154号住居中央部やや北側から出土している。骨は灰白色を呈しており、被熱を受けている。人骨ではなく、獣骨であると推定される。しかしながら、細片化しているため、種の同定は不可能であった。

186号住居出土獣骨

186号住居内部から、獣骨が出土している。いずれも、細片であり、歯種の同定は不可能である。しかしながら、恐らく馬歯であると推定される。

(2) 2区出土獣骨

2区では、97号住居から、獣骨が出土している。

97号住居出土獣骨

97号住居内竈(カマド)から、獣骨が出土している。骨は灰白色を呈しており、被熱を受けている。人骨ではなく、獣骨であると推定される。しかしながら、細片化しているため、種の同定は不可能であった。

まとめ

綿貫伊勢遺跡から、獣骨が出土した。以下の第55表に、まとめを示した。

第55表 綿貫伊勢遺跡出土獣骨まとめ

	遺構	同定	個体数	性別	死亡年齢
1区	92号住居	馬歯	1個体	不明	約9歳
	154号住居	不明獣骨	—	—	—
	186号住居	馬歯?	—	—	—
2区	97号住居	不明獣骨	—	—	—

引用文献

von den DRIESCH, A. 1976 *A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites*, Peabody Museum Bulletin 1, Harvard University

第3項 2区のテフラ分析

1 はじめに

当遺跡は、井野川河岸に隣接し、その地形形成に大きく影響した井野川泥流堆積物下位でテフラが検出されたことから、テフラ分析を株式会社火山灰考古学研究所に委託して実施した。

2 分析目的

当遺跡2区では、井戸の調査過程で、井野川泥流堆積物下位が露呈できた。あわせて、不明なテフラが検出され、その同定をする必要が生じた。当遺跡は井野川西岸に位置し、地形復元はその後の歴史形成に及ぼした影響が大きいと見られるため、この分析により景観復元が可能となる。

3 分析結果

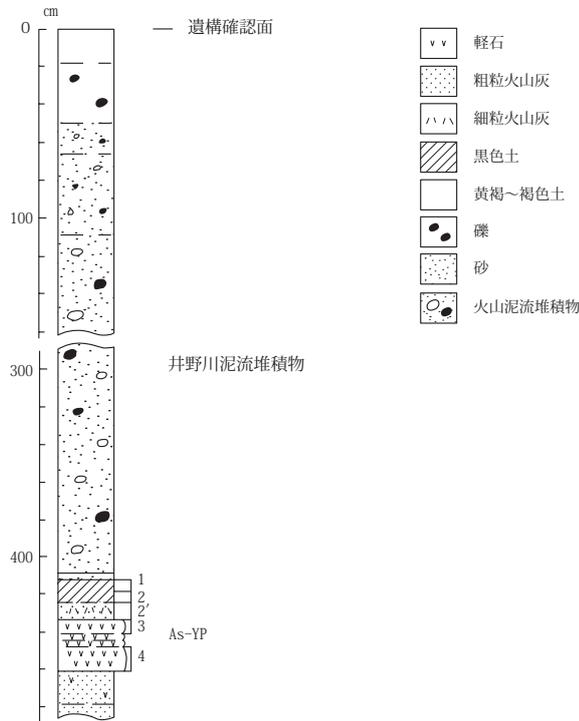
関東平野北西部に位置する高崎市域とその周辺に分布する後期更新世以降の地層や土壌の中には、榛名や浅間などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く分布している。テフラの中には、すでに層位や噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの層位関係を明らかにすることで、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることが可能となっている。

当遺跡2区で作成された深掘トレンチでは、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、地質調査を行って土層の層序やテフラの層相に関する記載を行うとともに、採取された試料についてテフラ検出分析、重鉍物組成分析、さらに火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定を実施して、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。

4 土層の層序

深掘トレンチでは、下位よりわずかに青みがかった淘汰の良い灰色砂層(層厚8cm以上)、黄色軽石混じりで灰色がかった桃色砂層(層厚16cm、軽石の最大径5mm)、成層したテフラ層(層厚26cm)、桃灰色凝灰質砂層(層厚10cm)、黒色土(層厚12cm)、基底部に淘汰の良い灰色砂層(層厚3cm)をもち、上部43cmが黄灰褐色、最上部

16cmが黄灰色を呈する灰色火山泥流堆積物(全体の層厚362cm, 軽石の最大径34mm, 石質岩片の最大径123mm)、亜円礫混じり黄褐色土(層厚32cm, 礫の最大径34mm)、灰色がかった褐色土(層厚18cm)が認められる(第638図)。



第638図 2区深掘トレンチの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

これらのうち、火山泥流堆積物は、層相から井野川泥流堆積物(早田, 1991)と考えられる。なお、このトレンチでは、少なくともこの火山泥流堆積物を切って発達した噴砂も認められた。

5 テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

深掘トレンチにおいて、テフラ層およびテフラを含む可能性が考えられた土層から採取された試料のうち、5点を対象にテフラ粒子の特徴を定性的に把握するためのテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料12gについて超音波洗浄により泥分を除去。
- 2) 80℃で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第56表に示す。試料4には、最大径11.2mmの白色軽石がとくに多く含まれている。軽

石はスポンジ状や繊維束状に発泡している。また、この試料には白色の軽石型ガラスも多く含まれている。試料3には、最大径11.8mmの白色軽石が比較的多く含まれている。軽石はスポンジ状や繊維束状に発泡している。また、この試料には白色の軽石型ガラスも多く含まれている。

試料2'には、スポンジ状や繊維束状に発泡した白色軽石(最大径8.1mm)が少量含まれている。火山ガラスとしては、白色、灰白色、灰色、そして透明の軽石型ガラスや塊状や破片状の中間型ガラスが多く認められる。試料2にも、やはりスポンジ状や繊維束状に発泡した白色軽石(最大径4.1mm)が少量含まれている。火山ガラスとしては、白色、灰白色、灰色、そして透明の軽石型ガラスや塊状や破片状の中間型ガラスが比較的多く認められる。そして、試料1にもスポンジ状や繊維束状に発泡した白色軽石(最大径5.2mm)が少量含まれている。火山ガラスとしては、白色、灰色、透明の軽石型ガラスや塊状や破片状の中間型ガラスが多く含まれている。

第56表 2区深掘トレンチにおけるテフラ検出分析結果

試料名	軽石・スコリア			火山ガラス	
	量	色調	最大径	量	形態 色調
試料1	*	白	5.2	***	pm>md 灰白,灰,透明
試料2	*	白	4.1	**	pm>md 白,灰白,灰,透明
試料2'	*	白	8.1	***	pm>md 白,灰白,灰,透明
試料3	**	白	11.8	***	pm 白
試料4	****	白	11.2	***	pm 白

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, 最大径の単位は, mm, pm: 軽石型, md: 中間型。

6 重鉍物組成分析

(1) 分析試料と分析方法

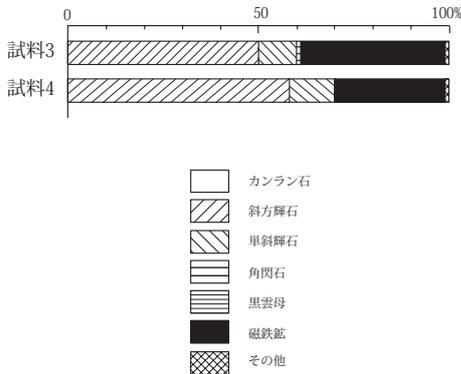
成層したテフラ層から採取された試料4と試料3の2点について、含まれる重鉍物の組成を明らかにして、指標テフラとの同定のための資料を収集した。分析の方法は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析済みの2試料について、分析篩により1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で重鉍物250粒子を観察し、重鉍物組成を求める。

(2) 分析結果

重鉍物組成をダイアグラムにして第639図に、その内訳を第57表に示す。試料4には、比率が高い順に、斜方輝石(58.4%)、磁鉄鉍(28.4%)、単斜輝石(21.8%)が含

まれている。また、試料3には、比率が高い順に、斜方輝石(50.0%)、磁鉄鉱(39.6%)、単斜輝石(9.6%)、角閃石(0.4%)が含まれている。



第639図 2区深掘トレンチの重鉱物組成ダイアグラム

第57表 2区深掘トレンチにおける重鉱物組成分析結果

試料名	ol	opx	cpx	am	bi	mt	その他	合計
試料3	0	125	24	1	0	99	1	250
試料4	0	146	32	0	0	71	1	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, mt: 磁鉄鉱, 数字は粒子数.

7 屈折率測定(火山ガラス・鉱物)

(1)測定試料と測定方法

深掘トレンチにおいて認められたテフラ層について、指標テフラとの同定精度を向上させるため、試料4に含まれる軽石を粉碎後、火山ガラスと斜方輝石を実体顕微鏡下で手選して、温度変化型屈折率測定装置により屈折率の測定を実施した。火山ガラスの測定には古澤地質社製MAIOT、斜方輝石の屈折率測定には京都フィッション・トラック社製RIMS2000を使用した。

(2)測定結果

屈折率の測定結果を第58表に示す。火山ガラスと斜方輝石の屈折率は、それぞれ前者(n)が1.502-1.505、後者(γ)が1.702-1.712である。なお、後者については、屈折率(γ)が1.702の粒子は1粒子のみで、実際には、1.704より高い粒子が多い。また、全体の中央値も1.708で、比較的高い値をもつ。

第58表 2区深掘トレンチにおける屈折率測定結果

試料名	火山ガラス		斜方輝石	
	屈折率(n)	粒子数	屈折率(γ)	粒子数
試料4	1.502-1.505	30	1.702-1.712	40

火山ガラスの屈折率はMAIOT、斜方輝石の屈折率はRIMS2000で測定を実施した。

8 考察

深掘トレンチで認められたテフラ層は、層相、軽石や火山ガラスの特徴、含まれる鉱物の組み合わせ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから総合的に判断すると、約1.3～1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)に同定される。今回の調査分析では、それと井野川泥流堆積物の間には、とくに指標となるようなテフラは認められなかった。

9 まとめ

当遺跡2区の深掘トレンチにおいて、地質調査、テフラ検出分析、重鉱物組成分析、火山ガラスと鉱物の屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*1})と、井野川泥流堆積物を認めることができた。また、その間に腐植質土壌を認めることができた。

*1 放射性炭素(¹⁴C)年代。As-YPの較正年代については、約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
 早田 勉(1991)群馬の自然と風土。群馬県史編さん室編「群馬県史通史編 原始古代1」, p.37-129.

第4項 2区の植物珪酸体分析

1 はじめに

当遺跡は、井野川河岸に隣接し、その地形形成に大きく影響した井野川泥流堆積物が厚く堆積している。調査では、この直下で黒色土層が検出され、更に下位のAs-YP直下層も含めて、植物珪酸体分析を株式会社火山灰考古学研究所に委託して実施した。

2 分析目的

当遺跡2区では、井戸の調査過程で、井野川泥流堆積物下位が露呈できた。当遺跡は井野川西岸に位置し、地形復元はその後の歴史形成に及ぼした影響が大きい。採取された植物珪酸体を分析することにより、植物植生を復元し、歴史環境の解明を行う。

3 分析の結果

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO_2)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 2000)。

4. 試料

分析試料は、2区深堀トレンチから採取された2点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

5. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成

7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率およびメダケ率(メダケ属とササ属の比率)を求めた。

6. 分析結果

(1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第59表および第640図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、ウシクサ族B(大型)

[イネ科-タケ亜科]

チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

As-YP直下層(試料2)では、ミヤコザサ節型が比較的多量に検出され、チマキザサ節型なども認められた。井野川泥流堆積物直下層(試料1)では、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、および樹木(その他)などが出現し、

ミヤコザサ節型は大幅に減少している。おもな分類群の推定生産量によると、As-YP直下層(試料2)ではミヤコザサ節型が優勢であり、メダケ率は両試料とも0%である。

7. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

As-YP直下層(試料2)の堆積当時は、ササ属(おもにミヤコザサ節)を主体としたイネ科植生であったと考えられる。一方、井野川泥流堆積物直下層(試料1)では、ススキ属やチガヤ属、キビ族などが見られるようになり、ミヤコザサ節は大幅に減少したと考えられる。また、当時は遺跡周辺に何らかの樹木が生育していたと推定される。

タケ亜科のうち、メダケ属は温暖、ササ属は寒冷の指標とされており、メダケ率の変遷は、地球規模の水期-間氷期サイクルの変動と一致することが知られている(杉山・早田, 1996, 杉山, 2001)。メダケ率の値から、As-YP直下層(試料2)の堆積当時は寒冷な気候であったと考えられ、井野川泥流堆積物直下層についても同様であった可能性が考えられる。

第59表 綿貫伊勢遺跡2区における植物珪酸体分析結果
検出密度(単位: ×100個/g)

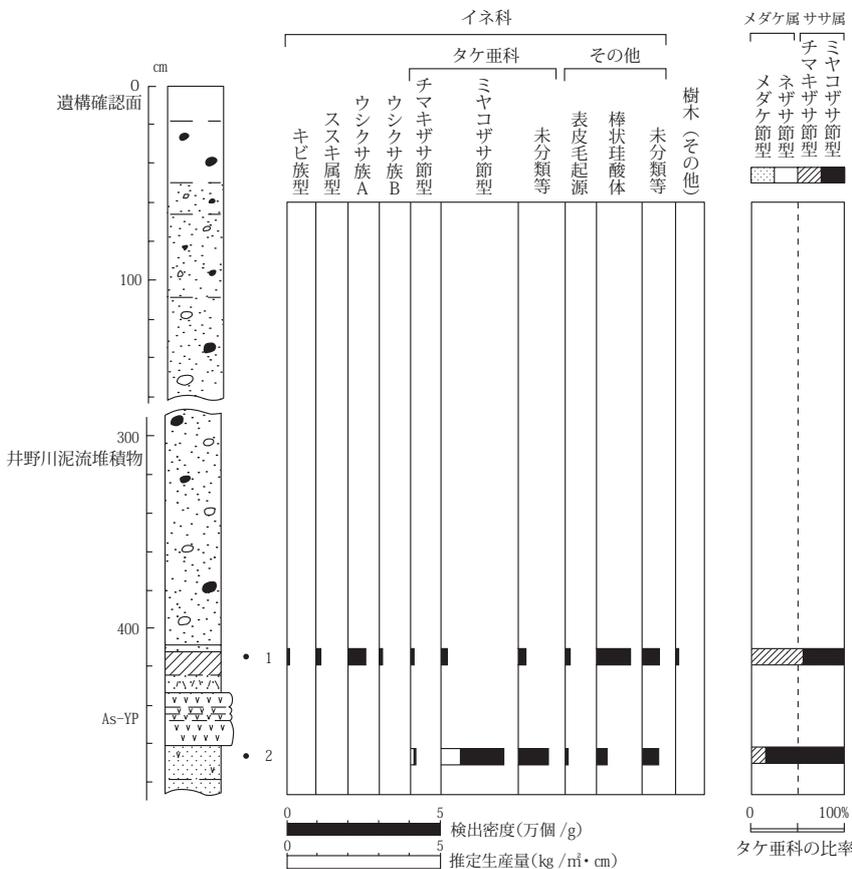
分類群	地点・試料 学名	深掘トレンチ	
		1	10
イネ科	Gramineae		
キビ族型	Panicaceae type		
ススキ属型	Miscanthus type		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		
タケ亜科	Bambusoideae		
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	167	49
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	399	232
未分類等	Others	22	42
その他のイネ科	Others		
表皮毛起源	Husk hair origin	7	7
棒状珪酸体	Rodshaped	22	
未分類等	Others	65	42
シダ類	Fern	15	7
樹木起源	Arboreal		
モクレン属型	Magnolia type		
その他	Others		
(海綿骨針)	Sponge spicules		
植物珪酸体総数	Total	696	379

おもな分類群の推定生産量(単位: kg / m²・cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

ススキ属型	Miscanthus type		
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	1.25	0.37
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	1.20	0.69

タケ亜科の比率(%)

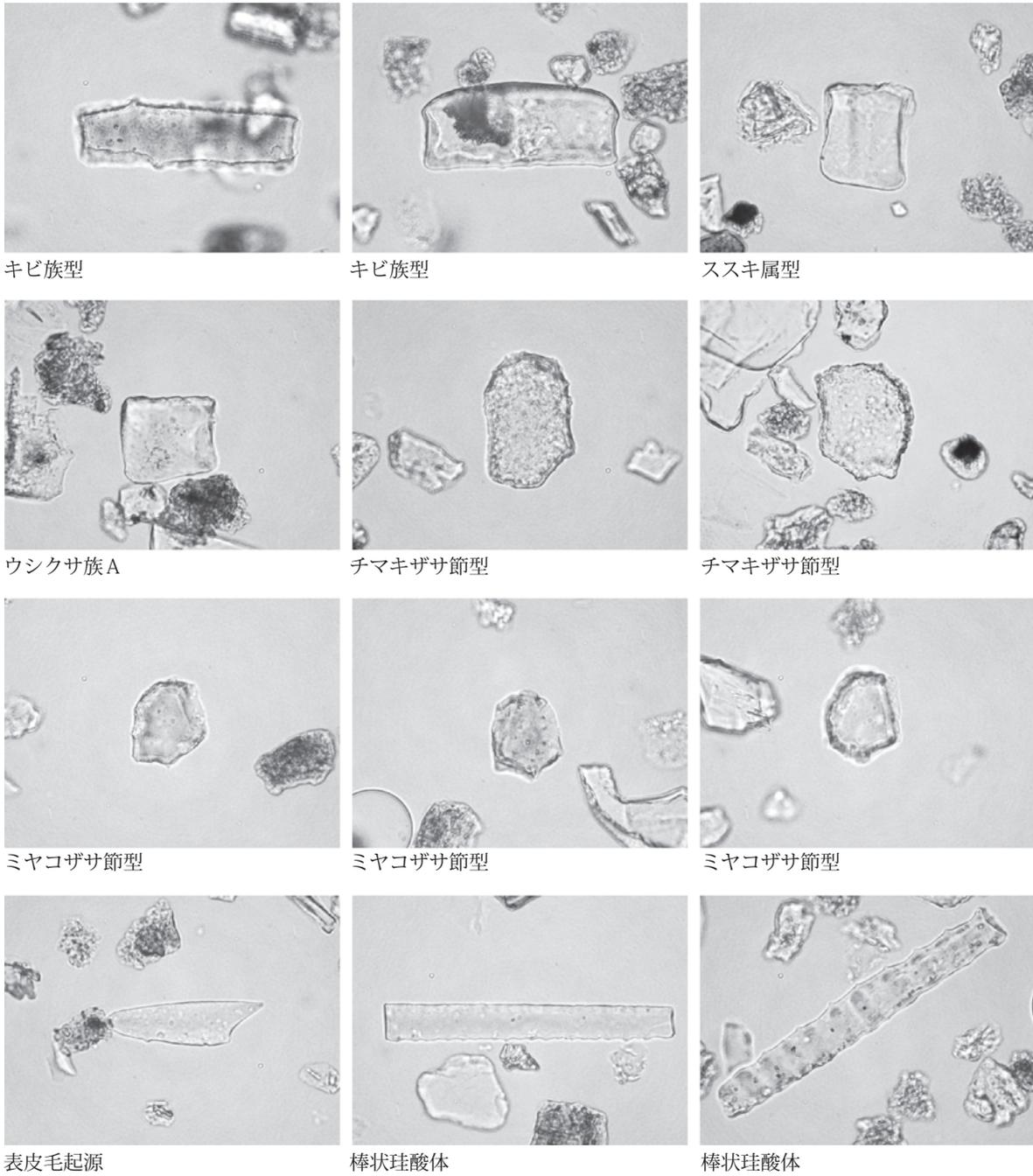
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	51	35
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	49	65



第640図 2区深掘トレンチにおける植物珪酸体分析結果

文献

- 杉山真二・藤原宏志(1986)機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-。考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 杉山真二・早田勉(1996)植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定(第3報)。一宮城県高森遺跡周辺における約50万年間の気候変動-。日本文化財科学会第13回大会研究発表要旨集, p.68-69.
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学。同成社, p.189-213.
- 杉山真二(2001)テフラと植物珪酸体分析。月刊地球, 23, p.645-650.
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学, 9, p.15-29.



50 μm

第641図 植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

第5項 出土木材の樹種同定

1 はじめに

当遺跡は、古墳時代から平安時代にわたる竪穴住居が約300軒検出され、内部のカマドや貯蔵穴などで炭化木材が出土した。また、中世においても井戸で生材、火葬跡で炭化木材が出土している。このため、木材の樹種同定を株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

2 分析目的

当遺跡では、古墳時代から平安時代にわたる竪穴住居で出土した炭化材は、主に柱材や屋根材などであり、当時の建築を解明する重要な手がかりとなる。また、中世では火葬跡から出土した炭化木材が判明することにより、火葬を行う燃料材が判明するとともに、当時の周辺植生など多様な分析が可能となる。

3 試料と方法

生材の試料は、綿貫伊勢遺跡1区の2号井戸出土の曲物1点と2区の2号井戸出土の曲物1点の計2点である。炭化材の試料は、綿貫伊勢遺跡1区7・8・14・16号住居跡カマドと、35号住居跡、19・28号土坑から各1点出土した炭化材7点、92号住居跡、17号住居跡3区画、38・59・63・66・70・76・97号住居跡カマド、59号住居跡カマド右袖、59・90号住居跡貯蔵穴、60号住居跡カマド前、14・25・102・105号土坑、1号墓15・16区画から各1点出土した炭化材19点の計26点である。生材と炭化材を合わせると、試料の総計は30点である。炭化材試料は形状が良好に残存しているものについて、年輪数と残存径を記録した。

生材の同定方法は、木取りを観察した後、直接木材から直接片刃の剃刀を用いて材の横断面(木口)・接線断面(板目)・放射断面(柁目)の3断面を採取し、ガムクロールで封入し永久プレパラートを作製した。同定はこれらのプレパラートを光学顕微鏡下で40～400倍で検鏡し、現生標本と対比して行った。

炭化材の同定方法は、試料の三断面を整形したあと、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し試料を作製した。この後金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡で同定・

撮影を行った。なお、同定試料およびその残りは(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

4 結果

同定の結果、針葉樹のモミ属とトウヒ属、スギの3分類群と、広葉樹のクリ、コナラ属クヌギ節、クワ属、クスノキ科?、ナシ亜科の5分類群、単子葉のタケ亜科1分類群の計9分類群が産出した。生材はトウヒ属とスギが各1点産出し、炭化材はクリが最も多く12点で、コナラ属クヌギ節(以下クヌギ節)7点、クワ属とタケ亜科が各2点、その他の樹種が各1点産出した。

また、No.5・12・18・23の試料は材の保存が悪く、No.5は広葉樹、No.23は針葉樹までの同定に留めた。No.12・18の試料は試料の整形が出来ず、走査型電子顕微鏡での同定が行えなかったため、同定不可とした。第60表に同定結果を、付表1に同定結果一覧を記す。

次に同定された材の特徴を記載し、1分類群1点の走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)モミ属 *Aibes* マツ科 642図 1a-1c (No.9)

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。晩材は量がやや多い。放射柔細胞は3～15細胞高である。放射組織は柔細胞のみからなり、放射柔細胞の末端壁は数珠状で、分野は小型のトウヒ型となる。

日本に分布するモミ属には、北海道に分布するトドマツ、亜高山帯など高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミ、低標高域に分布するモミなどがありいずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易であり割裂性も大きい。

(2)トウヒ属 *Picea* マツ科 642図 2a-2c (No.1)

仮道管と放射柔細胞、放射仮道管、垂直および水平樹脂道のエピセリウム細胞で構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材はやや量が多い。放射柔細胞は1～16細胞高である。分野壁孔はトウヒ型で、1分野に2～4個みられる。放射柔細胞の緑辺には放射仮道管が存在する。

トウヒ属にはハリモミやイラモミなど7種がみられ、エゾマツやアカエゾマツは北海道および北東北に、ヒメバラモミやイラモミなどは本州の亜高山帯に、ハリモミは本州、四国、九州に分布する。いずれも常緑高木の針葉樹である。

(3) スギ *Cryptomeria japonica* (L. fil.) D. Don スギ科 642図 3a-3c (No.2)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞から構成される針葉樹材である。晩材は量が多く、早材の終わりから晩材には柔細胞が散在する。放射柔細胞は1～5細胞高である。分野壁孔は大型のスギ型で1分野に1～2個存在する。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

(4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 643図 4a-4c (No.14)

年輪の始めに極めて大型の丸い道管が1～3列並び、晩材では急に径を減じた薄壁の小道管が火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列同性である。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

(5) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 643図 5a-5c (No.3)

年輪の始めに大型の丸い道管が数列並び、晩材では漸次径を減じた壁の厚い丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列のものと同型の複合状のものからなる。

クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で切削などの加工はやや困難である。

(6) クワ属 *Morus* クワ科 643図 6a-6c (No.21)

大型の丸い道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では径を減じた道管が2～4個複合して丸い塊をなして配列する環孔材である。軸方向柔細胞は周囲状である。道管は単穿孔を有し、小道管の内腔にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端の1～2列が直立する異性で、1～6列である。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

(7) クスノキ科? Lauraceae? 644図 7a-7c (No.24)

小型の道管が単独ないし2～3個複合してやや疎らに

散在し、晩材部では径を減じる散孔材である。軸方向柔組織は随伴散在である。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端の1～3列が直立する異性で、1～3列となる。油細胞の有無が明瞭に確認できなかったため、クスノキ科?とした。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属など8属がある常緑または落葉の高木～低木である。

(8) タケ亜科 Subfam. *Bambusoideae* イネ科 644図 8a (No.27)・9a (No.28)

向軸側に原生木部、その左右に2個の後生木部と背軸側に節部で構成される維管束が散在する単子葉植物の程である。維管束の配列は不整中心柱となる。繊維鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で、日本には12属ある。

5 考察

井戸跡から出土した曲物はいずれも針葉樹で、トウヒ属とスギであった。木取りは板目と柾目であった。トウヒ属やスギなどの針葉樹は一般的に割裂性が良く、そのため曲物として利用されていたと考えられる。関東地方の曲物は、古墳時代から多産する傾向にあり、その利用樹種にはケヤキ、クスノキ、クリなどの広葉樹と、モミ属、スギ、ヒノキなどの針葉樹がみられる(山田, 1993)。綿貫伊勢遺跡では、針葉樹材が利用されていた。

燃料材の可能性のあるNo.7・10・21の試料は、No.7・10がクヌギ節、No.21がクワ属であった。直径の計測が行えたNo.27の径は5.0cmであった。関東地方の建築材では、古墳時代にはクヌギ節を多く利用する傾向がみられる。しかし群馬県吾妻町の霜田遺跡では別の傾向がみられる。5世紀後半～7世紀の古墳時代の住居跡では、5世紀後半～7世紀代の住居跡4軒から出土した建築材の樹種同定が計141点行われており、最も分析点数の多い4号住居では、82点中ヤマグワが29点、クマシデ属イヌシデ節(イヌシデ節)が20点、ニレ属が16点と多く産出している。また、次に分析点数が多い5号住居では、42点中クリが13点、コナラ節が11点、ニレ属が6点と多く産出している(植田, 2006)。霜田遺跡は山間部に位置し、前時代からの開発を受けていなかったため自然植生が残っており、ヤマグワやニレ属などが多く利用されていたと

考えられている。平野部の綿貫伊勢遺跡では遺跡周辺の森林が開発などによって2次林化し、クヌギ節などを利用して可能性も考えられるが、試料数が少ないため、明確には確認できなかった。

燃料材と考えられる住居跡のカマドから出土した炭化材では、クリが5点、クヌギ節が3点、クワ属が2点、広葉樹が1点産出した。燃料材などの可能性がある土坑出土の炭化材では、クリが4点、モミ属と針葉樹、クヌギ節、クスノキ科?が各1点産出し、クリが多く産出した。残存直径の計測では、径2～6cmに該当する試料が多く、小径木を利用していた可能性が考えられる。墓出土2点はいずれもタケ亜科であった。

引用文献

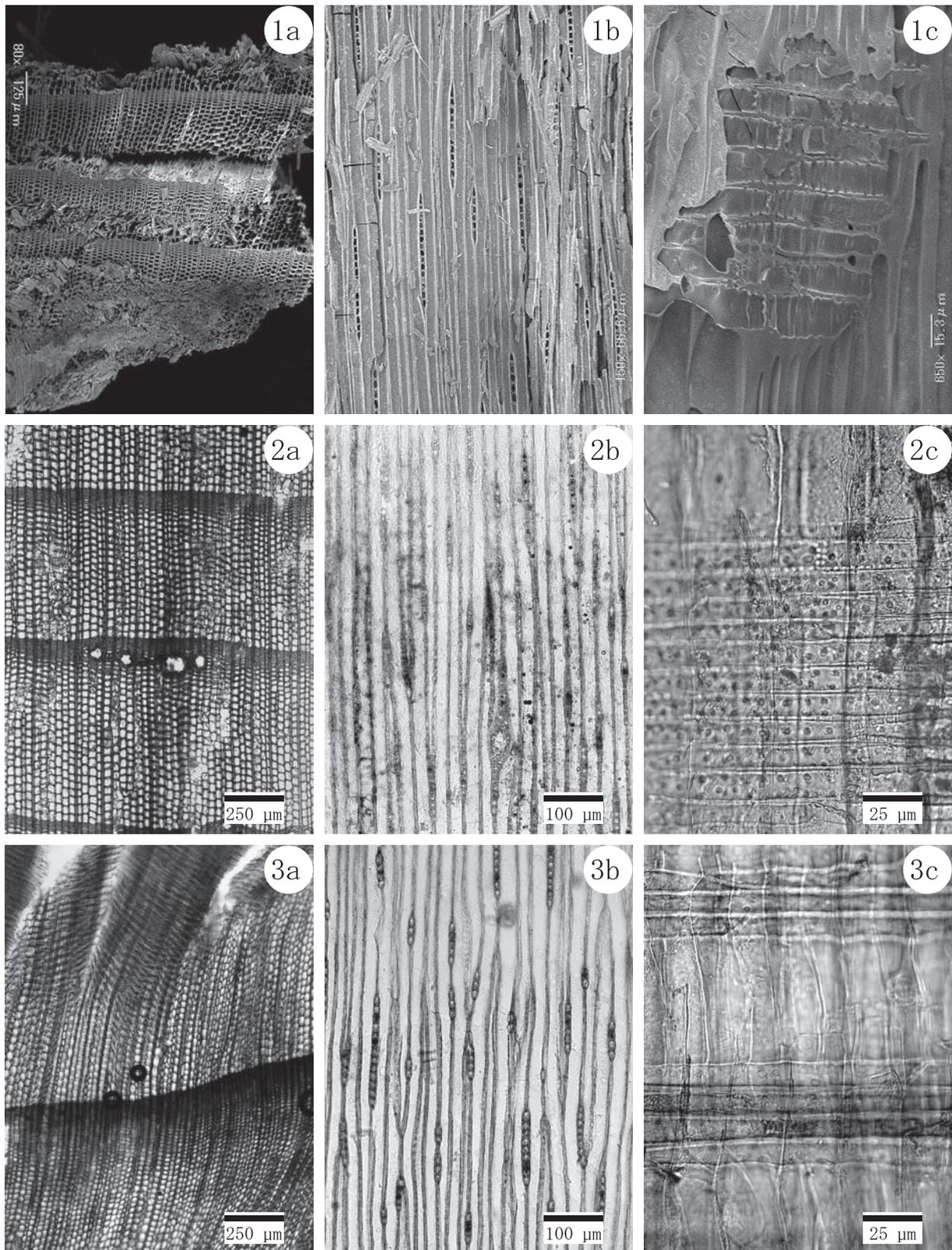
植田弥生(2006)樹種同定. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「霜田遺跡」: 82-88, 群馬県埋蔵文化財調査事業団.
山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究 特別第1号, 242p.

第60表 綿貫伊勢遺跡出土木材の樹種同定結果

樹種/器種	曲物	建築材?	木棺?	カマド燃料材	土坑燃料材?	合計
モミ属					1	1
カラマツ	1					1
スギ	1					1
針葉樹					1	1
クリ				5	4	9
コナラ属クヌギ節		2		4	1	7
クワ属		1		1		2
クスノキ科?					1	1
広葉樹				1		1
タケ亜科		2				2
同定不可				2		2
合計	2	3	2	13	8	28

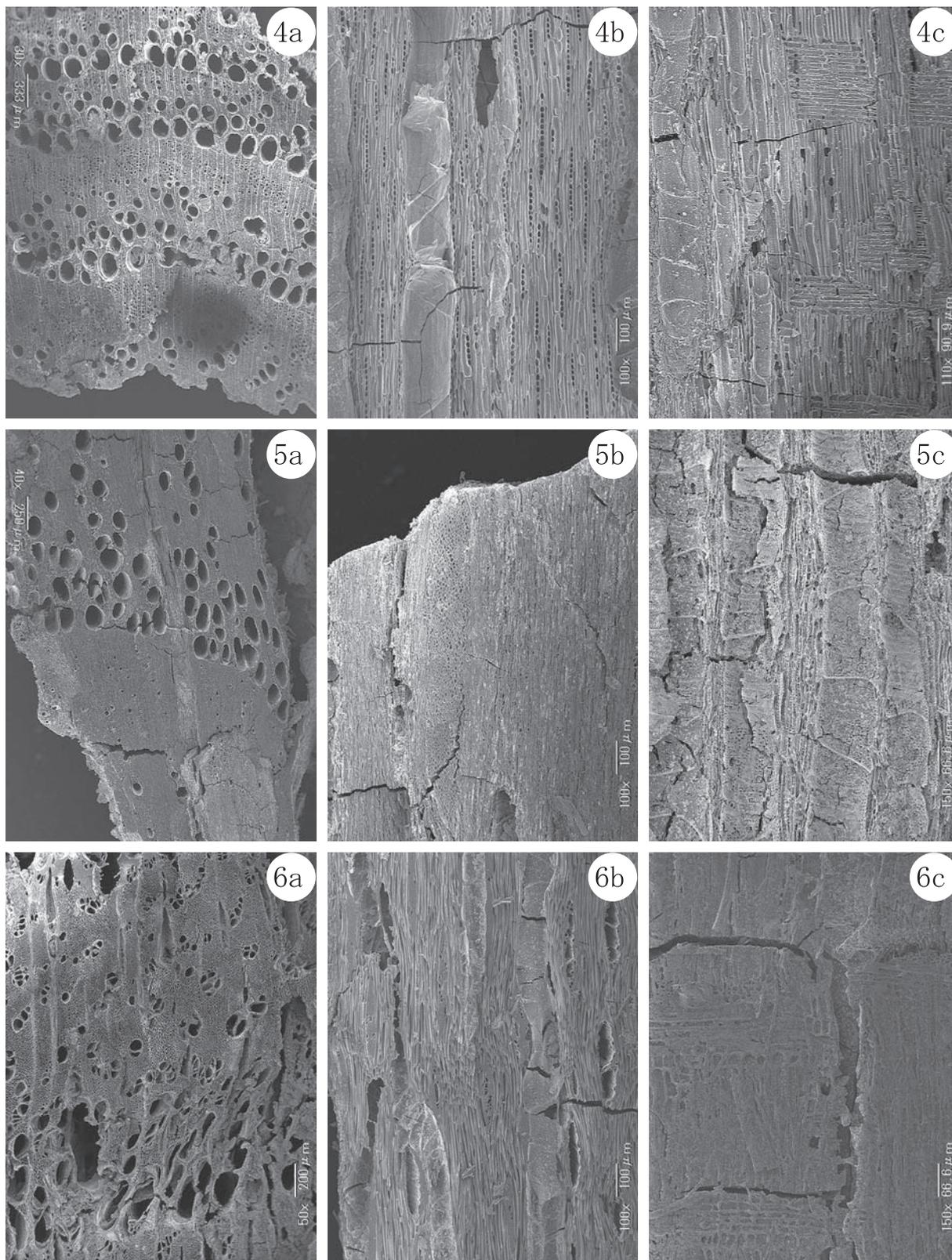
付表1 綿貫伊勢遺跡出土木材の樹種同定結果

試料No.	地区	出土遺構	樹種	木取り	残存年輪数	残存直径(cm)	器種	備考	種類	時代
1	1区	1号井戸	カラマツ	板目	-	-	曲物		生材	古墳～ 平安時代
2	2区	2号井戸	スギ	板目	-	-	曲物			
3	1区	7号住居跡カマド	コナラ属クヌギ節	割材	8	5.0	燃料材	内樹皮付		
4	1区	8号住居跡カマド	クリ	割材	5	3.0	燃料材			
5	1区	14号住居跡カマド	広葉樹	割材	4	2.0	燃料材			
6	1区	16号住居跡カマド	コナラ属クヌギ節	-	-	-	燃料材			
7	1区	35号住居跡	コナラ属クヌギ節	割材	9	3.0	建築材?			
8	1区	19号土坑	コナラ属クヌギ節	割材	4	4.0	燃料材?			
9	1区	28号土坑	モミ属	板目	17	13.0	燃料材?			
10	2区	17号住居跡3区画	コナラ属クヌギ節	割材	2	13.0	建築材?			
11	2区	38号住居跡カマド	コナラ属クヌギ節	割材	-	5.0	燃料材			
12	2区	59号住居跡カマド	同定不可	-	-	-	燃料材			
13	2区	59号住居跡カマド右裾	クリ	-	-	-	燃料材			
14	2区	59号住居跡貯蔵穴	クリ	-	-	-	燃料材?			
15	2区	60号住居跡カマド	クワ属	割材	3	4.0	燃料材		炭化材	
16	2区	63号住居跡カマド	クリ	割材	4	6.0	燃料材			
17	2区	66号住居跡カマド	コナラ属クヌギ節	割材	8	2.0	燃料材			
18	2区	70号住居跡カマド	同定不可	-	-	-	燃料材	節部		
19	2区	76号住居跡カマド	クリ	割材	5	4.0	燃料材			
20	2区	90号住居跡貯蔵穴	クリ	割材	3	6.0	燃料材?			
21	2区	92号住居跡	クワ属	割材	5	8.0	建築材?			
22	2区	97号住居跡カマド	クリ	割材	2	5.0	燃料材			
23	2区	14号土坑	針葉樹	芯持丸木	23	5.0	燃料材?	内樹皮付 芯あり		
24	2区	25号土坑	クスノキ科?	割材	11	4.0	燃料材?			
25	2区	102号土坑	クリ	割材	3	5.0	燃料材?			
26	2区	105号土坑	クリ	割材	3	2.0	燃料材?			
27	2区	1号火葬跡15区画	タケ亜科	割材	-	5.0	木棺?			
28	2区	1号火葬跡16区画	タケ亜科	割材	-	-	木棺?			



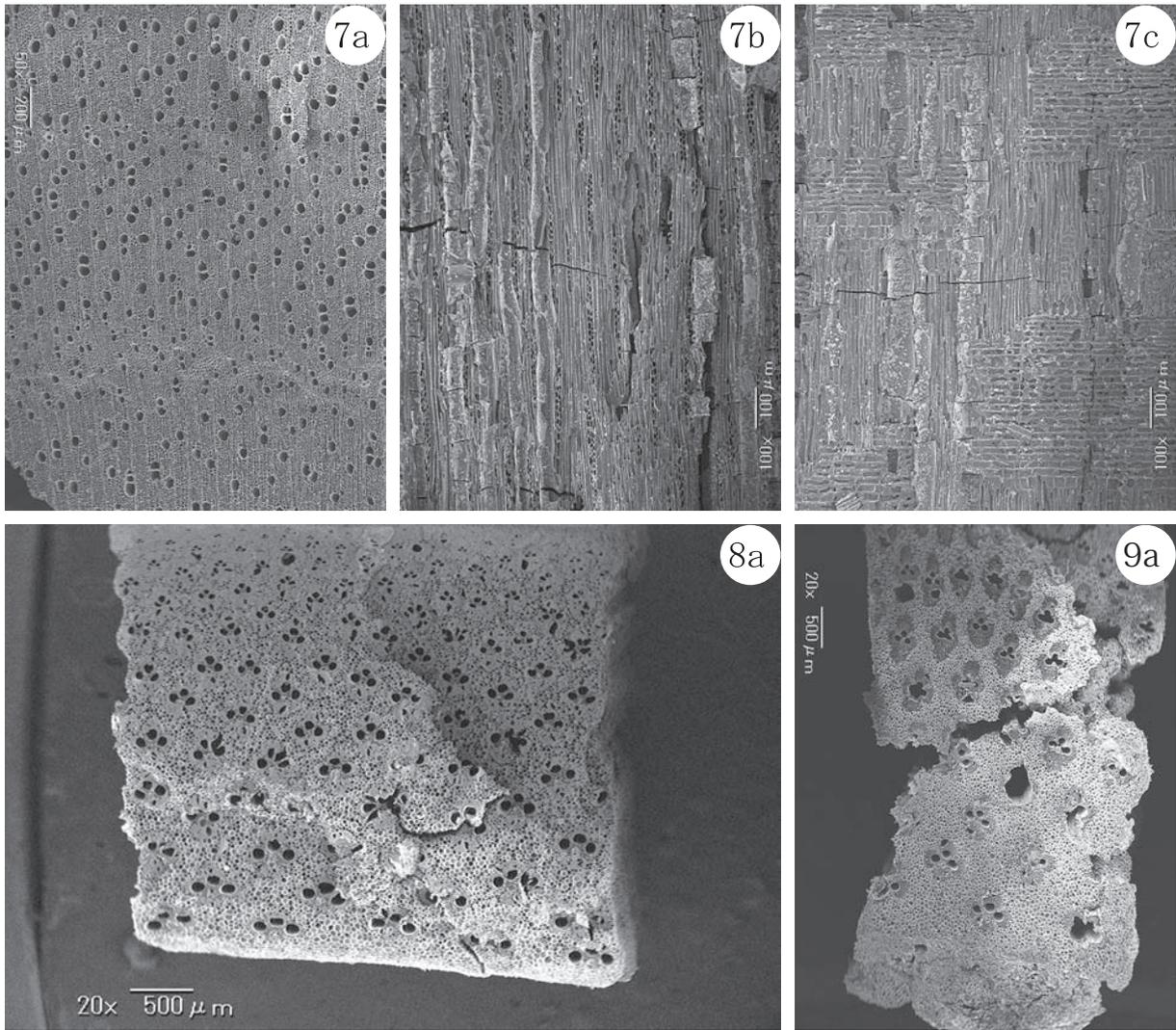
第642図 綿貫伊勢遺跡出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. モミ属(No. 9)、2a-2c. カラマツ(No. 1)、3a-3c. スギ(No. 2)



第643図 綿貫伊勢遺跡出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真 (2)

4a-4c. クリ (No. 14)、5a-5c. コナラ属クスギ節 (No. 3)、6a-6c. クワ属 (No. 21)



第644図 綿貫伊勢遺跡出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真(3)

7a-7c. クスノキ科? (No. 24)、8a. タケ亜科 (No. 27)、9a. タケ亜科 (No. 28)

第6項 出土した大型植物遺体同定

1 はじめに

当遺跡は、古墳時代から平安時代にわたる竪穴住居が約300軒検出され、内部のカマドや貯蔵穴などで種実などの植物遺体が採取された。また、中世においても土坑や井戸、火葬跡で同様な出土がある。このため、大型植物遺体の同定を株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

2 分析目的

当遺跡では、古墳時代から平安時代にわたる竪穴住居で出土した植物遺体は、当時の食物採取や生産状況など、様々な要素を示している。中世においても同様であるが、墓や火葬跡で採取された資料は、副葬された可能性もあり、当時の葬送儀礼を物語る資料となる。

3 試料と方法

対象試料は、炭化種実と生の種実に分かれる。炭化種実では、1区の竪穴住居跡である5・7～11・14～17・20～22・28・31・32・35・38・40・42・47・48・50～53・55・56・60～63・65・71・72号の35軒、土坑である19号土坑の1基、2区の竪穴住居跡である3・4・6・10～12・16～18・22・26・29・36～40・43～45・47・49・50・54・55・57・59・60・62・63・66・70・71・73・77～79・82・83・87～90・92・93・97・99号の48軒、土坑である25・36・70号土坑の3基、1・2号墓の2基の計89遺構分、生の種実では、1区2号井戸と4号井戸、2区7号井戸、3区1号井戸の4基分の計93遺構分を検討した。各遺構ともに最少1試料から最多7試料にわけて土壌が採取されていた。

試料は水洗選別後、種実などが抽出済みの試料で、試料番号ごとにある程度分類されてプラスチックケース内に水漬けあるいは乾燥保存されていた。試料堆積物の採取、水洗、分類までの作業は、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団によって行われた。水洗前の土壌重量等は別項を参照されたい。水洗はフローテーション法で湯垢すくいを用いて行われた。

大型植物遺体の抽出・同定・計数は、肉眼および実体

顕微鏡下で行い、遺構別にまとめた。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として1点と数え、1個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、(公財)群馬県埋蔵文化調査事業団に保管されている。

4 結果

同定した結果、木本植物ではクリ果実と、モモ核・炭化核、スモモ核、サクラ属サクラ節炭化核、サンショウ近似種炭化種子、サンショウ属炭化種子、センダン核、ブドウ属炭化種子、イタヤカエデ炭化種子、カキノキ属種子・炭化種子の10分類群、草本植物ではタデ属炭化果実と、アカザ属炭化種子、ダイズ属炭化種子、ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子、マメ科炭化種子、シソ属？炭化果実、オナモミ炭化総苞、オオムギ炭化果実・炭化種子、コムギ炭化種子、イヌビエ属炭化種子、イネ炭化糊・炭化種子(?を含む)、キビ炭化種子、アワ炭化種子の13分類群の計23分類群が見いだされた(第61・62表)。このほかに、破片や遺存状態が悪いために両者の同定ができなかった一群をオオムギ・コムギ炭化種子とした。科以下の同定ができなかった一群を不明炭化種実、科以下の識別点を欠く一群を同定不能炭化種実とした。種実以外には子嚢菌や虫えいが少量得られたが、検討の対象外とした。

以下に種実出土傾向を遺構別に記載する(不明・同定不能種実、虫えい、子嚢菌は除く)。なお、分析時には各遺構の時期の詳細については不明であったため、時期については遺構の記載を参照されたい。遺構名の後の括弧はサンプル採取地点名を示す(採取位置名がないものは位置不明とした)。

[1区：炭化種実]

19号土坑(位置不明)：オオムギとコムギ種子が少量、イネ種子が微量得られた。

5号住居(No.4・カマド)：ブドウ属種子と、ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子、オオムギ・コムギ種子、イネ種子が微量得られた。

7号住居(カマド・カマド前・ピット3)：イネ種子が少量、マメ科種子とコムギ種子が微量得られた。

8号住居(カマド)：イネ種子が少量、ササゲ属アズキ

亜属アズキ型種子と、マメ科種子、シソ属?、オオムギ種子、イヌビエ属種子が微量得られた。

9号住居(カマド)：イネ種子が微量得られた。

10号住居(カマド)：オオムギ種子とオオムギーコムギ種子が微量得られた。

11号住居(カマド)：コムギ種子とイネ種子が少量得られた。

14号住居(カマド)：コムギ種子とイネ種子が微量得られた。

15号住居(カマド)：マメ科種子と、コムギ種子、イネ種子が微量得られた。

16号住居(カマド)：コムギ種子とイネ種子が微量得られた。

17号住居(カマド・ピット6)：オオムギ種子が少量、ダイズ属種子と、マメ科種子、コムギ種子、オオムギーコムギ種子、イヌビエ属種子、イネ種子が微量得られた。

20号住居(カマド)：オオムギーコムギ種子が微量得られた。

21号住居(カマド)：イネ種子が微量得られた。

22号住居(カマド・カマド掘り方)：マメ科種子と、オオムギ種子、コムギ種子、オオムギーコムギ種子、イヌビエ属種子、イネ種子が微量得られた。

28号住居(カマド)：コムギ種子とイネ種子が微量得られた。

31号住居(カマド)：ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子とイネ種子が微量得られた。

32号住居(カマド)：イネ種子がやや多く得られた。

35号住居(位置不明)：イネ種子が微量得られた。

38号住居(カマド・カマド3-3・カマド4-10)：イネ種子が少量、サンショウ属種子と、オオムギ種子、コムギ種子が微量得られた。

40号住居(カマド)：マメ科種子と、コムギ種子、イネ種子が少量得られた。

42号住居(カマド・カマド前)：オオムギーコムギ種子とイネ種子が微量得られた。

47号住居(カマド)：イネ種子が微量得られた。

48号住居(カマド・位置不明)：マメ科種子とオオムギーコムギ種子が得られた。

50号住居(カマド)：イネ種子が少量得られた。

51号住居(カマド)：マメ科種子と、コムギ種子、イネ

種子が微量得られた。

52号住居(位置不明)：イネ種子が微量得られた。

53号住居(カマド)：コムギ種子が微量得られた。

55号住居(カマド・上面焼土下層灰層)：イネ種子が少量、カキノキ属種子と、ブドウ属種子、オオムギーコムギ種子が微量得られた。

56号住居(カマド)：ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子とイネ種子が微量得られた。

60号住居(カマド・位置不明)：イネ種子がやや多く、マメ科種子とオオムギ種子、オオムギーコムギ種子が微量得られた。

61号住居(カマド・位置不明)：イネ種子が少量、オオムギ種子が微量得られた。

62号住居(カマド・カマド前・中央焼土)：オオムギ種子と、コムギ種子、オオムギーコムギ種子、イネ種子が少量、ブドウ属種子と、マメ科種子、キビ種子が微量得られた。

63号住居(カマド)：イネ種子が少量得られた。

65号住居(カマド)：ダイズ属種子とイネ種子が微量得られた。

71号住居(カマド)：オオムギーコムギ種子とイネ種子が微量得られた。

72号住居(炉)：イネ種子が微量得られた。

[2区：炭化種実]

3号住居(北東部)：コムギ種子と、イヌビエ属種子、イネ種子が微量得られた。

4号住居(カマド)：ダイズ属種子とコムギ種子、イネ種子が微量得られた。

6号住居(カマド)：同定可能な種実は得られなかった。

10号住居(カマド)：オオムギ種子とコムギ種子が微量得られた。

11号住居(No.7土器内)：同定可能な種実は得られなかった。

12号住居(カマド)：タデ属果実とイネ種子が微量得られた。

16号住居(2層・12層・カマド掘り方・掘り方・貯蔵穴・位置不明)：コムギ種子とイネ種子が少量、ブドウ属種子と、オオムギ種子、オオムギーコムギ種子、イヌビエ属種子が微量得られた。

17号住居(カマド・カマド掘り方・掘り方)：イネ種子

が少量、アカザ属種子と、マメ科種子、オオムギーコムギ種子、キビ種子、アワ種子が微量得られた。

18号住居(カマド)：オオムギーコムギ種子とイネ種子が微量得られた。

22号住居(炉)：シソ属？果実とイネ種子が微量得られた。

26号住居(カマド・カマド掘り方)：同定可能な種実は何も得られなかった。

29号住居(掘り方上層・土坑1)：オオムギ果実と、コムギ種子、イネ種子が微量得られた。

36号住居(位置不明)・37号住居(掘り方東南部)：同定可能な種実は何も得られなかった。

38号住居(カマド)：オオムギ種子がやや多く、コムギ種子とオオムギーコムギ種子が少量、マメ科種子とイネ種子が微量得られた。

39号住居(カマド)：イネ種子が少量、ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子と、オオムギ種子、オオムギーコムギ種子が微量得られた。

40号住居(カマド)：イネ種子が少量得られた。

43号住居(カマド・1区画1・位置不明)：マメ科種子とオオムギ種子、オオムギーコムギ種子が微量得られた。

44号住居(カマド・土器29内土壌)：コムギ種子が微量得られた。

45号住居(カマド・位置不明)：オオムギ種子とイネ種子が微量得られた。

47号住居(位置不明)：ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子が微量得られた。

49号住居(カマド)：同定可能な種実は何も得られなかった。

50号住居(カマド)：コムギ種子が微量得られた。

54号住居(カマド・カマド右・位置不明)：ダイズ属種子とマメ科種子、イネ種子が少量得られた。オオムギ種子とコムギ種子が微量得られた。

55号住居(カマド・掘り方南)：モモ核と、コムギ種子、オオムギーコムギ種子、イネ種子が微量得られた。

57号住居(位置不明)：イネ種子が微量得られた。

59号住居(カマド・貯蔵穴土器No.1)：イネ種子が少量、オオムギ種子とコムギ種子が微量得られた。

60号住居(カマド・カマド右脇・カマド左袖・カマド前・位置不明)：イネ種子がやや多く、イタヤカエデ種子と、ブドウ属種子、マメ科種子、オオムギ果実・種子、イネ

糊が微量得られた。

62号住居(南側)：イネ種子が微量得られた。

63号住居(カマド・カマド右・カマド掘り方・住居内・上層)：イネ種子が少量、モモ核とサンショウ近似種種子、マメ科種子、オオムギ種子、コムギ種子が微量得られた。

66号住居(カマド・カマド掘り方)：マメ科種子とオオムギ総苞、オオムギーコムギ種子、イネ種子が微量得られた。

70号住居(カマド)：マメ科種子とオオムギーコムギ種子が微量得られた。

71号住居(位置不明)：イネ種子が微量得られた。

73号住居(カマド)：イネ種子が微量得られた。

76号住居(カマド)：イネ種子が少量、ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子と、マメ科種子、オオムギ種子が微量得られた。

77号住居(位置不明)：オオムギ種子が微量得られた。

78号住居(カマド)：イネ種子が微量得られた。

79号住居(カマド掘り方)：ブドウ属種子とイネ種子が微量得られた。

82号住居(カマド)：マメ科種子とイネ種子が微量得られた。

83号住居(カマド)：イネ種子が微量得られた。

87号住居(カマド掘り方)：イネ種子が微量得られた。

88号住居(カマド)：オオムギ種子が微量得られた。

89号住居(No.24土器内・土器No.7)：オオムギ種子とイネ種子が微量得られた。

90号住居(カマド・貯蔵穴)：イネ種子が微量得られた。

92号住居(位置不明)：イネ種子が微量得られた。

93号住居(貯蔵穴)：ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子と、マメ科種子、イネ？種子が微量得られた。

97号住居(カマド)：オオムギ種子とイネ種子が微量得られた。

99号住居(カマド)：同定可能な種実は何も得られなかった。

25号土坑(位置不明)：オオムギーコムギ種子が微量得られた。

36号土坑(焼土層・焼土層下層・焼土層上層)：イネ種子がやや多く、ササゲ属アズキ亜属アズキ型種子と、オオムギ果実、アワ種子が微量得られた。

70号土坑(1・2・3)：アワ種子が多量、ダイズ属種子と、マメ科種子、イネ種子が微量得られた。

1号火葬跡(3区画・位置不明)：オナモミ総苞と、オオムギ種子、コムギ種子、オオムギーコムギ種子、イネ種子が微量得られた。

2号墓(3)：オオムギーコムギ種子とイネ種子が微量得られた。

[1～3区：未炭化種実]

1区2号井戸(位置不明)：センダン核が少量、スモモ核とカキノキ属種子がわずかに得られた。

1区4号井戸(位置不明)：クリ果実が微量得られた。

2区7号井戸(位置不明)：モモ核とセンダン核が少量得られた。

3区1号井戸(位置不明)：モモ核とセンダン核が少量得られた。

以下に主要な種実遺体の記載を行い、また図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1)クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒色で、表面は平滑で縦に細く浅い筋がみられる。殻斗着痕は完形であれば果実幅と同じ程度の幅広になり、不規則で微細な丘状の突起が密にある。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。長さ36.2mm、幅22.5mm、厚さ15.0mm。

(2)モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。炭化核には完形はない。長さ23.9mm、幅19.6mm、厚さ15.0mm程度。

(3)スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

赤茶褐色で、上面観はやや扁平な両凸レンズ形、側面観は紡錘形。両側に縫合線があり、浅い溝が入る。表面は平滑。長さ14.6mm、幅11.8mm、厚さ9.1mm。

(4)サクラ属サクラ節 *Prunus* sect. *Pseudocerasus* 炭化核 バラ科

上面観は円形に近い楕円形、側面観は円形～楕円形、上部が尖る。下端に大きくくぼんだ着点がある。表面は平滑。核皮は厚く硬い。長さ6.8mm、幅6.1mm程度。

(5)サンショウ近似種 c.f. *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 炭化種子 ミカン科

上面観は卵形、側面観は倒卵形。表面には細かい網目

模様があり、片側側面には長さの半分に達しない着点がある。種皮は厚く硬い。残存長2.8mm、残存幅2.3mm程度。これ以外に、サンショウとは異なる模様であるが、破片のため種の同定に至らなかったものをサンショウ属とした。

(6)センダン *Melia azedarach* L.

核 センダン科

淡黄色で、上面観は星形で五分裂し、側面観は菱形で平滑。大きな着点が下端にある。計測可能な8点の大きさは、長さ9.5～14.6(平均11.7)mm、幅7.2～8.7(平均8.3)mm。

(7)ブドウ属 *Vitis* sp. 炭化種子 ブドウ科

上面観は楕円形、側面観は先端が尖る卵形。背面に中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面は縦方向に2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。長さ4.0mm、幅3.1mm。

(8)イタヤカエデ *Acer pictum* Thunb. 炭化種子 カエデ科

上面観は扁平、側面観は倒卵形。にぶい光沢がある。表面には指紋状またはタイル状模様がある。種皮は硬い。下端部は割れている。長さ6.0mm、幅5.6mm。

(9)カキノキ属 *Diospyros* sp. 種子・炭化種子 カキノキ科

半広楕円形で、基部がやや曲がり突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。片側側面は直線的、もう片側は曲線を描き、厚みがある。下端には着点がある。表面は平滑。長さ14.8mm、幅10.2mm。

(10)タデ属 *Polygonum* spp. 炭化果実 タデ科

上面観は円形、側面観は倒卵形。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表皮は縦方向の微細な脈状模様がある。複数種含まれている可能性がある。長さ1.6mm、幅1.1mm。

(11)アカザ属 *Chenopodium* sp. 炭化種子 アカザ科

上面観はやや扁平、側面観は円形。種皮は強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突起し、中心部方向にむかって浅い溝がある。径1.0mm前後。

(12)ダイズ属 *Glycine* spp. 炭化種子 マメ科

上面観は楕円形、側面観は長楕円形。臍は全体の1/3未満で、長楕円形。小畑ほか(2007)で示されたダイズ属の特徴である中央の縦溝(hilar groove)があり、周囲に

隆線(rim-aril)が認められる。縦溝は中央が炭化時に割れているものがある。断面観はやや扁平。計測可能な8点の大きさは、長さ3.5～7.6(平均5.3)mm、幅2.6～5.0(平均3.5)mm、厚さ2.0～3.4(平均2.7)mm程度。小畑(2008)で示された現生種と大きさを比較すると、野生種と栽培種双方の大きさが含まれる。

(13)ササゲ属アズキ亜属アズキ型 *Vigna angularis* var. *angularis* type 炭化種子 マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。小畑ほか(2007)で示されたアズキ型の特徴である長楕円形の臍の内部に厚膜(Epithilum)が残存している個体がある。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄る。臍の下端には種瘤または種瘤の痕跡が穴になっている。割れているものは初生葉が中心にむかってみえる。小畑(2008)で示された現生種と大きさを比較すると、野生種と栽培種双方の大きさが含まれる。計測可能な5点の大きさは、長さ3.6～5.0(平均4.5)mm、幅2.6～4.6(平均3.4)mm、厚さ2.5～3.0(平均2.8)mm。臍が残存せず、残存状況の悪い一群をマメ科とした。

(14)シソ属? *Perilla* spp.? 炭化果実 シソ科

いびつな球形。端部に大きな着点がある。本来表面には浅い多角形な網目模様があるが、観察できなかったため、シソ属?とした。径は2.0mm程度であることから、エゴマを含む可能性がある。

(15)オナモミ *Xanthium strumarium* L.

炭化総苞 キク科

側面観は広卵形。頂部に2本のやや大きめの刺があり、表面には長さ1～2mmの刺がある。表面は硬く光沢がある。残存長10.0mm、幅6.5mm程度。

(16)オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化果実・炭化種子 イネ科

果実の上面観は円形、側面観は紡錘形で縦方向に筋がある。長さ6.9mm、幅3.5mm、厚さ2.8mm程度。種子の側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝があるが、溝の両端は欠損している。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面形状は円形となる(Jacomet, 2006)。長さ5.2mm、幅3.4mm、厚さ3.0mm程度。

(17)コムギ(パンコムギ) *Triticum aestivum* L. 炭化種子 イネ科

上面観・側面観共に楕円形。腹面中央部には、上下に

走る1本の溝がある。背面の下端中央部には、扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい傾向がある。断面形状は腹面側が窪み、背面側が円形となる(Jacomet, 2006)。また、コムギの場合側面観で最も背の高い部分(幅の広い部分)が基部付近に来る。長さ3.5mm、幅2.7mm、厚さ2.8mm程度。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているのはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。破片や変形などによりオオムギとコムギを明確に識別できなかったものはオオムギ・コムギとした。

(18)イヌビエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子 イネ科

側面観が卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。栽培型のヒエよりやや細長い形状ではあるが、野生のイヌビエよりはやや丸い形状のため、イヌビエ属の同定にとどめた。写真のように一部有ふ果が付着する個体がある。計測可能な5点の大きさは、長さ2.0～2.5(平均2.3)mm、幅1.3～1.8(平均1.6)mm程度。

(19)イネ *Oryza sativa* L. 炭化粉・炭化種子 イネ科

粉の表面には規則的に配列する独特の顆粒状突起がある。残存はよくない。長さ4.8mm、幅2.8mm程度。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。任意に抽出した10点の大きさは、長さ4.0～5.0(平均4.6)mm、幅2.4～3.0(平均2.7)mm程度。

(20)キビ *Panicum miliaceum* L. 炭化種子 イネ科

側面観は卵形で、先端が窄まってやや尖り気味となる。断面は片凸レンズ形で厚みがある。胚の長さは全長の1/2程度と短い。胚は幅が広いうちわ型。長さ1.8mm、幅1.6mm程度。

(21)アワ *Setaria italica* P.Beauv. 炭化種子 イネ科

上面観は楕円形、側面観は円形に近く、先端がやや突出することがある。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは全長の2/3程度。計測可能な8点の大きさは、長さ1.2～1.5(平均1.2)mm、幅1.1～1.5(平均1.3)mm程度。

5 考察

対象とした遺構の時期の詳細は不明のため、全体の傾向について概観する。

確実な栽培植物として、果樹であるモモとスモモ、水田作物であるイネ、畑作物であるオオムギとコムギ、キビ、アワの6分類群が得られた。イネが最も目立ち、次いでオオムギとコムギが続く。アワは2区の70号土坑で442点とまとまって産出したが、他の遺構からはほとんど見いだされなかった。キビも全体的に微量であった。遺構内の炭化物の残存状況を考慮しなければならないが、住居出土の栽培植物では特定の分類群が突出して産出する傾向はなく、複数の分類群が組み合わさることが多かった。たとえば、炭化種実の残存が良好であった1区17号住居や、62号住居、2区38号住居、54号住居では、マメ類とムギ類、イネが組み合わさって出土している。

栽培もしくは野生種の可能性がある分類群としては、カキノキ属とダイズ属、ササゲ属アズキ亜属アズキ型、マメ科、シソ属？、イヌビエ属がある。カキノキ属は未炭化種子が栽培種のカキノキに近く、炭化種子は全体形が不明であるが、カキノキ以外の種に近い大きさである。炭化種子のような大きさの種子を持つ日本産のカキノキ属には、リュウキュウマメガキとマメガキ、リュウキュウガキ、トキワガキなどがあり、マメガキは栽培種、リュウキュウマメガキやトキワガキは伊豆半島以西に自生する野生種である。破片のみの出土であるため、属レベルの同定にとどめた。関東地方においてカキノキ属の出土例は中世以降に多く、産出した1区55号住居や2号井戸の時期によっては古い例として位置づけられる。マメ類は現生種の大きさと比較すると野生種と栽培種双方の大きさを含むが、少なくとも炭化しており、利用された可能性が高い。シソ属？は識別点となる表面の模様が明らかでないが、大きさは栽培種であるエゴマに近い。しかし、出土数が僅かであるため、シソ属の同定にとどめた。イヌビエ属は全体の形状が野生種のイヌビエと栽培種のヒエの中間形態であるが、出土した遺構内で他に野生種が見いだされていないため、今後、他遺跡例と比較するなど、詳細な検討を行う必要がある。

野生種で利用された可能性のある分類群としては、クリと、サクラ属サクラ節、サンショウ近似種、センダン、

ブドウ属、タデ属があげられる。センダンは天然分布が伊豆半島以西であるため、植栽された可能性もある。センダンは関東地方では中世以降の屋敷跡などの調査で出土することが多く、たとえば埼玉県鳩ヶ谷市里字屋敷添第2遺跡1183-1地点では中世から近世初頭に相当する屋敷跡を区画する堀跡のSD16から、モモとセンダンが得られている(佐々木, 2005)。センダンの果実は「川煉子」と呼ばれ、民俗例では駆虫剤や殺虫剤などに用いられる(鈴木, 1995)。出土種実には利用された痕跡はなかった。少なくとも、センダンは井戸から出土したため、スモモやカキノキ属とともに植栽されていたと推定される。また、イタヤカエデや、アカザ属、オナモミは遺構の周辺に生育していたものが偶発的に堆積した可能性がある。

遺構別にみると、墓内には栽培植物がわずかであるが産出した。埋葬に伴う種実かどうかの検討が必要であろう。土坑内から産出した種実はすべて炭化しており、調理時などの残渣や保管されていたものが堆積したと考えられる。井戸内からは未炭化の種実が出土している。モモは食用となるほかに、モモ自体が呪術的意味を持つため、祭祀にともなって井戸に入れられた可能性も考えられる。

引用文献

- Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab. (2006) Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition, IPAS, Basel Univ.
- 小畑弘己(2008)マメ科種子同定法。小畑弘己編「極東先史古代の穀物3」:225-252, 熊本大学。
- 小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子(2007)土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培。植生史研究15(2), 97-114。
- 佐々木由香(2005)各調査地点の大型植物化石と樹種同定。埼玉県鳩ヶ谷市教育委員会編「里字屋敷添群」:512-526, 鳩ヶ谷市教育委員会。
- 鈴木三男(1995)センダン。植物の世界32, 226-229。

第61表 遺構別の炭化種実(括弧内は破片数)

分類群	部位/遺構名	1区												
		19号土坑	5号住居	7号住居	8号住居	9号住居	10号住居	11号住居	14号住居	15号住居	16号住居	17号住居	20号住居	
ブドウ属	炭化種子		3 (1)											
ダイズ属	炭化種子											1		
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子		(1)		(1)									
マメ科	炭化種子			1	(1)					(4)		2 (1)		
シソ属?	炭化果実				1									
オオムギ	炭化種子	8 (3)			1		1					8 (3)		
コムギ	炭化種子	13 (1)		1					7 (1)	1	1	2		
オオムギ-コムギ	炭化種子		2				1					4 (3)	(1)	
イヌビエ属	炭化種子				1							1		
イネ	炭化種子	1 (1)	2	7 (2)	5	1		6 (2)	2	1 (1)	1 (1)	4 (2)		
不明	炭化種子			(2)	1									
同定不能	炭化種実		(1)	(1)							1			
虫えい													(1)	

分類群	部位/遺構名	1区											
		21号住居	22号住居	28号住居	31号住居	32号住居	35号住居	38号住居	40号住居	42号住居	47号住居	48号住居	50号住居
サンショウ属	炭化種子							1					
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子				(2)								
マメ科	炭化種子		1 (4)						1			1 (1)	
オオムギ	炭化種子		2					1					
コムギ	炭化種子		1	4				2	2				
オオムギ-コムギ	炭化種子		(2)							1		1 (3)	
イヌビエ属	炭化種子		1										
イネ	炭化種子	1	5 (1)	1	1 (1)	20 (9)	1	11 (4)	5	3	(1)		6 (2)
不明	炭化果実								(1)				
同定不能	炭化種実					(1)		(1)				(1)	
虫えい				(1)				2	(1)		1		

分類群	部位/遺構名	1区											
		51号住居	52号住居	53号住居	55号住居	56号住居	60号住居	61号住居	62号住居	63号住居	65号住居	71号住居	72号住居
ブドウ属	炭化種子				2				1 (1)				
カキノキ属	炭化種子				(1)								
ダイズ属	炭化種子										1		
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子					(1)							
マメ科	炭化種子	(2)					1		1				
オオムギ	炭化種子						1 (1)	2	16 (3)				
コムギ	炭化種子	2		1					10				
オオムギ-コムギ	炭化種子				1		1		7 (6)			1 (1)	
イネ	炭化種子	4	1		11 (6)	1	23 (4)	8 (1)	14 (8)	6 (4)	1	2	(1)
キビ	炭化種子								1				
不明	炭化種子				(2)								
同定不能	炭化種実				(1)				(1)				
虫えい								1	1	1 (1)	(1)		(2)

分類群	部位/遺構名	2区											
		3号住居	4号住居	6号住居	10号住居	11号住居	12号住居	16号住居	17号住居	18号住居	22号住居	26号住居	29号住居
ブドウ属	炭化種子							1					
タデ属	炭化果実						1						
アカザ属	炭化種子								(1)				
ダイズ属	炭化種子		1										
マメ科	炭化種子							1					
シソ属?	炭化果実									1			
オオムギ	炭化種子				1			2 (1)					1
コムギ	炭化種子	1	1		2			11					1
オオムギ-コムギ	炭化種子							1	1	1			
イヌビエ属	炭化種子	1						1					
イネ	炭化種子	3	(1)				1	15 (5)	6 (1)	1	3 (1)		1
キビ	炭化種子								1				
アワ	炭化種子								2				
不明	炭化種子										(3)	1	
同定不能	炭化種実	(1)	(2)						(1)				
虫えい						1		2					(1)

分類群	部位/遺構名	2区											
		36号住居	37号住居	38号住居	39号住居	40号住居	43号住居	44号住居	45号住居	47号住居	49号住居	50号住居	54号住居
ダイズ属	炭化種子												8 (7)
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子				1 (1)					(1)			
マメ科	炭化種子			1 (2)			(2)						8 (9)
オオムギ	炭化種子			23 (2)	2		1		3				1
コムギ	炭化種子			11				1			1		1
オオムギ-コムギ	炭化種子			14 (7)	1		(1)						
イネ	炭化種子			3 (1)	16 (6)	12 (1)			1				12 (2)
不明	炭化種子				1	1 (1)	1	(1)					(1)
同定不能	炭化種実	(1)		(3)					(1)				
虫えい		1 (2)	(1)		1								
子囊菌	炭化子囊										(1)		

第62表 遺構別の大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	地区 部位/遺構名	2区											
		55号住居	57号住居	59号住居	60号住居	62号住居	63号住居	66号住居	70号住居	71号住居	73号住居	76号住居	77号住居
モモ	炭化核	(1)					(1)						
サンショウ近似種	炭化種子						(1)						
ブドウ属	炭化種子				2								
イタヤカエデ	炭化種子				1								
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子											(1)	
マメ科	炭化種子				1		4 (2)	1 (1)	1			(1)	
オナモミ	炭化総苞							(2)					
オオムギ	炭化果実				1								
	炭化種子			1	1							2	2
コムギ	炭化種子	2		1				5					
オオムギ-コムギ	炭化種子	(1)							(1)	3			
イネ	炭化粉				1								
	炭化種子	1	1	7 (4)	19 (3)	4 (1)	11 (5)	3		2	1	13 (1)	
不明	炭化種子			3 (5)	1		1						
同定不能	炭化種実				(1)		1	(1)				(5)	
虫えい			1										

分類群	地区 部位/遺構名	2区											
		78号住居	79号住居	82号住居	83号住居	87号住居	88号住居	89号住居	90号住居	92号住居	93号住居	97号住居	99号住居
ブドウ属	炭化種子		1										
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子											1	
マメ科	炭化種子			(1)								1	
オオムギ	炭化種子						1	1				1	
イネ	炭化種子	4 (1)	3	4 (1)	1	1		1	3	2 (3)		4	
イネ?	炭化種子										(4)		
アワ	炭化種子												
不明	炭化種子	1								1		2	(1)
同定不能	炭化種実	(1)	(2)	(5)							(1)		

分類群	地区 部位/遺構名	2区											
		25号土坑	36号土坑	70号土坑	1号火葬跡	2号墓	2号井戸	4号井戸	7号井戸	1号井戸	3区		
クリ	果実							1 (1)					
モモ	核								6 (5)	6 (10)			
スモモ	核						1						
センダン	核						8 (4)		13 (2)	6 (1)			
カキノキ属	種子						1						
ダイズ属	炭化種子			1									
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子		(1)										
マメ科	炭化種子			1 (1)									
オナモミ	炭化総苞				1								
オオムギ	炭化果実		1										
	炭化種子				2								
コムギ	炭化種子				1								
オオムギ-コムギ	炭化種子	(1)			2	2							
イネ	炭化種子		16 (12)	3 (1)	1	1							
アワ	炭化種子		1	442									
不明	炭化種子		(1)							1			
同定不能	炭化種実		(3)	(2)		(1)							
虫えい		(1)	17 (10)										

第5章 鑑定分析・自然科学分析

付表1 綿貫伊勢遺跡から出土した炭化種実(括弧内は破片数)

分類群	部位	地区	1区	1区	1区	1区	1区	1区	1区	1区	1区	1区	1区
		遺構名	19号土坑	5号住居	5号住居	7号住居	7号住居	7号住居	8号住居	9号住居	10号住居	11号住居	14号住居
ブドウ属	炭化種子												
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子			No4	カマド	カマド	カマド前	ビット3	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド
マメ科	炭化種子												
シソ属?	炭化果実												
イヌビエ属	炭化種子												
イネ	炭化種子		1 (1)	1	1	7 (2)			5	1		6 (2)	2
オオムギ	炭化種子		8 (3)						1				1 (1)
コムギ	炭化種子		13 (1)					1				7 (1)	1
オオムギ-コムギ	炭化種子				2						1		1
不明	炭化種子					(2)			1				
同定不能	炭化種実				(1)	(1)							1

分類群	部位	地区	1区	1区	1区								
		遺構名	16号住居	17号住居	17号住居	20号住居	21号住居	22号住居	22号住居	28号住居	31号住居	32号住居	35号住居
ダイズ属	炭化種子												
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子												
マメ科	炭化種子												
イヌビエ属	炭化種子												
イネ	炭化種子		1 (1)	3 (1)	1 (1)	1	4 (1)	1	1	1 (1)	20 (9)	1	7 (2)
オオムギ	炭化種子			5 (2)	3 (1)		2						1
コムギ	炭化種子		1	2				1	4				1
オオムギ-コムギ	炭化種子			4 (3)		(1)	(2)						
同定不能	炭化種実											(1)	
虫えい						(1)					(1)		

分類群	部位	地区	1区										
		遺構名	38号住居	38号住居	40号住居	42号住居	42号住居	47号住居	48号住居	48号住居	50号住居	51号住居	52号住居
サンショウ属	炭化種子												
マメ科	炭化種子												
イネ	炭化種子		2 (1)	2 (1)	5	3	(1)	1	(1)		(2)	1	
コムギ	炭化種子			1	2					6 (2)	4		1
オオムギ-コムギ	炭化種子					1		1 (3)			2		
不明	炭化果実				(1)								
同定不能	炭化種実		(1)						(1)				
虫えい			2		(1)		1			(1)			

分類群	部位	地区	1区	1区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区
		遺構名	55号住居	55号住居	56号住居	60号住居	60号住居	61号住居	61号住居	62号住居	62号住居	62号住居	63号住居
ブドウ属	炭化種子		2										
カキノキ属	炭化種子		(1)										
ダイズ属	炭化種子												1
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子				(1)								
マメ科	炭化種子					1			1				
イネ	炭化種子		7 (4)	4 (2)	1	16 (2)	7 (2)		8 (1)	13 (7)		1 (1)	6 (4)
キビ	炭化種子									1			
オオムギ	炭化種子					1 (1)			2	14 (3)		2	
コムギ	炭化種子									8		2	
オオムギ-コムギ	炭化種子			1		1				7 (6)			
不明	炭化種子		(2)										
同定不能	炭化種実				(1)						(1)		
虫えい								1				1 (1)	(1)

分類群	部位	地区	1区	1区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区
		遺構名	71号住居	72号住居	3号住居	4号住居	6号住居	10号住居	11号住居	12号住居	16号住居	16号住居	16号住居
ブドウ属	炭化種子												
タデ属	炭化果実												1
ダイズ属	炭化種子					1				1			
イヌビエ属	炭化種子					1					1		
イネ	炭化種子		2	(1)	3	(1)			1	13 (3)		1 (1)	
オオムギ	炭化種子							1		(1)			
コムギ	炭化種子				1	1		2		8		1	1
オオムギ-コムギ	炭化種子		1 (1)									1	
同定不能	炭化種実				(1)	(2)							
虫えい				(2)					1		1		

付表2 綿貫伊勢遺跡から出土した炭化種実(括弧内は破片数)

分類群	部位	地区	2区										
		遺構名	16号住居	16号住居	17号住居	17号住居	17号住居	18号住居	22号住居	26号住居	26号住居	29号住居	29号住居
			掘り方	貯蔵穴	カマド								
アカザ属	炭化種子												(1)
マメ科	炭化種子					1							
シソ属?	炭化果実							1					
イネ	炭化種子	1 (1)			5 (1)	1	1	3 (1)			1		
キビ	炭化種子				1								
アワ	炭化種子			1	1								
オオムギ	炭化種子	2										1	
コムギ	炭化種子											1	
オオムギ-コムギ	炭化種子					1	1						
不明	炭化種子							(3)		1			
同定不能	炭化種実			(1)									(1)
虫えい			1						(1)				1 (2)

分類群	部位	地区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区
		遺構名	37号住居	38号住居	39号住居	40号住居	43号住居	43号住居	43号住居	44号住居	44号住居	45号住居	45号住居
			掘り方	カマド	カマド	カマド	カマド	1区画1	カマド	カマド	土器29内	カマド	カマド
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子				1 (1)								(1)
マメ科	炭化種子		1 (2)				(2)						
イネ	炭化種子		3 (1)	16 (6)	12 (1)							1	
オオムギ	炭化種子		23 (2)	2				1				3	
コムギ	炭化種子		11						1				
オオムギ-コムギ	炭化種子		14 (7)	1				(1)					
不明	炭化種子			1	1 (1)		1			(1)			
同定不能	炭化種実			(3)							(1)		
虫えい			(1)		1							(1)	

分類群	部位	地区	2区										
		遺構名	49号住居	50号住居	54号住居	54号住居	54号住居	55号住居	55号住居	57号住居	59号住居	59号住居	60号住居
			カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	掘り方南	カマド	貯蔵穴	カマド	カマド
モモ	炭化核								(1)				
ブドウ属	炭化種子												2
ダイズ属	炭化種子				7 (7)		1						
マメ科	炭化種子						8 (9)						
イネ	炭化糊											1	
オオムギ	炭化種子			11		1 (2)		1	1	7 (4)		2	
コムギ	炭化種子					1				1			
オオムギ-コムギ	炭化種子		1	1			1	1			1		
不明	炭化種子				(1)			(1)			3 (5)	1	
同定不能	炭化種実												(1)
虫えい										1			
子囊菌	炭化子嚢		(1)										

分類群	部位	地区	2区										
		遺構名	60号住居	60号住居	60号住居	62号住居	63号住居	63号住居	63号住居	63号住居	66号住居	66号住居	70号住居
			カマド	カマド	カマド	南側	カマド	カマド	カマド	住居内	上層	カマド	カマド
モモ	炭化核								(1)				
サンショウ近似種	炭化種子						(1)						
イタヤカエデ	炭化種子	1											
マメ科	炭化種子		1						2 (2)		2	1 (1)	1
オナモミ	炭化総苞											(2)	
イネ	炭化種子	17 (3)			4 (1)	4 (4)	1	1 (1)	1	4	3		
オオムギ	炭化果実	1											
コムギ	炭化種子			1		1							
オオムギ-コムギ	炭化種子					1		1		3			3
不明	炭化種子							1			(1)		
同定不能	炭化種実					1							(1)

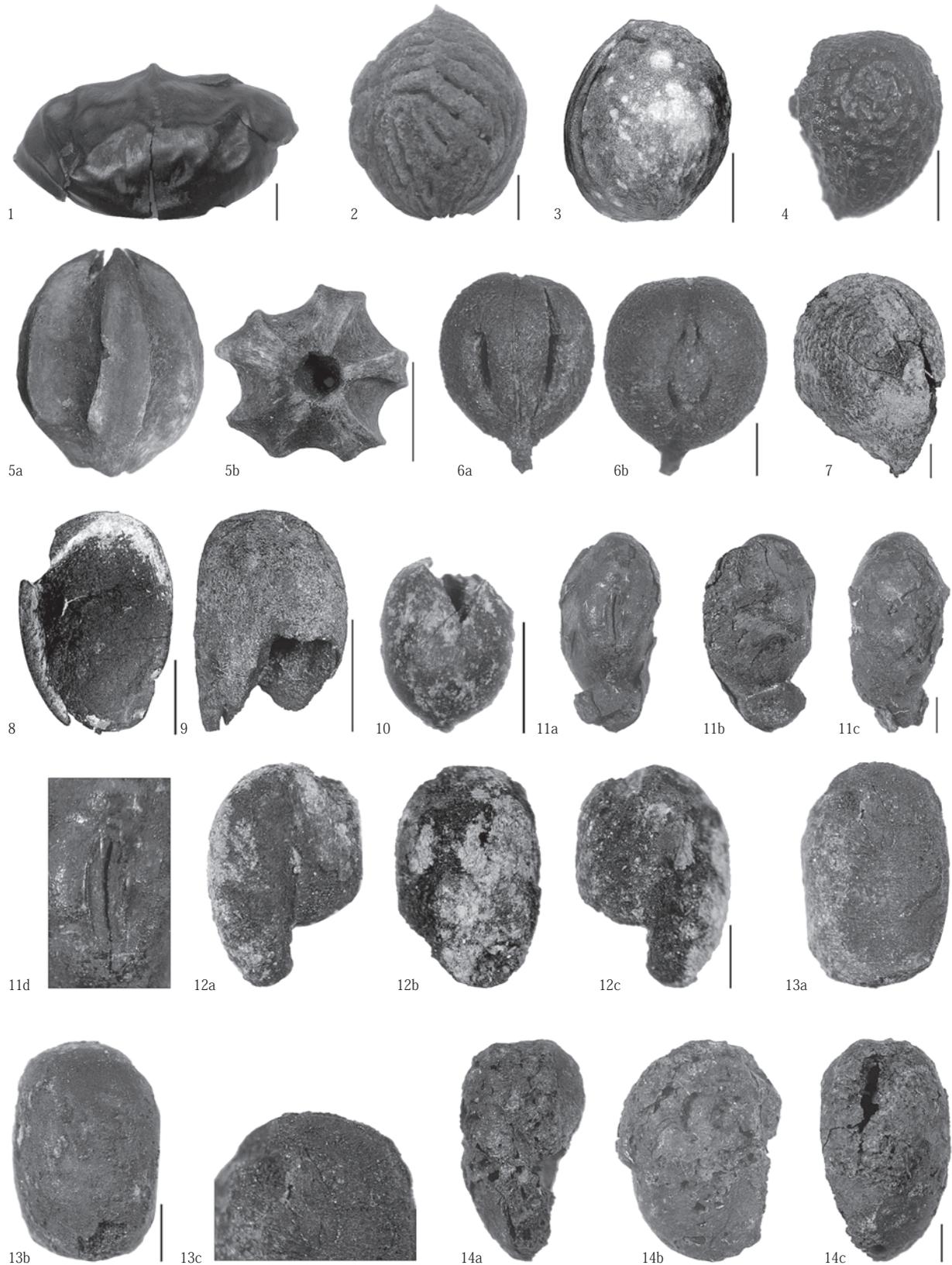
分類群	部位	地区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区	2区
		遺構名	71号住居	73号住居	76号住居	77号住居	78号住居	79号住居	82号住居	83号住居	87号住居	88号住居	89号住居
			サンプル	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド	カマド
ブドウ属	炭化種子						1						
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子				(1)								
マメ科	炭化種子				(1)			(1)					
イネ	炭化種子	2	1	13 (1)		4 (1)	3	4 (1)	1	1		1	
オオムギ	炭化種子			2	2							1	1
不明	炭化種子					1							
同定不能	炭化種実			(5)		(1)	(2)	(5)					

第5章 鑑定分析・自然科学分析

付表3 綿貫伊勢遺跡から出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	部位	地区											
		2区 90号住居 カマド	2区 90号住居 貯蔵穴	2区 92号住居	2区 93号住居 貯蔵穴	2区 97号住居 カマド	2区 99号住居 カマド	2区 25号土坑	2区 36号土坑	2区 36号土坑 焼土層 下層	2区 36号土坑 焼土層 上層	2区 70号土坑 1	2区 70号土坑 2
ダイズ属	炭化種子											1	
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子				1						(1)		
マメ科	炭化種子				1							(1)	1
オオムギ	炭化果実										1		
オオムギ-コムギ	炭化種子					1							
イネ	炭化種子	1	2	2 (3)		4		(1)	16 (9)	(1)	(2)	3 (1)	
イネ?	炭化種子				(4)								
アワ	炭化種子								1				66
不明	炭化種子			1		2	(1)				(1)		
同定不能	炭化種実				(1)				(2)	(1)			(2)
虫えい								(1)	12 (9)	5 (1)			

分類群	部位	地区							
		70号土坑 3	1号火葬跡	1号火葬跡 3区画	2号墓 3	2号井戸	4号井戸	7号井戸	1号井戸
ケリ	果実						1 (1)		
モモ	核							6 (5)	6 (10)
スモモ	核					1			
センダン	核					8 (4)		13 (2)	6 (1)
カキノキ属	種子					1			
オナモミ	炭化総苞		1						
オオムギ	炭化種子		2						
コムギ	炭化種子		1						
オオムギ-コムギ	炭化種子		2		2				
イネ	炭化種子			1	1				
アワ	炭化種子	376							
不明	炭化種子							1	
同定不能	炭化種実				(1)				



第645図 綿貫伊勢遺跡から出土した大型植物遺体(1)

スケール 1-3,5,8,9:5mm,4,6,7,10-14:1mm,11d,13Cは任意

1. クリ果実(1区、4号井戸)、2. モモ核(3区、1号井戸)、3. スモモ核(1区、2号井戸)、4. サンショウ近似種炭化種子(2区、63号住居、カマド)、5. センダン核(2区、7号井戸)、6. ブドウ属炭化種子(1区、55号住居、カマド)、7. イタヤカエデ炭化種子(2区、60号住居、カマド右脇)、8. カキノキ属種子(1区、2号井戸)、9. カキノキ属炭化種子(1区、55号住居、カマド)、10. タデ属炭化果実(2区、12号住居、カマド)、11. ダイズ属炭化種子(2区、54号住居)、12. ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子(2区、93号住居、貯蔵穴)、13. ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子(2区、47号住居)、14. マメ科炭化種子(2区、54号住居、カマド右)



スケール 15,17-24:1mm,16:5mm

第646図 綿貫伊勢遺跡から出土した大型植物遺体(2)

15. シソ属?炭化果実(2区、22号住居、炉)、16. オナモミ炭化総苞(2区、1号火葬跡)、17. イヌビエ属炭化種子(2区、3号住居、北東部)、18. イネ炭化籾(2区、60号住居)、19. イネ炭化種子(2区、54号住居)、20. キビ炭化種子(1区、62号住居、カマド)、21. アワ炭化種子(2区17号住居カマド掘り方)、22. オオムギ炭化果実(2区、60号住居カマド右脇)、23. コムギ炭化種子(1区、62号住居、カマド)

第6章 まとめと考察

第1項 縄文時代

縄文時代の遺構は検出されていない。土器片が住居や土坑、溝の覆土から出土している。それは前期の花積下層式、黒浜・有尾式、諸磯a・b・c式の各土器、中期の勝坂式、加曾利E式、後期の称名寺式、堀之内式の各土器である。いずれも小破片であった。また、1区75号住居覆土中から後期の土偶が出土した。

このほか、剥片系石器30点(打製石斧4・石鏃13・削器2・石核6・加工痕ある剥片5)、礫石器(凹石1・敲石1・多孔石1)が出土している。剥片系石器には硬質泥岩が多用され、これに黒曜石が次いでいる。利根川中流域の縄文期遺跡で多用されることの多い黒色頁岩や黒色安山岩は客体的である。

打製石斧は、短冊型3点、分銅型1点が出土した。4点とも完成状態にあり、刃部摩耗・刃部再生が明らかである。石鏃は13点出土。13点中8点が凹基無茎鏃であり、平基無茎鏃1点、凹基有茎鏃1点、平基有茎鏃1点、局部磨製石鏃1点、不明1点となる。形態不明の1点を除く12点が完成状態である。局部磨製石鏃は加工後研磨されており、早期押型文期石鏃の典型例である。有茎鏃は後・晩期的形態を有する。

石核の石材は硬質泥岩4点、黒曜石2点である。楕円礫・分割礫など石核は大型で、在地型の石材消費の典型例である。黒曜石製石核は板状剥片を用いるもので、石鏃等の素材とされたと思われる。

剥片類は、48点857.7gが出土。石材は9種類に及ぶ。剥片は幅広剥片が主体で、石斧調整剥片に似た剥片類もありそうだが、平坦打面を有する通常剥片が主体的になる。灰色安山岩・細粒輝石安山岩は石斧に多用されるものであるが、これについても平坦打面が大きく残る通常剥片で、積極的に石斧製作を裏づけるような痕跡は認められなかった。

第2項 古墳時代～平安時代の集落変遷

古墳時代から平安時代にかけての住居は、1区197軒、2区97軒、3区3軒の計297軒であった。

1～3区の住居は、いずれも発掘区西に隣接する「綿貫牛道遺跡」検出集落群と一体となった住居群となる。

以下、簡単にまとめる。

(イ) 3世紀後半～4世紀代

井野川の右岸、井野川低地帯高位段丘面の標高約72.8～74.5mに立地している古墳時代前期の集落は、遺跡の西から北西方向に展開する「綿貫小林前遺跡」で住居44軒・方形周溝墓1基・井戸・溝が、西隣の「綿貫牛道遺跡」、そして西約220mに位置する「綿貫原北遺跡」から、前者では住居5軒、後者では住居3軒の計8軒が検出されている。また遺跡の北西から南にかけて高崎市教育委員会による「綿貫遺跡」の調査で住居6軒・方形周溝墓2基が検出されているように、これまでも概時期の遺構多数が検出されている。

また「綿貫牛道遺跡」1区・2区の北西から南東(N-24°～29°-W)にほぼ直線的に約90m走行する4世紀代の溝(1区4号溝・2区13号溝)までの距離は、綿貫牛道遺跡検出の4世紀代住居との距離約80m、綿貫伊勢遺跡2区検出の住居との距離約50mを測る。この間は住居などの遺構が存在しない空白域となっている。

3世紀後半に2区で住居2軒が出現する。東西に分かれ、ともに2区調査区の北端に位置する。住居間隔は約77mを測る。同時期に特筆される遺構として、1～3号土器埋設遺構がある。

4世紀前半の住居は1区23軒、2区2軒、後半の住居は1区7軒、2区7軒の計39軒である。このほか、4世紀代が1区13軒、2区2軒となっている。結果的に4世紀代の住居は54軒となった。なお、2区2・4号掘立柱建物は主軸方向や方位の一致から考えて、4世紀後半に構築された可能性が高い。

1区住居分布のあり方からもわかるように、重複する住居多数が認められることから、複数の時期にかけて構

築されたことがわかる。そして綿貫原北遺跡3区検出の住居外周に溝を伴う住居（2・3号住居）の存在は皆無であった。綿貫原北遺跡検出の住居外周に溝を伴う住居の存在は、あらためて特異な存在であったものと理解されよう。また綿貫小林前遺跡で検出された9m級の大型住居に匹敵する規模の住居は検出されていない。

住居分布を見ると北西から南東方向へある一定の間隔をもって直線的な配置が認められる。そうした中で東西約70m、南北約40mの住居空白域が認められた。それは2区中央部から西部にかけて、1区中央部から南西部分にかけての範囲である。この範囲の西部に3世紀後半の土器埋設遺構3基が存在していたが、それは後の4世紀代集落到何らかの規制をあたえるものとなったのであろうか。

検出された住居のうち、鉄鏃が出土したのは1区54号住居、2区8・22号住居の3軒であった。綿貫小林前遺跡208号住居からは銅鏃が出土している。

井野川右岸の古墳としては、当遺跡の北西方向1.7kmの位置に4世紀後半の築造と考えられている柴崎蟹沢古墳がある。この古墳には正始元年銘のある三角縁神獸鏡など4面の銅鏡が副葬されていた。井野川左岸には、当遺跡の北北西1.5kmに位置する4世紀前半築造の元島名将軍塚古墳がある。墳丘長91～96mの前方後方墳である。

(口) 5世紀～6世紀前半代

5世紀から6世紀前半までの住居は、1軒も検出されていない。唯一、遺跡の南方約550mに所在する不動山東遺跡から格子目印目文をもつ韓式系土器の甕が出土した5世紀代の住居1軒が検出されているだけである。岩鼻二子山古墳や不動山古墳の築造の背景に渡来人、渡来系文物との関わりが考えられる。また対岸の下滝天水遺跡から5世紀の豪族居館に伴う一辺約35mの方形区画になる溝が検出されている。

遺跡周辺では、当遺跡の南東約450mに位置する5世紀前半の築造が推定されている墳丘長約80mの前方後円墳である普賢寺裏古墳、5世紀前半から中頃の築造と考えられている墳丘長約115mの前方後円墳である岩鼻二子山古墳がある。さらに5世紀中頃の墳丘長94mの前方後円墳である不動山古墳が築造されているように、遺跡周辺一帯は、とりわけ南方に向かって墓域となっていることがわかる。集落の空白期が見事に一致していること

は特筆される。

(ハ) 6世紀後半代

6世紀後半になって集落が再度営まれる。1区で36軒、2区で3軒の計39軒が検出された。ただし住居の分布から明らかなように集落の主体は1区にあり、2区やその南方には広がりを見せていない。2区においては4世紀代の住居配置とは大きく異なっている。また個々の住居を見ても、重複関係や同時存在が認められない近接する住居の存在等から複数の時期にまたがっていることがわかる。

カマドを北東に構築している住居は13軒、北西に構築する住居6軒、南西に構築する住居3軒が存在している。

石製模造品が出土した住居は1区9・56号住居の2軒である。土錘は1区38・104・127・155号住居の5軒から出土、菰編石は1区44・92・155号住居の3軒から出土した。

当遺跡の南東約100mに位置する綿貫観音山古墳は、6世紀後半の築造で綿貫古墳群最後の前方後円墳と考えられている。墳丘長97.5mで二段築成、二重の周堀が巡る。古墳と検出集落がどのような関係にあるのかは重要な検討課題となろう。

(ニ) 7世紀代

7世紀前半になると1区19軒、2区13軒の計32軒の住居が検出されている。前代に比べると2区で急増している。2区での位置は中央北端と東部に集中が見られる。特に中央部は重複が激しく、繰り返し建て替えられているため、軒数がそのまま集落規模を反映していないことがわかる。対して東部は重複が少なく分散している。

7世紀後半の住居は1区で16軒、2区8軒の計24軒である。2区での位置は前半とほぼ同じ位置を踏襲して重複がなく、集落規模としても同程度と見なされよう。なお、7世紀代はほかに5軒、中頃は2軒認められている。

石製模造品が出土した住居は1区64号住居、紡錘車が出土した住居は1区111号住居、土錘は1区119・129・139・164号住居の4軒、菰編石は1区20・49・93・111・118・163号住居、2区17・55・92号住居の計9軒の住居から出土した。2区87号住居から鉸具が出土。

全体として6世紀後半よりも7世紀前半には2区で住居数が急増していることから集落域の拡大が認められる。1区にあっては、6世紀後半の住居との重複は少な

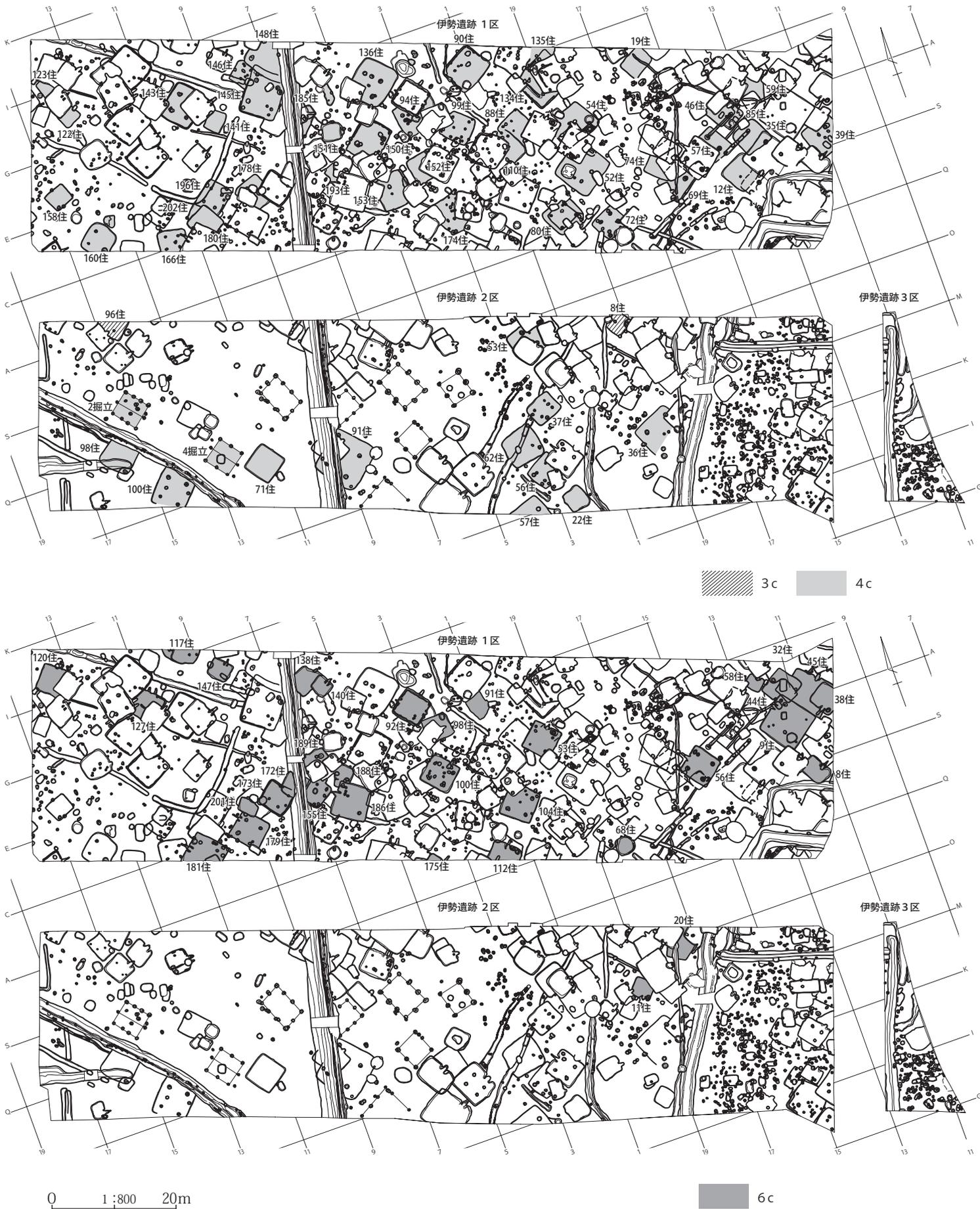
第647図 1区住居一覧(1)

遺構名	3C		4C		5C		6C				7C				8C				9C				10C				11C	小計
	後	前	後	前	後	前	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	前					
1住																												
2住																												
3住																												
4住																												
5住																												
6住																												
7住																												
8住																												
9住																												
10住																												
11住																												
12住																												
13住																												
14住																												
15住																												
16住																												
17住																												
18住																												
19住																												
20住																												
22住																												
23住																												
24住																												
25住																												
26住																												
27住																												
28住																												
29住																												
30住																												
31住																												
32住																												
33住																												
34住																												
35住																												
36住																												
37住																												
38住																												
39住																												
40住																												
41住																												
42住																												
43住																												
44住																												
45住																												
46住																												
47住																												
48住																												
49住																												
50住																												
51住																												
52住																												
53住																												
54住																												
55住																												
56住																												
57住																												
58住																												
59住																												
60住																												
61住																												
62住																												
63住																												
64住																												
65住																												
66住																												
67住																												
68住																												
69住																												
70住																												
71住																												
72住																												
73住																												
74住																												
75住																												
76住																												
77住																												
80住																												
82住																												
83住																												
84住																												
85住																												
86住																												
87住																												
88住																												
89住																												
90住																												
91住																												
92住																												
93住																												
94住																												
95住																												
96住																												
98住																												
99住																												
100住																												
101住																												
102住																												
103住																												
104住																												
105住																												
106住																												

く、意識的に避けるかのような配置をとっている。

(ホ) 8世紀代

8世紀になると、



第650図 年代別住居分布図(1)(上・3世紀後半～4世紀代、下・6世紀代)

で中頃2軒、10世紀代1軒となっている。ほかに9世紀末から10世紀初めと幅のあるものが1軒ある。結果として、1・2区で30軒の住居となった。

1区95号住居から銅製の巡方が出土している。土錘は1区55・95号住居の2軒から出土している。また1区77号住居からは瓦が出土した。

集落規模は9世紀に引き続いている。その分布を見ると前代の住居とほとんど重複することなく配置されていることがわかる。

なお、10世紀後半から11世紀前半として2区で1軒、1区では11世紀初頭の住居1軒がある。

3区では住居3軒のうち、時期の判明するものは10世紀中頃1軒のみである。

第3項 石器類

菰編石

住居13軒から190点が出土した。礫の平均サイズは長さ10～15cm、幅5～7cmを測る。礫重量は250～650gと幅がある。住居別にみると、～300g：1区96住居(9世紀第3四半期)・2区60住(8世紀第3四半期)・2区92住(7世紀第4四半期)、～400g：1区92住(6世紀後半)、～500g：1区20住(7世紀代)・1区93住(7世紀前半)・1区111住(7世紀第3四半期)・1区118住(7世紀後半)・1区155住(6世紀後半)・1区163住(7世紀前半)、～600g：1区44住(6世紀後半)、～700g：2区17住(7世紀前半)・2区55住(7世紀前半)と、住居間で格差がある。

石材構成は22種類の石材が確認されている。粗粒輝石安山岩が190点中99点(52.1%)を占める。その他の石材には、流紋岩(14点、7.3%)・黒色頁岩(7点3.9%)・ひん岩・アプライト・石英閃緑岩(各6点、3.2%)などがあり、利根川中流域起源の石材に、雲母石英片岩など三波川起源の片岩類(11.1%)が加わる。

砥石

31点中24点が住居覆土、ほか溝・井戸から出土する。形態は礫砥石19点・切り砥石12点(うち、手持ち砥石9点・多面体砥石1(仮称))からなる。

礫砥石の石材は、粗粒輝石安山岩12点、デイサイト3点、流紋岩1点・珪質粘板岩1点などがある。粗粒輝石安山岩それ自体は多孔質で、砥石石材として妥当性を欠

いているようにも見えるが、面取り整形され砥面が激しく使い込まれているものと、刃ならし傷があることにより砥石として認定されるものの両者がある。その他の石材は砥石石材としては硬質すぎるように見えるが、砥面は光沢面を形成、線条痕も明らかである。形態は偏平円礫・偏平楕円礫を用いる。平均重量は1.7kg(最大4.8kg・最少225g)を測る。礫砥石19点中11が1kgを超える。縄文期磨石が掌サイズ(5～600g程度)であり、礫サイズ・石材とも明らかに異なる。

切り砥石は、12点中8点が住居から出土する。手持ち砥石が圧倒的に多く、置き砥石とされるものは、珪質頁岩製(117号住居整理番号40)の1点のみである。研磨主体が明らかなものは少ない。表採資料(未掲載)のみU字状の浅い溝があり、研磨主体が棒状であることが明らかである。類例が隣接する綿貫牛道遺跡(2区2溝149図17)にある。石材は、砥沢石9点・珪質頁岩1点・珪質粘板岩1点・軽石1点からなる。軽石製のそれはカマド芯材を転用したものである。形態は四面使用されるものが多く、2区4号井戸(第542図7)のみ側縁整形痕が残る。

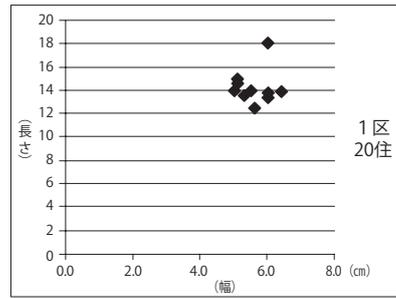
その他

軽石類では、1区49号住居(7世紀前半)から井野川河床採集礫が43点出土した。埋没過程で一括廃棄されたものとみられる。礫形状は楕円礫から角礫稜部が円礫化したもので、礫サイズの平均は長さ7cm・幅5cm・重さ80gである。楕円礫としたものは平均的サイズの礫が多い。形態的には礫稜部の円礫化したものが多く、特に礫採集時の形態的斉一性は認識されない。43点中5点到刃ならし傷様のキズ、線条痕が見られるほか特に使用痕等は確認されていない。

第63表 菰編石計測表及びグラフ(1)

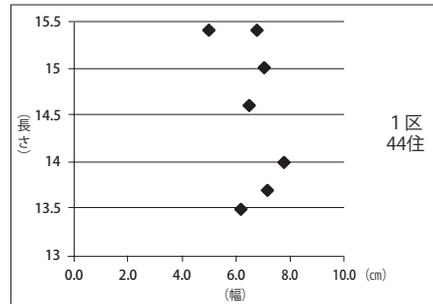
1区20号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	20	住居	S-1	黒色片岩	6.0	18.1	536.9
1	20	住居	S-2	黒色片岩	6.0	13.8	305.6
1	20	住居	S-3	黒色片岩	5.5	14.0	360.5
1	20	住居	S-4	黒色片岩	5.3	13.6	370.1
1	20	住居	S-5	黒色片岩	5.6	12.5	376.5
1	20	住居	S-6	粗粒輝石安山岩	5.1	15.0	423.4
1	20	住居	S-7	粗粒輝石安山岩	5.0	14.0	353.7
1	20	住居	S-8	粗粒輝石安山岩	5.1	14.6	445.1
1	20	住居	S-9	細粒輝石安山岩	6.4	13.9	510.0
1	20	住居	S-10	雲母石英片岩	6.0	13.4	355.7



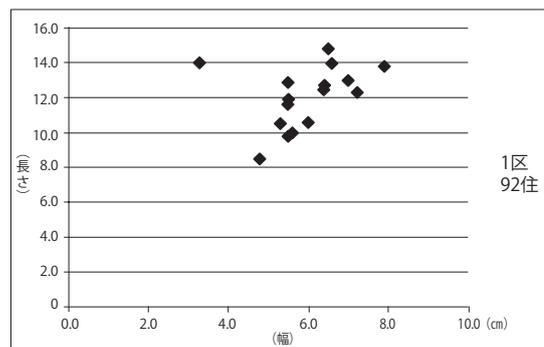
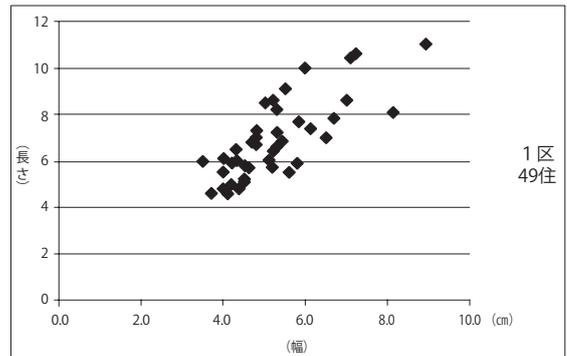
1区44号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	44	住居	S-1	粗粒輝石安山岩	6.8	15.4	699.8
1	44	住居	S-2	粗粒輝石安山岩	5.0	15.4	615.1
1	44	住居	S-3	粗粒輝石安山岩	6.5	14.6	576.1
1	44	住居	S-4	石英閃緑岩	6.2	13.5	502.0
1	44	住居	S-5	黒色頁岩	7.1	15	524.7
1	44	住居	S-6	変質安山岩	7.2	13.7	423.4
1	44	住居	S-7	溶結凝灰岩	7.8	14.0	602.7



1区49号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	49	住居	S-1	二ツ岳軽石	5.2	6.4	59.0
1	49	住居	S-2	二ツ岳軽石	6.0	10	142.9
1	49	住居	S-3	二ツ岳軽石	4.0	6.1	84.8
1	49	住居	S-4	二ツ岳軽石	4.8	7.3	64.2
1	49	住居	S-5	二ツ岳軽石	4.2	5.0	34.7
1	49	住居	S-6	二ツ岳軽石	4.6	5.7	34.1
1	49	住居	S-7	二ツ岳軽石	7.0	8.6	147.7
1	49	住居	S-8	二ツ岳軽石	5.2	8.6	94.9
1	49	住居	S-9	二ツ岳軽石	4.3	6.0	44.5
1	49	住居	S-10	二ツ岳軽石	4.8	7.0	53.0
1	49	住居	S-11	二ツ岳軽石	7.1	10.4	241.9
1	49	住居	S-12	二ツ岳軽石	5.8	7.7	118.5
1	49	住居	S-13	二ツ岳軽石	4.7	6.8	62.4
1	49	住居	S-14	二ツ岳軽石	4.1	4.6	23.7
1	49	住居	S-15	二ツ岳軽石	6.7	7.8	95.8
1	49	住居	S-16	二ツ岳軽石	5.6	5.5	64.3
1	49	住居	S-17	二ツ岳軽石	4.8	6.7	61.4
1	49	住居	S-18	二ツ岳軽石	5.3	8.2	87.0
1	49	住居	S-19	二ツ岳軽石	5.5	9.1	113.7
1	49	住居	S-20	二ツ岳軽石	4.3	6.5	49.6
1	49	住居	S-21	二ツ岳軽石	6.1	7.4	87.4
1	49	住居	S-22	二ツ岳軽石	5.0	8.5	97.9
1	49	住居	S-23	二ツ岳軽石	4.4	4.8	28.6
1	49	住居	S-24	二ツ岳軽石	8.1	8.1	112.5
1	49	住居	S-25	二ツ岳軽石	(4.3)	(4.0)	23.6
1	49	住居	S-26	二ツ岳軽石	5.1	6.0	38.8
1	49	住居	S-27	二ツ岳軽石	7.2	10.6	285.3
1	49	住居	S-28	二ツ岳軽石	4.0	5.5	45.4
1	49	住居	S-29	二ツ岳軽石	6.5	7.0	95.5
1	49	住居	S-30	二ツ岳軽石	5.3	6.6	48.7
1	49	住居	S-31	二ツ岳軽石	4.5	5.1	31.8
1	49	住居	S-33	二ツ岳軽石	5.8	5.9	88.8
1	49	住居	S-32	二ツ岳軽石	(4.7)	(5.0)	28.9
1	49	住居	S-34	二ツ岳軽石	4.5	5.8	39.2
1	49	住居	S-35	二ツ岳軽石	8.9	11.0	286.0
1	49	住居	S-36	二ツ岳軽石	5.4	6.8	67.2
1	49	住居	S-37	二ツ岳軽石	5.2	5.7	42.9
1	49	住居	S-38	二ツ岳軽石	4.0	4.8	23.4
1	49	住居	S-39	二ツ岳軽石	3.7	4.6	22.0
1	49	住居	S-40	二ツ岳軽石	5.3	7.2	69.3
1	49	住居	S-41	二ツ岳軽石	4.2	5.9	34.2
1	49	住居	S-42	二ツ岳軽石	3.5	6.0	30.4
1	49	住居	S-43	二ツ岳軽石	4.5	5.2	41.0

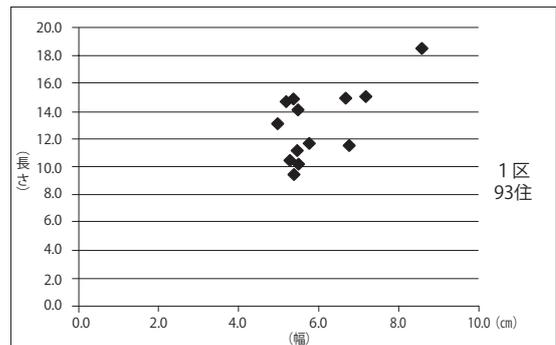


1区92号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	92	住居	S-1	粗粒輝石安山岩	3.3	14.0	250.1
1	92	住居	S-2	粗粒輝石安山岩	6.5	14.8	550.3
1	92	住居	S-3	粗粒輝石安山岩	6.0	10.6	249.9
1	92	住居	S-4	粗粒輝石安山岩	5.5	11.7	401.3
1	92	住居	S-5	粗粒輝石安山岩	5.5	11.9	287.5
1	92	住居	S-6	溶結凝灰岩	5.5	12.9	343.5
1	92	住居	S-7	溶結凝灰岩	6.6	14.0	535.1
1	92	住居	S-8	流紋岩	6.4	12.7	575.3
1	92	住居	S-9	細粒輝石安山岩	7.0	13.0	401.5
1	92	住居	S-10	粗粒輝石安山岩	7.2	12.3	651.7
1	92	住居	S-11	粗粒輝石安山岩	5.6	10.0	275.3
1	92	住居	S-12	粗粒輝石安山岩	7.9	13.8	595.7
1	92	住居	S-13	粗粒輝石安山岩	6.4	12.5	465.5
1	92	住居	S-14	粗粒輝石安山岩	5.3	10.5	202.3
1	92	住居	S-15	粗粒輝石安山岩	5.5	9.8	245.8
1	92	住居	S-16	粗粒輝石安山岩	4.8	8.5	103.1

1区93号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	93	住居	S-1	粗粒輝石安山岩	8.6	18.5	920.2
1	93	住居	S-2	粗粒輝石安山岩	7.2	15.1	933.3
1	93	住居	S-3	溶結凝灰岩	6.7	15.0	657.0
1	93	住居	S-4	粗粒輝石安山岩	5.5	14.1	499.8
1	93	住居	S-5	変質安山岩	5.4	14.9	532.3
1	93	住居	S-6	ホルンフェルス	5.2	14.7	442.5
1	93	住居	S-7	流紋岩凝灰岩	5.0	13.1	224.4
1	93	住居	S-8	粗粒輝石安山岩	5.5	11.2	344.2
1	93	住居	S-9	細粒輝石安山岩	5.3	10.5	230.0
1	93	住居	S-10	閃緑岩	5.5	10.2	285.8
1	93	住居	S-11	粗粒輝石安山岩	6.8	11.6	434.2
1	93	住居	S-12	砂岩	5.8	11.7	408.8
1	93	住居	S-13	流紋岩	5.4	9.5	342.4
1	93	住居	S-14	粗粒輝石安山岩	4.7	10.0	264.4

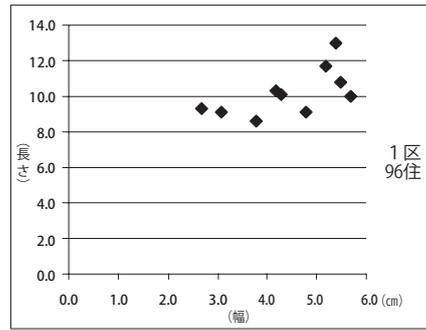


第6章 まとめと考察

第64表 菰編石計測表及びグラフ(2)

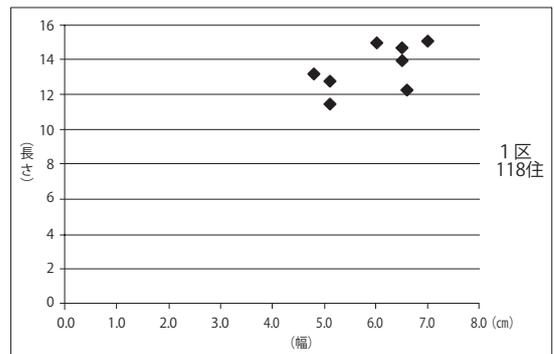
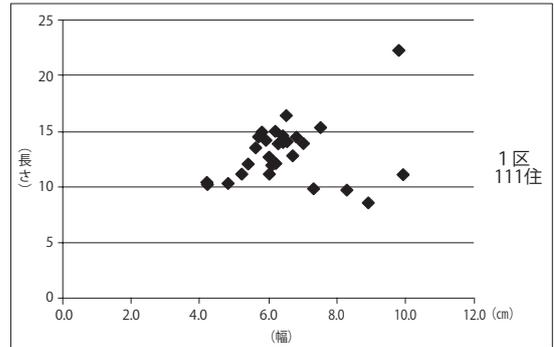
1区96号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	96	住居	S-1	粗粒輝石安山岩	5.7	(9.6)	442.7
1	96	住居	S-2	粗粒輝石安山岩	5.4	13.0	382.7
1	96	住居	S-3	粗粒輝石安山岩	5.2	11.7	208.5
1	96	住居	S-4	粗粒輝石安山岩	4.2	10.3	163.7
1	96	住居	S-5	黒色頁岩	4.3	10.1	165.8
1	96	住居	S-6	黒色頁岩	3.8	8.6	79.8
1	96	住居	S-7	ひん岩	2.7	9.3	125.4
1	96	住居	S-8	粗粒輝石安山岩	3.1	9.1	124.2
1	96	住居	S-9	変質安山岩	5.7	10.0	394.1
1	96	住居	S-10	石英斑岩	4.8	9.1	162.5
1	96	住居	S-11	粗粒輝石安山岩	5.5	10.8	435.3



1区111号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	111	住居	S-1	流紋岩	5.8	14.9	545.1
1	111	住居	S-2	珧質変質岩	6.5	16.4	679.5
1	111	住居	S-3	変質武岩	5.9	14.2	401.2
1	111	住居	S-4	雲母石英片岩	6.2	14.9	400.3
1	111	住居	S-5	粗粒輝石安山岩	5.7	14.5	499.3
1	111	住居	S-6	雲母石英片岩	6.3	13.9	360.1
1	111	住居	S-7	雲母石英片岩	6.7	12.8	550.0
1	111	住居	S-8	珧質変質岩	6.0	12.7	354.7
1	111	住居	S-9	灰色安山岩	5.6	13.5	550.0
1	111	住居	S-10	黒色片岩	6.4	14.0	350.3
1	111	住居	S-11	粗粒輝石安山岩	7.5	15.3	651.2
1	111	住居	S-12	粗粒輝石安山岩	6.0	11.2	385.3
1	111	住居	S-13	粗粒輝石安山岩	6.1	12.0	398.7
1	111	住居	S-14	ひん岩	7.0	13.9	578.6
1	111	住居	S-15	ひん岩	6.2	12.1	500.1
1	111	住居	S-16	粗粒輝石安山岩	6.8	14.5	575.3
1	111	住居	S-17	粗粒輝石安山岩	6.5	14.1	400.1
1	111	住居	S-18	粗粒輝石安山岩	5.4	12.1	260.2
1	111	住居	S-19	溶結凝灰岩	4.2	10.4	185.3
1	111	住居	S-20	粗粒輝石安山岩	5.2	11.2	275.2
1	111	住居	S-21	粗粒輝石安山岩	6.7	12.9	315.7
1	111	住居	S-22	石英閃緑岩	4.8	10.4	198.8
1	111	住居	S-23	黒色頁岩	4.2	10.3	149.9
1	111	住居	S-24	粗粒輝石安山岩	6.3	(11.0)	360.1
1	111	住居	S-25	粗粒輝石安山岩	7.4	(11.9)	300.1
1	111	住居	S-26	粗粒輝石安山岩	6.4	14.6	499.8
1	111	住居	S-27	黒色片岩	(4.8)	13.9	201.2
1	111	住居	S-28	粗粒輝石安山岩	4.3	(13.3)	248.1
1	111	住居	S-29	粗粒輝石安山岩	8.3	9.7	350.1
1	111	住居	S-30	粗粒輝石安山岩	9.9	11.2	849.8
1	111	住居	S-31	粗粒輝石安山岩	8.9	8.7	349.7
1	111	住居	S-32	粗粒輝石安山岩	7.3	10	275.1
1	111	住居	S-33	粗粒輝石安山岩	6.9	(12.9)	277.1
1	111	住居	S-34	粗粒輝石安山岩	9.8	22.2	1250.1
1	111	住居	S-35	粗粒輝石安山岩	9.4	(22.0)	2989.5
1	111	住居	S-36	粗粒輝石安山岩	10.8	(20.5)	1650.2

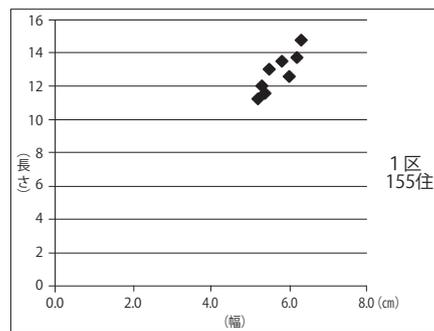


1区118号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	118	住居	S-1	雲母石英片岩	4.8	13.2	290.9
1	118	住居	S-2	溶結凝灰岩	6.0	15.0	498.0
1	118	住居	S-3	溶結凝灰岩	5.1	12.8	408.2
1	118	住居	S-4	粗粒輝石安山岩	6.5	14.0	620.9
1	118	住居	S-5	ひん岩	6.6	12.3	618.0
1	118	住居	S-6	石英閃緑岩	5.1	11.5	441.8
1	118	住居	S-7	溶結凝灰岩	6.5	14.7	542.5
1	118	住居	S-8	黒色頁岩	7.0	15.1	467.2

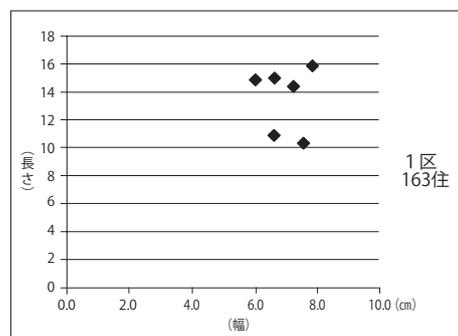
1区155号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	155	住居	S-1	雲母石英片岩	6.3	14.7	482.0
1	155	住居	S-2	変質安山岩	6.2	13.7	456.6
1	155	住居	S-3	溶結凝灰岩	5.8	13.5	413.4
1	155	住居	S-4	粗粒輝石安山岩	5.5	13.0	375.1
1	155	住居	S-5	粗粒輝石安山岩	6.0	12.6	431.8
1	155	住居	S-6	変質安山岩	5.3	12.0	432.9
1	155	住居	S-7	変質安山岩	5.4	11.5	307.4
1	155	住居	S-8	変質安山岩	5.2	11.2	313.0



1区163号住居

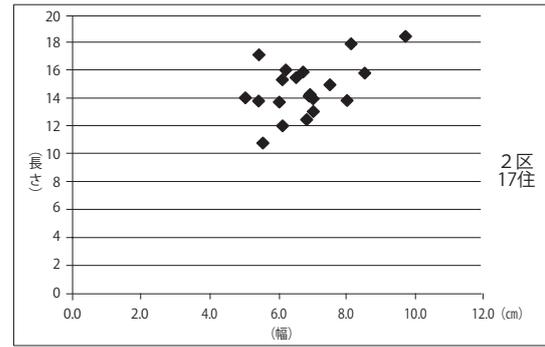
区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
1	163	住居	S-1	黒色片岩	7.5	10.4	500.1
1	163	住居	S-2	石英閃緑岩	6.6	10.9	350.0
1	163	住居	S-3	流紋岩凝灰岩	7.8	15.9	450.0
1	163	住居	S-4	緑色片岩	6.0	14.9	362.1
1	163	住居	S-5	黒色片岩	7.2	14.4	442.3
1	163	住居	S-6	黒色片岩	6.6	15.0	400.1



第65表 菰編石計測表及びグラフ(3)

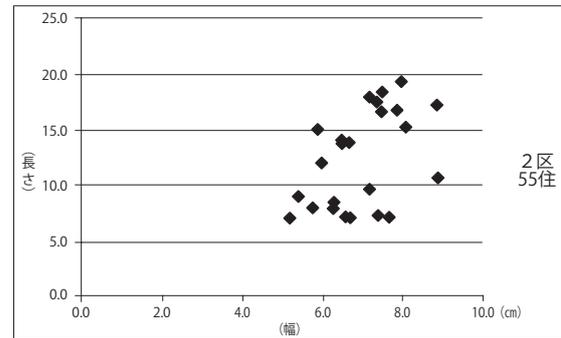
2区17号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
2	17	住居	8	粗粒輝石安山岩	5.4	17.2	792.3
2	17	住居	9	粗粒輝石安山岩	8.1	18	709.2
2	17	住居	10	変玄武岩	6.2	16.1	713.5
2	17	住居	11	粗粒輝石安山岩	6.7	15.9	716.1
2	17	住居	12	粗粒輝石安山岩	6.1	15.4	757.8
2	17	住居	13	変玄武岩	6.5	15.5	862.1
2	17	住居	14	粗粒輝石安山岩	6.9	14.3	637.7
2	17	住居	15	雲母石英片岩	6.9	14.2	862.8
2	17	住居	16	粗粒輝石安山岩	6.0	13.8	528.4
2	17	住居	17	石英閃緑岩	7.0	14.0	545.8
2	17	住居	18	粗粒輝石安山岩	5.4	13.9	429.4
2	17	住居	19	粗粒輝石安山岩	5.0	14.1	412.5
2	17	住居	20	粗粒輝石安山岩	5.5	10.9	257.7
2	17	住居	21	粗粒輝石安山岩	6.1	12.1	383.5
2	17	住居	22	流紋岩	9.7	18.5	1043.8
2	17	住居	23	粗粒輝石安山岩	8.0	13.9	491.8
2	17	住居	24	粗粒輝石安山岩	7.5	15.0	505.5
2	17	住居	25	粗粒輝石安山岩	8.5	15.9	843.5
2	17	住居	26	粗粒輝石安山岩	7.0	13.1	646.1
2	17	住居	27	粗粒輝石安山岩	6.8	12.5	523.5



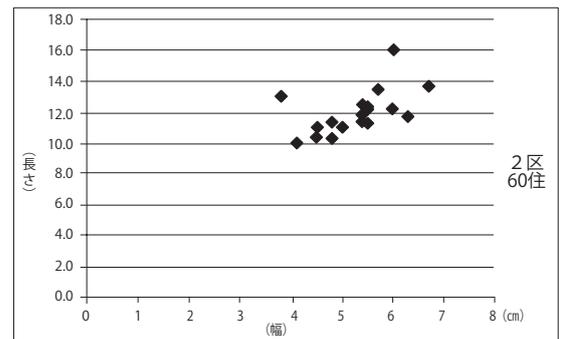
2区55号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
2	55	住居	23	石英閃緑岩	6.3	8.0	488.9
2	55	住居	24	ひん岩	8.1	15.2	753.3
2	55	住居	25	粗粒輝石安山岩	8.0	19.3	924.6
2	55	住居	26	変質安山岩	7.5	16.6	815.2
2	55	住居	27	灰色安山岩	6.5	13.8	727.4
2	55	住居	28	ひん岩	7.5	18.4	1085.3
2	55	住居	29	溶結凝灰岩	7.2	17.9	1006.9
2	55	住居	-	溶結凝灰岩	6.7	13.8	785.6
2	55	住居	30	粗粒輝石安山岩	8.9	17.2	962.3
2	55	住居	31	アプライト	7.9	16.7	1113.4
2	55	住居	32	粗粒輝石安山岩	6.5	14.0	567.2
2	55	住居	33	変質安山岩	7.4	17.4	989.0
2	55	住居	34	粗粒輝石安山岩	5.9	15.0	725.9
2	55	住居	35	粗粒輝石安山岩	6.0	12.0	509.3
2	55	住居	36	粗粒輝石安山岩	7.2	9.6	375.4
2	55	住居	37	粗粒輝石安山岩	5.4	9.0	241.1
2	55	住居	38	粗粒輝石安山岩	8.9	10.7	807.8
2	55	住居	39	粗粒輝石安山岩	5.8	8.0	213.7
2	55	住居	40	粗粒輝石安山岩	7.4	7.3	230.9
2	55	住居	41	粗粒輝石安山岩	5.2	7.1	197.9
2	55	住居	42	粗粒輝石安山岩	6.6	7.2	308.5
2	55	住居	43	粗粒輝石安山岩	7.7	7.2	258.6
2	55	住居	44	粗粒輝石安山岩	6.7	7.0	331.9
2	55	住居	45	粗粒輝石安山岩	6.3	8.5	290.8
2	55	住居	46	粗粒輝石安山岩	6.7	(6.5)	209.2
2	55	住居	47	粗粒輝石安山岩	7.2	(6.0)	227.8
2	55	住居	48	粗粒輝石安山岩	6.6	6.0	237.9



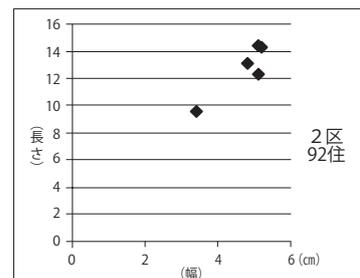
2区60号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
2	60	住居	15	粗粒輝石安山岩	5.5	12.2	325.3
2	60	住居	16	粗粒輝石安山岩	5.5	12.3	315.2
2	60	住居	17	黒色頁岩	5.7	13.5	400.2
2	60	住居	18	粗粒輝石安山岩	6.0	16.0	698.7
2	60	住居	19	粗粒輝石安山岩	6.0	12.2	261.2
2	60	住居	20	粗粒輝石安山岩	4.5	11.0	154.3
2	60	住居	21	粗粒輝石安山岩	4.5	10.4	210.3
2	60	住居	22	粗粒輝石安山岩	5.4	12.5	244.7
2	60	住居	23	粗粒輝石安山岩	5.5	11.3	244.8
2	60	住居	24	溶結凝灰岩	5.4	11.4	301.2
2	60	住居	25	変質玄武岩	3.8	13.0	201.2
2	60	住居	26	粗粒輝石安山岩	4.1	10.0	157.5
2	60	住居	27	粗粒輝石安山岩	5.0	11.0	300.0
2	60	住居	28	溶結凝灰岩	4.8	11.3	299.3
2	60	住居	29	粗粒輝石安山岩	5.4	11.9	301.1
2	60	住居	30	珪質頁岩	6.7	13.7	349.2
2	60	住居	31	粗粒輝石安山岩	6.3	11.7	350.3
2	60	住居	32	黒色頁岩	4.8	10.3	249.5
2	60	住居	33	黒色片岩	4.6	(7.5)	101.1



2区92号住居

区	名	遺構名	通番	石材	幅	長	重量(g)
2	92	住居	12	溶結凝灰岩	3.4	9.6	150.1
2	92	住居	13	粗粒輝石安山岩	5.1	12.3	340.5
2	92	住居	-	文象斑岩	4.8	13.1	210.4
2	92	住居	14	雲母石英片岩	5.2	14.3	312.1
2	92	住居	-	変質安山岩	5.1	14.4	321.4
2	92	住居	15	黒色片岩	5.8	(18.3)	350.2
2	92	住居	16	変質玄武岩	(6.4)	(14.8)	454.3
2	92	住居	17	変質安山岩	5.2	(11.6)	240.2



第4項 中世

1 屋敷遺構

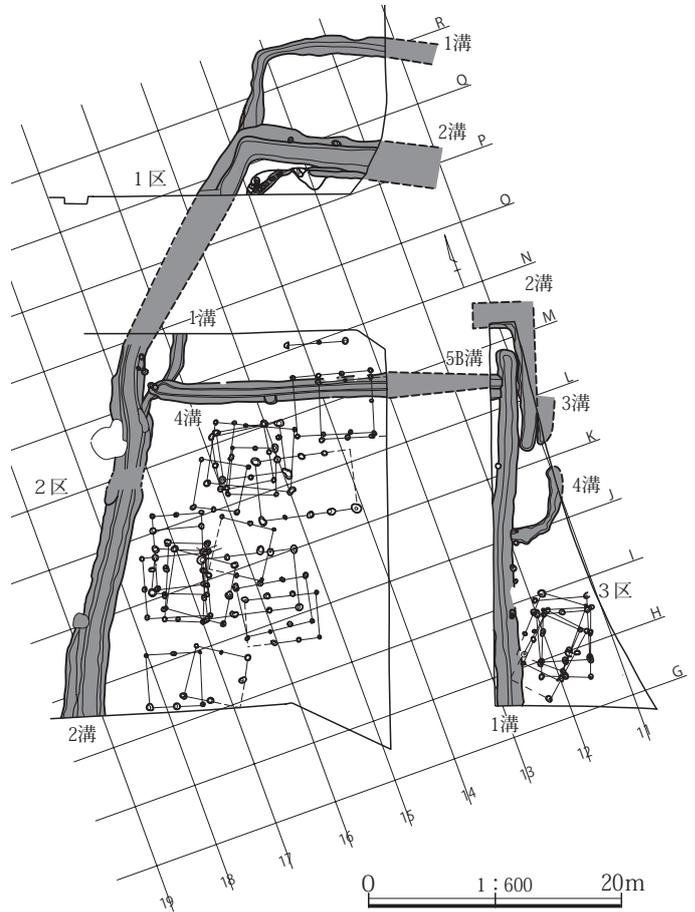
(1) 出土遺物からみた屋敷の年代

本遺跡で検出された中世屋敷は、第653図に示したとおり、1～3区の3か所に分割されており、遺構の主体は2区東端部分となる。また、区画する溝は分断されており、形態からみて、1区2号溝と2区2号溝、2区4号溝と3区5A・B号溝どちらかは同一として間違いないだろう。

新旧関係では、1区2号溝が同1号溝、2区1号溝が同4号溝、3区5B号溝が同1号溝より新しい。埋まり方に着目すると、2区2号溝と3区1号溝は、大部分埋まった段階で多量の礫が投棄される点で酷似し、同時期に埋められたと考えられる。1区2号溝は、底面近くから多量の礫が投棄される点で違いはあるが、その出土状況は酷似し、同時期に埋められたものとみなされる。一方、2区4号溝と3区2号溝は、黄褐色土で一部平面的に埋められるなど類似している。この点で、3区5B号溝は2区4号溝の埋没土と違っており、単純に同一の溝と見なし難い。

以上の調査所見に、出土遺物の知見を加える。第654図は年代幅のわかる遺物を遺構別に整理したもので、屋

敷との位置付けを加味してある。屋敷全体の傾向として、14世紀前半の遺物もあるが、概ね14世紀後半から遺構がまとまって発生し、15世紀前半、同後半、16世紀前半で、段階的に遺構が消長する。なお、16世紀後半に関しては、明確に帰属する遺物はなく、あくまで破片資料から16世



第653図 2区1号屋敷略図

遺構名		補足説明	12C	13C前半	13C後半	14C前半	14C中頃	14C後半	15C前半	15C中頃	15C後半	16C前半	16C後半
1区	屋敷外 22溝	4井戸											
		22溝											
2区	1 屋敷	1 竪穴											
		1 地下式土坑	2 溝西										
		2 土坑	屋敷北側										
		2 溝	西辺										
	4 溝	細分											
	屋敷外	4井戸 9井戸 15・16溝 18溝	1区22溝同一 牛道2区1溝同一										
3区	遺構名	補足説明	12C	13C前半	13C後半	14C前半	14C中頃	14C後半	15C前半	15C中頃	15C後半	16C前半	16C後半
		1井戸											
		1溝	2区1屋敷東辺										
		2溝											
	4溝												

第654図 遺構別出土中世遺物年代図

紀代とされたものである。おそらく、16世紀前半としても、差し支えない内容と考える。

個別の状況として、屋敷の主体部となる2区では、屋敷の西辺となる2号溝で、遺物の出土量が多く、下限が16世紀前半となる。これに対して4号溝は、下限が15世紀後半で、締め固めて埋められた状況は2号溝と異なる。出土遺物から考えて、4号溝は2号溝よりも段階が古いとした方が良好だろう。溝以外では、1号地下式土坑が14世紀前半と古く、2号溝より前出である。ただし、入り口部は2号溝壁面に一致することから、すでに2号溝が存在していた可能性が高く、どこかの段階で1号地下式土坑が先に埋められたと考えられる。いずれにしろ、この遺構は屋敷の最古段階に位置づけられよう。また、2号土坑は15世紀中頃が下限、1号竪穴状遺構は15世紀後半～16世紀代であり、溝から窺える屋敷の消長と一致する。なお、11号掘立柱建物からは15世紀代、21号掘立柱建物からは14世紀代の遺物が出土している。

2区では屋敷外部分でも遺構が点在する。15・16号溝は調査区中央部を南北に縦断し、1区22号溝と同一で、広域に延びることが想定される。直線的で、屋敷より大きい何らかの境界を区画することも考えられる。出土遺物の年代幅は、2号溝とほぼ等しく、屋敷とほぼ同時期に存在していたことが判明する。また、9号井戸も比較的出土遺物が多いが、2号土坑と出土遺物の年代幅で一致し、屋敷の前半期と並存している。

3区の1号溝は、礎の廃棄状況から2区2号溝と同時期の廃棄が推測できるが、出土遺物の年代幅もほぼ一致して傍証となる。締め固めて埋められている2号溝は、出土遺物が14世紀後半から15世紀前半にわたり、屋敷の前半期に位置づけられる。この点で、2区4号溝よりも古い段階となる。また、南側に隣接する4号溝は15世紀中頃の遺物が出土し、2号溝よりも1段階新しいため、あるいは3号溝と同時期の可能性もある。形態からみて、4号溝の北側に出入り口があって、その北側に3号溝が対面していた可能性が高い。溝以外では、1号井戸が1号溝出土遺物の年代幅に一致している。ただし、1号溝を屋敷の東辺と考えれば、1号井戸は屋敷外となる。

1区の場合、区画溝からの出土遺物に乏しい。2号溝の時期は出土遺物から明確ではないが、2区2号溝と同一として矛盾はない。1号溝では中世遺物が出土してい

ないが、2号溝より前出である。屋敷外部分では22号溝で、同一となる2区15・16号溝の年代観とほぼ一致する遺物が出土している。4号井戸は出土遺物が14世紀後半から15世紀前半にわたり、屋敷の前半期に位置づけられる。

以上を総括する。溝の変遷から考えると、3区の1～4号溝では時期的な変遷があるが、2区2号溝は建物の分布からみても、屋敷を長期間区画していた溝である。3区の建物の状況を考慮すれば、3区1号溝を屋敷の東辺と考えるのは疑問があり、北端で立ち上がっている点でも、内部を細分する溝としたい。屋敷の外側を区画する西辺は2区2号溝で、北辺は1区2号溝となり、規模は溝外で東西47m以上、南北48m以上となる。また、3区1号溝より西側の規模は、溝外で東西約35mである。つまり、屋敷内部を細分する形で3区2～4号溝が作られ、その次に2区4号溝が屋敷を南北に分割し、最終段階では3区1号溝により、屋敷を東西に分割する形態となっていたと考える。

年代からすると、14世紀後半から15世紀前半が屋敷の前半期となり、15世紀後半にも変化があり、16世紀代を最後に廃棄されたと考えられる。

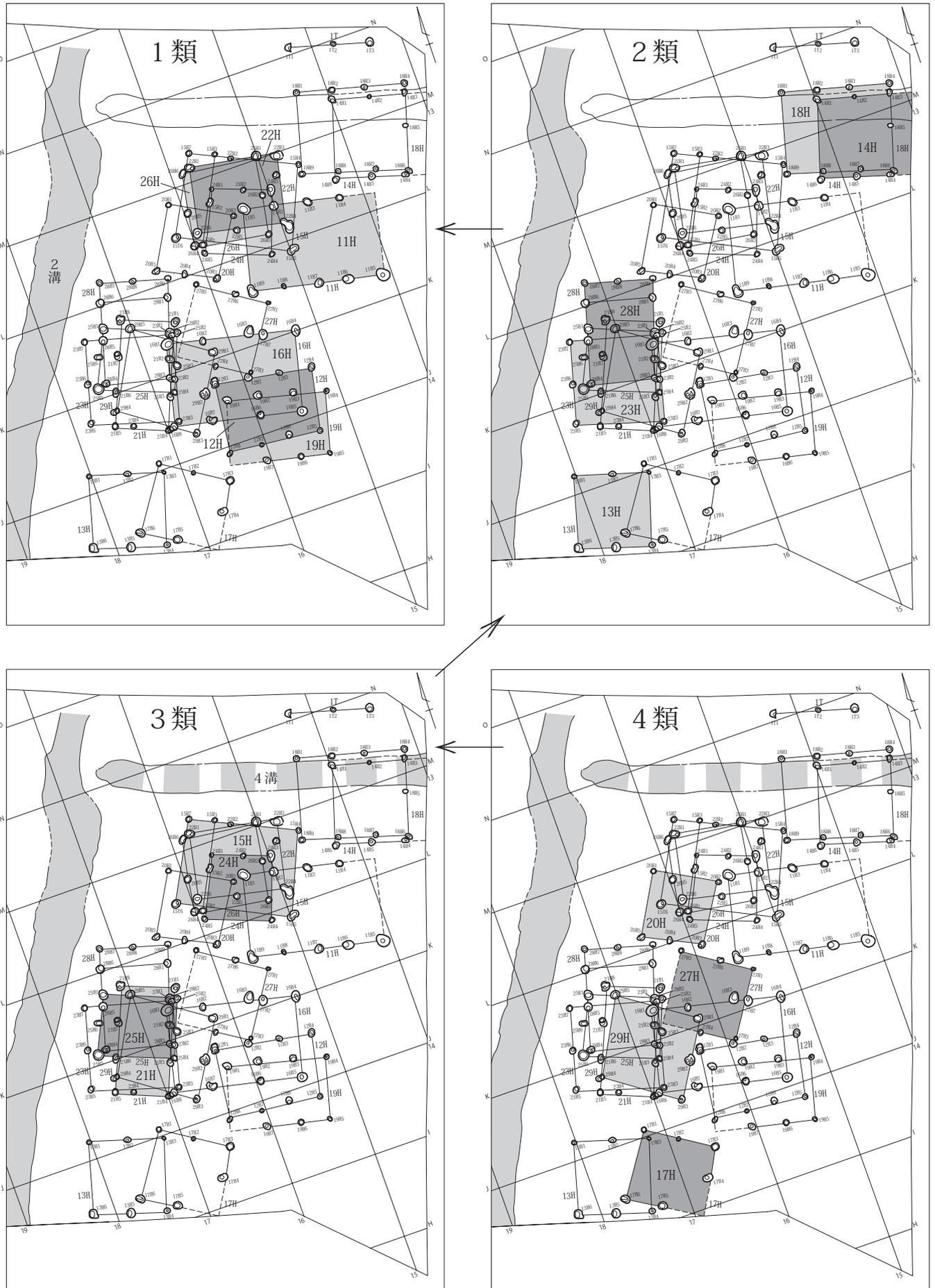
(2) 建物の検討

屋敷内部において、掘立柱建物は2区で19棟、3区で5棟検出された。主軸方位に着目すると、第19表のとおり5種類に分けられ、6つに細分できる。分布状況は、第655図のとおりで、数値については第66表のとおり総括される。

棟別では、全体として南北棟が少なく、東西棟と正方形がほぼ等量となるが、分類により傾向が大きく違っている。正方形のものは、規模が小さいもので、一辺3間を超える大型のものはない。

1類の場合は、ほぼ東西棟である。規模も比較的大きく、重複関係から主屋と附属屋が各1棟ずつ、3時期にわたるものと考えられる。なお、1号竪穴状遺構と主軸方位が一致することも注目される。

2類の場合、2区では北端に東西棟、西南端に南北棟と正方形が分布する。北端の東西棟は規模から主屋と見なされ、4号溝と重複する点も注目される。また、西南端に正方形の建物が造られる状況は、3・4類でも共通している。3区では、南北棟と正方形が重複し、ともに



3区1号溝と並走して同時期と見なされる。このため、2区2類の建物も3区1号溝により区画されていたものと考えられる。

3類は重複関係から2時期が想定され、柱筋の一致から東西棟と南北棟の組み合わせと、正方形2棟に分けられる。この場合、前者の分布状況は2類の状況に一致しており、連続性をみることができる。

4類は正方形だけで4棟あり、主軸方位の数値的な違いから、2つに細分され、結果的に2棟ずつに組み合わせられる。4類の特徴は、区画溝である2区2号溝と一致する点であり、同4号溝も並存が想定される。この場合、同4号溝と並存しない2類と4類を連続させるのは無理があり、その間に3類を置く方がスムーズである。

5類は3区のみで3棟あり、すべて南北棟で、他の分類とは大きく異なる。3区1号溝とも重複し、走向方位も大きく異なることから、屋敷が区画された段階の建物と見なすことが難しい。時期を示すような遺物の出土もない。

桁行平均柱間をみると、6.0～6.2尺5棟と、6.7～6.9尺3棟に二分され、8.1尺1棟が1類にみられる。分類ごとの傾向とすると、1類は6.1尺前後が特に多く、2・5類は6.1尺前後と6.8尺前後が混在する。3類は6.7尺1例だけで、4類は計測できるものがなかった。ところで、1類の場合16号掘立柱建物が8.1尺と突出している

が、規模は11号掘立柱建物と近似し、桁行が3間で、若干小さいことがわかる。こうした事例は、11号掘立柱建物を解体して、木材を再利用して立て替えた場合が想定される。つまり、もともと桁行4間を3間で立て替えたと考えるのである。そこで、16号掘立柱建物を桁行4間に当てはめれば、桁行平均柱間は1.832m、約6.0尺となり、1類の数値が4例とも同じになる。8.1尺という数値はあくまで見かけ上の数値にすぎなくなる。加えて、11号掘立柱建物から16号掘立柱建物への変遷を想定することができるのである。

桁行平均柱間に関して、隣接する綿貫牛道遺跡、綿貫原北遺跡の成果を比較すれば、前者では8.3尺が突出して1棟あり、他は5.8～6.3尺が5例、6.8尺が1棟であった。特に、8.3尺の建物は規格性が高く、施工主体や材料などに特殊な事情があるものと想定できた。

綿貫原北遺跡では、2区1号屋敷の場合、5.6尺が1棟で、6.9～7.2尺が5棟で、ほぼ7尺が基準とみなされる。対して、3区の1・2号屋敷は建物の規模が小さく、桁行平均柱間が判明した例は16棟中2棟にすぎないが、ともに約6尺であった。

当遺跡では、6.7～6.8尺が2・3類の2棟で、6.0～6.2尺が1類の3棟で、8.1尺である1類の1棟も建て替えと考えれば6尺と見なされることとなった。また、建物変遷から3類→2類→1類となるため、桁行平均柱間も、

第66表 建物総括表

棟別	2区						3区				
	1類	2類	3類	4-1類	4-2類	計	比率	2類	5類	計	比率
東西棟	5	2	1			8	42.1%				
南北棟		1	1			2	10.5%	1	3	4	80.0%
正方形	1	2	2	2	2	9	47.4%	1		1	20.0%
計	6	5	4	2	2	19		2	3	5	
規模	1類	2類	3類	4-1類	4-2類	計	比率	2類	5類	計	比率
2×1間	1		2	1		4	21.1%			0	0.0%
1×2間	1	3	1	1		5	26.3%	1	1	2	50.0%
2×2間		1			2	3	15.8%			0	0.0%
1×3間	3	1	1			5	26.3%		1	1	25.0%
2×3間	1					1	5.3%	1		1	25.0%
計	6	5	4	2	2	19		2	2	4	
面積㎡	1類	2類	3類	4-1類	4-2類	計	比率	2類	5類	計	比率
～10						1		1	1	2	50.0%
～20	3	2	3	1	2	11	57.9%	1		1	25.0%
～30	1	3		1		5	26.3%		2	2	50.0%
～40	2		1			3	15.8%			0	0.0%
計	6	5	4	2	2	19		2	3	5	
桁行平均柱間(尺)	1類	2類	3類	4-1類	4-2類	計	比率	2類	5類	計	比率
6.0～6.3	3					3	50.0%	1	1	2	66.7%
6.7～6.8		1	1			2	33.3%			0	0.0%
～7.3						0	0.0%		1	1	33.3%
～7.8						0	0.0%			0	0.0%
8.1～(8.3)	1					1	16.7%			0	0.0%
計	4	1	1	0	0	6		1	2	3	

7尺弱から6尺強へ変化したと位置づけられる。なお、時期不明の5類では6.1尺と6.9尺が1棟ずつ混在していた。

以上について、屋敷年代を加味すれば、14世紀半ばから15世紀半ばである綿貫牛道遺跡1区屋敷では6尺前後が使用され、綿貫原北遺跡で14世紀前半から15世紀前半の2区1号屋敷ではほぼ7尺、14世紀前半から15世紀後半の3区1・2号屋敷では約6尺が使用されていたこととなる。14世紀前半から16世紀前半にわたる当遺跡2区屋敷では、7尺弱から6尺強に変化している。つまり、屋敷の出現期にあたる14世紀から約6尺・7尺の両方が使用され、16世紀代には約6尺に統一されると整理される。ただし、数値の混在も屋敷単位では統一しており、屋敷の性格や建物規模に左右される一面がうかがえる。ここでは、地域の一事例に止め、今後の検討課題とする。

(3) 屋敷内の変遷

建物の総括的な比較により、2・3・4類の建物群には連続性があることが想定できた。1類と主軸方位が等しい1号竪穴状遺構は、出土遺物から屋敷の最終段階となり、2区2号溝と廃絶時期が重なると考えられる。また、1類への連続性を考えると、建物の構成から、4類よりも2類が近似することから、2類から1類へ続くこととなる。したがって、建物は4→3→2→1類の順で変遷し、5類については判断要素に欠けるが、4類以前の可能性が高いと考える。

ところで、分類内の建物は、柱筋の一致により組み合わせることができるため、更に細分した時期変遷をたどることができる。建物の構成も考慮すると、以下のよう整理される。ただし、5類は除く。

4-1類 / 4-2類 → 3類25・26H → 3類15・21H
 → 2類で2時期 → 1類(12・26H) / 16・22H
 → 1類 11・19H / (12・26H)

2類の場合、3棟で1時期となる場合があるが、その他は2棟ずつで1時期を構成し、9時期に変遷するものと結論づけられる。

建物群の変遷を以上のようにとらえると、更にいくつかの状況を考えることができる。

まず、4類は小規模な正方形の建物2棟ずつで構成さ

れ、同じ状況で1度立て替えられ、3類の当初までつながる。その後、3類では正方形ながら西下屋を設けることで広い建物が発生する。この時期まで2区4号溝が機能していたと考えられる。2類になると、2区4号溝が埋められ、その部分に東西棟が立てられ、南西部に2棟程度の附属屋を伴って2時期が展開される。また、3区でも2時期があるため、3区1号溝を挟んで並存する状況であったのだろう。次いで、1類の建物群が全体に東に寄るのは、この3区1号溝によって細分された空間の中央を意識したためとも考えられる。1類では東西棟の主屋と附属屋が南北に並ぶ2時期と、小規模な東西棟と正方形の建物が並ぶ1時期となるが、後者については、調査区域外である東側市道部分に、主屋が存在していたことも考慮されよう。なお、2区2号溝は、この間ずっと西面を区画していたものと考えられる。

(4) 屋敷区画と地割

検出された中世屋敷と地割を比較するため、第656図のとおり、ほ場整備以前の航空写真から作成した地形図と、該当する溝を合成した。その結果、中世屋敷は地割図とあまり整合していないことが判明した。これは、同図で示したとおり、地割とほぼ一致する綿貫原北遺跡や綿貫牛道遺跡の中世屋敷と状況が異なっている。また、井野川の旧河道敷とも近接しており、東側には屋敷が広がらないことも再確認される。

一方、同一である1区21号溝及び2区15・16号溝は、地割と完全に一致し、更にその地割は南北に直線的に続くことがわかる。北側は井野川現流路まで達しており、大きな区画を形成していた可能性が高い。

2 その他の遺構

(1) 墓域

2区で土坑墓2基、火葬跡1基、3区で土坑墓1基が検出された。2区1号屋敷との関係で考えると、3区1号墓を除けば、2区は全て外側に位置する。3区1号墓の場合も、3区1号溝以东自体が屋敷の内部でない可能性も残っている。また、2区の墓域は、1号屋敷と15・16号溝の間に点在する特徴がある。つまり、屋敷の隣接地として意識的に営まれたことも考えられる。時期は14世紀後半から15世紀中頃が含まれることから、屋敷の前



第656図 遺跡周辺旧地割復元図(下図：昭和期の航空写真)

半期に並行する時期にあたる。

2区の西端は、綿貫牛道遺跡東端の墓域に重複する。その墓域を区画する綿貫牛道遺跡2区1号溝と、当遺跡2区18号溝が連続することから、当遺跡まで墓域が及んでいたと言える。その1号溝は出土遺物が無く、時期不明となっていたが、当遺跡の成果を反映すれば、中世であったことが判明する。比較的出土量の多い綿貫牛道遺跡2区2号溝の遺物年代幅も、15世紀前半まで下限があり、当遺跡2区18号溝ともあまり変わらない。形態から見て、両溝は時期差があると考えたが、どちらかが後出であるとしても、並存する時期があり、区画の南辺は二重の溝で囲まれていた可能性も生じてくる。

ところで、2区18号溝に前出する101号土坑や、重複するが新旧関係不明の105号土坑、近接する102号土坑は、いずれも隅丸長方形で主軸方位が一致している。101号土坑は壁面が焼土化し、後二者は埋没土に炭化材が含まれることから、火葬跡であった可能性がある。ただし、人骨などは出土していない。問題は、想定される区画溝である2区18号溝と重複し、主軸方位が異なる点であろう。綿貫牛道遺跡の場合、2区の火葬跡はほぼ区画の軸方向と一致するが、1区ではやや離れて主軸方位がずれるものもある。つまり、区画と墓域は全く一致するわけではないこととなる。したがって、当遺跡の場合も、区

画遺構もありながら、それに先行して火葬跡が営まれるような土地利用上の意識があったと言える。

3 出土遺物

(1) 在地系土器

変遷は第657図のとおりまとめられる。以下特徴を概観する。なお、年次比定や遺物の観察は、大西雅広による観察に準拠している。

Ⅲ 2区21号掘立柱建物1は、推定口径7.5cmと小型品で、推定底径も6.0cmと、口径との差が少ない。器高は口径の1/4以下で低い。体部器壁は厚く、底部周縁は回転横撫でにより凹む。14世紀代に比定される(木津1986、以下同じ)。

次に3区63号ピット4は、中型品で底径は口径の1/2以上で、器高は口径の1/4以上でやや低い。器壁はやや厚く、体部は直線的に外傾する。底部内面は螺旋状のロクロ目である。15世紀前半から中頃に比定される。また、2区2号墓1も中型品で、底径が口径のほぼ1/2、器高は口径の1/4以下で低い。器壁は薄く、体部下位は外反し、口縁部はわずかに内湾する。内面体部と底部の境は強い横撫により小さく凹む。時期は若干下るか。2区1号竪穴状遺構1は小型品で、器高は口径の1/4以上でやや低い。器壁は薄く体部は直線的に外傾する。

銅 2区9号井戸10は口縁部が短く外反し、端部内面は丸みを帯びて突出する。器壁は厚く、体部下半は丸みを持ち、外面は篋状工具により撫でる。14世紀後半(I期)に比定される(星野1996、以下同じ)。同11も口縁部が短く外反するが、端部内面は尖り気味に突き出す。

次に3区2号溝1は口縁部がやや長くなり、緩く屈曲しやや内湾する。内面口縁部下に稜や段差は認められない。口縁部上面は平坦。14世紀末から15世紀前半に比定される(II期)。

3区1号井戸1は、口縁部が顕著に屈曲する。器壁は薄い。内面口縁部下に明瞭な段を持つ。口縁端部上面は平坦で、端部内外面とも明瞭な稜をなす。体部は内湾気味。15世紀

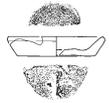
第67表 古瀬戸陶器器種構成表

調査区	時期	中期	古瀬戸後期					古瀬戸	小計	合計
			I	II	III	IV古	IV新			
2区1号屋敷	天目碗					1		1	1	
	皿類	1			1		1	3	3	
	盤類			1			2	3	3	
	卸皿							0	0	
	壺・瓶類						1	1	1	
	合計	1			2		4	7	8	
2区その他	天目碗			1				1	1	
	卸皿					1		1	1	
	壺・瓶類						1	1	1	
	合計							3	3	
3区	壺・瓶類			2				2	2	

第68表 古瀬戸・中国陶磁器調査区別掲載点数

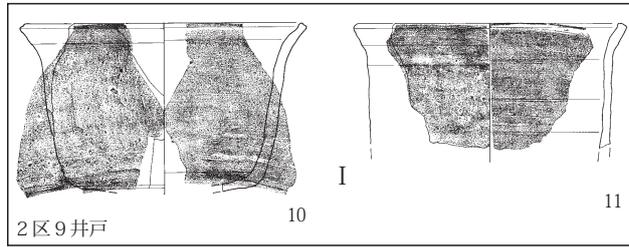
綿貫伊勢	古瀬戸	中国陶磁器						
		青磁碗類				白磁皿類	白磁壺	青白磁梅瓶
		I-2-a	I-5-a	I-5-b	不明	D		
1区								
2区	1号屋敷	8	1	1		1		
	その他	3		1	1	1		
	計	11	1	2	1	1	1	
3区		2						1
合計	13			5		1	1	1

皿



2区21 掘立1

鍋

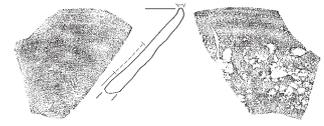


2区9井戸

10

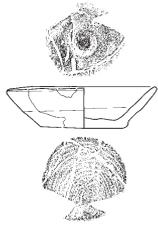
11

鉢

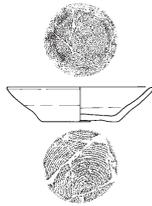


II

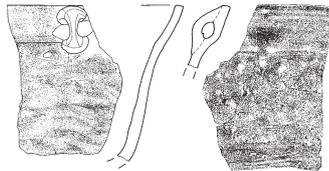
1区1 集石2



3区63 ピット

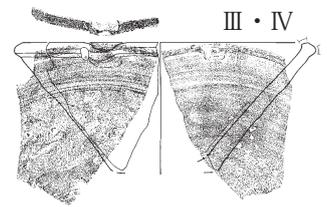


2区2墓1



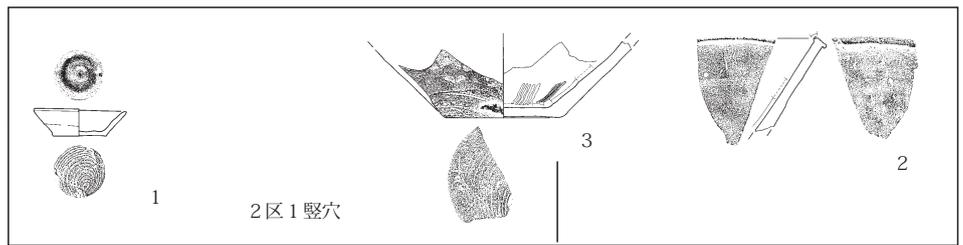
3区2溝1

II



III・IV

2区2土1

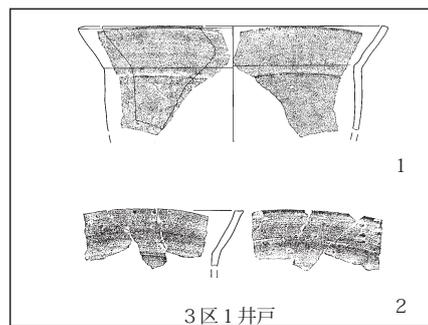


1

2区1 竪穴

3

2

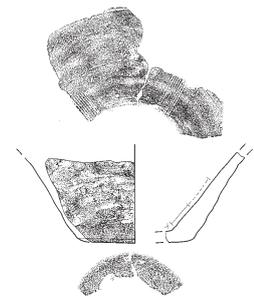


IV・V

1

3区1井戸

2



V

2区4井戸6



3区1井戸10

内耳鍋 I期：14世紀後半頃 II期：14世紀末～15世紀前半 III期：15世紀中頃 IV期：15世紀後半頃
V期：16世紀前半

片口鉢 I期：14世紀前半頃 II期：14世紀中頃 III期：14世紀後半頃 IV期：15世紀前半頃
V期：15世紀後半頃 VI期：15世紀後半から16世紀

・中世在地系の片口鉢と内耳鍋は、星野守弘「軟質陶器」『新編高崎市史 資料編3 中世I』高崎市 平成8年による。
・中世在地系の皿は、木津博明「検出された遺構と遺物について」『上野国分僧寺・尼寺中間地域1』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1986 による。

第657図 在地系土器変遷図

後半(Ⅳ期)に比定される。同2も口縁部が顕著に屈曲する。器壁はやや厚く、内面口縁部下に明瞭な段を持つ。口縁端部上面はやや凹み内傾する。端部外面は丸みを持つ。16世紀前半(Ⅴ期)に近い。

鉢 1区1号集石2は器壁はやや薄く、体部は直線的に伸び肥厚しない。口縁部は薄い玉縁状で、端部は小さく内湾して尖り気味である。14世紀中頃(Ⅱ期)に比定される(星野1996、以下同じ)。

次に2区2号土坑1は器壁が厚く、体部から口縁部は直線的に伸びる。口縁端部は内外面ともに突き出る。14世紀後半から15世紀前半頃(Ⅲ・Ⅳ期)に比定される。

2区1号竪穴状遺構2は器壁がやや薄く、体部から口縁部は直線的に伸びる。口縁端部上面は浅く凹む。端部内外面は上方から押しつぶすように内外面に広げる。15世紀代に比定される(Ⅳ・Ⅴ期)。また、同3は下部のみの資料であり、口縁部の形態は不明。内面体部下端に幅広で不均一な5本一単位のスリ目を、長さ3～4cm施す。同2と共伴するが、Ⅵ期(15世紀後半から16世紀)まで下がる可能性もある。

2区4号井戸6も口縁部を欠く。底部に比して体部の器壁が厚い。体部は外反する。体部内面下位に8本一単位の直線的でシャープなスリ目を施す。スリ目は全体で4か所と推定される。15世紀後半頃(Ⅴ期)に比定される。

(2)搬入品

第67表に示したとおり、古瀬戸陶器が器種・量ともにやや多く出土している。分布では2区1号屋敷内が多くを占める。時期の判明したものでは、15世紀代が多く、屋敷の前半期にあたる。大窯製品がないのは、屋敷年代よりも、地域的な傾向と考えて良いだろう。

その他の国産陶器では、常滑窯系の焼締陶器甕類の胴部片が数例あるが、口縁部片は出土していない。一方、鉢では片口鉢Ⅱ類が1区22号溝で出土している。

中国陶磁器は第68表のとおり、やや出土量が少なく、遺跡全体で散漫に出土する。碗皿類が多くを占めるが、青白磁梅瓶や白磁壺もあり、威信財あるいは骨蔵器としての利用を想定させる。

(3)石製品・石造物

3区1・2号溝では石鉢が出土する。在地系土器鉢も多く出土するが、石製も併用されていたことが判明する。

また、2区1号屋敷を区画する同2号溝や、近接する同4号井戸では茶臼片が出土しており、屋敷遺構に相応する遺物とみることができる。

板碑は破片資料が多いが、3区1号井戸では大型破片が2点出土する。井戸という遺構の性格から、埋め戻しに伴う儀礼とも考えられる。板碑は小型品であり、16世紀前半以降に廃棄された同井戸の年代と付合する。

第5項 近世

近世の遺物を伴う遺構は、2区では2号集石遺構と8号溝、3区では9号土坑と48号ピットであった。加えて、2区では調査区全体に分散して、桶を埋設したとみられる土坑6基が検出され、形態から近世以降と考えられる。当遺跡では、近世遺物の出土量は少なく、溝も1条に過ぎない。居住域とは見なせない状況であり、桶が埋設されていた場合、多くは便槽と考えにくい。周辺が畑作地とすれば、肥料に関する施設と考えられよう。

報 告 書 抄 録

ふりがな	わたぬきいせいせき
書名	綿貫伊勢遺跡
副書名	国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	567
編著者名	菊池実 飯森康広
編集機関	公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20130318
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	わたぬきいせいせき
遺跡名	綿貫伊勢遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしわたぬきまち
遺跡所在地	群馬県高崎市綿貫町
市町村コード	10202
遺跡番号	1439
北緯(日本測地系)	361821
東経(日本測地系)	1390450
北緯(世界測地系)	361833
東経(世界測地系)	1390439
調査期間	20080104-20090831
調査面積	9017
調査原因	道路建設
種別	集落／屋敷／散布地
主な時代	縄文／古墳／飛鳥・奈良・平安／中世／近世
遺跡概要	散布地－縄文－土器＋石器／集落－古墳・奈良・平安－竪穴住居298＋掘立柱建物2＋土坑239＋井戸6＋窯1＋土器埋設遺構3＋溝40－土器＋石器＋鉄器／屋敷－中世－掘立柱建物24＋土坑43＋井戸11＋墓1＋火葬跡2＋溝13－陶磁器＋石器・石製品＋金属器／集落－近世－土坑1＋溝1
特記事項	古墳時代前期の竪穴住居55軒と同時期の土器棺墓(土器埋設遺構)3基が調査された。平安時代では石組みを持つ井戸1基、中世屋敷では19棟の掘立柱建物が検出された。
要約	縄文時代から江戸時代にいたる複合遺跡である。古墳時代から平安時代の竪穴住居跡298軒と中世屋敷1か所を検出した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第567集

綿貫伊勢遺跡 一本文編

国道354号線高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成25年(2013)3月11日 印刷

平成25年(2013)3月18日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社
